

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 613 集

た こう
田高Ⅱ遺跡発掘調査報告書

経営体育成基盤整備事業白山地区関連遺跡発掘調査

2013

岩手県県南広域振興局農政部農村整備室
(公財)岩手県文化振興事業団

田高Ⅱ遺跡発掘調査報告書

経営体育成基盤整備事業白山地区関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超える遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、経営体育成基盤整備事業白山地区に関連して平成22・23年度に発掘調査された田高Ⅱ遺跡の調査成果をまとめたものです。今回の調査では縄文時代前期後半の竪穴住居跡、土坑、平安時代のカマド状遺構、12世紀の溝跡、中世の掘立柱建物跡、堀跡、溝跡などが確認されました。今回の調査結果は、縄文時代から中世に至るまでの前沢地区の歴史を知る上で貴重な資料になることと思われまます。

本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました岩手県南広域振興局農政部農村整備室をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成25年3月

公益財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 池田 克典

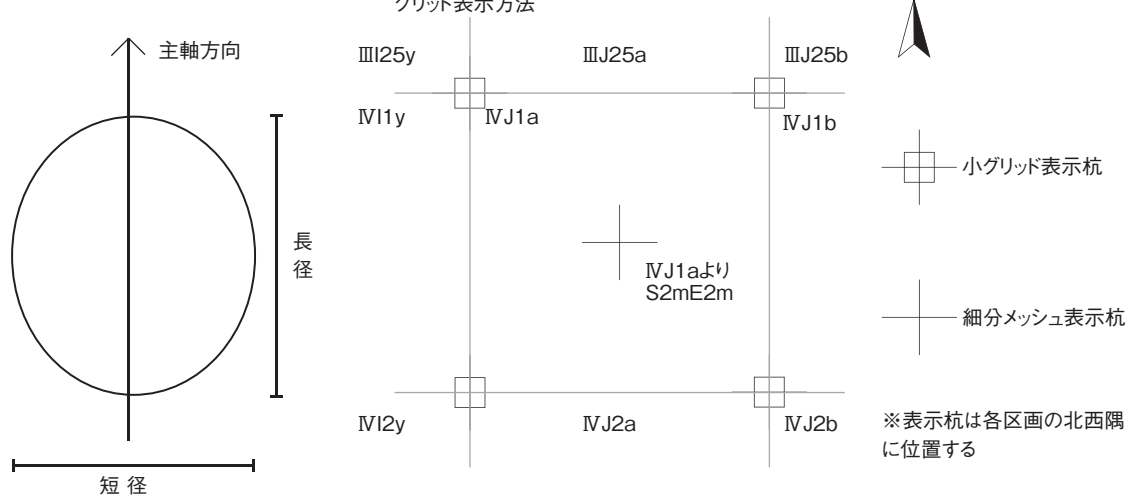
例 言

- 1 本報告書は、岩手県奥州市前沢区白山字鍵取 59 番地ほかに所在する田高Ⅱ遺跡において、平成 22・23 年度に実施した発掘調査の結果を収録したものである。
- 2 本遺跡の発掘調査は、「経営体育成基盤整備事業白山地区」に伴う緊急事前調査である。調査は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課の調整を経て、岩手県県南広域振興局農政部農村整備室の委託を受けた（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
なお、費用負担は岩手県教育委員会が、岩手県県南広域振興局農政部農村整備室に農家負担分を補助している。
- 3 岩手県遺跡情報検索システムに記載される遺跡番号は NE46-1375、遺跡略号は TKⅡ-10、TKⅡ-11 である。
- 4 野外調査の面積／期間／担当者、室内整理の期間／担当者は次のとおりである。
平成 22 年度 野外調査
調査面積：1,480㎡／調査期間：平成 22 年 11 月 8 日～12 月 17 日／担当者：北村忠昭・星雅之・中村絵美・西澤正晴・川又晋・小林弘卓・菅野梢
平成 23 年度 野外調査
調査面積：2,000㎡（本調査 1,500㎡、確認調査 500㎡）／調査期間：平成 23 年 4 月 25 日～7 月 28 日／担当者：北村忠昭・中村絵美・杉沢昭太郎
平成 23 年度 室内整理
期間：平成 23 年 10 月 3 日～平成 24 年 3 月 31 日／担当者：北村忠昭
- 5 本書の執筆は、第Ⅰ章を岩手県県南広域振興局農政部農村整備室、それ以外を北村忠昭が担当し、編集は北村が行った。
- 6 遺構写真は北村・中村・星・西澤・川又・杉沢が、遺物写真は矢羽々朗が撮影した。
- 7 本書で用いる方位は世界測地系による座標北を示す。レベル高は海拔である。なお、数値は平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災以前のものを使用している。ただし、基準点には平成 23 年 5 月 31 日に国土交通省国土地理院が発表した改正成果を並記している。
- 8 各種委託業務は以下の機関に委託した（敬称略）。なお、放射性炭素年代測定・黒曜石の産地同定の結果報告は附編に収録している。
石質鑑定：花崗岩研究会、金属製品の保存処理：岩手県立博物館、放射性炭素年代測定：株式会社 加速器分析研究所、黒曜石の産地同定：株式会社 第四紀 地質研究所（平成 22 年度）・株式会社 古環境研究所（平成 23 年度）、遺物実測図化業務：株式会社 ラング、基準点測量：株式会社 東北プランニング（平成 22 年度）・株式会社 中央測量設計（平成 23 年度）、航空写真：東邦航空株式会社
- 9 野外調査、室内整理にあたり岩手県県南広域振興局農政部農村整備室、奥州市教育委員会、奥州市総合政策部政策企画課 世界遺産登録推進室、近隣住民の方々の御理解と御協力をいただいた。
- 10 発掘調査や整理・報告書の作成は以下の方々に御教示・御協力を頂いた。（アイウエオ順、敬称略）及川真紀、明治大学文化財研究施設（杉原重夫・金成太郎・佐藤裕亮・弦巻千晶）、山口利男
- 11 本報告書では、国土地理院発行 1：50,000 地形図「水沢」、1：25,000 地形図「水沢」「前沢」を使用した。

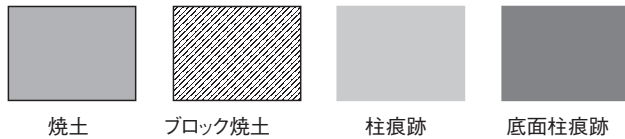
- 12 土層注記及び出土土器の色調の記載は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所 色票監修『新版 標準土色帖』2002年度版に準拠した。
- 13 本遺跡の出土遺物、記録類は岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。
- 14 本報告書発行以前に平成22・23年度発掘調査報告書で調査成果を公表したが、本報告書を正とする。

凡 例

<遺 構>



[使用トーン]



遺構の注記は「主」「副」の順で記載。

例:シルト質砂→シルトが主、砂が副
表記には以下の略号を使用した。

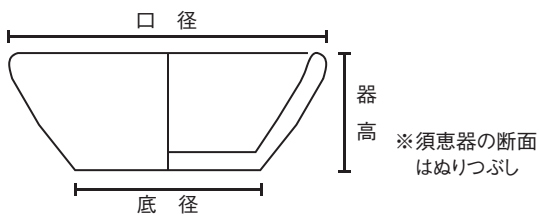
SI:シルト Sn:砂 C:粘土

M:泥土 So:土 CSI:粘土質シルト

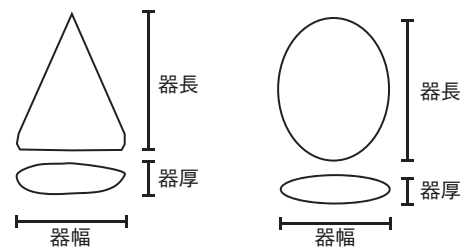
SIS:シルト質砂 SIC:シルト質粘土

<遺 物>

土器類



石器類



[表現方法・使用トーン]



敲打調整

当センターで使用しているコンテナの大きさは以下の通りである。

大コンテナ:42×32×30 cm 中コンテナ:42×32×20 cm 小コンテナ:42×32×10 cm

目 次

I	調査に至る経過	1
II	遺跡の立地・環境	2
1	地理的環境	2
(1)	遺跡の位置と立地	2
(2)	遺跡周辺の地形と地質	2
(3)	基本層序	5
2	歴史的環境	7
III	調査の方法	11
1	野外調査	11
2	室内整理	20
IV	分類基準	21
1	土器類	21
2	石器・石製品	21
V	検出遺構と出土遺物	29
1	概要	29
2	検出遺構	29
(1)	竪穴住居跡 (SI)	29
(2)	掘立柱建物跡 (SB)	39
(3)	土坑 (SK)	67
(4)	堀跡・溝跡 (SD)	84
(5)	焼土遺構 (SN)	135
(6)	不明遺構 (SX)	137
(7)	柱穴 (P)	143
3	出土遺物	166
(1)	土器 (縄文時代)	166
(2)	土製品・粘土塊	184
(3)	石器 (縄文時代)	184
(4)	石製品 (縄文時代)	234
(5)	土器 (平安時代)	241
(6)	かわらけ	241
(7)	陶器 (中近世)	241
(8)	磁器 (中近世)	241
(9)	石器 (古代以降)	243
(10)	硯 (古代以降)	246
(11)	銭貨	246
(12)	金属製品	246

VI ま と め	263
附編 田高Ⅱ遺跡の自然科学分析	273
放射性炭素年代測定	273
黒曜石産地同定1	283
黒曜石産地同定2	287
黒曜石産地同定3	297
報告書抄録	421

図版目次

第1図 遺跡位置図	1	第34図 SB45・46・51～53	61
第2図 調査区と周辺の地形	3	第35図 SB54～56	64
第3図 地形区分図	4	第36図 SB58～61	66
第4図 基本層序	6	第37図 SK(1)	85
第5図 周辺の遺跡	8	第38図 SK(2)	86
第6図 全体図・グリッド配置図	12	第39図 SK(3)	87
第7図 遺物取り上げグリッド図	13	第40図 SK(4)	88
第8図 遺構配置図部分1	14	第41図 SK(5)	89
第9図 遺構配置図部分2	15	第42図 SK(6)	90
第10図 遺構配置図部分3	16	第43図 SK(7)	91
第11図 土器分類図	25	第44図 SK(8)	92
第12図 石器分類図(1)	26	第45図 SK(9)	93
第13図 石器分類図(2)	27	第46図 SK(10)	94
第14図 石器分類図(3)	28	第47図 SD(1)	116
第15図 SI02	31	第48図 SD(2)	117
第16図 SI11	32	第49図 SD(3)	118
第17図 SI12	33	第50図 SD(4)	119
第18図 SI13	33	第51図 SD(5)	120
第19図 SI14・15	35	第52図 SD(6)	121
第20図 SI16	36	第53図 SD(7)	122
第21図 SI21	38	第54図 SD(8)	123
第22図 SB01・02	40	第55図 SD(9)	124
第23図 SB03～05	42	第56図 SD(10)	125
第24図 SB06・07	44	第57図 SD(11)	126
第25図 SB08	45	第58図 SD(12)	127
第26図 SB09	47	第59図 SD(13)	128
第27図 SB10	48	第60図 SD(14)	129
第28図 SB11	49	第61図 SD(15)	130
第29図 SB12・13	51	第62図 SD(16)	131
第30図 SB14・15	52	第63図 SD(17)	132
第31図 SB16・17	54	第64図 SD(18)	133
第32図 SB18～20	56	第65図 SD(19)	134
第33図 SB41～44	59	第66図 SN	136

第 67 図	SX (1)	138	第 113 図	石器 (縄文時代11)	200
第 68 図	SX (2)	140	第 114 図	石器 (縄文時代12)	201
第 69 図	SX (3)	141	第 115 図	石器 (縄文時代13)	202
第 70 図	柱穴 (1)	143	第 116 図	石器 (縄文時代14)	203
第 71 図	柱穴 (2)	144	第 117 図	石器 (縄文時代15)	204
第 72 図	柱穴 (3)	145	第 118 図	石器 (縄文時代16)	205
第 73 図	柱穴 (4)	146	第 119 図	石器 (縄文時代17)	206
第 74 図	柱穴 (5)	147	第 120 図	石器 (縄文時代18)	207
第 75 図	柱穴 (6)	148	第 121 図	石器 (縄文時代19)	208
第 76 図	柱穴 (7)	149	第 122 図	石器 (縄文時代20)	209
第 77 図	柱穴 (8)	150	第 123 図	石器 (縄文時代21)	210
第 78 図	柱穴 (9)	151	第 124 図	石器 (縄文時代22)	211
第 79 図	柱穴 (10)	152	第 125 図	石器 (縄文時代23)	212
第 80 図	柱穴 (11)	153	第 126 図	石器 (縄文時代24)	213
第 81 図	柱穴 (12)	154	第 127 図	石器 (縄文時代25)	214
第 82 図	柱穴 (13)	155	第 128 図	石器 (縄文時代26)	215
第 83 図	柱穴 (14)	156	第 129 図	石器 (縄文時代27)	216
第 84 図	柱穴 (15)	157	第 130 図	石器 (縄文時代28)	217
第 85 図	土器 (縄文時代 1)	167	第 131 図	石器 (縄文時代29)	218
第 86 図	土器 (縄文時代 2)	168	第 132 図	石器 (縄文時代30)	219
第 87 図	土器 (縄文時代 3)	169	第 133 図	石器 (縄文時代31)	220
第 88 図	土器 (縄文時代 4)	170	第 134 図	石器 (縄文時代32)	221
第 89 図	土器 (縄文時代 5)	171	第 135 図	石器 (縄文時代33)	222
第 90 図	土器 (縄文時代 6)	172	第 136 図	石器 (縄文時代34)	223
第 91 図	土器 (縄文時代 7)	173	第 137 図	石器 (縄文時代35)	224
第 92 図	土器 (縄文時代 8)	174	第 138 図	石器 (縄文時代36)	225
第 93 図	土器 (縄文時代 9)	175	第 139 図	石器 (縄文時代37)	226
第 94 図	土器 (縄文時代10)	176	第 140 図	石器 (縄文時代38)	227
第 95 図	土器 (縄文時代11)	177	第 141 図	石器 (縄文時代39)	228
第 96 図	土器 (縄文時代12)	178	第 142 図	石器 (縄文時代40)	229
第 97 図	土器 (縄文時代13)	179	第 143 図	石器 (縄文時代41)	230
第 98 図	土器 (縄文時代14)	180	第 144 図	石器 (縄文時代42)	231
第 99 図	土器 (縄文時代15)	181	第 145 図	石器 (縄文時代43)	232
第 100 図	土器 (縄文時代16)	182	第 146 図	石器 (縄文時代44)	233
第 101 図	土器 (縄文時代17)	183	第 147 図	石器 (縄文時代45)	234
第 102 図	土製品・粘土塊	183	第 148 図	石器 (縄文時代46)・石製品(縄文時代 1)	235
第 103 図	石器 (縄文時代 1)	190			
第 104 図	石器 (縄文時代 2)	191	第 149 図	石製品 (縄文時代 2)	236
第 105 図	石器 (縄文時代 3)	192	第 150 図	石製品 (縄文時代 3)	237
第 106 図	石器 (縄文時代 4)	193	第 151 図	石製品 (縄文時代 4)	238
第 107 図	石器 (縄文時代 5)	194	第 152 図	石製品 (縄文時代 5)	239
第 108 図	石器 (縄文時代 6)	195	第 153 図	土器 (平安時代)	240
第 109 図	石器 (縄文時代 7)	196	第 154 図	かわらけ	242
第 110 図	石器 (縄文時代 8)	197	第 155 図	陶器 (中近世 1)	242
第 111 図	石器 (縄文時代 9)	198	第 156 図	陶器 (中近世 2)	243
第 112 図	石器 (縄文時代10)	199	第 157 図	磁器 (中近世)	243

第 158 図	石器・石製品（中近世）	244	第 162 図	縄文時代の遺構配置	264
第 159 図	硯（古代以降）	245	第 163 図	掘立柱建物分類図	268
第 160 図	銭貨	245	第 164 図	掘立柱建物主軸方向分布	269
第 161 図	金属製品	245	第 165 図	掘立柱建物分布図	270

表 目 次

第 1 表	層名対応表	7	第 10 表	石器計測表（縄文時代1～3）	258～260
第 2 表	周辺の遺跡	9	第 11 表	石製品計測表（縄文時代）	260
第 3 表	遺構名対応表	18	第 12 表	石器・石製品計測表（古代以降）	260
第 4 表	遺構一覧	30	第 13 表	土器観察表（平安時代）	261
第 5 表	柱穴一覧（1～8）	158～165	第 14 表	かわらけ観察表	261
第 6 表	土器観察表（縄文時代1～5）	247～251	第 15 表	石器・硯観察表（古代以降）	261
第 7 表	土製品・粘土塊観察表	251	第 16 表	陶磁器観察表（中近世）	262
第 8 表	石器観察表（縄文時代1～6）	252～257	第 17 表	銭貨・金属製品観察表	262
第 9 表	石製品観察表（縄文時代）	257			

写真図版目次

写真図版 1	空撮（1）	317	写真図版 26	SK04・06・07・10	342
写真図版 2	空撮（2）	318	写真図版 27	SK13・16・17・23	343
写真図版 3	現況	319	写真図版 28	SK18・28・31	344
写真図版 4	層序	320	写真図版 29	SK29・30・36	345
写真図版 5	SI02	321	写真図版 30	SK38・53・55・56	346
写真図版 6	SI11	322	写真図版 31	SK57～59・61	347
写真図版 7	SI12	323	写真図版 32	SK64～67	348
写真図版 8	SI13	324	写真図版 33	SK69・71・73・南東区北	349
写真図版 9	SI14・15	325	写真図版 34	SK74～76・81	350
写真図版 10	SI16	326	写真図版 35	SK82・85～87	351
写真図版 11	SI21	327	写真図版 36	SK88～91	352
写真図版 12	SB01～03	328	写真図版 37	SK121・131～133	353
写真図版 13	SB04～06	329	写真図版 38	SK135・142・143・145	354
写真図版 14	SB07～09	330	写真図版 39	SD51	355
写真図版 15	SB10～12	331	写真図版 40	SD28	356
写真図版 16	SB13～15	332	写真図版 41	SD35・37	357
写真図版 17	SB16～18	333	写真図版 42	SD01・02・07・11	358
写真図版 18	SB19・20・41	334	写真図版 43	SD08・SX26	359
写真図版 19	SB42～44	335	写真図版 44	SD12・15・17・19・20・25	360
写真図版 20	SB45・46・51	336	写真図版 45	SD21・26・29	361
写真図版 21	SB52～54	337	写真図版 46	SD27・30・31・38・40	362
写真図版 22	SB55・56・58	338	写真図版 47	SD32～34・36	363
写真図版 23	SB59～61	339	写真図版 48	SD42～45	364
写真図版 24	SK41・137（1）	340	写真図版 49	SD52～54	365
写真図版 25	SK137（2）・141	341	写真図版 50	SD56～59	366

写真図版 51	SD61～64	367	写真図版 79	土器（縄文時代14）・土製品・粘土塊（縄文時代）	395
写真図版 52	SD65～69	368	写真図版 80	石器（縄文時代1）	396
写真図版 53	SD70～73	369	写真図版 81	石器（縄文時代2）	397
写真図版 54	SD93・101～104	370	写真図版 82	石器（縄文時代3）	398
写真図版 55	SD105～108・111・113	371	写真図版 83	石器（縄文時代4）	399
写真図版 56	SD112・114・117・119	372	写真図版 84	石器（縄文時代5）	400
写真図版 57	SN11・16・SX23	373	写真図版 85	石器（縄文時代6）	401
写真図版 58	SX01・02・21・22	374	写真図版 86	石器（縄文時代7）	402
写真図版 59	SX24・25・27・28	375	写真図版 87	石器（縄文時代8）	403
写真図版 60	調査区全景（1）	376	写真図版 88	石器（縄文時代9）	404
写真図版 61	調査区全景（2）	377	写真図版 89	石器（縄文時代10）	405
写真図版 62	調査区全景（3）	378	写真図版 90	石器（縄文時代11）	406
写真図版 63	調査区全景（4）	379	写真図版 91	石器（縄文時代12）	407
写真図版 64	調査区全景（5）・現地説明会（1）	380	写真図版 92	石器（縄文時代13）	408
写真図版 65	現地説明会（2）	381	写真図版 93	石器（縄文時代14）	409
写真図版 66	土器（縄文時代1）	382	写真図版 94	石器（縄文時代15）	410
写真図版 67	土器（縄文時代2）	383	写真図版 95	石器（縄文時代16）	411
写真図版 68	土器（縄文時代3）	384	写真図版 96	石器（縄文時代17）	412
写真図版 69	土器（縄文時代4）	385	写真図版 97	石器（縄文時代18）	413
写真図版 70	土器（縄文時代5）	386	写真図版 98	石製品（縄文時代1）	414
写真図版 71	土器（縄文時代6）	387	写真図版 99	石製品（縄文時代2）	415
写真図版 72	土器（縄文時代7）	388	写真図版 100	土器（平安時代）	416
写真図版 73	土器（縄文時代8）	389	写真図版 101	かわらけ・陶器（1）	417
写真図版 74	土器（縄文時代9）	390	写真図版 102	陶器（2）・磁器	418
写真図版 75	土器（縄文時代10）	391	写真図版 103	石器（中近世）・硯・銭貨・金属製品	419
写真図版 76	土器（縄文時代11）	392	写真図版 104	鉄滓	420
写真図版 77	土器（縄文時代12）	393			
写真図版 78	土器（縄文時代13）	394			

I 調査に至る経過

田高Ⅱ遺跡は、「経営体育成基盤整備事業白山地区」のほ場整備に伴い、その事業区域内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

本地区は奥州市前沢区の中心部より北東4km程に位置し、現況は小区画・不整形な水田で、なおかつ幅員狭小な農道となっていることから、作業効率が悪く、また用排水兼用の土側溝水路のため、用水不足や排水不良となっており、維持管理に支障を来しているところである。このため、本事業地区においては、大区画ほ場整備を実施することで、農作業の効率化、生産コストの削減、生産性の向上等を図り、農地集積による安定した経営体および担い手農家の育成を目的として事業着手したものである。

当事業の施工に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、県南広域振興局農政部農村整備室から平成21年10月7日付県南広農整第137-4号から平成22年10月29日付県南広農整第123-6号「経営体育成基盤整備事業白山地区に係る埋蔵文化財の試掘調査（依頼）」により岩手県教育委員会に対して試掘調査の依頼を行った。

依頼を受けた岩手県教育委員会は平成21年11月16日から平成22年11月12日にかけてそれぞれ試掘調査を実施し、工事に着手するには田高Ⅱ遺跡の発掘調査が必要となる旨を平成22年1月29日付教生第1321号から平成22年12月13日付教生第1111号「経営体育成基盤整備事業白山地区予定箇所における埋蔵文化財の試掘調査について（回答）」によりそれぞれ回答してきた。

その結果を踏まえ、当農村整備室は岩手県教育委員会と協議し、調整を受けて平成22年9月10日付け及び平成23年4月1日付けで（公益）財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターとの間で2ヵ年にかけて委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

（岩手県県南広域振興局農政部農村整備室）



第1図 遺跡位置図

Ⅱ 遺跡の立地・環境

1 地理的環境

(1) 遺跡の位置と立地

田高Ⅱ遺跡の所在する奥州市前沢区は岩手県南部に位置し、北上川低地帯の中央部、北緯 39 度 4 分 7 秒、東経 141 度 8 分 53 秒付近に所在する。平成 18 年に旧水沢市、江刺市、前沢町、胆沢町、衣川村の 2 市 2 町 1 村による広域合併により誕生した奥州市は、北は北上市・金ヶ崎町、南は一関市・平泉町と接している。面積では一関市に次いで県内第 2 位の規模を誇り、人口約 12.5 万人（平成 24 年 2 月現在）を抱える都市となっている。奥州市は北上川により齎された肥沃かつ広大な土壌を活かした農業が盛んであり、江刺金札米や江刺りんごをはじめとして前沢牛等の畜産物にも力を入れ、その名を全国に轟かせている。

前沢区は北上川西岸側に JR 東北本線、国道 4 号線、東北縦貫自動車道が、東岸側には JR 東北新幹線が縦断しており、平泉町との市町村界付近には東北縦貫自動車道の平泉・前沢インターチェンジが開設されるなど、交通の要所となっている。

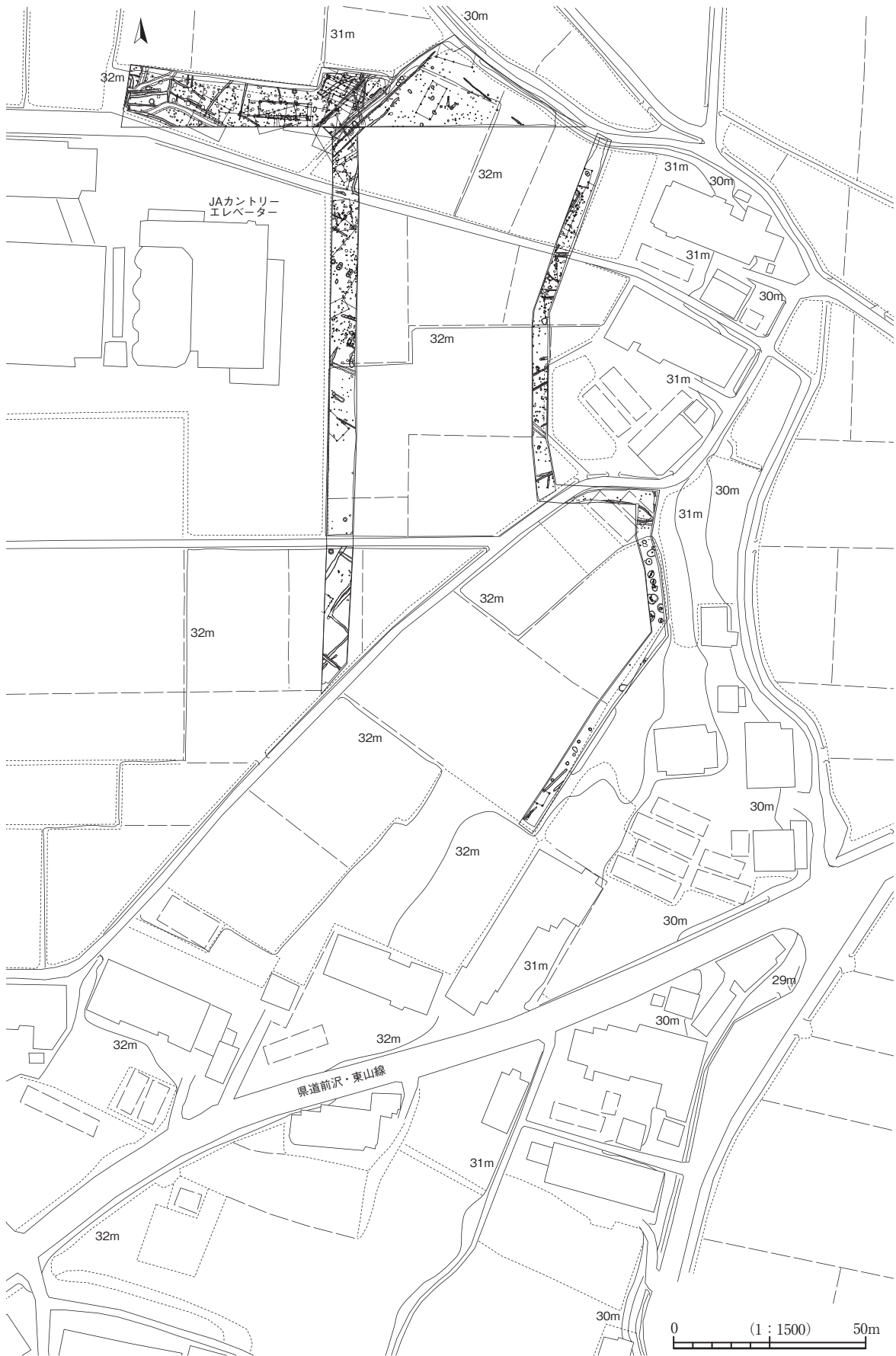
田高Ⅱ遺跡は奥州市前沢総合支所の北東約 2.5km に位置し、前沢区北部の白山地区に所在する。北上川右岸の水沢高位段丘上に立地しており、調査前の現況は水田・畑地であった。遺跡の東側を南流する明後沢川により開析され、比高差 1 m 程の段丘崖となっている。遺跡の標高は 31~32 m 前後で、昭和 30 年代の圃場整備により地形改変を受け、ほぼ平坦な地形となっている。また、当初の遺跡範囲より遺構は北側に分布しているが、その北側は前述の圃場整備により、残存していない。本遺跡の約 1km 東には、北上川が南流している。現在の北上川河床面からの高さは約 10 m である。

(2) 遺跡周辺の地形と地質

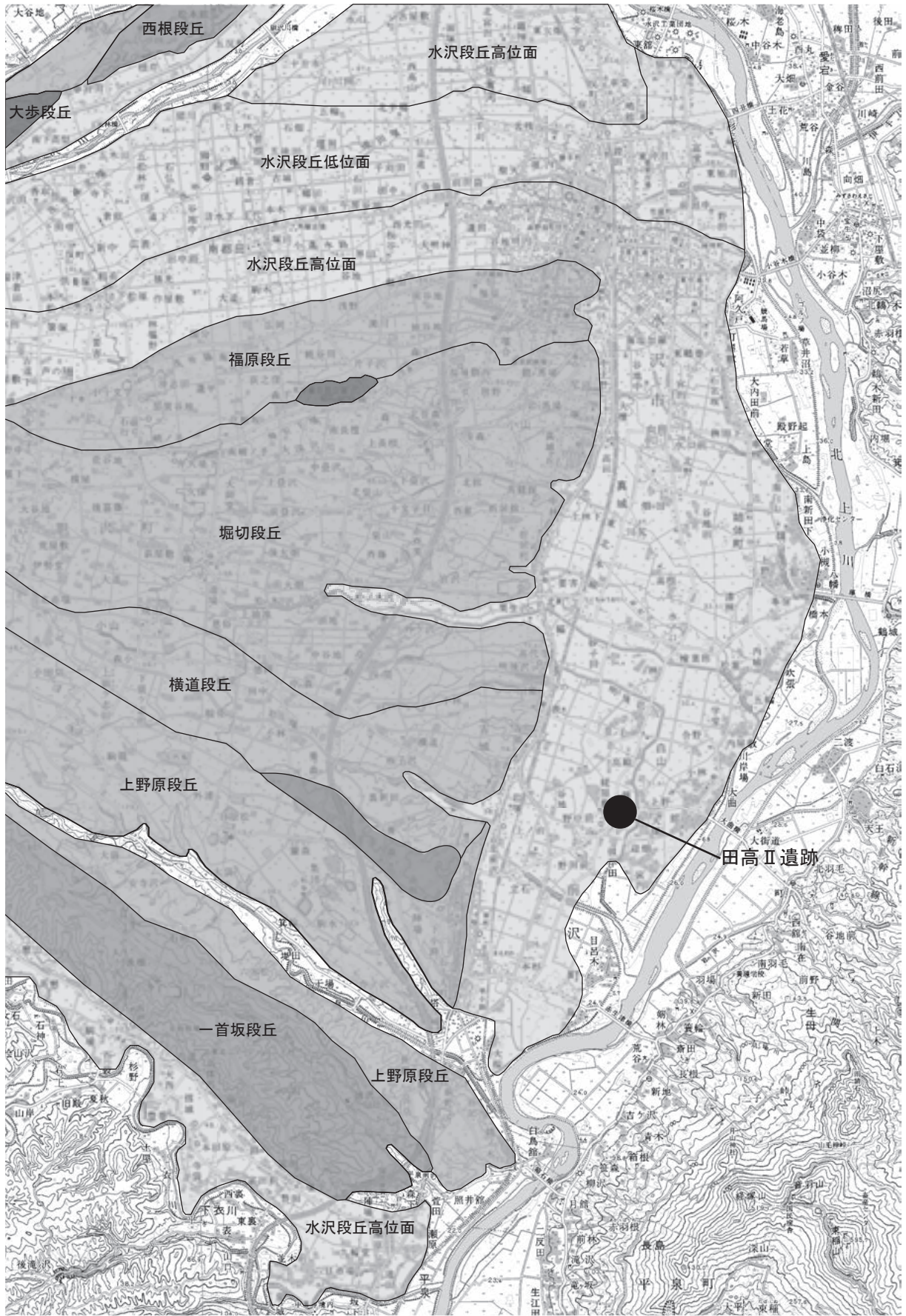
北上川は県北部の岩手町御堂観音境内にその源を発し、延長 243km、流域面積 10,720km²、支流数 216 を数える、東北地方最大の一級河川であり、北上川の西側に連なる奥羽脊梁山脈と東側に広がる北上山地の間の低地帯を涵養し、宮城県石巻湾に注いでいる。この流域は盛岡市北部の四十四田峡谷と一関市狐禅寺峡谷を境にして上・中・下流に分けられ、北上市周辺は中流域の下部、北上盆地にあたる。北上盆地は北上川とその支流が形成している様々な扇状地や段丘によって構成され、東西は奥羽山脈から北上山地に及び、南北 90km にも及ぶ帯状の盆地である。北上川右岸には新第三紀層の砂岩・凝灰岩を基盤とする台地、扇状地の末端に侵食崖を形成している。

北上川中流域の地形は背後に控える山地構造の違いによって対照的な様相を呈している。新第三系及び火山岩類を主体とする褶曲山地である奥羽山脈は、北上川に注ぐ多くの支流を持ち、それぞれに多量の土砂を供給し、北上川右岸に大小の段丘や扇状地、河岸平野、起伏量の小さい丘陵地が複雑に入り組む扇状地状の広い平坦面を作り出している。これらの平坦面の大部分は更新世中・後期に形成されたもので、支流によって開析され段丘化したものである。これに対して、老年期山地がその後の地殻変動によって隆起準平原化した北上山地側では、山地に続く丘陵部縁辺部に小規模な段丘と沖積地が認められるにすぎない。

前沢区の地形区分は、東部の北上山地西縁の山麓丘陵地区、北上川西岸に発達する沖積低地及び低位段丘面を含む低地地区、西部に形成された段丘地区に 3 区分される（前沢町教委 1998）。北上川



第2図 調査区と周辺の地形



1 : 50,000 「水沢」を改変 (縮尺任意)

第3図 地形区分図

西岸には北上川流域で最大の扇状地形が発達しており、奥州市胆沢区市野々地区を扇頂として面積約200km²に達する胆沢扇状地が形成されている。胆沢扇状地は胆沢川の影響を受け段丘化しており、高位から順に大歩段丘、一首坂段丘、西根段丘、上野原段丘、横道段丘、堀切段丘、福原段丘、水沢高位段丘、水沢低位段丘と呼ばれており、田高II遺跡は水沢高位段丘の東側縁辺部に位置する。一方北上川東岸の生母地区においては段丘の発達は乏しく、大東町方向の山麓側に僅かに中位・低位段丘に比定できる平坦面が点在している。北上川の流路沿いには沖積地が形成されている。

(3) 基本層序 (第4図、写真図版4)

平成22年度の調査区以外は最大でも幅7m程の細い調査区が広範囲にわたっている。ほぼ平坦で、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が行った試掘の際の層序観察と大差がなかったため、基本的には、試掘のデータを基本とした。各層は以下のとおりである。

I層 現在の表土層、盛土層、旧耕作土層である。5層に分層したが、近年の堆積層であるため、遺物の取り上げ時には一括して扱っている。

I層 10YR2/3 黒褐 腐植土層。現在の表土層（耕作土層）である。層厚は約0~20cmである。

Ia層が観察される平成22年度調査区西側以外で確認できる。

Ia層 10YR4/4 褐 粘土層。現代の盛土整地層である。φ3~20mmの黄褐色粘土ブロック、礫が混入する。層厚は約0~15cmである。主に、平成22年度調査区西側で観察される。

Ib層 10YR5/6 黄褐 粘土層。地山粘土による現代の盛土整地層である。東側北半では厚く堆積しており、40~50cm程になる。層厚約0~50cm。

Ib'層 10YR2/2.5 黒褐~暗褐 粘土質シルト層。現代の盛土整地層。φ5~20mmの黄褐色粘土ブロックが多量に混入する。近隣の方によると、耕作に使用しない表土を集めて盛り上げたもので、土壘状を呈している。南東区南側北半のみで観察でき、層厚は最大で90cmである。

Ic層 10YR4/3にぶい黄褐 粘土質シルト層。層厚は3~5cmと薄く、水田の床土層と考えられる。I層直下やIb'層直下でも観察される。

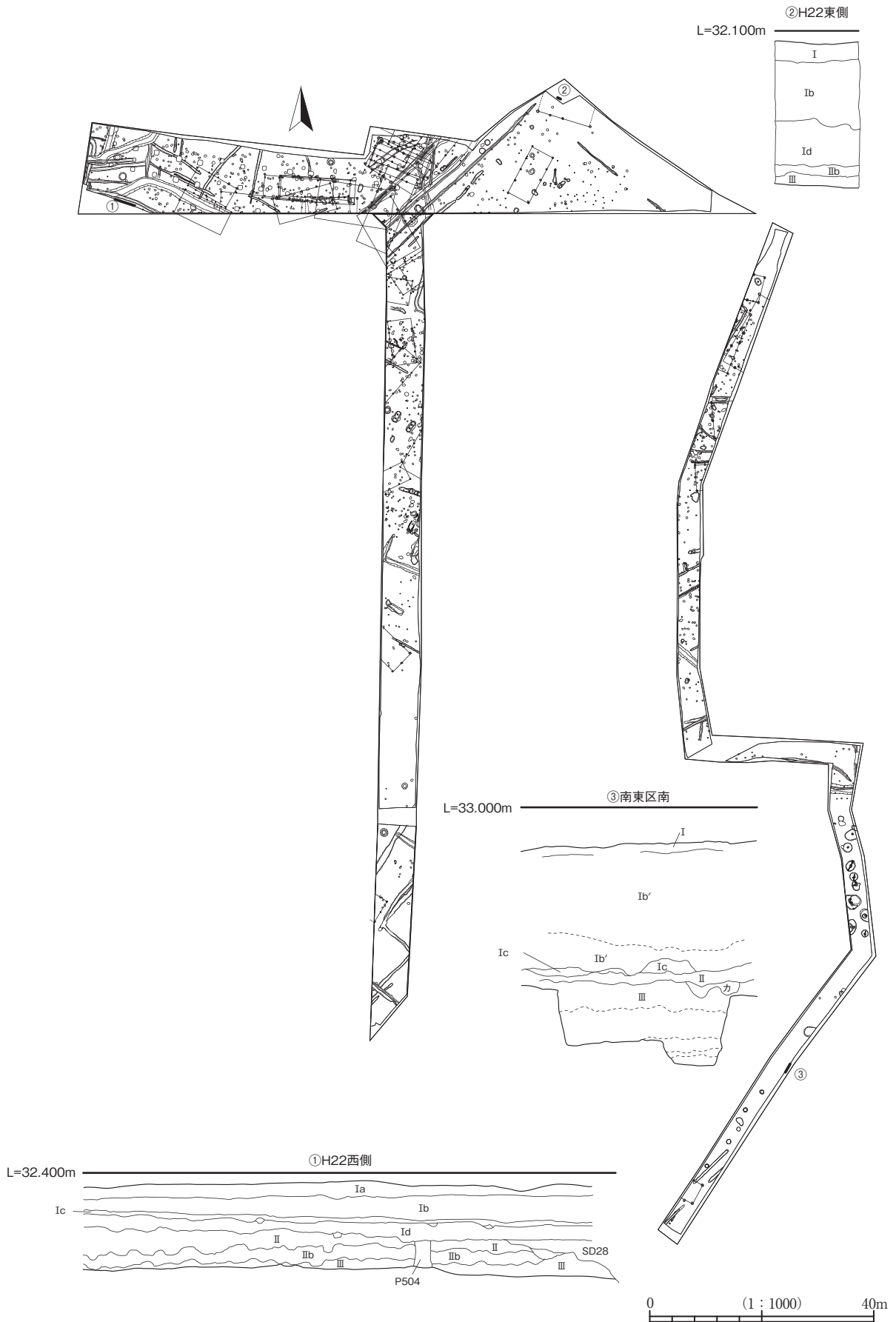
Id層 10YR2/3 黒褐 シルト質粘土層。圃場整備以前の表土層と考えられる。層厚は10~30cmである。主に、平成22年度調査区西側及び東側北半で観察される。

II層 主に、縄文時代前期後葉の遺物を包含する堆積層である。北東区以外で確認できる。層厚は約5~20cmである。

10YR2/2 黒褐 シルト質粘土 粘性中、しまりやや有。

平成22年度調査区西側と西区では、特に本層中に縄文土器の包含が確認され、縄文時代前期の包含層と考えていた。しかし、平成22年度調査区西側では、本来本層上面で検出されるべき中世期に帰属すると考えられる遺構が本層上面では不明瞭で、III層上面で検出されるものが多い傾向が見られ、本層がプライマリーなものであるか判断できないままに翌年度を迎えた。本格的な整理作業を行えなかった平成22年度と異なり、平成23年度の整理作業の中で、常滑産の陶器が包含することが確認された。また、14~15世紀に帰属するSD28は本層上面より構築されており、本層が少なくとも中世期において堆積したものであることが判明した。ただし、本層から出土した多くの縄文時代に帰属する遺物は検出された縄文時代前期の遺構との矛盾がなく、本遺跡の縄文時代を反映する遺物であると捉えている。

IIb層 漸移層である。H22年度調査区東側西半から西側にかけて部分的に確認できる。層厚は約10cmである。遺物は出土していない。



第4図 基本層序

第1表 層名対応表

層名	現場名	H 22 西側	H 22 中央	H 22 東側	北西区	西区北	西区南	南西区	北東区	東区北	東区南	南東区北	南東区南
I	現表土層・I	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
I a	盛土層・I a	○											
I b	盛土層	○	△	○	△	○	○	○					
I b'	盛土層												○
I c	床土層	○						○	○	△	△	△	○
I d	旧表土層	○		○									
II		○	○		○	○	○	○		○	○	○	○
II b		○	△	○	△								
III	地山	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

△は部分的に確認できる層

SI02

層名	現場名	層名	現場名
1層	1層	5層	4層
2層	2層	6層	6層
3層	5層	7層	7層
4層	3層	8層	8層

SD28

A層名	現場名	B層名	A層名	現場名	B層名
1層	3層	-	4層	6層	5層
2層	4層	-	5層	7層	6層
3層	5層	-			

10YR3.5/3.5 暗褐～にぶい黄褐 粘土質シルト 粘性有、しまりやや有。

Ⅲ層 いわゆる「地山」と呼ばれる堆積層で、すべての遺構の検出面である。細分は可能であるが、本層以下では、遺構・遺物が確認できないため、一括している。Ⅱb層が残存しない場所では、本層上面で各種の遺物が出土しているが、本層に伴うものは皆無である。層厚は不明である。

10YR5/7 黄褐 粘土 粘性有、しまりやや有。

2 歴史的環境

奥州市前沢区内に所在する遺跡数は、平成17年12月末現在で140箇所にあつた（岩手県遺跡情報検索システム「水沢・一関・千厩地方振興局管内」による）。そのうち旧石器時代に該当する遺跡は北上川西岸地区では長根遺跡、北上川東岸地区では生母宿遺跡のみであったが、鶴ノ木遺跡（平成19年）、水尻遺跡（同21年：第5図52、以下第5図省略）の2遺跡が調査され、4遺跡となった。一首坂段丘上に所在する長根遺跡では、過去に旧石器時代の石刃と思われる石器が採取されたと言われているが詳細に関しては不明である（前沢市教委 2000）。水沢高位段丘に所在する生母宿遺跡は平成11年に前沢市教育委員会により発掘調査が行われており、ナイフ形石器等が出土したことで北上盆地南半部の流域で初の旧石器時代遺跡の調査例として注目される。また、胆沢区では上萩森遺跡、岩洞堤遺跡から旧石器が出土している。岩洞堤遺跡は平成18・19年に当センターによる発掘調査が行われており、後期旧石器時代のナイフ形石器等が出土したことで横道段丘上に所在する遺跡で初めての旧石器出土例となった。近隣の市町村においては一関市のまつるべB遺跡、結渡遺跡、山田遺跡、水口遺跡、百目木遺跡、金森遺跡、金ヶ崎町の柏山館遺跡、細野北遺跡から旧石器の出土が確認されている。

縄文時代草創期から早期、前期前半に該当する古い時代の遺跡は一首坂段丘上に多く分布しており、六本松遺跡や照井館遺跡が知られている。照井館遺跡においては時代前期の土器や石器が採取されており、同時期の土器が採集されている近隣の南陣場遺跡との関連が予想されている。小林繁長遺跡（80）においては昭和61年には前沢町教育委員会、平成19年には当センターにより発掘調査が行われ、縄文時代中期前葉から中葉、晩期後半、弥生時代の遺物が確認されている。川岸場Ⅰ遺跡（77）、川岸場Ⅱ遺跡（78）からは晩期前葉の竪穴住居4棟、後期後葉から晩期にかけての遺物包含層等が検出されており、晩期末から弥生初頭と考えられる埋設土器が確認されている。

奈良時代に該当する遺跡は四反田Ⅱ遺跡（54）、迎畑遺跡（84）など数遺跡しか確認されていないが、平安時代に該当する遺跡としては大桜遺跡、目呂木本杉遺跡、泊ヶ崎遺跡等が挙げられるが、部分的な調査の為詳細は不明である。白鳥館遺跡は安倍氏が築いた白鳥柵に擬定されており、奥州藤原氏関

第2表 周辺の遺跡

No.	遺跡名	種別	時代	所在地
1	上林下	散布地	古代	(水)真城字上林下
2	中林下	集落跡	平安	(水)真城字中林下
3	真城落合	散布地	平安	(水)真城字落合
4	土手北	散布地	平安	(水)真城字土手
5	土手南	散布地	平安	(水)真城字土手
6	二ッ淵	散布地	平安・中世	(水)真城字二ッ淵
7	二ッ湖北	散布地	平安	(水)真城字二ッ淵
8	二ッ湖南	散布地	平安	(水)真城字二ッ淵
9	谷地館	散布地	平安	(水)真城字谷地館
10	谷地	散布地 城館跡	平安・近世	(水)真城字谷地
11	要害	城館跡	中世・近世	(水)真城字要害
12	下植田	散布地	平安	(水)真城字下植田
13	南下田	散布地	平安	(水)真城字南下田
14	迎野 I	散布地	古代	(水)真城字迎野
15	迎野 II	散布地	古代	(水)真城字迎野
16	高根 I	散布地	古代	(水)真城字高根・砂川
17	高根 II	散布地	古代	(水)真城字高根
18	栗林	経塚・屋敷跡	中世・近世	(水)真城字八反町
19	堂田 I	散布地	古代	(水)真城字堂田
20	堂田 II	散布地	古代	(水)真城字堂田
21	漆林 I	散布地	縄文?・古代	(水)姉帯町字漆林
22	漆林 II	散布地	古代	(水)姉帯町字漆林
23	本宿迎畑	散布地	弥生	(水)姉帯町字迎畑
24	迎畑	散布地・城館跡?	平安?	(水)姉帯町字鍛冶屋敷
25	内城吹張	散布地	縄文~平安	(水)姉帯町字内城・野中
26	内城野中	散布地	縄文~平安	(水)姉帯町字内城・野中
27	吹張	散布地	平安	(水)姉帯町字吹張
28	吹張鞆戸	散布地	平安	(水)姉帯町字吹張・鞆戸
29	鞆戸	散布地	古代	(水)姉帯町字鞆戸
30	五輪	散布地	縄文	(水)姉帯町字鞆戸
31	北館	環濠屋敷跡	中世	(前)古城字北館
32	北館東 I	散布地	古代	(前)古城字北館東
33	北館東 II	散布地	縄文・古代	(前)古城字北館東
34	熊野	散布地	平安	(前)古城字幅
35	幅	散布地・瓦窯跡?	縄文・平安	(前)古城字幅・雨沼・志入沢
36	前堀	散布地	縄文・古代	(前)古城字前堀
37	八郎館	散布地・城館跡	縄文・平安・中世	(前)古城字高代寺
38	鳥子沢	散布地・城館跡	平安・中世	(前)古城字鳥子沢
39	明後沢	集落跡・城館跡	平安	(前)古城字明後沢・姥沢
40	宗角館	城館跡	平安・中世	(前)古城字姥沢
41	長者館	城館跡	中世	(前)古城字南上野
42	九郎館	城館跡	中世	(前)古城字南上野
43	寺ノ上	散布地	古代	(前)古城字寺ノ上
44	寺ノ上経塚	経塚	中世	(前)古城字寺ノ上
45	古城上野	散布地	縄文中・古代	(前)古城字寺領上野

No.	遺跡名	種別	時代	所在地
46	砂子田	散布地	古代	(前)古城字砂子田
47	館合下	散布地	平安	(前)古城字館合下
48	下町	散布地	縄文・平安	(前)古城字下町・東見寺下・荒屋敷沖
49	寺領沖	散布地	古代	(前)古城字寺領沖
50	中畑城	城館跡	中世	(前)古城字水上西
51	内ノ町	環濠屋敷跡	中世	(前)古城字内ノ町
52	水尻	集落跡	旧石器・縄文 平安・近世	(前)古城字水尻
53	四反田 I	集落跡	平安	(前)古城字四反田地内
54	四反田 II	集落跡	奈良・平安・近世	(前)古城字四反田地内
55	古城方八丁	集落跡	縄文・古代・近世	(前)古城字宿ノ前
56	高殿	集落跡	古代・近世	(前)古城字
57	境田	散布地	縄文・平安	(前)古城字境田ほか
58	要害	散布地・環濠屋敷跡	古代・中世	(前)古城字要害
59	要害 II	散布地・環濠屋敷跡	古代・中世	(前)古城字要害・亀田・谷地
60	亀田	環濠屋敷跡	中世	(前)古城字亀田
61	上ノ台	環濠屋敷跡	中世	(前)古城字上ノ台
62	安久沢東	散布地	縄文	(前)古城字水神野ほか
63	田高 I	散布地	縄文	(前)白山字田高・籠林
64	田高 II	集落跡・環濠屋敷跡	縄文前・古・中	(前)白山字鍵取
65	林 I	散布地	古代	(前)古城字林後
66	林 II	散布地	古代	(前)古城字林後
67	六日入	城館跡	古代・中世	(前)白山字古館
68	水ノ口	集落跡	縄文・平安	(前)白山字水ノ口
69	檜葉田	散布地	平安	(前)白山字檜葉田
70	松葉	散布地	平安	(前)白山字松葉
71	川前	集落跡	古代	(前)白山字川前
72	学堂	散布地	平安	(前)白山字学堂
73	学堂 II	散布地	古代	(前)白山字合野・学堂
74	道上	集落跡	縄・平・中・近	(前)白山字道上
75	合野	集落跡	縄・平・近	(前)白山字合野
76	内屋敷	集落跡	平安	(前)白山字内屋敷
77	川岸場 I	集落跡	縄晩・弥・平	(前)白山字川岸場
78	川岸場 II	集落跡・環濠屋敷跡	縄晩・弥・平・近	(前)白山字川岸場
79	大室経塚	一字一石経塚	中世末	(前)白山字川岸場
80	小林繁長	集落跡	縄中晩・弥・平	(前)白山字小林・古宿
81	白山上野	散布地	縄文後	(前)白山字上野
82	上麻生城	城館跡	古代・中世	(前)白山字館
83	八幡	集落跡	古代・中世	(前)白山字八幡
84	迎畑	散布地	奈良・平安	(前)白山字迎畑・宮内
85	彼岸田	散布地	縄文・平安	(前)白山字彼岸田
86	安倍館	城館跡?	古代~中世	(前)字安倍館

連の遺跡として注目される。この他注目すべき遺跡として、昭和 38 年に県史跡に指定された明後沢遺跡 (39) がある。水沢区胆沢城跡、江刺区瀬谷子窯跡群と同範関係にある瓦が大量に出土している。これまでの調査により、集落と粘土採掘坑が検出され、瓦、かわらけ、渥美・常滑窯産陶器、白磁、青磁が出土している。白山地区には、「禁制」木簡が出土した道上遺跡 (74) がある。また、道上遺跡からは 12 世紀代に位置づけられる常滑窯産壺片や青白磁小壺の蓋、六器などが出土している。

源頼朝による奥州征伐により藤原氏が滅亡した後、当該地域は奥州総奉行葛西氏の支配下に置かれ、胆沢地方は柏山氏により治められた。この時代の遺跡としては柏山氏旗本の有力武将三田氏により築かれた前沢城、空堀や土盛りの痕跡が残る八郎館、九郎館が挙げられる。生母地区側には赤生津城、西館等が所在する。

近世の遺跡としては伊達藩の御蔵場や環濠屋敷であった川岸場Ⅱ遺跡、栗ヶ島遺跡が挙げられる。川岸場Ⅱ遺跡は平成 8・9 年に当センターによる発掘調査が行われており、約 400 年続いた大肝入の屋敷跡が確認されている。栗ヶ島遺跡は『安永風土記』に記載されている栗ヶ島地域の屋敷に相当すると考えられているが、近年まで確認できた土塁や環濠も開発事業により残存していない。

田高Ⅱ遺跡は平成 8 年度と平成 14 年度の 2 回、前沢町教育委員会によって発掘調査が行われた。平成 8 年度はカントリーエレベーター施設に伴うもので、本調査区とは東側の一部が接している。焼土遺構 5 基、土坑 4 基、陥し穴状遺構 6 基、井戸跡遺構 5 基、溝状遺構 3 条、集石遺構 6 基、多数の柱穴を検出し、大木 5 式、大木 6 式、円筒下層 d 式、大木 7 a 式の縄文土器、ミニチュア土器、土師器、須恵器、てづくねかわらけ、渥美窯産陶器や常滑窯産陶器などの中世陶器、石鏃等の石器が出土している。中心となるのは方形区画（一時期には五角形状の区画）となる堀跡（報告書中では大溝遺構）と柱穴群である。掘立柱建物等の建物の認定はされていないが、堀内部の中心部であり、複数の建物が存在することは容易に想定される。平成 14 年度の調査は遺跡南東端に位置し、歩道整備工事に伴うもので、今回の調査区とは最短で 40 m 離れている。平安時代の土坑、12 世紀の溝跡、近世の土坑、近世の溝跡、柱穴等を検出し、縄文土器（前期）、土師器、須恵器、てづくねかわらけ、渥美窯産陶器や常滑窯産陶器などの中世陶器、近世陶磁器等が出土している。小規模な調査であったが、多種多様な遺構・遺物が確認され、断続的ではあるが、綿々と利用された地域であることが判明している。

Ⅲ 調査の方法

1 野外調査

グリッドの設定 過去に2回の発掘調査が行われており、本来は、その発掘調査に合わせてグリッドを設定すべきであるが、個別のグリッドを設定しているため、統一はしていない。初年度の野外調査は本遺跡の西側に所在する安久沢東遺跡と合わせて行われており、安久沢東遺跡も網羅するグリッドを設定した。X = -103,100.000、Y = 26,300.000 (東日本大震災前世界測地系) を基点として、一辺100 mの大グリッドに区割りし、さらに、大グリッドを一辺4 mの小グリッドに25分割した。大グリッドは東西方向にアルファベットの大文字を用いて、東にA・B・C・…、南北方向はローマ数字を用いて、南にⅠ・Ⅱ・Ⅲ・…、とし、これらを組み合わせてⅠA・ⅡBのように表示した。また、小グリッドは、東西方向にアルファベットの小文字を用いて、東にa・b・c・…・Y、南北方向に算用数字を用いて、南に1・2・3・…・25とし、これらを組み合わせて1a・2bのように表示した。実際のグリッドは大小グリッドの組み合わせにより、ⅠA1aのように表示し、グリッド杭の名称はグリッド北西隅に与えた。このグリッドとは別に、調査範囲が広く、道路等で調査区が分かれており、試掘や表土除去の段階での遺物取り上げのために、区域名を付した。平成22年度は東西に長い調査区で、ⅢJ12e、ⅢJ11Jグリッドで変化点があるため、それぞれ、その変化点の南北方向を軸にして、西側から、西側、中央、東側とした。また、平成23年度は道路によって分けられた調査区を、北西区、西区、南西区、南東区、東区、北東区とした。西区、南東区、東区は細長いため、西区は田面の高低差を利用して、西区北と西区南に、南東区はⅣK 22・23abグリッドの変化点で分けて、南東区北と南東区南に、東区はⅣJ1・2stグリッドの変化点で分けて、東区北と東区南に分けた。北西区と西区北の間の道路部分は西道路、東区北と北東区間の道路部分は東道路とした。

基準点はこれらの区域で少なくとも2点が確認できるように、世界測地系の基準点を以下のとおりに施設した。

平成22年度分

No.17 : X = -103,354.364、Y = 27,178.458 H = 31.892

No.18 : X = -103,347.593、Y = 27,196.390 H = 32.058

No.19 : X = -103,359.324、Y = 27,219.013 H = 32.584

No.20 : X = -103,357.910、Y = 27,258.676 H = 32.256

No.21 : X = -103,335.762、Y = 27,249.624 H = 31.262

平成23年度分

H23-301 : X = -103,351.275、Y = 27,235.012 H = 32.380

(新 H23-301 : X = -103,352.745、Y = 27,237.733 H = 32.245)

H23-302 : X = -103,521.787、Y = 27,249.131 H = 32.089

(新 H23-302 : X = -103,523.261、Y = 27,251.852 H = 31.954)

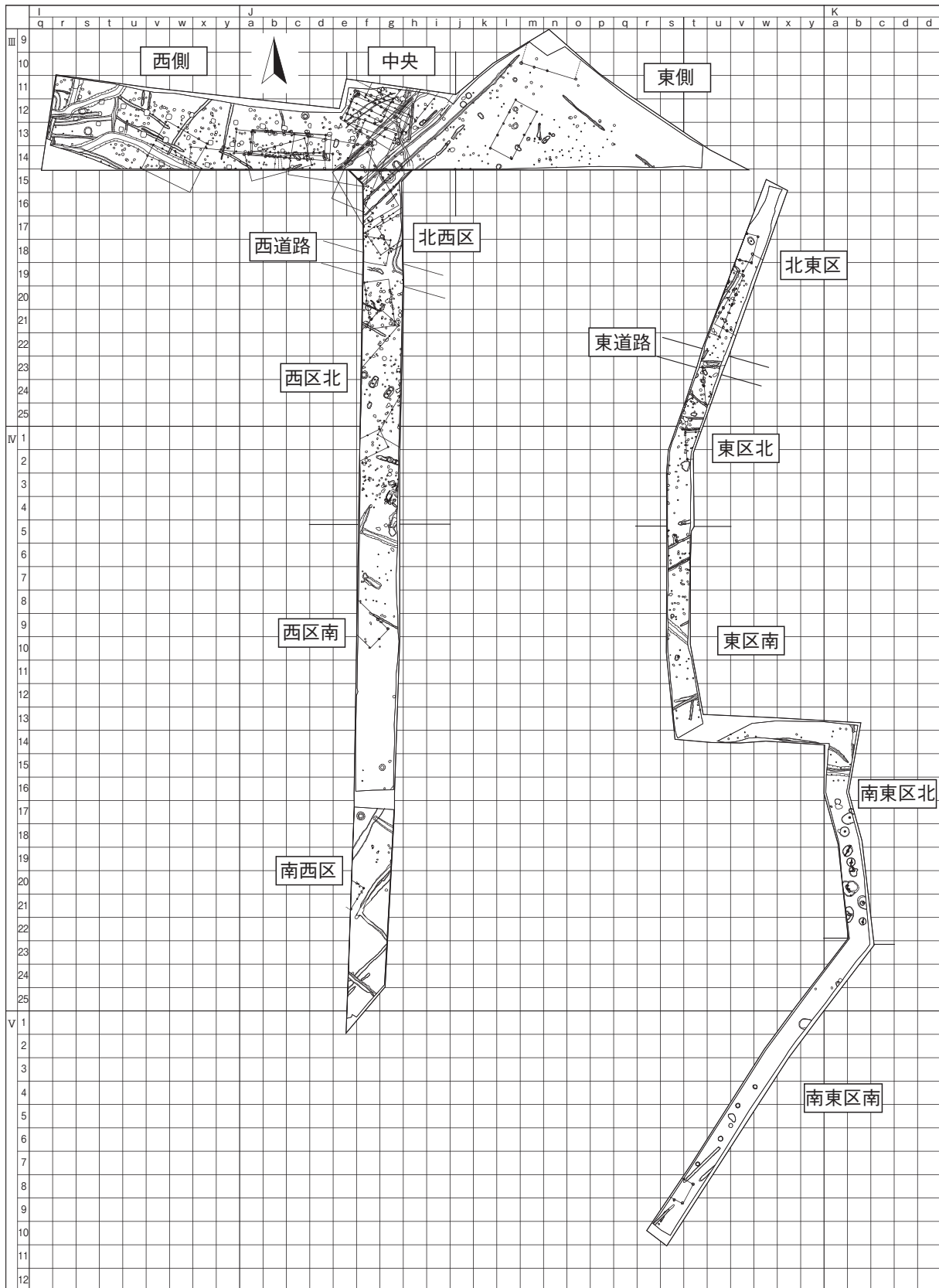
H23-401 : X = -103,380.000、Y = 27,230.000 H = 32.209

(新 H23-401 : X = -103,381.471、Y = 27,232.721 H = 32.074)

H23-402 : X = -103,505.000、Y = 27,230.000 H = 32.027

(新 H23-402 : X = -103,506.474、Y = 27,232.721 H = 31.892)

1 野外調査

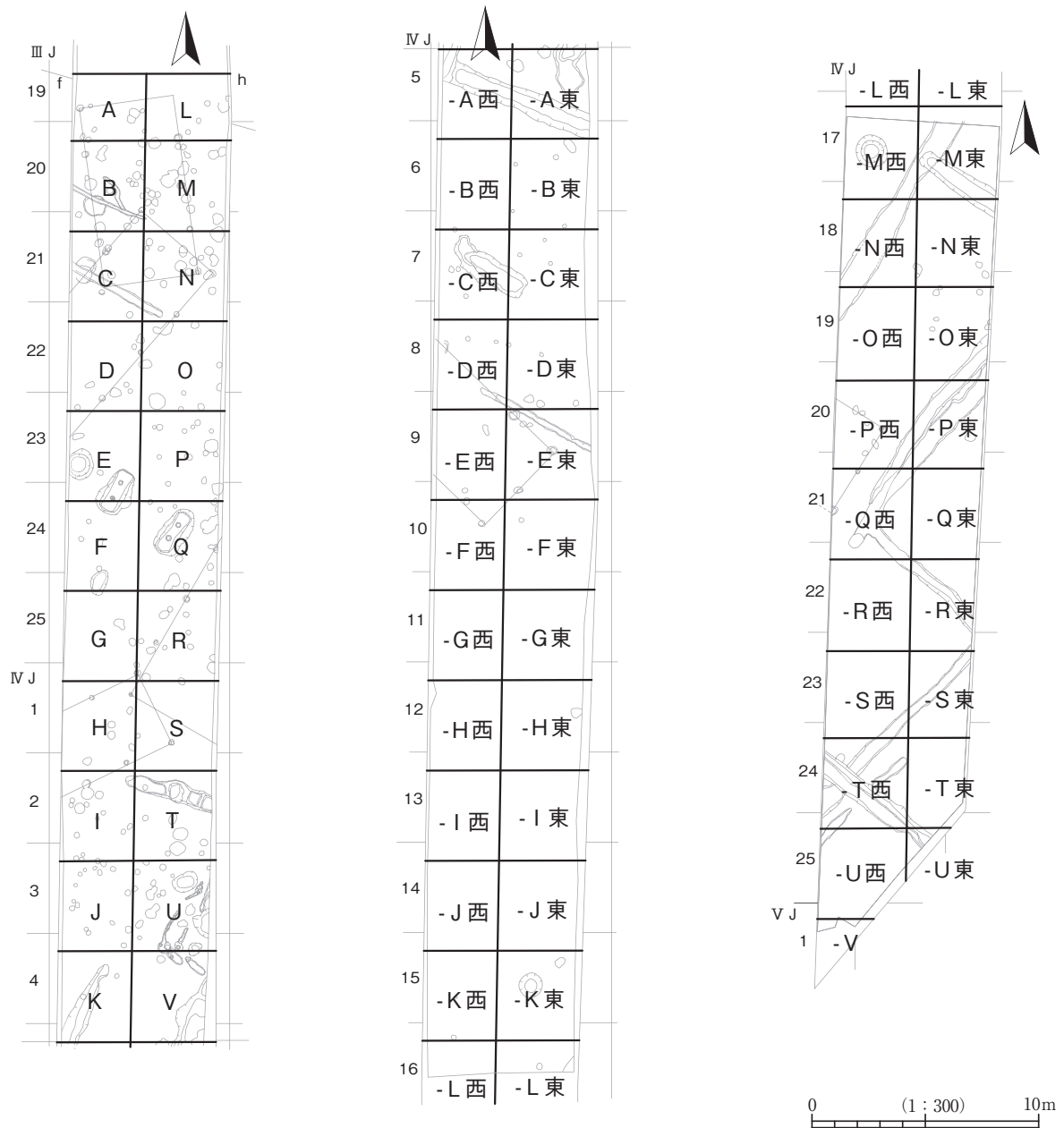


第6図 全体図・グリッド配置図

平成22年度包含層

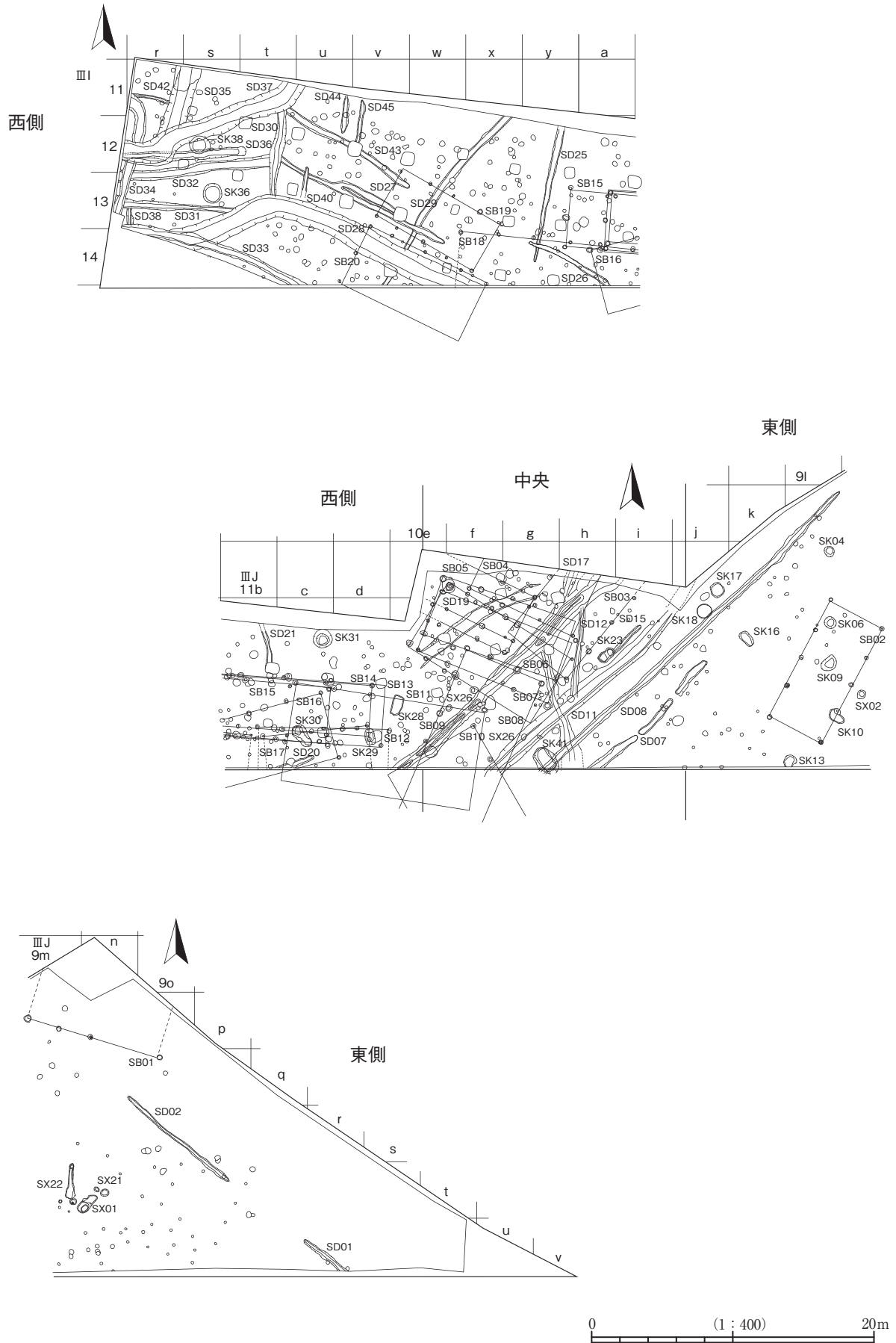


平成23年度包含層

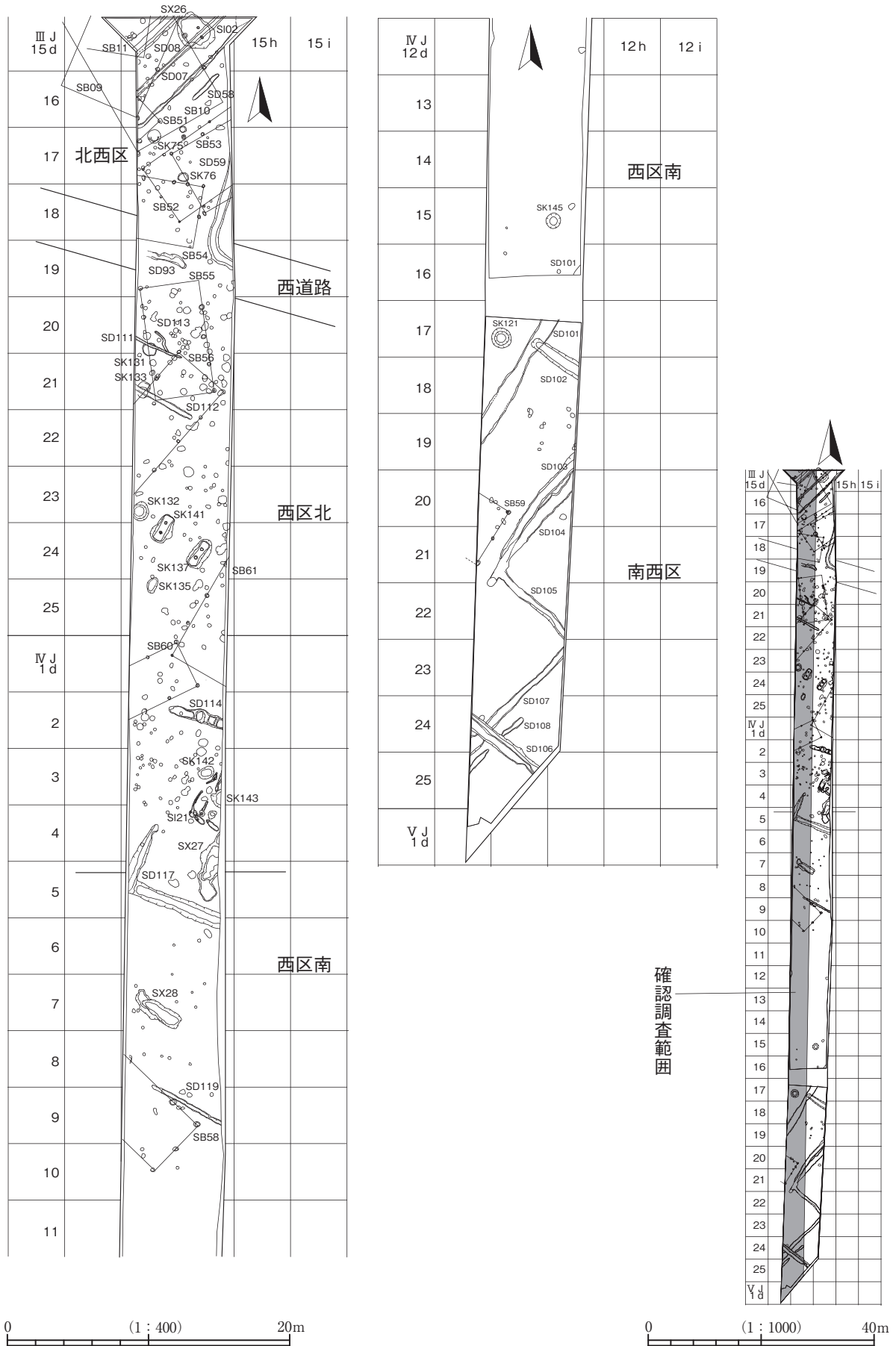


第7図 遺物取り上げグリッド図

1 野外調査

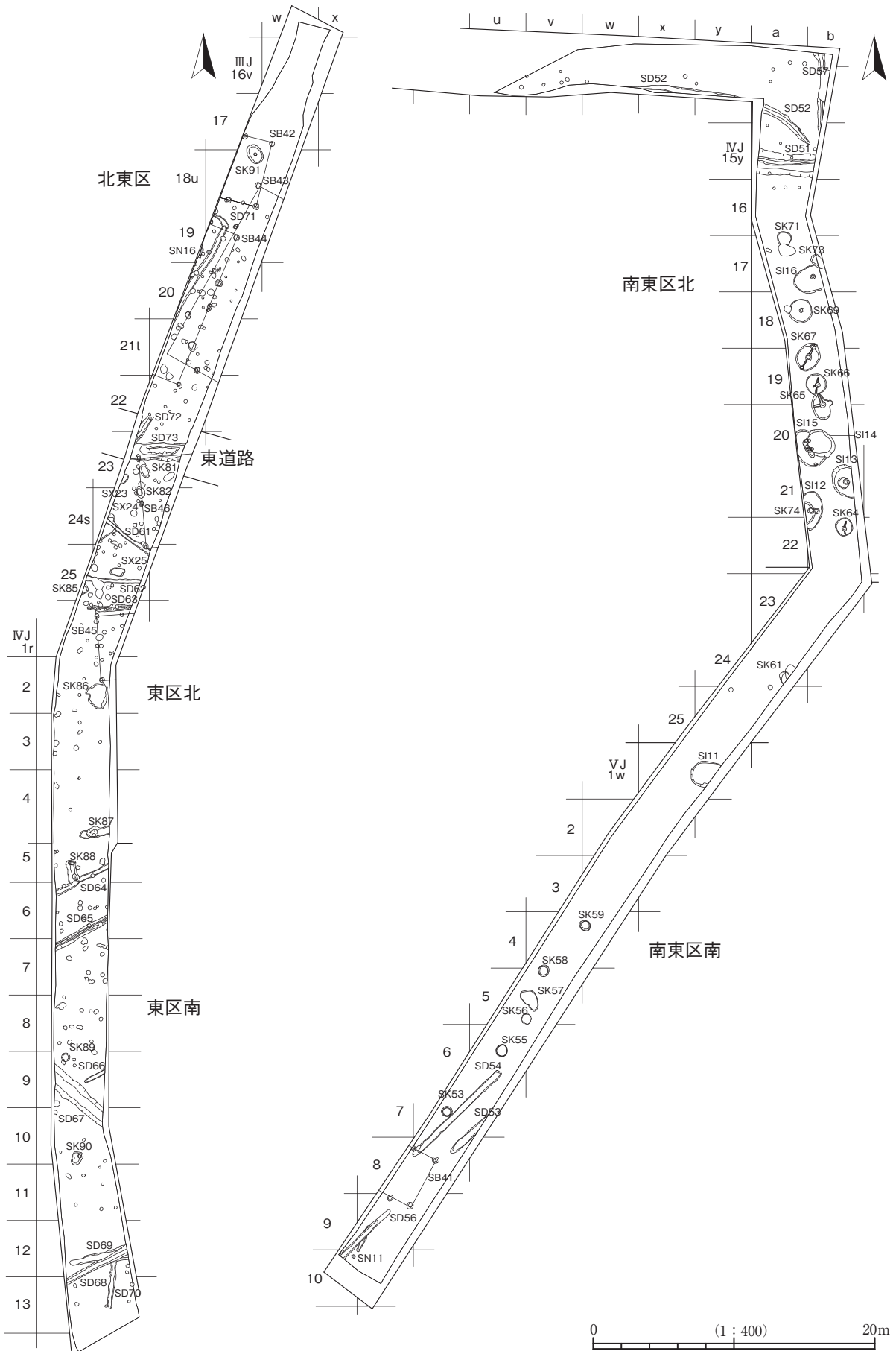


第8図 遺構配置図部分1



第9図 遺構配置図部分2

1 野外調査



第10図 遺構配置図部分3

H23-403 : $X = -103,456.064$ 、 $Y = 27,299.120$ $H = 32.149$
 (新 H23-403 : $X = -103,457.537$ 、 $Y = 27,301.843$ $H = 32.014$)
 H23-404 : $X = -103,487.297$ 、 $Y = 27,302.862$ $H = 32.078$
 (新 H23-404 : $X = -103,488.770$ 、 $Y = 27,305.584$ $H = 31.943$)
 H23-405 : $X = -103,504.549$ 、 $Y = 27,290.655$ $H = 32.241$
 (新 H23-405 : $X = -103,506.022$ 、 $Y = 27,293.377$ $H = 32.106$)
 H23-406 : $X = -103,523.828$ 、 $Y = 27,277.668$ $H = 32.135$
 (新 H23-406 : $X = -103,525.302$ 、 $Y = 27,280.390$ $H = 32.000$)
 H23-407 : $X = -103,380.000$ 、 $Y = 27,280.000$ $H = 31.942$
 (新 H23-407 : $X = -103,381.471$ 、 $Y = 27,282.722$ $H = 31.807$)
 H23-408 : $X = -103,410.000$ 、 $Y = 27,272.000$ $H = 32.100$
 (新 H23-408 : $X = -103,411.471$ 、 $Y = 27,274.722$ $H = 31.965$)
 H23-409 : $X = -103,440.000$ 、 $Y = 27,272.000$ $H = 31.942$
 (新 H23-409 : $X = -103,441.472$ 、 $Y = 27,274.722$ $H = 31.807$)
 H23-410 : $X = -103,505.000$ 、 $Y = 27,272.000$ $H = 32.166$
 (新 H23-410 : $X = -103,506.474$ 、 $Y = 27,274.722$ $H = 32.031$)
 H23-411 : $X = -103,410.000$ 、 $Y = 27,230.000$ $H = 32.262$
 (新 H23-411 : $X = -103,411.471$ 、 $Y = 27,232.721$ $H = 32.127$)
 H23-412 : $X = -103,440.000$ 、 $Y = 27,230.000$ $H = 32.132$
 (新 H23-412 : $X = -103,441.472$ 、 $Y = 27,232.721$ $H = 31.997$)
 H23-413 : $X = -103,472.000$ 、 $Y = 27,230.000$ $H = 31.966$
 (新 H23-413 : $X = -103,473.473$ 、 $Y = 27,232.721$ $H = 31.831$)

「平成 23 年度に施設した基準点は平成 23 年 6 月 1 日付において、国土地理院の電子基準点が改測されたが、今回使用の四等三角点はまだ改測されていないことや、遺跡基準点成果として使用中なことから、新設 3 級基準点 (H23-301・H23-302) の 2 点がどのように変動されたか、検証を行った。したがって測量方法は、新設 3 級基準点を GPS 測量により測量を実施し、電子基準点 3 点を与点としてスタティック法による測量を行った。4 級基準点及び区画付杭については、ヘルマート変換方式により数値を算出」(株式会社中央測量設計)している。本遺跡は東日本大震災の前後で発掘調査を行っており、震災前のデータと統合させるため、震災前のデータを使用している。

平成 22 年度の重機による表土除去及び平成 23 年度の試掘の結果、ほぼ全面に遺構が広がり、西側の西半 (H22) 及び西区北 (H23) には遺物 (縄文土器) が集中していることが判明した。この部分では遺物を包含している堆積層 (= II 層) 上面では遺構の確認が困難で、II 層を除去しないと、遺構の検出ができないこと、初年度の発掘調査開始が 11 月で、時間的な制約があったこと、包含層の掘削を優先させたかったが、基準点の打設が間に合わず、全体のグリッドに合わせられなかったことにより、任意の遺物取り上げ用のグリッドを設定し、包含層 (II 層) の遺物の取り上げを行った。平成 22 年度は包含層を囲うように 4 点を打設し、 4×4 m を 1 区画としたグリッドを設定し、北西から①・②・③・…・⑭とした。これらのグリッドの南北方向は全体のグリッドの南北方向とは 13.98° 東に振れることとなる。また、平成 23 年度は、調査区の幅が狭く、II 層から遺物が出土する部分が限られることから、取り上げ用のグリッドを設定した。遺物が出土する範囲の南側に事業境界杭が 2 点 (FH60 と ww30) あり、この杭を結んだラインを東西方向の南端軸とし、4 m の区画を設定した。南

1 野外調査

第3表 遺構名対応表

No.	報告名	現場名
1	SI02	SI02
2	SI11	SI11
3	SI12	SI12
4	SI13	SI13
5	SI14	SI14
6	SI15	SI15
7	SI16	SI16
8	SI21	SI21
9	SB01	SB01
10	SB02	SB02
11	SB03	SB03
12	SB04	SB04
13	SB05	SB05
14	SB06	SB06
15	SB07	SB07
16	SB08	SB08
17	SB09	SB09
18	SB10	SB10
19	SB11	SB11
20	SB12	SB12
21	SB13	SB13
22	SB14	SB14
23	SB15	SB15
24	SB16	SB16
25	SB17	SB17
26	SB18	SB18
27	SB19	SB19
28	SB20	SB20
29	SB41	SB41
30	SB42	SB42
31	SB43	SB43
32	SB44	SB44
33	SB45	SB45
34	SB46	SB46
35	SB51	SB51
36	SB52	SB52
37	SB53	SB53
38	SB54	SB54
39	SB55	SB55
40	SB56	SB56
41	SB58	SB58
42	SB59	SB59
43	SB60	SB60
44	SB61	SB61

No.	報告名	現場名
45	SK04	SK04
46	SK06	SK06
47	SK09	SK09
48	SK10	SK10
49	SK13	SK13
50	SK16	SK16
51	SK17	SK17
52	SK18	SK18
53	SK23	SK23
54	SK28	SK28
55	SK29	SK29
56	SK30	SK30
57	SK31	SK31
58	SK36	SK36
59	SK38	SK38
60	SK41	SI01
61	SK53	SK53
62	SK55	SK55
63	SK56	SK56
64	SK57	SK57
65	SK58	SK58
66	SK59	SK59
67	SK61	SK61
68	SK64	SK64
69	SK65	SK65
70	SK66	SK66
71	SK67	SK67
72	SK69	SK69
73	SK71	SK71
74	SK73	SK73
75	SK74	SK74
76	SK75	SK75
77	SK76	SK76
78	SK81	SK81
79	SK82	SK82
80	SK85	SK85
81	SK86	SK86
82	SK87	SK87
83	SK88	SK88
84	SK89	SK89
85	SK90	SK90
86	SK91	SK91
87	SK121	SK121
88	SK131	SK131

No.	報告名	現場名
89	SK132	SK132
90	SK133	SK133
91	SK135	SK135
92	SK137	SK137
93	SK141	SK141
94	SK142	SK142
95	SK143	SK143
96	SK145	SK145
97	SD01	SD01
98	SD02	SD02
99	SD07	SD07
100	SD08	SD08
101	SD11	SD11
102	SD12	SD12
103	SD15	SD15
104	SD17	SD17
105	SD19	SD19
106	SD20	SD20
107	SD21	SD21
108	SD25	SD25
109	SD26	SD26
110	SD27	SD27
111	SD28	SD28
112	SD29	SD29
113	SD30	SD30
114	SD31	SD31
115	SD32	SD32
116	SD33	SD33
117	SD34	SD34
118	SD35	SD35
119	SD36	SD36
120	SD37	SD37
121	SD38	SD38
122	SD40	SD40
123	SD42	SD42
124	SD43	SD43
125	SD44	SD44
126	SD45	SD45
127	SD51	SD51
128	SD52	SD52
129	SD53	SD53
130	SD54	SD54
131	SD56	SD56
132	SD57	SD57

No.	報告名	現場名
133	SD58	SD58
134	SD59	SD59
135	SD61	SD61
136	SD62	SD62
137	SD63	SD63
138	SD64	SD64
139	SD65	SD65
140	SD66	SD66
141	SD67	SD67
142	SD68	SD68
143	SD69	SD69
144	SD70	SD70
145	SD71	SD71
146	SD72	SD72
147	SD73	SD73
148	SD93	SD93
149	SD101	SD101
150	SD102	SD102
151	SD103	SD103
152	SD104	SD104
153	SD105	SD105
154	SD106	SD106
155	SD107	SD107
156	SD108	SD108
157	SD111	SD111
158	SD112	SD112
159	SD113	SD113
160	SD114	SD114
161	SD117	SD117
162	SD119	SD119
163	SN11	SN11
164	SN16	SN16
165	SX01	SX01
166	SX02	SX02
167	SX21	SN01
168	SX22	SN02
169	SX23	SN12
170	SX24	SN13
171	SX25	SN14
172	SX26	SD09
173	SX26	SD13
174	SX27	SD116
175	SX28	SD118

北方向は本調査区と確認調査区を境とした。名称は遺物が出土する範囲の北西隅から A・B・C・…・V とした。A～K が確認調査区内にあり、L～V が本調査区内にある。このグリッドは全体のグリッドより、東西ラインが 84cm 南にずれている。

試掘 平成 22 年度は、本来ならば、試掘を行って、調査区全体の層序を確認した上で、表土掘削を行うべきであるが、調査日数が少なかったため、最初から重機による表土除去を行い、試掘は行っていない。平成 23 年度は調査区全体の表土掘削を行う前に、試掘を行っている。岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課による試掘は、作付け等の制限があり、部分的であったため、その試掘を補完するように、各区で試掘を行った。その結果、ほとんどのトレンチで遺構が検出され、調査区全体に遺構が分布することが予想された。また、西区北のトレンチではⅡ層から縄文土器がまとまって出土しており、平成 22 年度の西側と同様の包含層が存在することが予想された。

表土掘削 平成 22 年度は前述のとおりであるため、当初から重機による表土掘削を行った。重機による掘削開始時期には遺物の出土が少なかったため、Ⅲ層上面まで行った。しかし、西側のⅡ層中から縄文土器がまとまって出土したため、Ⅱ層を残すように表土掘削を行った。平成 23 年度は試掘によって遺物の出土が確認できた西区北以外ではⅢ層上面まで重機による掘削を行った。

遺構検出・精査 検出作業は人力による作業に頼った。鋤簾を使用して、遺構の確認を行なった後に、移植ゴテを使用して掘削を行った。調査区境で検出された竪穴住居跡や堀跡・溝跡はベルトを残した 2 分法を用い、土坑や柱穴などは半割法を用いた。遺構の中心は土坑や柱穴などの小規模なものであったため、半割法を中心に用いた。掘削の際には、適宜サブトレンチを設定し、堆積状況の把握を行っている。なお、北西区、西区、南西区の西側半分は確認調査区となっており、基本的には、検出した遺構の内容確認までに止めている。

遺構の命名 遺構名称は種別毎に略号を用い、検出順に 01 から使用した。また、平成 23 年度は遺構名が重ならないように、区域毎に番号を付した。なお、検出時に番号を付したため、多数の欠番が生じているが、遺物の注記が混乱しないようにするため、そのままにしている。また、精査によって検出時と名称を変更した遺構があるため、第 3 表に遺構名対応表を示した。使用した略号は次のとおりである。

S I：竪穴住居跡、S B：掘立柱建物跡、S K：土坑、S D：堀跡・溝跡、S N：焼土遺構、S X：不明遺構、P：柱穴（平成 23 年度は PP としたが、室内整理時に P に統一）

平成 23 年度に使用した番号は次のとおりである。

S I：11～16（南東区）、21（西区）

S B：41（南東区南）、42～44（北東区）、45・46（東区北）、51～54（北西区）、55～58・60・61（西区）、59（南西区）

S K：51～74（南東区）、75・76（北西区）、81～90（東区）、91（北東区）、121（南西区）、131～145（西区）

S D：51～57（南東区）、58・59（北西区）、61～70（東区）、71（北東区）、72・73（東道路）、93（西道路）、101～108（南西区）、111～119（西区）

S N：11（南東区）、16（北東区）

S X：11～

P1001～

実測記録 遺構の実測は光波測量器と電子平板システム（Cubic 社製実測支援システム「遺構くん」）を用いて平面図を作成し、断面図は従前通りの方法で作図を行った。

写真記録 野外調査の写真撮影にあたっては、中判カメラ（6×7判）1台（モノクローム）と一眼レフデジタルカメラ（Canon社製EOS50D）1台を使用した。

2 室内整理

遺構 遺構図面は電子データの加工・修正を行い、版下を作成した。その際に、攪乱層にも番号が付されていたため、整理しなおして番号を変更している。遺物の観察表は変更後の名称を使用しているが、遺物の注記には変更前の名称が使用されているため、対応表を第1表に示した。遺構図の縮尺は図版毎にスケールを付すと同時に縮尺を記載したので参照して頂きたい。遺構図に使用した記号・網掛け等は凡例に示した。

遺構の計測は電子データ上で、次の方法で行った。①主軸方向は基本的に長軸または長辺方向である。②長径は長軸方向の最大距離を、短径は長径に直行する軸で最大径を計測した。③深さは上端で最も高い部分と底面の比高差で計算した。④溝跡などの長大な遺構の長さは電子平板システム内で、遺構の中心線を3回計測した値の平均値を記載した。⑤溝跡の幅は長軸方向に直交する場所で計測し、最大幅と最小幅を記載した。

遺物 出土遺物は水洗、仕分、出土地点の確認を行い、種類毎に次のとおりにした。遺物図版に使用した表現方法及び網掛け等は凡例及び第11～14図に示した。番号は選別時に種別毎に整理番号を付し、掲載遺物決定後に変更している。掲載番号は本文、観察表、図版、写真図版すべて一致している。〈土器類・土製品〉 取り上げてきた袋毎に重量計測（g単位：少数第1位を四捨五入）を行い、台帳に記載した。その後、注記を行い、接合作業と資料の選択・登録作業を行った。選択にあたっては全ての資料を登録・分類・図化する時間的余裕がないため、次の選定基準を設定し行った。①全体の形状が把握できるもの、②口径もしくは底径が算出できる資料、③胴部破片で反転実測が可能な資料、④口縁部もしくは底部の一部が残存する資料、⑤胴部の断片的な資料。基本的には①～③の基準で選別を行ったが、全体的に断片的な資料が多いことから、遺構内出土資料や文様のある資料、資料数の少ない器種については④や⑤から採用した。その後、必要に応じて石膏による復元作業を行い、拓影図作成を含む図化作業、トレース作業、写真撮影を行った。

〈石器・石製品〉 1点毎に整理番号を付し、重量計測（g単位：少数第2位を四捨五入、大形の礫塊石器は少数第1位まで計測）を行い、台帳に記載した。その後、掲載遺物を選別し、図化・トレース作業を行った。縄文時代の剥片石器と打製石斧の作図は作業の効率化を優先して外部（株式会社ラング）に委託した。

〈金属製品〉 まず、簡単に土砂の除去を行った後、X線写真撮影を行い、もとの形状を確認した。その上で、図化作業を行った。機械を使用した錆落としは行っていない。図化終了後、トレース作業、写真撮影を行った。

写真 野外調査時に撮影した遺構などの写真には6×7判モノクローム、デジタルデータがある。モノクローム写真は主に保存用に撮影したもので、アルバムに整理し、台帳を作成した。デジタルデータはRAWデータとJPEGデータを同時に撮れるモードで撮影を行い、写真図版作成用に使用した。デジタルデータは当センターの規定に則った整理を行い、台帳を作成した。遺物写真は室内整理時にデジタルカメラでJPEG撮影モードの撮影を行った。これらの遺構写真と航空写真及び遺物写真で図版を作成した。なお、遺構の断面写真は基本的には図版の断面図と同じ方向から撮影したものである。

IV 分類基準

1 土器類

土器類には、縄文土器、土師器、須恵器、かわらけ、陶器、磁器がある。縄文土器以外については、分類できるほどの数量がないため、個別に記載している。

縄文土器の器形は深鉢を主体とし、少量の鉢が存在する。鉢は少量であるため、分類基準を設けていない。深鉢は器形上の特徴から次のように分類基準を設定した（第11図）。

I類：頸部が「く」の字状にくびれ、口縁は外反ないし外傾し、胴部は膨らむ。胴部径が頸部径と口縁部径より大きいもの。胴部上半に最大径があるものと胴部下半に最大径があるものがある。

II類：頸部が「く」の字状にくびれ、口縁は外反ないし外傾し、胴部は膨らむ。胴部径が頸部径より大きく口縁部径より小さいもの。胴部上半に最大径があるものと胴部下半に最大径があるものがある。

III類：胴部が球状に膨らみ、口縁部は外傾、胴部は円筒・円錐台状を呈するもの。頸部・胴部にそれぞれくびれを有する。

IV類：胴部上位に膨らみを持ち、頸部で緩やかにくびれ、口縁部が外傾するもの。

V類：胴部が膨らみ、最大径を持つ。口縁部がやや内湾ないし内傾してすぼまるもの。

VI類：胴部が筒状もしくは開き気味で、頸部で「く」の字状ないし緩やかにくびれ、口縁部は外傾するもの。いわゆる「朝顔形」も含む。

VII類：底部から口縁にかけて外反ないし外傾するもの。ほぼ筒状を呈する。口縁部まで外反ないし外傾するもの、口縁部のみ小さく外反するものがある。

2 石器・石製品（第12～14図）

（1）器種分類

出土石器の器種分類はこれまでの研究の中で確立し、一般に広く認識されているものを踏襲して下記のとおり分類した。表中では括弧内の略号を使用した。

石鏃（SAR） 素材剥片の片面または両面に二次加工を施して、尖頭部を作出した石器。概ね、扁平で左右対称である。器長が5cm以下のものを本類とした。

I類：平基無茎鏃である。平面形が二等辺三角形を呈する。基部の縁辺が丸みを帯びるものも見られるが点数が少ないため一括した。

II類：凹基無茎鏃で、基部の抉りが浅く、平面形が正三角形に近い形状を呈するもの。

III類：凹基無茎鏃で、基部の抉りが浅く、平面形が二等辺三角形を呈するもの。器長に対して器幅が1/2以上のもの（IIIa）と1/2未満～1/3以上のもの（IIIb）がある。

IV類：凹基無茎鏃で、基部の抉りが浅いものであり、基部がやや丸みを帯びるもの。IIIb類のように器長に対して器幅が狭いものである。

V類：凹基無茎鏃で、基部の抉りが深いもの。平面形が二等辺三角形を呈し、基部の抉りが台形状を呈するもの（Va）、平面形が二等辺三角形を呈し、脚部が丸みを帯びるもの（Vb）、平面形が正三角形を呈し、脚部が丸みを帯びるもの（Vc）、平面形が二等辺三角形を呈し、脚部が鋭角になるもの（Vd）がある。

Ⅵ類：凹基無茎鏃で、平面形が五角形を呈するもの。脚部が尖状を呈するものや丸みを帯びるものがある。

Ⅶ類：有茎鏃。平面形が三角形状を呈するもの（Ⅶa）と菱形を呈するもの（Ⅶb）がある。

Ⅷ類：円基のものを一括した。

Ⅸ類：上記以外のもの。

尖頭器（PO） 素材剥片の両面に二次加工を施して、尖頭部を作出した石器。

スクレイパー類（SCR類） スクレイパー類として扱うものは、二次加工が施されている石器の中から、一側縁の半分以上に連続的な二次加工を施して刃部が形成されている石器を抽出し、以下のように分類した。搔器、削器を一括して扱っている。分類は素材剥片の刃部形成箇所を大きく行い、作出方法で細分した。刃部角の差が大きいものは最小値と最大値を計測した。

I類：二次加工により一側縁に刃部が形成されているもの。素材剥片腹面から背面へ二次加工が施され、背面に刃部が形成されているもの（Ia）、素材剥片背面から腹面へ二次加工が施され、腹面に刃部が形成されているもの（Ib）、両面に刃部が形成されているもの（Ic）がある。

II類：二次加工により両側縁に刃部が形成されているもの。素材剥片腹面から背面へ二次加工が施され、背面に刃部が形成されているもの（IIa）、素材剥片背面から腹面へ二次加工が施され、腹面に刃部が形成されているもの（IIb）、両面に刃部が形成されているもの（IIc）がある。

III類：二次加工により素材剥片末端部に刃部が形成されているもの。素材剥片腹面から背面へ二次加工が施され、背面に刃部が形成されているもの（IIIa）、素材剥片背面から腹面へ二次加工が施され、腹面に刃部が形成されているもの（IIIb）、両面に刃部が形成されているもの（IIIc）がある。

IV類：二次加工により複数の縁辺に刃部が形成されているもの。素材剥片腹面から背面へ二次加工が施され、背面に刃部が形成されているもの（IVa）、素材剥片背面から腹面へ二次加工が施され、腹面に刃部が形成されているもの（IVb）、両面に刃部が形成されているもの（IVc）がある。

V類：上記以外のものを一括した。

挟入石器（NO） 素材剥片の一部にえぐりの刃部を作出した石器。

筥形石器（SSP） 平面形が中軸線ではほぼ左右対称の撥形もしくは楕円形を呈し、断面形がかまぼこ状、台形状、凸レンズ状で、一端に刃部が作出されている石器。平面形状により細分した。

I類：短冊形を呈するもの。

II類：撥形を呈するもの。

III類：上記以外のもの。

錐形石器（SAW） 素材剥片の一部に二次加工を施して錐状の尖頭部を作出した石器。

I類：摘まみ部を有するもの。

II類：棒状を呈するもの。

III類：素材剥片の一部に刃部のみを作出したもの。

石匙（TSS） 両側縁から挟りを入れることで作出された摘まみ部と摘まみ部とは異なる側縁に刃部を有する石器。

I類：縦形のもの。刃部の調整が片面のみのものと両面のものがある。摘まみ部が真っ直ぐになるもの（Ia）と斜めになるもの（Ib）がある。

II類：横形のもの。摘まみ部が真っ直ぐになるもの（IIa）と斜めになるもの（IIb）がある。

楔形石器 (PA) 相対する縁辺に両極技法によって生じる線状もしくは点状を呈する特徴的な打面形状と細かい階段状の剥離痕が観察される石器。

異形石器 平面形は石鏃に類似するが、石匙のように先端に抉りを有するもの。

二次加工のある剥片 (RF) 素材剥片の一部に二次加工を施した石器で、石鏃、尖頭器、スクレイパー類、抉入石器、籠形石器、錐形石器、石匙、楔形石器、異形石器以外のものを一括した。

I 類：一側縁のみに二次加工が施されるもの。

II 類：二側縁に二次加工が施されるもの。

III 類：上記以外のものを一括した。

剥片 (F) 上記の分類から外れたすべでも剥片石器を対象とした。最大器長・最大器幅のいずれもが 1.5cm 未満のもの及び打点の不明瞭なものは碎片 (C) として報告した。

石核 (CO) 剥片を剥離したと考えられる石器。

打製石斧 (AXc) 両面もしくは片面加工により、斧状の刃部を作出した石器。

磨製石斧 (AXP) 両面もしくは片面加工により、斧状の刃部を作出した石器。

礫器 (PT) 礫の一端に剥離調整を施して刃部を作出した石器。

磨石 (GS) 礫に磨痕が観察される石器。

I 類：磨面のみ観察されるもの。

II 類：磨面と敲打痕が観察されるもの。

III 類：磨面と凹部が観察されるもの。

IV 類：礫の側面部に平坦な磨面をもつ所謂「特殊磨石」であるもの。

凹石 (SWI) 礫の平坦な面に敲打による凹み状の痕跡が観察される石器。

敲打石 (HS) 礫の端部や側面にあばた状の敲打痕が形成されている石器。

I 類：一端部に形成されるもの。

II 類：両端部に形成されるもの。

石皿 (GRSL) 扁平礫に使用による平滑な面が観察される石器。

I 類：片面のみに使用痕跡が観察されるもの。

II 類：両面に使用痕跡が観察されるもの。

台石 (AS) 扁平礫に打撃痕が観察される石器。

I 類：片面のみに使用痕跡が観察されるもの。

II 類：両面に使用痕跡が観察されるもの。

砥石 (WS) 礫の片面もしくは両面または、一部に磨痕の観察される石器。

I 類：一面の一部のみに磨痕の観察されるもの。

II 類：一面全体に磨痕が観察されるもの。

III 類：平坦な二面に磨痕が観察されるもの。

IV 類：上記以外のものを一括した。

(2) 石 器 石 材

本来であれば、資料全体で母岩別に分類するのが理想であると思われるが、接合資料が非常に少なく、原礫まで復元可能な個体が皆無であるため、母岩分類は行っていない。同じ石器石材でも産地・形成時期が異なっているため、以下のような記号で分類を行った。この分類は花崗岩研究会の鑑定を基準にしている。石器石材の後ろに番号がないものは、花崗岩研究会に鑑定を基に、調査担当者が分

類したものである。

安山岩 (an) 1: 奥羽山脈・新生代新第三紀、2: 奥羽山脈・新生代新第三紀～第四紀、3: 北上山地・古生代?

ホルンフェルス (hor) 1: 北上山地・古～中生代 (中生代白亜紀に変成)

黒曜石 (ob) 1: 小赤沢産 (株式会社第四紀地質研究所分析)、2: 北上系 A (明治大学文化財研究施設分析)、3: 判別不可 (明治大学文化財研究施設分析)、4: 北上川折居 1 群 (株式会社古環境研究所分析)、5: 北上川折居 2 群 (株式会社古環境研究所分析)、6: 推定不可 (株式会社古環境研究所分析)

砂岩 (san) 1: 奥羽山脈・新生代新第三紀、2: 北上山地・古～中生代

頁岩 (sh) 1: 奥羽山脈・新生代新第三紀、2: 北上山地・古～中生代、3: 北上山地・古生代後期、4: 珪質頁岩

赤色頁岩 (rsh) 1: 奥羽山脈・新生代新第三紀

凝灰岩 (tuf) 1: 北上山地・古～中生代、2: 北上山地?・古～中生代、3: 奥羽山脈・新生代新第三紀

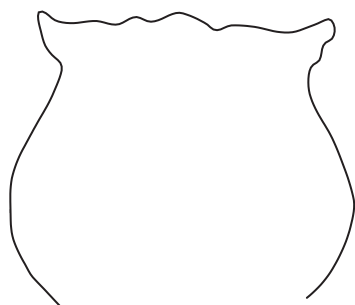
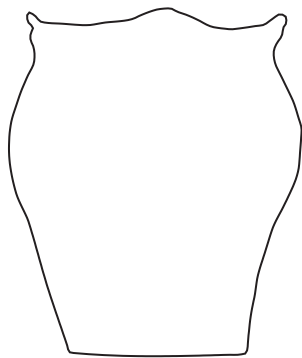
溶結凝灰岩 (wetuf) 1: 奥羽山脈・新生代新第三紀

滑石 (tal) 1: 北上山地・古～中生代

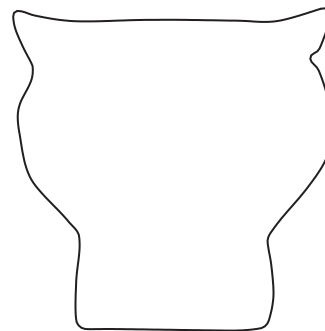
細粒花崗閃緑岩 (figradio) 1: 北上山地・中生代白亜紀

デイサイト (dac) 1: 奥羽山脈・新生代新第三紀、2: 奥羽山脈・新生代新第三紀 (黒色鉱物が特徴的に含まれる)、3: 北上山地・中生代白亜紀?

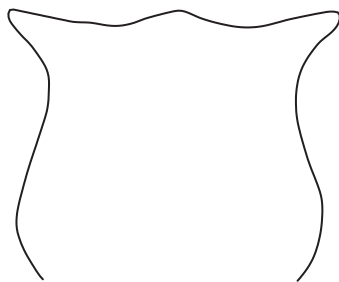
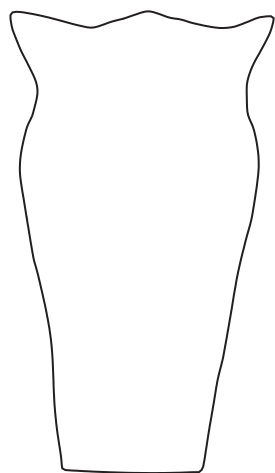
I類



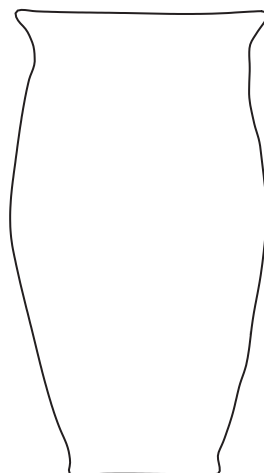
III類



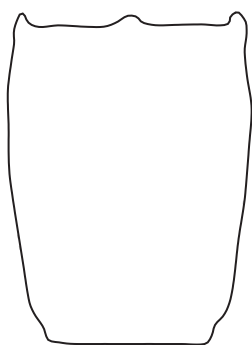
II類



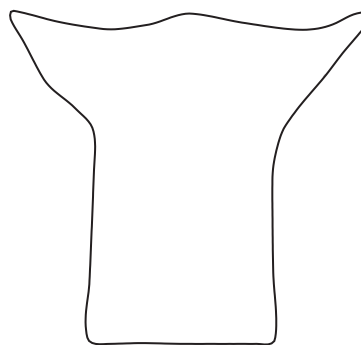
IV類



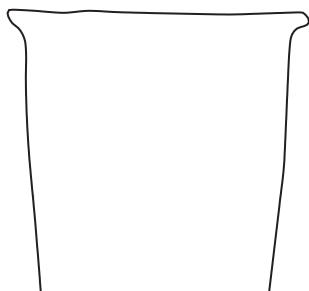
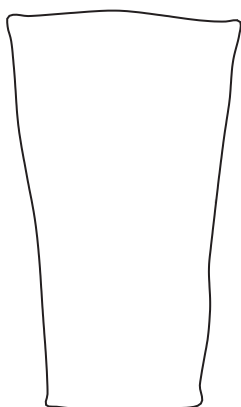
V類



VI類

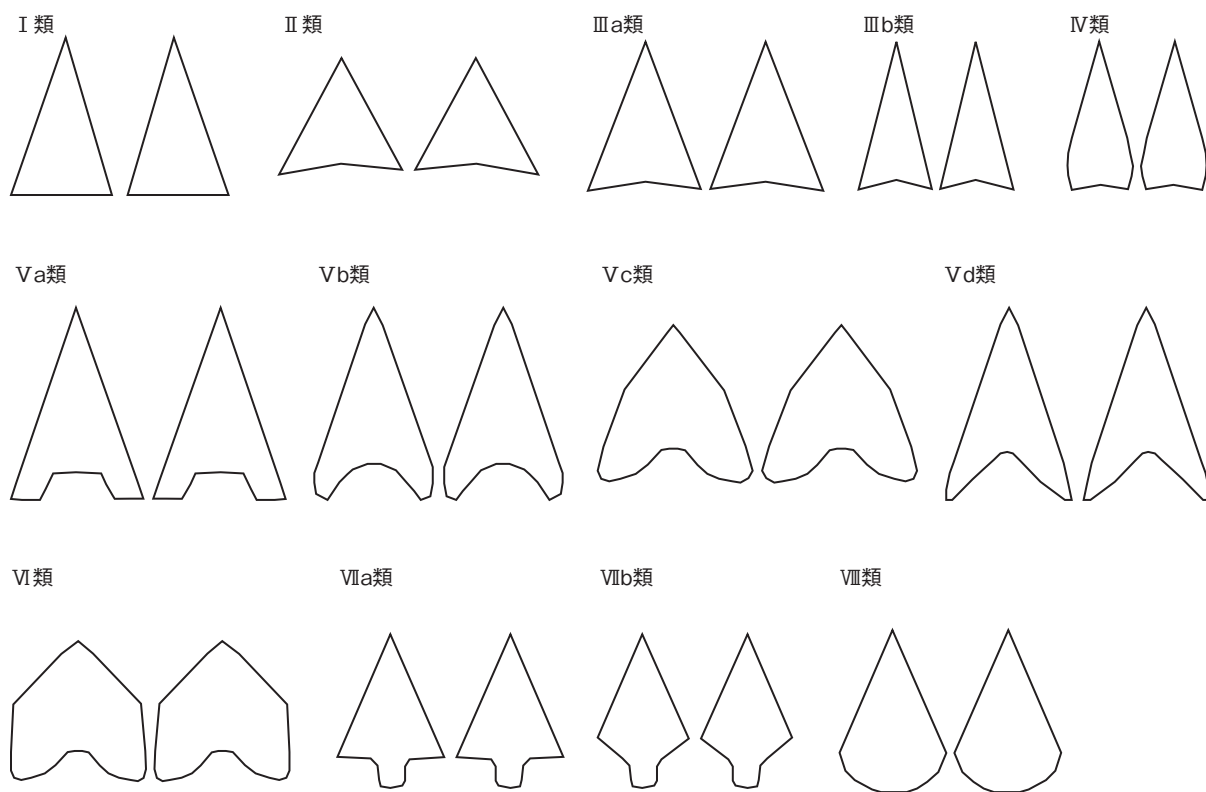


VII類

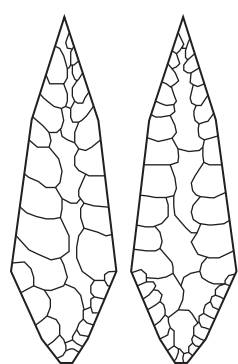


第 11 図 土器分類図

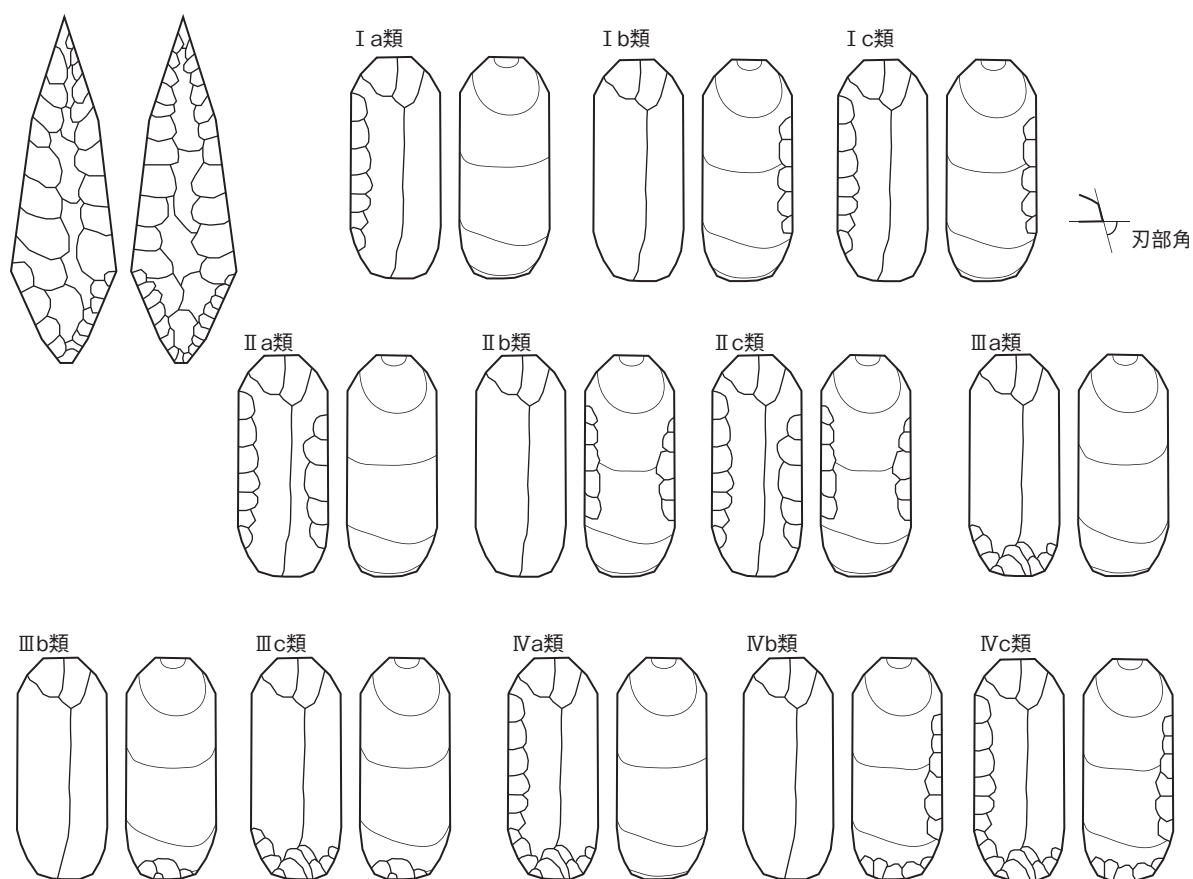
石鏃



尖頭器

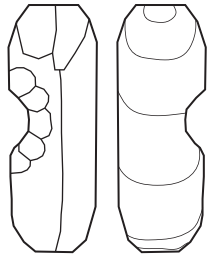


スクレイパー類

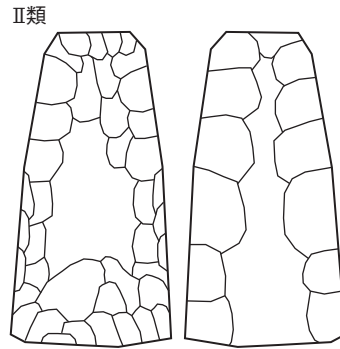
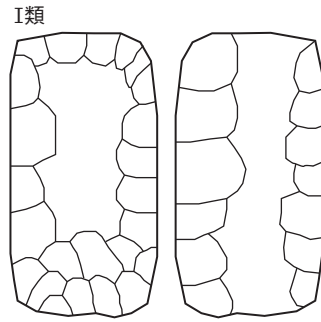


第12図 石器分類図(1)

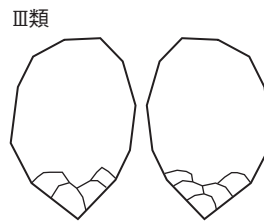
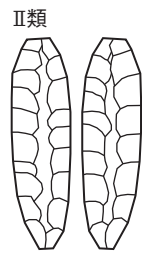
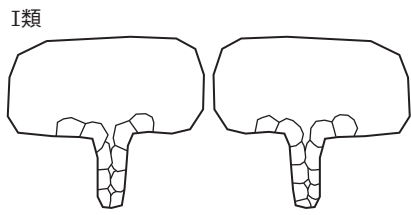
抉入石器



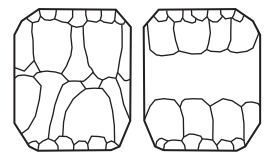
篋形石器



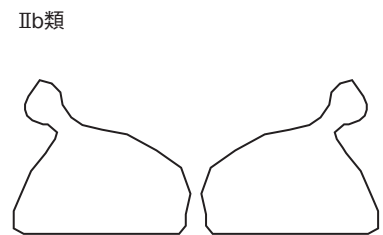
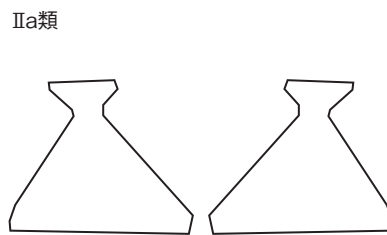
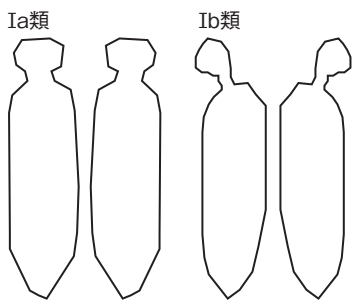
錐形石器



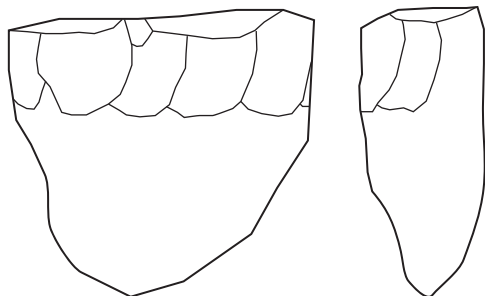
楔形石器



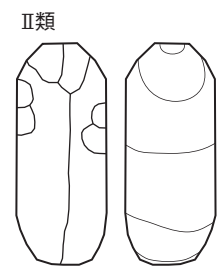
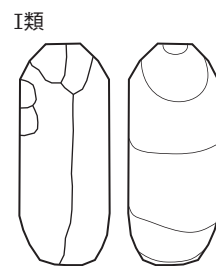
石匙



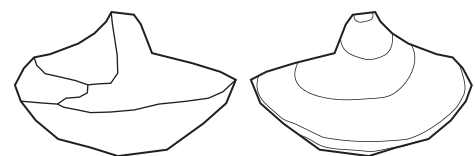
石核



RF

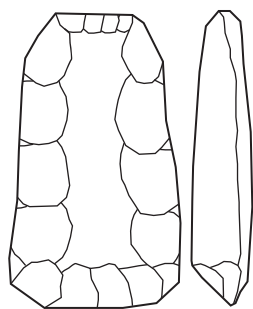


剥片

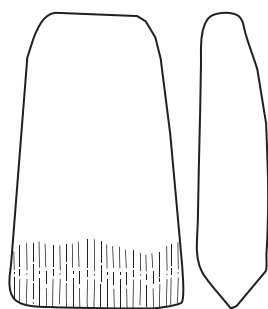


第13圖 石器分類圖(2)

打製石斧

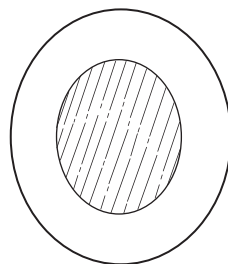


磨製石斧

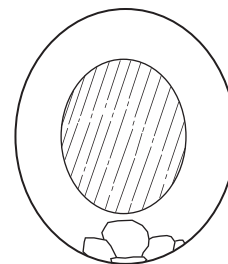


磨石

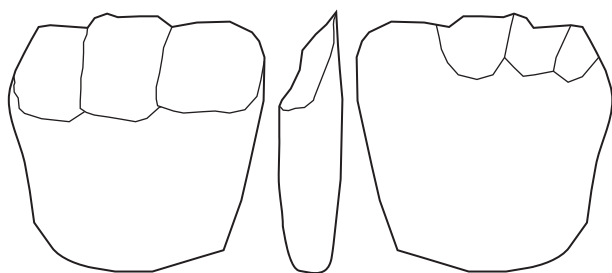
I類



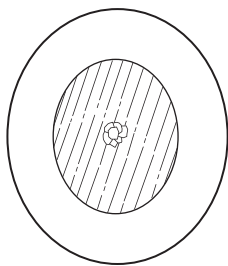
II類



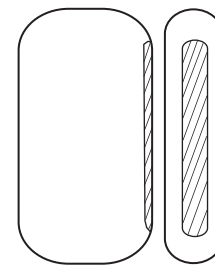
礫器



III類

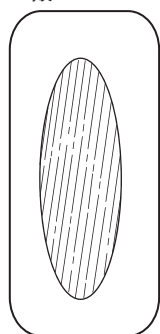


IV類

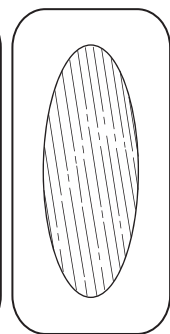
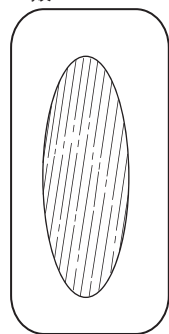


石皿

I類

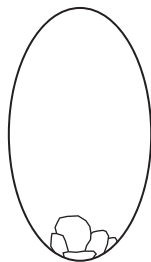


II類

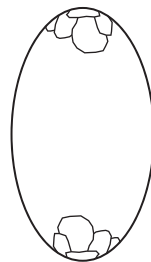


敲石

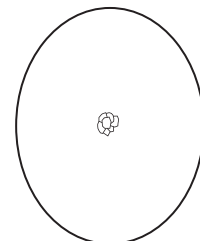
I類



II類

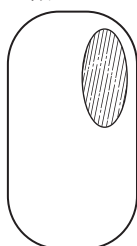


凹石

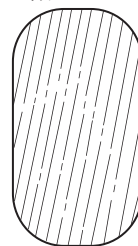


砥石

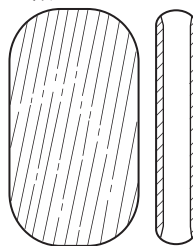
I類



II類

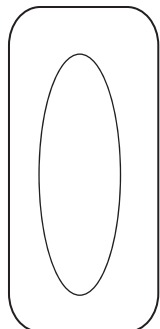


III類

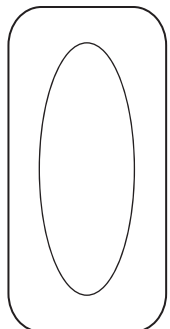
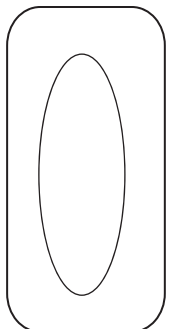


台石

I類



II類



第14図 石器分類図(3)

V 検出遺構と出土遺物

1 概 要

平成 22 年と平成 23 年の 2 箇年に及ぶ発掘調査の結果、竪穴住居跡 8 棟、掘立柱建物跡 36 棟、土坑 52 基、堀跡・溝跡 66 条、焼土遺構 2 基、不明遺構 11 基、柱穴 1002 個で、出土遺物は縄文土器(大木 6 式を中心とする前期後葉～末葉が中心)が大コンテナ 21 箱、土製品 4 点、粘土塊 1 点、石鏃、尖頭器、スクレイパー類、抉入石器、篋形石器、錐形石器、石匙、楔形石器、二次加工のある剥片、打製石斧、磨製石斧、礫器、磨石、凹石、敲石、石皿、砥石、石錘等の石器が 4662 点、石刀・石剣類等の石製品が 26 点、土師器・須恵器が大コンテナ 1 箱、かわらけ 6 点、中世～現代の陶磁器が 74 点、刃物類、釘等の金属製品が 12 点、銭貨 3 点、鉄滓約 1.3kg、炭化物 34 点が出土している。縄文時代に帰属する遺物は包含層としたⅡ層及び中世の遺構である SD28 から出土したものが大半である。

本来は遺構の帰属時代毎に報告すべきであるが、土坑や柱穴など帰属時代を特定するのが困難な遺構が多いため、遺構種別毎に報告する。遺構の一覧を第 4 表にまとめたので、参考にして頂きたい。

2 検 出 遺 構

(1) 竪穴住居跡 (SI)

SI02 (第 15 図、写真図版 5)

[位置] 平成 22 年度調査区中央から北西区にかけての、Ⅲ J15 g グリッド周辺に位置する。

[検出状況] 表土層から盛土層にあたるⅠ層群除去後のⅢ層上面で炭化物粒や焼土粒を含む黒褐色土の広がりとして確認した。

[重複] SD08、P621 に切られており、本遺構が古い。なお、同一時代の遺構との重複関係はない。

[規模] 2.80×2.32 m の歪な楕円形である。

[埋土] 8 層に分層した。上部は黒褐色シルト、下部は暗褐色シルトを主体とする。壁付近には地山の流入土と考えられる黄褐色粘土質シルト層が堆積している。

[壁・床の状況] 細かな凹凸は見られるが、大きな窪みは確認できない。壁は底面から緩やかに傾斜を持ちながら立ち上がる。検出面から床面の深さは最大で 40cm である。

[炉] なし。

[付属施設] 中央付近で柱穴を 2 個検出した。Pit1 は黒褐色シルトブロックが混在する褐色シルト質粘土層の単層で埋没しており、床面からの深さは最大で 4cm である。Pit2 は炭化物粒の混在する暗褐色シルト質粘土層の単層で埋没しており、床面からの深さは最大で 13cm である。

[出土遺物] 埋土を中心に、縄文土器 4970.5 g、不明土製品 1 点、石鏃 1 点、RF1 点、剥片 10 点、磨石 5 点、有孔石器 1 点、礫類 2 点が出土し、縄文土器 (1～8)、不明土製品 (190)、石鏃 (226)、RF (359)、磨石 (472)、有孔石器 (557) を掲載した。

[時代・時期] 縄文時代前期後葉に帰属する。

SI11 (第 16 図、写真図版 6)

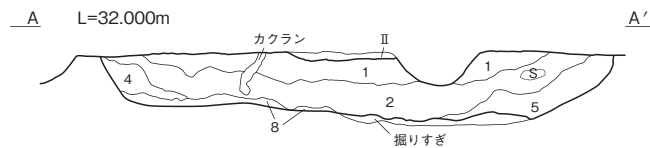
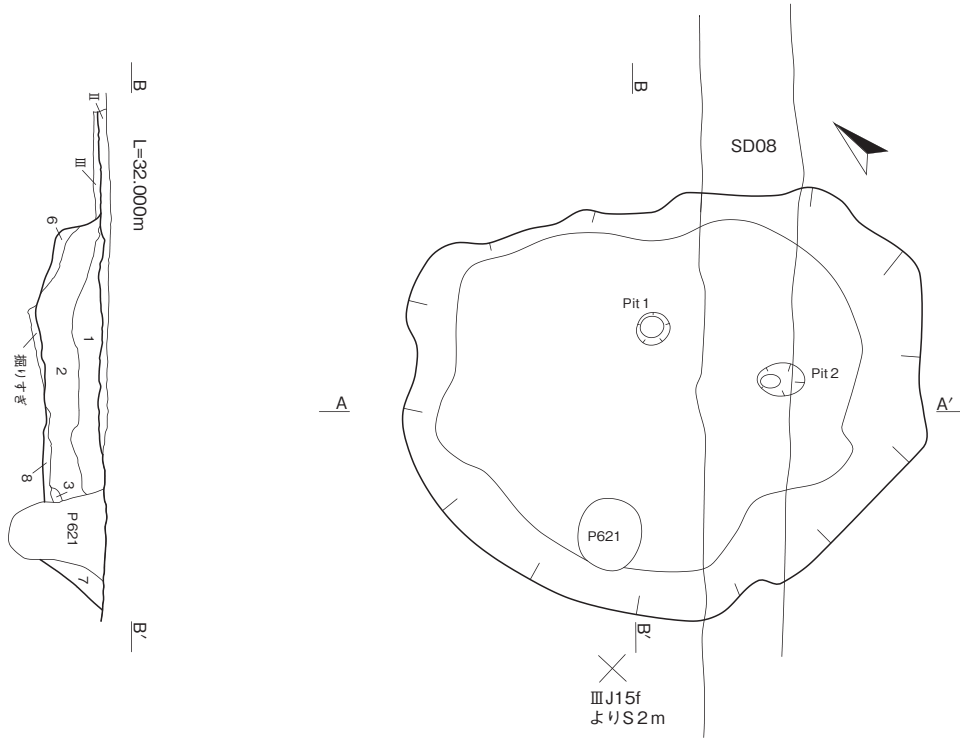
[位置] 南東区南、VJ1 y グリッド周辺に位置する。東側は調査区外に広がっている。

第4表 遺構一覧

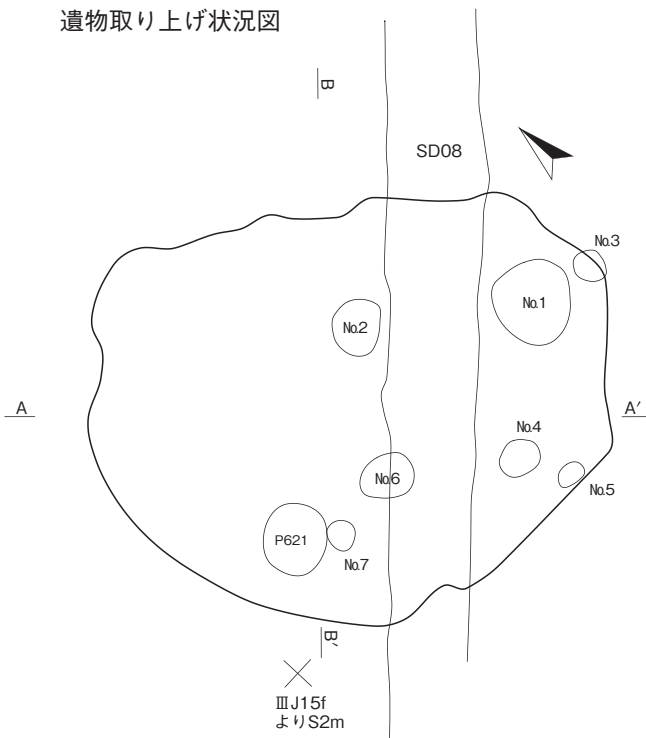
報告名	本	確	区域	時代
SI02	○		H22 中央	縄文前
SI11	○		南東区南	縄文前
SI12	○		南東区北	縄文前
SI13	○		南東区北	縄文前
SI14	○		南東区北	縄文前
SI15	○		南東区北	縄文前
SI16	○		南東区北	縄文前
SI21	○		西区北	縄文前
SB01	○		H22 東側	中世
SB02	○		H22 東側	中世
SB03	○		H22 中央	中世
SB04	○		H22 中央	中世
SB05	○		H22 中央	中世
SB06	○		H22 中央	中世
SB07	○		H22 中央	中世
SB08	○		H22 中央	中世
SB09	○	○	H22 中央・北西区	中世
SB10	○	○	H22 中央・北西区	中世
SB11	○	○	H22 中央～西側・北西区	中世
SB12	○	○	H22 西側	中世
SB13	○		H22 西側	中世
SB14	○		H22 西側	中世
SB15	○		H22 西側	中世
SB16	○		H22 西側	中世
SB17	○		H22 西側	中世
SB18	○		H22 西側	中世
SB19	○		H22 西側	中世
SB20	○		H22 西側	中世
SB41	○		南東区南	中世
SB42	○		北東区	中世
SB43	○		北東区	中世
SB44	○		北東区	中世
SB45	○		東区北	中世
SB46	○		東区北	中世
SB51		○	北西区	中世
SB52	○	○	北西区	中世
SB53	○	○	北西区	中世
SB54	○	○	北西区	中世
SB55	○	○	西区北	中世
SB56	○	○	西区北	中世
SB58	○	○	西区南	中世
SB59		○	南西区	中世
SB60	○	○	西区	中世
SB61	○	○	西区	中世
SK04	○		H22 東側	不明
SK06	○		H22 東側	不明
SK09	○		H22 東側	不明
SK10	○		H22 東側	不明
SK13	○		H22 東側	不明
SK16	○		H22 東側	不明
SK17	○		H22 東側	不明
SK18	○		H22 東側	中世
SK23	○		H22 中央	不明
SK28	○		H22 西側	不明
SK29	○		H22 西側	中世
SK30	○		H22 西側	不明
SK31	○		H22 西側	中世
SK36	○		H22 西側	中世

報告名	本	確	区域	時代
SK38	○		H22 西側	中世
SK41	○		H22 中央	縄文前
SK53	○		南東区南	縄文前
SK55	○		南東区南	縄文前
SK56	○		南東区南	縄文前
SK57	○		南東区南	縄文前
SK58	○		南東区南	縄文前
SK59	○		南東区南	縄文前
SK61	○		南東区南	不明
SK64	○		南東区北	縄文前
SK65	○		南東区北	縄文前
SK66	○		南東区北	縄文前
SK67	○		南東区北	縄文前
SK69	○		南東区北	縄文前
SK71	○		南東区北	不明
SK73	○		南東区北	縄文前
SK74	○		南東区北	縄文前
SK75		○	北西	中世
SK76	○	○	北西	不明
SK81	○		東区北	不明
SK82	○		東区北	不明
SK85	○		東区北	不明
SK86	○		東区南	不明
SK87	○		東区南	不明
SK88	○		東区南	不明
SK89	○		東区南	不明
SK90	○		東区南	不明
SK91	○		北東区	縄文
SK121		○	南西区	中世
SK131		○	西区北	不明
SK132		○	西区北	中世
SK133		○	西区北	不明
SK135		○	西区北	不明
SK137	○		西区北	縄文
SK141		○	西区北	縄文
SK142	○		西区北	縄文?
SK143	○		西区北	縄文?
SK145	○		西区南	中世
SD01	○		H22 東側	不明
SD02	○		H22 東側	不明
SD07	○	○	H22 東側・北西区	中世
SD08	○	○	H22 東側・北西区	中世
SD11	○		東側・北西区	中世
SD12	○		H22 中央	不明
SD15	○		H22 中央	不明
SD17	○		H22 西側	不明
SD19	○		H22 西側	不明
SD20	○		H22 西側	不明
SD21	○		H22 西側	平安
SD25	○		H22 西側	不明
SD26	○		H22 西側	不明
SD27	○		H22 西側	中世
SD28	○		H22 西側	中世
SD29	○		H22 西側	中世
SD30	○		H22 西側	中世
SD31	○		H22 西側	中世
SD32	○		H22 西側	中世
SD33	○		H22 西側	不明
SD34	○		H22 西側	中世

報告名	本	確	区域	時代
SD35	○		H22 西側	中世
SD36	○		H22 西側	不明
SD37	○		H22 西側	中世
SD38	○		H22 西側	中世
SD40	○		H22 西側	中世
SD42	○		H22 西側	中世
SD43	○		H22 西側	中世
SD44	○		H22 西側	中世
SD45	○		H22 西側	中世
SD51	○		南東区北	12 C
SD52	○		南東区北	不明
SD53	○		南東区南	不明
SD54	○		南東区南	不明
SD56	○		南東区南	不明
SD57	○		南東区北	不明
SD58	○		北西区	中世
SD59	○		北西区	不明
SD61	○		東区北	中世
SD62	○		東区北	中世
SD63	○		東区北	不明
SD64	○		東区南	中世
SD65	○		東区南	中世
SD66	○		東区南	不明
SD67	○		東区南	不明
SD68	○		東区南	不明
SD69	○		東区南	不明
SD70	○		東区南	不明
SD71	○		北東区	不明
SD72	○		東道路	不明
SD73	○		東道路	不明
SD93	○	○	西道路	不明
SD101	○	○	南西区	近世
SD102	○		南西区	近世
SD103	○	○	南西区	不明
SD104	○	○	南西区	不明
SD105	○	○	南西区	不明
SD106	○	○	南西区	不明
SD107	○	○	南西区	不明
SD108	○	○	南西区	不明
SD111	○	○	西区北	不明
SD112	○	○	西区北	不明
SD113		○	西区北	不明
SD114	○	○	西区北	不明
SD117	○	○	西区南	不明
SD119	○	○	西区南	不明
SN11	○		南東区南	平安
SN16	○		北東区	不明
SX01	○		H22 東側	平安
SX02	○		H22 東側	平安
SX21	○		H22 東側	平安
SX22	○		H22 東側	平安
SX23	○		東区北	不明
SX24	○		東区北	不明
SX25	○		東区北	不明
SX26	○	○	H22 東側・中央・北西区	中世
SX27	○		西区北	不明
SX28	○	○	西区南	不明

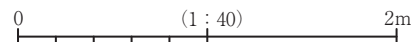


遺物取り上げ状況図



SI02

- 1 7.5YR3/2.5黒褐～暗褐CSI 粘性やや有 しまり中
焼土粒(φ2～3mm)1%・炭化物粒(1×3mm)5～7%
地山小B(5～15mm)10%
- 2 7.5YR3/4～10YR3/4暗褐CSI 粘性・しまりやや有
炭化物粒(φ1～2mm)2～3%・地山小B(φ5～10mm)2～3%
- 3 7.5YR3/3.5暗褐CSI 粘性・しまり有
炭化物粒(φ1～2mm)1%・地山小B(φ15～20mm)1～2%
- 4 10YR4/6褐SISn 粘性有 しまりやや無
暗褐色シルト質砂B(φ10～15mm)7～10%
- 5 10YR3.5/4暗褐～褐CSI 粘性有 しまりやや有
地山B15～20%・炭化物粒(φ1mm)1～2%
- 6 10YR4/6褐SISn 粘性やや無 しまりやや有
暗褐色シルト小B(φ15～30mm)1～2%
- 7 10YR4/6褐SISn 粘性やや有 しまり中
暗褐色シルトB15%・黒褐色シルト粒(φ1～10mm)3～5%
- 8 10YR4/6褐SISn 粘性やや有、しまり中
暗褐色シルト小B1～2%混入・酸化鉄集積5～7%



第15図 SI02

2 検出遺構

[検出状況] 遺物をほとんど含まない黒褐色シルト層であるⅢ層除去後のⅣ層上面で検出した。

[重複] なし。

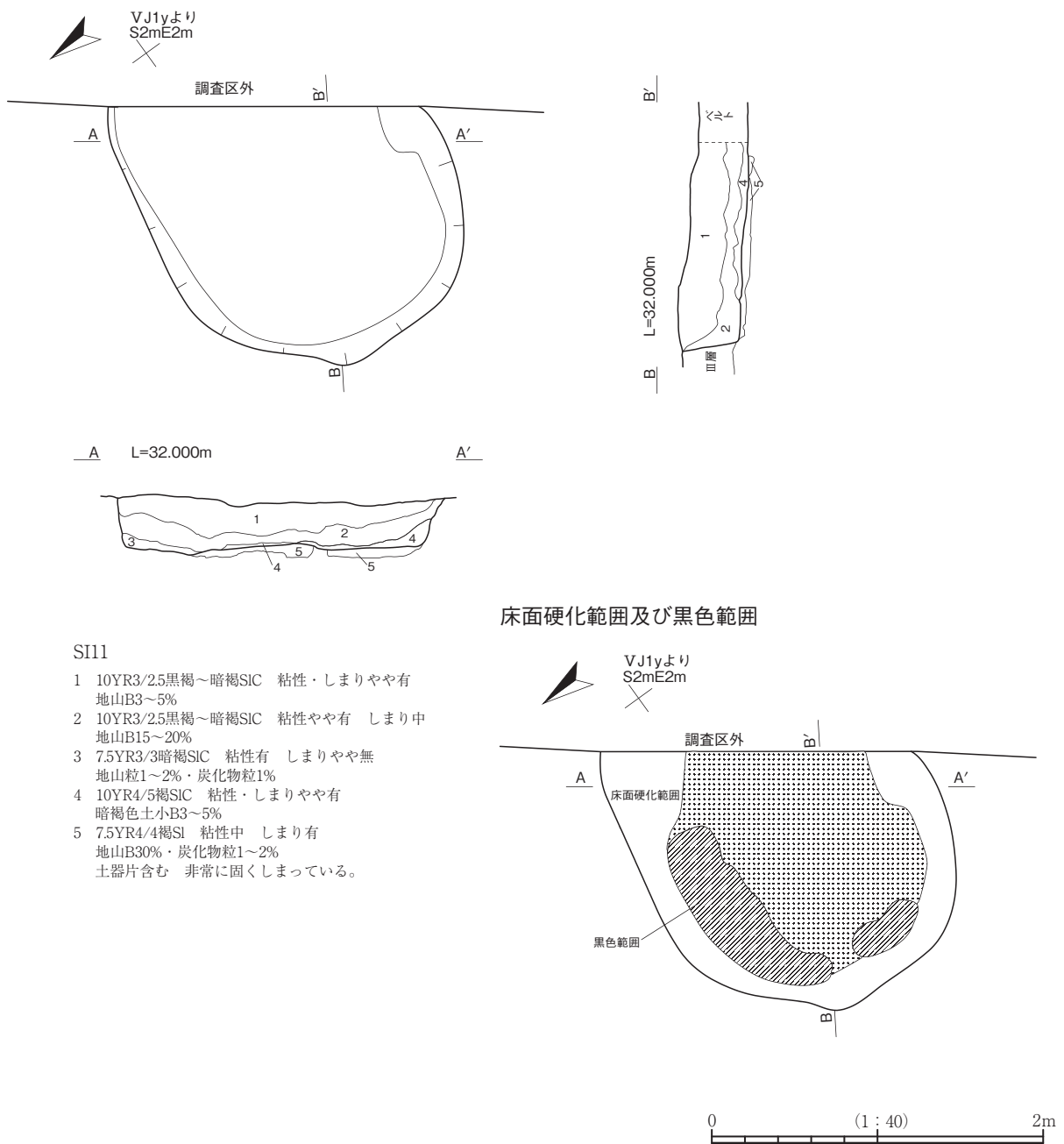
[規模] 確認できた規模は東西方向 2.20 m、南北方向 1.90 m で、楕円形を呈するものと考えられる。

[埋土] 5層に分層した。Ⅲ層を掘り込み、暗褐色シルトを混入する黄褐色粘土質シルト層（5層）を床面としている。埋土は大きく、地山ブロックを含む黒褐色シルトを主体とする上部～中部と少量の地山粒・炭化物粒を含む暗褐色シルトを主体とする下部に分けられる。

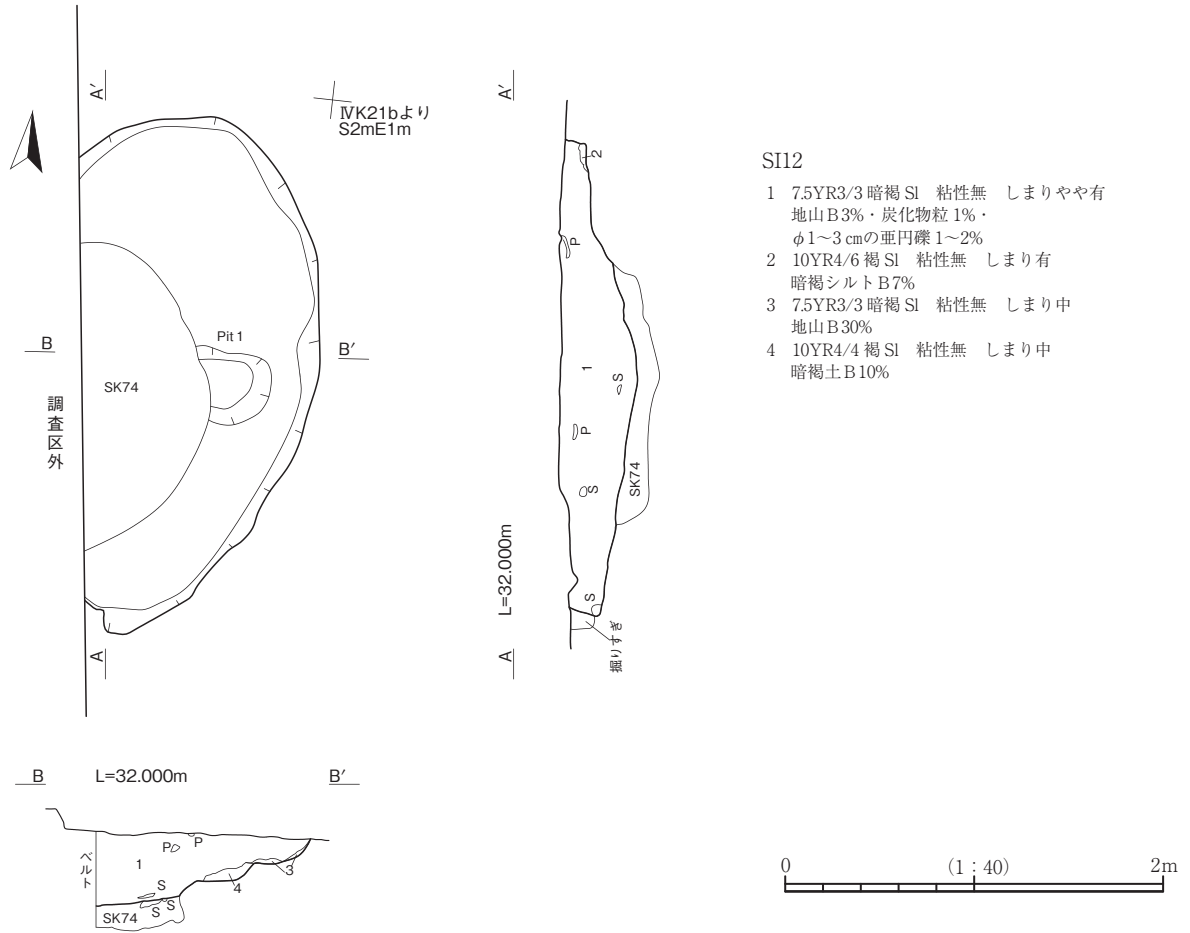
[壁・床の状況] Ⅲ層を深く掘りこんで、黄褐色粘土質シルトを貼って床面としている。検出面から床面までの深さは最大で 39cm で、床面はほぼ平坦である。壁は床面から急角度で立ち上がる。

[炉] なし。

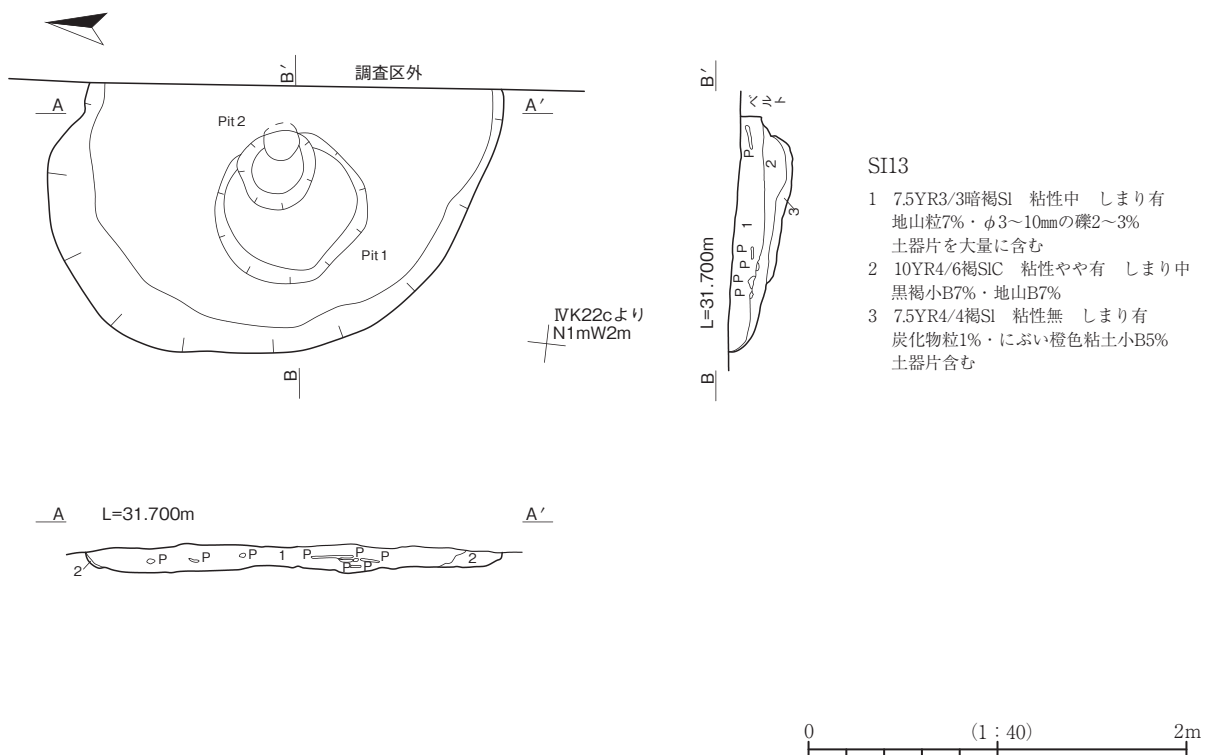
[付属施設] なし。



第16図 SI11



第17図 SI12



第18図 SI13

2 検出遺構

[出土遺物] 縄文土器 124.2 g、楔形石器 1 点、RF2 点、剥片 29 点、黒曜石製碎片 1 点、石皿 2 点が出土し、楔形石器 (340)、RF (360・361)、黒曜石製碎片 (437)、石皿 (517) を掲載した。

[時代・時期] 小破片であるため、詳細な時期は不明であるが、縄文時代に帰属するのは確かである。

SI12 (第 17 図、写真図版 7)

[位置] 南東区北、IV K21 b グリッド付近に位置する。西側は調査区外に広がっている。

[検出状況] 表土層である I 層直下の III 層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] SK74 と重複しており、本遺構内に SK74 の壁が確認できず、本遺構がほぼ一括埋没していることから、本遺構が新しい可能性が高い。

[規模] 確認できた規模は、東西方向 1.80 m、南北方向 2.80 m で、楕円形を呈するものと考えられる。

[埋土] 4 層に分層した。壁際に地山流入土層と考えられる黄褐色粘土質シルト層が見られるが、基本的には暗褐色シルトで埋没している。この埋土から大木 6 式の土器がまとまって出土している。

[壁・床の状況] 床面に明瞭な凹凸は見られないが、中央に向かってゆるやかにくぼんでいる。境界が明瞭な東側では底面から緩やかに立ち上がる。検出面から床面までの深さは最大で 44cm である。

[炉] なし。

[付属施設] SK74 と重複して柱穴を 1 個検出した。SK74 の外側に位置するため、本遺構に付属すると判断したが、断面の観察では SK74 との境に柱穴の立ち上がりを確認することはできなかった。底面からの深さは最大で 12cm で、埋土は暗褐色シルトの単層である。

[出土遺物] 縄文土器 4074.6 g、石鏃 2 点、尖頭器 1 点、剥片 43 点、黒曜石製剥片 2 点、打製石斧 1 点、磨石 2 点、石皿 2 点、礫類 1 点が出土し、縄文土器 (9~14)、尖頭器 (263)、黒曜石製剥片 (394、397)、打製石斧 (442)、石皿 (521、522) を掲載した。

[時代・時期] 出土した遺物から、縄文時代前期の大木 6 式に帰属するものと考えられる。

SI13 (第 18 図、写真図版 8)

[位置] 南東区北、V K21 b グリッドに位置する。東側は調査区外に広がっている。

[検出状況] H22 年度の重機による表土除去後、III 層上面で暗褐色土の広がりとして検出した。

[重複] なし。

[規模] 確認した規模は、南西-北東 2.00 m、北西-南東 2.50 m で、平面形は楕円形を呈する。

[埋土] 2 層に分層した。壁際に初期の流入土層である黄褐色粘土質シルト層が見られるが、大部分は土器片を大量に包含する暗褐色シルトで一括埋没しており、人為的な堆積状況と考えられる。

[壁・床の状況] 床面はほぼ平坦である。壁は床面からなだらかに立ち上がる。検出面から床面までの深さは最大で 25cm である。

[炉] なし。

[付属施設] 西側の壁よりに土坑 1 基とその土坑の東壁寄り为本遺構の中央付近にあたる部分で柱穴を 1 個検出した。土坑は直径 80cm の不整形で、床面からの深さは最大 13cm で、炭化物粒・土器片を含む褐色シルト層の単層で埋没している。柱穴は土器片を含む暗褐色シルトの単層で、床面からの深さは最大で 28cm である。

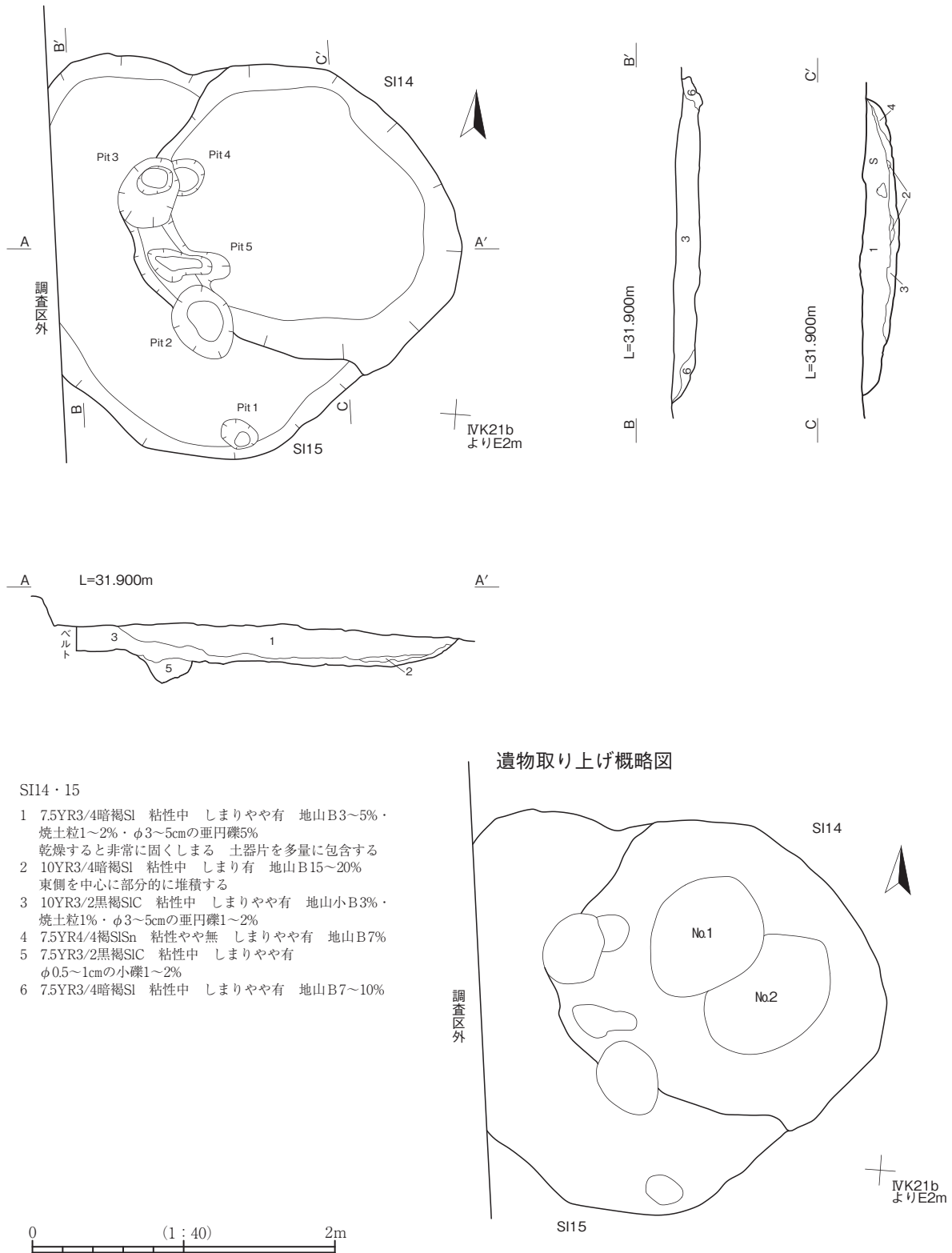
[出土遺物] 暗褐色シルト層を中心に、縄文土器 19376 g、剥片 12 点が出土し、縄文土器 (15~29) を掲載した。

[時代・時期] 出土した遺物から、縄文時代前期の大木 6 式に帰属するものと考えられる。

SI14 (第19図、写真図版9)

[位置] 南東区北、IV K20b グリッド周辺に位置する。

[検出状況] H22年度の調査期間中に重機による表土除去後、Ⅲ層上面で縄文土器を多量に包含する暗褐色土の広がりとして検出した。



SI14・15

- 1 7.5YR3/4暗褐SI 粘性中 しまりやや有 地山B3~5%・
焼土粒1~2%・φ3~5cmの壺円礫5%
乾燥すると非常に固くしまる 土器片を多量に包含する
- 2 10YR3/4暗褐SI 粘性中 しまり有 地山B15~20%
東側を中心に部分的に堆積する
- 3 10YR3/2黒褐SIC 粘性中 しまりやや有 地山小B3%・
焼土粒1%・φ3~5cmの壺円礫1~2%
- 4 7.5YR4/4褐SISn 粘性やや無 しまりやや有 地山B7%
- 5 7.5YR3/2黒褐SIC 粘性中 しまりやや有
φ0.5~1cmの小礫1~2%
- 6 7.5YR3/4暗褐SI 粘性中 しまりやや有 地山B7~10%

第19図 SI14・15

2 検出遺構

[重複] SI15 と重複している。SI15 との境で明瞭な壁を確認することはできなかったが、本遺構のプランと同調的に堆積土がレンズ状に堆積していることから本遺構が新しいと判断した。

[規模] 北西から南東方向で 2.24 m、北東から南西方向で 2.00 m、平面形は楕円形である。

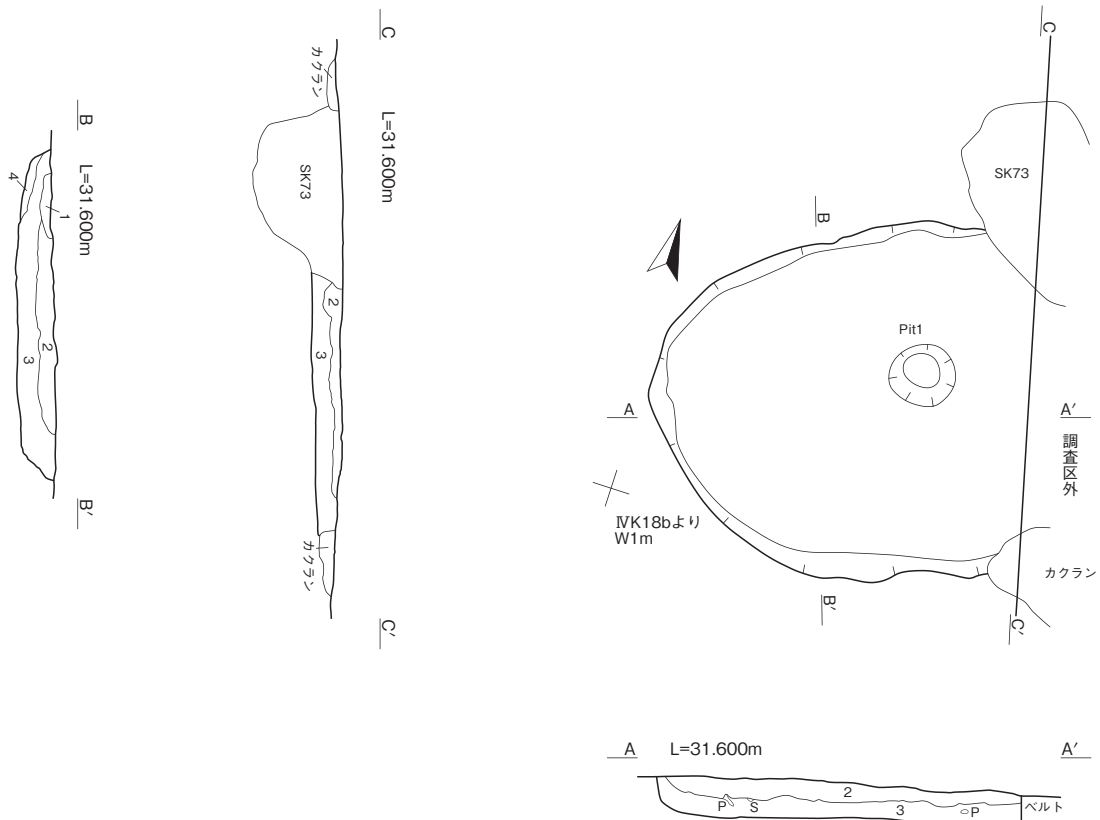
[埋土] 4 層に分層した。SI15 側から黒褐色シルトが薄く堆積している。その上部にブロック状に黄褐色シルト層が散見でき、大部分は縄文土器を多量に包含する暗褐色シルトで埋没している。上部に土器が集中しており、人為的な堆積の可能性が高い。

[壁・床の状況] 床面はほぼ平坦である。壁は床面から緩やかに立ち上がる。検出面から床面までの最大の深さは 29cm である。

[炉] なし。

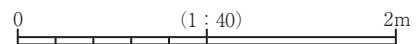
[付属施設] SI15 との境で、柱穴 3 個と周溝を確認した。柱穴及び周溝は本遺構の西壁の外側に広がっており、SI15 に伴う可能性が高い。

[出土遺物] 暗褐色シルト層を中心に、縄文土器 8033.9 g、剥片 16 点、磨石 1 点、SI15 との重複部分から縄文土器 1265.7 g、石鏃 2 点、RF1 点、剥片 14 点、黒曜石製剥片 1 点、打製石斧 1 点、磨石 1 点が出土し、縄文土器 (30~39)、石鏃 (260)、RF (362)、黒曜石製剥片 (395)、打製石斧 (443)、



SI16

- 1 10YR5/6黄褐SI 粘性無 しまりやや有 暗褐色土小B15%
- 2 7.5YR3/4暗褐SI 粘性無 しまりやや有 地山粒10%・炭化物粒1~3%
- 3 7.5YR2/3極暗褐SI 粘性中 しまりやや有~中 2層よりはやわらかく粘る 地山小B3%・炭化物粒1%・φ2~5cmの亜角礫1%
- 4 7.5YR3/2暗褐SI 粘性中 しまりやや有 地山B25%
- Pit1 10YR3/3暗褐SI 粘性無 しまりやや有 土器片包含



第 20 図 SI16

磨石（462、473）を掲載した。

[時代・時期] 出土した遺物から、縄文時代前期の大木6式に帰属するものと考えられる。

SI15（第19図、写真図版9）

[位置] 南東区北、IV K20 a グリッド周辺に位置する。西側は調査区外に広がっている。

[検出状況] H22年度の調査期間中に重機による表土除去後、Ⅲ層上面で、SI14とともに検出した。

[重複] SI14と重複しており、前述の理由から本遺構が古いと判断した。

[規模] SI14に切られており、規模は不明である。

[埋土] SI14の床面にまで黒褐色シルト層が広がり、大半はこの黒褐色シルト層で埋没している。壁際には地山ブロックを含む暗褐色シルト層が三角形に堆積しているのが確認できる。

[壁・床の状況] SI14に切られており、一部しか残存していないが、確認できた部分で平坦である。

壁は床面から緩やかに立ち上がる。確認できる検出面から床面までの最大の深さは21cmである。

[炉] なし。

[付属施設] 4個の柱穴を検出した。すべて暗褐色シルト層を主体とし、床面からの最大の深さはPit1が36cm、Pit2が23cm、Pit3が29cm、Pit4が13cmである。

[出土遺物] 縄文土器1.4g、剥片1点、礫類1点が出土した。前述のとおり、SI14との境界が不明瞭であるため、本来本遺構に帰属すべき遺物がSI14として報告している可能性を否定しきれない。

[時代・時期] 出土遺物が少なく、詳細な時期を特定しきれないが、SI14との関係からほぼ同時期の遺構と考えられる。

SI16（第20図、写真図版10）

[位置] 南東区北、IV K17 a b グリッド付近に位置する。東側は調査区外に広がっている。

[検出状況] 表土層であるI層直下のⅢ層上面で、暗褐色土の広がりとして検出した。

[重複] SK73に切られており、本遺構が古い。

[規模] 確認した規模は、東西2.30m、南北1.90mで、平面形は歪な楕円形を呈する可能性が高い。

[埋土] 4層に分層したが、大きく、暗褐色シルトを主体とする上部層と極暗褐色シルト層を主体とする下部層に分かれる。北壁際には地山ブロックを含む暗褐色シルト層が三角計状に堆積している。

[壁・床の状況] ほぼ平坦である。確認できる壁は床面から直線的に外傾しながら立ち上がる。検出面から床面までの最大の深さは23cmである。

[炉] なし。

[付属施設] 中央付近で柱穴を1個検出した。土器片を含む暗褐色シルト層の単層で、床面からの深さは最大で22cmである。

[出土遺物] 縄文土器2598.9g、スクレイパー類2点、RF3点、剥片35点、磨石2点、礫類1点が出土し、縄文土器（40～44）、スクレイパー類（291）、RF（266、381）、磨石（506）を掲載した。

[時代・時期] 出土遺物から縄文時代前期後葉の大木6式期に帰属する。

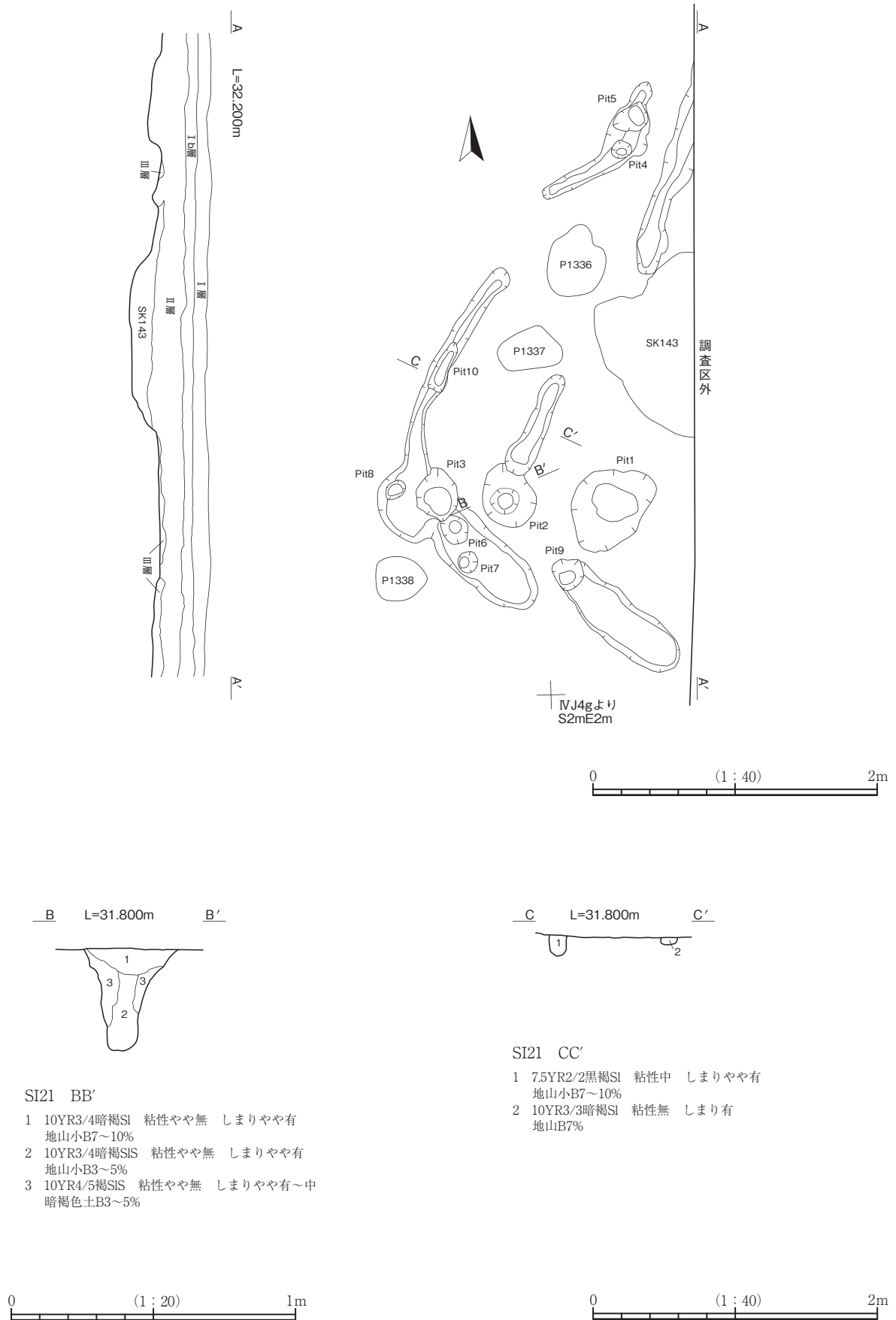
SI21（第21図、写真図版11）

[位置] 西区北、IV J3 g グリッド付近に位置する。東側は調査区外に広がっている。

[検出状況] II層掘削後のⅢ層上面で、周溝と柱穴を確認した。

[重複] SK143、P336、P337とプランが重複しているが、接する部分が極わずかであるか、直接の切

2 検出遺構



第21図 SI21

り合いがないため、新旧関係は不明である。しかし、P336 と P337 は中世の遺構である可能性が高いため、本遺構が古いと判断した。

[規模] 一隅のみの検出であるため、詳細な規模は不明である。

[埋土] 黒褐色シルトを主体としていると考えられるが、柱穴と周溝以外は確認できなかった。

[壁・床の状況] 本遺構は周溝と柱穴のみである。検出面が床面の可能性があるが、掘り込みが確認できなかったため、断定はできない。

[炉] なし。

[付属施設] 二重の周溝と柱穴 10 個を検出した。周溝の埋土は外側が地山ブロックを含む黒褐色シルトを主体とし、内側が地山ブロックを含む暗褐色シルトを主体とする。柱穴の埋土は Pit1・3・5～10 が黒褐色シルト、Pit2・4 が暗褐色シルトを主体とする。検出面からの深さは最大で、Pit1 から 14cm、47cm、20cm、11cm、37cm、42cm、33cm、10cm、28cm、15cm である。

[出土遺物] 柱穴及び周溝から縄文土器 321.8 g、剥片 3 点、石皿 2 点が出土し、縄文土器 (45)、石皿 (523、527) を掲載した。

[時代・時期] 周溝や柱穴から出土した土器片を勘案すると、縄文時代前期に帰属すると考えられるが、詳細な時期は不明である。

(2) 掘立柱建物跡 (SB)

SB01 (第 22 図、写真図版 12)

[位置] H22 年度調査区の東側、Ⅲ J101～110 グリッド付近に位置する。本遺構のプランは北側に広がっている。

[検出状況] I 層直下のⅢ層上面で、にぶい黄褐色のプランとして検出した。

[柱穴] 4 個の柱穴 (P080・079・085・073) を使用した。柱痕跡はすべてで検出できなかった。

[重複] なし。

[建物方位] 桁行きの軸方位は N73° W である。

[平面形式] 掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き 960cm (31.7 尺 : 1 尺 ≒ 30.3cm) である。

[柱間寸法] 桁行きの柱間寸法はすべて 240cm (7.9 尺) である。240cm を 6 で割った 40cm を用いて 1 尺' = 40cm と定めると、240cm = 6 尺' で、桁行きの 960cm = 24 尺' となり切りのいい数値となる。よって、この建物の設計には、曲尺による標準的な 1 尺 (30.3cm) を用いず、1 尺' = 40cm を基準寸法とした可能性が考えられる。

[出土遺物] なし。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

SB02 (第 22 図、写真図版 12)

[位置] H22 年度調査区の東側、Ⅲ J12・13 1 m グリッド付近に位置する。

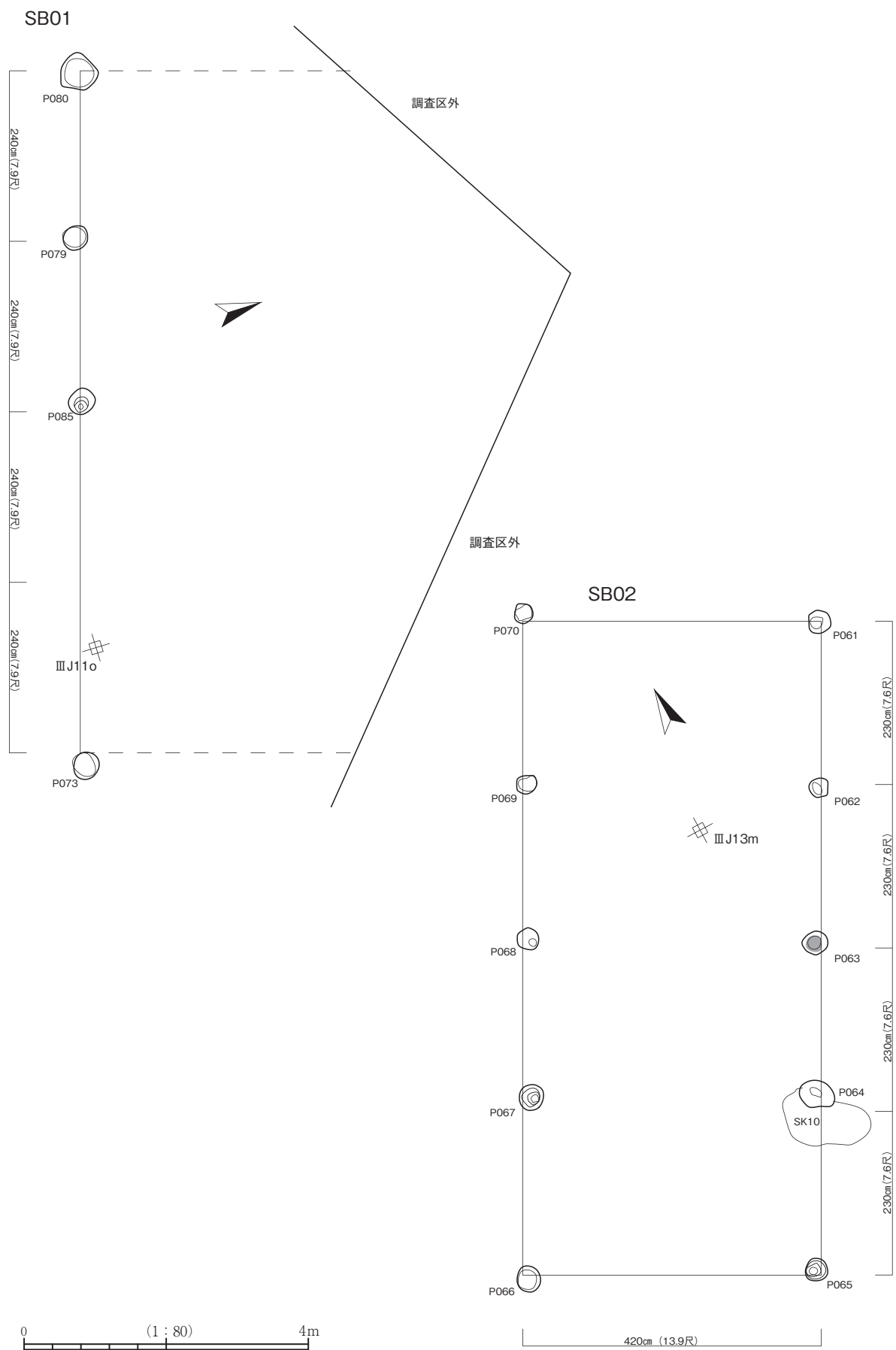
[検出状況] I 層直下のⅢ層上面で、暗褐～にぶい黄褐色のプランとして検出した。

[柱穴] 10 個の柱穴 (P070・069・068・067・066・065・064・063・062・061) を使用した。P063 は検出時に柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

[重複] 本遺構を構成する P064 が SK10 を切っており、本遺構が新しい。また、SK06・SK09 とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位は N28° E である。

2 検出遺構



第22図 SB01・02

[平面形式] 掘立柱建物である。規模は、桁行き 920cm (30.4 尺)、梁間 420cm (13.9 尺) で、面積は 38.64㎡ (11.7 坪：1 坪≒3.3㎡) である。桁行きと梁間の長さの比は、920：420=46：21 である。

[柱間寸法] 桁行きの柱間寸法はすべて 230cm (7.6 尺) である。230cm を 6 で割った 38.3cm を用いて 1 尺' = 38.3cm と定めると、230cm = 6 尺' で、桁行きの 920cm = 24 尺'、梁間の 420cm = 11 尺' となり、桁行き・梁間ともに切りのいい数値となる。よって、この建物の設計には、曲尺による標準的な 1 尺 (30.3 cm) を用いず、1 尺' = 38.3cm を基準寸法とした可能性が考えられる。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴 (P067 と P069) から縄文土器 12.5 g、P061 から剥片 1 点が出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

SB03 (第 23 図、写真図版 12)

[位置] H22 年度調査区の中央、Ⅲ J11～13 g h グリッド付近に位置する。本遺構のプランは北側に広がっている。

[検出状況] I 層直下のⅢ層上面で検出した。

[柱穴] 7 個の柱穴 (P654・219・226・671・173・169・164) を使用した。柱痕跡はいずれの柱穴でも検出できなかった。

[重複] SB04～SB08、SD11・12・17・19、SX26 道路状遺構とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位は N39° E である。

[平面形式] 掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き 750cm (24.8 尺)、梁間 530cm (17.5 尺) である。

[柱間寸法] 桁行きの柱間寸法はすべて 250cm (8.3 尺) である。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴 (P219 と P654) から縄文土器 5.4 g が出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

SB04 (第 23 図、写真図版 13)

[位置] H22 年度調査区の中央、Ⅲ J11・12 f～h グリッド付近に位置する。本遺構のプランは北側に広がっている。

[検出状況] I 層直下のⅢ層上面で検出した。

[柱穴] 4 個の柱穴 (P310・627・217・177) を使用した。P310 は検出時に柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

[重複] SB03・05・06、SD12・17・19、SX26 道路状遺構とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位は N65° W である。

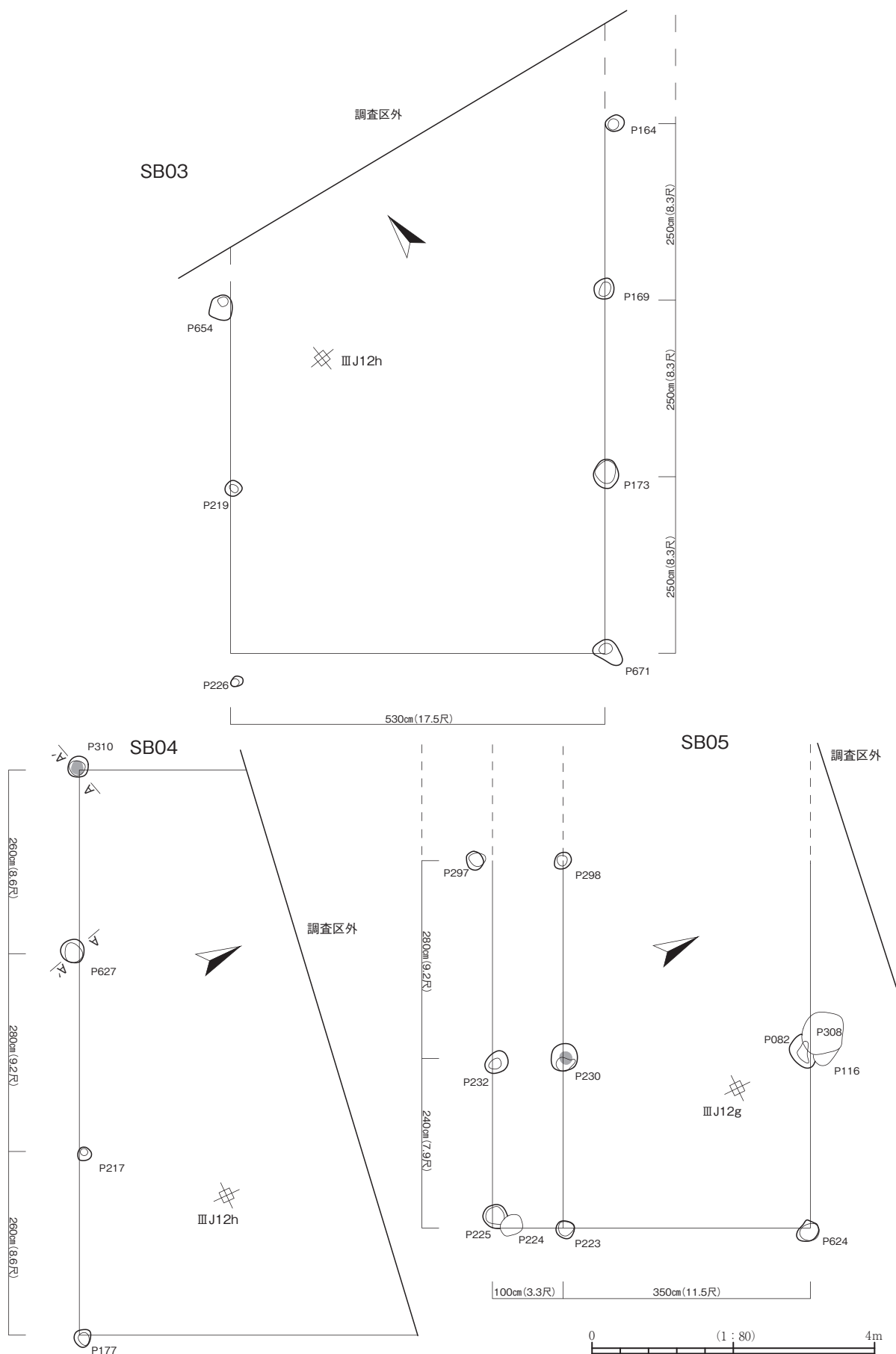
[平面形式] 掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き 800cm (26.4 尺) である。

[柱間寸法] 桁行きの柱間寸法は 260cm (8.6 尺) と 280cm (9.2 尺) の 2 種類である。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴 (P627) から縄文土器 46.9 g が出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

2 検出遺構



第 23 図 SB03~05

SB05 (第 23 図、写真図版 13)

[位置] H22 年度調査区の中央、Ⅲ J11・12 e～g グリッド付近に位置する。本遺構のプランは西側に広がっている。

[検出状況] I 層直下のⅢ層上面で検出した。

[柱穴] 8 個の柱穴 (P082・624・223・230・298・225・232・297) を使用した。P230 は検出時に柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

[重複] P082 が P116、P308 に、P624 が SD19 に、P225 が P224 に切られており、本遺構を構成する柱穴が古い。また、SB03～SB08 とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位は N64° W である。

[平面形式] 掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き 520cm (17.2 尺)、梁間 450cm (14.9) である。南面に庇を持つ構造である。

[柱間寸法] 桁行きの柱間寸法は 240cm (7.9 尺) と 280cm (9.2 尺) の 2 種類である。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴 (P223・P225・P624) から縄文土器 57.2 g、P230 から RF1 点が出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

SB06 (第 24 図、写真図版 13)

[位置] H22 年度調査区の中央、Ⅲ J11～13 e～g グリッド付近に位置する。

[検出状況] I 層直下のⅢ層上面で検出した。

[柱穴] 10 個の柱穴 (P317・240・235・105・184・218・626・309・313・315) を使用した。P235 は検出時に柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

[重複] P105 が SX26 道路状遺構を切る。P184 が SD11 に、P626 が SD19 に切られる。よって、本遺構は SX26 道路状遺構より新しく、SD11、SD19 より古い。また、SB03～SB09 とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位は N71° W である。

[平面形式] 掘立柱建物である。規模は、桁行き 990cm (32.7 尺)、梁間 440cm (14.5 尺) で、面積は 43.56m² (13.2 坪) である。桁行きと梁間の長さの比は、990 : 440 = 9 : 4 である。

[柱間寸法] 桁行きの柱間寸法は 220cm (7.3 尺)、250cm (8.3 尺)、270cm (8.9 尺) の 3 種類で、一定ではない。梁間の柱間寸法は 220cm (7.3 尺) である。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴 (P218・235・240・313・317) から縄文土器 353.6 g、P218 から剥片 2 点が出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

SB07 (第 24 図、写真図版 14)

[位置] H22 年度調査区の中央、Ⅲ J11～13 e～g グリッド付近に位置する。

[検出状況] I 層直下のⅢ層上面で検出した。

[柱穴] 9 個の柱穴 (P295・243・196・901 [SK26]・176・227・229・683・316) を使用した。P227・P243 は検出時に柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

[重複] SB03・05・06・08・09、SD11・19、SX26 道路状遺構とプランが重複するが、本遺構を構成

2 検出遺構

する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位は N68° W である。

[平面形式] 掘立柱建物である。規模は、桁行き 1000cm (33 尺)、梁間 460cm (15.2 尺) で、面積は 46㎡ (13.9 坪) である。桁行きと梁間の長さの比は、1000 : 460 = 50 : 23 である。

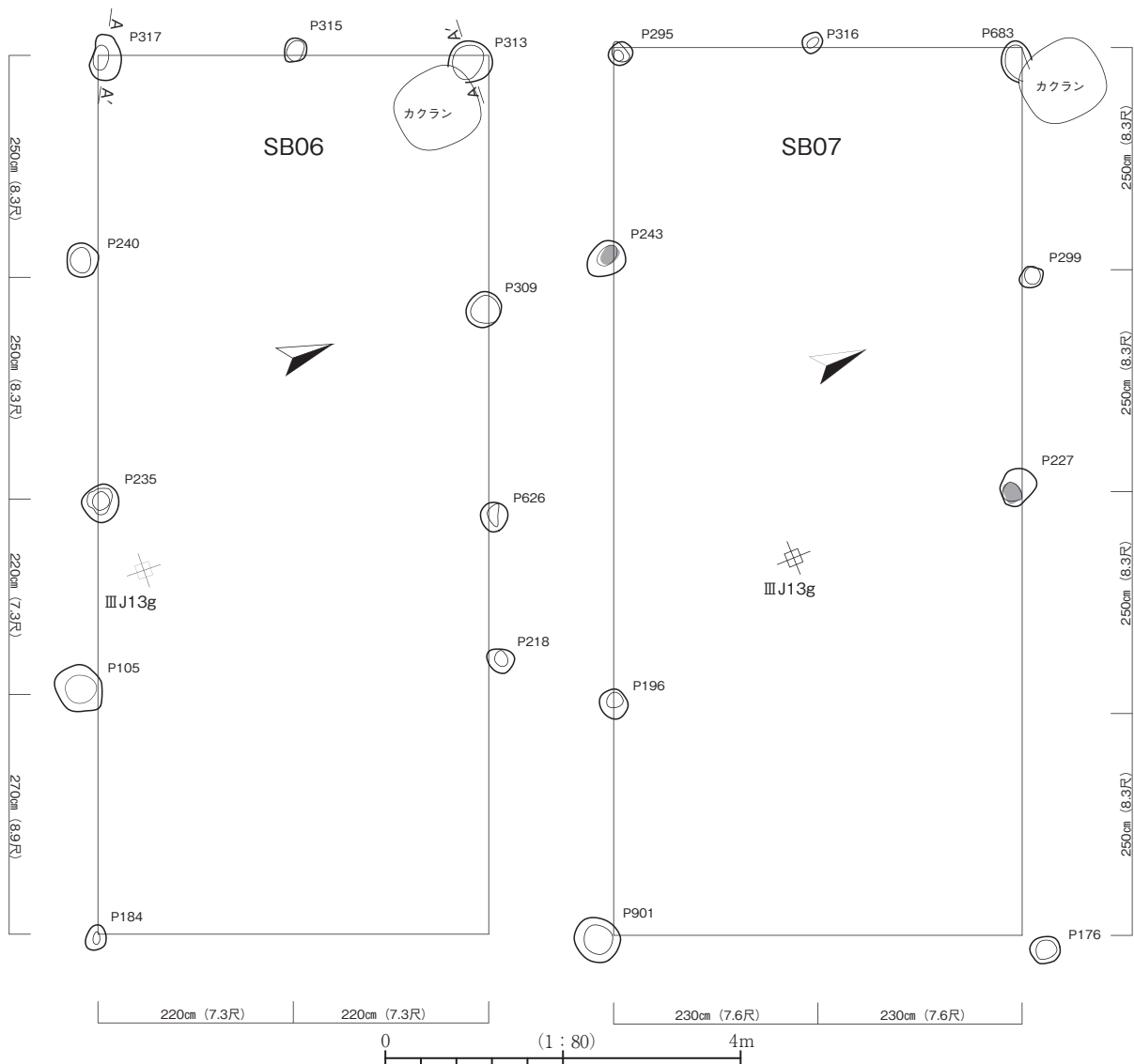
[柱間寸法] 桁行きの柱間寸法はすべて 250cm (8.3 尺) である。250cm を 6 で割った 41.7cm を用いて 1 尺' = 41.7cm と定めると、250cm = 6 尺' で、桁行きの 1000cm = 24 尺'、梁間の 460cm = 11 尺' となり、桁行き・梁間ともに切りがいい数値となる。よって、この建物の設計には、曲尺による標準的な 1 尺 (30.3cm) を用いず、1 尺' = 41.7cm を基準寸法とした可能性が考えられる。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴 (P196・P227・P243・P295) から縄文土器 90.7g が出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

SB08 (第 25 図、写真図版 14)

[位置] H22 年度調査区の中央、Ⅲ J11~13 e~h グリッド付近に位置する。



第 24 図 SB06・07

[検出状況] I層直下のⅢ層上面で検出した。

[柱穴] 9個の柱穴 (P318・633・250・501・179・221・628・311・684) を使用した。P221・628は検出時に、P684は底面で柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

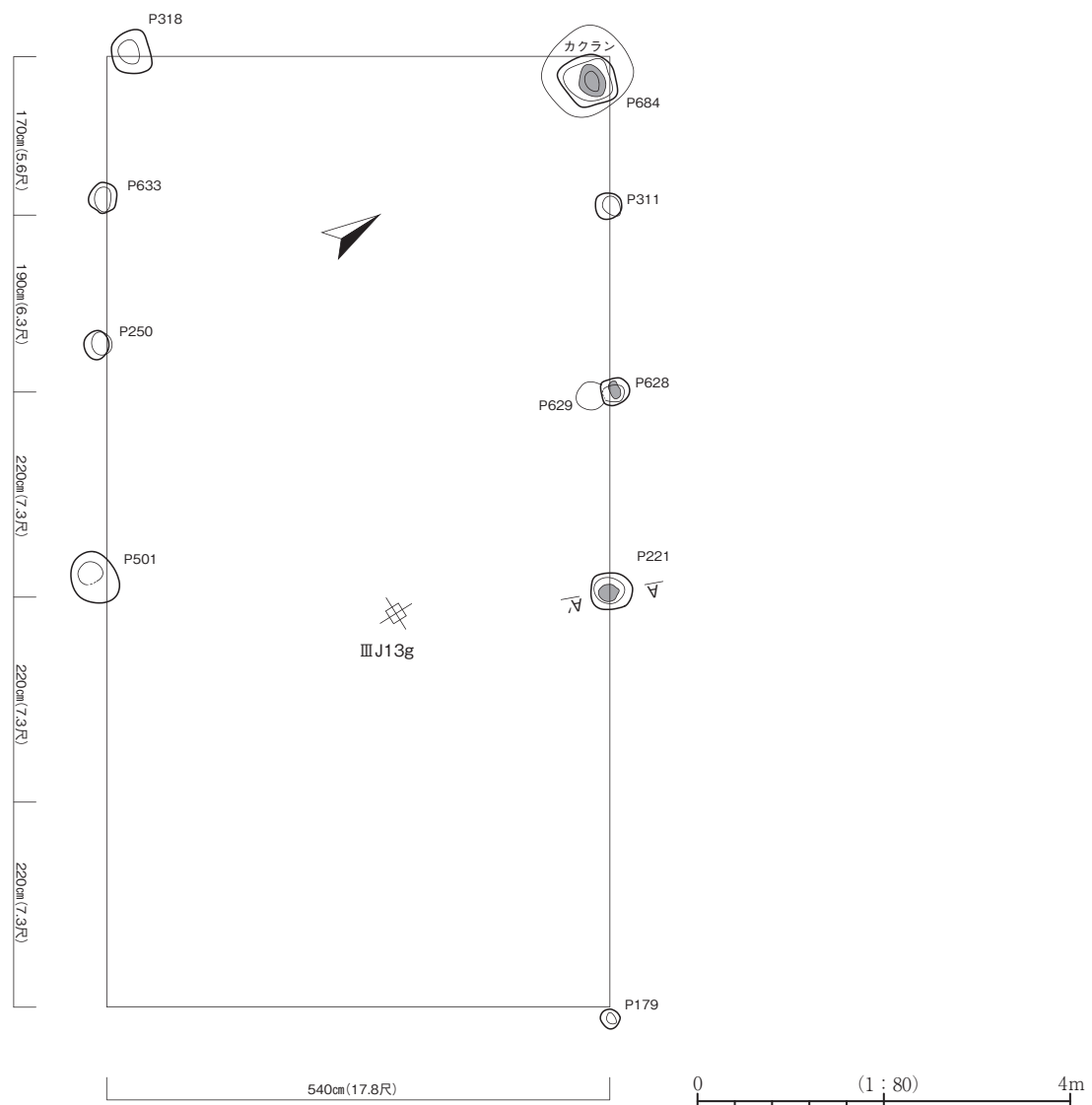
[重複] P633・628がSD19に切られており、本遺構を構成する柱穴が古い。P501はP237と重複しているが、新旧関係を把握できなかった。SB03・05～07・09、SD11、SX26道路状遺構とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位はN58°Wである。

[平面形式] 掘立柱建物である。規模は、桁行き1020cm (33.7尺)、梁間540cm (17.8尺)で、面積は55.08㎡ (16.7坪)である。桁行きと梁間の長さの比は、1020:540=17:9である。

[柱間寸法] 桁行きの柱間寸法は170cm (5.6尺)、190cm (6.3尺)、220cm (7.3尺)の3種類で、一定ではない。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴 (P221・P250・P318・P501・P684) から縄文土器174.7g、P221からRF1点、P250からRF1点、剥片1点、P684からRF2点、剥片1点が出土しているが、異時期の産物である。



第25図 SB08

2 検出遺構

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

SB09 (第 26 図、写真図版 14)

[位置] H22 年度調査区の中央から北西区にかけてのⅢ J12～16 e～g グリッド付近に位置する。南西側は調査区外に広がっている。

[検出状況] I 層直下のⅢ層上面で検出した。

[柱穴] 8 個の柱穴 (P234・244・256・259・1111・1614・190・159) を使用した。P159・234・244 は検出時に柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

[重複] P256 が P257 を切る。P1614 が SD08 に切られる。よって、本遺構は SD08 より古く、P257 より新しい。また、SB06～08・10・11・51、SX26 道路状遺構とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位は N23° E である。

[平面形式] 掘立柱建物である。規模は、桁行き 1450cm (47.9 尺)、梁間 580cm (19.1 尺) で、面積は 84.1m² (25.5 坪) である。桁行きと梁間の長さの比は、1450 : 580 = 5 : 2 である。

[柱間寸法] 桁行きの柱間寸法は 200cm (6.6 尺)、220cm (7.3 尺)、290cm (9.6 尺)、370cm (12.2 尺) の 4 種類で、一定ではない。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴 (P244・256・1111) から縄文土器 89.3 g、P159 から黒曜石製剥片 1 点、P190・244 から剥片各 1 点、P1614 から磨石 3 点が出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

SB10 (第 27 図、写真図版 15)

[位置] H22 年度調査区の中央から北西区にかけてのⅢ J14～17 f g グリッド付近に位置する。西側は調査区外に広がっている。

[検出状況] I 層直下のⅢ層上面で検出した。

[柱穴] 6 個の柱穴 (P203・205・621・1617・1116・1117) を使用した。柱痕跡はいずれの柱穴でも検出できなかった。

[重複] P621 が SI02 を切る。P1617 が SD07 に切られる。よって、本遺構は SD07 より古く、SI02 より新しい。また、SB09・11・51、SK75、SD08・58、SX26 道路状遺構とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位は N30° W である。

[平面形式] 掘立柱建物である。規模は、桁行き 1060cm (35.0 尺)、梁間 700cm (23.1 尺) で、面積は 74.2m² (22.5 坪) である。桁行きと梁間の長さの比は、1060 : 700 = 53 : 35 である。

[柱間寸法] 桁行きの柱間寸法は 240cm (7.9 尺)、270cm (8.9 尺)、280cm (9.2 尺) の 3 種類で、一定ではない。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴 (P621・1116・1117・1617) から縄文土器 70.2 g、P1116 から石鏃 1 点、錐形石器 1 点、剥片 5 点、P1117 から剥片 3 点が出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

SB11 (第 28 図、写真図版 15)

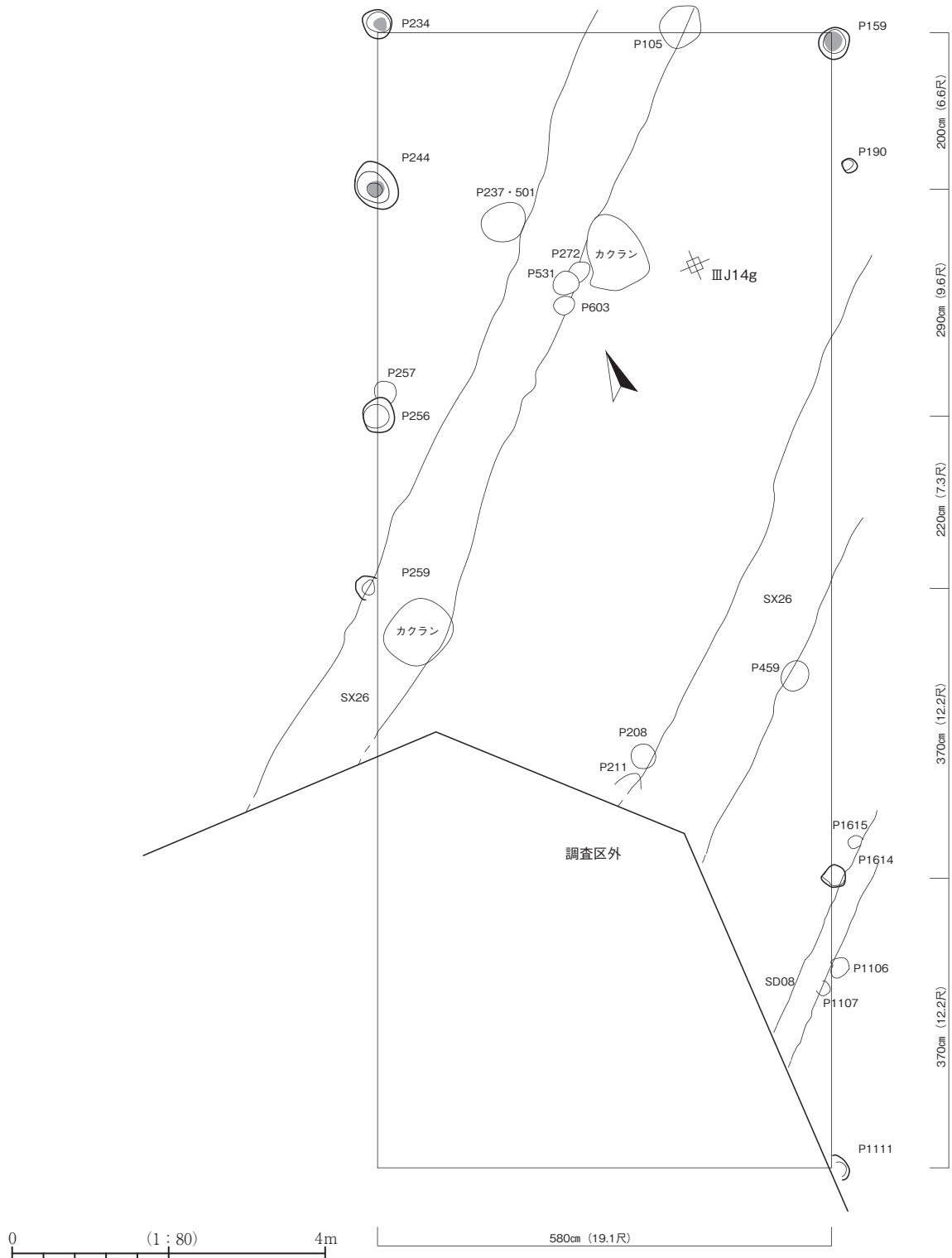
[位置] H22 年度調査区の中央部～西側、北西区にかけてのⅢ J13～15 c～f グリッド付近に位置する。

南西側は調査区外に広がっている。

[検出状況] I層直下のIII層上面で検出した。

[柱穴] 6個の柱穴 (P349・652・287・163・198・1101) を使用した。P163・349・1101 は検出時に柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

[重複] P652 が P327 に切られる。よって、本遺構は P327 より古い。また、SB09・10・12~17、



第 26 図 SB09

2 検出遺構

SK28～30、SD20、SX26 道路状遺構とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位は N81°W である。

[平面形式] 掘立柱建物である。規模は、桁行き 1350cm (44.6 尺)、梁間 700cm (23.1 尺) で、面積は 94.5㎡ (28.6 坪) である。桁行きと梁間の長さの比は、1350 : 700 = 27 : 14 である。

[柱間寸法] 桁行きの柱間寸法はすべて 270cm (8.9 尺) である。

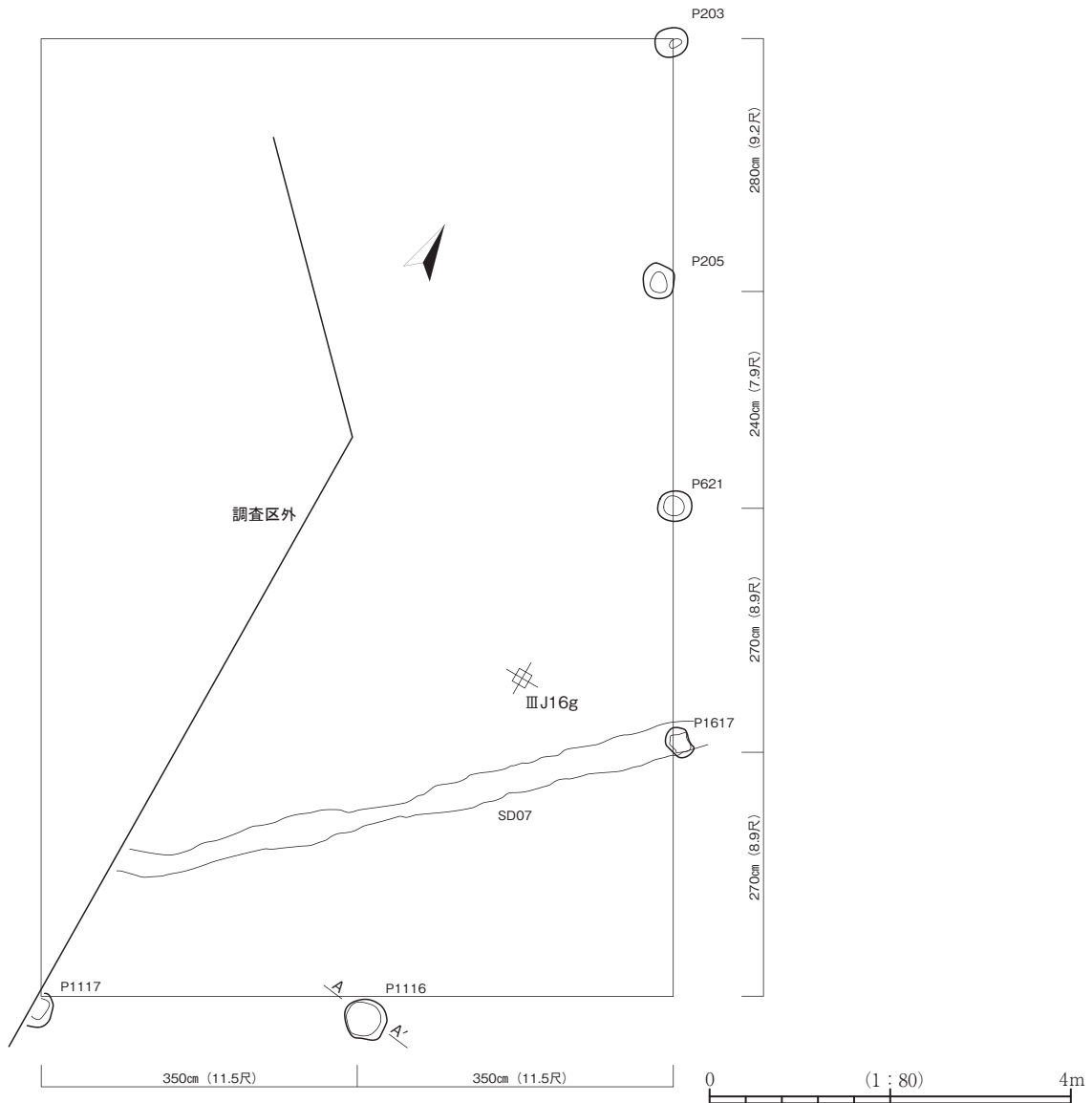
[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴 (P163・198・287・349・1101) から縄文土器 139.35 g、P198 から剥片 1 点が出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

SB12 (第 29 図、写真図版 15)

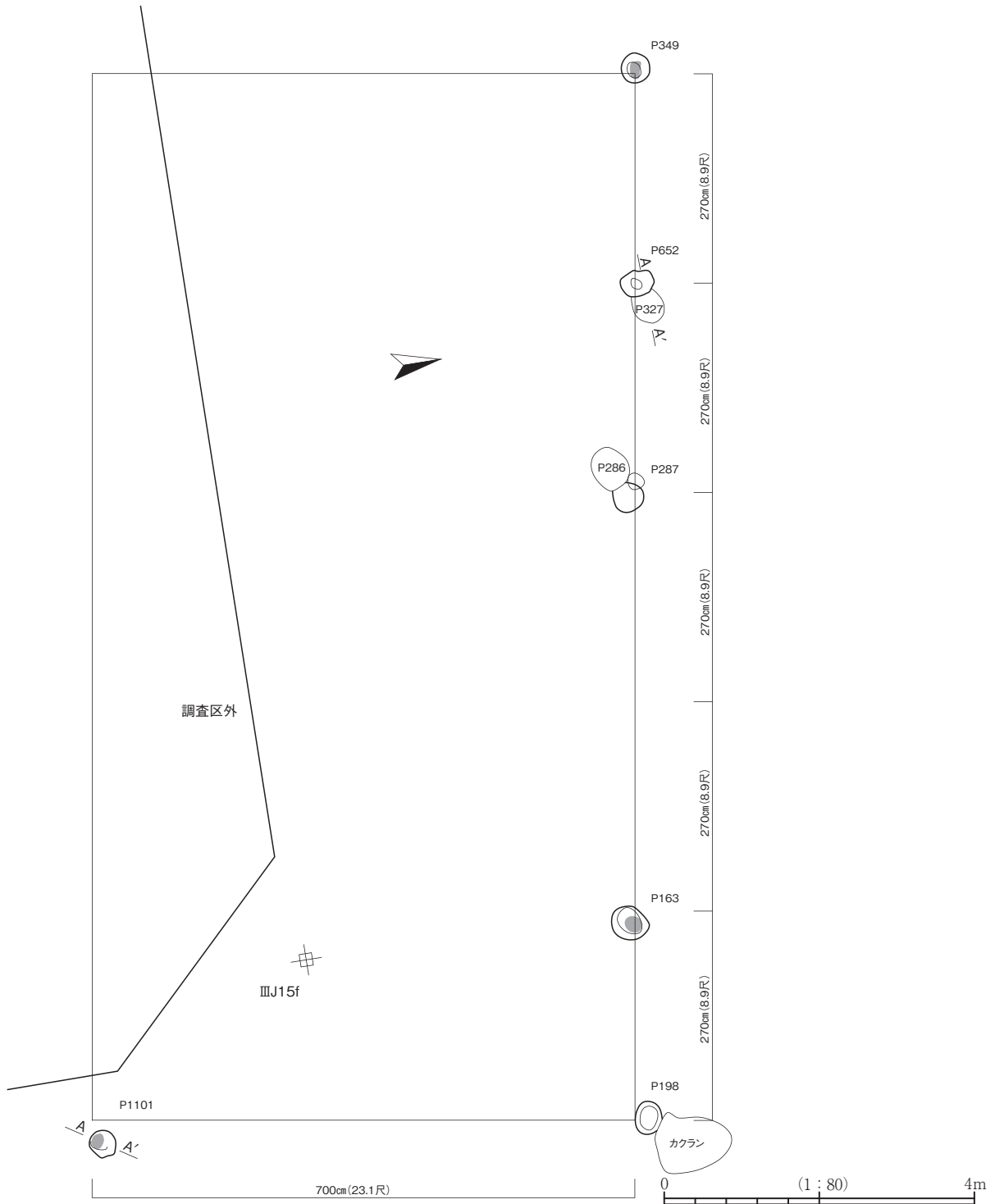
[位置] H22 年度調査区の西側、Ⅲ J14 b～d グリッド付近に位置する。南側は調査区外に広がる。

[検出状況] I 層直下のⅢ層上面で検出した。



第 27 図 SB10

- [柱穴] 4個の柱穴（P354・662・634・667）を使用した。柱痕跡はいずれでも検出できなかった。
- [重複] SB11・13～17、SK29・30、SD20 とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。
- [建物方位] 桁行きの軸方位は N89° W である。
- [平面形式] 掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き 920cm（30.4 尺）である。
- [柱間寸法] 桁行きの柱間寸法はすべて 230cm（7.6 尺）である。230cm を 6 で割った 38.3cm を用いて 1 尺



第 28 図 SB11

2 検出遺構

=38.3cmと定めると、230cm=6尺'で、桁行きの920cm=24尺'となり切りのいい数値となる。よって、この建物の設計には、曲尺による標準的な1尺(30.3cm)を用いず、1尺'=38.3cmを基準寸法とした可能性が考えられる。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴(P634・667)から縄文土器40.3g、P634から磨石3点、P667から剥片3点が出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

SB13 (第29図、写真図版16)

[位置] H22年度調査区の西側、ⅢJ13・14a~dグリッド付近に位置する。

[検出状況] I層直下のⅢ層上面で検出した。

[柱穴] 10個の柱穴(P694・673・657・660・226・334・342・385・400・406)を使用した。P400・406は検出時に柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

[重複] P385がP384・679を、P673がP672・674を切る。P657がSB14を構成するP351に、P673がP378に切られる。よって、本遺構はSB14、P378より古く、P384・672・674・679より新しい。また、SB11・12・15~18、SK29・30とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位はN86°Wである。

[平面形式] 掘立柱建物である。規模は、桁行き1360cm(44.9尺)、梁間440cm(14.5尺)で、面積は59.84㎡(18.1坪)である。桁行きと梁間の長さの比は、1360:440=34:11である。

[柱間寸法] 桁行きの柱間寸法は270cm(8.9尺)、300cm(9.9尺)、360cm(11.9尺)、430cm(14.2尺)の4種類で、一定ではない。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴(P266・334・342・385・400・406・657・660)から縄文土器445.1g、P334から石匙1点、P342から磨石、敲石各1点、P385から磨石1点が出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

SB14 (第30図、写真図版16)

[位置] H22年度調査区の西側、ⅢJ13・14a~dグリッド付近に位置する。

[検出状況] I層直下のⅢ層上面で検出した。

[柱穴] 9個の柱穴(P692・373・351・659・288・655・345・336・402)を使用した。P336・345・351・402は検出時に柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

[重複] P351がSB13を構成するP657を切る。よって、本遺構はSB13より新しい。また、SB11・12・15~17、SK29・30とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位はN86°Wである。

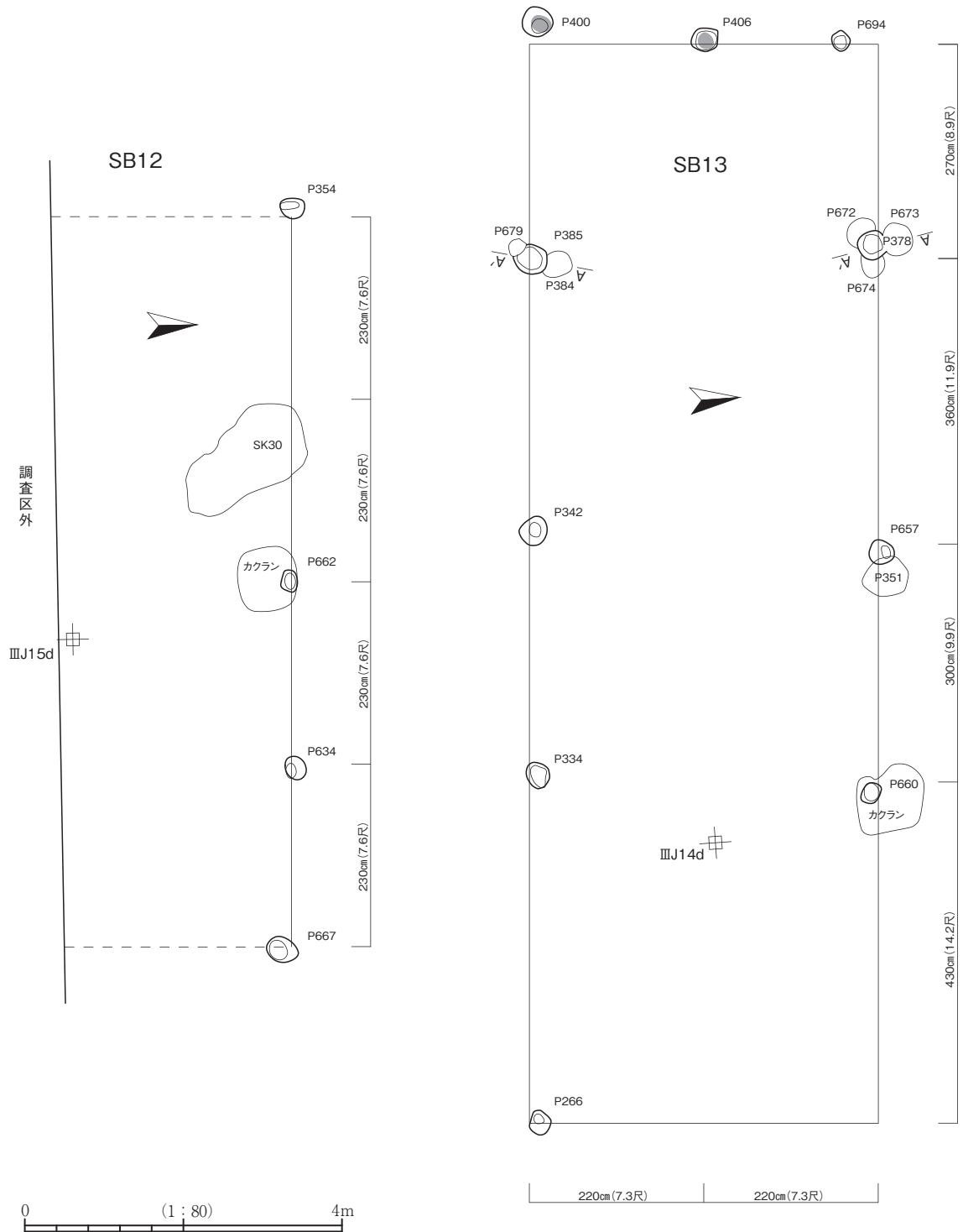
[平面形式] 掘立柱建物である。規模は、桁行き1240cm(40.9尺)、梁間360cm(11.9尺)で、面積は44.64㎡(13.5坪)である。桁行きと梁間の長さの比は、1240:360=31:9である。

[柱間寸法] 桁行きの柱間寸法はすべて310cm(10.2尺)である。310cmを6で割った51.7cmを用いて1尺'=51.7cmと定めると、310cm=6尺'で、桁行きの1240cm=24尺'梁間の360cm=7尺'となり、桁行き・梁間ともに切りのいい数値となる。よって、この建物の設計には、曲尺による標準的な1尺

(30.3cm) を用いず、1 尺' = 51.7cm を基準寸法とした可能性が考えられる。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴 (P288・351・373・402・655・659・692) から縄文土器 518.8g、P288 から石鏃 1 点、P402 から原石、打製石斧各 1 点、P655 から剥片 2 点、P659 から剥片 1 点が出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。



第 29 図 SB12・13

2 検出遺構

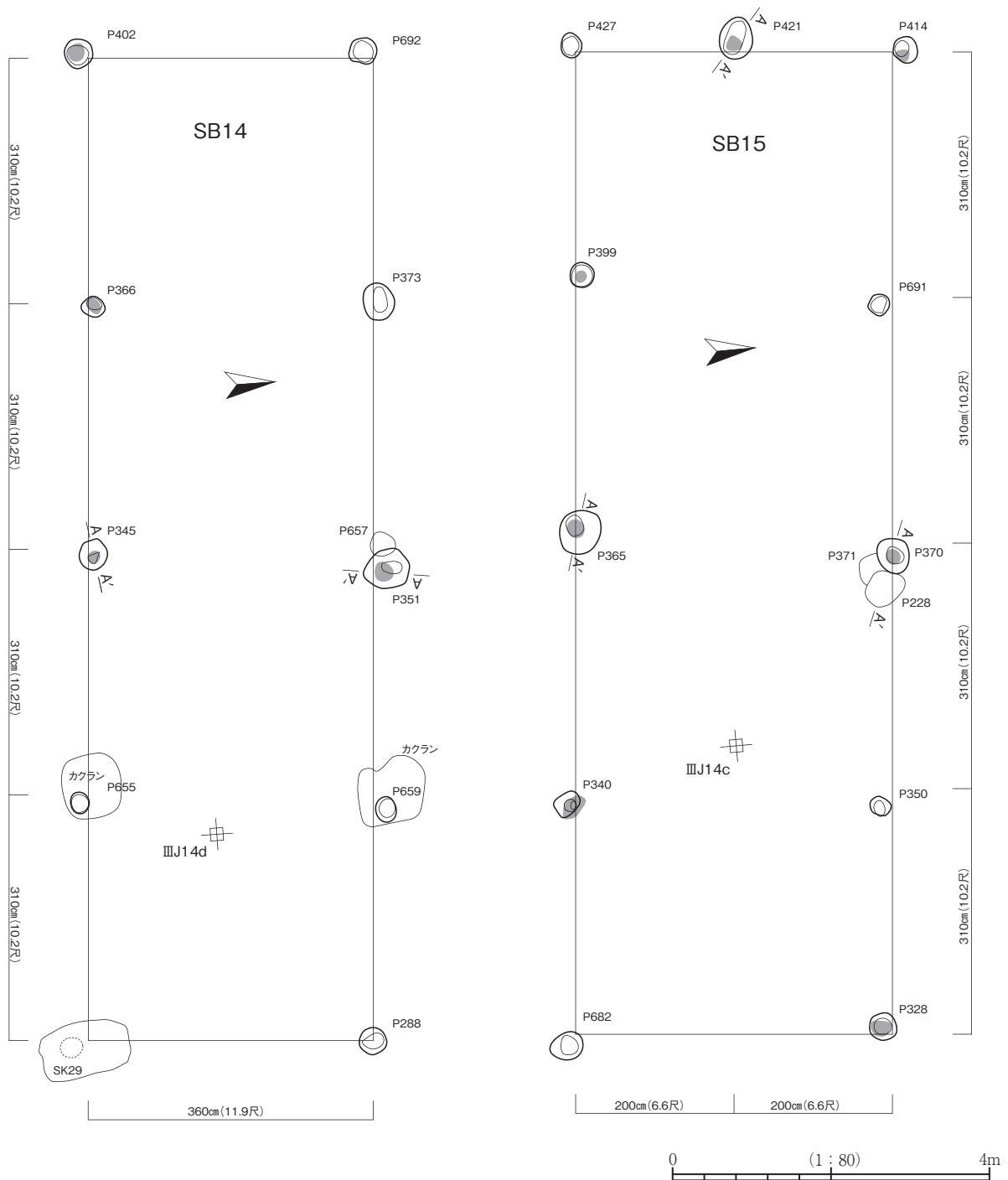
SB15 (第30図、写真図版16)

[位置] H22年度調査区の西側、ⅢI13・14y～ⅢJ13・14a～cグリッド付近に位置する。

[検出状況] I層直下のⅢ層上面で検出した。

[柱穴] 11個の柱穴(P427・399・365・340・682・328・350・370・691・414・421)を使用した。本遺構を構成する半数以上の柱穴(P328・340・365・370・399・414・421)では検出時に柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

[重複] P370がP228・371を切る。よって、本遺構はP228・371より新しい。また、SB11～14・16～18、SK30とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係



第30図 SB14・15

は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位は N85°W である。

[平面形式] 掘立柱建物である。規模は、桁行き 1240cm (40.9 尺)、梁間 400cm (13.2 尺) で、面積は 49.6㎡ (15.0 坪) である。桁行きと梁間の長さの比は、1240 : 400 = 31 : 10 である。

[柱間寸法] 桁行きの柱間寸法はすべて 310cm (10.2 尺) である。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴 (P328・340・350・365・399・414・421・427) から縄文土器 1132.0 g、P328 から磨石 1 点、P340 と P350 から剥片各 1 点、P365 から石匙 1 点、磨石 2 点、P370 から磨製石斧 2 点、磨石 1 点、P414 から打製石斧、磨石、石棒類各 1 点が出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

SB16 (第 31 図、写真図版 17)

[位置] H22 年度調査区の西側、Ⅲ J13・14 a~d グリッド付近に位置する。南側は調査区外に広がっている。

[検出状況] I 層直下のⅢ層上面で検出した。

[柱穴] 5 個の柱穴 (P418・368・586・329・270) を使用した。P368・418 は検出時に柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

[重複] P368 が P367 を切る。よって、本遺構は P367 より新しい。また、SB11~15・17・18、SK30、SD20・26 とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位は N75°E である。

[平面形式] 掘立柱建物である。規模は、桁行き 1060cm (35.0 尺)、梁間 470cm (15.5 尺) で、面積は 49.82㎡ (15.1 坪) である。桁行きと梁間の長さの比は、1060 : 470 = 106 : 47 である。

[柱間寸法] 桁行きの柱間寸法は 250cm (8.3 尺) と 270cm (8.9 尺) の 2 種類である。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴 (P418) から縄文土器 20.8 g、RF1 点、剥片 2 点が出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

SB17 (第 31 図、写真図版 17)

[位置] H22 年度調査区の西側、Ⅲ J13・14 a~d グリッド付近に位置する。南側は調査区外に広がっている。

[検出状況] I 層直下のⅢ層上面で検出した。

[柱穴] 5 個の柱穴 (P355・341・676・278・282) を使用した。P355 は検出時に柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

[重複] SB11~16、SK30、SD20 とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位は N84°E である。

[平面形式] 掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き 740cm (24.4 尺) である。

[柱間寸法] 桁行きの柱間寸法は 170cm (5.6 尺)、180cm (5.9 尺)、220cm (7.3 尺) の 3 種類で、一定ではない。

2 検出遺構

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴 (P341・355) から縄文土器 16.2 g、P355 から磨石 1 点が出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

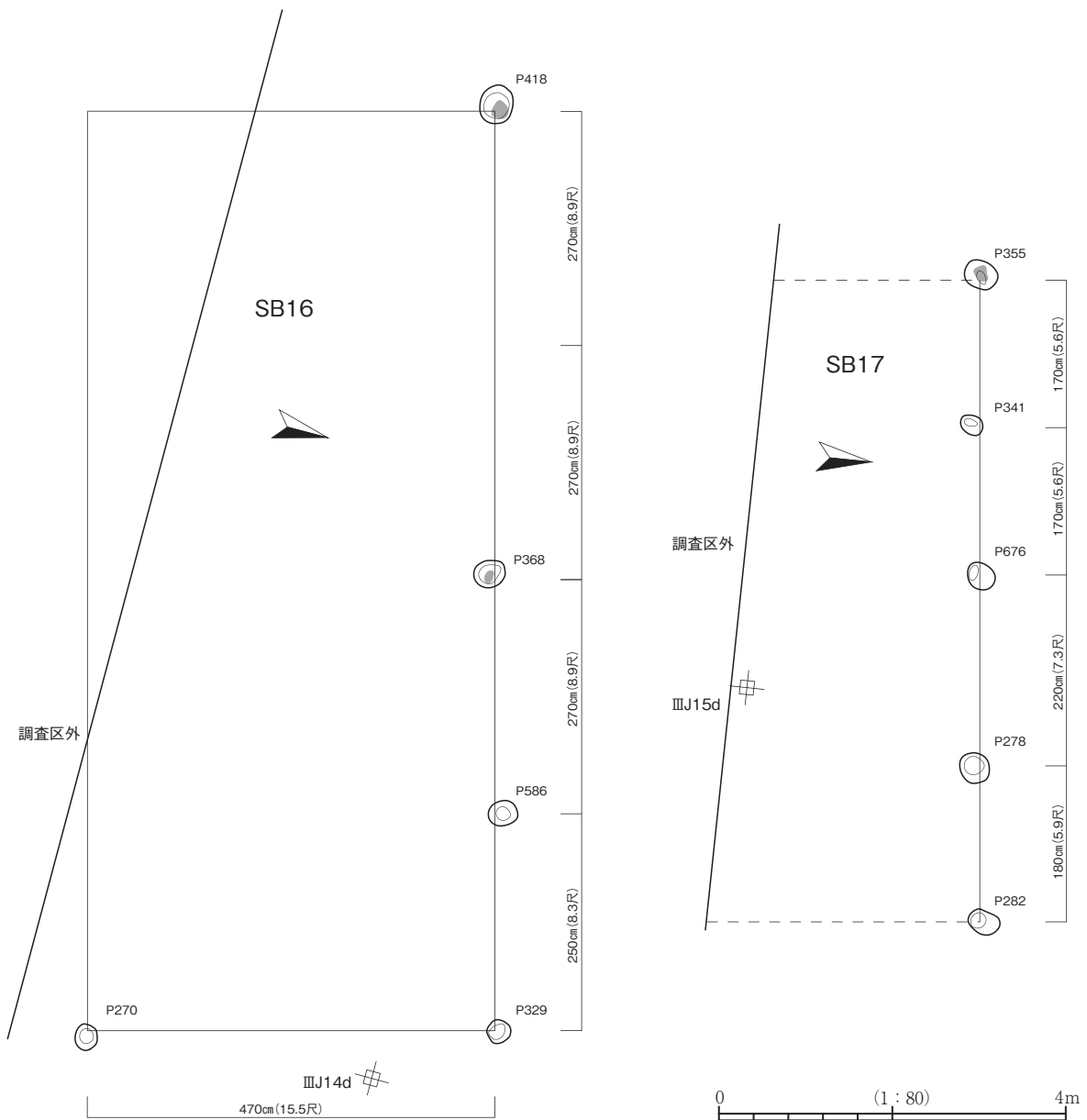
SB18 (第 32 図、写真図版 17)

[位置] H22 年度調査区の西側、Ⅲ I14 x~y・Ⅲ J14 a b グリッド付近に位置する。南側は調査区外に広がっている。

[検出状況] 西側の一部は掘削後のⅢ層上面で、その他はⅠ層直下のⅢ層上面で検出した。

[柱穴] 7 個の柱穴 (P463・533・439・426・401・386・359) を使用した。P359・386・439・463 は検出時に柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

[重複] SB13・15・16・19・20、SD25・26・28 とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との



第 31 図 SB16・17

直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位は N84° W である。

[平面形式] 掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き 1460cm (48.2 尺) である。

[柱間寸法] 桁行きの柱間寸法は 220cm (7.3 尺)、240cm (7.9 尺)、260cm (8.6 尺) の 3 種類で、一定ではない。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴 (P359・386・426・439・463・533) から縄文土器 197.3 g、P463 から磨石 1 点が出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

SB19 (第 32 図、写真図版 18)

[位置] H22 年度調査区の西側、Ⅲ I12~14 v~x グリッド付近に位置する。

[検出状況] Ⅱ層掘削後のⅢ層上面で検出した。

[柱穴] 10 個の柱穴 (P472・470・468・464・460・642・540・678・523・545) を使用した。P460・468・472 は検出時に柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

[重複] SB18、SD27・29・43 とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位は N60° W である。

[平面形式] 掘立柱建物である。規模は、桁行き 790cm (26.1 尺)、梁間 380cm (12.5 尺) で、面積は 30.02m² (9.1 坪) である。桁行きと梁間の長さの比は、790 : 380 = 79 : 38 である。

[柱間寸法] 桁行きの柱間寸法は 170cm (5.6 尺)、200cm (6.6 尺)、220cm (7.3 尺) の 3 種類で、一定ではない。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴 (P464・468・470・472・642) から縄文土器 63.3 g、P472 から磨石 1 点、P545 から剥片 3 点が出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

SB20 (第 32 図、写真図版 18)

[位置] H22 年度調査区の西側、Ⅲ I13・14 u~x グリッド付近に位置する。南側は調査区外に広がっている。

[検出状況] Ⅱ層掘削後のⅢ層上面で検出した。

[柱穴] 7 個の柱穴 (P473・471・466・461・457・487・483) を使用した。P461・466・471・473・483 では検出時に柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

[重複] P473 と P483 が SD28 と重複しているが、極一部であるため、新旧関係は不明である。また、SB18、SD29 とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

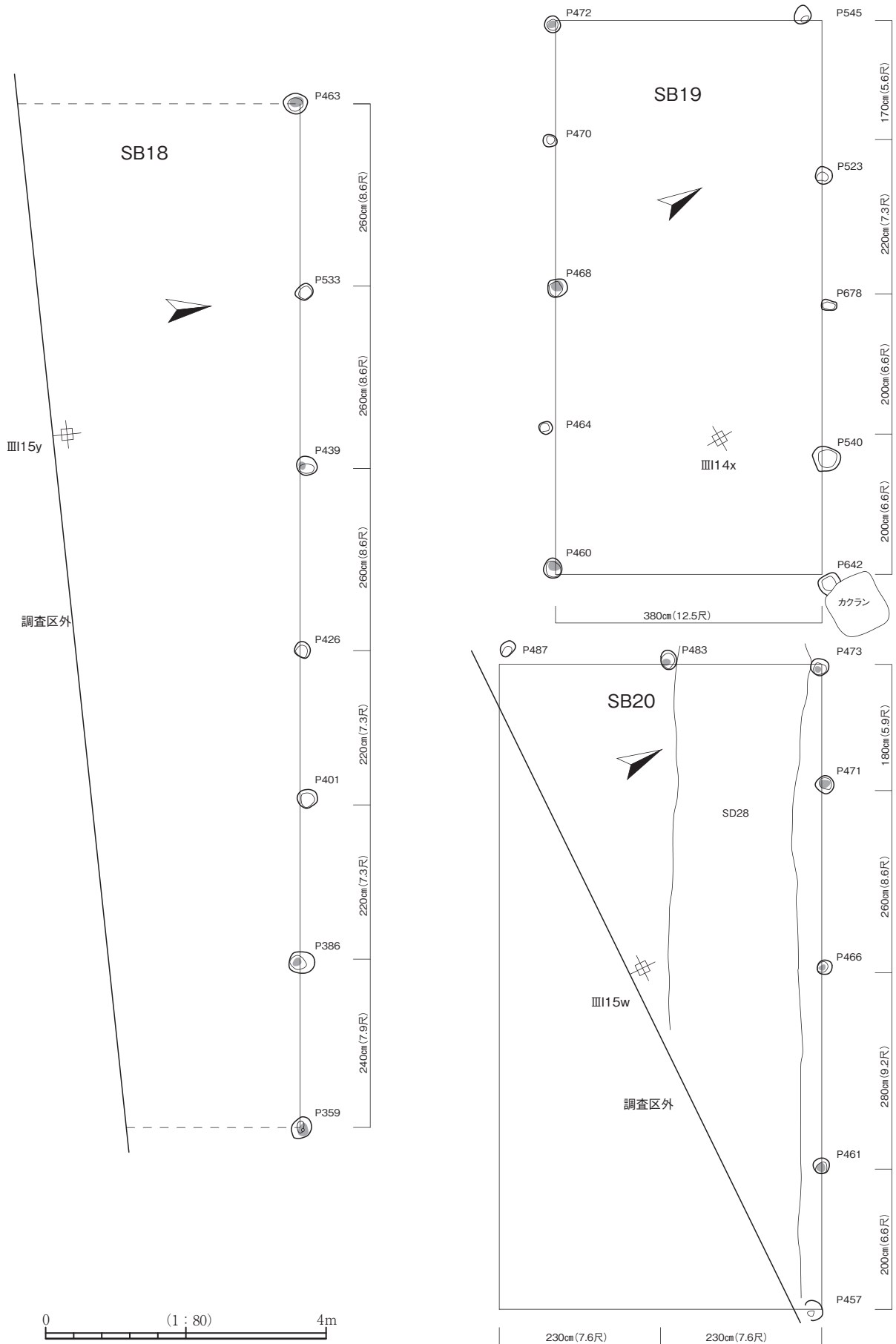
[建物方位] 桁行きの軸方位は N64° W である。

[平面形式] 掘立柱建物である。規模は、桁行き 920cm (30.4 尺)、梁間 460cm (15.2 尺) で、推定面積は 42.32m² (12.8 坪) である。桁行きと梁間の長さの比は、920 : 460 = 2 : 1 である。

[柱間寸法] 桁行きの柱間寸法は 180cm (5.9 尺)、200cm (6.6 尺)、260cm (8.6 尺)、280cm (9.2 尺) の 4 種類で、一定ではない。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴 (P466・473・487) から縄文土器 163.7 g が出土しているが、異

2 検出遺構



第32図 SB18~20

時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

SB41 (第33図、写真図版18)

[位置] 南東区南、V J8・9st グリッド付近に位置する。西側は調査区外に広がっている。

[検出状況] I層直下のⅢ層上面で検出した。

[柱穴] 4個の柱穴(P1004・1003・1005・1006)を使用した。柱痕跡は検出できなかった。

[重複] SD54とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位はN62°Wである。

[平面形式] 掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き180cm(5.9尺)、梁間380cm(12.5尺)である。

[柱間寸法] 確認できた桁行きの柱間寸法は180cm(5.9尺)である。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴(P1003)から縄文土器2g、P1003から石鏃1点、P1004から剥片2点、P1005から剥片5点、黒曜石製碎片1点が出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

SB42 (第33図、写真図版19)

[位置] 北東区、Ⅲ J17~19vw グリッド付近に位置する。西側は調査区外に広がっている。

[検出状況] I層直下のⅢ層上面で検出した。

[柱穴] 4個の柱穴(P1402・1403・1407・1405)を使用した。P1407は検出時に、P1402は検出時と底面で柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

[重複] SB43、SK91とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位はN76°Wである。

[平面形式] 掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き200cm(6.6尺)、梁間470cm(15.5尺)である。

[柱間寸法] 確認できた桁行きの柱間寸法は200cm(6.6尺)である。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴(P1402・1405)から縄文土器10.6gが出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

SB43 (第33図、写真図版19)

[位置] 北東区、Ⅲ J18~21uv グリッド付近に位置する。東側は調査区外に広がっている。

[検出状況] I層直下のⅢ層上面で検出した。

[柱穴] 5個の柱穴(P1404・1410・1427・1444・1465)を使用した。P1427は検出時に、P1444とP1465は底面で柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

[重複] SB42・44とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位はN29°Eである。

[平面形式] 掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き1360cm(44.9尺)、梁間250cm(8.3尺)である。

2 検出遺構

[柱間寸法] 桁行きの柱間寸法は 320cm (10.6 尺) と 360cm (11.9 尺) の 2 種類である。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴 (P1444) から磁器 1 点が出土した。このほかにも、P1427 と P1444 から縄文土器 4.1 g、P1404 から黒曜石製剥片 1 点、P1427 から磨石 1 点、P1444 からスクレイパー類 1 点、剥片 4 点、磨石 1 点が出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

SB44 (第 33 図、写真図版 19)

[位置] 北東区、Ⅲ J19~22 uv グリッド付近に位置する。西側は調査区外に広がっている。

[検出状況] I 層直下のⅢ層上面で検出した。

[柱穴] 6 個の柱穴 (P1414・1432・1442・1453・1467・1412) を使用した。P1414・1453 は検出時に、P1432 は検出時と底面で柱痕跡を確認している。その他の柱穴では確認できなかった。

[重複] P1467 が P1468 を切っており、本遺構は P1468 より新しい。また、SB43、SD71、SN16 とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位は N22°E である。

[平面形式] 掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き 1140cm (37.6 尺)、梁間 220cm (7.3 尺) である。

[柱間寸法] 桁行きの柱間寸法は 200cm (6.6 尺)、300cm (9.9 尺)、340cm (11.2 尺) の 3 種類で、一定ではない。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴 (P1414・1432・1442) から縄文土器 20.7 g、P1432 から剥片 1 点、P1442 からスクレイパー類 1 点、P1453 から磨石、石皿各 1 点が出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

SB45 (第 34 図、写真図版 20)

[位置] 東区北、Ⅳ J1・2 t グリッド付近に位置する。東側は調査区外に広がっている。

[検出状況] 遺物のほとんど伴わないⅡ層直下のⅢ層上面で検出した。

[柱穴] 4 個の柱穴 (P1528・1522・1511・1513) を使用した。柱痕跡は検出できなかった。

[重複] P1511 と P1510 が重複しているが、極一部であるため、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位は N86°E である。

[平面形式] 掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き 180cm (5.9 尺)、梁間 460cm (15.2 尺) である。

[柱間寸法] 確認できた桁行きの柱間寸法は 180cm (5.9 尺)、梁間の柱間寸法は 230cm (7.6 尺) である。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴 (P1511・1522・1528) から縄文土器 675.0 g、P1528 から剥片 3 点、磨石 1 点が出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

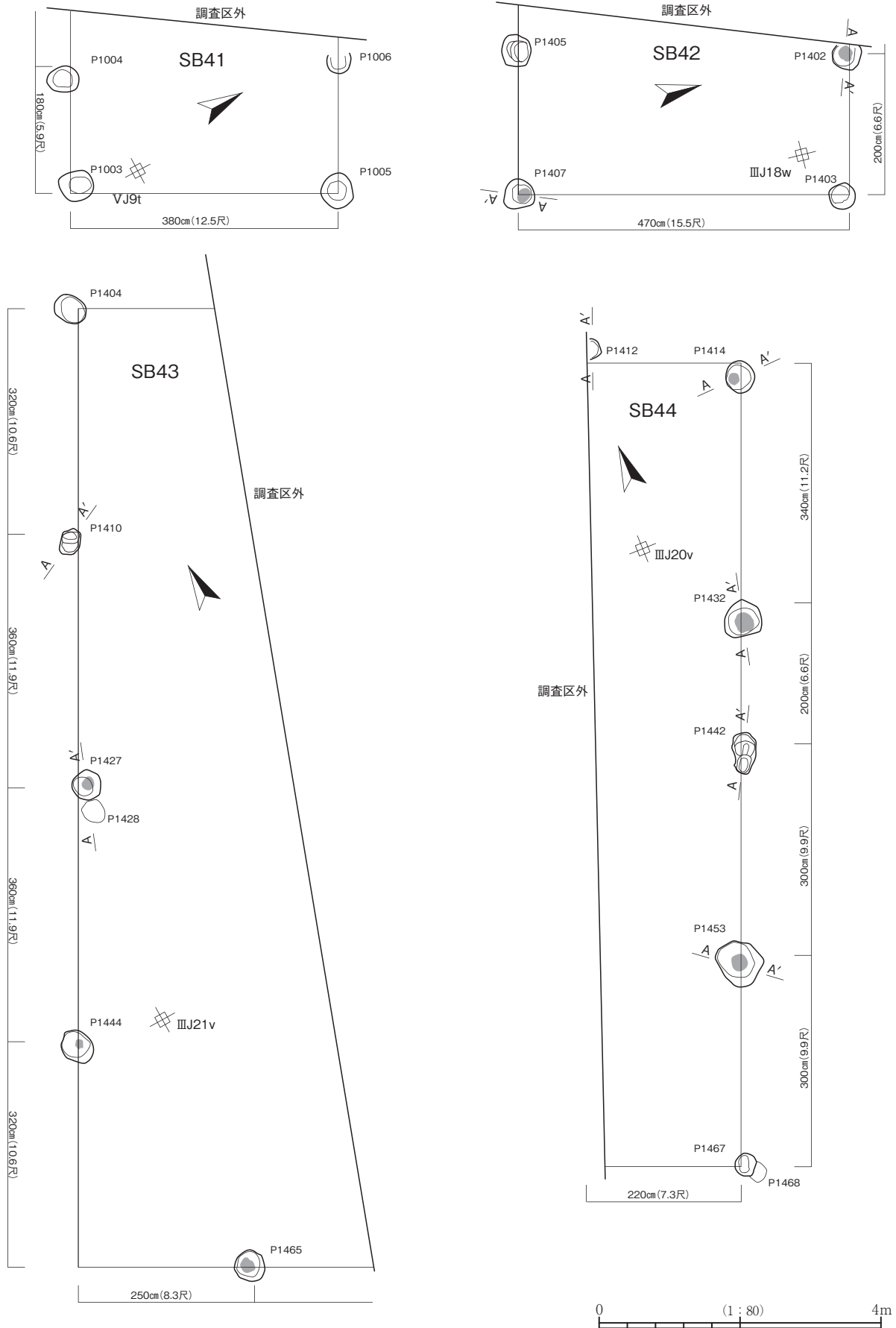
SB46 (第 34 図、写真図版 20)

[位置] 東区北、Ⅲ J23~25 t グリッド付近に位置する。東側は調査区外に広がっている。

[検出状況] 遺物のほとんど伴わないⅡ層直下のⅢ層上面で検出した。

[柱穴] 3 個の柱穴 (P1723・1488・1633) を使用した。柱痕跡はいずれでも検出できなかった。

[重複] P1633 が SD73 に切られ、P1723 が SD61 を切る。よって、本遺構は SD61 より新しく、SD73 より古い。また、P1488 と P1487 が重複しているが、極一部であるため、新旧関係は不明である。さ



第 33 図 SB41~44

2 検出遺構

らに、SK81・82とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位はN85°Eである。

[平面形式] 掘立柱建物である。確認できた規模は、梁間640cm(21.1尺)である。

[柱間寸法] 梁間の柱間寸法は320cm(10.6尺)である。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴(P1488・1633・1723)から縄文土器197.0g、P1488から石鏃3点、RF1点、磨石2点、敲石1点が出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

SB51 (第34図、写真図版20)

[位置] 北西区、ⅢJ16・17fグリッド付近の確認調査区内に位置する。そのため、各柱穴の掘削は半截で終了している。西側は調査区外に広がっている。

[検出状況] Ⅲ層上面で検出した。

[柱穴] 3個の柱穴(P1110・1114・1115)を使用した。柱痕跡はいずれでも検出できなかった。

[重複] P1110がP1109を切る。よって、本遺構はP1109より新しい。また、SB09・10、SD07とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位は不明である。

[平面形式] 掘立柱建物である。確認できた規模は、南東面が200cm(6.6尺)、北東面が210cm(6.9尺)である。

[柱間寸法] 一コーナーのみの確認であるため、桁行きと梁間の関係は不明であるが、隣接する掘立柱建物と比較すると、桁行きの柱間寸法が200cm(6.6尺)、梁間の柱間寸法が210cm(6.9尺)であると考えられる。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴(P1110・1114)から縄文土器6.5g、P1110とP1114から剥片各1点が出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

SB52 (第34図、写真図版21)

[位置] 北西区、ⅢJ16~18fgグリッド付近に位置する。西側は確認調査区内にある。北東側は調査区外に広がっている。

[検出状況] Ⅱ層掘削後のⅢ層上面で検出した。

[柱穴] 7個の柱穴(P1119・1128・1127・1135・1144・1157・1153)を使用した。P1127・1135・1144は確認調査区内に位置する。柱痕跡はいずれの柱穴でも検出できなかった。

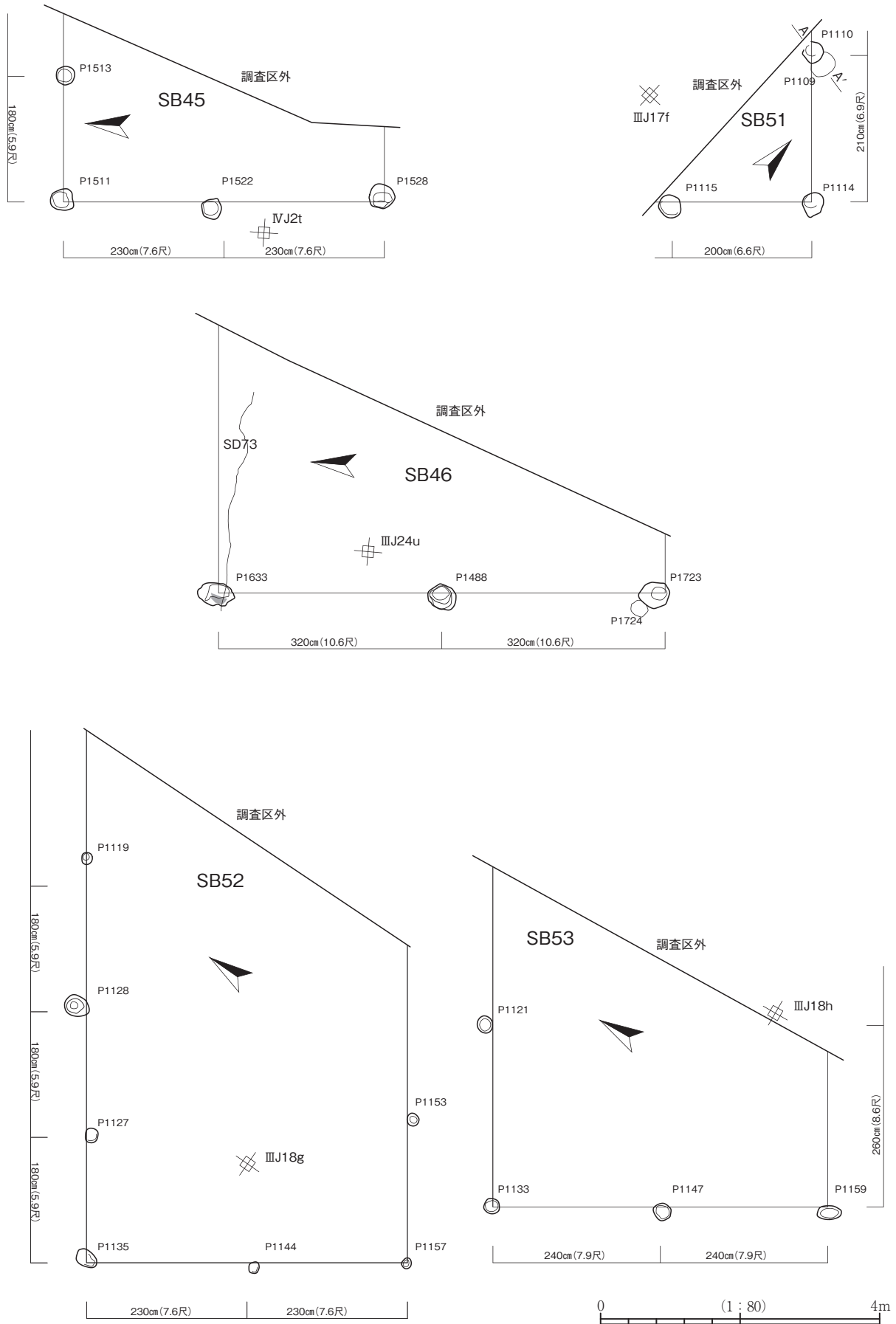
[重複] SB53・54、SK76、SD59とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位はN55°Eである。

[平面形式] 掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き540cm(17.8尺)、梁間460cm(15.2尺)である。

[柱間寸法] 桁行きの柱間寸法はすべて180cm(5.9尺)である。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴(P1119・1128)から縄文土器11.8g、P1128から剥片1点が出土しているが、異時期の産物である。



第34図 SB45・46・51~53

2 検出遺構

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

SB53 (第 34 図、写真図版 21)

[位置] 北西区、Ⅲ J17・18 f g グリッド付近に位置する。西側は確認調査区内にある。北東側は調査区外に広がっている。

[検出状況] Ⅱ層掘削後のⅢ層上面で検出した。

[柱穴] 4 個の柱穴 (P1121・1133・1147・1159) を使用した。P1133 は確認調査区内に位置する。柱痕跡はいずれの柱穴でも検出できなかった。

[重複] SB52・54、SK76、SD59 とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位は N60°E である。

[平面形式] 掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き 260cm(8.6 尺)、梁間 480cm(15.8 尺)である。

[柱間寸法] 確認できた桁行きの柱間寸法は 260cm (8.6 尺) である。

[出土遺物] なし。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

SB54 (第 35 図、写真図版 21)

[位置] 北西区～西道路、Ⅲ J17～19 f g グリッド付近に位置する。西側は確認調査区内にあり、調査区外に広がっている。

[検出状況] Ⅱ層掘削後のⅢ層上面で検出した。

[柱穴] 5 個の柱穴 (P1138・1146・1148・1158・1677) を使用した。P1138・1146 は確認調査区内に位置する。柱痕跡はいずれの柱穴でも検出できなかった。

[重複] P1138 が P1139 に切られる。よって、本遺構は P1139 より古い。また、SB52・53 とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位は N80°W である。

[平面形式] 掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き 440cm (14.5 尺)、梁間 440cm (14.5 尺) である。

[柱間寸法] 確認できた桁行きの柱間寸法はすべて 220cm (7.3 尺) である。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴 (P1146) から縄文土器 1.8 g、石鏃 1 点が出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

SB55 (第 35 図、写真図版 22)

[位置] 西区北、Ⅲ J19～21 f g グリッド付近に位置する。西側は確認調査区内にある。

[検出状況] Ⅱ層掘削後のⅢ層上面で検出した。

[柱穴] 8 個の柱穴 (P1160・1165・1196・1219・1214・1205・1187・1172) を使用した。P1160・1165・1196・1219 は確認調査区内に位置する。柱痕跡はいずれの柱穴でも検出できなかった。

[重複] SB56、SK131、SD111～113 とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位は N08°W である。

[平面形式] 掘立柱建物である。規模は、桁行き 800cm (26.4 尺)、梁間 420cm (13.9 尺) で、面積は 33.6㎡ (10.2 坪) である。桁行きと梁間の長さの比は、800 : 420 = 40 : 21 である。

[柱間寸法] 桁行きの柱間寸法はすべて 200cm (6.6 尺) である。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴 (P1165・1172・1187・1196・1205・1214・1219) から縄文土器 514.7 g、P1165 から剥片 1 点、P1172 から RF1 点、P1187 から黒曜石製碎片 1 点、P1196 から石皿 1 点、P1205 から磨石 1 点、P1219 から剥片 1 点が出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

SB56 (第 35 図、写真図版 22)

[位置] 西区北、Ⅲ J20~23 f g グリッド付近に位置する。西側は確認調査区内にある。南西側は調査区外 (平成 8 年度前沢町調査区) に広がっている。

[検出状況] Ⅱ層掘削後のⅢ層上面で検出した。

[柱穴] 6 個の柱穴 (P1211・1221・1226・1231・1197・1192) を使用した。P1197・1231 は確認調査区内に位置する。柱痕跡はいずれの柱穴でも検出できなかった。

[重複] SB55、SK133、SD111・112 とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位は N41°E である。

[平面形式] 掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き 750cm (24.8 尺)、梁間 420cm (13.9 尺) である。

[柱間寸法] 確認できた桁行きの柱間寸法はすべて 250cm (8.3 尺) である。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴 (P1211) から縄文土器 1.6 g、P1192 と P1197 から磨石各 1 点、P1221 と P1231 から剥片各 1 点が出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

SB58 (第 36 図、写真図版 22)

[位置] 西区南、Ⅳ J8~10 f g グリッド付近に位置する。西側は確認調査区内にある。北西側は調査区外 (平成 8 年度前沢町調査区) に広がっている。

[検出状況] Ⅱ層掘削後のⅢ層上面で検出した。

[柱穴] 5 個の柱穴 (P1682・1359・1362・1366・1365) を使用した。P1365・1682 は確認調査区内に位置する。柱痕跡はいずれの柱穴でも検出できなかった。

[重複] SD119 とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位は N46°W である。

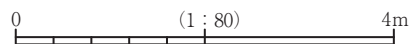
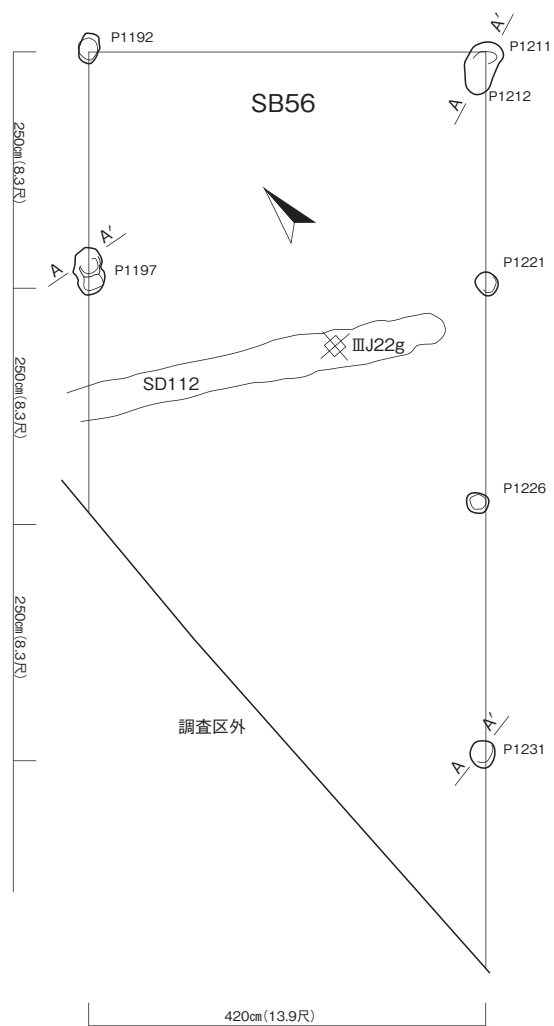
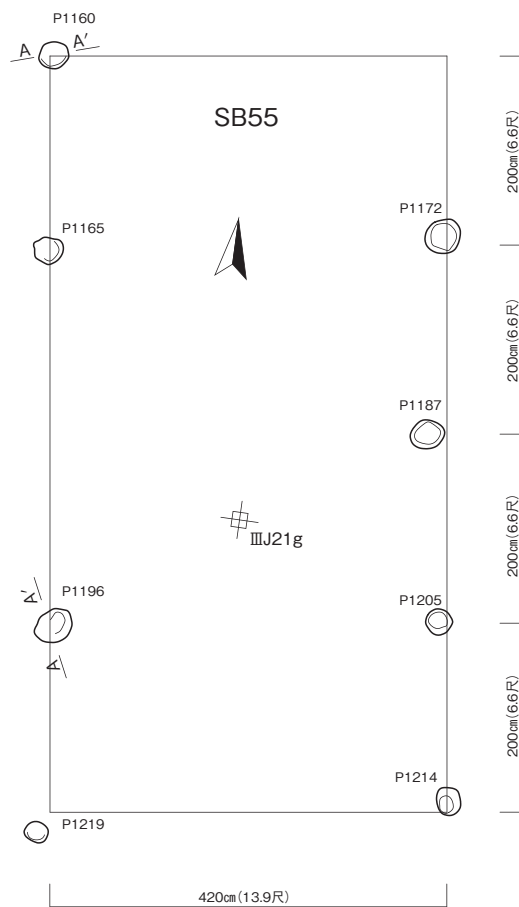
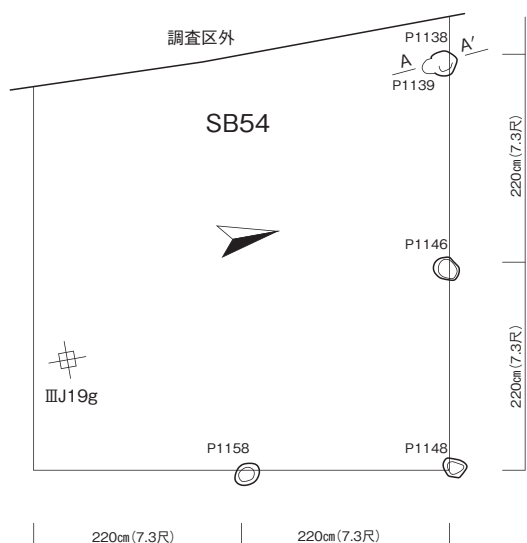
[平面形式] 掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き 720cm (23.8 尺)、梁間 440cm (14.5 尺) である。

[柱間寸法] 確認できた桁行きの柱間寸法はすべて 240cm (7.9 尺) である。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴 (P1362・1366) から縄文土器 87.6 g、P1365 から剥片 1 点が出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

2 検出遺構



第 35 図 SB54~56

SB59 (第36図、写真図版23)

[位置] 南西区、IV J20・21efグリッド付近の確認調査区内に位置する。西側は調査区外に広がる。

[検出状況] II層掘削後のIII層上面で検出した。

[柱穴] 3個の柱穴(P1387・1390・1391)を使用した。柱痕跡はいずれでも検出できなかった。

[重複] なし。

[建物方位] 桁行きの軸方位は不明である。

[平面形式] 掘立柱建物である。確認できた規模は、南西面が440cm(14.5尺)である。

[柱間寸法] 一部のみの確認であるため、桁行きと梁間の関係は不明であるが、確認できた柱間寸法は220cm(7.3尺)である。この寸法は桁行き・梁間ともに用いられており、どちらか判断できない。

[出土遺物] なし。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

SB60 (第36図、写真図版23)

[位置] 西区北、IV J1・2fgグリッド付近に位置する。西側は確認調査区内にある。南西側は調査区外(平成8年度前沢町調査区)に広がっている。

[検出状況] II層掘削後のIII層上面で検出した。

[柱穴] 5個の柱穴(P1285・1286・1288・1282・1280)を使用した。P1282・1286・1288は確認調査区内に位置する。柱痕跡はいずれの柱穴でも検出できなかった。

[重複] P1288はP1289と重複するが、埋土が類似しており、新旧関係は不明である。また、SB61とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[建物方位] 桁行きの軸方位はN64°Eである。

[平面形式] 掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き440cm(14.5尺)、梁間340cm(11.2尺)である。

[柱間寸法] 確認できた桁行きの柱間寸法はすべて220cm(7.3尺)である。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴(P1280・1285・1286)から縄文土器333.9g、P1280からRF、剥片各1点が出土しているが、異時期の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

SB61 (第36図、写真図版23)

[位置] 西区北、III J24・25g、IV J1fグリッド付近に位置する。西側は確認調査区内にある。北東側は調査区外に広がっている。

[検出状況] II層掘削後のIII層上面で検出した。

[柱穴] 4個の柱穴(P1261・1266・1274・1283)を使用した。P1283は確認調査区内に位置する。柱痕跡はいずれの柱穴でも検出できなかった。

[重複] P1261がP1262を切る。よって、本遺構がP1262より新しい。また、SB60とプランが重複するが、本遺構を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

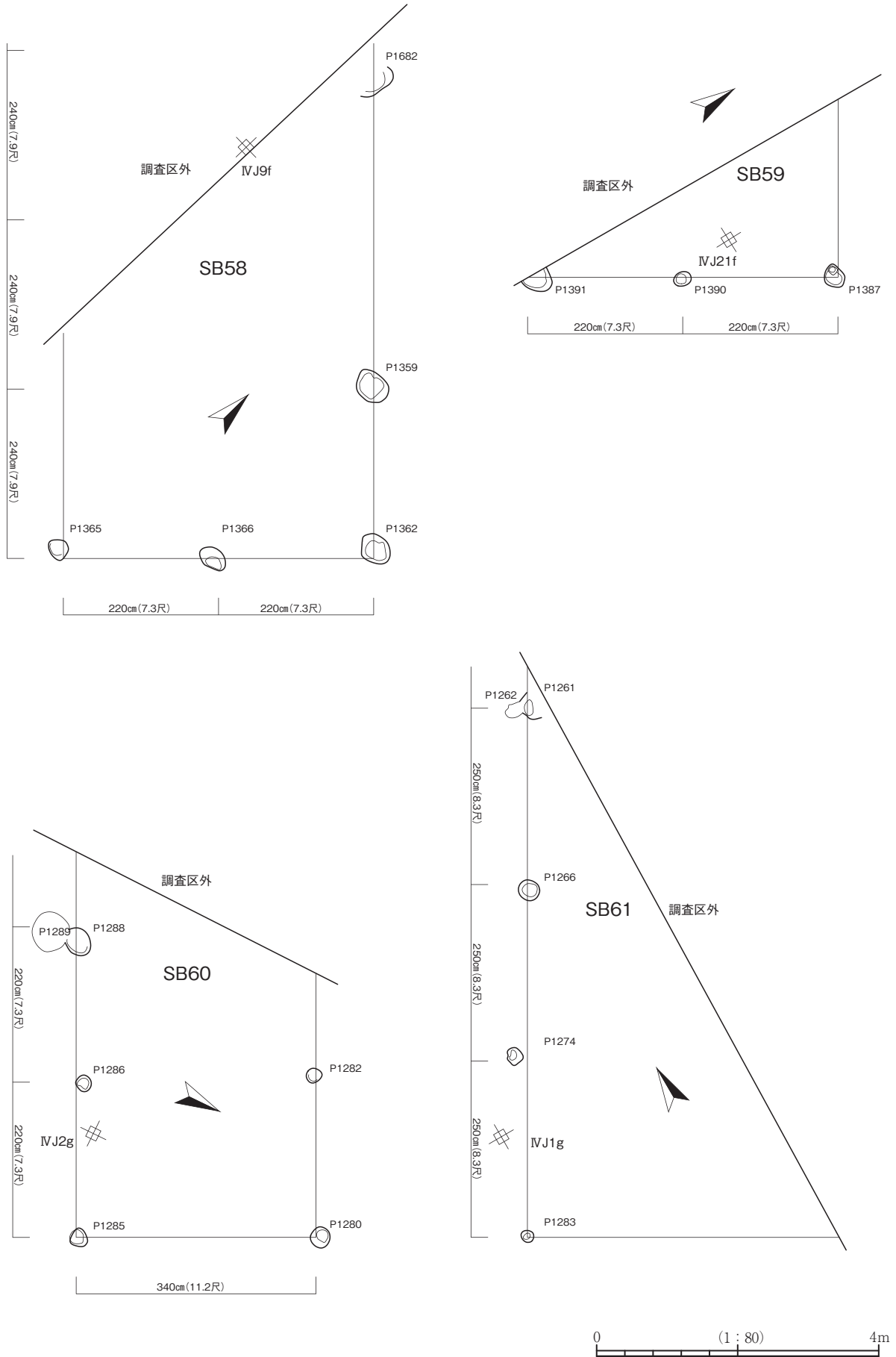
[建物方位] 桁行きの軸方位はN30°Eである。

[平面形式] 掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行き750cm(24.8尺)である。

[柱間寸法] 確認できた桁行きの柱間寸法はすべて250cm(8.3尺)である。

[出土遺物] 本遺構を構成する柱穴(P1261・1274)から縄文土器87.1gが出土しているが、異時期

2 検出遺構



第 36 図 SB58~61

の産物である。

[時期] 詳細は不明であるが、中世に帰属するものと考えられる。

(3) 土 坑 (SK)

SK04 (第 37 図、写真図版 26)

[位置] H22 年度調査区の東側、Ⅲ J111 グリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色の円形の広がりとして確認した。

[重複] なし。

[規模] 開口部で 0.80×0.70 m の楕円形で、検出面から底面までの残存深度は 42cm である。

[埋土] 全体的に基本層序では確認できない暗褐色シルトを主体とする。中間部には地山の流入土層と考えられる褐色シルト層の堆積が確認できる。全体的に炭化物等の混入物が少なく、三角形の堆積状況を呈しており、自然堆積の可能性が高いと考えられる。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦で、壁は底面から直線的に立ち上がる。

[遺物出土状況] 縄文土器 (66.8 g)、剥片 2 点が埋土から出土しているが、異時代のものである。

[出土遺物] 掲載遺物なし。

[時代・時期] 時代の特定できる遺物が伴わず帰属時代は不明である。

SK06 (第 37 図、写真図版 26)

[位置] H22 年度調査区の東側、Ⅲ J121 グリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色の円形の広がりとして確認した。

[重複] SB02 とプランが重複するが、SB02 を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[規模] 開口部で 0.85×0.80 m の円形で、検出面から底面までの残存深度は 77cm である。

[埋土] 7 層に分層した。全体的に基本層序では確認できない暗褐色シルト層を主体とする。ある程度埋没したあとの壁際には地山の流入土層と考えられる黄褐色粘土質シルト層の堆積が確認できる。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦で、壁は底面から直立気味に立ち上がる。

[出土遺物] なし。

[時代・時期] 時代の特定できる遺物が伴わず帰属時代は不明である。

SK09 (第 37 図、写真図版 26)

[位置] H22 年度調査区の東側、Ⅲ J131 グリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色の楕円形の広がりとして確認した。

[重複] SB02 とプランが重複するが、SB02 を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[規模] 開口部で 1.27×0.94 m の歪な楕円形で、検出面から底面までの残存深度は 35cm である。

[埋土] 3 層に分層した。底面付近に薄く褐色シルトが堆積し、大部分は暗褐色シルトを主体とし、混入物・しまり等で明確に分層できた。

[壁・底面の状況] 底面は北に向かって緩やかにくぼんでいる。壁は底面からなだらかに立ち上がる。

[遺物出土状況] 剥片 3 点が出土している。

[出土遺物] 掲載遺物なし。

2 検出遺構

[時代・時期] 時代の特定できる遺物が伴わず帰属時代は不明である。

SK10 (第 37 図、写真図版 26)

[位置] H22 年度調査区の東側、Ⅲ J131 グリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色の楕円形の広がりとして確認した。

[重複] 本遺構が SB02 を構成する P064 に切られる。よって、本遺構が SB02 より古い。

[規模] 開口部で 1.30×0.79 m の歪な楕円形で、検出面から底面までの残存深度は 25cm である。

[埋土] 2層に分層した。壁際に初期の流入土層である黄褐色粘土質シルト層が確認できるが、大半は暗褐色シルト層で埋没している。

[壁・底面の状況] 底面にはゆるやかであるが、波打っている。壁は底面からなだらかに立ち上がる。

[遺物出土状況] 縄文土器 (5.8 g) が埋土から出土しているが、異時代のものである。

[出土遺物] 掲載遺物なし。

[時代・時期] 時代の特定できる遺物が伴わず、帰属時代・時期は不明である。

SK13 (第 37 図、写真図版 27)

[位置] H22 年度調査区の東側、Ⅲ J14 k1 グリッドに位置する。南側は調査区外に広がっている。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色の楕円形の広がりとして確認した。

[重複] なし。

[規模] 確認できた規模は、開口部で 0.97×0.88 m の不整形で、検出面から底面までの残存深度は 25cm である。

[埋土] 2層に分層した。暗褐色シルト層を主体とする。下部は炭化物、黄褐色シルトブロックを含み、上部は黒褐色シルトブロックを含むことで容易に分層できる。

[壁・底面の状況] 底面は皿状を呈する。そのため、壁も緩やかに立ち上がっている。

[出土遺物] なし。

[時代・時期] 時代の特定できる遺物が伴わず、帰属時代・時期は不明である。

SK16 (第 37 図、写真図版 27)

[位置] H22 年度調査区の東側、Ⅲ J12 k グリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で黒褐色の楕円形の広がりとして確認した。

[重複] なし。

[規模] 開口部で 1.22×0.68 m の楕円形で、検出面から底面までの残存深度は 18cm である。

[埋土] 2層に分層した。上半部は地山ブロックを含む黒褐色シルト層を主体とし、下半部は地山ブロックを含む暗褐色シルト層を主体とする。

[壁・底面の状況] ほぼ平坦である。南側の壁は直立気味に立ち上がるが、北側の壁は浅く開き気味に立ち上がる。

[出土遺物] なし。

[時代・時期] 時代の特定できる遺物が伴わず、帰属時代・時期は不明である。

SK17 (第 38 図、写真図版 27)

[位置] H22 年度調査区の東側、Ⅲ J11 j グリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色の円形の広がりとして確認した。

[重複] なし。

[規模] 開口部で1.00×0.94 mの歪な円形で、検出面から底面までの残存深度は16cmである。

[埋土] 2層に分層した。上半部は地山ブロックを含む暗褐色シルト層を主体とし、下半部は褐色シルト層を含む黄褐色シルト層を主体とする。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦で、壁は底面から開き気味に立ち上がる。

[出土遺物] なし。

[時代・時期] 時代の特定できる遺物が伴わず、帰属時代・時期は不明である。

SK18 (第38図、写真図版28)

[位置] H22年度調査区の東側、ⅢJ12jグリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色の円形の広がりとして確認した。

[重複] SD08に切られる。よって、本遺構はSD08より古い。

[規模] 開口部で1.07×1.03 mの円形で、検出面から底面までの残存深度は42cmである。

[埋土] 5層に分層した。混入物、しまり・粘性が異なる暗褐色シルトを主体とする。埋土掘削中に南側半分は掘りきってしまい、平面図に反映することができなかったが、中間部には炭化物層(4層)がほぼ全面に確認できた。

[壁・底面の状況] 底面は中央部がくぼんでいる。壁は一部でオーバーハングするものの、なだらかに立ち上がる。

[遺物出土状況] 縄文土器(827.3g)、石鏃1点、剥片3点、黒曜石製剥片1点が埋土から出土しているが、異時代のものである。

[出土遺物] 埋土から出土した縄文土器1点と黒曜石製剥片1点を掲載したが、異時代のものである。

[時代・時期] 中世に帰属すると考えているSD08より古いことは確かであるが、詳細な帰属時代は不明である。

SK23 (第38図、写真図版27)

[位置] H22年度調査区の中央、ⅢJ12・13hグリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色の楕円形の広がりとして確認した。

[重複] SD15を切る。よって、本遺構はSD15より新しい。

[規模] 開口部で1.28×0.75 mの歪な楕円形で、検出面から底面までの残存深度は23cmである。

[埋土] 3層に分層した。上部に薄く暗褐色シルト層が堆積しているが、大部分は地山起源のシルト質粘土層で埋没している。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦である。壁は底面から直線的に立ち上がる。

[遺物出土状況] 縄文土器(11.4g)が埋土から出土しているが、異時代のものである。

[出土遺物] 掲載遺物なし。

[時代・時期] 時代の特定できる遺物が伴わず、帰属時代・時期は不明である。

SK28 (第38図、写真図版28)

[位置] H22年度調査区の西側、ⅢJ13・14eグリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で褐色の隅丸長方形の広がりとして確認した。

2 検出遺構

[重複] SB11 とプランが重複するが、SB11 を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[規模] 開口部で 1.49×0.80 m の歪な隅丸長方形で、検出面から底面までの残存深度は 7cm である。

[埋土] 褐色シルトの単層である。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦である。非常に残存状態が悪いため、壁は一部しか確認できない。

[出土遺物] なし。

[時代・時期] 時代の特定できる遺物が伴わず、帰属時代・時期は不明である。

SK29 (第 38 図、写真図版 29)

[位置] H22 年度調査区の西側、Ⅲ J14 d グリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色の楕円形の広がりとして確認した。

[重複] SB14 を構成する柱穴を切っている。よって本遺構が新しい。また、SB12・13・17 とプランが重複するが、掘立柱建物跡を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[規模] 開口部で 1.18×0.70 m の歪な隅丸長方形で、検出面から底面までの残存深度は 35cm である。

[埋土] 2層に分層した。南側底面付近に黒褐色シルトがブロック状に観察されるが、大部分は暗褐色シルトで埋没している。人為堆積の可能性が高い。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦である。壁は底面から直線的に外傾しながら立ち上がる。

[遺物出土状況] 底面付近から洪武通寶 1 点と天禧通寶 1 点が貼り付いたもの、小片であるため、銭種の不明なもの 1 点が出土した。また、埋土から縄文土器 (17.0 g) が出土しているが、異時代のものである。

[出土遺物] 銭貨 (604) を掲載した。

[時代・時期] 出土遺物から墓壙の可能性が高く、中世に帰属する。

SK30 (第 38 図、写真図版 29)

[位置] H22 年度調査区の西側、Ⅲ J14 c グリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で黒褐色の楕円形の広がりとして確認した。

[重複] SB12～17 とプランが重複するが、掘立柱建物跡を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[規模] 開口部で 1.85×1.00 m の洋梨形で、検出面から底面までの残存深度は 40cm である。

[埋土] 2層に分層した。下半部に地山起源の褐色シルト質粘土層が堆積しているが、大半は地山ブロック・炭化物・焼土ブロックを含む黒褐色シルト質粘土層で埋没している。断面図には反映されていないが、下部に焼土ブロックや炭化物が広がる面が確認された。

[壁・底面の状況] 細かな凹凸が観察される。壁は底面から直立気味に立ち上がる。

[遺物出土状況] 縄文土器 (316.8 g)、RF1 点が埋土から出土しているが、異時代のものである。

[出土遺物] 埋土から出土した縄文土器 1 点を掲載したが、異時代のものである。

[時代・時期] 時代の特定できる遺物が伴わず、帰属時代・時期は不明である。

SK31 (第 39 図、写真図版 28)

[位置] H22 年度調査区の西側、Ⅲ J12 c グリッドに位置する。北側は調査区外に広がるが、昭和以降の圃場整備により消失している。

[検出状況] Ⅲ層上面で黒褐色の円形の広がりとして確認した。

[重複] なし。

[規模・平面形] 確認できた規模は、開口部で1.34×0.95 mの円形で、検出面から底面までの残存深度は120cmである。

[埋土] 6層に分層した。大きく上・中・下部に分けられる。上部は黒褐色シルト層を主体とする。中間部は地山ブロックを含む暗褐色シルト層を主体とする。下部は地山起源の黄褐色もしくは褐色シルト層を主体とする。下部は上中部と比較するとしまりが無い。

[壁・底面の状況] 底面は平坦で、下部の壁は直立し、上半はロート状に開いて立ち上がる。

[遺物出土状況] 縄文土器(6.4 g)が埋土から出土しているが、異時代のものである。

[出土遺物] 掲載遺物なし。

[時代・時期] 形態的な特徴からSK121等の中世に帰属すると考えている土坑と類似しており、同時期の遺構の可能性が高いが、年代を特定しうる遺物が伴わないため、詳細な時期は不明である。

SK36 (第39図、写真図版29)

[位置] H22年度調査区の西側、Ⅲ I13sグリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色粘土の円形の広がりとして確認した。

[重複] なし。

[規模・平面形] 開口部で1.42×1.34 mの円形で、検出面から底面までの残存深度は約23cmである。

[埋土] 上下に大別した。上部は黄褐色粘土ブロックを含む暗褐色粘土を主体とし、下部は黒褐色粘土質泥土である。上部は混入物が多く、人為堆積と判断したが、下部は混入物がなく、自然堆積の可能性が高いと考えられるが、決定的な根拠は見出せなかった。

[底面・壁の状況] 底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がり、断面形が浅鉢状を呈する。

[遺物出土状況] 縄文土器(119.5 g)、RF2点・剥片1点・磨石1点が埋土上部を中心に全般から出土している。

[出土遺物] 埋土から出土した磨石を掲載したが、異時代のものである。

[時代・時期] 詳細な時期は不明であるが、中世の可能性が高いと考えている。

SK38 (第39図、写真図版30)

[位置] H22年度調査区の西側、Ⅲ I12sグリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で、堀跡・溝跡に挟まれるように黒色のプランが円形状に広がっていることで確認した。

[重複] SD36・37に切られる。よって、本遺構はSD36・37より古い。

[規模・平面形] 開口部で1.47×1.25 mの楕円形で、底面までの残存深度は約130cmである。

[埋土] 4層に分層した。オリーブ黒色粘土質泥質土を主体に黄褐色粘土がブロック状に多量に混入する。土層の堆積様相から、人為堆積と判断される。

[底面・壁の状況] 底面はほぼ平坦である。壁は直立気味に立ち上がり、断面形が筒状を呈する可能性が高い。

[遺物出土状況] 埋土から砥石が1点出土している。この他にも、縄文土器(1099.3 g)やスクレイパー類1点、籠形石器1点、RF3点、剥片8点、磨石1点が埋土全般から出土しているが、異時代のものである。

2 検出遺構

[出土遺物] 砥石 (601) を掲載した。またこの他にも縄文土器、スクレイパー類、籠形石器、RF を掲載したが、異時代のものである。

[時代・時期] 埋土の様相からは縄文期の遺構とは考え難く、中世と推定しておきたい。

SK41 (第 39 図、写真図版 24)

[位置] H22 年度調査区の中央、Ⅲ J14 g グリッド付近に位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] SD08 に切られ、本遺構が古い。

[規模] 開口部で 2.20×1.50 m の楕円形で、底面までの残存深度は 80cm である。主軸方向は N38° W である。

[埋土] 6 層に分層した。壁際から最下部には地山の流入土層と考えられる黄褐色粘土質シルト層が確認でき、極暗褐色シルト、黒褐色シルト、黒褐色～暗褐色シルトの順で堆積している。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦で、壁は底面から直線的に立ち上がる。

[遺物出土状況] 埋土から磨石が 1 点出土している。

[出土遺物] 掲載遺物なし。

[時代・時期] 形態的な特徴から陥し穴の可能性が高い。よって、縄文時代中期以前に帰属するものと考えられる。

SK53 (第 39 図、写真図版 30)

[位置] 南東区南、V J7 t グリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] なし。

[規模] 開口部で 0.78×0.70 m の円形で、底面までの残存深度は約 60cm である。

[埋土] 4 層に分層した。中央部に地山ブロックを多く含む層があるため、大きく 3 層に分けたが、暗褐色シルトを主体とする人為的な一括埋没の可能性が高い。上半は剥片を多く含んでいる。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦である。壁は底面から直立気味に立ち上がる。

[遺物出土状況] 縄文土器 (46.9 g)、円盤状土製品 1 点、石鏃 1 点、スクレイパー類 1 点、RF4 点、剥片 234 点、黒曜石製剥片 2 点、打製石斧 1 点、磨石 1 点、礫類 1 点が埋土から出土している。

[出土遺物] 円盤状土製品 (193)、石鏃 (254)、スクレイパー類 (267)、RF (363、364)、黒曜石製剥片 (398、399)、磨石 (494) を掲載した。

[時代・時期] 詳細な時期は不明であるが、縄文時代前期の可能性が高いと考えている。

SK55 (第 40 図、写真図版 30)

[位置] 南東区南、V J6 u グリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] なし。

[規模] 開口部で 0.85×0.83 m の円形で、底面までの残存深度は約 55cm である。

[埋土] 5 層に分層した。暗褐色シルトが底面付近に堆積し、地山の流入土と考えられる黄褐色シルト質粘土層が三角形に堆積しているのが確認できる。その後、暗褐色シルト主体で埋没している。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦である。壁は底面から直立気味に立ち上がる。

[遺物出土状況] 縄文土器 (21.1 g)、剥片 18 点、黒曜石製剥片 1 点、打製石斧 1 点、磨石 1 点、凹石 1 点が埋土から出土している。

[出土遺物] 黒曜石製剥片 (400)、打製石斧 (444)、凹石 (508) を掲載した。

[時代・時期] 詳細な時期は不明であるが、縄文時代前期の可能性が高いと考えている。

SK56 (第 40 図、写真図版 30)

[位置] 南東区南、V J5uv グリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] なし。

[規模] 開口部で 0.63×0.63 m の歪な円形で、底面までの残存深度は約 42cm である。

[埋土] 6 層に分層した。暗褐色シルトが底面付近に堆積し、地山の流入土と考えられる黄褐色シルト質粘土層が三角形に堆積しているのが確認できる。その後は暗褐色シルト主体で埋没している。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦である。壁はオーバーハングしており、いわゆる「フラスコ状」を呈している。

[遺物出土状況] 縄文土器 (6.8 g)、剥片 1 点、磨石 1 点が埋土から出土している。

[出土遺物] 掲載遺物なし。

[時代・時期] 形態的な特徴から、縄文時代に帰属するのは確実であるが、時期を特定できる遺物は伴っていない。本遺構周辺では縄文時代前期後葉の遺構・遺物がまとまっているため、同時期の可能性が高いと考えている。

SK57 (第 40 図、写真図版 31)

[位置] 南東区南、V J5uv グリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] なし。

[規模] 開口部で 1.67×0.98 m の歪な楕円形で、底面までの残存深度は約 17cm である。

[埋土] 2 層に分層した。底面付近には褐色シルトがブロック状で散在しているが、大部分は暗褐色シルトで埋没している。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦である。壁は底面からなだらかに立ち上がる。

[遺物出土状況] 縄文土器 (38.3 g)、剥片 6 点、磨石 2 点、石皿 1 点が埋土から出土している。

[出土遺物] 磨石 (496)、石皿 (524) を掲載した。

[時代・時期] 詳細な時期は不明であるが、縄文時代前期の可能性が高いと考えている。

SK58 (第 40 図、写真図版 31)

[位置] 南東区南、V J4・5v グリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] なし。

[規模] 開口部で 0.83×0.78 m の円形で、底面までの残存深度は約 78cm である。

[埋土] 断面図には 4 層まで記載しているが、実際には 5 層に分層した。最下層に暗褐色シルトがやや厚く堆積し、その上部に地山の流入土と考えられる褐色シルトが三角形に堆積しているのが確認できる。酸化鉄斑が確認できる暗褐色シルトが薄く堆積し、亜円礫を含む黒褐色～暗褐色シルト層で

2 検出遺構

大部分は埋没している。上部2層はSK59と類似している。

[壁・底面の状況]底面はほぼ平坦である。壁は中間部でくびれ、上部で緩やかに開きながら立ち上がっている。

[遺物出土状況] 縄文土器 (17.0 g)、剥片 4 点、黒曜石製剥片 1 点が埋土から出土している。

[出土遺物] 黒曜石製剥片 (401) を掲載した。

[時代・時期]形態的な特徴から、縄文時代に帰属すると考えているが、時期を特定できる遺物は伴っていない。本遺構周辺では縄文時代前期後葉の遺構・遺物がまとまっているため、同時期の可能性が高いと考えている。

SK59 (第 40 図、写真図版 31)

[位置] 南東区南、V J4 v w グリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] なし。

[規模] 開口部で 0.85×0.73 m の楕円形で、底面までの残存深度は約 45cm である。

[埋土] 3層に分層した。壁際には地山の流入土層と考えられる褐色シルト層が確認でき、大部分は黒褐色～暗褐色シルトを主体とした堆積土で埋没している。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦である。壁は底面から直線的に立ち上がる。

[遺物出土状況] 縄文土器 (0.5 g)、RF1 点、剥片 4 点が埋土から出土している。

[出土遺物] RF (348) を掲載した。

[時代・時期]形態的な特徴から、縄文時代に帰属すると考えているが、時期を特定できる遺物は伴っていない。本遺構周辺では縄文時代前期後葉の遺構・遺物がまとまっているため、同時期の可能性が高いと考えている。

SK61 (第 41 図、写真図版 31)

[位置] 南東区南、IV K24 a グリッドに位置する。北東側は後世の掘削によって消失しており、東側は調査区外に広がっている。

[検出状況] Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] なし。

[規模] 確認できた規模は、開口部で 0.80×0.53 m で、底面までの残存深度は約 27cm である。

[埋土] 2層に分層した。大半は後世の攪乱層で、南西側では壁際に垂円礫や地山ブロックを含む区褐色シルトが確認でき、その後、暗褐色シルト質粘土層で埋没している。

[壁・底面の状況]底面はほぼ平坦である。北側の壁は底面からなだらかに立ち上がり、南側の壁はオーバーハングしている。

[遺物出土状況] 縄文土器 (38.3 g)、剥片 3 点が埋土から出土している。

[出土遺物] 掲載遺物なし。

[時代・時期] 時代を特定しうる遺物が伴わないため、時代・時期とも不明である。

SK64 (第 41 図、写真図版 32)

[位置] 南東区北、IV K22 b グリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で、黒褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] なし。

[規模] 開口部で1.20×1.20 mの円形で、底面までの残存深度は約16cmである。

[埋土] 黒褐色粘土質シルトの単層である。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦である。中央南寄りに1個のPitが伴い、北と南に溝が構築されている。壁は底面から直線的に立ち上がる。

[遺物出土状況] 縄文土器(5.3g)、剥片3点、磨石2点が埋土から出土している。

[出土遺物] 磨石(463)を掲載した。

[時代・時期] 形態的な特徴から、縄文時代に帰属するフラスコ状土坑の底面付近のみが残存する遺構と考えているが、詳細な時期を特定できる遺物は伴っていない。本遺構周辺では縄文時代前期後葉の遺構・遺物がまとまっているため、同時期の可能性が高いと考えている。

SK65 (第41図、写真図版32)

[位置] 南東区北、IV K19・20bグリッドに位置する。

[検出状況] III層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] SK66と重複しているが、一部であるため、新旧関係は不明である。

[規模] 開口部で1.90×1.10 mの楕円形で、底面までの残存深度は約16cmである。

[埋土] 断面図の記載はないが、暗褐色シルトの単層である。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦である。中央には1個のPitが伴い、北と西に溝が構築されている。壁は底面から直線的に立ち上がる。

[遺物出土状況] 縄文土器(0.7g)、RF1点、剥片2点が埋土やPitの埋土から出土している。

[出土遺物] RF(349)を掲載した。

[時代・時期] 形態的な特徴から、縄文時代に帰属するのは確実であるが、時期を特定できる遺物は伴っていない。本遺構周辺では縄文時代前期後葉の遺構・遺物がまとまっているため、同時期の可能性が高いと考えている。

SK66 (第41図、写真図版32)

[位置] 南東区北、IV K19bグリッドに位置する。

[検出状況] III層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] SK65と重複しているが、一部であるため、新旧関係は不明である。

[規模] 開口部で1.47×1.47 mの円形で、底面までの残存深度は約12cmである。

[埋土] 2層に分層した。壁際の一部には地山起源の褐色シルト層が三角形に堆積し、大部分が暗褐色シルトで埋没している。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦である。中央には1個のPitが伴い、北・南・西に溝が構築されている。壁は底面から直線的に立ち上がる。

[遺物出土状況] 縄文土器(32.4g)、剥片3点、磨石1点が埋土やPitの埋土から出土している。

[出土遺物] 磨石(464)を掲載した。

[時代・時期] 形態的な特徴から、縄文時代に帰属するのは確実であるが、時期を特定できる遺物は伴っていない。本遺構周辺では縄文時代前期後葉の遺構・遺物がまとまっているため、同時期の可能性が高いと考えている。

SK67 (第 41 図、写真図版 32)

[位置] 南東区北、IV K18・19 ab グリッドに位置する。

[検出状況] III層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] なし。

[規模] 開口部で 2.08×1.10 m の円形で、底面までの残存深度は約 16cm である。

[埋土] 2層に分層でき、壁際には地山起源の褐色シルト層が三角形状に堆積し、大部分が暗褐色シルトで埋没している。堆積状況は SK66 と酷似している。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦である。中央及び長軸端に各 1 個、計 3 個の Pit が伴い、Pit を連結するように溝が構築されている。壁は底面から直線的に立ち上がる。

[遺物出土状況] 縄文土器 (181.8 g)、RF1 点、剥片 4 点が埋土や Pit の埋土から出土している。

[出土遺物] RF (350) を掲載した。

[時代・時期] 出土遺物や形態的な特徴から、縄文時代前期後葉に帰属すると考えられる。

SK69 (第 41 図、写真図版 33)

[位置] 南東区北、IV K18 ab グリッドに位置する。

[検出状況] III層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] なし。

[規模] 開口部で 1.70×1.65 m の円形で、底面までの残存深度は約 17cm である。

[埋土] 2層に分層した。壁際の一部には地山起源の褐色シルト層が堆積し、大部分が暗褐色シルトで埋没している。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦で、中央に 1 個の Pit が伴う。壁は底面から直線的に立ち上がる。

[遺物出土状況] 縄文土器 (58.2 g)、RF1 点、剥片 4 点、磨石 1 点が埋土から出土している。

[出土遺物] 磨石 (465) を掲載した。

[時代・時期] 出土遺物や形態的な特徴から、縄文時代前期後葉に帰属すると考えられる。

SK71 (第 42 図、写真図版 33)

[位置] 南東区北、IV K16 a グリッドに位置する。

[検出状況] III層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] なし。

[規模] 開口部で 1.00×1.00 m の円形で、底面までの残存深度は約 15cm である。

[埋土] 2層に分層した。全体的に暗褐色シルトを主体とするが、壁際から底面にかけては地山ブロックの混入が多く確認できる。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦である。壁は底面から直線的に立ち上がる。

[遺物出土状況] 縄文土器 (2.0 g) が埋土から出土しているが、異時代のものである。

[出土遺物] 掲載遺物なし。

[時代・時期] 時代の特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

SK73 (第 42 図、写真図版 33)

[位置] 南東区北、IV K17 b グリッドに位置する。南東側は調査区外に広がっている。

[検出状況] III層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] SI16 と重複し、本遺構が新しい。

[規模] 確認できた規模は、開口部で 1.13×0.80 m の隅丸長方形で、底面までの残存深度は約 50cm である。

[埋土] 5層に分層した。底面には地山起源の黄褐色砂質シルトが部分的に確認でき、底面付近には黒褐色シルト層が薄く堆積している。その後、暗褐色シルト、黒褐色シルト、暗褐色シルトの順で埋没している。最上部は包含層の堆積層に類似している。

[壁・底面の状況] 長軸方向に対して斜めに検出しているため、断定はできないが、確認できた部分ではほぼ平坦である。壁は底面から直線的に立ち上がる。

[遺物出土状況] 縄文土器 (88.1 g)、剥片 2 点、礫器 1 点が埋土から出土している。

[出土遺物] 礫器 (461) を掲載した。

[時代・時期] 小破片が多いため詳細な時期は不明であるが、縄文時代前期に帰属する可能性が高いと考えられる。

SK74 (第 42 図、写真図版 35)

[位置] 南東区北、IV K16 a グリッドに位置する。西側は調査区外に広がっている。

[検出状況] SI12 の西側が深く掘り込まれていることより、別遺構と判断した。

[重複] SI12 と重複し、本遺構が古い。

[規模] 確認できた規模は、開口部で 1.70×0.80 m で、底面までの残存深度は約 35cm である。

[埋土] 2層に分層したが、暗褐色シルトを主体とする。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦である。壁は底面から直線的に立ち上がる。

[遺物出土状況] 縄文土器 (49.5 g) が埋土から出土している。

[出土遺物] 掲載遺物なし。

[時代・時期] SI12 より古いため、縄文時代前期後葉以前である。

SK75 (第 42 図、写真図版 34)

[位置] 北西区、III J17 f グリッドに位置する。確認調査の範囲にあり、北側半分の掘削は行っていない。

[検出状況] III層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] SB10 とプランが重複するが、SB10 を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[規模] 開口部で 0.95×0.93 m の円形で、底面までの残存深度は約 63cm である。

[埋土] 5層に分層した。常に湧水があるため、最下層の観察は困難であったが、暗褐色もしくは極暗褐色シルト主体で埋没している。最上部には亜円礫を含む黒褐色シルトで完全に埋没している。

[壁・底面の状況] 底面は非常に狭く平坦である。壁は底面から直線的に立ち上がる。

[出土遺物] なし。

[時代・時期] 遺物が伴わないが、SK121 と形態的に類似しており、中世に帰属する可能性が高いものと考えられる。

SK76 (第 42 図、写真図版 34)

[位置] 北西区、III J17 g グリッドに位置する。西側半分は確認調査の範囲にあるが、通常の遺構と同じ調査を行った。

2 検出遺構

[検出状況] Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] SB52・53 とプランが重複するが、SB52・53 を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[規模] 開口部で0.78×0.67 m の歪な楕円形で、底面までの残存深度は約 22cm である。

[埋土] 地山ブロック・黒褐色土ブロック・炭化物粒を含む暗褐色シルトの単層である。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦である。壁は底面からなだらかに立ち上がる。

[遺物出土状況] 縄文土器 (48.3 g)、剥片 1 点が埋土から出土している。

[出土遺物] 掲載遺物なし。

[時代・時期] 時代の特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

SK81 (第 42 図、写真図版 34)

[位置] 東区、Ⅲ J23 t u グリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] P1483・1635 と重複し、本遺構が新しい。また、SB46 とプランが重複するが、SB46 を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[規模] 開口部で0.99×0.65 m の歪な楕円形で、底面までの残存深度は約 40cm である。

[埋土] 地山ブロックを含む暗褐色シルトの単層である。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦である。壁は底面から直立気味に立ち上がる。

[遺物出土状況] 縄文土器 (43.4 g)、剥片 1 点が埋土から出土している。

[出土遺物] 掲載遺物なし。

[時代・時期] 時代の特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

SK82 (第 43 図、写真図版)

[位置] 東区、Ⅲ J23・24 t グリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] P1485 と重複し、本遺構が古い。また、SB46、P1636 とプランが重複するが、SB46 を構成する柱穴との直接の切り合いがないため、P1636 とは切り合い関係が極一部であるため、新旧関係は不明である。

[規模] 開口部で0.87×0.60 m の歪な楕円形で、底面までの残存深度は約 24cm である。

[埋土] 3層に分層した。中央部に貫入するように黒褐色シルト層 (2層) が確認できるが、大部分は暗褐色シルトを主体 (1・3層) で埋没している。

[壁・底面の状況] 底面は中央部が浅くくぼんでいる。壁は底面から緩やかに立ち上がる。

[遺物出土状況] 黒曜石製剥片 1 点が埋土から出土している。

[出土遺物] 黒曜石製剥片 (418) を掲載した。

[時代・時期] 時代の特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

SK85 (第 43 図、写真図版 35)

[位置] 東区、Ⅲ J25 s グリッドに位置する。西側の大部分が調査区外に広がっている。

[検出状況] Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] なし。

- [規模] 一部のみの確認であるため、規模は不明である。確認できた残存深度は約 16cm である。
- [埋土] 地山ブロックを含む暗褐色シルトの単層である。
- [壁・底面の状況] 底面の中央部にマウント状の高まりが確認でき、周縁がやや深くなっている。壁は底面から直立気味に立ち上がる。
- [遺物出土状況] 楔形石器 1 点が埋土から出土している。
- [出土遺物] 楔形石器 (346) を掲載した。
- [時代・時期] 時代の特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

SK86 (第 43 図、写真図版 35)

- [位置] 東区、IV J2st グリッドに位置する。
- [検出状況] III 層上面で、黒褐色シルトの広がりとして検出した。
- [重複] P1803 と重複し、本遺構が新しい。
- [規模] 開口部で 1.86×1.63 m の不整形で、底面までの残存深度は約 16cm である。
- [埋土] 黒褐色シルトの単層である。
- [壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦である。壁は底面から直線的に立ち上がる。
- [遺物出土状況] 縄文土器 (604.4 g)、石匙 2 点、RF1 点、剥片 4 点、石皿 1 点が埋土から出土している。
- [出土遺物] 縄文土器 (97)、石匙 (338)、RF (352)、石皿 (525) を掲載した。
- [時代・時期] 出土遺物から縄文時代に帰属する可能性が考えられるが、詳細は不明である。

SK87 (第 43 図、写真図版 35)

- [位置] 東区、IV J4t・5st グリッドに位置する。東側は調査区外に広がっている。
- [検出状況] III 層上面で、黒褐色シルトの広がりとして検出した。
- [重複] なし。
- [規模] 開口部で 2.26×0.80 m の不整形で、底面までの残存深度は約 38cm である。
- [埋土] 主体となる堆積土の色調や地山ブロックの混入量により 3 層に分層したが、混入物が多く人為堆積の可能性が高いと考えられる。
- [壁・底面の状況] 底面は凹凸が目立つ。特に中央部はピット状にくぼんでいる。壁は底面からなだらかに立ち上がる。
- [遺物出土状況] 縄文土器 (141.7 g)、RF1 点、磨石 1 点、土師器 (4.62 g) が埋土から出土している。
- [出土遺物] RF と磨石を掲載したが、異時代の遺物の可能性が高い。
- [時代・時期] 土師器が出土しており、少なくとも平安時代以降であることは確実であるが、詳細な時代・時期は不明である。

SK88 (第 43 図、写真図版 36)

- [位置] 東区、IV J5・6s グリッドに位置する。
- [検出状況] III 層上面で、黒褐色シルトの広がりとして検出した。
- [重複] SD64 と重複し、本遺構が古い。
- [規模] 開口部で 1.65×0.86 m の不整形で、底面までの残存深度は約 30cm である。
- [埋土] 地山ブロックの有無と混入量で 3 層に分層したが、黒褐色シルトを主体とする。
- [壁・底面の状況] 底面の南北両端にピット状のくぼみがあり、浅い凹凸が確認できる。壁は底面か

2 検出遺構

ら直線的に立ち上がる。

[出土遺物] なし。

[時代・時期] 遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

SK89 (第44図、写真図版36)

[位置] 東区、IV J9s グリッドに位置する。

[検出状況] III層上面で、黒褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] P1578 と重複するが、重複部分が極一部であるため、新旧関係は不明である。

[規模] 開口部で0.62×0.59mの円形で、底面までの残存深度は約42cmである。

[埋土] 2層に分層した。下部は地山ブロックを含む暗褐色シルトを主体とし、上部は黒褐色シルトを主体とする。堆積土三角形もしくはレンズ状に堆積しており、自然堆積の可能性が高い。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦である。壁は底面から直線的に立ち上がる。

[遺物出土状況] 縄文土器(712.6g)が埋土から出土している。

[出土遺物] 縄文土器(98)を掲載した。

[時代・時期] 出土遺物から縄文時代に帰属する可能性が考えられるが、詳細は不明である。

SK90 (第44図、写真図版36)

[位置] 東区、IV J10・11s グリッドに位置する。

[検出状況] III層上面で、黒褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] なし。

[規模] 開口部で1.06×0.76mの歪な楕円形で、底面までの残存深度は約21cmである。

[埋土] 地山ブロックの有無により2層に分層したが、黒褐色シルトを主体とする。

[壁・底面の状況] 底面は凹凸が見られ、特に北東隅には、ピット状のくぼみが確認できる。壁は底面から直線的に立ち上がる。

[出土遺物] なし。

[時代・時期] 遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

SK91 (第44図、写真図版36)

[位置]、北西区、III J17v・18vw グリッドに位置する。

[検出状況] III層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] SB42 とプランが重複するが、SB42 を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明であるが、本遺構が縄文時代の遺構の可能性が高いことを考慮すると、本遺構が古いこととなる。なお、同時代の遺構との重複関係はない。

[規模] 開口部で1.43×1.05mの楕円形で、底面までの残存深度は約45cmである。主軸方向はN37°Wである。

[埋土] 4層に分層した。底面及び壁付近には地山起源の褐色シルトや暗褐色シルトが堆積し、その上部に叩くと金属音がするかたくしまった黒褐色～暗褐色を呈するシルト層がレンズ状に厚く堆積している。最後には地山ブロックを含む暗褐色シルトで完全に埋没している。

[壁・底面の状況] 底面は皿状を呈し、中央にPitが1個伴う。底面からの深さは最大で29cmで、埋土は暗褐色シルトの単層である。壁は底面からなだらかに立ち上がる。

[出土遺物] なし。

[時代・時期] 形状は陥し穴に類似している。そのため、縄文時代に帰属する可能性が高い。

SK121 (第 44 図、写真図版 37)

[位置] 南西区、IV J17f グリッドに位置する。確認調査の範囲にあるが、通常の遺構と同じ調査を行った。

[検出状況] III層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] なし。

[規模] 開口部で 1.45×1.39 m の円形で、底面までの残存深度は約 100cm である。

[埋土] 6層に分層した。最下部には壁の崩落土と考えられる黄褐色土が三角形状に堆積し、その上部には人為堆積と考えられる地山ブロックを多量に混入するにぶい黄褐色土が堆積している。4層は混入物が少ないが、上面が水平になっており、人為的に埋め戻された可能性が想定される。上半部は暗褐色土主体で埋没している。3層は地山ブロックとの混合層で人為堆積の可能性が高い。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦である。壁の下部は直立し、上部で外傾しながら立ち上がる。

[遺物出土状況] 縄文土器 (8.8 g)、土師器 (15.76 g)、須恵器 (43.82 g)、常滑 1 点が埋土から出土している。

[出土遺物] 常滑 (576) を掲載した。

[時代・時期] 出土遺物から中世に帰属する可能性が高い。

SK131 (第 44 図、写真図版 37)

[位置] 西区、III J20・21f グリッドに位置する。確認調査の範囲にあるが、通常の遺構と同じ調査を行った。

[検出状況] III層上面で、地山とは異なる焼土粒を含む褐色の広がりとして検出した。

[重複] SD111 に切られ、本遺構が古い。また、SB55 とプランが重複するが、SB55 を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[規模] 開口部で 1.03×0.94 m の歪な楕円形で、底面までの残存深度は約 10cm である。

[埋土] 褐色シルトの単層である。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦である。残存状態が悪く、壁はわずかし確認できない。

[遺物出土状況] 縄文土器 (36.9 g)、剥片 5 点、黒曜石製剥片 1 点、不明石製品 1 点が埋土から出土している。

[出土遺物] 不明石製品を掲載したが、異時代の遺物の可能性が高い。

[時代・時期] 時代の特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

SK132 (第 45 図、写真図版 37)

[位置] 西区、III J23f グリッドに位置する。確認調査の範囲にある。西側は 1 次調査区内に広がっているが、1 次調査では検出されていない。

[検出状況] III層上面で、黒褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] なし。

[規模] 確認できた部分から判断すると、開口部で直径 1.40 m の円形を呈するものと考えられる。底面までの残存深度は約 76cm である。

[埋土] 6層に分層した。地山起源の壁の崩落土層と考えられる黄褐色土層を間に挟むが、下半は暗

2 検出遺構

褐色土を主体とする。三角形状やレンズ状の堆積をしており、自然堆積の可能性が高いと考えられる。上半は焼土粒・炭化物粒、地山ブロックを含む黒褐色土で埋没している。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦である。壁は底面から開き気味に立ち上がる。

[遺物出土状況] 縄文土器（162.9 g）、剥片 2 点が埋土から出土している。

[出土遺物] 掲載遺物なし。

[時代・時期] 縄文土器が出土しているが、形態的な特徴は SK121 と類似しており、本遺構も中世に帰属するものと考えている。

SK133（第 45 図、写真図版 37）

[位置] 西区、Ⅲ J21 f グリッドに位置する。確認調査の範囲にあるが、複数の遺構と重複しており、通常の遺構と同じ調査を行った。

[検出状況] Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] SD112、P1064 に切られ、本遺構が古い。また、SB56 とプランが重複するが、SB56 を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[規模] 部分的にしか残存しておらず、規模は不明である。平面形は、残存する部分から判断すると、楕円形を呈するものと考えられる。底面までの残存深度は約 10cm である。

[埋土] 暗褐色シルトの単層である。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦である。壁は底面から直線的に立ち上がる。

[遺物出土状況] 縄文土器（14.9 g）が埋土から出土している。

[出土遺物] 掲載遺物なし。

[時代・時期] 時代の特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

SK135（第 45 図、写真図版 38）

[位置] 西区、Ⅲ J24・25 f グリッドに位置する。確認調査の範囲にあり、北側半分の掘削は行っていない。

[検出状況] Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] P1254 と重複するが、切り合い関係が不明瞭であるため、新旧関係は不明である。

[規模] 開口部で 1.16×0.74 m の歪な楕円形で、底面までの残存深度は約 20cm である。

[埋土] 暗褐色シルトの単層である。

[壁・底面の状況] 底面は中央部がやや浅くくぼんでいる。壁は底面からなだらかに立ち上がる。

[出土遺物] なし。

[時代・時期] 遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

SK137（第 45 図、写真図版 24・25）

[位置] 西区、Ⅲ J24 g グリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] なし。

[規模] 開口部で 2.33×1.24 m の長楕円形で、底面までの残存深度は約 80cm である。主軸方向は N35° E である。

[埋土] 5 層に分層した。暗褐色土を主体とする。下部には三角形状に地山起源の褐色土が堆積しており、壁の崩落土層と考えられる。基本的にレンズ状の堆積状況を呈しており、自然堆積の可能性が

高いと考えられる。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦で、長軸方向に2個のPitが確認された。2個ともにぶい黄褐色土の単層である。壁の下部は直立気味に立ち上がり、上部で外傾しながら立ち上がる。

[遺物出土状況] 縄文土器(28.3g)が埋土から出土している。

[出土遺物] 掲載遺物なし。

[時代・時期] 縄文時代の陥し穴である。形態的な特徴から縄文時代前期に帰属する可能性が高い。

SK141 (第46図、写真図版25)

[位置] 西区、ⅢJ23・24fグリッドに位置する。確認調査の範囲にあるが、底面の構造確認のため、通常の遺構と同じ調査を行った。

[検出状況] Ⅲ層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] なし。

[規模] 開口部で2.14×1.54mの長楕円形で、底面までの残存深度は約71cmである。主軸方向はN29°Eである。

[埋土] 6層に分層した。6層は逆茂木の痕跡で、3層堆積まで残存していたことが見て取れる。下部は地山起源の褐色土もしくはぶい黄褐色土を主体とする。中～上部は暗褐色土を主体とする。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦で、長軸方向に2個のPitが確認された。Pit1は暗褐色土の単層、Pit2はぶい黄褐色土の単層である。壁の下部は直立気味に立ち上がり、中間部に変化点があり、そこから大きく開きながら立ち上がる。

[遺物出土状況] 縄文土器(46.9g)、剥片1点が埋土から出土している。

[出土遺物] 掲載遺物なし。

[時代・時期] 縄文時代の陥し穴である。形態的な特徴から縄文時代前期に帰属する可能性が高い。

SK142 (第46図、写真図版38)

[位置] 西区、ⅣJ3gグリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で、極暗褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] なし。

[規模] 開口部で1.20×0.83mの歪な楕円形で、底面までの残存深度は約23cmである。

[埋土] 極暗褐色シルトの単層である。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦である。壁は底面からなだらかに立ち上がる。

[遺物出土状況] 縄文土器(663.4g)、石鏃1点、石匙1点、剥片8点、磨石2点が埋土から出土している。

[出土遺物] 石鏃(537)、石匙(330)を掲載した。

[時代・時期] 出土遺物から縄文時代前期に帰属する可能性が考えられるが、詳細は不明である。

SK143 (第46図、写真図版38)

[位置] 西区、ⅣJ3・4gグリッドに位置する。東側は調査区外に広がっている。

[検出状況] Ⅲ層上面で、黒褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] SI21とプランが重複するが、SI21と直接切り合わないため、新旧関係は不明である。重複する部分がないことを考慮すると、SI21を構成する遺構の一部である可能性も考えられる。

[規模] 確認できた規模は、開口部で1.32×0.72mで、円形基調の可能性が高い。底面までの残存

2 検出遺構

深度は約 20cm である。

[埋土] 黒褐色シルトの単層である。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦である。壁は底面からなだらかに立ち上がる。

[遺物出土状況] 縄文土器 (698.9 g)、剥片 3 点が埋土から出土している。

[出土遺物] 掲載遺物なし。

[時代・時期] 出土遺物から縄文時代前期に帰属する可能性が考えられるが、詳細は不明である。

SK145 (第 46 図、写真図版 41)

[位置] 西区、IV J15 f g グリッドに位置する。

[検出状況] III層上面で、暗褐色シルトの広がりとして検出した。

[重複] なし。

[規模] 開口部で 1.11×1.06 m の円形で、底面までの残存深度は約 72cm である。

[埋土] 9層に分層した。黒褐色土主体で埋没している。最下部は有機質のものが多いのか、黒みが強く、酸化鉄の集積が見られる。7層は地山起源の堆積層で壁の崩落土の可能性が高い。1～3層は地山ブロックが多く混入し、人為堆積の可能性が高い。

[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦である。壁の下半は直立気味に立ち上がり、上半で開き気味に立ち上がる。

[遺物出土状況] 縄文土器 (5.0 g)、磨石 1 点が埋土から出土している。

[出土遺物] 掲載遺物なし。

[時代・時期] 少量の縄文土器が出土しているが、類似する形態の遺構である SK121 が中世に帰属する可能性が高いため、本遺構も中世に帰属すると考えている。

(4) 堀跡・溝跡 (SD)

SD01 (第 47 図、写真図版 42)

[位置] H22 年度調査区の東側、III J14 r グリッド付近に位置する。南東側は調査区外に伸びているが、北東区では確認されなかった。

[検出状況] III層上面で暗褐色のプランとして確認した。北西側の延長線上に SD02 を検出しており、同一遺構の可能性が高いと考えていたが、途切れる部分があるため、別遺構として登録した。

[重複] P012・013 と重複しており、本遺構が P012 より新しいのは確かであるが、P013 との関係は不明である。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 3.89 m、上幅は最大で 0.52 m である。検出面からの深さは最大で 18cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 暗褐色砂の単層である。全体的に層高がなく、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

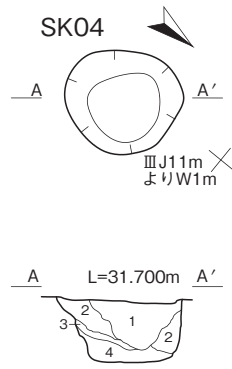
[その他] 現況の等高線に平行するように構築されている。区画溝の可能性が高い。

[出土遺物] なし。

[時代・時期] P012 より新しいことは確かであるが、時代を特定できる遺物が伴わず、詳細な時代・時期は不明である。

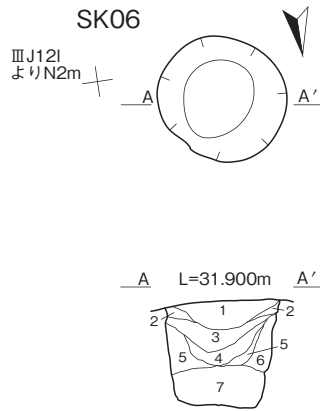
SD02 (第 47 図、写真図版 42)

[位置] H22 年度調査区の東側、III J14 r グリッド付近に位置する。南東側は調査区外に伸びているが、



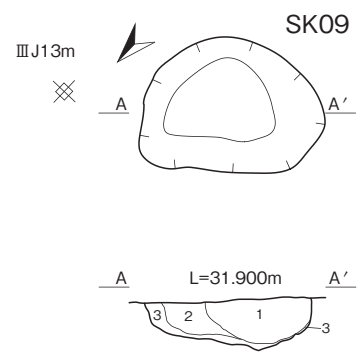
SK04

- 1 10YR3/4暗褐SI 粘性有 しまりやや有炭化物粒1%
- 2 10YR4/4褐SI 粘性有 しまりやや有炭化物粒1%
- 3 10YR3/4暗褐SI 粘性・しまりやや有炭化物粒5%
- 4 10YR3/3暗褐SI 粘性やや有 しまり有



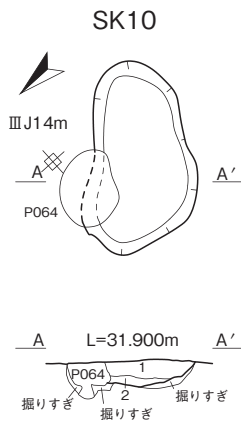
SK06

- 1 10YR2/1黒SI 粘性・しまりやや有
- 2 10YR2/2黒褐SI 粘性やや有 しまり中 地山B20%
- 3 10YR2/2黒褐SI 粘性やや有 しまり中 地山B5%
- 4 10YR2/2黒褐SI 粘性やや有 しまり中 地山B10%
- 5 10YR2/3黒褐SI 粘性・しまり中 地山B20%
- 6 10YR2/3黒褐SI 粘性・しまり中 地山B20%
- 7 10YR2/3黒褐SI 粘性中 しまりやや無 地山B5%



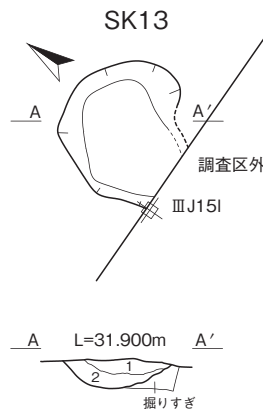
SK09

- 1 10YR3/4暗褐SI 粘性・しまりやや有
- 2 10YR3/3暗褐SI 粘性・しまりやや有 地山B1%
- 3 10YR3/4暗褐CSI 粘性・しまり有



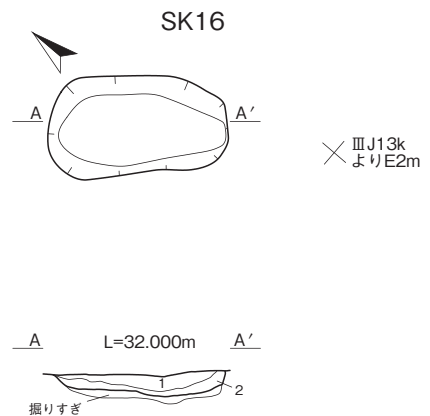
SK10

- 1 10YR3/4暗褐SI 粘性やや有 しまり中 地山B斑状に(φ1~2cm)30%・黒褐色土B5%
- 2 10YR4/4褐SISn 地山シルト(60%)と 地山砂(40%)の混土



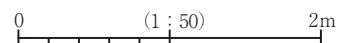
SK13

- 1 10YR3/3暗褐SISn 粘性やや無 しまりやや有 地山B5%(φ5mm)
- 2 10YR3/3暗褐SISn 粘性・しまりやや有 地山B50%、壁際は砂地山

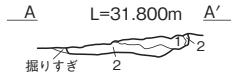
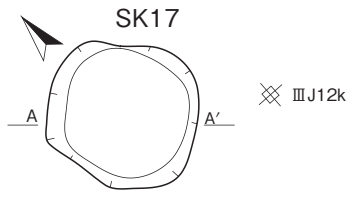


SK16

- 1 10YR2/3黒褐SI(20%)と10YR5/6黄褐SIC(30%) 粘性・しまりやや有 10YR4/6褐色砂質シルト(地山)が 斑状に大きく(φ~3cm)まじる
- 2 10YR3/3暗褐SISn 粘性・締めやや無 地山主体土に地山シルトブロック 細かく入る(φ2mm)10%

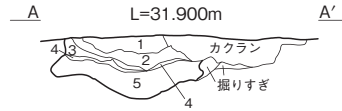
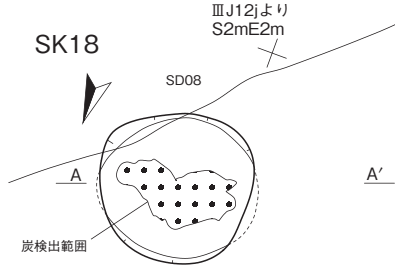


2 検出遺構



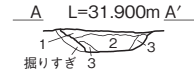
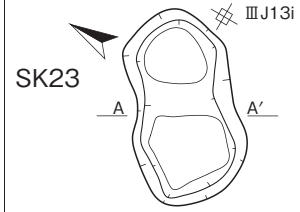
SK17

- 1 10YR3/3暗褐色S1 粘性やや無 しまりやや有
地山B15%
- 2 10YR5/6黄褐色S1 粘性・しまりやや無
10YR4/6褐色SnS1斑50%



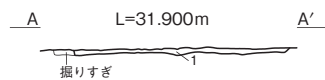
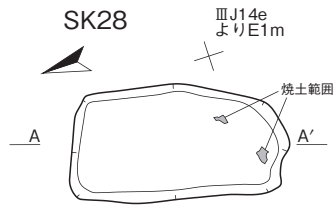
SK18

- 1 10YR3/3暗褐色S1 粘性やや無 しまりやや有
地山B15%全体に斑状に含む(φ~2cm)、炭1%(φ1mm)
- 2 10YR3/3暗褐色S1 粘性やや無 しまりやや有
地山B3%、炭・焼土2%(φ2~5mm)
- 3 10YR3/3暗褐色S1 粘性やや無 しまりやや有
地山B15%全体に斑状に含む、炭1%(φ1mm)、
1層に似る
- 4 炭化物層
- 5 10YR3/3暗褐色S1 粘性やや無 しまりやや有
地山B5%(φ~1cm)、炭・焼土3%



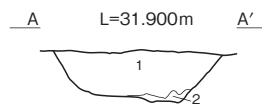
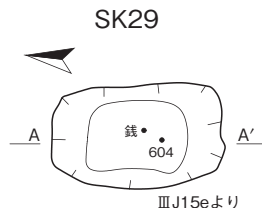
SK23

- 1 10YR3/3暗褐色S1 粘性・しまりやや無
地山B5%(φ~5mm)
- 2 10YR4/4褐色S1C 粘性・しまりやや有
- 3 10YR4/6褐色S1C 粘性・しまりやや有
地山よりやや黒みあり



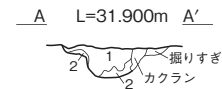
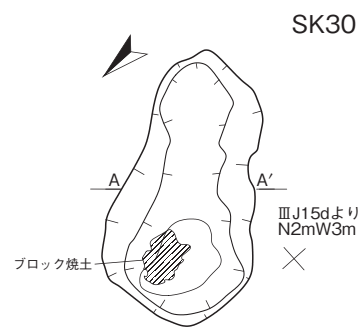
SK28

- 1 10YR4/6褐色S1 粘性やや無 しまりやや有
10YR3/3暗褐色シルト(20%)斑状にまじる



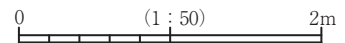
SK29

- 1 10YR3/3暗褐色S1C 粘性やや有 しまりやや無
地山Bが斑状に全体にはいる
- 2 1層と同じ主体土に地山B50%以上
粘性やや有 しまりやや無

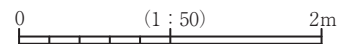
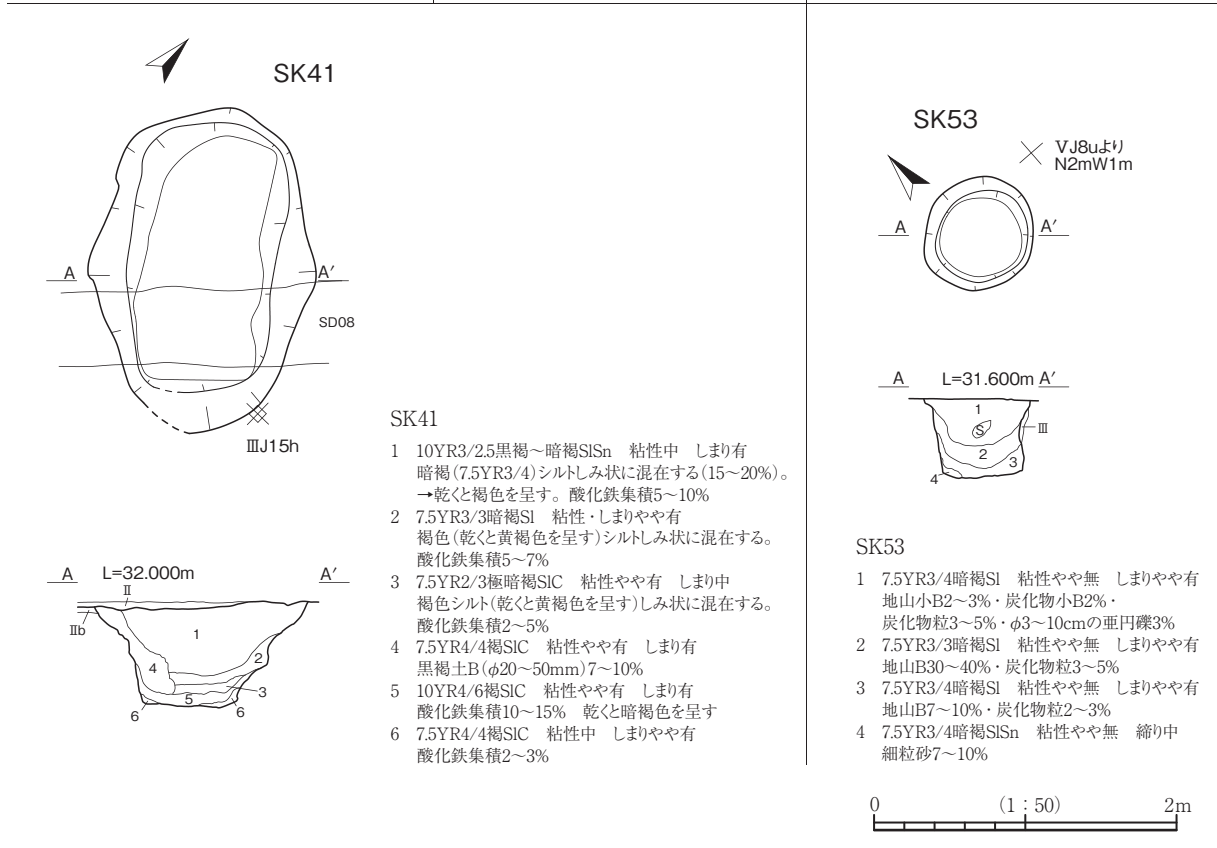
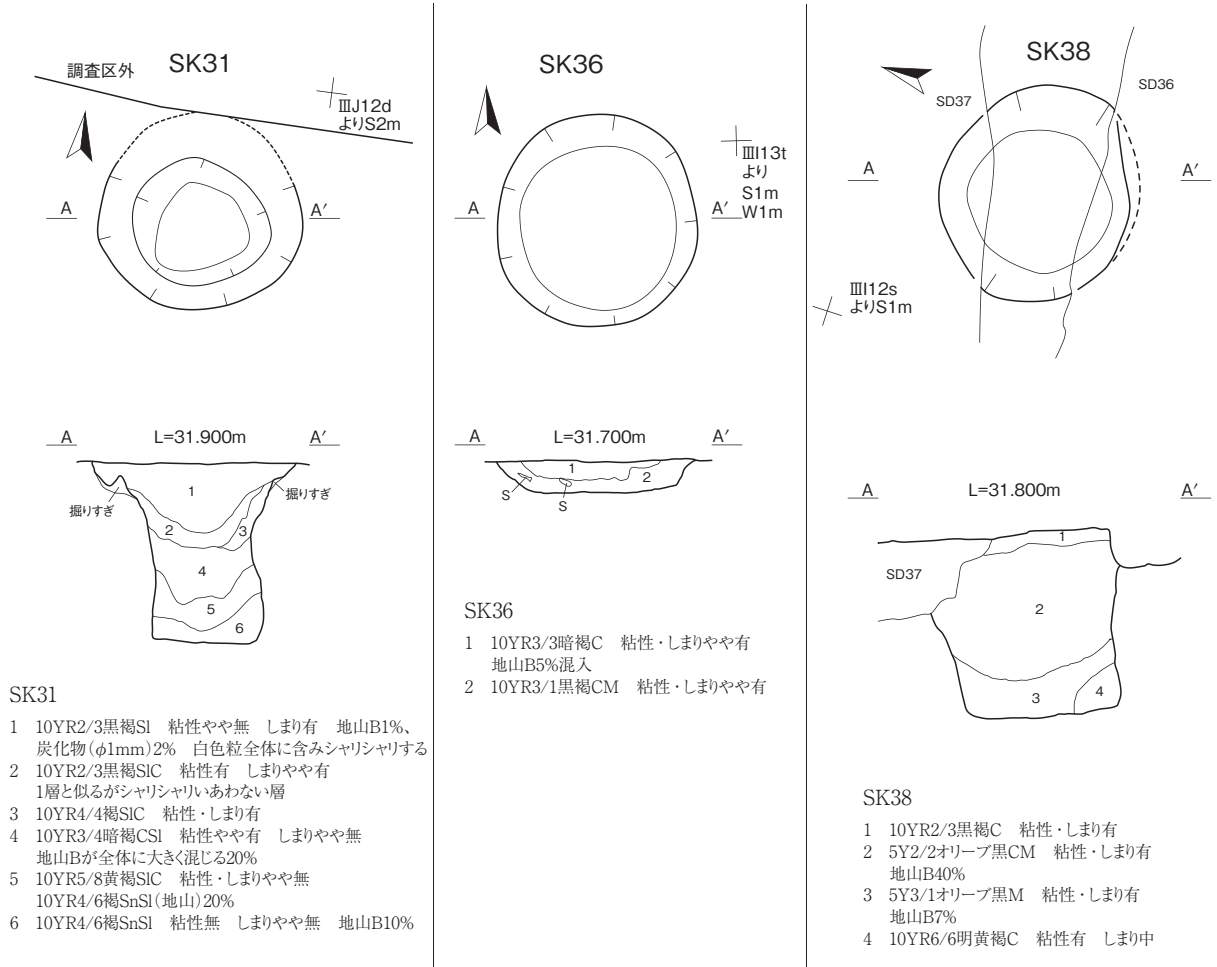


SK30

- 1 10YR2/3黒褐色S1C 粘性・しまりやや有
地山B・炭・焼土B1%(φ1~2mm)
- 2 10YR4/4褐色S1C 粘性・締り有
地山よりやや暗い色調を呈する



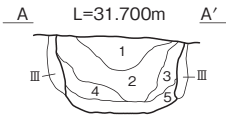
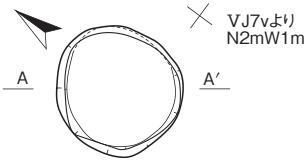
第38図 SK(2)



第39図 SK(3)

2 検出遺構

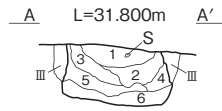
SK55



SK55

- 1 7.5YR3/4暗褐SI 粘性中 しまりやや有 焼土B10~15%・φ3~5cmの亜円礫2%
- 2 7.5YR3/4暗褐SI 粘性・しまりやや有 地山B15%・焼土粒1~2%・炭化物粒1%
- 3 10YR5/6黄褐SIC 粘性やや有 しまり有 黒褐色土小B3%
- 4 10YR5/6黄褐SIC 粘性中 しまり有 黒褐色土大B15%
- 5 7.5YR3/4暗褐SIC 粘性・しまりやや有 地山小B3~5%・焼土粒・炭化物粒1%

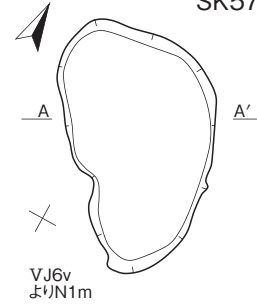
SK56



SK56

- 1 7.5YR3/4暗褐SI 粘性やや無 しまり有 地山Bブロック10%、酸化鉄斑見られる
- 2 7.5YR3/4暗褐SI 粘性・しまりやや有 地山B20~25%・焼土粒1%
- 3 10YR4/6褐SI 粘性中 しまりやや有 黒褐色シルトB15~20%
- 4 10YR5/6黄褐SIC 粘性やや有 しまり有 黒褐色土小B2%
- 5 10YR5/6黄褐SIC 粘性やや有 しまり有 黒褐色土B3~5%
- 6 7.5YR3/3暗褐SIC 粘性・しまりやや有 地山小B3~5%・炭化物粒1%

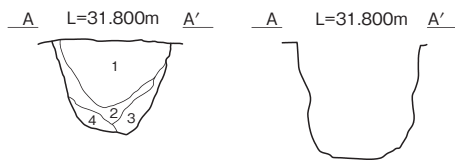
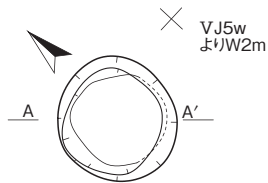
SK57



SK57

- 1 7.5YR3/4暗褐SI 粘性やや無 しまり有 地山B3%
- 2 7.5YR4/4褐SI 粘性中 しまりやや有 暗褐色シルトB3%・地山B7%

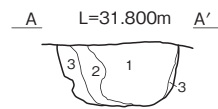
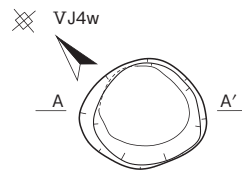
SK58



SK58

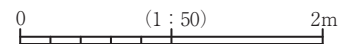
- 1 10YR3/2.5黒褐~暗褐SIC 粘性中 しまり有 φ5~10mmの亜円礫7~10%
- 2 10YR3/3.5暗褐SI 粘性やや有 しまり有 酸化鉄が斑状に見られる。
- 3 10YR4/6褐SI 粘性・しまりやや有 におい黄褐色土粒7%・黒褐色土小B5%
- 4 10YR4/6褐SI 粘性やや有 しまり有 黒褐色土小B3~5%

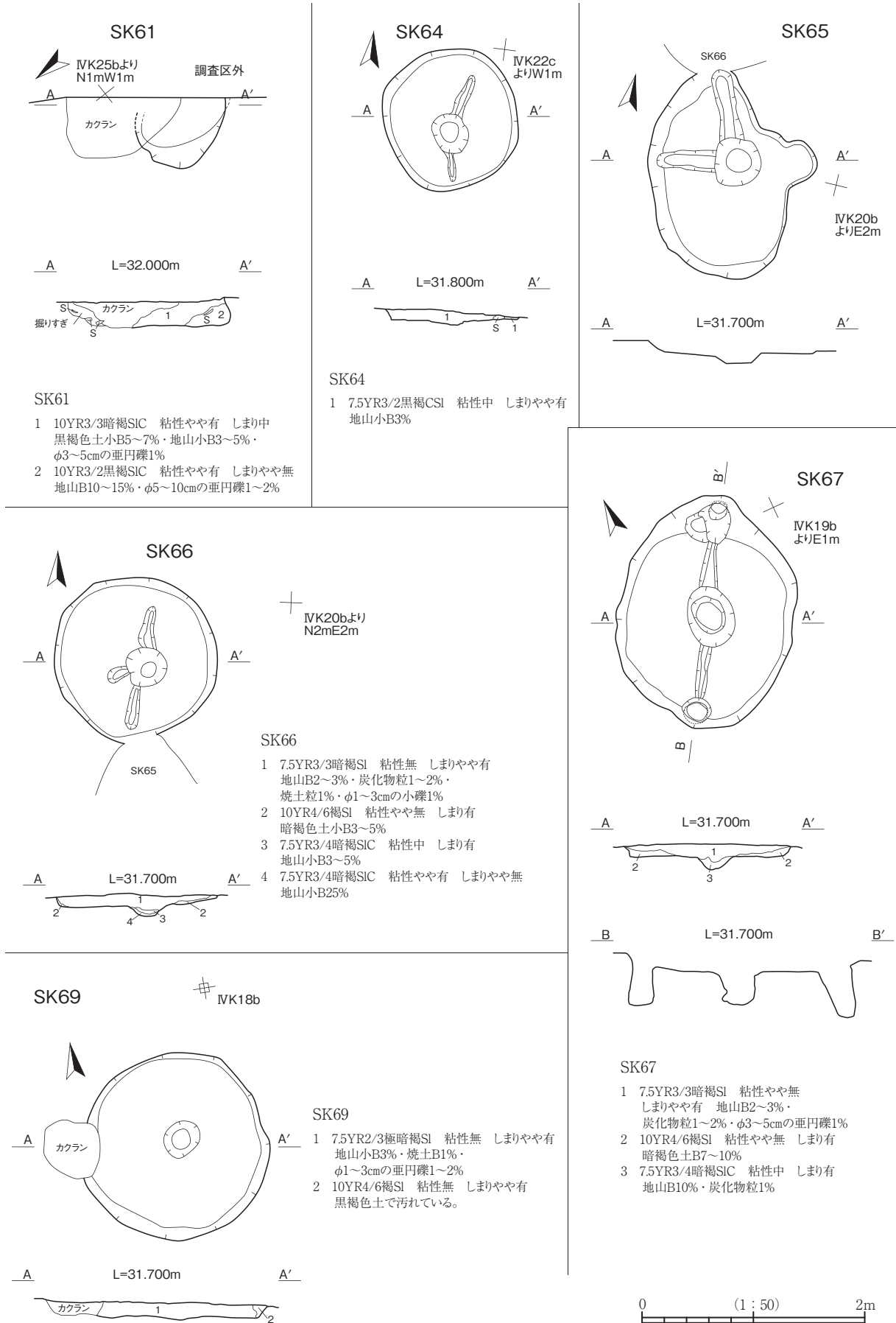
SK59



SK59

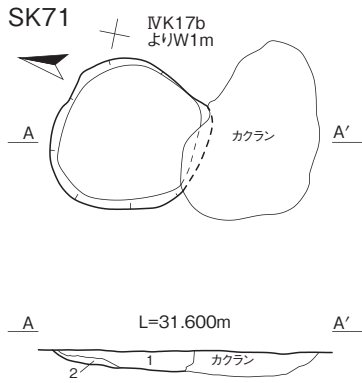
- 1 10YR3/2.5黒褐~暗褐SIC 粘性・しまり有 φ5~20mmの亜円礫15~20%
- 2 10YR3/3.5暗褐SI 粘性やや有 しまり有 酸化鉄が斑状に見られる。
- 3 10YR4/6褐SI 粘性中~やや無 しまりやや有 におい黄褐色土粒10~15%





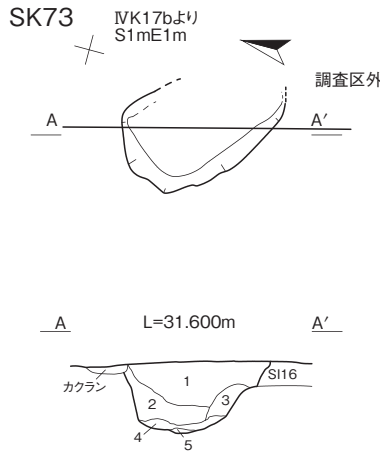
第41図 SK(5)

2 検出遺構



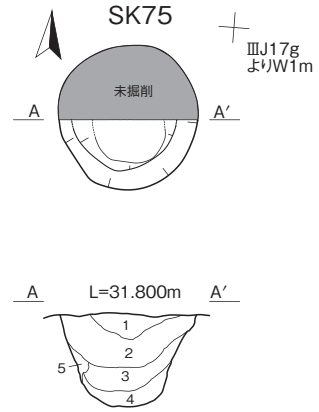
SK71

- 1 10YR3/3暗褐色土 粘性無 しまり有 地山小B7%
- 2 10YR3/3暗褐色土 粘性無 しまり有 地山B40%



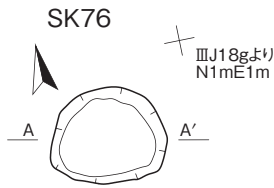
SK73

- 1 7.5YR3/3暗褐色土 粘性中 しまりやや有 地山小B3~5%・炭化物粒1%・焼土粒1~2%
- 2 7.5YR3/2黒褐色土 粘性・しまり中 地山層との混合層 炭化物粒1~2%
- 3 7.5YR3/4暗褐色土 粘性やや無 しまり有 地山小B2%・地山細粒3~5%・炭化物粒1%
- 4 7.5YR3/2黒褐色土 粘性中 しまりやや有 極細砂10%
- 5 10YR5/6黄褐色土 粘性無 しまりやや無



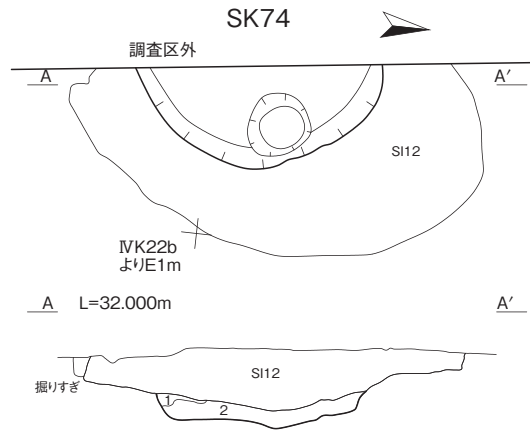
SK75

- 1 7.5YR3/2黒褐色土 粘性・しまり中 φ10~20mmの亜角礫1~2%
- 2 7.5YR3/3暗褐色土 粘性やや有 しまり中 地山B7~10%・φ10~50mmの亜角礫2~3%
- 3 7.5YR2/3極暗褐色土 粘性・しまりやや有
- 4 7.5YR3/4暗褐色土 粘性・しまりやや有 地山粒2~3%
- 5 7.5YR3/4暗褐色土 粘性・しまりやや有 地山B40%



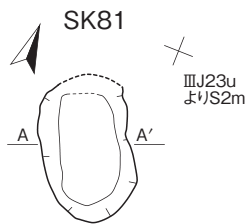
SK76

- 1 7.5YR3/3暗褐色土 粘性・しまりやや有 地山B5~7%・黒褐色土B7~10%・炭化物粒2~3%・焼土粒1%



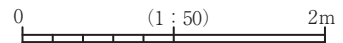
SK74

- 1 10YR4/6褐色土 粘性中 しまりやや有 暗褐色土B30%、南側の一部のみに見られる
- 2 7.5YR3/4暗褐色土 粘性・締めやや有 地山B1~2%・炭化物粒1%

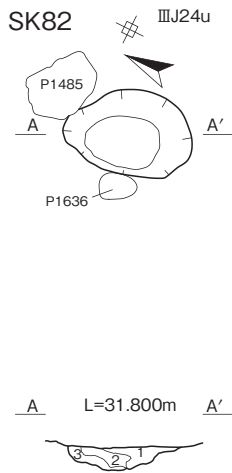


SK81

- 1 10YR3/3暗褐色土 粘性・しまりやや有 地山B小~大粒を50%含

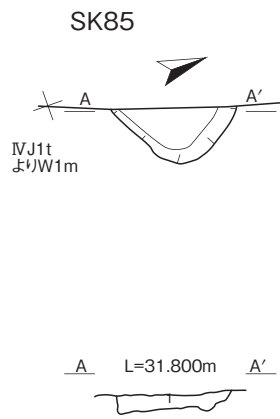


第42図 SK(6)



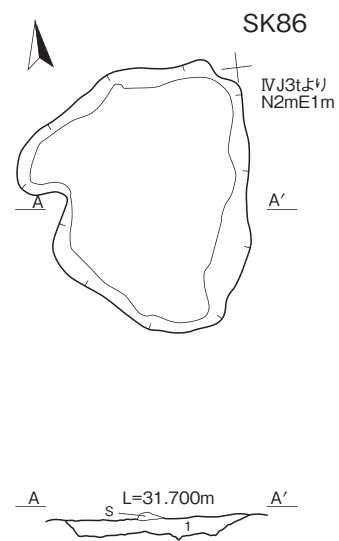
SK82

- 1 10YR3/3暗褐SI 粘性・しまりやや有 地山B(大粒)40~50%含
- 2 10YR2/3黒褐SI 粘性・しまりやや有 地山B(小粒)5%含
- 3 10YR3/4暗褐SI 粘性・しまりやや有 地山B(中~大粒)40~50%含



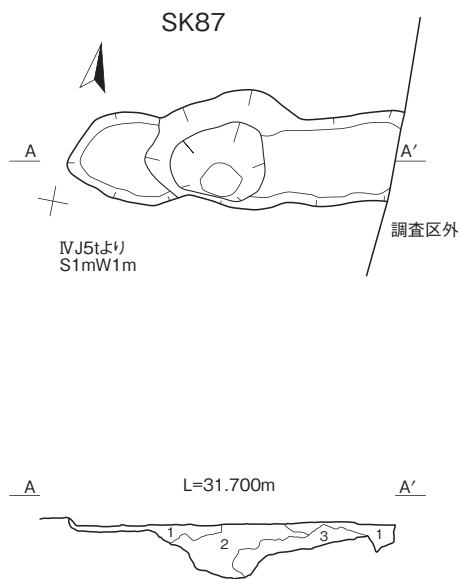
SK85

- 1 10YR3/3暗褐SI 粘性無 しまり有 地山B(小粒)を30%含



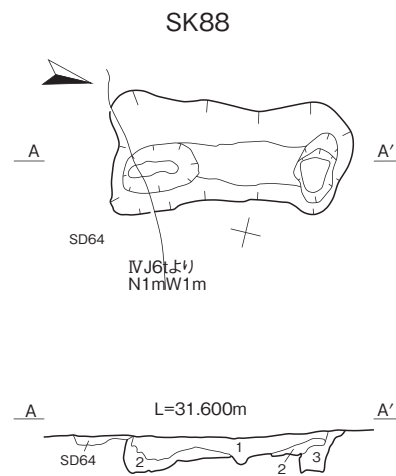
SK86

- 1 10YR2/3黒褐SI 粘性・しまりやや有 地山B(中~小粒)を25%・炭粒2%含



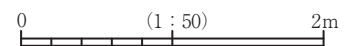
SK87

- 1 10YR3/2黒褐SI 粘性・しまりやや有 地山B(小粒)を5%含
- 2 10YR3/3暗褐SI 粘性・しまりやや有 地山B(中~大粒)を50%含
- 3 10YR4/4褐SI 粘性・しまりやや有 地山B(小~中粒)を30%含

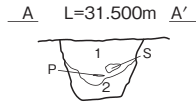
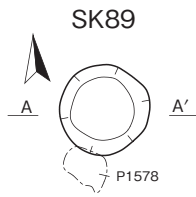


SK88

- 1 10YR2/3黒褐SI 粘性・しまりやや有
- 2 10YR3/2黒褐SI 粘性・しまりやや有 地山B(小粒)20%含
- 3 10YR2/2黒褐SI 粘性・しまりやや有 地山B(小粒)10%含



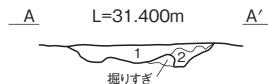
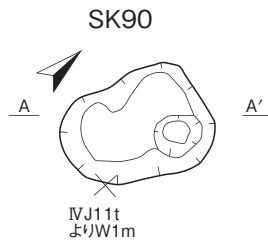
2 検出遺構



SK89

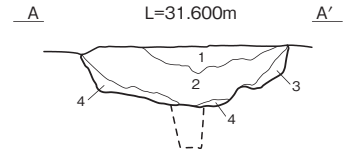
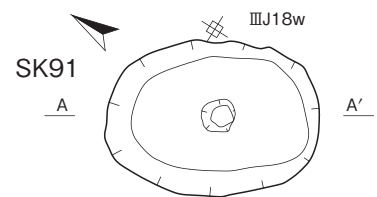
- 1 10YR2/3黒褐SI 粘性・しまりやや有
- 2 10YR3/3暗褐SI 粘性・しまりやや有
地山B(小粒)を30~40%含

IVJ9t
よりW1m



SK90

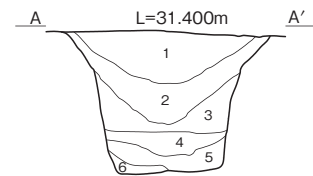
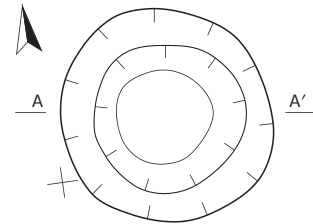
- 1 10YR2/3黒褐SI 粘性・しまりやや有
- 2 10YR2/3黒褐SI 粘性・しまりやや有
地山B(大粒)50%含



SK91

- 1 7.5YR3/4暗褐SI 粘性無 しまり有 地山B15%
全体に酸化鉄斑が見られる
- 2 7.5YR3/2.5黒褐~暗褐SI 粘性無 しまり有
非常にしまっている
- 3 7.5YR3/4暗褐SI 粘性無 しまり有
地山B25~30%
- 4 10YR4/6褐SI 粘性やや無 しまり有
地山B50%

SK121

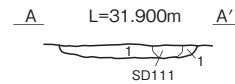
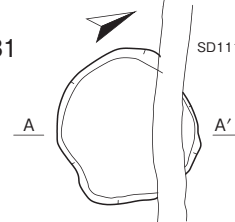


SK121

- 1 10YR3/3.5暗褐SI 粘性やや無 しまりやや有 地山B15~20%・炭化物粒1%・
焼土粒1%
- 2 10YR3/3.5暗褐SI 粘性やや無 しまりやや有 地山小B2~3%
亜円礫(φ20mm)1%
- 3 10YR3/3暗褐SI 粘性中 しまりやや有 地山大B50%
- 4 10YR3/1黒褐SIC 粘性やや有 しまり中 地山B3~5%
- 5 10YR4/3にぶい黄褐SIC 粘性有 しまりやや無 地山B40~50%
- 6 10YR5/6黄褐SIC 粘性有 しまりやや無 黒褐色粘土B7~10%

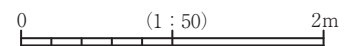
IVJ18f
よりN1m

SK131

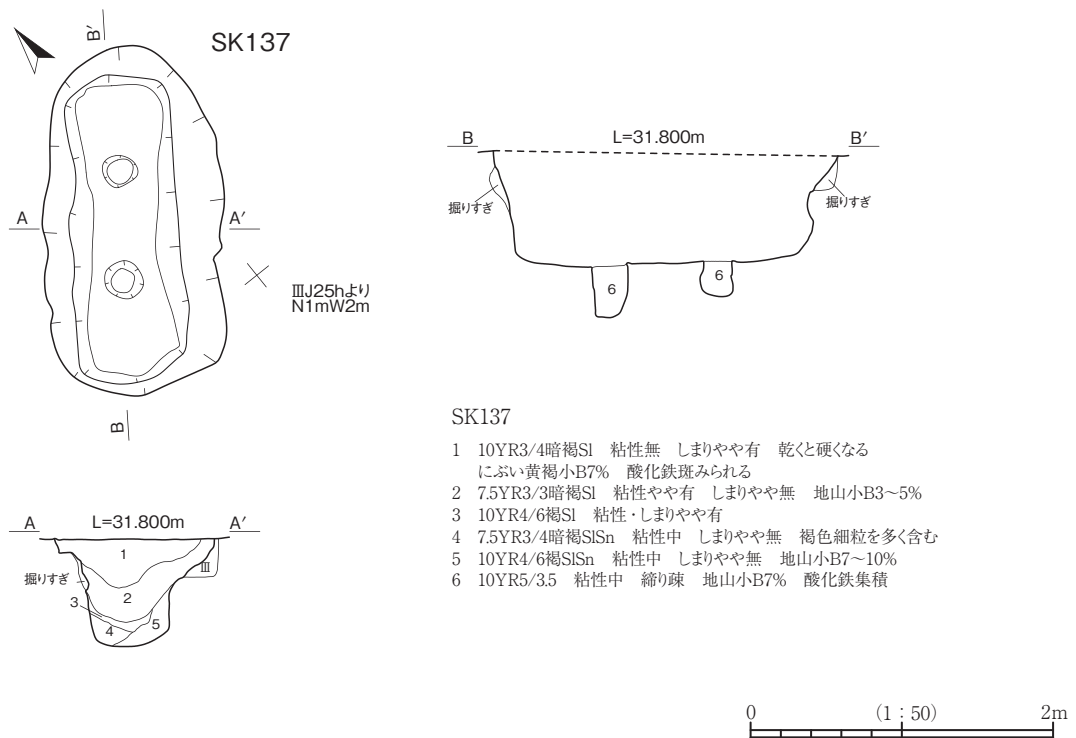
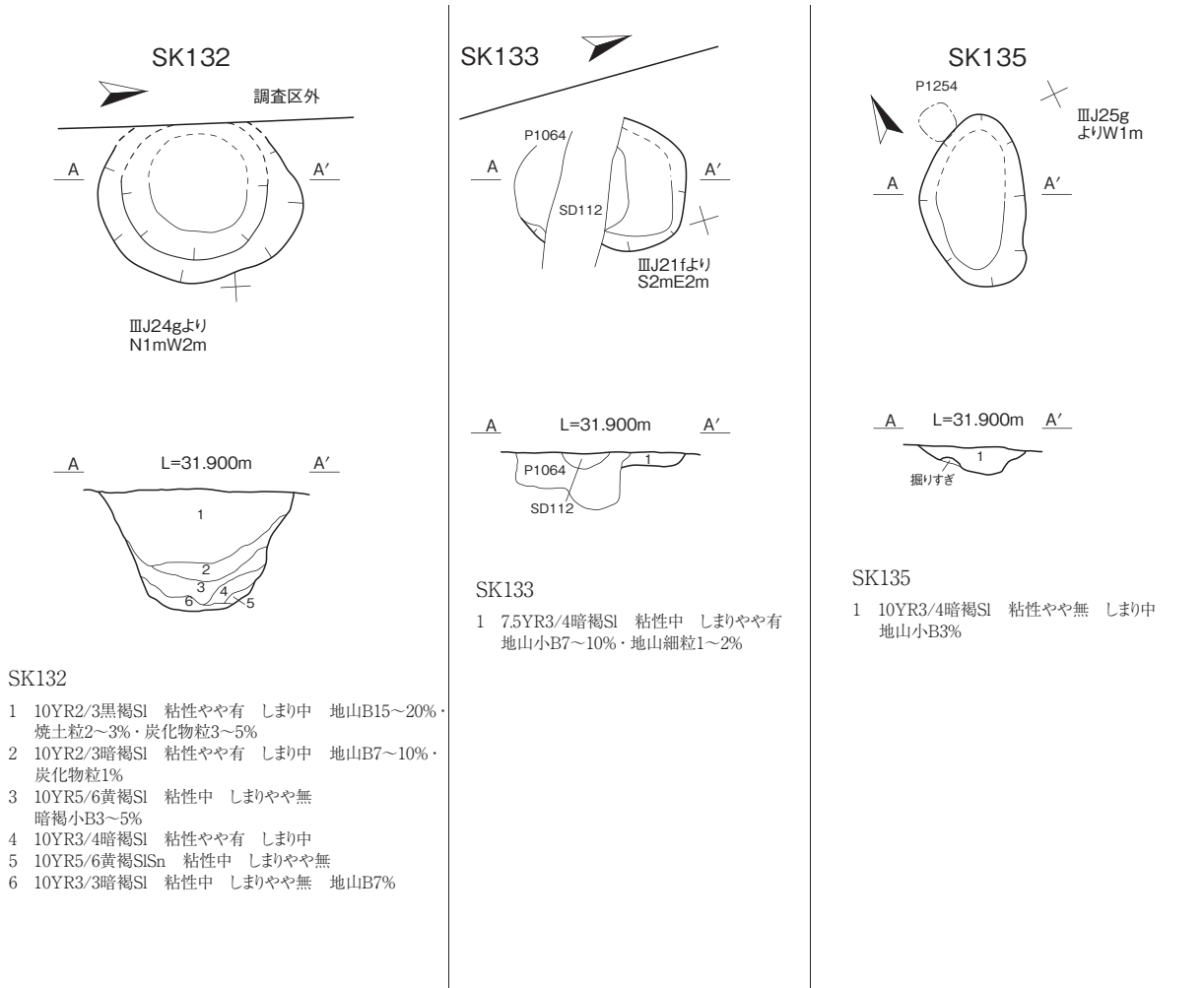


SK131

- 1 7.5YR4/4褐SI 粘性中 しまりやや有 地山小B7~10%・焼土粒1~2%

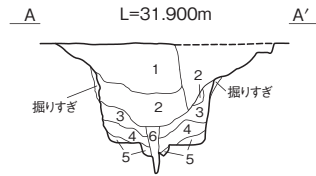
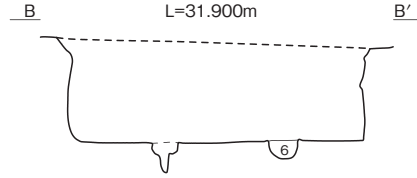
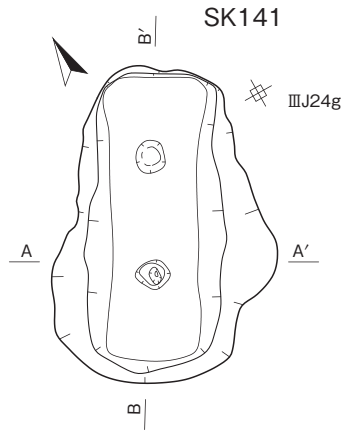


第44図 SK(8)



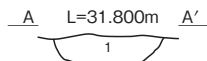
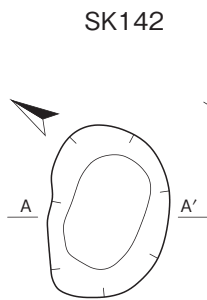
第45図 SK(9)

2 検出遺構



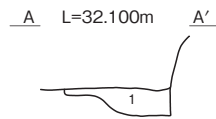
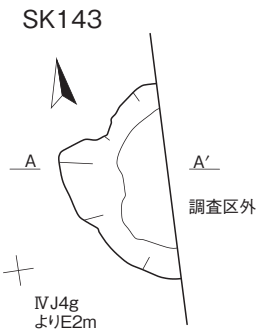
SK141

- 1 10YR3/4暗褐SI 粘性無 しまりやや有 非常に硬くなっている
黒褐小B7%・こぶい黄褐小B10% 酸化鉄斑みられる
- 2 7.5YR3/4暗褐SISn 粘性やや無 しまり中 黄褐砂粒を全体的に含む
- 3 10YR5/4こぶい黄褐SISn 粘性中 しまりやや無 地山小B5~7%
- 4 7.5YR4/4褐SISn 粘性中 しまりやや無 地山小B5~7%
- 5 10YR4/6褐SISn 粘性・しまり中
- 6 10YR4/3こぶい黄褐SI 粘性中 しまりやや無



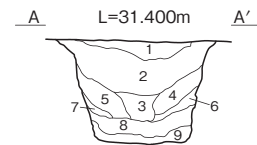
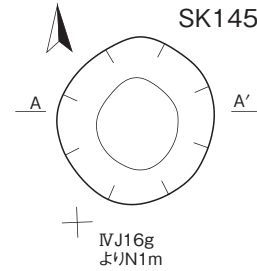
SK142

- 1 7.5YR2/3極暗褐SI 粘性中
しまりやや無 地山小B2%・
炭化物粒1~2%



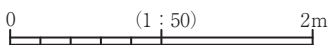
SK143

- 1 7.5YR2/2黒褐SI 粘性中
しまりやや有 地山小B5~7%・
炭化物粒1~2%・焼土粒1%



SK145

- 1 10YR3/3暗褐SIC 粘性・しまりやや有 地山B25~30%
- 2 10YR4/3こぶい黄褐SIC 粘性やや有 しまり中 地山B40%
- 3 10YR3/2黒褐SIC 粘性やや有 しまりやや無 地山B40%
- 4 10YR3/2黒褐SIC 粘性やや有 しまりやや無 地山B7%・
地山粒3~5%
- 5 10YR3/2黒褐SIC 粘性やや有 しまり中 地山小B5~7%・
褐色土B5%
- 6 10YR3/3暗褐SIC 粘性やや有 しまりやや無 褐色土B20%
- 7 10YR6/8明黄褐C 粘性・しまり有 黒褐色土B7~10%
- 8 10YR3/1黒褐C 粘性中 しまり無 地山小B15~20%
- 9 層との境には褐色土が1~2cmの厚さで層状をなしている
- 9 10YR2/1.5黒~黒褐C 粘性やや有 しまり無
褐色土小B7~10% 酸化鉄の集積が見られる



第46図 SK (10)

北東区では確認されなかった。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。南東側の延長線上にSD01を検出しており、同一遺構の可能性が高いと考えていたが、途切れる部分があるため、別遺構として登録した。

[重複] P178と重複しており、本遺構が新しい。

[規模] 調査区内で確認できた長さは3.89m、上幅は最大で0.52mである。検出面からの深さは最大で13cmで、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 暗褐色砂の単層である。全体的に層高がなく、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[その他] 現況の等高線に平行するように構築されている。区画溝の可能性が高い。

[出土遺物] なし。

[時代・時期] P178より新しいことは確かであるが、時代を特定できる遺物が伴わず、詳細な時代・時期は不明である。

SD07 (第47図、写真図版42)

[位置] H22年度調査区の中央～北西区、ⅢJグリッドに位置する。南西側は調査区外に延びているが、第1次調査では確認されておらず、途切れるか、西方向に曲がるものと考えられる。

[検出状況] Ⅲ層上面でにぶい黄褐色もしくは暗褐色のプランとして確認した。北東側では残存状態が悪く、2箇所途切れている。

[重複] SB10 (P1617)、SD11、P698～700・1616～1619と重複している。本遺構がSB10を構成するP1617やP1616を切っており、本遺構が新しい。SD11やその他の遺構とは切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。また、SB51とプランが重複するが、SB51を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[規模] 調査区内で確認できた長さは約23.5m、上幅は最大で0.74mである。検出面からの深さは最大で16cmで、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 北東側ではにぶい黄褐色～褐色シルト質粘土、南西側では暗褐色シルトを主体としている。全体的に層高がなく、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 縄文土器 (49.2g)、剥片2点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わないが、中世の帰属する可能性が高いSX26と平行しており、本遺構も中世に帰属する可能性が想定される。

SD08 (第48図、写真図版43)

[位置] H22年度調査区の西側～中央～北西区、ⅢJグリッドに位置する。南西側は調査区外に延びているが、第1次調査では確認されておらず、途切れるか、西方向に曲がるものと考えられる。

[検出状況] Ⅲ層上面でにぶい黄褐色もしくは暗褐色のプランとして確認した。

[重複] SI02、SB09 (P1614)、SK18・41、SD11、P083・084・125・136・156・1106・1107・1601・1615と重複している。本遺構がSI02、SK18・41、SD11を切っており、本遺構が新しい。その他については、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。また、SB10・51とプランが重複するが、掘立柱建物跡を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[規模] 調査区内で確認できた長さは約32.3m、上幅は最大で0.70mである。検出面からの深さは最大で19cmで、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 北東側ではにぶい黄褐色～褐色シルト質粘土、南西側では暗褐色シルトを主体とし、SD07

2 検出遺構

と類似している。全体的に層高がなく、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 縄文土器 (205.3 g)、剥片 3 点、黒曜石製剥片 1 点、石核 1 点、磨石 2 点、敲石 1 点、石皿 2 点、石棒類 1 点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わないが、中世の帰属する可能性が高い SX26 と平行しており、本遺構も中世に帰属する可能性が想定される。

SD11 (第 48 図、写真図版 42)

[位置] H22 年度調査区の中央～北西区、Ⅲ J グリッドに位置する。南側は調査区外に延びている。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色～褐色のプランとして確認した。

[重複] SB06 (P184)、SD07・08、SX26、P686 と重複している。本遺構が SD08 に切られており、本遺構が古い。SB06 (P184)、SD07、SX26、P686 とは切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。また、SB07・08 とプランが重複するが、それぞれの掘立柱建物跡を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[規模] 調査区内で確認できた長さは約 9.7 m、上幅は最大で 1.11 m である。検出面からの深さは最大で 35cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 地山の混入具合により 2 層に分層したが、暗褐色～褐色シルトを主体とする。下部は地山の混入量が多いが、人為堆積の根拠は見いだせなかった。

[出土遺物] 縄文土器 (423.0 g)、石鏃 1 点、剥片 9 点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わないが、中世に帰属する可能性が高いと捉えている。

SD12 (第 48 図、写真図版 43)

[位置] H22 年度調査区の中央、Ⅲ J12・13 h グリッド付近に位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] SX26、P175・687 と重複している。本遺構が SX26 を切っており、本遺構が新しい。P175・687 とは切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。また、SB03 とプランが重複するが、SB03 を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 6.15 m、上幅は最大で 0.54 m である。検出面からの深さは最大で 12cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 暗褐色シルトの単層。全体的に層高がなく、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 縄文土器 (7.9 g)、RF1 点、剥片 2 点が出土したが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明であるが、SX26 との重複関係から中世もしくは中世以降である。

SD15 (第 48 図、写真図版 44)

[位置] H22 年度調査区の中央、Ⅲ J12 i グリッド付近に位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] SK23 に切られているため、本遺構が古い。

[規模] 確認できた長さは 2.79 m、上幅は最大で 0.40 m である。検出面からの深さは最大で 8cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 暗褐色シルトの単層。全体的に層高がなく、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] なし。

[時代・時期] 遺物が伴わず、本遺構より新しいSK23の帰属時代が不明であるため、本遺構の帰属時代も不明である。

SD17 (第49図、写真図版44)

[位置] H22年度調査区の中央、Ⅲ J11 h グリッドに位置する。北側は調査区外に延びている。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] SX26、P653・677・689と重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。また、SB03とプランが重複するが、SB03を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[規模] 確認できた長さは2.67 m、上幅は最大で0.98 mである。検出面からの深さは最大で30 cmで、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 断面図の作成は行っていないが、暗褐色シルトの単層である。人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 縄文土器(3.9 g)、磨石2点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わず、詳細な時代・時期は不明である。

SD19 (第49図、写真図版44)

[位置] H22年度調査区の中央、Ⅲ J12 f グリッド付近に位置する。残存状態が悪く、後世の掘削により両端は消失している。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色～褐色のプランとして確認した。

[重複] SB04 (P627)、SB05 (P624)、SB06 (P626)、SB08 (P628・633)、P242・300・623・625・629～632・635・636・685と重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。また、SB03・07とプランが重複するが、掘立柱建物跡を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[規模] 確認できた長さは10.14 m、上幅は最大で1.06 mである。検出面からの深さは最大で15 cmで、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 2層に分層した。壁付近には壁の崩壊土と考えられる褐色シルトが三角形状に堆積し、暗褐色～褐色シルト層で埋没している。2層は自然堆積の可能性が高いが、全体的には層高がなく、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 砥石1点(597)が埋土から出土している。この他に、縄文土器(53.5 g)、石匙、RF、剥片、敲石、石皿各1点、磨石3点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わず、詳細な時代・時期は不明である。

SD20 (第49図、写真図版44)

[位置] H22年度調査区の西側、Ⅲ J14 c グリッド付近に位置する。南西側は調査区外に延びている。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] P337を切っているため、本遺構が新しい。また、SB11・12・16・17とプランが重複するが、掘立柱建物跡を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[規模] 調査区内で確認できた長さは2.76 m、上幅は最大で0.50 mである。検出面からの深さは最

2 検出遺構

大で 13cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 暗褐色粘土の単層。全体的に層高がなく、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] なし。

[時代・時期] 遺物が伴わず、詳細な時代・時期は不明である。

SD21 (第 49 図、写真図版 45)

[位置] H22 年度調査区の西側、Ⅲ J12・13 b グリッドに位置する。北側は調査区外に延びている。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] なし。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 3.30 m、上幅は最大で 0.46 m である。検出面からの深さは最大で 10cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 暗褐色シルト質粘土の単層である。全体的に層高がなく、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 柱状高台のかわらけ 1 点 (98.49 g : 571) が底面から出土している。

[時代・時期] 出土遺物より 11 世紀代の遺構の可能性が高い。

SD25 (第 50 図、写真図版 44)

[位置] H22 年度調査区の西側、Ⅲ I12~14 y グリッドに位置する。北側は調査区外に延びている。

[検出状況] Ⅲ層上面でいぶい黄褐色のプランとして確認した。

[重複] SD26、P431・649 と重複するが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 9.89 m、上幅は最大で 0.57 m である。検出面からの深さは最大で 13cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] にぶい黄褐色粘土質シルトの単層である。全体的に層高がなく、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 縄文土器 (160.3 g)、剥片 4 点、石棒類 1 点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わず、詳細な時代・時期は不明である。

SD26 (第 49 図、写真図版 45)

[位置] H22 年度調査区の西側、Ⅲ I14 y~Ⅲ J14 a グリッドに位置する。南東側は調査区外に延びている。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] SD25、P428・582~585 と重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。また、SB16 とプランが重複するが、SB16 を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 6.47 m、上幅は最大で 0.44 m である。検出面からの深さは最大で 12cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 暗褐色粘土の単層。全体的に層高がなく、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 縄文土器 (63.6 g)、凹石 1 点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わず、詳細な時代・時期は不明である。

SD27 (第 50 図、写真図版 46)

[位置] H22 年度調査区の西側、Ⅲ I グリッドに位置する。

[検出状況] Ⅱ b 層上面で黒褐色のプランとして確認した。

[重複] SD29 を切り、SD30・40 に切られているため、SD29 より新しく、SD30・40 より古い。また、SB19 とプランが重複するが、柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[規模] 確認できた長さは 13.13 m、上幅は最大で 1.08 m である。検出面からの深さは最大で 15cm で、断面形は W 字状を呈している。

[埋土] 黒褐色粘土の単層である。堆積土観察箇所では確認できなかったが、炭化物の混入湯が確認できた。全体的に層高がなく、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[その他] 盛岡南新都市開発事業関連遺跡の調査で検出されている、いわゆる「断面形が W 字状の溝跡」と同種の遺構と想定され、埋土も硬いことから道路跡の可能性はある。

[出土遺物] 珠洲系陶器 1 点 (111.65 g : 585) が埋土から出土している。その他に縄文土器 (652.8 g)、石鏃 1 点、剥片 4 点、磨石 1 点、石皿 2 点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 出土量が少ないため、断定はできないが、出土遺物から、14 世紀～15 世紀に帰属する可能性が高い。

SD28 (第 51 図、写真図版 40)

[位置] H22 年度調査区の西側、Ⅲ I グリッドに位置する。南側 (両端) は調査区外に延びている。平成 8 年度に調査された大溝遺構の一部と考えられる。

[検出状況] Ⅲ 層上面で黒褐～暗褐色のプランとして確認した。

[重複] SB20 (P473・483)、SD29～31・33、P147・474 と重複している。SD29・31 を切り、SD33 に切られているため、SD29・31 より新しく、SD33 より古い。また、SB20 (P473・483)、P147・474 とは切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 24.5 m、上幅は最大で 1.90 m である。検出面からの深さは最大で 64cm で、断面形は逆台形状を呈している。

[埋土] 6 層に分層した。底面の壁付近に三角形に地山ブロックが混入する黒褐色土が見られ、壁の崩落土と考えられる。その上部には黒褐色を主体とする堆積土がレンズ状に堆積している。これら下部の堆積土はどの地点でも共通の様相を呈しており、自然堆積の可能性が高い。上部は黒褐色、中部は西側では暗オリーブ褐色粘土主体、東側では黄灰色粘土主体で、異時代の遺物が多量に出土している。また、東側断面 (B) の 3 層中央に垂円礫が列状に密集する部分があり、一時的に人為的に埋め戻された可能性が想定される。なお、東側の底面では常時湧水が確認でき、湿った状態での観察となった。

[出土遺物] 縄文土器 (52138.8 g)、石鏃 7 点、尖頭器 1 点、スクレイパー類 10 点、籠形石器 1 点、錐形石器 3 点、石匙 6 点、楔形石器 1 点、RF28 点、剥片 197 点、黒曜石製剥片 4 点、石核 3 点、原石 1 点、打製石斧 2 点、磨製石斧 3 点、磨石 111 点、凹石 4 点、敲石 5 点、石皿 50 点、石錘 1 点、不明石製品 2 点、土師器 (121.31 g) が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。また、帰属する時代を特定できないが、砥石 8 点、鉄滓 2 点が出土し、砥石 3 点 (598～600) を掲載した。

[時代・時期] 今回の調査では遺構の帰属時期を特定できる遺物は出土していないが、前沢町教育委員会による過年度の調査成果から、14 世紀～15 世紀に帰属すると推定される。

SD29 (第 50 図、写真図版 45)

[位置] H22 年度調査区の西側、Ⅲ I グリッドに位置する。南北両端は調査区外に延びている。

[検出状況] Ⅱ b 層～Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] SD27・28、P074・443・477・520・600 と重複しており、SD27・28、P074 に切られている。よって、これらの遺構より本遺構が古い。その他の遺構とは切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。また、SB19・20 とプランが重複するが、掘立柱建物跡を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 15.09 m、上幅は最大で 0.63 m である。検出面からの深さは最大で 17cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 暗褐色粘土質シルトの単層である。全体的に層高がなく、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 縄文土器 (1151.9 g)、スクレイパー類 1 点、剥片 10 点、黒曜石製剥片 1 点、磨石 2 点、石皿 3 点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] SD28 との重複関係から 14 世紀～15 世紀以前であることは確かであるが、時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

SD30 (第 50 図、写真図版 46)

[位置] H22 年度調査区の西側、Ⅲ I12・13t グリッド付近に位置する。

[検出状況] Ⅱ b 層上面で黒褐色のプランとして確認した。

[重複] SD37 に切られ、SD27・32 を切っており、本遺構が SD37 より古く、SD27・32 より新しい。また、SD28・43 とともに重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 6.11 m、上幅は最大で 0.90 m である。検出面からの深さは最大で 21cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 黒褐色粘土の単層。全体的に層高がなく、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 縄文土器 (974.8 g)、錐形石器 1 点、剥片 15 点、磨石 2 点、石皿 2 点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明であるが、SD28 や SD37 との重複関係から中世に帰属する可能性が高い。

SD31 (第 52 図、写真図版 46)

[位置] H22 年度調査区の西側、Ⅲ I13 r s グリッド付近に位置する。西側は調査区外に延びている。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] SD28・34 に切られ、SD38 を切る。よって、前者より古く、後者より新しい。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 8.48 m、上幅は最大で 0.82 m である。検出面からの深さは最大で 21cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 暗褐色粘土の単層。全体的に層高がなく、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 縄文土器 (55.6 g)、RF1 点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わず、詳細な時代・時期は不明であるが、SD28 との重複関係から 14 世紀～15 世紀以前であることは確かである。

SD32 (第 52 図、写真図版 47)

[位置] H22 年度調査区の西側、Ⅲ I グリッドに位置する。西側は調査区外に延びている。

[検出状況] Ⅲ層上面で黒褐色のプランとして確認した。

[重複] SD30・34 に切られ、本遺構が古い。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 10.73 m、上幅は最大で 0.87 m である。検出面からの深さは最大で 23cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 黒褐色粘土の単層。全体的に層高がなく、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 縄文土器 (659.5 g)、石匙 1 点、RF3 点、剥片 4 点、石皿 2 点、土師器 (28.06 g) が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わず、詳細な時代・時期は不明であるが、SD30 や SD34 との重複関係から中世に帰属する可能性が高い。

SD33 (第 52 図、写真図版 47)

[位置] H22 年度調査区の西側、Ⅲ I グリッド付近に位置する。東西両端は調査区外に延びている。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] SD28・38 を切っており、本遺構が新しい。また、P499 とも重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 13.70 m、上幅は最大で 0.95 m である。検出面からの深さは最大で 25cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 暗褐色粘土の単層。全体的に層高がなく、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 縄文土器 (136.8 g)、楔形石器 1 点、RF1 点、剥片 1 点、磨石 9 点、石皿 1 点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] SD28 より新しい。中世若しくはそれ以降と推定される。

SD34 (第 53 図、写真図版 47)

[位置] H22 年度調査区の西側、Ⅲ I グリッドに位置する。両端 (西側) は調査区外に延びている。

[検出状況] Ⅲ層上面で黒褐色のプランとして確認した。

[重複] SD36・37 に切られ、SD31・32・38・42 を切っている。よって、SD36・37 より古く、SD31・32・38・42 より新しい。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 8.65 m、上幅は最大で 1.02 m である。検出面からの深さは最大で 25cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 2 層に分層した。黒褐色粘土を主体とする。西面の調査区境で暗褐色粘土質シルト層が観察できる。全体的に層高がなく、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 縄文土器 (462.9 g)、RF1 点、剥片 3 点、磨石 2 点、凹石 1 点、石皿 2 点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わず、詳細な時代・時期は不明であるが、SD37 との重複関係から、中世に帰属する可能性が高い。

SD35 (第 53 図、写真図版 41)

[位置] H22 年度調査区の西側、Ⅲ I グリッドに位置する。西側及び北側は調査区外に延びている。

2 検出遺構

[検出状況] 現代の盛土層を掘り下げた部分で、直にⅢ層が露出し、にぶい黄褐色のプランとして確認した。全体的にはⅠd層を除去した段階が検出面である。

[重複]SD36・37、P026に切られ、SD42を切っており、SD36・37、P026より古く、SD42より新しい。また、P336・374とも重複するが、切り合いが不明瞭なため、新旧関係は不明である。

[規模] 調査区内で確認できた長さは9.23m、上幅は最大で1.63mである。検出面からの深さは最大で54cmで、断面形は逆台形状を呈している。

[埋土] 6層に分層した。最下層には土質から水成堆積と推定される褐灰色土層が観察でき、暗褐色粘土、にぶい黄褐色粘土の順で埋没している。中上部には地山ブロックの混入が見られ、人為堆積と推察される。

[出土遺物] 縄文土器(3308.7g)、不明土製品1点、円盤状土製品1点、石鏃1点、石匙1点、RF1点、剥片16点、磨石14点、凹石1点、石皿4点、加工礫1点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 出土遺物からは時代・時期を言及できないが、重複遺構との新旧関係やSD28と類似することから14世紀～15世紀に帰属するものと考えている。

SD36 (第54図、写真図版47)

[位置] H22年度調査区の西側、ⅢIグリッドに位置する。西側は調査区外に延びている。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] SK38、SD34・35・37、P580を切っており、本遺構が新しい。また、P138・144とも重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。

[規模] 調査区内で確認できた長さは8.89m、上幅は最大で0.73mである。検出面からの深さは最大で32cmで、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 土層観察断面は2地点で図化した。西側調査区境では黒褐～褐灰色粘土による単層として把握した。それより東で作成した断面図においては、1～5層に細分を試みた。概ね埋土上位に黒褐色粘土、埋土下位に暗褐色粘土が堆積する。人為堆積の可能性のあるものの、明確には分からなかった。なお、重複するSD37の埋土と比較して、やや黒味が強い色調である。

[出土遺物] 縄文土器(1977.6g)、スクレイパー類1点、錐形石器2点、RF2点、剥片8点、磨石3点、石皿1点、土師器(4.28g)、須恵器(6.0g)が出土したが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は言及できないが、SD37より確実に新しい。中世もしくはそれ以降と推定される。

SD37 (第54図、写真図版41)

[位置] H22年度調査区の西側、ⅢIグリッドに位置する。西側及び北側は調査区外に延びている。

[検出状況] Ⅰd層を除去した段階で、Ⅲ層が露出し、その上面において、黒褐色のプランとして確認した。

[重複] SD36に切られ、SK38、SD30・34・35・43を切る。よって、本遺構はSD36より古く、SK38、SD30・34・35・43より新しい。また、P336とも重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。

[規模] 調査区内で確認できた長さは13.62m、上幅は最大で1.70mである。検出面からの深さは最大で68cmで、断面形は逆台形状を呈している。

[埋土] 断面図は2地点で作成した。調査区境西側では3層、それより東側のセクションでは9層に分層した。大別すると、埋土上位は暗褐色粘土質シルトが、埋土下位に褐灰色泥質土が堆積する。何れも自然堆積と推定したいが、埋土上位は断定できない。東側断面の2～4層では酸化鉄の集積が顕著に観察される。

[出土遺物] 縄文土器(6480.6g)、石鏃3点、篋形石器1点、石匙1点、RF3点、剥片29点、黒曜石製剥片1点、磨石27点、凹石2点、敲石1点、石皿7点、砥石2点、石錘1点、不明石製品1点、土師器(13.63g)、須恵器(9.72g)が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 出土遺物からは時代・時期を言及できないが、重複遺構との新旧関係やSD28と類似することから14世紀～15世紀に帰属するものと考えている。

SD38 (第55図、写真図版46)

[位置] H22年度調査区の西側、Ⅲ I13qrグリッドに位置する。両端は調査区外に延びている。

[検出状況] Ⅲ層上面で黒褐色のプランとして確認した。なお、検出プランでは一部分が幅広で、土坑が存在し、重複も想定されたが、精査結果からは土坑の存在は認められなかった。

[重複] SD31・33・34に切られ、本遺構が古い。

[規模] 調査区内で確認できた長さは2.62m、上幅は最大で0.48mである。検出面からの深さは最大で22cmで、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 南側では黒褐色粘土質シルト、西側ではにぶい黄褐色粘土が堆積する。何れの地点でも非常に硬い。人為堆積と推定される。

[出土遺物] 縄文土器(20.1g)が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時期は不明であるが、重複遺構との新旧関係から中世に帰属するものと考えている。

SD40 (第55図、写真図版46)

[位置] H22年度調査区の西側、Ⅲ I13uグリッド付近に位置する。

[検出状況] Ⅱb層上面で黒褐色のプランとして確認した。

[重複] SD27を切っており、本遺構が新しい。南側はSD28と重複しているものと考えられるが、残存状態が悪く、確認できなかった。

[規模] 確認できた長さは1.72m、上幅は最大で0.35mである。検出面からの深さは最大で10cmで、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 黒褐色粘土の単層である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 縄文土器(13.3g)が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明であるが、中世の遺構が集中している部分であるため、中世に帰属すると考えている。

SD42 (第55図、写真図版48)

[位置] H22年度調査区の西側、Ⅲ I11rグリッドに位置する。西側は調査区外に延びている。

[検出状況] Ⅲ層上面で黒褐色～暗褐色のプランとして確認した。

[重複] SD34・35に切られ、本遺構が古い。また、P557とも重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。

2 検出遺構

[規模] 調査区内で確認できた長さは2.64 m、上幅は最大で0.31 mである。検出面からの深さは最大で13cmで、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 黒褐色～暗褐色粘土の単層である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 縄文土器(92.5 g)が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] SD35との重複関係から14世紀～15世紀以前であることは確かであるが、時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

SD43 (第56図、写真図版48)

[位置] H22年度調査区の西側、ⅢIグリッド付近に位置する。

[検出状況] 西側はI d層を除去した段階でⅢ層面において、暗褐色のプランとして確認した。東側はⅢ層上面が検出面である。

[重複] SD37に切られており、本遺構が古い。SD30、P526・617・668・669とも重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。また、SB19とプランが重複するが、SB19を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[規模] 確認できた長さは10.45 m、上幅は最大で0.57 mである。検出面からの深さは最大で22cmで、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 暗褐色粘土質シルトに黄褐色粘土ブロックもしくは粘土塊が混入するほぼ単層の堆積土である。人為堆積と推定される。

[出土遺物] 縄文土器(589.1 g)、石鏃1点、RF1点、剥片10点、磨石4点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] SD37との重複関係から中世もしくは中世以前であることは確かであるが、時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

SD44 (第55図、写真図版48)

[位置] H22年度調査区の西側、ⅢI11・12uグリッドに位置する。

[検出状況] I d層を除去した段階のⅢ層面において、暗褐色のプランとして確認した。

[重複] P517と重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。

[規模] 確認できた長さは2.50 m、上幅は最大で0.47 mである。検出面からの深さは最大で8cmで、断面形は不定形を呈している。

[埋土] 暗褐色粘土質シルトの単層である。今まで掘った同類の溝跡(浅くで道路跡との関連が想起される類)と比較して、埋土は硬くない。底面には暗褐色粘土質シルトで埋没している小ピット状の痕跡が確認できる。

[出土遺物] 縄文土器(10.5 g)、RF1点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明であるが、中世の遺構が集中している部分であるため、中世に帰属するものと考えている。

SD45 (第55図、写真図版48)

[位置] H22年度調査区の西側、ⅢI11・12vグリッド付近に位置する。

[検出状況] I d層を除去した段階でのⅢ層面において、暗褐色のプランとして確認したが、付近の

現況は木根攪乱や旧地形面の凹凸が激しいことから、プランが判然としない。

[重複] P598 と重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。また、本遺構の南側は、本来は SD43 と重複している可能性が高いが、重複部分に基礎跡と考えられる近年の攪乱があり新旧関係を捉えることはできなかった。

[規模] 確認できた長さは 3.05 m、上幅は最大で 0.39 m である。検出面からの深さは最大で 11cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 暗褐色粘土質シルトの単層。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 縄文土器 (29.2 g) が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明であるが、中世の遺構が集中している部分であるため、中世に帰属するものと考えている。

SD51 (第 56 図、写真図版 39)

[位置] 南東区北、IV K15 a グリッド付近に位置する。東西両端とも調査区外に延びている。

[検出状況] III 層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] P1036・1037 と重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 4.09 m、上幅は最大で 1.82 m である。検出面からの深さは最大で 56cm で、断面形は中央部に浅いくぼみがあるが、総じて逆台形状を呈している。

[埋土] 5 層に分層した。暗褐色シルトを主体とする。底面の中央部分が一段低くなっており、5 層は底面からその低い部分に堆積している。3・4 層は壁際に見られる堆積土で粘性・しまりが大きく異なる。2 層には酸化鉄の集積が見られ、1 層との境には炭化物が面的に確認できる。全体的に炭化物・焼土粒・地山ブロック等の混入が見られ、人為堆積の可能性が高いと考えられる。

[出土遺物] 手づくねかわらけ (77.96 g)、渥美産陶器 1 点 (45.37 g)、不明鉄製品 5 点、鉄滓 (1251.91 g) が出土している。この他に縄文土器 (627.5 g)、石鏃 1 点、RF2 点、剥片 26 点、黒曜石製剥片 2 点、黒曜石製碎片 2 点、石核 1 点、打製石斧 2 点、磨石 18 点、石皿 6 点、砥石 1 点、須恵器 (76.57 g) も出土している。かわらけ (572~574)、渥美産陶器 (583)、不明鉄製品 (605~608)、鉄滓 (615、616) を掲載した。

[時代・時期] 出土遺物から 12 世紀後半期の遺構と考えられる。

SD52 (第 56 図、写真図版 49)

[位置] 南東区北、IV J~IV K グリッドに位置する。南西側は調査区外に延びている。

[検出状況] III 層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] P1038 と重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 14.29 m、上幅は最大で 0.63 m である。検出面からの深さは最大で 16cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 東側の断面観察箇所では底面の壁付近に地山ブロックを多く混入する層があり、2 層に分層したが、概して、暗褐色シルトを主体とする。混入物が少なく、自然堆積の可能性が高い。

[出土遺物] 縄文土器 (61.0 g)、剥片 2 点、土師器 (0.55 g) が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

2 検出遺構

SD53 (第 57 図、写真図版 49)

[位置] 南東区南、V J 7・8 t u グリッドに位置する。北東側は調査区外に延びている。

[検出状況] Ⅲ層上面で灰黄褐色のプランとして確認した。

[重複] なし。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 3.84 m、上幅は最大で 0.57 m である。検出面からの深さは最大で 17cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 灰黄褐色シルトの単層で、酸化鉄斑が観察される。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] RF1 点、磨石 1 点、土師器 (79.19 g)、須恵器 (24.24 g) が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

SD54 (第 57 図、写真図版 49)

[位置] 南東区南、V J グリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で灰黄褐色のプランとして確認した。

[重複] SB41 とプランが重複するが、SB41 を構成する柱穴との直接の切り合いがないため、新旧関係は不明である。

[規模] 長さは 8.57 m、上幅は最大で 0.54 m である。検出面からの深さは最大で 18cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 灰黄褐色シルトの単層で、酸化鉄斑が観察される。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 須恵器 (12.91 g) が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

SD56 (第 57 図、写真図版 50)

[位置] 南東区南、V J 9・10 r s グリッドに位置する。南西側は調査区外に延びている。

[検出状況] Ⅲ層上面で灰黄褐色のプランとして確認した。

[重複] SN11 を切っており、本遺構が新しい。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 4.79 m、上幅は最大で 0.45 m である。検出面からの深さは最大で 12cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 灰黄褐色シルトの単層で、酸化鉄斑が観察される。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] なし。

[時代・時期] 不明である。

SD57 (第 57 図、写真図版 50)

[位置] 南東区北、IV K13~15 b グリッドに位置する。南北両端は調査区外に延びている。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] なし。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 5.66 m、上幅は最大で 0.77 m である。検出面からの深さは最

大で 41cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 暗褐色シルトの単層である。人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] なし。

[時代・時期] 不明である。

SD58 (第 57 図、写真図版 50)

[位置] 北西区、Ⅲ J16 g グリッドに位置する。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] SB10 とプランが重複しているが、SB10 を構成する柱穴との直接の切り合いがないため、新旧関係は不明である。

[規模] 長さは 2.59 m、上幅は最大で 0.36 m である。検出面からの深さは最大で 9cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 暗褐色シルトの単層である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 縄文土器 (2.0 g) が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明であるが、SX26 と平行しており、同時期の遺構の可能性が考えられる。

SD59 (第 58 図、写真図版 50)

[位置] 北西区～西道路、Ⅲ J17～19 g グリッドに位置する。両端は調査区外に延びている。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] SB52・53 とプランが重複しているが、掘立柱建物跡を構成する柱穴との直接の切り合いがないため、新旧関係は不明である。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 8.77 m、上幅は最大で 0.86 m である。検出面からの深さは最大で 34cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 2層に分層した。底面の壁際ににぶい黄褐色～褐色シルト層が三角形もしくはレンズ状に堆積し、暗褐色シルトで埋没している。自然堆積の可能性が高いと判断した。

[出土遺物] 縄文土器 (435.8 g)、石鏃 1 点、RF3 点、剥片 17 点、黒曜石製剥片 1 点、磨石 4 点、敲石 1 点、石皿 1 点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

SD61 (第 58 図、写真図版 51)

[位置] 東区北、Ⅲ J24 t グリッド付近に位置する。東西両端は調査区外に延びている。

[検出状況] Ⅲ層上面で黒褐色のプランとして確認した。

[重複] SB46(P1723)、P1724 に切られ、SX24 を切っている。よって、本遺構は SB46、P1724 より古く、SX24 より新しい。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 3.91 m、上幅は最大で 0.45 m である。検出面からの深さは最大で 13cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 黒褐色シルトの単層である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 縄文土器 (72.7 g)、剥片 1 点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] SB46 を構成する P1723・1724 との重複関係から、中世に帰属する可能性が高い。

SD62 (第 58 図、写真図版 51)

[位置] 東区北、Ⅲ J25 t グリッド付近に位置する。東西両端は調査区外に延びている。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] P1704 に切られており、本遺構が古い。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 3.94 m、上幅は最大で 0.41 m である。検出面からの深さは最大で 11cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 暗褐色シルトの単層である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 縄文土器 (4.2 g)、剥片 1 点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明であるが、中世に帰属すると考えている柱穴との重複関係から中世もしくは中世以前の可能性が高い。

SD63 (第 58 図、写真図版 51)

[位置] 東区北、Ⅳ J1 s t グリッドに位置する。東側は調査区外に延びている。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] P1644・1708・1710 に切られ、本遺構が古い。また、P1509・1510 と重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 3.23 m、上幅は最大で 0.51 m である。検出面からの深さは最大で 26cm で、断面形はピーカー状を呈している。

[埋土] 底面の壁際に壁の崩落土と考えられる褐色シルト層が堆積し、暗褐色シルトで埋没している。炭化物の混入が見られるが、人為堆積との積極的な根拠は見いだせなかった。

[その他] 狭い底面には小ピット状のくぼみが多く見られ、縄文時代の竪穴住居跡の周溝のような溝跡であるが、対応する溝は検出されなかった。

[出土遺物] 縄文土器 (310.8 g)、剥片 5 点が出土しているが、遺構の時期を積極的に特定できるものではない。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明であるが、中世に帰属すると考えている柱穴との重複関係から中世もしくは中世以前の可能性が高い。

SD64 (第 59 図、写真図版 51)

[位置] 東区南、Ⅳ J5 r グリッド付近に位置する。東西両端は調査区外に延びている。

[検出状況] Ⅲ層上面で黒褐色のプランとして確認した。

[重複] P1646・1647 に切られ、SK88 を切っている。よって、本遺構は P1646・1647 より古く、SK88 より新しい。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 4.33 m、上幅は最大で 0.46 m である。検出面からの深さは最大で 11cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 黒褐色シルトの単層である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] なし。

[時代・時期] 遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明であるが、中世に帰属すると考えている柱穴との重複関係から中世もしくは中世以前の可能性が高い。

SD65 (第 59 図、写真図版 52)

[位置] 東区南、IV J6s グリッド付近に位置する。東西両端は調査区外に延びている。

[検出状況] III層上面で黒褐色のプランとして確認した。

[重複] P1721 に切られ、本遺構が古い。また、P1649・1650 と重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 4.40 m、上幅は最大で 0.61 m である。検出面からの深さは最大で 14cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 黒褐色シルトの単層である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 縄文土器 (119.8 g) が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明であるが、中世に帰属すると考えている柱穴との重複関係から中世もしくは中世以前の可能性が高い。

SD66 (第 59 図、写真図版 52)

[位置] 東区南、IV J9st グリッドに位置する。西側は調査区外に延びている。

[検出状況] III層上面で黒褐色のプランとして確認した。

[重複] なし。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 1.70 m、上幅は最大で 0.32 m である。検出面からの深さは最大で 8cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 黒褐色シルトの単層である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] なし。

[時代・時期] 遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

SD67 (第 59 図、写真図版 52)

[位置] 東区南、IV J9s グリッド付近に位置する。東西両端は調査区外に延びている。

[検出状況] III層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] なし。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 5.11 m、上幅は最大で 1.52 m である。検出面からの深さは最大で 33cm で、断面形は逆台形状を呈している。

[埋土] 暗褐色シルトを主体とし、地山ブロックの有無により 2 層に分層した。レンズ状の堆積状況を呈しており、自然堆積の可能性が高い。

[出土遺物] 縄文土器 (349.2 g)、RF2 点、剥片 7 点、磨製石斧 1 点、磨石 1 点、砥石 1 点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

SD68 (第 60 図、写真図版 52)

[位置] 東区南、IV J12st グリッド付近に位置する。東西両端は調査区外に延びている。

[検出状況] III層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] SD69・70 を切っており、本遺構が新しい。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 4.88 m、上幅は最大で 0.65 m である。検出面からの深さは最大で 19cm で、断面形は皿状を呈している。

2 検出遺構

[埋土] 暗褐色シルトの単層である。中央部に拳大の礫が並んでおり、明らかに SD69 と区別が可能である。人為堆積の可能性が高い。

[出土遺物] 縄文土器 (539.2 g)、RF1 点、剥片 1 点、磨石 6 点、敲石 2 点、石皿 4 点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

SD69 (第 60 図、写真図版 52)

[位置] 東区南、IV J12 st グリッドに位置する。東側は調査区外に延びている。

[検出状況] III 層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] SD68 に切られ、SD70 を切っている。よって、本遺構は SD68 より古く、SD70 より新しい。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 4.22 m、上幅は最大で 1.03 m である。検出面からの深さは最大で 16cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 暗褐色シルトの単層である。SD68 の埋土で記述した通り、SD68 とは礫の混入の有無で容易に区別が可能である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 縄文土器 (4.2 g)、剥片 1 点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

SD70 (第 60 図、写真図版 53)

[位置] 東区南、IV J12・13 t グリッドに位置する。

[検出状況] III 層上面で黒褐色のプランとして確認した。

[重複] SD68・69 に切られており、本遺構が古い。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 3.36 m、上幅は最大で 0.49 m である。検出面からの深さは最大で 15cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 黒褐色シルトの単層である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 縄文土器 (384.6 g)、剥片 2 点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

SD71 (第 60 図、写真図版 53)

[位置] 北東区、III J19・20 uv グリッド付近に位置する。両端は調査区外に延びている。

[検出状況] III 層上面で黒褐色のプランとして確認した。

[重複] SN16、P1418・1440・1622・1623 に切られ、本遺構はこれらの遺構より古い。また、SB44 とプランが重複しているが、柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 8.76 m、上幅は最大で 0.51 m である。検出面からの深さは最大で 17cm で、断面形は逆台形状を呈している。

[埋土] 黒褐色シルトを主体とし、地山ブロックの混入量により 2 層に分層した。レンズ状の堆積状況を呈しており、自然堆積の可能性が高い。

[出土遺物] 縄文土器 (718.3 g)、RF1 点、剥片 11 点、打製石斧 1 点、磨石 5 点、土師器 (5.95 g) が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。この他に石皿 2 点が出土し、そのうち 1 点 (596) を掲載した。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明であるが、中世に帰

属すると考えている柱穴との重複関係から中世もしくは中世以前の可能性が高い。

SD72 (第 60 図、写真図版 53)

[位置] 東道路、Ⅲ J22・23t グリッド付近に位置する。南東側は調査区外に延びている。北側は後世の掘削により消失している。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] P1476 に切られ、SD73 を切っている。よって、本遺構は P1476 より古く、SD73 より新しい。また、P1631・1632 とも重複するが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 1.94 m、上幅は最大で 0.55 m である。検出面からの深さは最大で 13cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 暗褐色シルトを主体とし、混入物の違いにより 2 層に分層した。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 縄文土器 (46.1 g)、磨石 1 点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明であるが、中世に帰属すると考えている柱穴との重複関係から中世もしくは中世以前の可能性が高い。

SD73 (第 61 図、写真図版 53)

[位置] 東道路、Ⅲ J23 t u グリッドに位置する。東西両端は調査区外に延びている。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] SD72 に切られ、SB46 (P1633) を切っている。よって、本遺構は SD72 より古く、SB46 より新しい。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 3.86 m、上幅は最大で 1.35 m である。検出面からの深さは最大で 17cm で、断面形は W 字状を呈している。

[埋土] 底面に地山ブロックを多く含む暗褐色シルト層が確認できるため、2 層に分層したが、大半は混入物の少ない暗褐色シルトで埋没している。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[その他] 「断面形が W 字状の溝跡」と報告される遺構と同種の遺構と想定され、道路跡の可能性もある。しかし、同種の遺構と比較すると、底面の硬化が見られない等の相違点もあり、断定はできない。

[出土遺物] 縄文土器 (29.6 g)、石鏃 1 点、RF1 点、剥片 4 点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。この他に青銅製の不明製品 (614) が出土している。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明であるが、中世に帰属すると考えている柱穴との重複関係から中世もしくは中世以前の可能性が高い。

SD93 (第 61 図、写真図版 54)

[位置] 西道路、Ⅲ J19 f g グリッドに位置する。西側は調査区外に延びている。本遺構の大部分は確認調査の範囲にあるが、規模は小さいため、通常の調査を行った。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] なし。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 2.63 m、上幅は最大で 0.64 m である。検出面からの深さは最大で 20cm で、断面形は皿状を呈している。

2 検出遺構

[埋土] 暗褐色シルトの単層である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。
[出土遺物] 縄文土器 (185.4 g)、剥片 8 点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。
[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明である。

SD101 (第 61 図、写真図版 54)

[位置] 西区南端～南西区、IV J グリッドに位置する。両端は調査区外に延びている。全体的に残存状態が悪く、特に北側では層高が数 cm しか確認できない。西側は確認調査の範囲にある。

[検出状況] III 層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] SD102 を切っており、本遺構が新しい。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 14.33 m、上幅は最大で 1.30 m である。検出面からの深さは最大で 9cm で、断面形は不定形を呈している。

[埋土] 暗褐色シルトの単層である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 縄文土器 (1.9 g)、常滑 1 点 (8.5 g : 577)、肥前産磁器 1 点 (3.86 g : 592) が出土している。

[時代・時期] 出土遺物より、18 世紀後半の遺構と考えられる。

SD102 (第 61 図、写真図版 54)

[位置] 南西区、IV J17・18 f g グリッドに位置する。東側は調査区外に延びている。

[検出状況] III 層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] SD101 に切られており、本遺構が古い。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 4.15 m、上幅は最大で 1.10 m である。検出面からの深さは最大で 25cm で、断面形は逆台形状を呈している。

[埋土] 暗褐色シルトを主体とし、混入物の違いにより 2 層に分層した。2 層は底面付近、壁際でブロック状に見られる。大部分は混入物の少ない暗褐色シルトで埋没している。人為堆積の積極的な根拠は見いだせなかった。

[出土遺物] 縄文土器 (48.5 g)、須恵器 (24.62 g) が出土したが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時代・時期は不明であるが、SD101 との重複関係から、18 世紀以前の遺構と考えられる。

SD103 (第 62 図、写真図版 54)

[位置] 南西区、IV J グリッドに位置する。北東側は調査区外に延びている。西側は確認調査の範囲にある。

[検出状況] III 層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] SD104 に切られ、本遺構が古い。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 9.03 m、上幅は最大で 0.76 m である。検出面からの深さは最大で 29cm で、断面形は逆台形状を呈している。

[埋土] 2 層に分層した。北側の層高がある部分では底面から壁際になど黄褐色シルト質粘土の堆積が確認できるが、南側では上部の暗褐色シルト質粘土層のみ確認できる。混入物が少なく、レンズ状の堆積状況を呈しており、自然堆積の可能性が高いと考えられる。

[出土遺物] 縄文土器 (19.1 g)、石鏃 1 点、磨石 2 点、土師器 (0.36 g)、須恵器 (20.57 g)、かわらけ (0.44 g)、砥石 2 点が出土し、砥石 1 点 (602) を掲載した。

[時代・時期] かわらけが出土しており、中世に帰属する可能性が考えられるが、極めて小さい破片であるため、断定はできない。

SD104 (第 62 図、写真図版 54)

[位置] 南西区、IV J グリッドに位置し、調査区外に延びている。西側は確認調査の範囲にある。

[検出状況] III層上面で黒褐色～暗褐色のプランとして確認した。

[重複] P1071 に切られ、SD103 を切っている。よって、本遺構は P1071 より古く、SD103 より新しい。また、SD105 と重複するが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 9.70 m、上幅は最大で 0.98 m である。検出面からの深さは最大で 15cm で、断面形は皿状を呈しているが、底面が不安定である。

[埋土] 南側より北側の残存状態が良く、2層に分層した。下部は地山ブロックを多く含む暗褐色シルト質粘土であり、南側はこの層のみが確認される。北側では黒褐色シルト質粘土層で完全に埋没している。全体的に酸化鉄の集積が顕著である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 縄文土器 (71.7 g)、磨石 1 点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わず、遺構の掘り込み面も特定できていない。そのため、時代を特定するには至らなかった。

SD105 (第 63 図、写真図版 55)

[位置] 南西区、IV J グリッドに位置し、調査区外に延びている。西側は確認調査の範囲にある。

[検出状況] III層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] SD104 と重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 6.34 m、上幅は最大で 0.69 m である。検出面からの深さは最大で 15cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 暗褐色シルト質粘土の単層。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 石鏃 1 点、土師器 (0.75 g)、須恵器 (51.41 g) が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 今回の調査では遺構の帰属時期を推定する遺物は皆無である。また、遺構の掘り込み面も特定はできていない。そのため時代を特定するには至らなかった。

SD106 (第 63 図、写真図版 55)

[位置] 南西区、IV J グリッドに位置し、調査区外に延びている。西側は確認調査の範囲にある。

[検出状況] III層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] SD107・108、P1393 を切っており、本遺構が新しい。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 6.15 m、上幅は最大で 1.08 m である。検出面からの深さは最大で 23cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 2層に分層した。底面にブロック状でにぶい黄褐色シルト質粘土が見られるが、大部分は暗褐色シルト層で埋没している。酸化鉄の集積が見られる。乾燥するとコンクリートのようになる。

[出土遺物] 土師器 (1.09 g)、RF、磨石各 1 点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 今回の調査では遺構の帰属時期を推定する遺物は皆無である。また、遺構の掘り込み

2 検出遺構

面も特定はできていない。そのため時代を特定するには至らなかった。

SD107 (第 63 図、写真図版 55)

[位置] 南西区、IV J グリッドに位置し、調査区外に延びている。西側は確認調査の範囲にある。

[検出状況] Ⅲ層上面で灰黄褐色のプランとして確認した。

[重複] SD106 に切られており、本遺構が古い。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 7.73 m、上幅は最大で 0.69 m である。検出面からの深さは最大で 22cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 灰黄褐色シルト質粘土の単層である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 縄文土器 (1.2 g)、磨石 1 点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 今回の調査では遺構の帰属時期を推定する遺物は皆無である。また、遺構の掘り込み面も特定はできていない。そのため時代を特定するには至らなかった。

SD108 (第 64 図、写真図版 55)

[位置] 南西区、IV J24・25 ef グリッドに位置する。南西側は調査区外に延びている。確認調査の範囲にある。全体的に残存状態が悪く、SD106 との重複部分で途切れている。

[検出状況] Ⅲ層上面で黒褐色のプランとして確認した。

[重複] SD106 に切られ、本遺構が古い。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 5.48 m、上幅は最大で 0.46 m である。検出面からの深さは最大で 11cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 黒褐色シルトの単層である。酸化鉄の集積が見られる。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] なし。

[時代・時期] 今回の調査では遺構の帰属時期を推定する遺物は皆無である。また、遺構の掘り込み面も特定はできていない。そのため時代を特定するには至らなかった。

SD111 (第 64 図、写真図版 55)

[位置] 西区北、Ⅲ J に位置し、西側は調査区外に延びている。大部分が確認調査の範囲にある。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] SK131、SD113 を切っており、本遺構が新しい。P1194 とも重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。また、SB55・56 とプランが重複しているが、掘立柱建物跡を構成する柱穴との直接の切り合いがなく、新旧関係は不明である。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 3.65 m、上幅は最大で 0.22 m である。検出面からの深さは最大で 11cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 暗褐色シルトの単層である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 縄文土器 (1.5 g) が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 今回の調査では遺構の帰属時期を推定する遺物は皆無である。また、遺構の掘り込み面も特定はできていない。そのため時代を特定するには至らなかった。

SD112 (第 64 図、写真図版 56)

[位置] 西区北、Ⅲ J グリッドに位置し、西は調査区外に延びる。大半が確認調査の範囲にある。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] SK133、P1064 を切り、本遺構が新しい。また、SB55・56 とプランが重複しているが、直接切り合う柱穴がなく、新旧関係は不明である。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 4.43 m、上幅は最大で 0.46 m である。検出面からの深さは最大で 8cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 暗褐色シルトの単層である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 縄文土器 (84.2 g)、剥片 2 点、石皿 1 点が出土したが、遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 今回の調査では遺構の帰属時期を推定する遺物は皆無である。また、遺構の掘り込み面も特定はできていない。そのため時代を特定するには至らなかった。

SD113 (第 64 図、写真図版 55)

[位置] 西区北、Ⅲ J20 f グリッドに位置し、西側は調査区外に延びる。確認調査の範囲にある。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] SD111 に切られ、本遺構が古い。また、SB55 とプランが重複しているが、直接切り合う柱穴がなく、新旧関係は不明である。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 1.85 m、上幅は最大で 0.21 m である。検出面からの深さは最大で 6cm で、断面形は皿状を呈している。

[埋土] 暗褐色シルトの単層である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

[出土遺物] 敲石 1 点が出土しているが、異時期の産物である。

[時代・時期] 時代の特定期できる遺物が伴わず、遺構の掘り込み面も特定はできていない。そのため時代を特定するには至らなかった。

SD114 (第 64 図、写真図版 56)

[位置] 西区北、Ⅳ J グリッドに位置し、東側は調査区外に延びる。一部が確認調査の範囲にある。

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。

[重複] P1672 と重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。

[規模] 調査区内で確認できた長さは 4.12 m、上幅は最大で 0.98 m である。検出面からの深さは最大で 28cm で、断面形は逆台形状を呈している。

[埋土] 混入物の違いにより 2 層に分層したが、暗褐色シルトを主体とする。全体的に酸化鉄が集積している。人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。

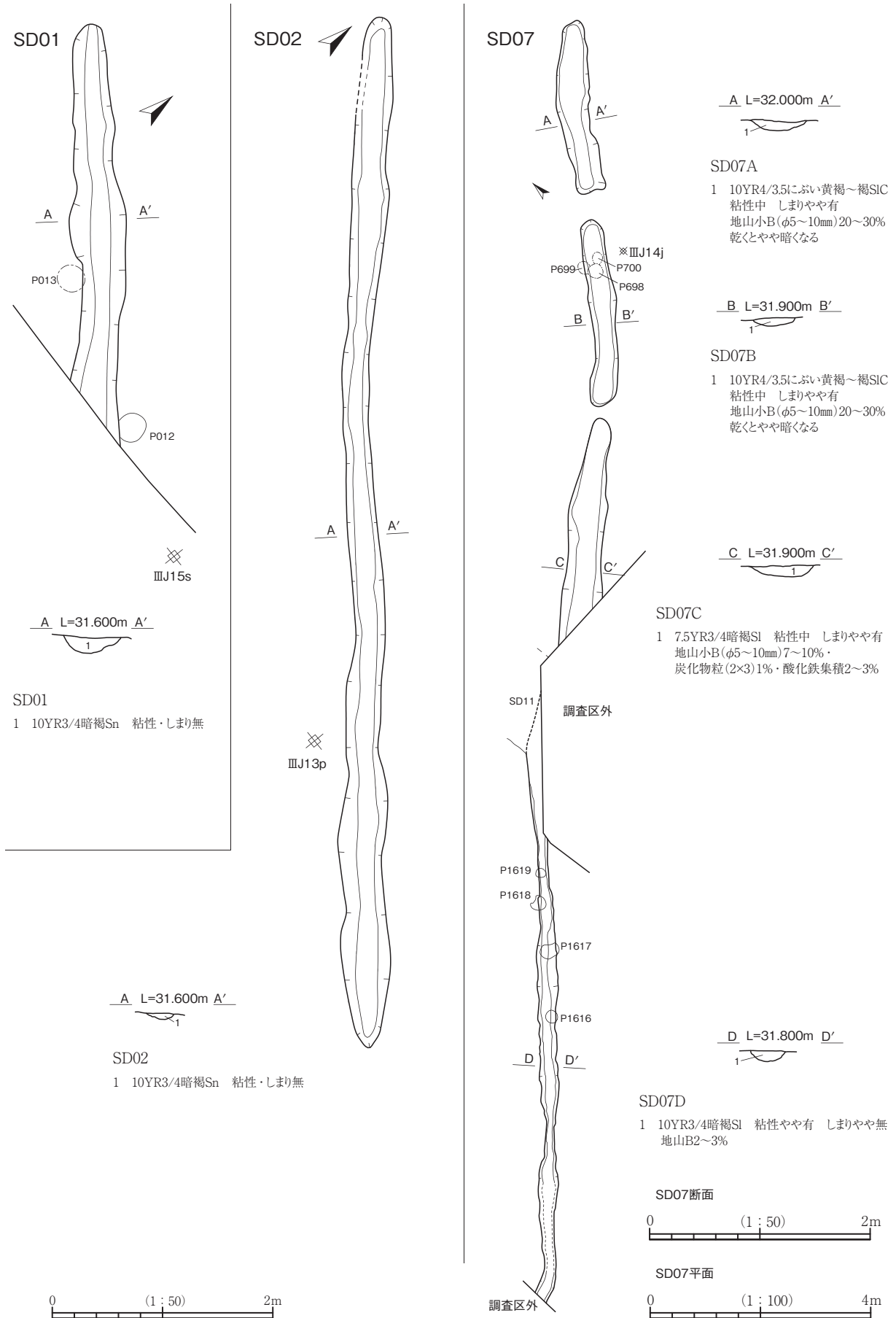
[出土遺物] 縄文土器 (1009.0 g)、石鏃 3 点、錐形石器 1 点、楔形石器 2 点、RF3 点、剥片 50 点、黒曜石製剥片 1 点、石核 1 点、磨石 3 点、土師器 (2.46 g) が出土しているが、本遺構とは異時期の産物である。

[時代・時期] 今回の調査では遺構の帰属時期を推定する遺物は皆無である。また、遺構の掘り込み面も特定はできていない。そのため時代を特定するには至らなかった。

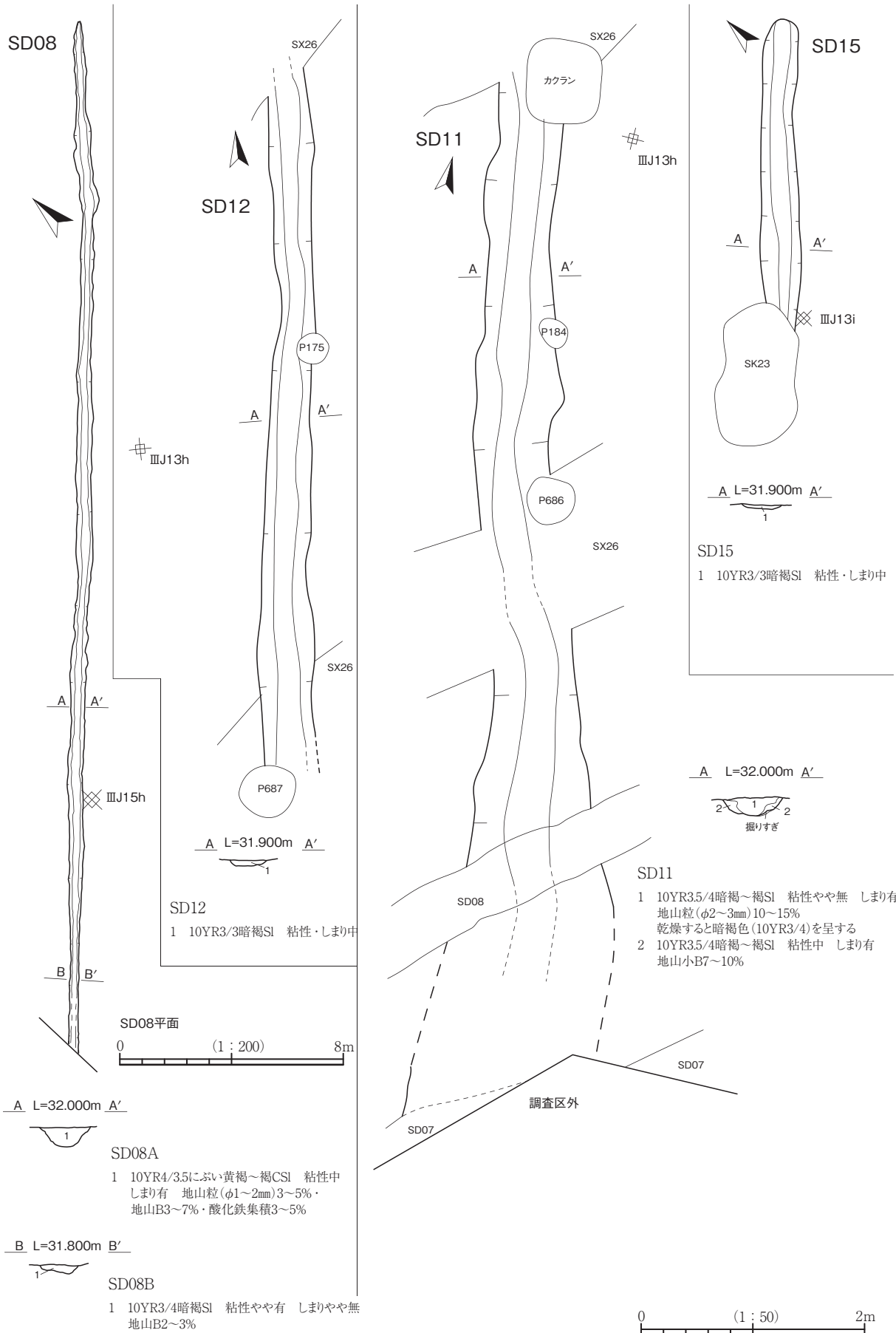
SD117 (第 65 図、写真図版 56)

[位置] 西区、Ⅳ J グリッドに位置し、東側は調査区外に延びる。西側が確認調査の範囲にある。

2 検出遺構

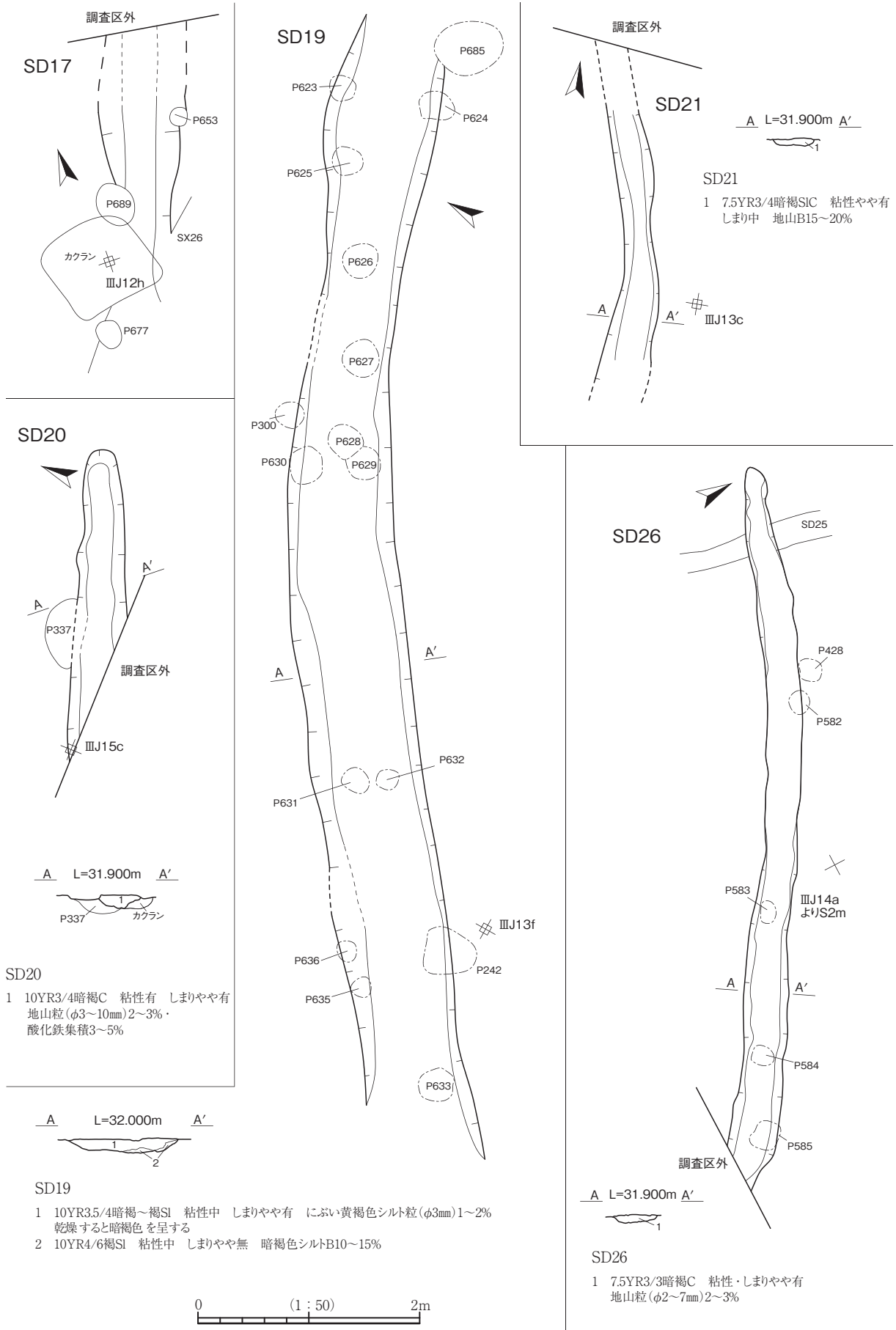


第47図 SD(1)

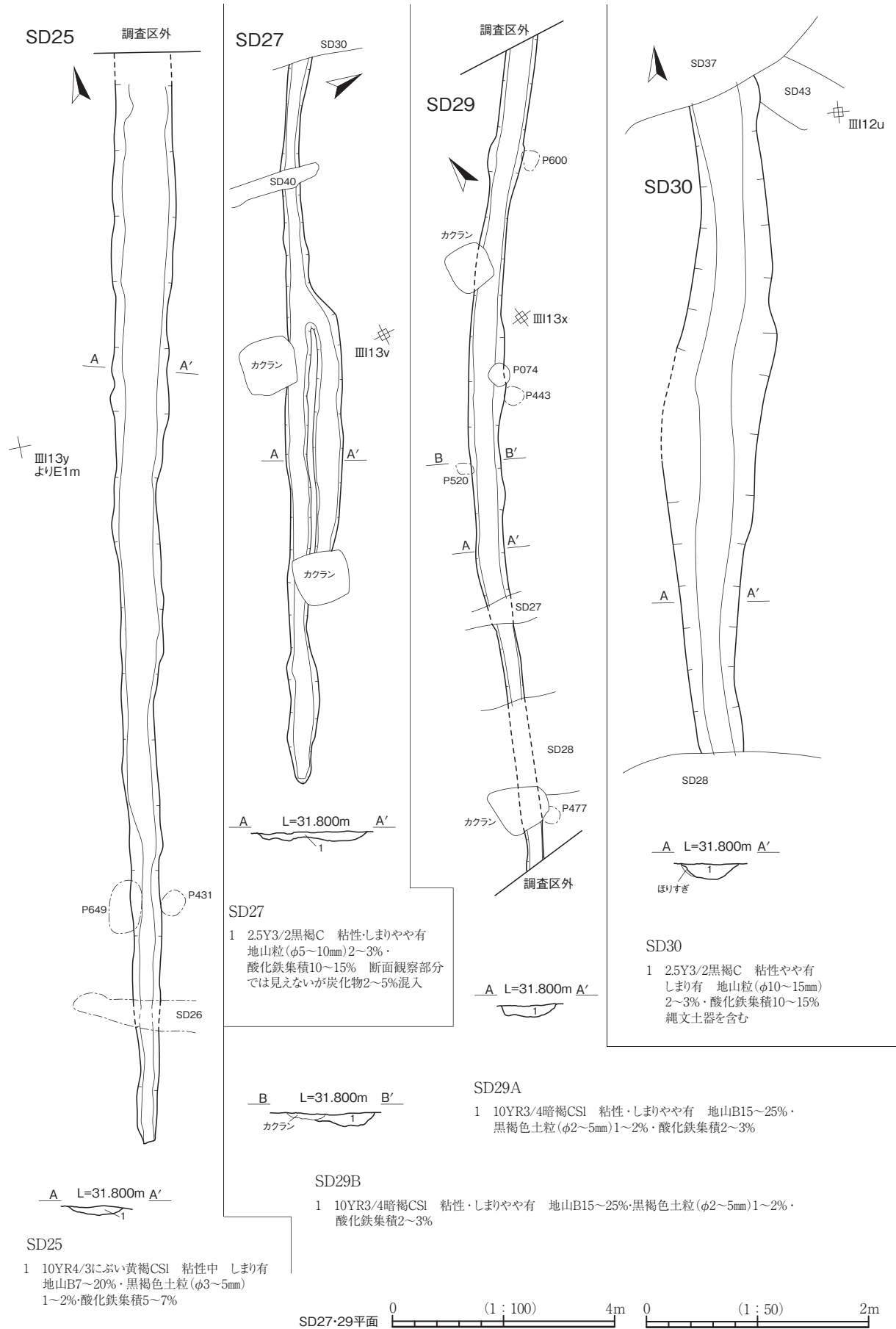


第48図 SD(2)

2 検出遺構

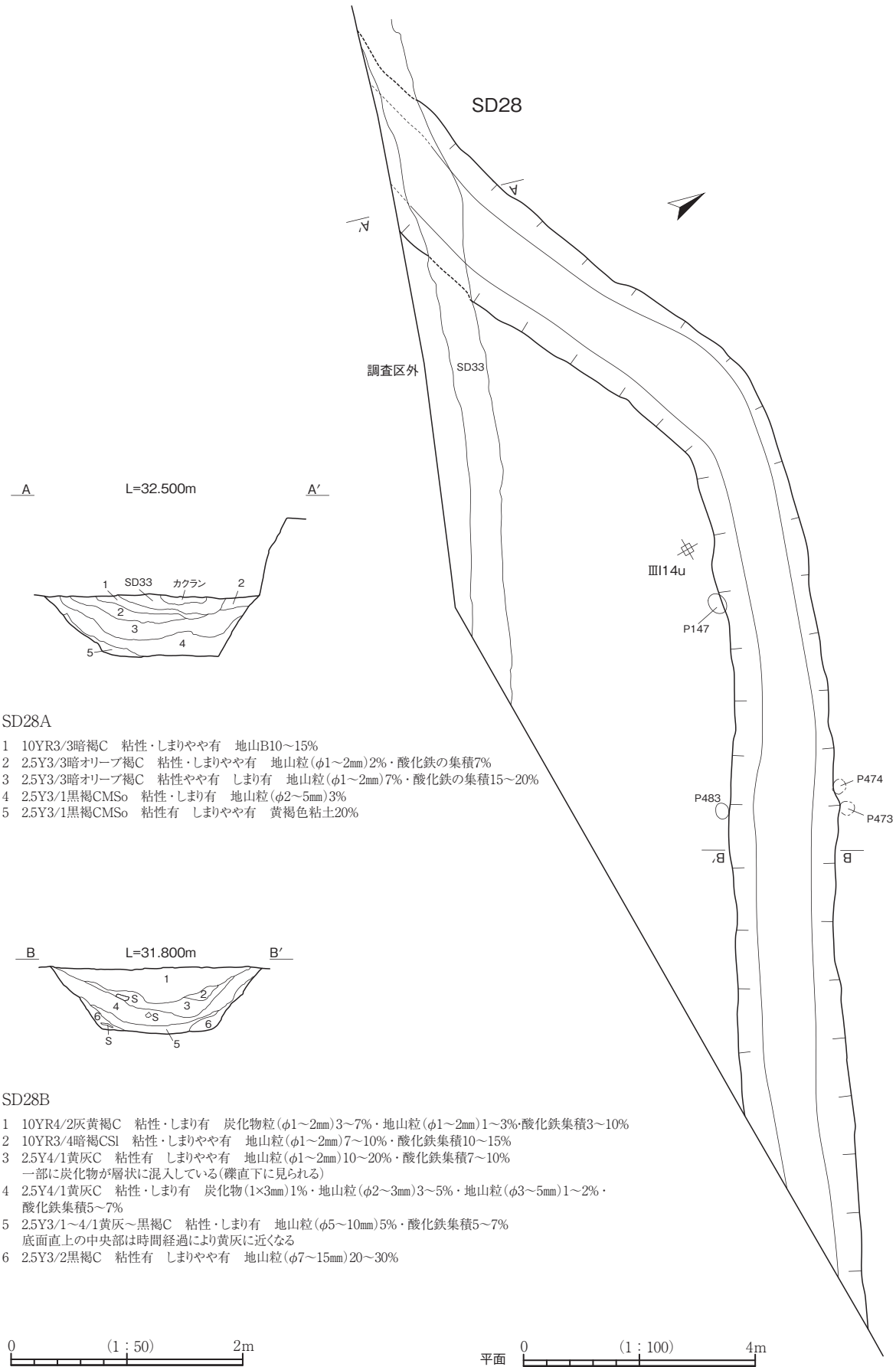


第49図 SD(3)

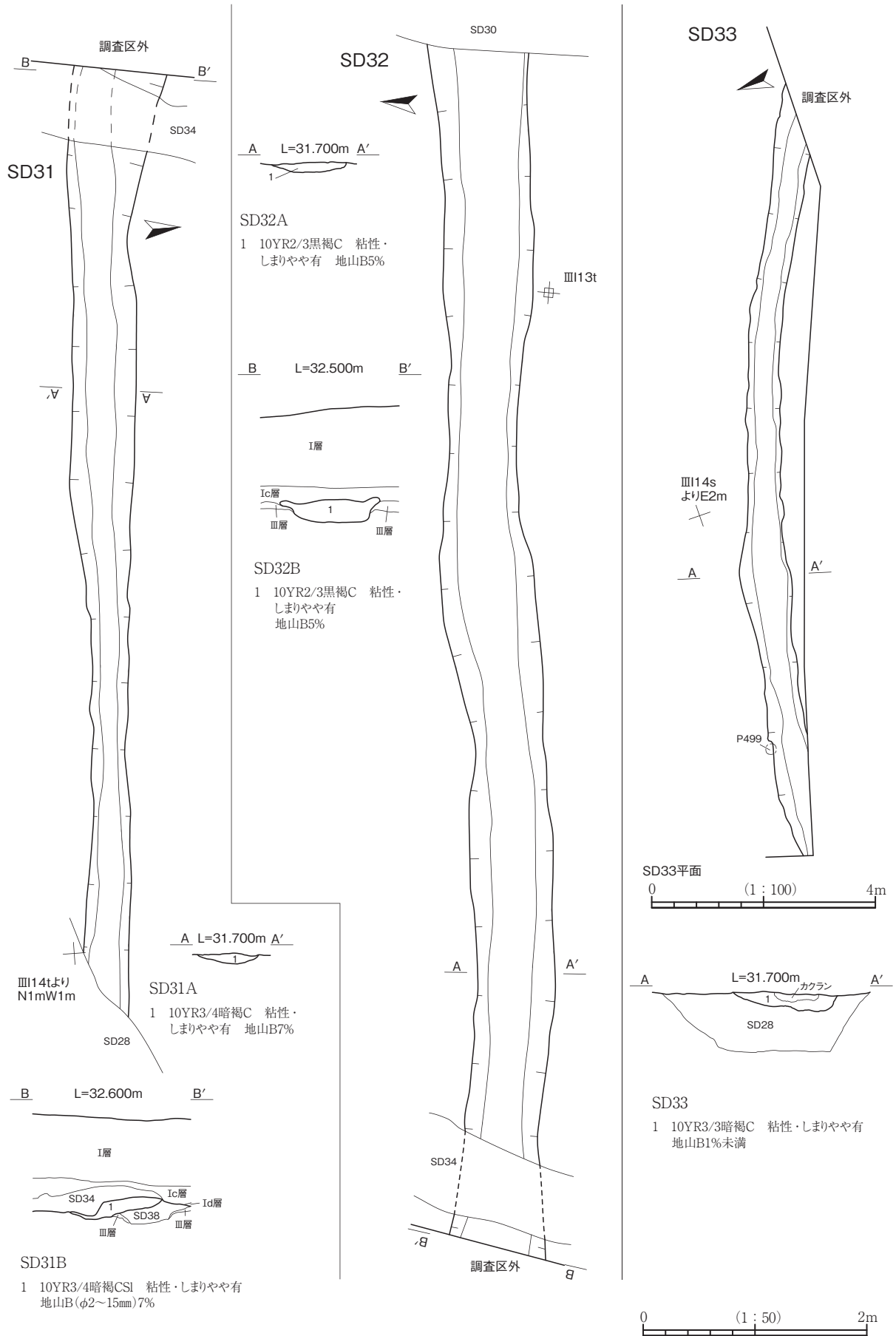


第50図 SD(4)

2 検出遺構

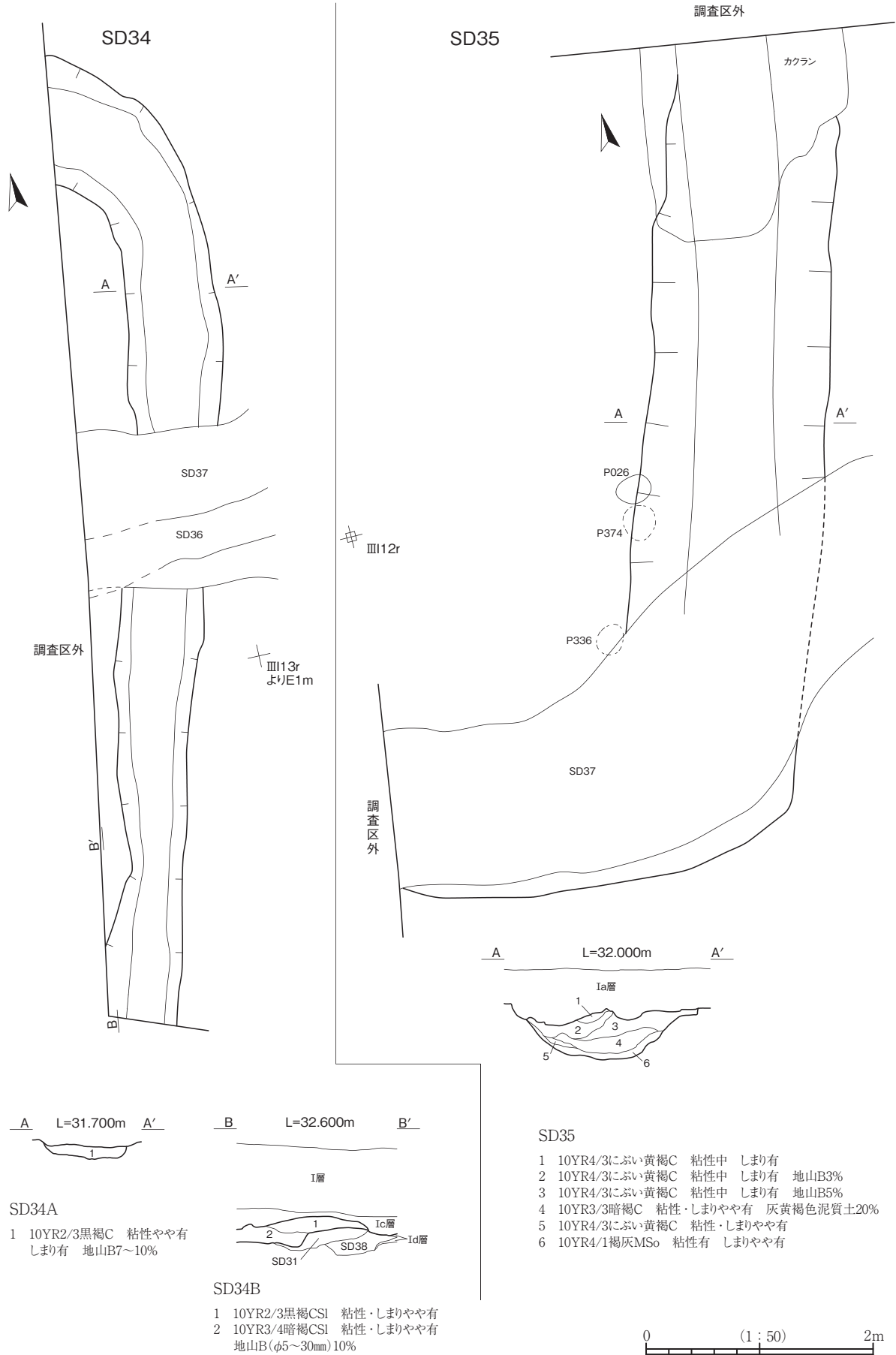


第51図 SD(5)

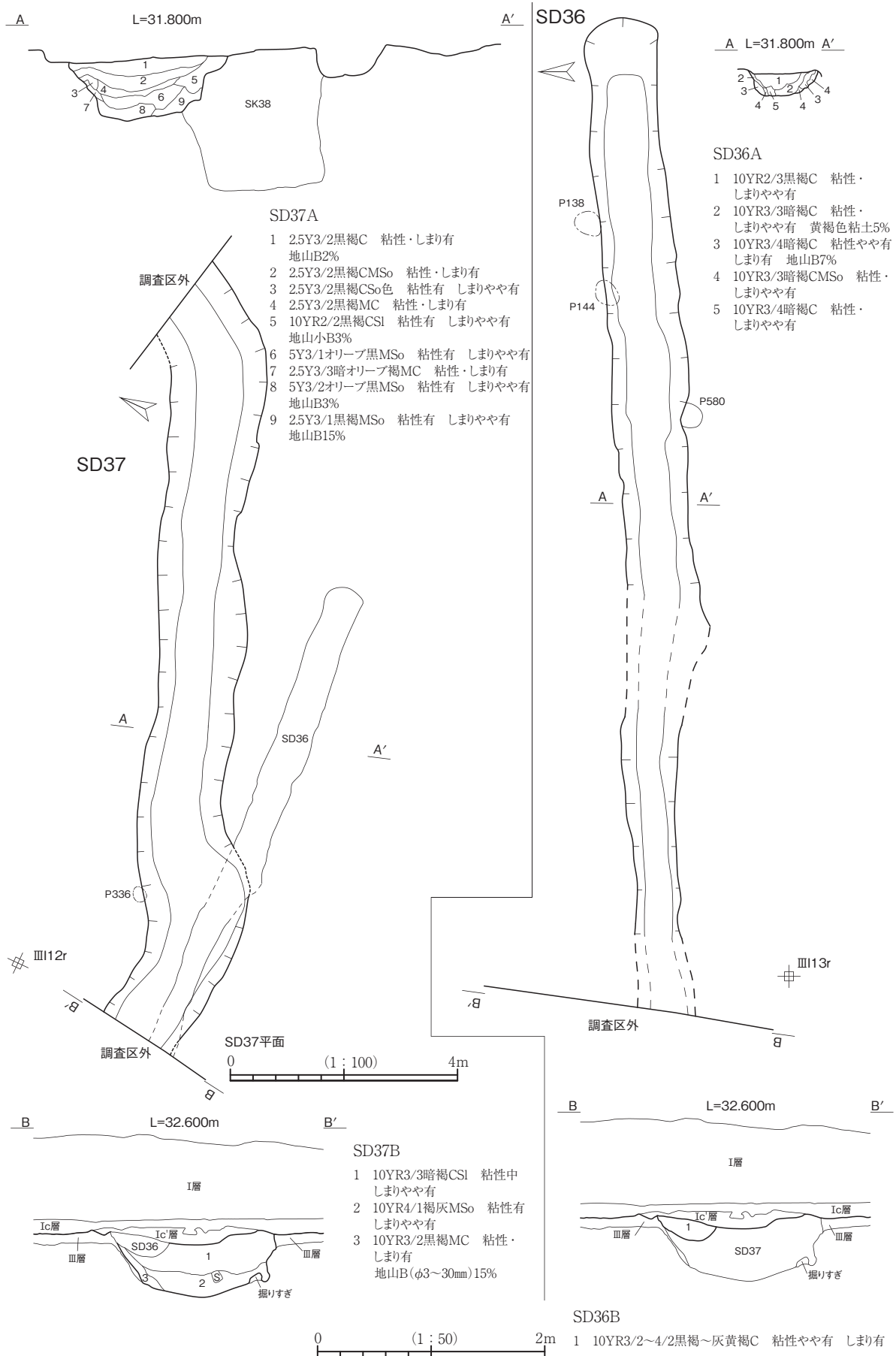


第 52 図 SD (6)

2 検出遺構

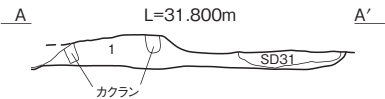
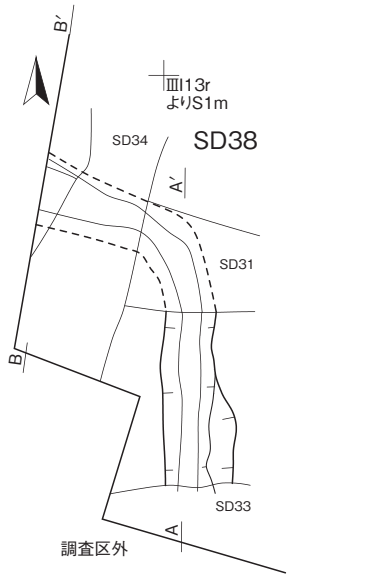


第53図 SD(7)

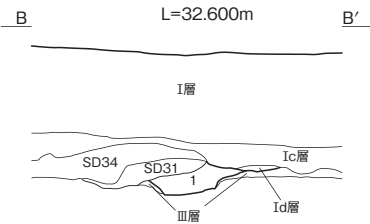


第54図 SD(8)

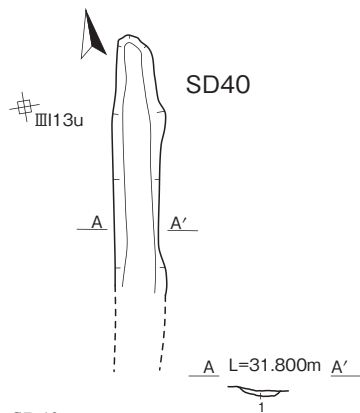
2 検出遺構



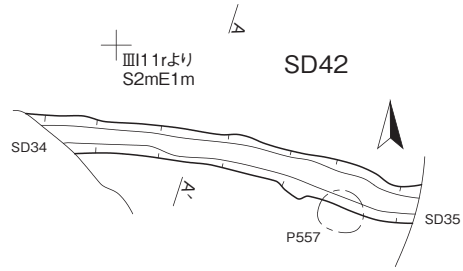
SD38A
1 10YR4/3にぶい黄褐C 粘性・しまり有



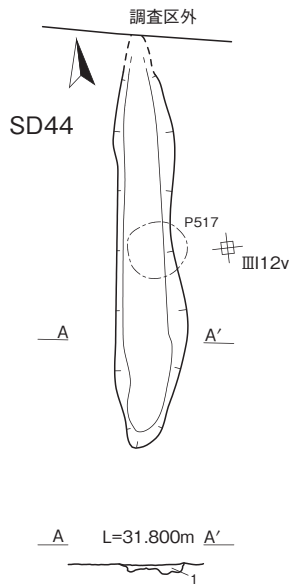
SD38B
1 10YR2/3黒褐CS1 粘性やや有 しまり有



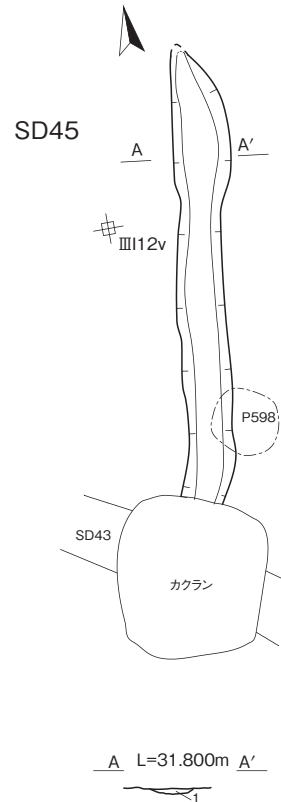
SD40
1 2.5Y3/2黒褐C 粘性・しまりやにぶい黄褐色粘土粒(φ5~10 5~7%・酸化鉄5~10%)



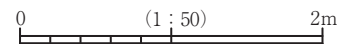
SD42
1 10YR2.5/3暗褐~黒褐C 粘性・しまりやや有



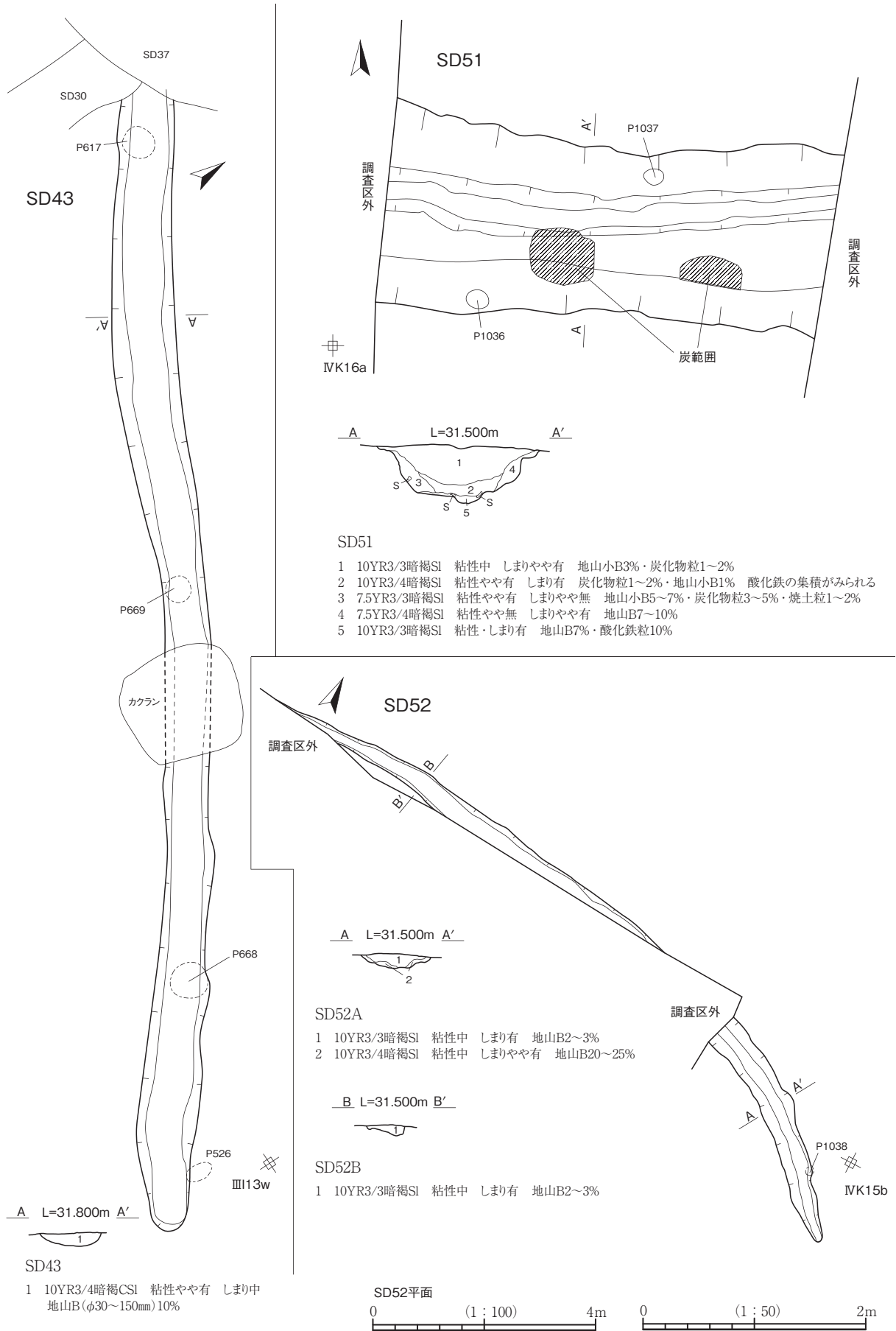
SD44
1 10YR3/4暗褐CS1 粘性・しまりやや有



SD45
1 10YR3/4暗褐CS1 粘性・しまりやや有

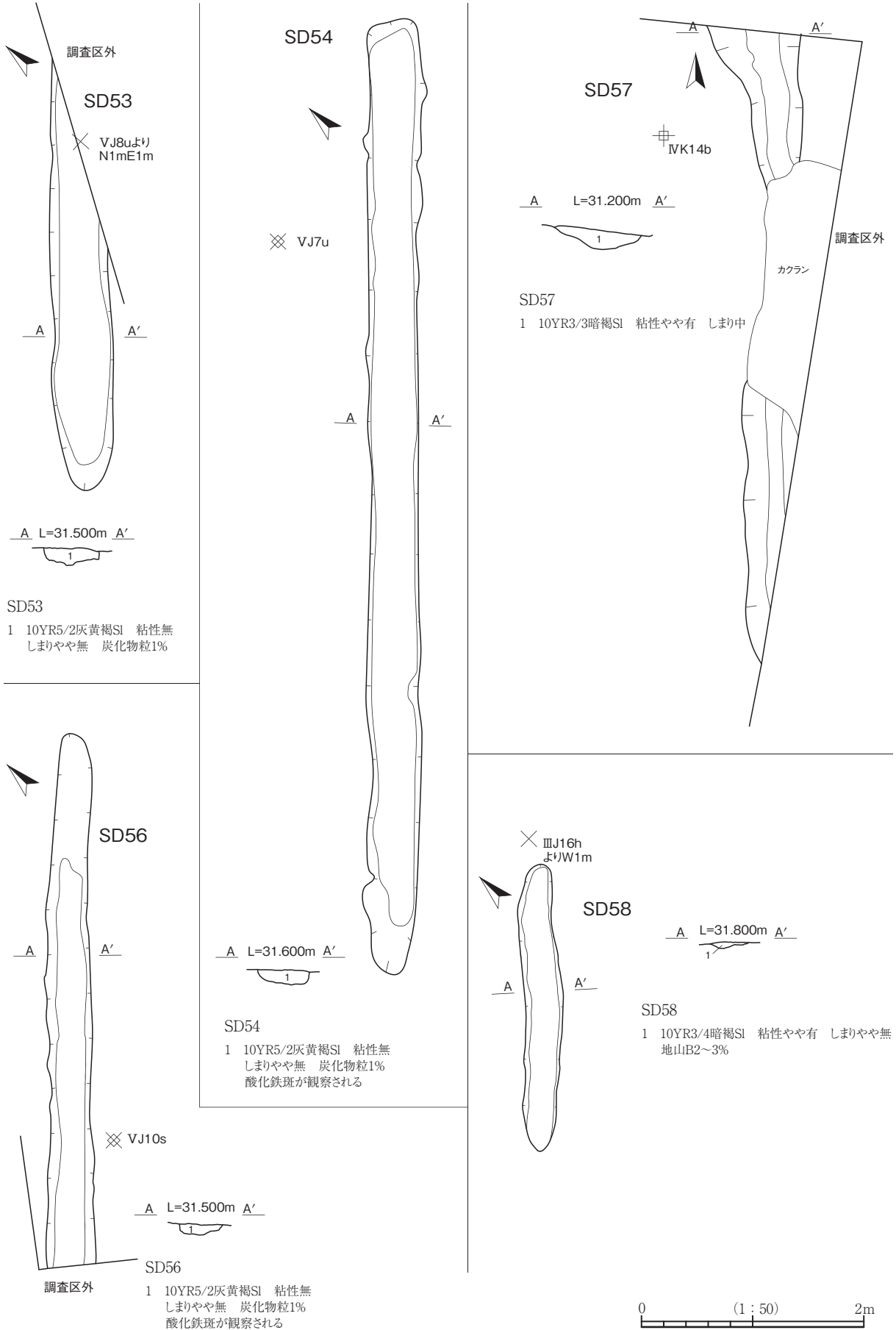


第55図 SD(9)

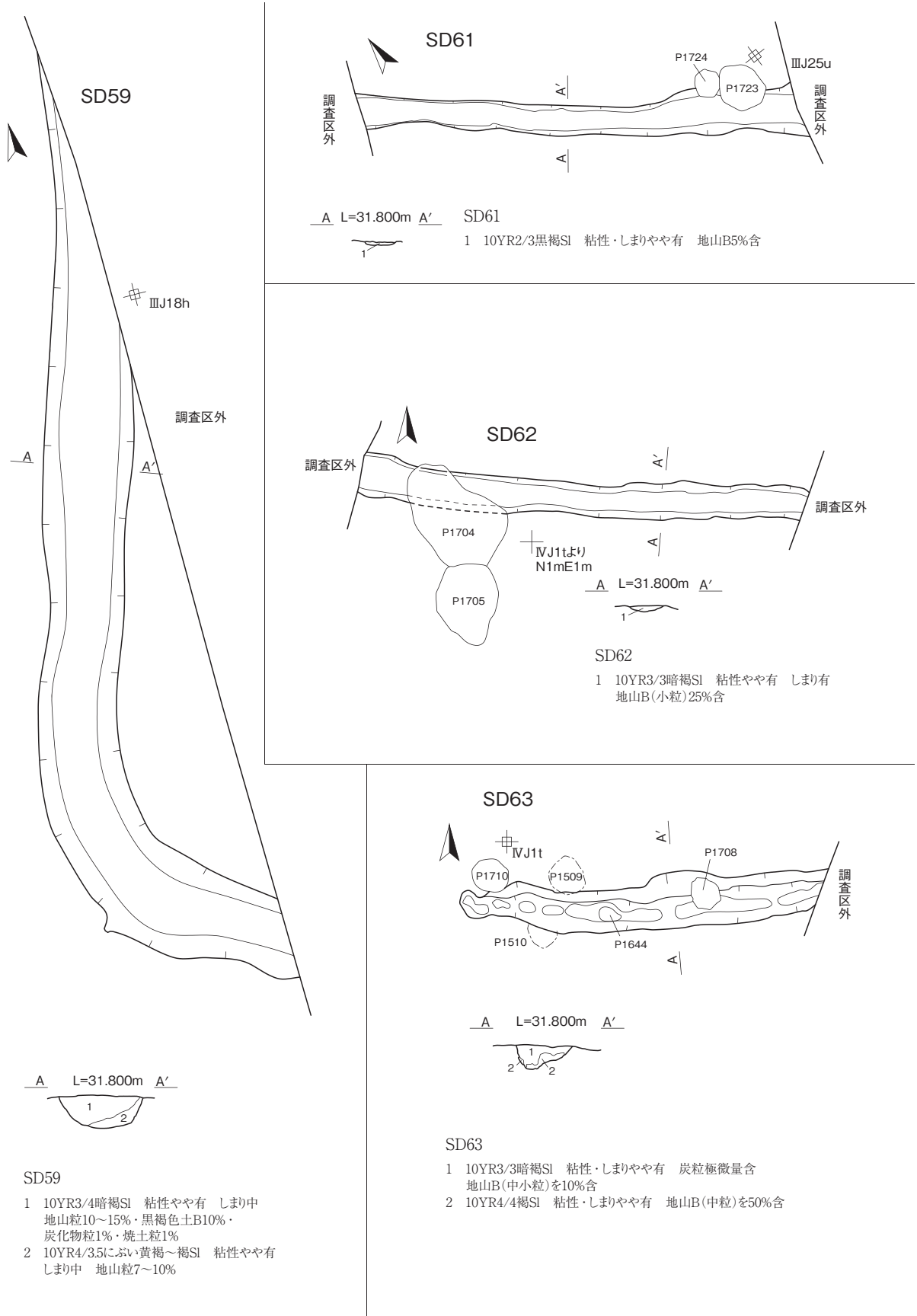


第 56 図 SD (10)

2 検出遺構



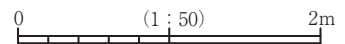
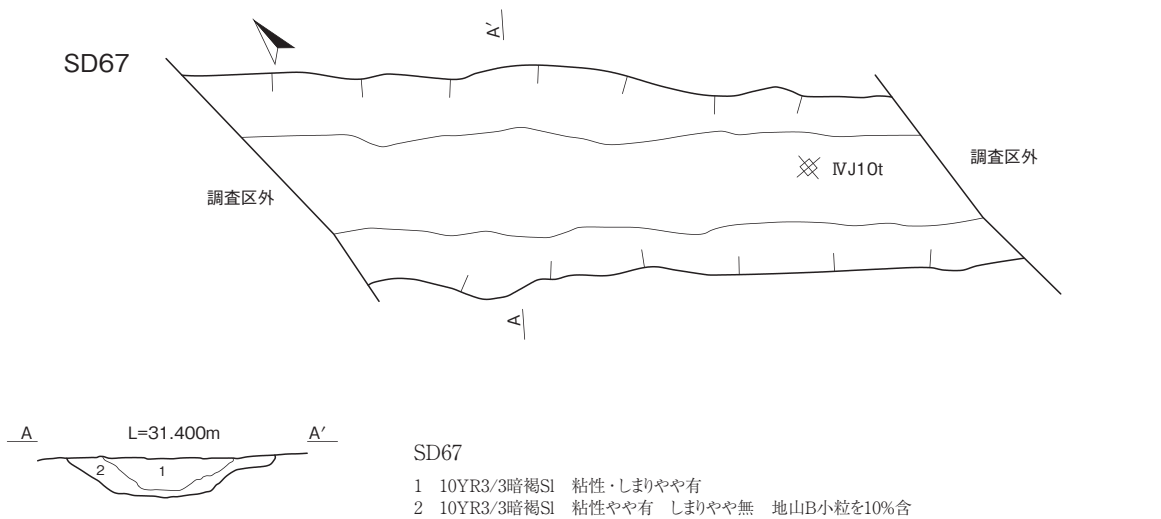
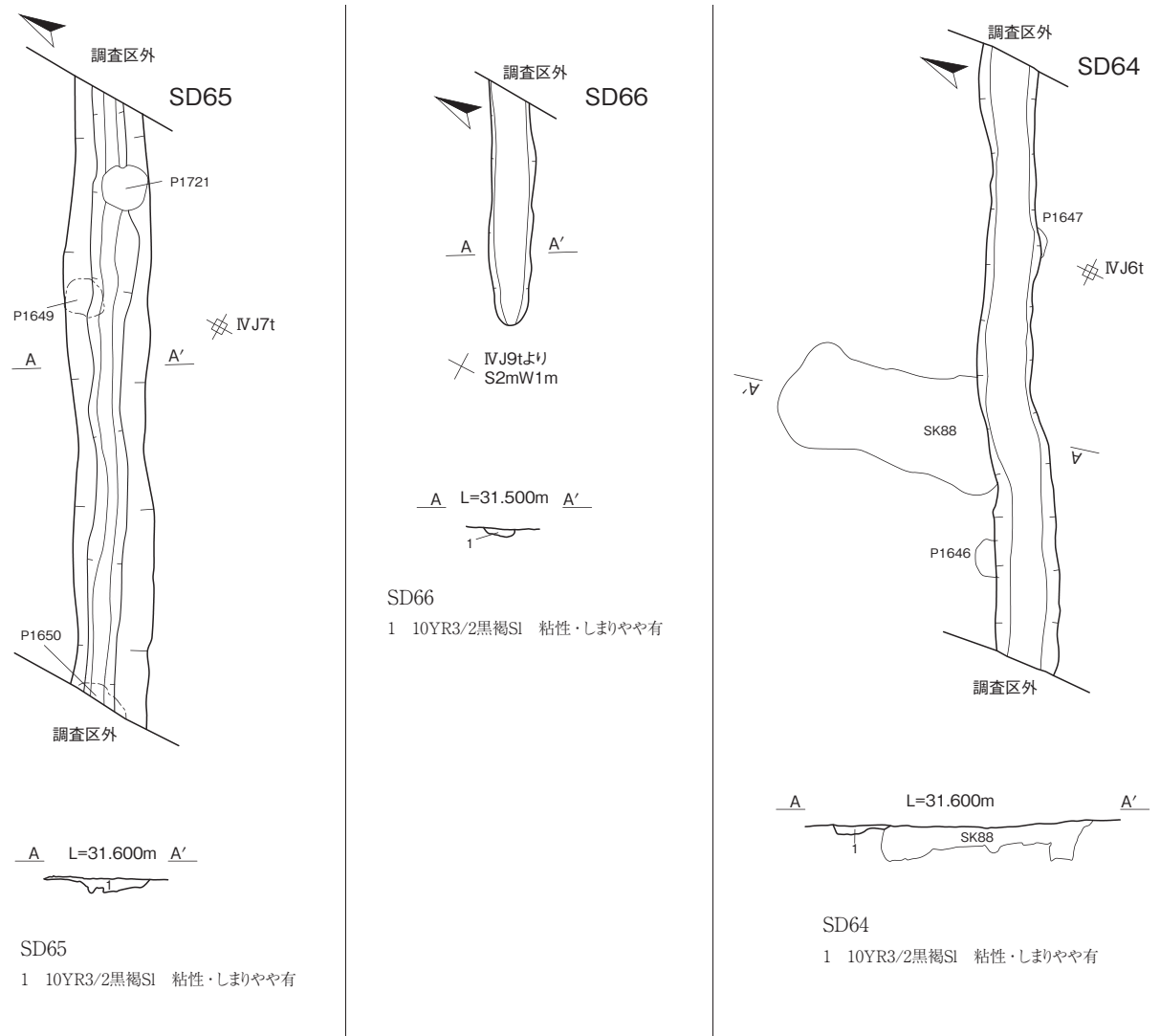
第 57 図 SD (11)



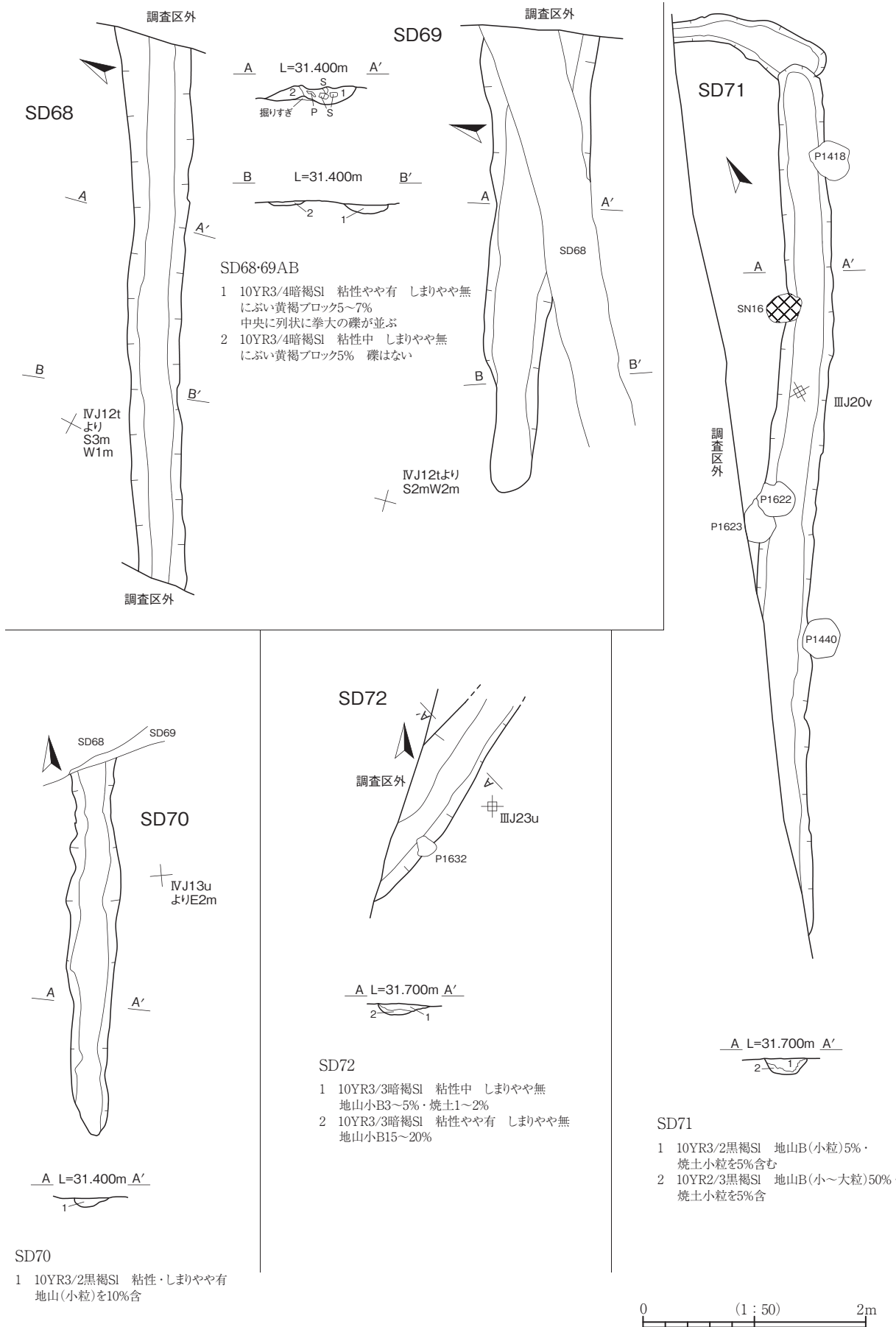
0 (1:50) 2m

第58図 SD (12)

2 検出遺構

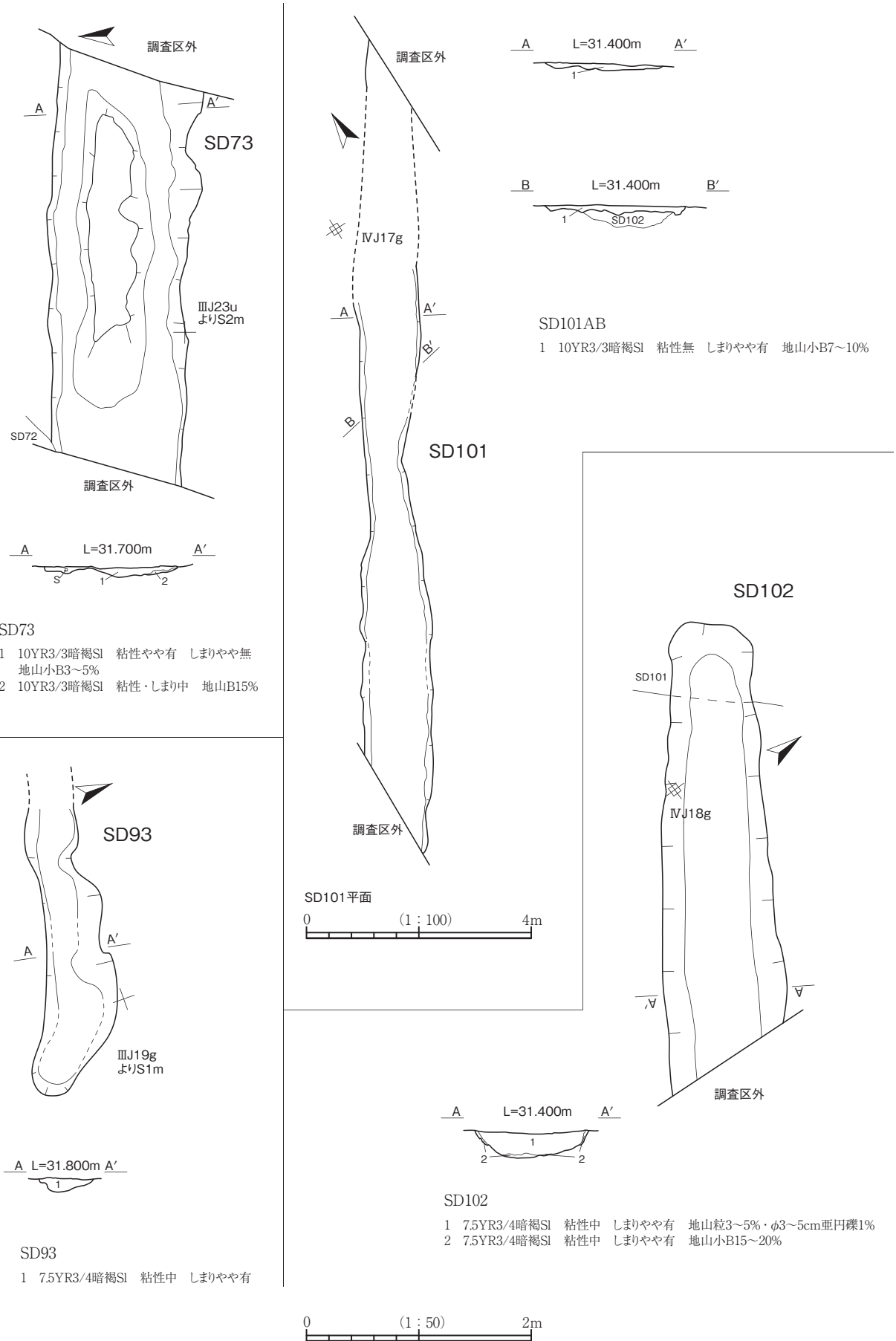


第 59 図 SD (13)

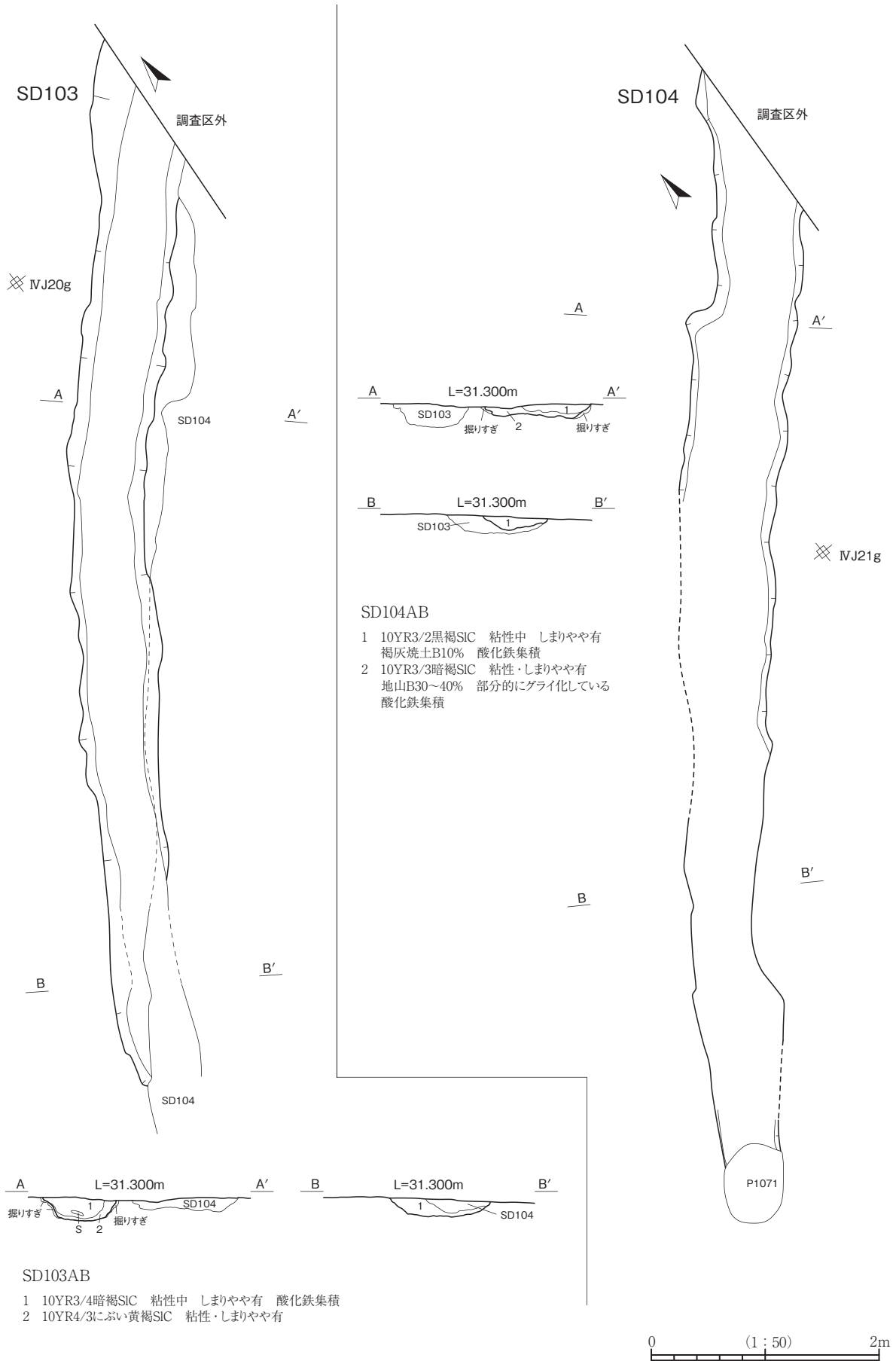


第60図 SD (14)

2 検出遺構

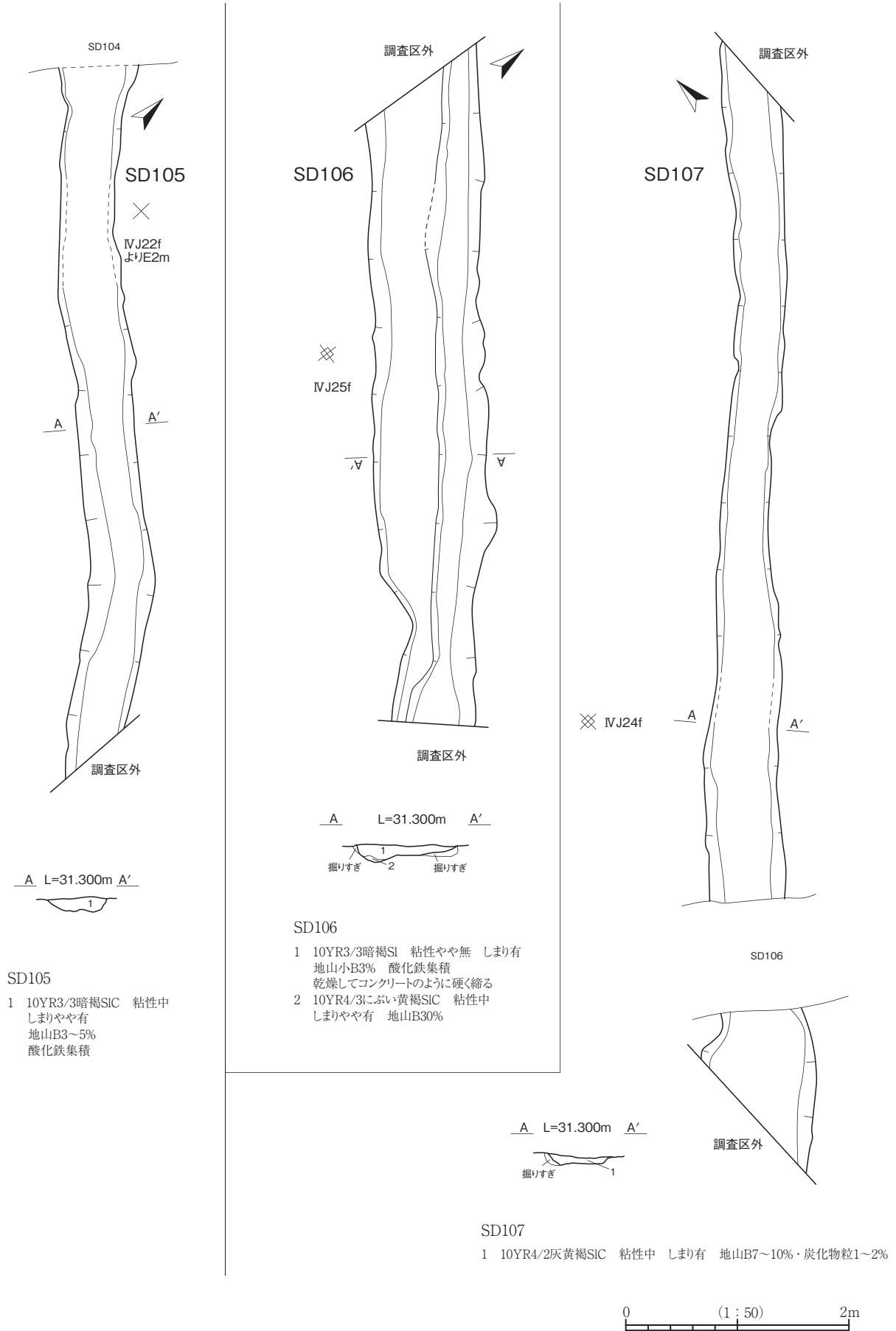


第61図 SD (15)

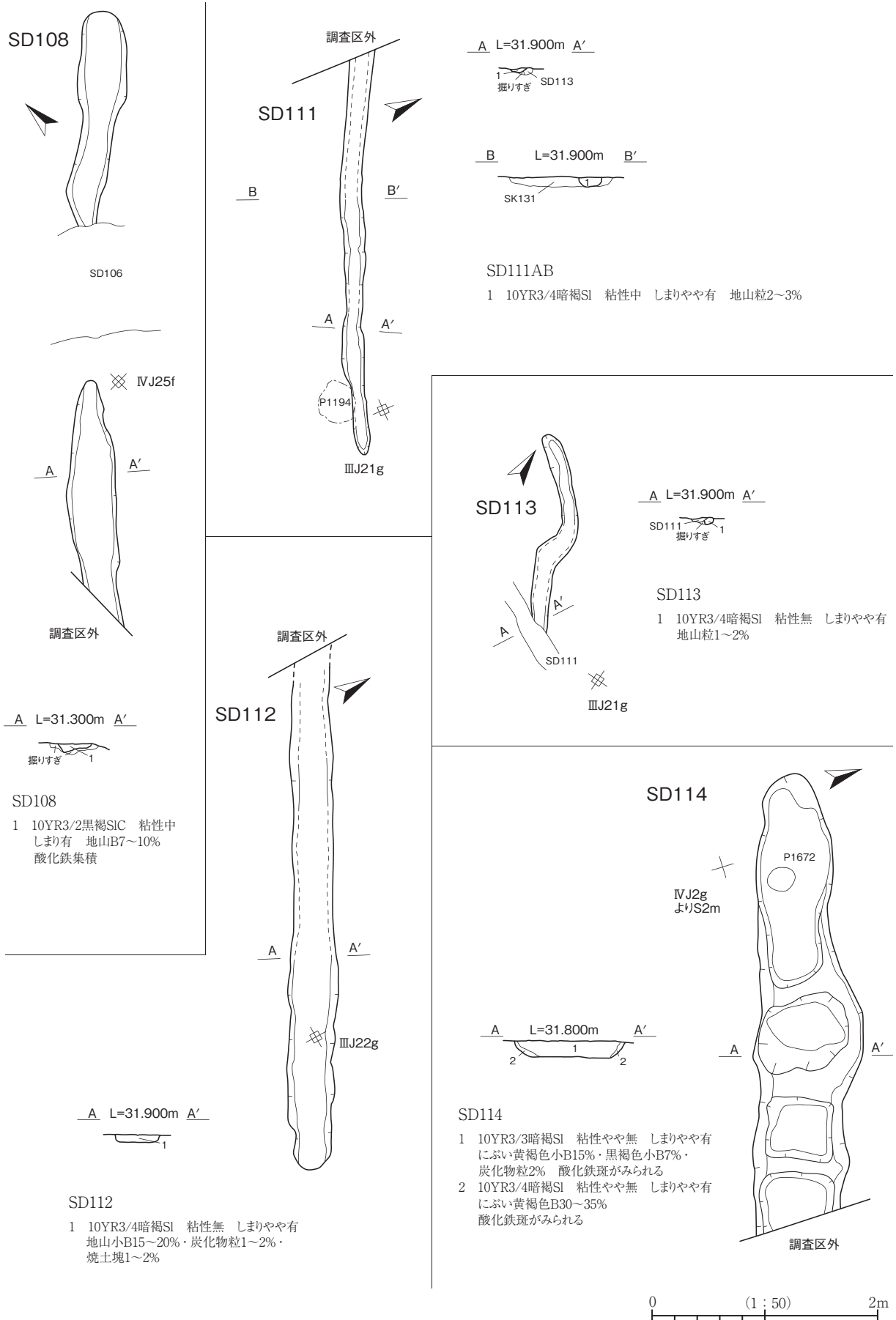


第 62 図 SD (16)

2 検出遺構

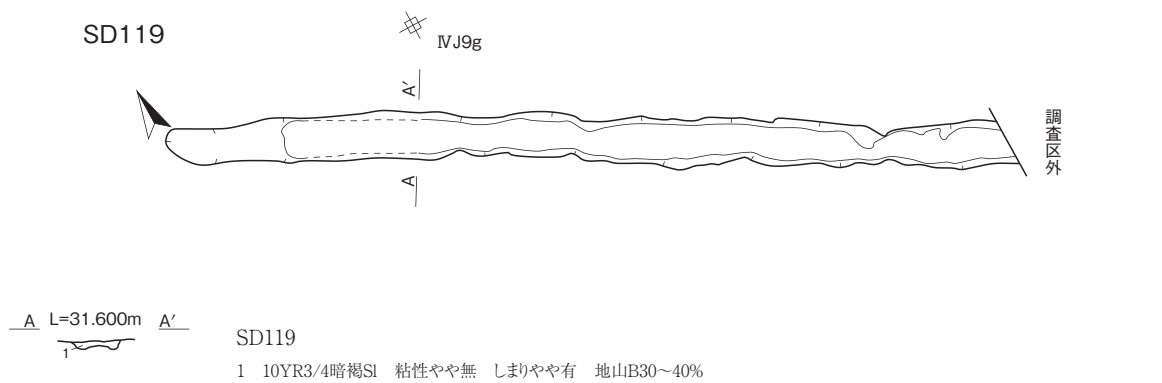
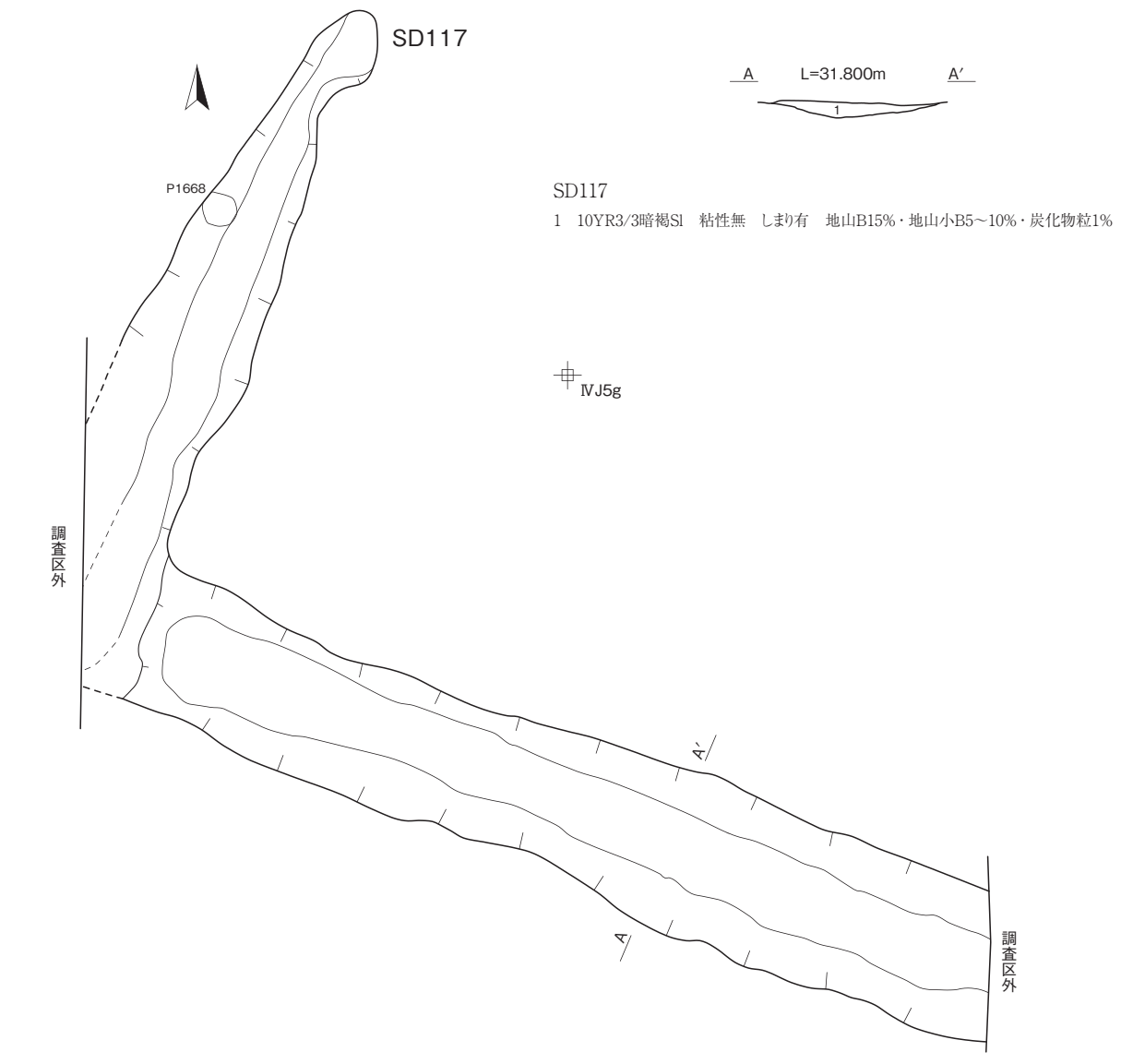


第 63 図 SD (17)



第 64 図 SD (18)

2 検出遺構



第 65 図 SD (19)

[検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。Ⅳ J 5 f グリッドで直角に曲がる。
 [重複] P1668 と重複しているが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。
 [規模] 調査区内で確認できた長さは 11.56 m、上幅は最大で 1.22 m である。検出面からの深さは最大で 17cm で、断面形は皿状を呈している。
 [埋土] 暗褐色シルトの単層である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。
 [出土遺物] 縄文土器 (523.5 g)、RF1 点、剥片 21 点、磨石 1 点、石皿 2 点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。
 [時代・時期] 今回の調査では遺構の帰属時期を推定する遺物は皆無である。また、遺構の掘り込み面も特定はできていない。そのため時代を特定するには至らなかった。

SD119 (第 65 図、写真図版 56)

[位置] 西区南、Ⅳ J グリッドに位置し、東側は調査区外に延びる。一部が確認調査の範囲にある。
 [検出状況] Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。
 [重複] SB58 とプランが重複するが、直接切り合う柱穴がないため、新旧関係は不明である。
 [規模] 調査区内で確認できた長さは 5.61 m、上幅は最大で 0.33 m である。検出面からの深さは最大で 15cm で、断面形は W 字状を呈している。
 [埋土] 暗褐色シルトの単層である。層高がないため、人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。
 [出土遺物] 縄文土器 (90.4 g)、剥片 1 点が出土しているが、遺構とは異時期の産物である。
 [時代・時期] 今回の調査では遺構の帰属時期を推定する遺物は皆無である。また、遺構の掘り込み面も特定はできていない。そのため時代を特定するには至らなかった。

(5) 焼土遺構 (SN)

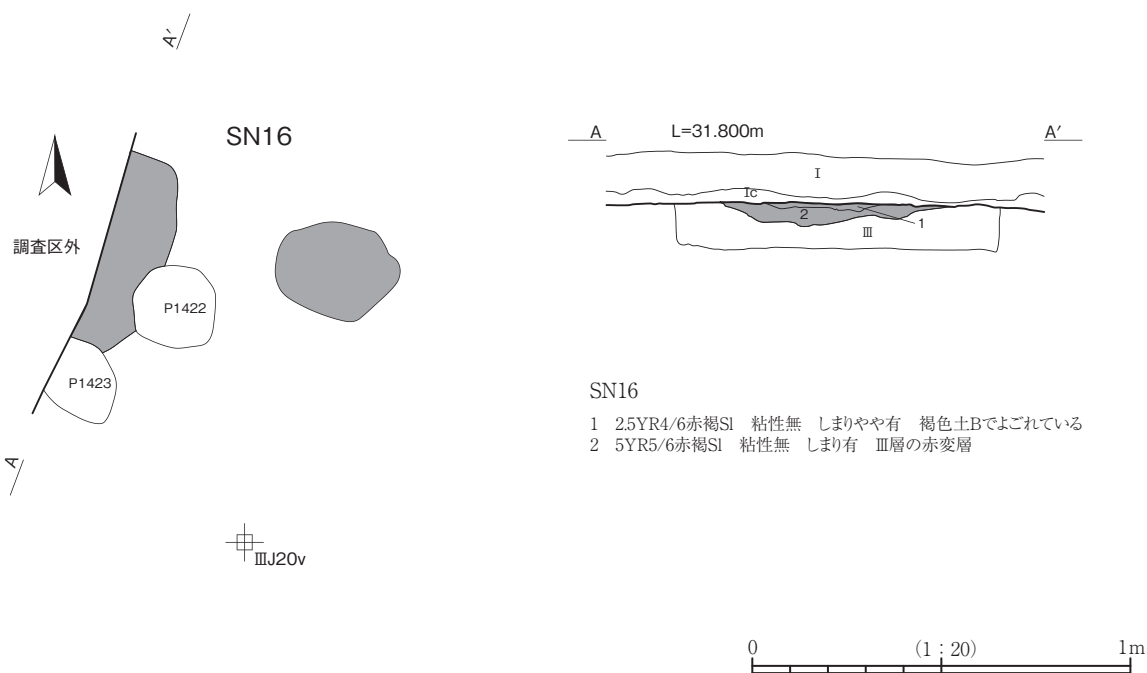
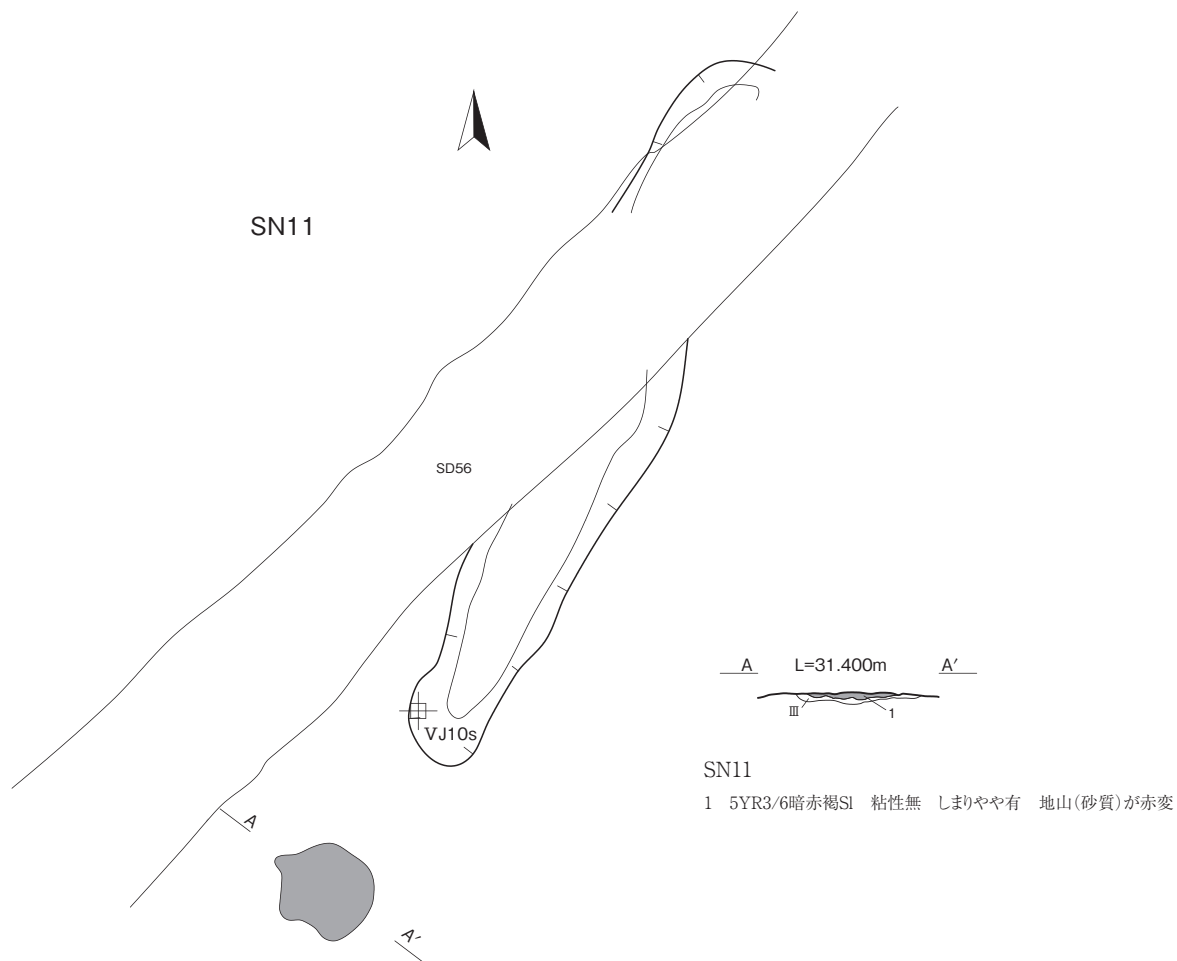
SN11 (第 66 図、写真図版 57)

[位置・検出状況] 南東区南、Ⅴ J10 r グリッド付近に位置する。Ⅲ層が赤変している。
 [重複] SD56 に切られており、本遺構が古い。
 [規模] 0.28×0.24 m の不整形円形に赤変している。その北東には 2.02×0.40 m の焼土塊・炭化物粒・地山塊を含む暗褐色シルトで埋め戻された溝状のプランが確認でき、一連のものと判断した。
 [埋土・焼土] 掘り込みは認められない。赤変している厚さは 4cm である。
 [出土遺物] 焼成面に貼りつくように土師器 (23.79 g) が出土している。また、縄文土器 (17.7 g)、剥片 1 点も出土している。
 [時代・時期] 出土遺物から平安時代の遺構と考えられる。

SN16 (第 66 図、写真図版 57)

[位置・検出状況] 北東区、Ⅲ J19 u v グリッドに位置し、西側は調査区外に広がっている。Ⅲ層が赤変している。
 [重複] P1422・1423 に切れ、SD71 を切っている。よって、柱穴より古く、SD71 より新しい。また、SB44 のプランと重複するが、直接切り合う柱穴がないため、新旧関係は不明である。
 [規模] 調査区外に広がるため、詳細な規模は不明である。
 [埋土・焼土] 掘り込みは認められない。確認できる赤変している厚さは 13cm である。
 [出土遺物] なし。

2 検出遺構



第 66 図 SN

[時代・時期] 今回の調査では遺構の帰属時期を推定する遺物は皆無である。また、遺構の掘り込み面も特定はできていない。そのため時代を特定するには至らなかった。

(6) 不明遺構 (SX)

SX01 (第 67 図、写真図版 58)

[位置・検出状況・重複] H22 年度調査区の東側、Ⅲ J13 m n グリッドに位置する。Ⅲ層上面で黒褐色の広がりとして検出した。重複する遺構はない。

[規模] 開口部で 1.65×0.81 m の歪な楕円形で、底面までの残存深度は最大で 51cm である。

[埋土] 断面図の作成は行っていないが、炭化物粒や地山塊の混入する黒褐色シルトの単層である。

[壁・底面の状況] 長軸の中間部で段があり、南西側が深くなっている。壁は底面から直線的に立ち上がっている。

[出土遺物] 縄文土器 (170.3 g)、剥片 1 点、土師器 (203.4 g) が出土し、土師器 (559) を掲載した。

[時代・時期] 出土遺物より、平安時代の遺構と考えられる。

SX02 (第 67 図、写真図版 58)

[位置・検出状況・重複] H22 年度調査区の東側、Ⅲ J13 m グリッドに位置する。Ⅲ層上面で黒褐色～暗褐色の広がりとして検出した。重複する遺構はない。

[規模] 開口部で 0.69×0.61 m の楕円形で、底面までの残存深度は最大で 18cm である。

[埋土] 炭化物・地山塊・焼土塊を含む黒褐色～暗褐色シルトの単層である。人為堆積の可能性が高い。

[壁・底面の状況] 小規模な遺構で底面はすり鉢状を呈する。壁は底面からなだらかに立ち上がる。

[出土遺物] なし。

[時代・時期] 遺物が伴わないため、断定はできないが、SX01、SX21、SX22 と一連の遺構の可能性が高く、これらの遺構と同時期と考えられる。

SX21 (第 67 図、写真図版 58)

[位置・検出状況・重複] H22 年度調査区の東側、Ⅲ J13 n グリッドに位置する。Ⅲ層上面で土師器片や焼土ブロックを多量に混入する褐色の広がりとして検出した。重複する遺構はない。

[規模] 円形のプランが並列しており、西側が開口部で 0.42×0.33 m、東側が開口部で 0.61×0.52 m である。底面までの残存深度は最大で西側 10cm、東側 16cm である。

[埋土] どちらも焼土ブロック・炭化物粒を含む褐色シルトの単層で、人為的に埋め戻されたものと考えられる。土器の混在する量が異なるため 2 層に分層した。

[壁・底面の状況] 底面はすり鉢状を呈しており、壁はなだらかに立ち上がる。

[出土遺物] 縄文土器 (614.2 g)、土師器 (587.76 g) が出土し、土師器 (560～562) を掲載した。

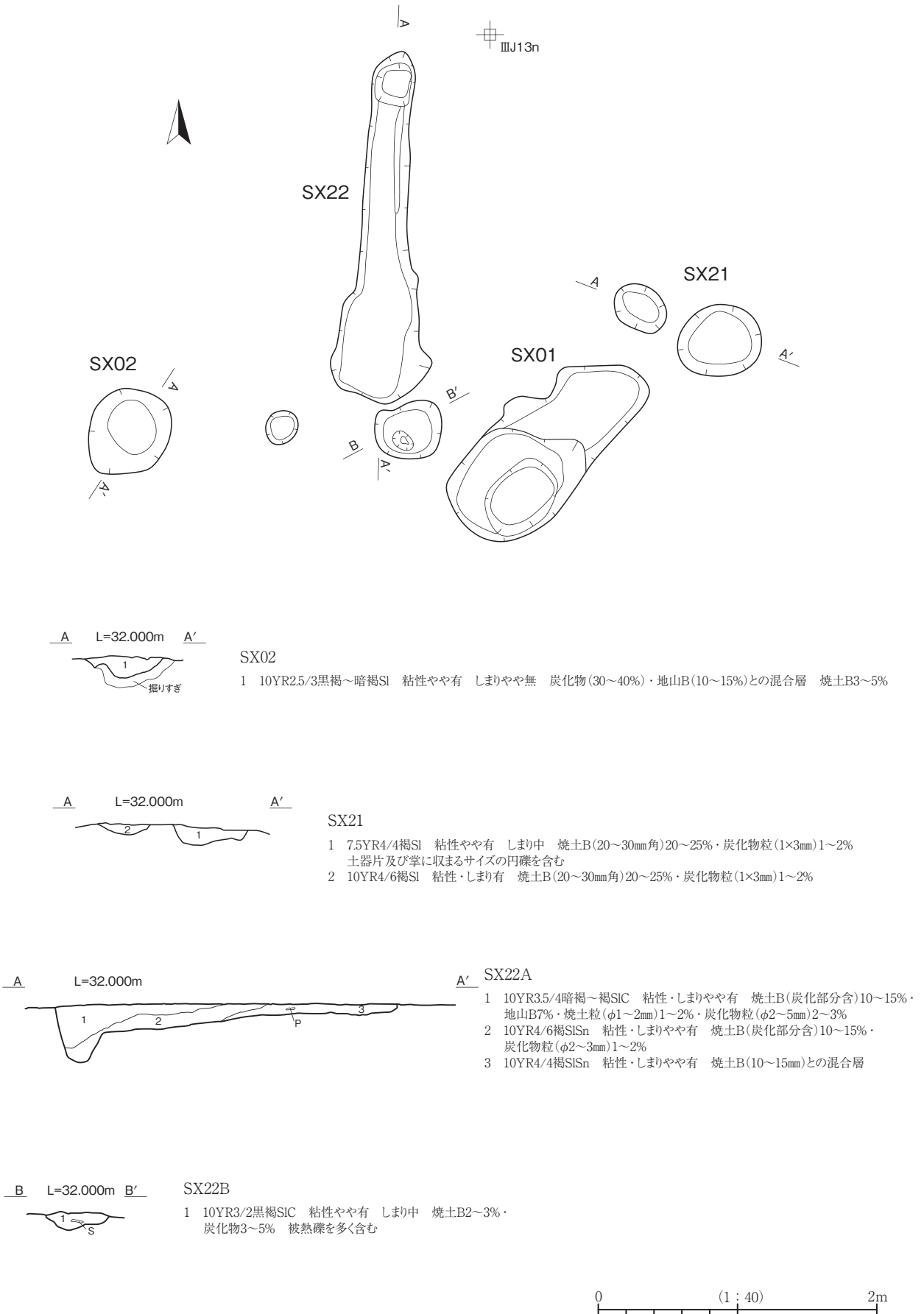
[時代・時期] 出土遺物より、平安時代の遺構と考えられる。

SX22 (第 67 図、写真図版 58)

[位置・検出状況・重複] H22 年度調査区の東側、Ⅲ J13 m グリッドに位置する。Ⅲ層上面で暗褐色～褐色の広がりとして検出した。重複する遺構はない。

[規模] 開口部で 2.55×0.74 m の南側が膨らむ溝状を呈する。北側に向かって傾斜しているため、深さは一定ではないが、北側の一番深い部分で 45cm、その他では最大で 22cm である。

2 検出遺構



第 67 図 SX (1)

[埋土] 3層に分層した。2・3層は地山起源の堆積層で2層は天井部、3層は外壁の崩壊土層の可能性が高いと考えられる。被熱した壁の一部と考えられる焼土ブロックの混入も見られる。断面図には反映されていないが、南側の一部に被熱層が残存している。1層は天井部崩壊後の堆積層と考えられる。混入物が多く人為堆積の可能性が高い。

[壁・底面の状況] 底面は平坦で、北側へ傾斜している。壁は底面からなだらかに立ち上がる。

[性格・その他] カマド状遺構である。底面の傾斜方向、被熱層の残存を考慮すると、南側が焚き口と考えられる。南側に0.50×0.50 mの不整円形のピットが隣接している。被熱礫・炭化物・焼土ブロックを含む黒褐色シルト質粘土で埋没している。

[出土遺物] 縄文土器 (141.4 g)、磨石1点、石皿2点、土師器 (44.87 g) が出土し、土師器 (563) を掲載した。

[時代・時期] 出土遺物より、平安時代の遺構と考えられる。

SX23 (第68図、写真図版57)

[位置・検出状況・重複] 東区北、Ⅲ J23 tグリッドに位置する。西側の一部が調査区外に広がっている。Ⅲ層上面で焼土塊を含む暗褐色の広がりとして検出した。重複する遺構はない。

[規模] 確認できた規模は開口部で0.80×0.42 mである。底面までの残存深度は最大で13cmである。

[埋土] 暗褐色シルトを主体とする。焼土はブロック状に散在している。

[壁・底面の状況] 底面は不安定で、凹凸が目立つ。壁は底面からなだらかに立ち上がる。

[出土遺物] 磨石1点が出土している。

[時代・時期] 今回の調査では遺構の帰属時期を推定する遺物は皆無である。また、遺構の掘り込み面も特定はできていない。そのため時代を特定するには至らなかった。

SX24 (第68図、写真図版59)

[位置・検出状況・重複] 東区北、Ⅲ J24 tグリッドに位置する。西側が調査区外に広がっている。Ⅲ層上面で赤褐色焼土と地山が混在するプランとして検出した。SD61に切られ、本遺構が古い。

[規模] 確認できた規模は開口部で1.60×1.44 mである。底面までの残存深度は最大で12cmである。

[埋土] 壁周辺には地山ブロックと赤褐色焼土が混在しており、中央側は暗褐色シルト主体である。

[壁・底面の状況] 底面は不安定で、凹凸が目立つ。壁はなだらかに内湾しながら立ち上がる。

[出土遺物] 縄文土器 (3.5 g)、スクレイパー類1点、石皿1点が出土している。

[時代・時期] 今回の調査では遺構の帰属時期を推定する遺物は皆無である。また、遺構の掘り込み面も特定はできていない。そのため時代を特定するには至らなかった。

SX25 (第68図、写真図版59)

[位置・検出状況・重複] 東区北、Ⅲ J25 tグリッドに位置する。Ⅲ層上面で明赤褐色焼土が散在する暗褐色の広がりとして検出した。重複する遺構はない。

[規模] 開口部で1.07×0.64 mの歪な楕円形である。底面までの残存深度は最大で12cmである。

[埋土] 東側では暗褐色、西側では黒褐色シルトに明赤褐色焼土が散在している。

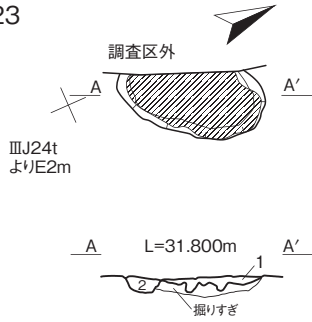
[壁・底面の状況] 底面は不安定で、凹凸が目立つ。壁は直線的に外傾しながら立ち上がる。

[出土遺物] 縄文土器 (33.7 g) が出土している。

[時代・時期] 今回の調査では遺構の帰属時期を推定する遺物は皆無である。また、遺構の掘り込み

2 検出遺構

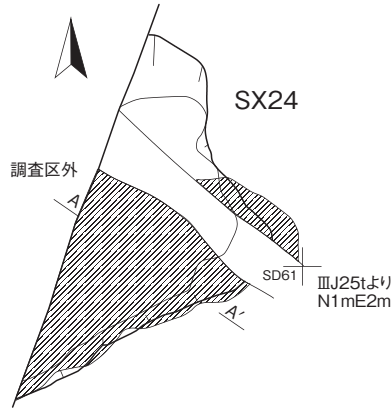
SX23



SX23

- 1 10YR3/4暗褐色SI 粘性・しまりやや有 地山B5%含
- 2 10YR3/3暗褐色SI 粘性無 しまりやや有 明赤褐色(2.5YR5/8)焼土B20%含

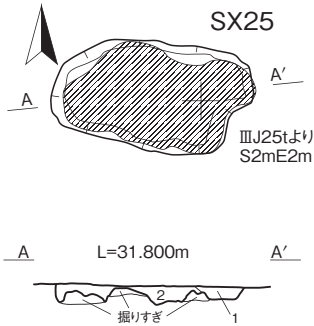
SX24



SX24

- 1 2.5YR4/8赤褐色焼土ブロック40%と 10YR4/4褐色シルトブロック60% 粘性無 しまりやや有
- 2 10YR3/3暗褐色SI 粘性無 しまりやや有 地山B少量含

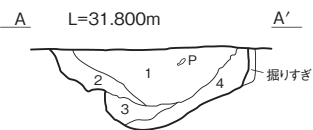
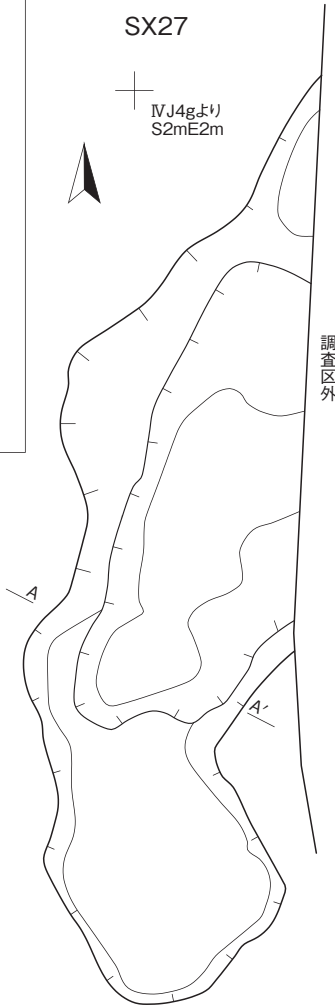
SX25



SX25

- 1 10YR3/3暗褐色SI 粘性無 しまりやや有 明赤褐色(2.5YR5/8)焼土小粒5%含
- 2 10YR3/2黒褐色SI 粘性無 しまりやや有 明赤褐色(2.5YR5/8)焼土小粒20%含

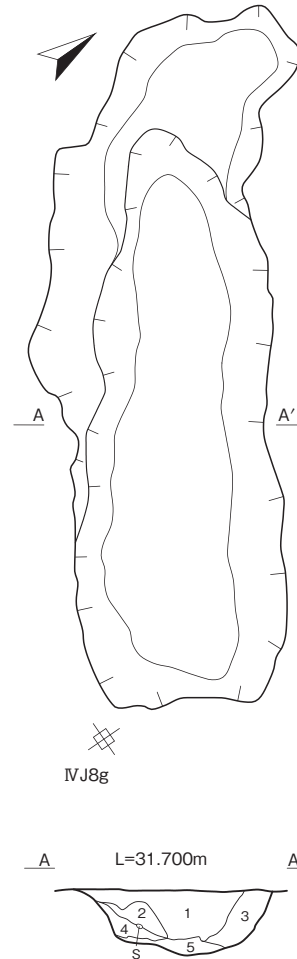
SX27



SX27

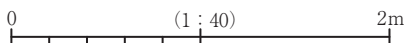
- 1 10YR3/4暗褐色SI 粘性やや無 しまり有 地山小B8%・炭化物粒1~2%・焼土粒1% 酸化鉄斑見られる 土器片含む
- 2 10YR3/3暗褐色SI 粘性やや無 しまりやや有 地山小B3%
- 3 7.5YR3/3暗褐色SI 粘性中 しまりやや有 地山小B1%
- 4 10YR4/4褐色SI 粘性やや無 しまりやや有 地山小B20~30%・黒褐小B3%

SX28

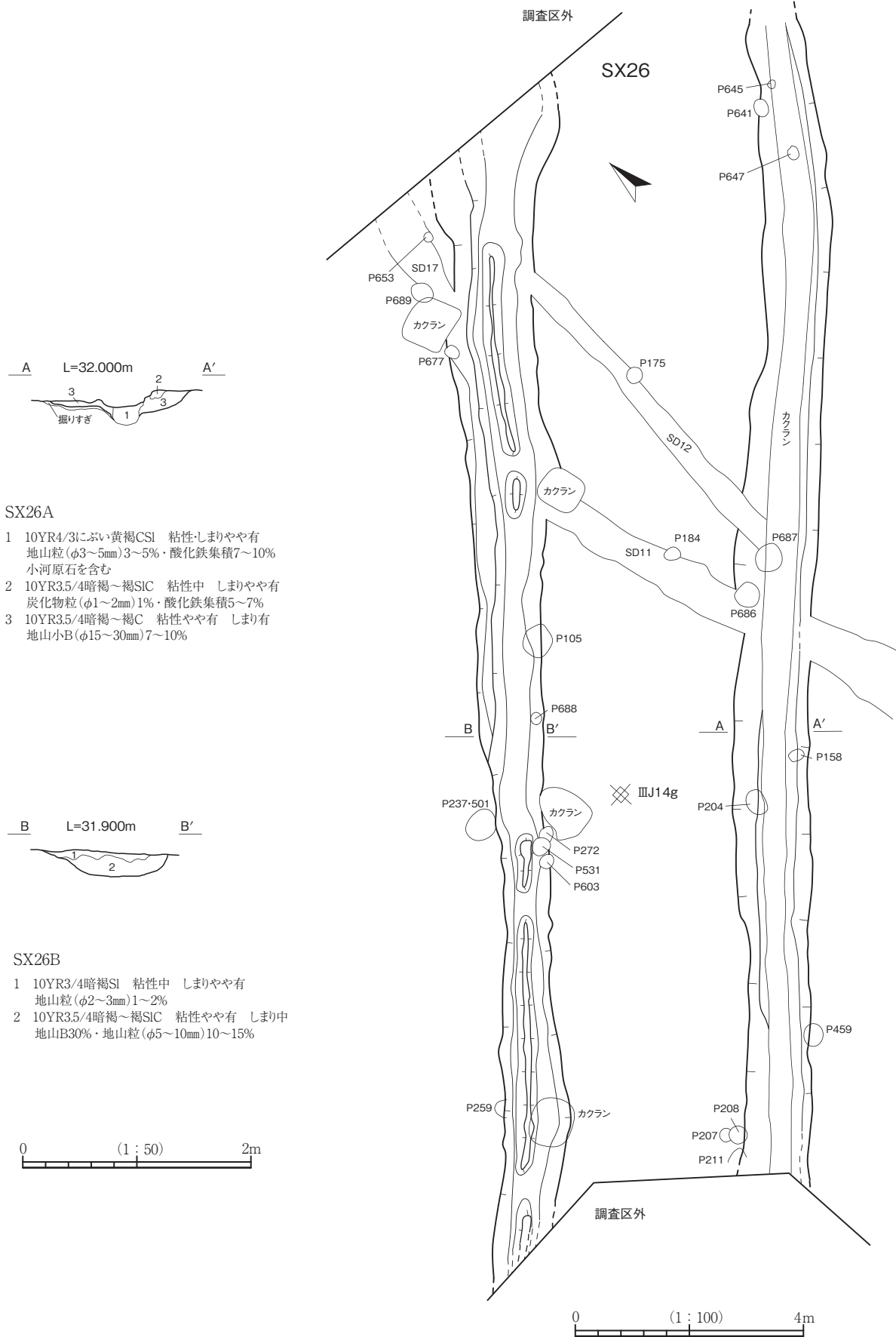


SX28

- 1 10YR2/3黒褐色SI 粘性・しまりやや有 地山B7~10%・地山小B3%・焼土粒1%・炭化物粒1~2% 土器片多く含
- 2 10YR2/3黒褐色SI 粘性・しまりやや有 地山B40%
- 3 7.5YR4/4褐色SI 粘性やや有 しまり有 黒褐シルト小B7%
- 4 10YR5/6黄褐色SI 粘性中 しまりやや有 黒褐土B3%
- 5 10YR5/8黄褐色SISn 粘性・しまり無 非常にやわらかい 黒褐小B3~5% 土器片少し含



第 68 図 SX (2)



第 69 図 SX (3)

2 検出遺構

面も特定はできていない。そのため時代を特定するには至らなかった。

SX26 (第 69 図、写真図版 43)

[位置・検出状況・重複] H22 年度調査区中央、Ⅲ J グリッドに位置する。両端は調査区外に延びている。Ⅲ層上面で暗褐色～褐色のプランとして確認した。SD12 に切られ、本遺構が古い。SD11・17、P105・158・204・208・211・237・259・272・459・501・531・603・641・645・647・677・686～688 と重複するが、切り合いが不明瞭であるため、新旧関係は不明である。また、SB03～11 とプランが重複するが、切り合う柱穴がないため、新旧関係は不明である。

[規模] 確認できた長さは 22.23 m、最大幅は 6.64 m である。検出面からの深さは最大で 30cm である。

[埋土] 土質や混入物により分層しているが、暗褐色～褐色土を主体とする。下部層は地山ブロックの混入が多く人為堆積の可能性が高い。

[性格] 道路状遺構である。西側の底面は不安定で凹凸が目立つ。

[出土遺物] 縄文土器 (348.0 g)、スクレイパー類 2 点、籠形石器 2 点、両面調整石器 1 点、RF5 点、剥片 27 点、黒曜石製剥片 3 点、打製石斧 1 点、磨石 20 点、敲石 1 点、石皿 4 点、台石 1 点、土師器 (1.78 g)、須恵器 (54.37 g)、常滑 1 点 (41.94 g) が出土し、常滑 (578) を掲載した。

[時代・時期] 出土遺物より、12 世紀～15 世紀の遺構と考えられる。

SX27 (第 68 図、写真図版 59)

[位置・検出状況・重複] 西区北～西区南、Ⅳ J グリッドに位置する。東側は調査区外に広がっている。Ⅲ層上面で暗褐色のプランとして確認した。重複する遺構はない。

[規模] 確認できた規模は開口部で 5.00×2.09 m で、底面までの残存深度は最大で 51cm である。

[埋土] 4 層に分層した。東側に偏っているが、最下部に褐色シルトが堆積している。混入物が異なるため 3 層に細分したが、大部分が暗褐色シルトで埋没している。

[壁・床の状況] 底面は中央が窪んでおり、安定していない。壁は底面から直線的に立ち上がる。

[出土遺物] 縄文土器 (9697.1 g)、石匙 1 点、RF1 点、剥片 41 点、石核 1 点、磨石 9 点、石皿 2 点、不明石製品 1 点が出土し、縄文土器 (165～172)、RF (375)、磨石 (492)、石皿 (518)、不明石製品 (552) を掲載した。

[時代・時期] 縄文土器が出土しているが、遺構形状が不安定で、遺構の掘り込み面も特定はできていない。そのため時代を断定するには至らなかった。

SX28 (第 68 図、写真図版 59)

[位置・検出状況・重複] 西区南、Ⅳ J 7f グリッド周辺に位置する。西側は確認調査の範囲にある。Ⅲ層上面で黒褐色のプランとして確認した。重複する遺構はない。

[規模] 開口部で 3.81×1.35 m、底面までの残存深度は最大で 40cm である。

[埋土] 5 層に分層した。下部は地山起源の堆積層である。上部は黒褐色シルトを主体とし、地山ブロックや土器片が混入しており、人為堆積の可能性が高い。

[壁・床の状況] 底面はほぼ平坦で、北西側に一段高い平坦部を持つ。壁は底面からゆるやかに内湾しながら立ち上がる。

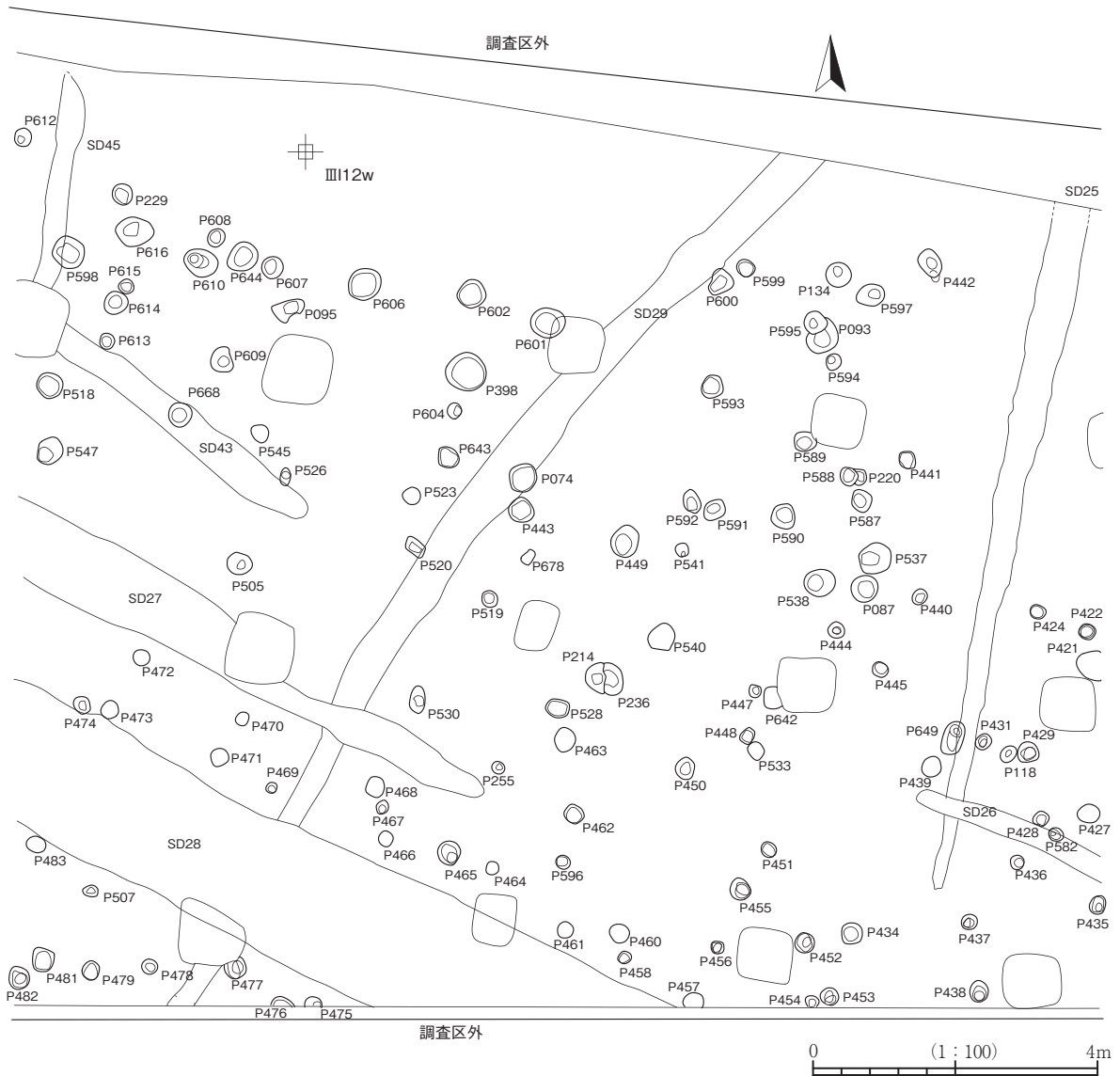
[出土遺物] 縄文土器 (4422.2 g)、石鏃 1 点、RF1 点、剥片 9 点、原石 1 点が出土し、縄文土器 (173・174)、石鏃 (240)、RF (376) を掲載した。

平成 22 年度調査区（第 70～76 図）

西側の包含層周辺のもの II b 層上面で検出したが、大多数は III 層上面で検出した。SD28 の北側から SD35・37 の西側の堀の外側にあたる部分に集中している。検出時の色調は黒褐色～暗褐色が大半である。柱穴の直径は東側では 17～76cm、中央では 18～86cm、西側では 20～86cm の範囲に収まり、20～39cm が半数以上を占めるのは変わらないが、東側では 20～29cm が 55%、中央では 20～29cm が 40% と比較的小形のものが多いのに対して、20～29cm が 29%、30～39cm が 34%、40cm 以上が 26% と大形のものが多い傾向が見られる。建物として認識できなかったが、柱痕跡のある柱穴が相当数確認されており、認識できなかった遺構が複数存在する可能性が高い。

北西区～西区（第 77～79 図）

本区域で検出された柱穴はすべて III 層上面が検出面である。北西区～西区北に分布は集中しており、西区南は散発的である。埋土は、6 割程が黒褐色シルト主体で、他は暗褐色シルト主体である。柱穴の直径は 16～92cm の範囲に収まり、20～29cm のものが大半を占める。しかし、深さは規模による大きな差は見られない。SB52・53・56・61 もしくは SB10 の桁行きの軸方向と並行する柱穴の並びが



第 71 図 柱穴（2）

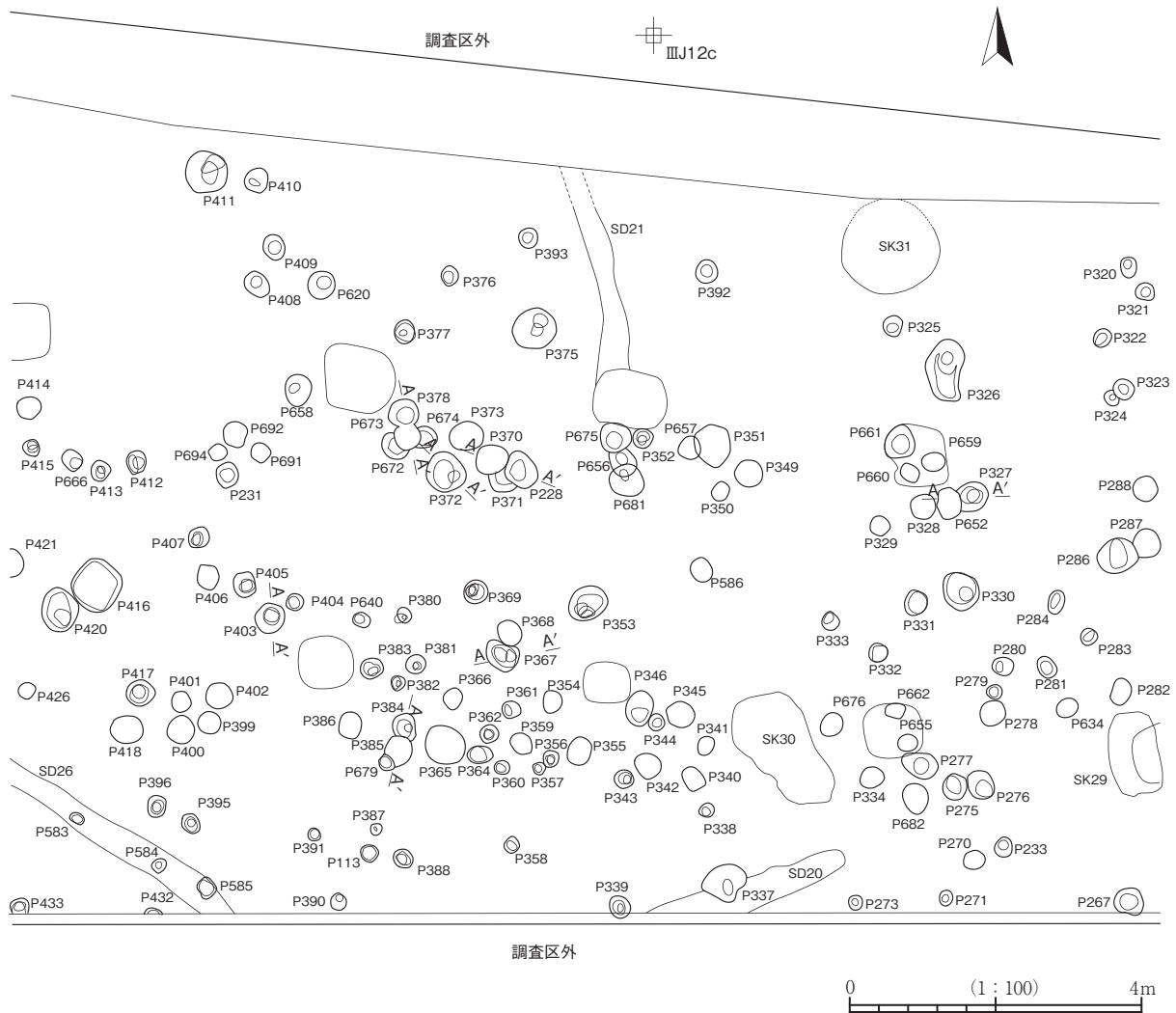
確認でき、建物として認識できなかった遺構が複数存在する可能性が高い。なお、本区域には確認調査の範囲があり、その区域にあるものは基本的に半截に止めている。

南西区 (第 79 図)

Ⅲ層上面で柱穴を検出している。埋土は P1382・1383 が暗褐色シルト主体である以外は、黒褐色シルトを主体としている。柱穴の直径は 22~72cm の範囲に収まる。検出個数が少なく、遺構外に広がるものもあるため、傾向はつかめない。平面形が不定形のものが多い。

南東区 (第 79・80 図)

検出面はⅢ層上面である。26 個の柱穴を検出したが、SI11 の北側の 2 個以外は南東区北側で検出したものである。本区域には縄文時代の遺構が集中しているが、その範囲からはほとんど柱穴が検出されていない。そのため、縄文時代に帰属する柱穴は少ないものと考えられる。他の区域では黒褐色シルトを主体とする柱穴が多いのに対して、本区域では暗褐色シルト主体とするものが半数以上を占める。柱穴の直径は 19~36cm の範囲に収まり、他の区域で確認されるような 50cm 以上のものは見られない。調査範囲が細いこともあって規則的な配置になりうるものは確認できなかった。



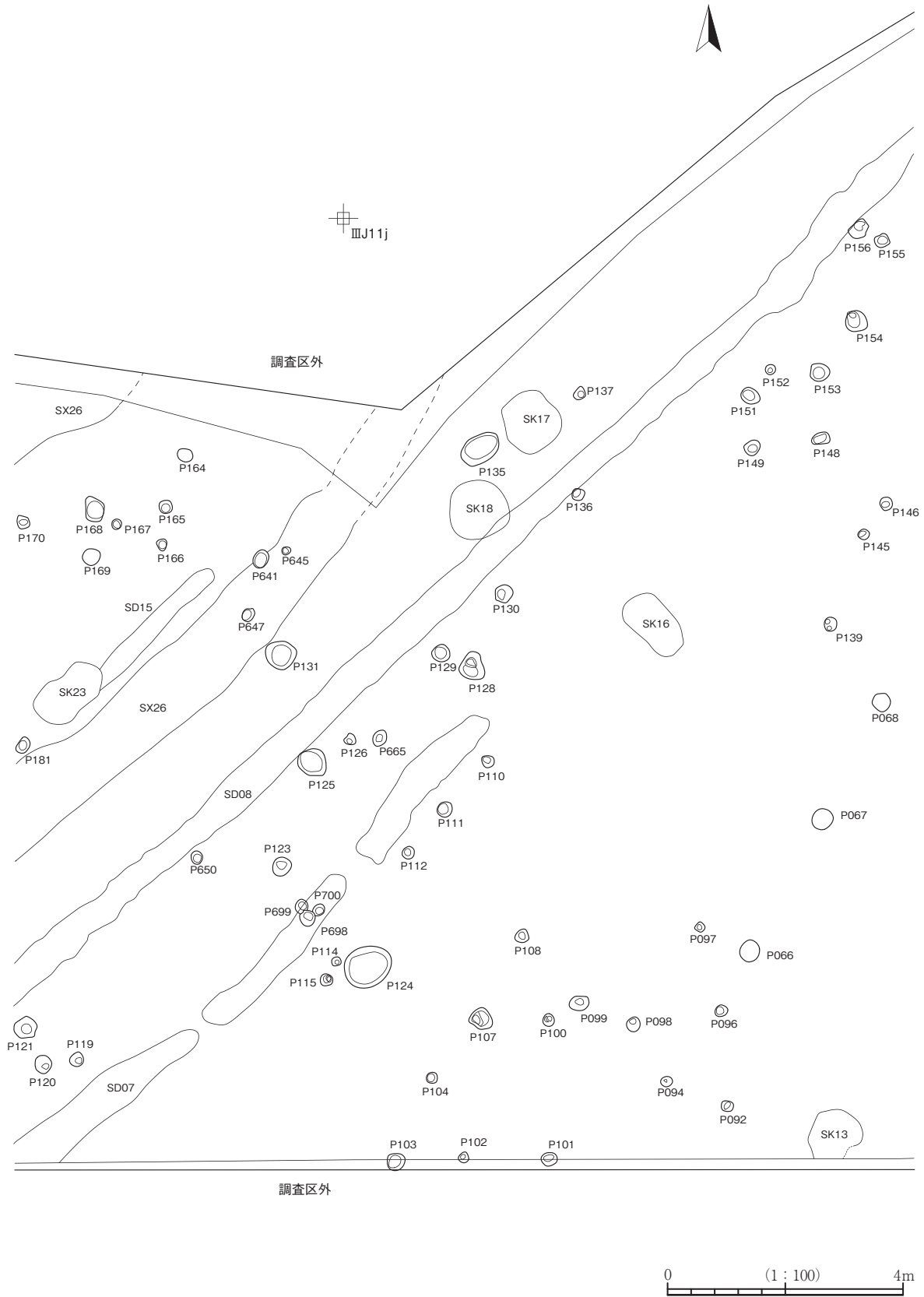
第 72 図 柱穴 (3)

北東区～東区（第80・81図）

検出面はⅢ層上面である。本区域の八割弱の柱穴が黒褐色シルト主体の埋土である。北東区・東道路の柱穴の直径は14～72cm、東区の柱穴の直径は18～90cmの範囲に収まり、20～39cmのものが六割程を占めている。深さも規模による大きな差は見られない。ただし、北東区の直径30～40cmのものには柱痕跡が確認できるものも多く、建物として認識しきれなかった遺構が複数存在する可能性が高い。なお、東区南のものは不定形のものも多く、柱穴以外のものが含まれている可能性が高い。

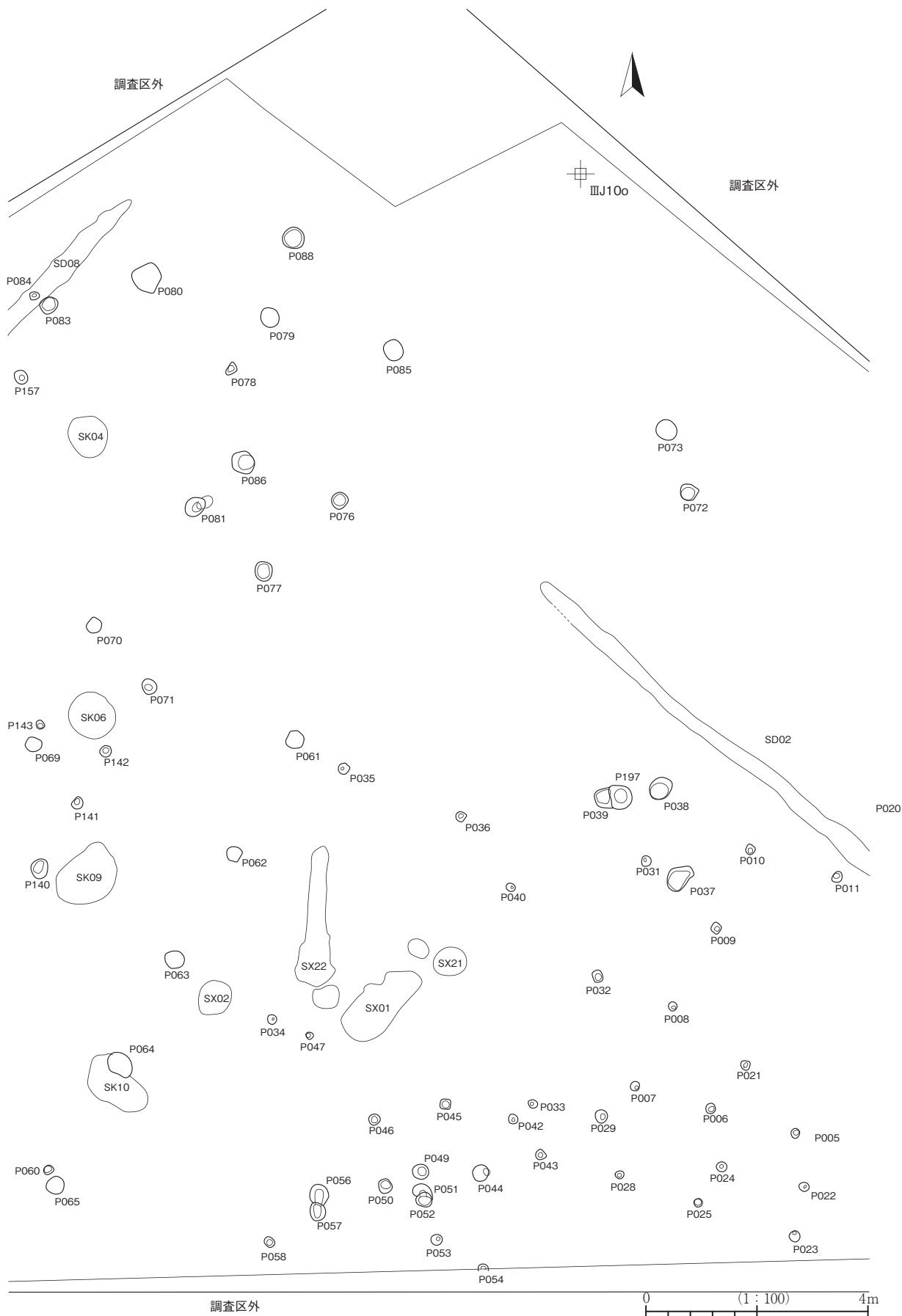


第73図 柱穴（4）

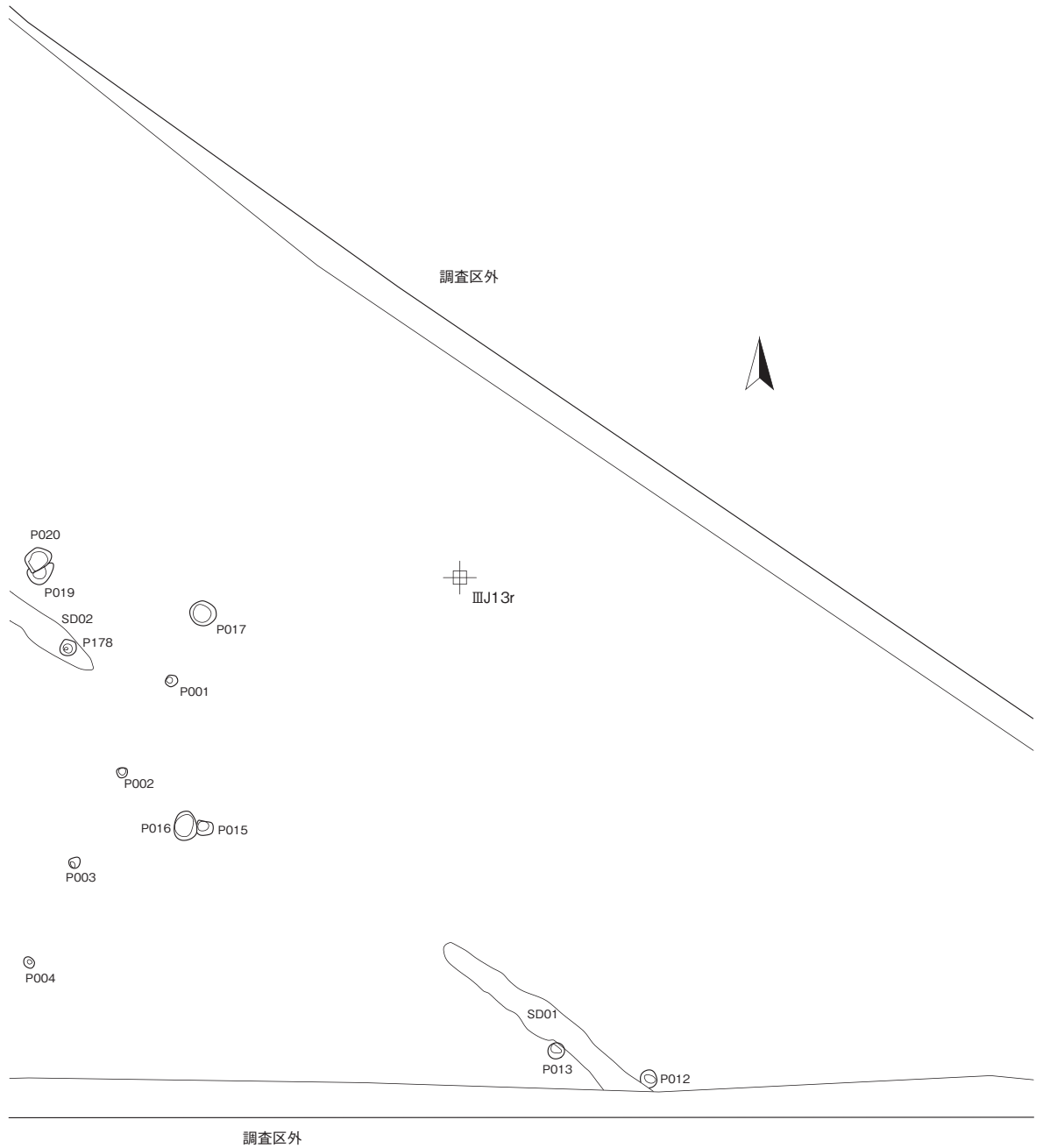


第74図 柱穴(5)

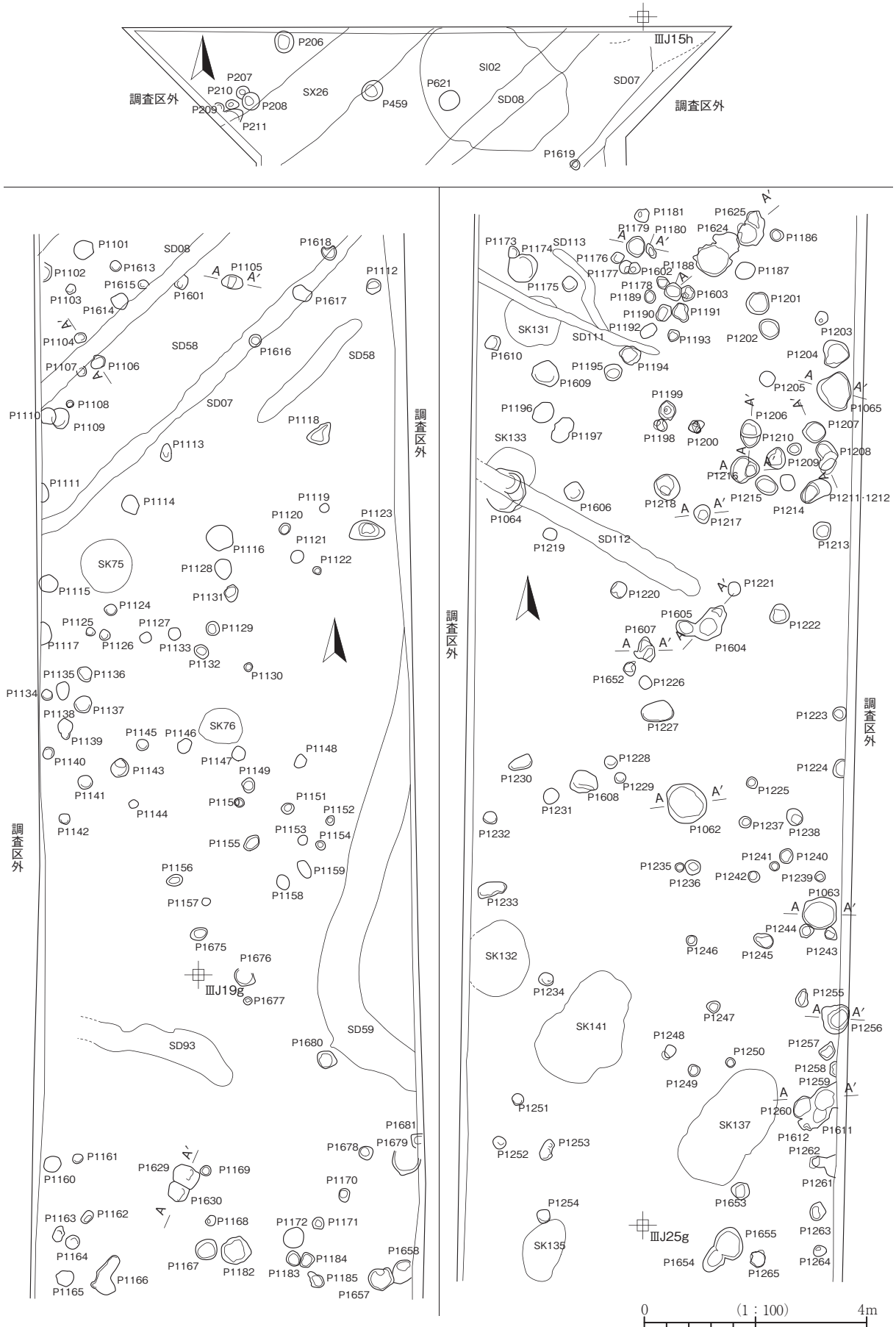
2 検出遺構



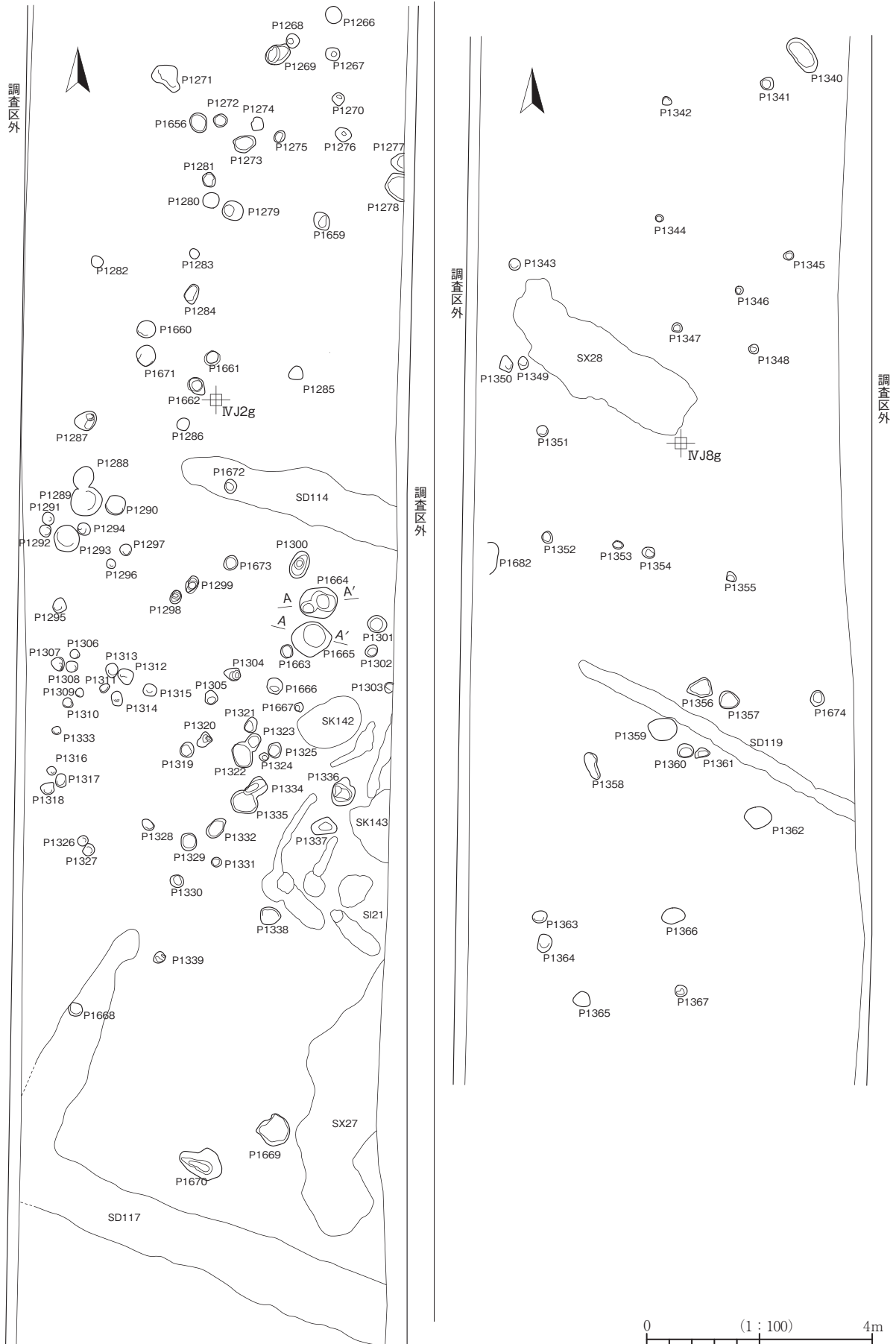
第75図 柱穴(6)



第76図 柱穴(7)

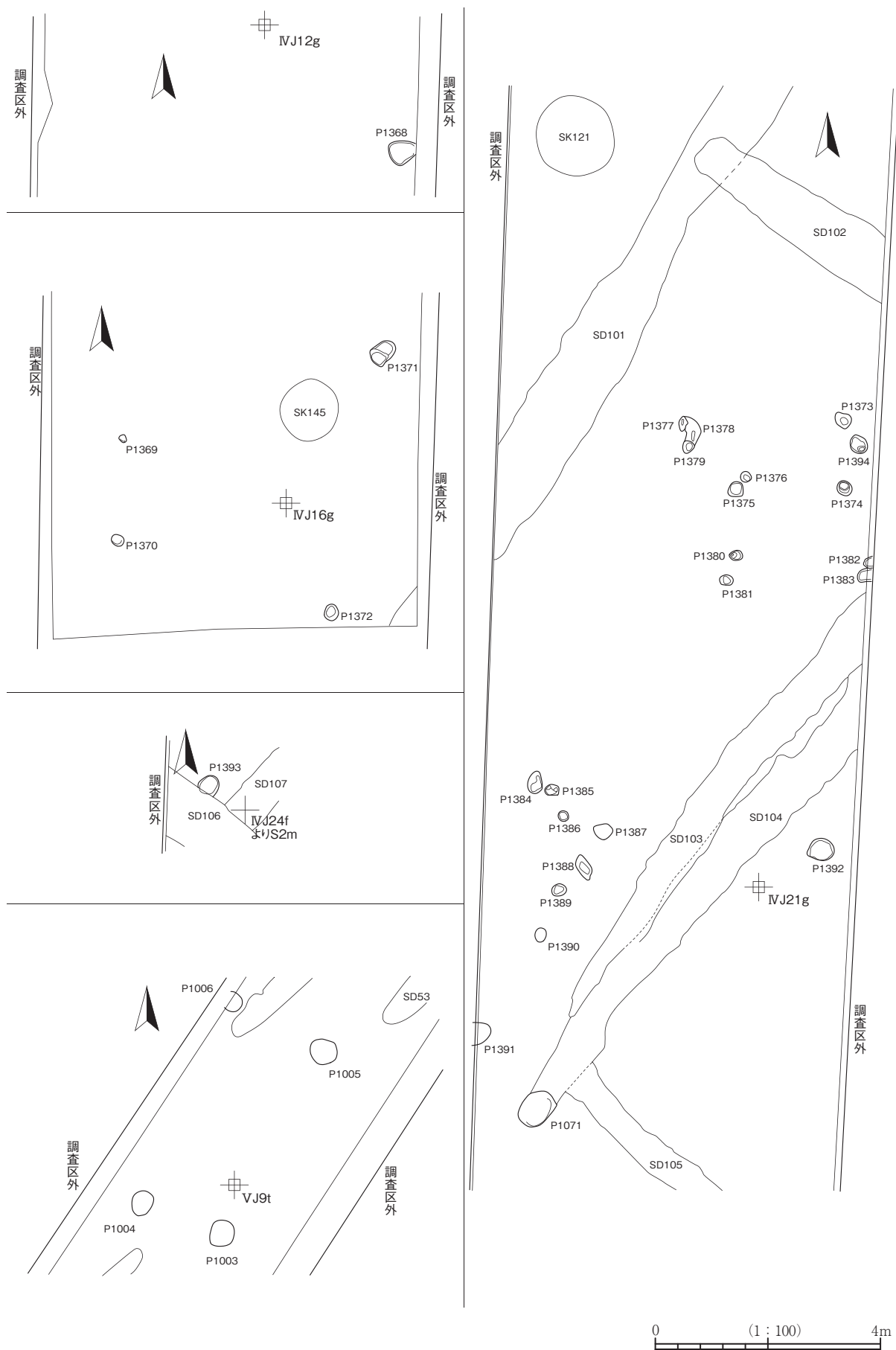


第77図 柱穴(8)

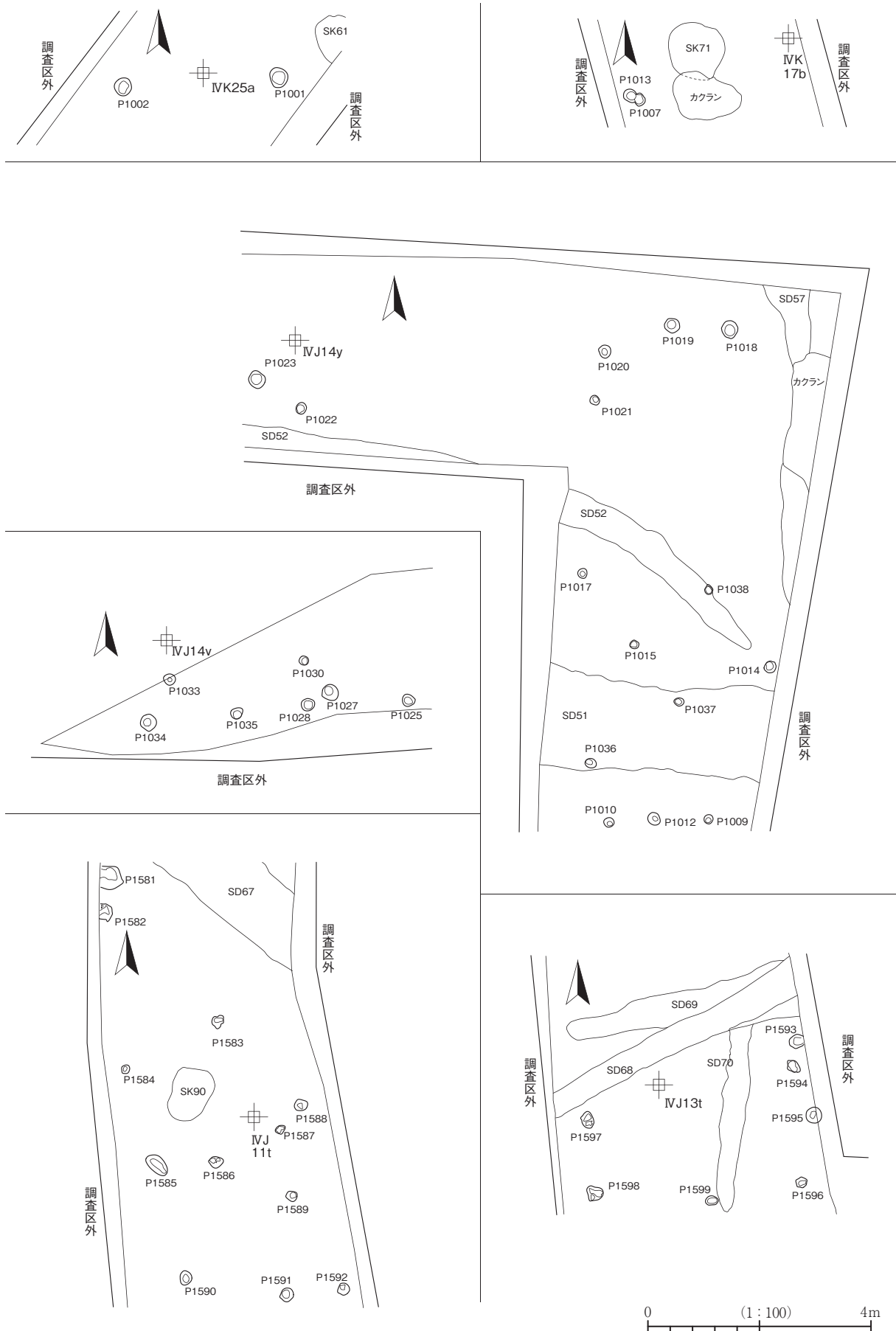


第78図 柱穴(9)

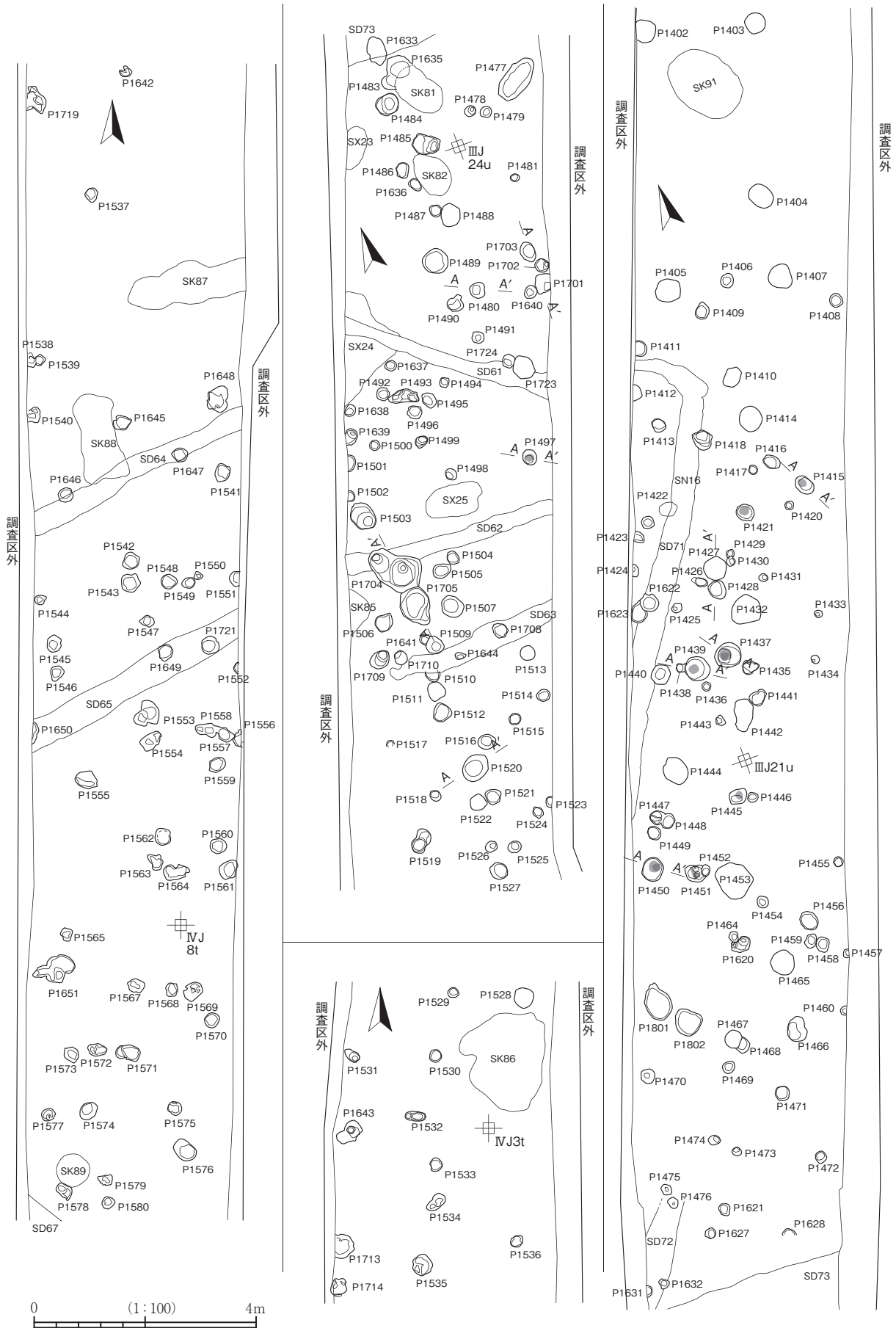
2 検出遺構



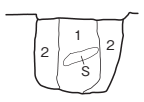
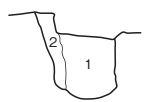

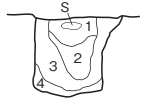
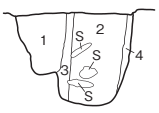
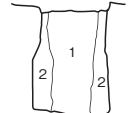
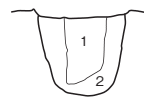

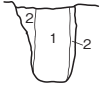
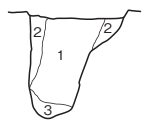
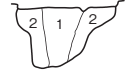
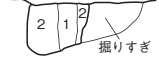

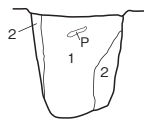
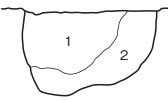
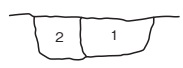


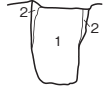
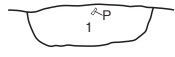
第79図 柱穴 (10)

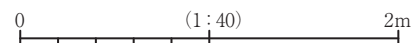


第80図 柱穴 (11)



第81図 柱穴 (12)

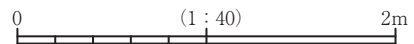
<p>A L=32.000m A'</p>  <p>P221</p> <ol style="list-style-type: none"> 10YR2/2黒褐SI 粘性・しまりやや有り 10YR3/3暗褐SI 粘性・しまりやや有り 黄褐土ブロック20% 	<p>A L=32.000m A'</p>  <p>P242</p> <ol style="list-style-type: none"> 10YR2/2黒褐SI 粘性有 しまりやや無 10YR3/4暗褐SI 粘性・しまりやや有 	<p>A L=32.000m A'</p>  <p>P250・253</p> <ol style="list-style-type: none"> 10YR2/2黒褐SI 粘性有 しまりやや有 炭粒1% 10YR2/3黒褐SI 粘性有 しまり中 黄褐土B5% 	<p>A L=32.000m A'</p>  <p>P293</p> <ol style="list-style-type: none"> 10YR2/2黒褐SI 粘性・しまり中 黄褐土粒2% 10YR2/2黒褐SI 粘性中・しまりやや無 10YR3/4暗褐SI 粘性中・しまりやや有 黄褐土B30% 10YR5/6黄褐SIC 粘性有・しまりやや有
<p>A L=31.900m A'</p>  <p>P327</p> <ol style="list-style-type: none"> 10YR3/4暗褐SI 粘性中 しまりやや有 黄褐土粒2% 10YR2/3黒褐SI 粘性中 しまりやや有 炭粒5% 黄褐土粒5% 10YR2/3黒褐SI 粘性中 しまりやや有 炭粒5% 黄褐土B5% 10YR4/6褐SIC 粘性・しまりやや有 暗褐土B5% 	<p>A L=32.000m A'</p>  <p>P313</p> <ol style="list-style-type: none"> 10YR2/3黒褐SI 粘性中 しまり有 炭粒10% 10YR2/3黒褐SI 粘性中 しまり有 黄褐土B30% 	<p>A L=32.000m A'</p>  <p>P317</p> <ol style="list-style-type: none"> 10YR2/2黒褐SI 粘性中 しまりやや無 炭粒2% 10YR3/4暗褐SI 粘性中 しまりやや有 黄褐土B20% 	<p>A L=32.000m A'</p>  <p>P310</p> <ol style="list-style-type: none"> 10YR2/2黒褐SI 粘性中 しまりやや無 10YR2/3黒褐SI 粘性中 しまりやや有 黄褐土粒20%
<p>A L=31.900m A'</p>  <p>P345</p> <ol style="list-style-type: none"> 10YR3/3暗褐SI 粘性中 しまりやや有 10YR3/4暗褐SI 粘性中 しまりやや有 黄褐土B10% 	<p>A L=31.900m A'</p>  <p>P351</p> <ol style="list-style-type: none"> 10YR2/3黒褐SI 粘性中 しまりやや有 炭粒5% 黄褐土B10% 10YR3/3暗褐SI 粘性中 しまりやや有 炭粒1% 黄褐土B20% 10YR3/4暗褐SI 粘性やや有 しまり有 黄褐土粒30% 	<p>A L=31.900m A'</p>  <p>P365</p> <ol style="list-style-type: none"> 10YR2/3黒褐SI 粘性中 しまりやや有 炭粒1% 黄褐土粒1% 10YR2/3黒褐SI 粘性中 しまりやや有 炭粒2% 黄褐土粒10% 	<p>A L=31.900m A'</p>  <p>P367</p> <ol style="list-style-type: none"> 10YR2/3黒褐SI 粘性中 しまりやや有 炭粒1% 黄褐土粒1% 10YR2/3黒褐SI 粘性中 しまりやや有 炭粒2% 黄褐土粒5%
<p>A L=31.900m A'</p>  <p>P370-371</p> <ol style="list-style-type: none"> 10YR2/2黒褐SI 粘性中 しまりやや有 炭粒2% 黄褐土粒1% 10YR2/3黒褐SI 粘性中 しまりやや有 黄褐土B10% 10YR2/3黒褐SI 粘性中 しまりやや有 黄褐土粒10% 炭粒2% 10YR2/3黒褐SI 粘性中 しまりやや有 炭粒2% 黄褐土粒1% 10YR4/6褐SIC 粘性やや有 しまり有 暗褐土B5% 	<p>A L=31.900m A'</p>  <p>P372</p> <ol style="list-style-type: none"> 10YR2/3黒褐SI 粘性中 しまりやや有 炭粒5% 黄褐土粒10% 10YR4/6褐SIC 粘性やや有 しまり有 黄色土B5% 	<p>A L=31.900m A'</p>  <p>P378</p> <ol style="list-style-type: none"> 10YR3/3暗褐SI 粘性中 しまりやや有 炭粒1% 黄褐土B10% 10YR3/3暗褐SI 粘性中 しまりやや有 炭粒2% 黄褐土粒5% 	<p>A L=31.900m A'</p>  <p>P384-385</p> <ol style="list-style-type: none"> 10YR2/3黒褐SI 粘性中 しまりやや有 炭粒2% 黄褐土粒5% 10YR2/3黒褐SI 粘性中 しまりやや有 炭粒5% 黄褐土B5%
<p>A L=31.900m A'</p>  <p>P403</p> <ol style="list-style-type: none"> 10YR3/3暗褐SI 粘性中 しまりやや有 炭粒5% 黄褐土粒5% 10YR3/3暗褐SI 粘性中 しまりやや有 黄褐土B10% 	<p>A L=31.900m A'</p>  <p>P421</p> <ol style="list-style-type: none"> 10YR2/3暗褐SI 粘性中 しまりやや有 炭粒2% 黄褐土粒5% 10YR3/3褐SI 粘性中 しまりやや有 黄褐土B10% 	<p>A L=32.000m A'</p>  <p>P627</p> <ol style="list-style-type: none"> 10YR2/2黒褐SI 粘性やや有 しまり中 炭粒10% 10YR2/3黒褐SI 粘性・しまり中 黄褐土B20% 	<p>A L=31.800m A'</p>  <p>P1062</p> <ol style="list-style-type: none"> 10YR3/3暗褐SI 粘性中 しまりやや有 地山小B5~7% 土器片含む



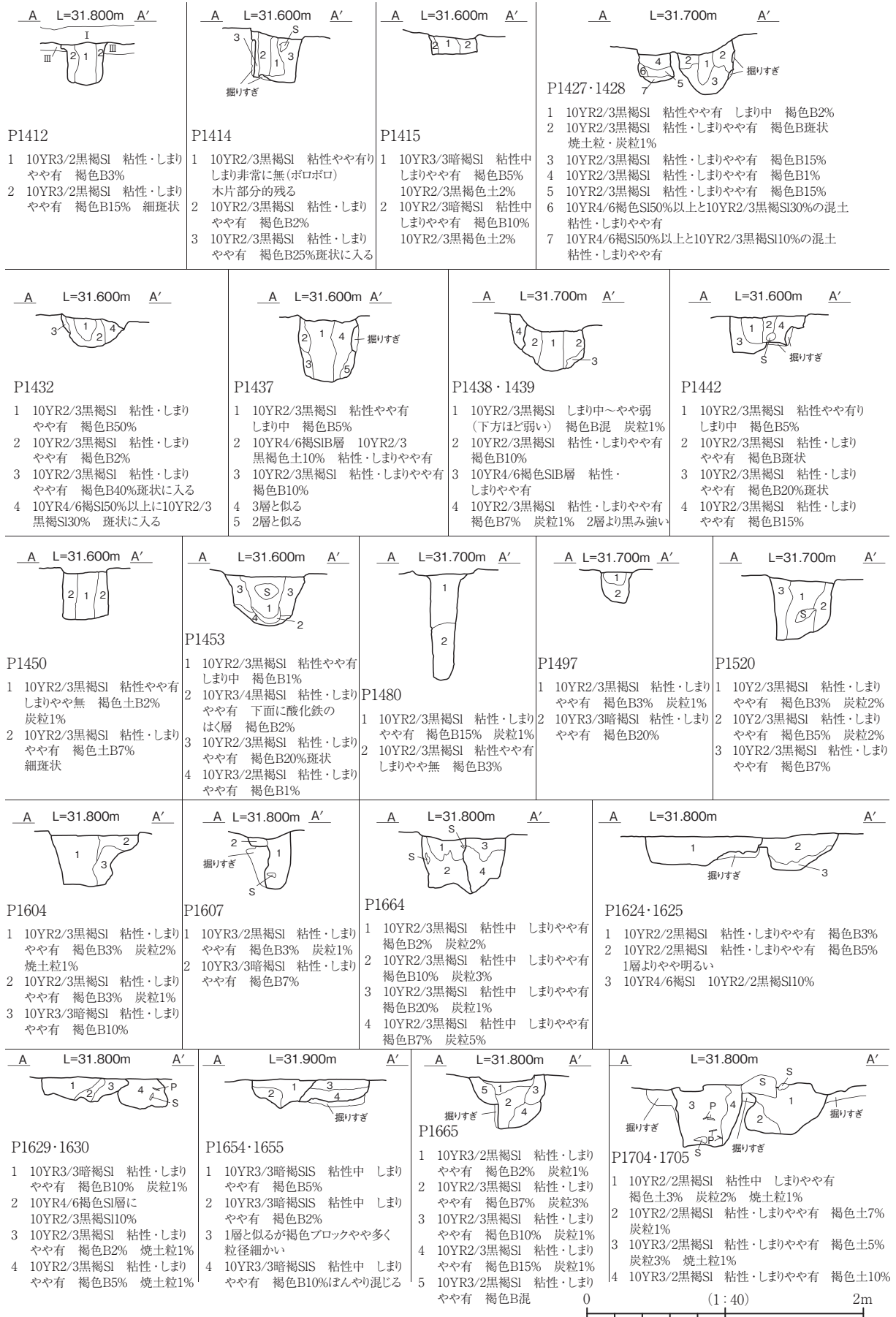
第82図 柱穴(13)

2 検出遺構

<p>A L=31.800m A'</p> <p>P1063</p> <p>1 10YR3/3暗褐SI 粘性中 しまりやや有 地山粒5~7% 炭化物粒2~3%</p> <p>2 10YR4/6褐SIS 粘性やや有 しまり有 暗褐B20%</p>	<p>A L=31.800m A'</p> <p>P1065</p> <p>1 10YR2/3黒褐SI 粘性やや有 しまりやや有 地山粒3~5% 焼土粒1% 炭化物粒1~2%</p> <p>2 10YR3/3暗褐SI 粘性やや有 しまりやや有 地山B30%</p>	<p>A L=31.800m A'</p> <p>P1101</p> <p>1 10YR3/2黒褐SI 粘性・しまり やや有 褐色B5% 上面に炭 片多く含む、柱痕</p> <p>2 10YR3/2黒褐SI 粘性・しまり やや有 褐色B5%</p> <p>3 10YR3/3暗褐SI 粘性・しまり やや有 褐色B15%</p>	<p>A L=31.800m A'</p> <p>P1105</p> <p>1 10YR3/2黒褐SI 粘性・しまり やや有 褐色B2% 炭粒1%</p> <p>2 10YR3/3暗褐SI 粘性・しまり やや有 褐色B50%以上</p>	<p>A L=32.100m A'</p> <p>P1109-1110</p> <p>1 10YR2/3黒褐SI 粘性中 しまりやや有 褐色B2% 炭粒1%</p> <p>2 10YR2/3黒褐SI 粘性中 しまりやや有 褐色B5% 炭粒1%(柱痕)</p> <p>3 10YR3/3暗褐SI 粘性中 しまりやや有 褐色B10%</p>
<p>A L=31.800m A'</p> <p>P1106</p> <p>1 10YR3/2黒褐SI 粘性・しまり やや有 褐色B10%</p> <p>2 10YR3/2黒褐SI 粘性・しまり やや有 褐色B2%</p>	<p>A L=31.800m A'</p> <p>P1116</p> <p>1 10YR2/3黒褐SI 粘性・ しまりやや有 褐色B2% 炭粒1%</p> <p>2 10YR2/3黒褐SI 粘性・ しまりやや有 褐色B5%</p>	<p>A L=31.800m A'</p> <p>P1138-1139</p> <p>1 10YR2/3黒褐SI 粘性・ しまりやや有 褐色B3% 炭粒2% 焼粒1%</p> <p>2 10YR3/3暗褐SI 粘性中 しまりやや有 褐色B20%</p>	<p>A L=31.900m A'</p> <p>P1160</p> <p>1 10YR2/3黒褐SI 粘性中 しまりやや有 褐色B 炭粒1%</p> <p>2 10YR2/3黒褐SI 粘性・しまり やや有 褐色B5%</p>	<p>A L=31.800m A'</p> <p>P1179</p> <p>1 10YR2/2黒褐SI 粘性・しまり やや有 褐色B 炭粒2%</p> <p>2 10YR2/3黒褐SI 粘性・しまり やや有 褐色B20%</p>
<p>A L=31.900m A'</p> <p>P1196</p> <p>1 10YR3/2黒褐SI 粘性中 しまりやや有 褐色B10%</p>	<p>A L=31.800m A'</p> <p>P1197</p> <p>1 10YR2/3黒褐SI 粘性・しまり やや有 褐色B5%炭粒1%</p> <p>2 10YR2/3黒褐SI 粘性・しまり やや有 褐色B10%</p> <p>3 10YR2/3黒褐SI 粘性・しまり やや有 褐色B2%</p>	<p>A L=31.900m A'</p> <p>P1206</p> <p>1 10YR2/3黒褐SI 粘性中 しまりやや有 褐色B1%</p> <p>2 10YR2/3黒褐SI 粘性・しまり やや有 褐色B3%炭粒2%</p> <p>3 10YR2/3黒褐SI 粘性・しまり やや有 褐色B20%</p>	<p>A L=31.800m A'</p> <p>P1207-1208</p> <p>1 10YR2/3黒褐SI 粘性・しまりやや有 褐色B5% 炭粒1%</p> <p>2 10YR4/6褐SIC 粘性やや有 しまり中 10YR2/3SI15%混入</p> <p>3 10YR2/2黒褐SIC 粘性やや有 しまり中 褐色B2%</p> <p>4 10YR3/3暗褐SIC 粘性やや有 しまり中 褐色B5%</p> <p>5 10YR3/3暗褐SI 粘性中 しまりやや有 褐色B15%</p> <p>6 10YR3/3暗褐SI 粘性中 しまりやや有 褐色B7%</p>	
<p>A L=31.800m A'</p> <p>P1211-1212</p> <p>1 10YR3/2黒褐SI 粘性・しまり やや有 褐色B3%炭粒1%</p> <p>2 10YR2/3黒褐SI 粘性・しまり やや有 褐色B5%炭粒1% 焼土粒1%</p> <p>3 10YR3/2黒褐SI 粘性・しまり やや有 褐色B20%</p>	<p>A L=31.800m A'</p> <p>P1216</p> <p>1 10YR2/2黒褐SI 粘性・しまり やや有 褐色B5%</p> <p>2 10YR3/2黒褐SI 粘性中 しまりやや有 褐色B3%</p>	<p>A L=31.800m A'</p> <p>P1217</p> <p>1 10YR3/2黒褐SI 粘性・しまり やや有 褐色B1% 焼土粒1%</p> <p>2 10YR3/3暗褐SI 粘性・しまり やや有 褐色B10%</p>	<p>A L=31.800m A'</p> <p>P1231</p> <p>1 10YR2/3黒褐SI 粘性・しまり やや有 褐色B15% 炭粒1%</p> <p>2 10YR2/3黒褐SI 粘性・しまり やや有褐色B2% 炭粒1%</p> <p>3 10YR2/3黒褐SI 粘性・しまり やや有褐色B20% 炭粒1%</p> <p>4 10YR2/3黒褐SI 粘性・しまり やや有 褐色B5%</p>	<p>A L=31.900m A'</p> <p>P1256</p> <p>1 10YR2/3黒褐SI 粘性・しまり やや有 褐色B3%炭粒1%</p> <p>2 10YR2/3黒褐SI 粘性やや有 しまり中 褐色B7%</p> <p>3 10YR2/3黒褐SI 粘性やや有 しまり中 褐色B20%</p> <p>4 10YR2/3黒褐SI 粘性やや有 しまり中</p>
<p>A L=32.000m A'</p> <p>P1259</p> <p>1 10YR2/2黒褐SI 粘性・しまり やや有 褐色B5% 炭粒1%</p> <p>2 10YR2/2黒褐SI 粘性・しまり やや有 褐色B10% 炭粒2%</p> <p>3 10YR2/2黒褐SI 粘性・しまり やや有 褐色B7%</p>	<p>A L=31.800m A'</p> <p>P1402</p> <p>1 10YR2/3黒褐SI 粘性・しまり やや有 褐色B3%</p> <p>2 10YR2/3黒褐SI 粘性・しまり やや有 褐色B30%斑状</p>	<p>A L=31.500m A'</p> <p>P1407</p> <p>1 10YR3/2黒褐SI 粘性・しまり やや有 褐色B2%</p> <p>2 10YR2/3黒褐SI 粘性・しまり やや有 褐色B7%</p> <p>3 10YR3/2黒褐SI 粘性・しまり やや有 褐色B2.5%</p>	<p>A L=31.600m A'</p> <p>P1410</p> <p>1 10YR2/3黒褐SI 粘性・しまり やや有 褐色B2%</p> <p>2 10YR2/3黒褐SI 粘性・しまり やや有 褐色B15%細斑状</p> <p>3 10YR2/3黒褐SI 粘性・しまり やや有 褐色B5%</p> <p>4 10YR2/3黒褐SI 粘性・しまり やや有 褐色B15%</p>	



第83図 柱穴(14)



第84図 柱穴(15)

2 検出遺構

第5表 柱穴一覧(1)

No.	位置	長軸	短軸	深さ	底面標高	備考
1	Ⅲ J13p	22	20	23.1	31.213	
2	Ⅲ J13p	20	18	24.7	31.278	
3	Ⅲ J14p	20	20	10.7	31.469	
4	Ⅲ J14p	20	20	25.6	31.383	
5	Ⅲ J14o	20	19	29.4	31.443	
6	Ⅲ J14o	21	20	32.9	31.484	Ⅲ 1
7	Ⅲ J14o	20	20	43.6	31.424	
8	Ⅲ J13o	20	19	37.2	31.422	
9	Ⅲ J13o	23	21	38.2	31.427	RF1
10	Ⅲ J13o	22	21	25.9	31.421	
11	Ⅲ J13p	22	21	32.9	31.294	
12	Ⅲ J14r (29)	(28)		8.6	31.417	
13	Ⅲ J14r	29	28	15.1	31.397	
15	Ⅲ J13q (26)	24	10.3	31.371	P016 ↔ P015	
16	Ⅲ J13pq	48	36	6.9	31.375	P016 ↔ P015
17	Ⅲ J13pq	43	38	14.3	31.212	○
19	Ⅲ J12・13p	46	(20)	25.5	31.505	P019 ↔ P020
20	Ⅲ J12p	43	33	24.3	31.267	P019 ↔ P020
21	Ⅲ J13・14o	20	19	8.5	31.720	
22	Ⅲ J14op	22	20	12.7	31.582	
23	Ⅲ J14o	24	22	14.5	31.562	
24	Ⅲ J14o	21	20	24.9	31.539	
25	Ⅲ J14o	19	18	10.5	31.683	
26	Ⅲ I12r	36	28	38.2	31.216	
28	Ⅲ J14o	20	17	8.0	31.758	
29	Ⅲ J14o	26	25	8.8	31.760	
30	Ⅲ I13t	41	38	12.5	31.617	
31	Ⅲ J13o	21	20	14.9	31.662	
32	Ⅲ J13o	24	20	9.1	31.781	
33	Ⅲ J14n	20	18	12.9	31.735	
34	Ⅲ J13m	20	19	15.2	31.729	
35	Ⅲ J12m	24	23	17.6	31.612	
36	Ⅲ J12n	22	20	11.7	31.737	
37	Ⅲ J13o	58	54	8.7	31.719	
38	Ⅲ J12o	48	40	17.7	31.542	
39	Ⅲ J12o (44)	47	41.9	31.364	P039 ↔ P197	
40	Ⅲ J12n	20	18	12.4	31.757	
42	Ⅲ J14n	20	19	18.9	31.664	
43	Ⅲ J14n	23	22	11.8	31.736	
44	Ⅲ J14n	33	32	64.1	31.485	F1
45	Ⅲ J14n	22	22	8.3	31.770	
46	Ⅲ J14n	24	21	15.0	31.708	
47	Ⅲ J13m	17	17	21.5	31.671	
49	Ⅲ J14n	32	30	14.9	31.719	
50	Ⅲ J14n	29	28	7.2	31.803	
51	Ⅲ J14n (36)	(16)	65.0	31.209	P051 ↔ P052	
52	Ⅲ J14n	32	30	65.3	31.211	P051 ↔ P052
53	Ⅲ J14n	23	22	41.6	31.477	
54	Ⅲ J14n (21)	(11)	12.8	31.783		
56	Ⅲ J14m (38)	32	14.9	31.703	P056 ↔ P057 ○	
57	Ⅲ J14m	35	31	16.1	31.704	P056 ↔ P057
58	Ⅲ J14m	21	21	13.8	31.748	
59	Ⅲ I13u	47	43	10.0	31.579	
60	Ⅲ J14i	22	20	12.4	31.716	
(61)	Ⅲ J12m	36	34	23.7	31.523	F1
(62)	Ⅲ J13m	32	30	27.5	31.569	
(63)	Ⅲ J13 m	39	34	33.4	31.523	
(64)	Ⅲ J13・14i	56	42	23.5	31.621	
(65)	Ⅲ J14i	35	35	32.0	31.513	
(66)	Ⅲ J14k	39	37	28.4	31.581	
(67)	Ⅲ J13kl	39	38	29.3	31.559	○
(68)	Ⅲ J13i	35	35	39.4	31.476	
(69)	Ⅲ J12i	33	29	29.0	31.551	○
(70)	Ⅲ J11・12i	32	30	33.9	31.412	
71	Ⅲ J12m	31	30	25.3	31.445	
72	Ⅲ J11o	36	33	23.8	31.018	
(73)	Ⅲ J11o	41	41	22.8	30.937	
74	Ⅲ I13w	44	42	21.0	31.529	○磨1
75	Ⅲ I12u	25	25	18.4	31.493	
76	Ⅲ J11m	34	33	11.2	31.299	
77	Ⅲ J11m	34	28	9.7	31.452	
78	Ⅲ J10m	27	19	5.5	31.286	
(79)	Ⅲ J10m	38	36	11.3	31.168	
(80)	Ⅲ J10m	58	55	11.7	31.261	
81	Ⅲ J11m	43	34	69.2	30.920	
(82)	Ⅲ J11g (38)	(16)	33.0	31.513	P082・116 → P308	
83	Ⅲ J10i	36	36	17.1	31.275	
84	Ⅲ J10i	21	18	7.2	31.313	

No.	位置	長軸	短軸	深さ	底面標高	備考
(85)	Ⅲ J10n	41	38	22.6	30.967	
86	Ⅲ J11m	46	44	11.8	31.362	
87	Ⅲ I13xy	42	40	42.3	31.289	○ F1
88	Ⅲ J10m	43	40	25.1	30.916	
91	Ⅲ I14u	36	30	23.7	31.496	P534 → P091
92	Ⅲ J14k	22	20	19.7	31.670	
93	Ⅲ I12x (34)	(34)		16.6	31.637	P093 ↔ P595
94	Ⅲ J14k	22	20	19.4	31.672	
95	Ⅲ I12v	48	34	25.9	31.470	○
96	Ⅲ J14k	25	24	19.7	31.659	
97	Ⅲ J13・14k	20	20	19.2	31.673	
98	Ⅲ J14k	28	26	17.7	31.696	
99	Ⅲ J14k	36	28	39.3	31.493	
100	Ⅲ J14j	25	22	24.9	31.631	○
101	Ⅲ J14・15j	31	26	18.4	31.887	
102	Ⅲ J14・15j	22	21	9.6	31.805	
103	Ⅲ J14・15j	33	32	44.9	31.456	○☆ RF1
104	Ⅲ J14j	22	22	14.6	31.730	
(105)	Ⅲ J13g	58	53	33.7	31.420	
106	Ⅲ I11s	40	35	12.8	31.494	P576 → P106 ○ F1
107	Ⅲ J14j	42	40	20.5	31.679	○
108	Ⅲ J14j	27	27	25.3	31.626	
110	Ⅲ J13j	24	24	11.5	31.761	
111	Ⅲ J13j	30	28	17.3	31.685	
112	Ⅲ J13j	24	24	40.9	31.469	
113	Ⅲ J14ab	27	26	5.1	31.709	
114	Ⅲ J14i	19	18	15.5	31.718	
115	Ⅲ J14i	24	24	26.7	31.602	
116	Ⅲ J11fg (28)	(28)		31.6	31.522	P082・116 → P308
118	Ⅲ I14y	28	22	13.4	31.564	
119	Ⅲ J14h	29	24	46.2	31.400	
120	Ⅲ J14h	35	31	46.7	31.413	○ F3
121	Ⅲ J14h	41	39	57.5	31.296	○磨斧1
123	Ⅲ J13i	36	33	8.4	31.792	
124	Ⅲ J14j	86	72	15.5	31.726	
125	Ⅲ J13i	52	51	19.2	31.704	○ F1
126	Ⅲ J13i	22	21	29.9	31.617	
128	Ⅲ J12j	50	46	16.6	31.704	
129	Ⅲ J12j	32	32	14.4	31.733	
130	Ⅲ J12j	33	32	24.5	31.596	○
131	Ⅲ J12i	56	53	23.8	31.655	F2
134	Ⅲ I12x	38	38	16.9	31.607	
135	Ⅲ J11・12j	76	50	16.6	31.561	○
136	Ⅲ J12jk	24	24	20.0	31.575	
137	Ⅲ J11jk	25	24	24.3	31.429	
138	Ⅲ I12s	27	24	12.0	31.556	
139	Ⅲ J12i	24	22	29.8	31.532	
140	Ⅲ J13i	39	33	18.8	31.666	○
141	Ⅲ J12i	26	24	29.0	31.532	
142	Ⅲ J12i	24	24	6.8	31.728	
143	Ⅲ J12i	19	18	8.7	31.748	
144	Ⅲ I12s	28	22	24.3	31.418	
145	Ⅲ J12i	22	21	28.5	31.517	
146	Ⅲ J12i	26	24	17.4	31.618	
147	Ⅲ I13・14u	40	32	13.2	31.589	○
148	Ⅲ J11 kl	34	22	18.5	31.589	
149	Ⅲ J11・12k	30	30	25.8	31.497	
151	Ⅲ J11k	35	29	13.2	31.585	
152	Ⅲ J11k	22	21	13.9	31.587	
153	Ⅲ J11kl	36	34	11.1	31.615	○
154	Ⅲ J11i	40	37	19.9	31.473	
155	Ⅲ J11i	30	28	8.8	31.537	
156	Ⅲ J11i	40	33	29.7	31.327	
157	Ⅲ J10i	30	26	34.5	31.232	
158	Ⅲ J14g	29	22	30.9	31.431	
(159)	Ⅲ J13g	44	42	41.7	31.397	F1
160	Ⅲ J14g	54	57	31.9	31.548	
162	Ⅲ J14f	35	34	19.3	31.541	○
(163)	Ⅲ J13ef・14f	50	47	12.7	31.621	○
(164)	Ⅲ J11・12i	30	25	20.1	31.669	
165	Ⅲ J12i	26	26	38.9	31.486	
166	Ⅲ J12i	24	21	10.1	31.776	
167	Ⅲ J12i	21	20	10.8	31.771	
168	Ⅲ J12h	50	37	29.8	31.603	F1
(169)	Ⅲ J12h	33	32	22.8	31.657	
170	Ⅲ J12h	28	24	14.0	31.746	
172	Ⅲ J12h	24	22	15.9	31.683	
(173)	Ⅲ J12・13h	40	40	14.2	31.690	

第5表 柱穴一覧(2)

No.	位置	長軸	短軸	深さ	底面標高	備考
174	Ⅲ J12h	22	19	8.1	31.737	
175	Ⅲ J12h	32	31	24.0	31.579	
(176)	Ⅲ J12h	38	31	10.7	31.715	
(177)	Ⅲ J12h	29	28	13.0	31.698	
178	Ⅲ J13p	29	28	30.1	31.192	
(179)	Ⅲ J13h	24	24	11.8	31.704	
180	Ⅲ J13h	76	50	28.1	31.547	
181	Ⅲ J13h	32	22	14.6	31.685	
182	Ⅲ J13gh	64	52	37.8	31.434	○ SCR1
183	Ⅲ J13g	26	21	10.6	31.721	
(184)	Ⅲ J13g	32	24	20.5	31.610	
185	Ⅲ J13g	22	20	44.3	31.830	
186	Ⅲ J13g	32	30	14.7	31.679	SCR1RF1
187	Ⅲ J13g	26	18	15.4	31.672	
188	Ⅲ J13g	20	20	14.3	31.679	
189	Ⅲ J13g	23	22	38.6	31.429	
(190)	Ⅲ J13g	24	22	33.9	31.479	RF1
194	Ⅲ J13g	39	35	22.5	31.589	
(196)	Ⅲ J13g	35	34	9.2	31.654	○
197	Ⅲ J12o	36	28	26.5	31.517	P039 ↔ P197
(198)	Ⅲ J13・14f	46	(30)	12.8	31.583	○ F1
199	Ⅲ J14f	36	34	16.0	31.582	○
201	Ⅲ J14f	44	37	23.0	31.517	○
202	Ⅲ I11r	46	34	23.8	31.382	
(203)	Ⅲ J14f	40	34	21.0	31.537	
204	Ⅲ J14g	40	34	26.3	31.421	○
(205)	Ⅲ J14f	42	39	24.8	35.510	
206	Ⅲ J15f	42	36	26.0	31.479	○
207	Ⅲ J15f	34	32	18.3	31.589	P207 ↔ P208
208	Ⅲ J15f	(25)	(24)	20.4	31.577	P207 ↔ P208 ○
209	Ⅲ J15f	(23)	(8)	12.5	31.639	
210	Ⅲ J15f	26	16	17.5	31.588	
211	Ⅲ J15f	(38)	(19)	23.9	31.519	RF1
214	Ⅲ I13wx	(46)	(29)	19.9	31.532	P214 ↔ P236 ○
216	Ⅲ J12g	42	39	36.5	31.458	○ RF1
(217)	Ⅲ J12g	23	22	21.2	31.649	
(218)	Ⅲ J12g	36	28	24.3	31.658	○ F2
(219)	Ⅲ J12g	28	25	28.7	31.619	○
220	Ⅲ I13x	(26)	(20)	11.6	31.641	P220 ↔ P588
(221)	Ⅲ J12g	49	41	45.8	31.471	○ RF1
222	Ⅲ J12g	26	24	8.8	31.853	
(223)	Ⅲ J12g	30	26	51.8	31.389	○
224	Ⅲ J12g	48	32	32.4	31.570	P224 ↔ P225 ○
(225)	Ⅲ J12fg・13g	(34)	(34)	24.6	31.618	P224 ↔ P225 ○
(226)	Ⅲ J12g	21	16	21.5	31.700	
(227)	Ⅲ J12fg	48	38	40.3	31.529	○
228	Ⅲ J13b	54	46	29.9	31.497	P371 → P228
229	Ⅲ I12v	33	32	17.4	31.483	
(230)	Ⅲ J12f	42	41	21.0	31.704	RF1
231	Ⅲ J13a	38	34	48.5	31.270	
(232)	Ⅲ J12f	38	32	37.9	31.523	
233	Ⅲ J14d	30	26	16.9	31.571	
(234)	Ⅲ J12f	40	39	13.8	31.724	
(235)	Ⅲ J13f	48	44	26.0	31.583	○
236	Ⅲ I13x	(50)	(28)	30.5	31.422	P214 ↔ P236 ○
237	Ⅲ J13f	(62)	(50)	25.7	31.448	P501 ↔ P237
238	Ⅲ J13f	30	26	20.8	31.547	○
239	Ⅲ J12・13f	27	24	12.2	31.724	○
(240)	Ⅲ J12f	42	40	16.7	31.694	○
241	Ⅲ J12・13f	52	40	28.5	31.564	○ F1
242	Ⅲ J12・13e	54	49	47.1	31.377	○
(243)	Ⅲ J12e・13f	48	40	28.7	31.519	○
(244)	Ⅲ J13f	68	55	24.9	31.581	○ RF1
245	Ⅲ J13f	26	24	19.1	31.570	
246	Ⅲ J13f	26	25	19.9	31.602	○
247	Ⅲ J13f	28	23	22.0	31.592	
248	Ⅲ J13f	26	25	54.7	31.282	○ F2 Ⅲ 1
249	Ⅲ J13f	32	32	19.9	31.646	
(250)	Ⅲ J13ef	31	30	19.7	31.693	○ RF1F1
252	Ⅲ J13e	46	45	28.4	31.511	
253	Ⅲ J13e	34	30	25.4	31.511	
254	Ⅲ J13e	43	40	38.3	31.382	○
255	Ⅲ I14w	22	20	11.2	31.599	
(256)	Ⅲ J13・14e	46	43	31.6	31.419	P256 → P257 ○
257	Ⅲ J13・14e	(33)	(30)	21.3	31.534	P256 → P257
(259)	Ⅲ J14e	(35)	(27)	33.3	31.360	
260	Ⅲ J13・14e	40	38	18.2	31.718	
261	Ⅲ J14e	34	32	31.7	31.474	○

No.	位置	長軸	短軸	深さ	底面標高	備考
262	Ⅲ J14e	31	30	18.0	31.600	P262 ↔ P263 ○
263	Ⅲ J14e	(30)	(28)	14.6	31.635	P262 ↔ P263
264	Ⅲ J14e	22	20	13.1	31.656	○
265	Ⅲ J14e	20	20	15.6	31.588	
(266)	Ⅲ J14d	34	32	58.3	31.171	○
267	Ⅲ J14・15d	44	38	25.6	31.535	○
(270)	Ⅲ J14d	34	28	23.0	31.593	
271	Ⅲ J14cd	24	21	10.4	31.667	
272	Ⅲ J13f	(30)	(27)	18.3	31.466	P272 ↔ P531
273	Ⅲ J14c	22	22	12.6	31.628	
275	Ⅲ J14cd	40	38	46.7	31.317	○鉄釘 1
276	Ⅲ J14d	45	39	49.6	31.297	○楔 1 磨 3
277	Ⅲ J14c	54	39	43.0	31.371	○磨 3
(278)	Ⅲ J14d	38	37	11.5	31.708	
279	Ⅲ J14d	25	20	12.0	31.707	○
280	Ⅲ J14d	32	28	13.2	31.691	
281	Ⅲ J14d	34	28	11.3	31.685	
(282)	Ⅲ J14d	40	28	30.2	31.474	
283	Ⅲ J14d	26	25	13.8	31.667	
284	Ⅲ J13d	34	26	14.9	31.649	
286	Ⅲ J13d	60	50	24.8	31.535	P286 ↔ P287 ○
(287)	Ⅲ J13d	(42)	(40)	24.4	31.546	P286 ↔ P287 ○
(288)	Ⅲ J13d	37	36	21.7	31.566	○燧 1
289	Ⅲ J13d	20	20	10.6	31.710	
290	Ⅲ J13d	30	28	12.9	31.694	○
291	Ⅲ J13e	45	44	22.2	31.569	
292	Ⅲ J13e	33	30	36.4	31.409	○ F1
293	Ⅲ J13e	53	45	45.2	31.335	○ F1
294	Ⅲ J13e	22	20	28.2	31.527	
(295)	Ⅲ J12e	32	29	43.3	31.396	○
296	Ⅲ J12e	24	20	16.5	31.702	
(297)	Ⅲ J12e	26	20	20.5	31.656	
(298)	Ⅲ J12ef	30	25	18.4	31.706	
(299)	Ⅲ J12f	32	29	20.4	31.696	
300	Ⅲ J12f	28	26	22.5	31.654	
301	Ⅲ J12ef	28	26	18.8	31.688	○
302	Ⅲ J11g	24	22	23.3	31.618	○
303	Ⅲ J11g	22	21	20.7	19.900	
304	Ⅲ J11g	29	26	26.4	31.621	
305	Ⅲ J11g	(43)	40	39.6	31.458	P305 ↔ P306 ○ F2 不 1
306	Ⅲ J11g	71	(54)	54.9	31.306	P305 ↔ P306 ○ F1
307	Ⅲ J11g	25	24	20.4	31.633	
308	Ⅲ J11fg	51	36	44.7	31.402	P082・116→P308○燧 1RF1F4
(309)	Ⅲ J11f	44	40	9.8	31.791	
(310)	Ⅲ J11f	34	34	29.2	31.602	
(311)	Ⅲ J11f	34	32	17.6	31.728	
312	Ⅲ J11f	26	(15)	9.0	31.797	○
(313)	Ⅲ J11ef	(46)	(43)	59.6	31.299	○
314	Ⅲ J11e	20	20	10.5	31.776	
(315)	Ⅲ J12e	31	28	14.7	31.743	
(316)	Ⅲ J12e	26	24	13.7	31.736	
(317)	Ⅲ J12e	54	34	48.3	31.384	○
(318)	Ⅲ J12e	51	46	29.0	31.544	○
319	Ⅲ J12・13d	36	32	9.3	31.714	
320	Ⅲ J12d	32	24	23.9	31.558	
321	Ⅲ J12d	30	26	10.3	31.698	○
322	Ⅲ J13d	28	28	18.1	31.602	
323	Ⅲ J13d	33	32	13.2	31.670	P324 → P323
324	Ⅲ J13d	(25)	(22)	10.0	31.700	P324 → P323
325	Ⅲ J12・13c	32	30	21.9	31.597	○
326	Ⅲ J13・13d	86	60	33.9	31.440	○
327	Ⅲ J13d	(43)	42	60.2	31.223	P327→P652○燧 1F1 磨 4 Ⅲ 1
(328)	Ⅲ J13c	38	37	40.3	31.415	○磨 1
(329)	Ⅲ J13c	32	30	19.2	31.631	
330	Ⅲ J13cd	54	52	16.9	31.660	○
331	Ⅲ J13c	38	34	15.5	31.678	
332	Ⅲ J14c	29	28	24.8	31.579	
333	Ⅲ J13・14c	29	28	33.8	31.472	
(334)	Ⅲ J14c	38	32	18.7	31.604	○匙 1
335	Ⅲ I11・12u	52	48	19.1	31.491	○R F1
336	Ⅲ I12r	32	26	22.6	31.324	
337	Ⅲ J14c	66	55	16.0	31.580	○
338	Ⅲ J14c	26	22	10.1	31.657	
339	Ⅲ J14・15b	35	30	16.0	31.644	
(340)	Ⅲ J14c	39	30	35.7	31.396	○ F1
(341)	Ⅲ J14c	25	24	16.8	31.616	○
(342)	Ⅲ J14bc	39	36	17.4	31.604	○磨 1 敲 1
343	Ⅲ J14b	31	29	14.7	31.618	

2 検出遺構

第5表 柱穴一覧(3)

No.	位置	長軸	短軸	深さ	底面標高	備考
344	Ⅲ J14bc	24	22	23.1	31.560	
(345)	Ⅲ J14c	42	38	45.3	31.341	
346	Ⅲ J14bc	50	38	37.4	31.419	○ F1
348	Ⅲ I11s	50	34	42.0	31.217	○
(349)	Ⅲ J13c	42	40	41.7	31.397	○
(350)	Ⅲ J13c	30	28	27.2	31.522	○ F1
(351)	Ⅲ J13c	62	52	64.5	31.152	P657 → P351 ○
352	Ⅲ J13bc	30	23	31.2	31.487	
353	Ⅲ J13・14b	59	48	28.0	31.523	
(354)	Ⅲ J14b	75	54	15.1	31.665	
(355)	Ⅲ J14b	50	40	33.1	31.439	○磨1
356	Ⅲ J14b	41	36	28.6	31.512	P356 ↔ P357
357	Ⅲ J14b	27	24	15.0	31.664	P356 ↔ P357
358	Ⅲ J14b	26	26	14.5	31.645	
(359)	Ⅲ J14b	36	28	28.5	31.521	○
360	Ⅲ J14b	20	20	10.3	31.698	
361	Ⅲ J14b	29	26	30.4	31.505	○
362	Ⅲ J14b	30	26	19.7	31.607	
364	Ⅲ J14b	24	20	25.2	31.547	
(365)	Ⅲ J14b	24	22	36.8	31.430	○匙1磨2
(366)	Ⅲ J14b	34	29	26.1	31.543	
367	Ⅲ J14b	52	43	30.6	31.496	
(368)	Ⅲ J14b	40	34	18.6	31.612	
369	Ⅲ J13b	36	35	36.5	31.540	○
(370)	Ⅲ J13b	50	42	29.8	31.482	P371 → P370 磨斧2磨1
371	Ⅲ J13b	(38)	(42)	19.4	31.587	P371 → P228・370 ○
372	Ⅲ J13b	59	58	58.3	31.223	○匙1F1
(373)	Ⅲ J13b	51	43	33.8	31.475	○
374	Ⅲ I12r	36	33	22.7	31.351	○鏃1
375	Ⅲ J12・13b	66	62	39.6	31.446	○
376	Ⅲ J12b	31	28	14.7	31.687	
377	Ⅲ J12・13b	37	32	17.3	31.657	○
378	Ⅲ J13b	(45)	(40)	47.2	31.330	P378 ↔ P673 ○匙1F2 Ⅲ1
380	Ⅲ J13・14b	24	23	30.9	31.460	
381	Ⅲ J14b	30	29	23.5	31.576	○
382	Ⅲ J14b	23	22	19.2	31.612	
383	Ⅲ J14ab	34	31	20.5	31.593	○
384	Ⅲ J14b	(40)	(34)	26.9	31.534	P384 → P385 → P679 ○
(385)	Ⅲ J14b	(64)	(56)	23.8	31.555	P384→P385→P679 ○磨1
(386)	Ⅲ J14a	38	32	32.3	31.482	○
387	Ⅲ J14b	20	19	18.0	31.610	
388	Ⅲ J14b	30	28	12.8	31.661	
389	Ⅲ I11r	33	33	23.0	31.315	○
390	Ⅲ J14a	25	24	16.8	31.620	
391	Ⅲ J14a	21	20	12.8	31.673	
392	Ⅲ J12c	36	33	16.7	31.617	
393	Ⅲ J12b	31	30	10.3	31.662	
394	Ⅲ I14t	36	32	11.0	31.646	
395	Ⅲ J14a	32	26	19.8	31.579	○
396	Ⅲ J14a	33	28	10.2	31.658	
397	Ⅲ I14t	31	26	10.9	31.607	
398	Ⅲ I12w	51	47	17.8	31.583	
(399)	Ⅲ J14a	34	32	17.3	31.593	○
(400)	Ⅲ J14a	42	40	23.3	31.525	○
(401)	Ⅲ J14a	43	40	16.1	31.603	
(402)	Ⅲ J14a	40	38	18.0	31.571	○原石1打斧1
403	Ⅲ J13・14a	44	42	39.3	31.382	○
404	Ⅲ J13a	28	26	10.0	31.680	
405	Ⅲ J13a	38	34	25.3	31.532	○☆磨1
(406)	Ⅲ J13a	36	36	26.4	31.514	○
407	Ⅲ J13a	32	32	19.0	31.590	○
408	Ⅲ J12a	40	30	22.2	31.580	
409	Ⅲ J12a	41	40	13.8	31.667	
410	Ⅲ J12a	37	36	32.7	31.450	○
411	Ⅲ J12a	60	60	60.8	31.174	○
412	Ⅲ J13a	34	30	16.7	31.595	
413	Ⅲ J13a	32	31	12.9	31.622	
(414)	Ⅲ I13y	36	34	22.9	31.518	○打斧1磨1石棒1
415	Ⅲ I13y	27	24	15.4	31.593	
416	Ⅲ J13a	74	71	14.2	31.615	○
417	Ⅲ J14a	32	30	28.7	31.760	○ F1 磨1
(418)	Ⅲ J14a	50	43	20.6	31.553	○RF1F2
419	Ⅲ I13・14tu	42	34	20.7	31.545	
420	Ⅲ I13・14y・ Ⅲ J13・14a	64	52	14.4	31.613	○ F1
(421)	Ⅲ I13y	56	44	24.9	31.475	○
422	Ⅲ I13y	26	26	35.6	31.359	○
424	Ⅲ Y13y	25	23	5.5	31.659	

No.	位置	長軸	短軸	深さ	底面標高	備考
(426)	Ⅲ I14y	28	24	11.3	31.632	○
(427)	Ⅲ I14y	34	30	18.7	31.543	○
428	Ⅲ I14y	28	23	14.9	31.594	Ⅲ1
429	Ⅲ I14y	32	32	6.5	31.638	
431	Ⅲ I14y	26	23	10.7	31.608	○
432	Ⅲ J14 a	(28)	(8)	10.5	31.653	
433	Ⅲ I14y	(29)	(22)	16.4	31.618	
434	Ⅲ I14x	32	32	7.8	31.638	○
435	Ⅲ I14y	30	24	12.2	31.635	○
436	Ⅲ I14y	22	22	9.1	31.651	
437	Ⅲ I14y	26	26	13.9	31.621	
438	Ⅲ I14y	32	28	15.7	31.592	○ F2
(439)	Ⅲ I14y	34	30	15.8	31.578	○
440	Ⅲ I13y	26	22	9.1	31.633	
441	Ⅲ I13y	32	26	16.1	31.630	
442	Ⅲ I12y	42	32	28.1	31.471	○ RF1F1
443	Ⅲ I13w	40	38	20.5	31.538	
444	Ⅲ I13x	27	26	9.1	31.658	○
445	Ⅲ I13xy	27	24	11.8	31.612	
446	Ⅲ I11・12u	55	34	8.9	31.602	
447	Ⅲ I13x	20	20	9.0	31.628	○
448	Ⅲ I14x	26	20	7.5	31.608	P448 ↔ P533
449	Ⅲ I13x	48	40	20.5	31.518	○
450	Ⅲ I14x	34	29	19.8	31.478	○ RF1
451	Ⅲ I14x	26	24	18.4	31.541	
452	Ⅲ I14x	32	30	13.5	31.603	
453	Ⅲ I14x	30	28	17.2	31.557	
454	Ⅲ I14x	(21)	(17)	28.8	31.432	
455	Ⅲ I14x	34	34	23.1	31.479	○
456	Ⅲ I14x	22	21	17.6	31.545	○
(457)	Ⅲ I14x	32	(25)	29.2	31.431	
458	Ⅲ I14x	20	20	13.1	31.583	
459	Ⅲ J15f	43	36	24.7	31.568	○ F1
(460)	Ⅲ I14x	31	29	16.3	31.546	
(461)	Ⅲ I14x	27	26	18.0	31.533	
462	Ⅲ I14w	30	29	20.5	31.496	
(463)	Ⅲ I14w	37	32	19.7	31.562	○磨1
(464)	Ⅲ I14w	22	21	10.8	31.626	○
465	Ⅲ I14w	36	34	20.1	31.539	○ F1
(466)	Ⅲ I14w	25	24	12.6	31.622	○
467	Ⅲ I14w	22	20	14.3	31.592	
(468)	Ⅲ I14w	32	29	19.4	31.541	○
469	Ⅲ I14v	20	18	14.6	31.590	
(470)	Ⅲ I13・14v	24	21	12.5	31.631	○
(471)	Ⅲ I14v	28	28	21.3	31.512	
(472)	Ⅲ I13v	28	28	20.2	31.577	○磨1
(473)	Ⅲ I13v	29	27	23.6	31.536	○
474	Ⅲ I13v	28	27	24.5	31.459	
475	Ⅲ I14w	(24)	(20)	22.7	31.555	
476	Ⅲ I14v	(31)	(19)	7.4	31.714	
477	Ⅲ I14v	(36)	(35)	18.9	31.578	
478	Ⅲ I14v	36	34	13.1	31.651	○
479	Ⅲ I14v	31	27	21.0	31.581	
481	Ⅲ I14v	36	34	18.2	31.591	
482	Ⅲ I14uv	36	33	24.7	31.553	○
(483)	Ⅲ I14v	32	27	13.8	31.611	
484	Ⅲ I14u	41	34	10.2	31.675	○
485	Ⅲ I14u	48	32	19.0	31.583	
486	Ⅲ I14u	25	22	13.7	31.633	
(487)	Ⅲ I14u	27	21	26.1	31.530	○
488	Ⅲ I14u	34	33	25.5	31.509	
489	Ⅲ I14tu	47	45	14.5	31.607	○
490	Ⅲ I14u	50	35	9.7	31.646	
491	Ⅲ I14t	35	31	16.4	31.587	
492	Ⅲ I13t	20	20	7.9	31.583	
495	Ⅲ I13r	22	21	-	31.458	
496	Ⅲ I13r	22	20	-	31.541	
497	Ⅲ I13r	30	26	22.1	31.428	
499	Ⅲ I13r	23	22	-	31.538	
500	Ⅲ I13r	24	23	-	31.549	
(501)	Ⅲ J13f	(62)	(50)	20.9	31.496	P501 ↔ P237 ○
502	Ⅲ I14t	26	23	14.7	31.653	
503	Ⅲ I14t	20	20	21.8	31.511	
504	Ⅲ I14s	(18)	(12)	10.7	31.619	
505	Ⅲ I13v	40	34	22.7	31.496	
506	Ⅲ I13s	42	37	22.2	31.388	
507	Ⅲ I14v	24	18	11.7	31.626	
511	Ⅲ I12u	22	17	12.5	31.542	

第5表 柱穴一覧(4)

No.	位置	長軸	短軸	深さ	底面標高	備考
512	Ⅲ I11・12r	30	25	19.2	31.420	
513	Ⅲ I11r	42	40	33.4	31.288	○
517	Ⅲ I11・11v	43	40	40.1	31.273	
518	Ⅲ I12v	48	48	21.7	31.474	○磨1
519	Ⅲ I13w	26	25	9.9	31.629	
520	Ⅲ I13w	32	22	26.1	31.411	
(523)	Ⅲ I13w	28	28	33.5	31.373	
526	Ⅲ I13v	29	18	-	31.577	
528	Ⅲ I13w	37	29	5.5	31.685	○雑1RF1
529	Ⅲ I12t	36	34	44.2	31.256	○
530	Ⅲ I13w	42	24	28.9	31.428	○
531	Ⅲ J13f (36)	(32)	25.6	31.451	P272 ↔ P531	
(533)	Ⅲ I14x	29	25	16.8	31.508	P448 ↔ P533 ○
534	Ⅲ I14u	(42)	(38)	14.4	31.606	P534 → P091 ○
537	Ⅲ I13xy	50	48	31.3	31.408	○鉄1F1
538	Ⅲ I13x	47	42	21.9	31.528	○鉄1
(540)	Ⅲ I13x	42	40	15.3	31.592	
541	Ⅲ I13x	22	22	13.6	31.640	
542	Ⅲ I11u	32	27	18.3	31.527	○
(545)	Ⅲ I12・13v	28	27	14.1	31.484	F3
546	Ⅲ I12u	29	25	14.6	31.541	
547	Ⅲ I13v	45	37	25.0	31.458	○
550	Ⅲ I11r	41	40	23.9	31.373	○
556	Ⅲ I11r	33	30	53.5	31.052	○
557	Ⅲ I11r	34	32	45.8	31.163	
558	Ⅲ I12s	26	23	32.4	31.245	○
564	Ⅲ I12u	42	42	8.5	31.603	
565	Ⅲ I12u	35	28	14.2	31.558	
566	Ⅲ I12u	34	30	22.1	31.465	
567	Ⅲ I12s	39	37	32.4	31.267	○
569	Ⅲ I12・13u	36	34	11.9	31.569	
571	Ⅲ I12u	28	28	15.7	31.538	
576	Ⅲ I11s (35)	(29)	31.5	31.301	P576 → P106 ○	
580	Ⅲ I12s (24)	(24)	10.9	31.519		
582	Ⅲ I14y	25	22	12.7	31.575	
583	Ⅲ J14a	22	16	8.3	31.643	
584	Ⅲ J14a	21	17	9.3	31.617	
585	Ⅲ J14a	29	25	18.3	31.603	
(586)	Ⅲ J13c	38	30	12.1	31.683	
587	Ⅲ I13x	36	32	21.0	31.536	
588	Ⅲ I13x (31)	(25)	17.1	31.549	P220 → P588	
589	Ⅲ I12・13x (35)	(28)	9.5	31.607	○磨1	
590	Ⅲ I13x	39	36	16.4	31.567	
591	Ⅲ I13x	38	30	16.2	31.567	○F1
592	Ⅲ I13x	38	25	19.1	31.545	○
593	Ⅲ I12x	38	34	12.1	31.615	
594	Ⅲ I12x	26	23	14.6	31.636	○
595	Ⅲ I12x (54)	(44)	28.8	31.461	P093 → P595	
596	Ⅲ I14w	25	23	19.8	31.469	○
597	Ⅲ I12xy	40	37	19.9	31.553	
598	Ⅲ I12v	48	45	25.7	31.370	
599	Ⅲ I12x	29	26	19.2	31.547	○F1
600	Ⅲ I12x	40	36	13.6	31.609	○RF1F2
601	Ⅲ I12w	51	44	12.6	31.604	
602	Ⅲ I12w	44	42	15.4	31.587	○
603	Ⅲ J13f	30	26	20.5	31.489	
604	Ⅲ I12w	25	24	16.1	31.578	
605	Ⅲ I13u	38	28	9.8	31.634	
606	Ⅲ I12w	54	36	12.0	31.588	○磨1
607	Ⅲ I12v	34	34	8.8	31.608	○
608	Ⅲ I12v	30	27	9.9	31.611	
609	Ⅲ I12v	40	36	6.8	31.570	
610	Ⅲ I12v	50	42	30.5	31.424	○RF1F1
612	Ⅲ I11uv	30	26	15.2	31.517	
613	Ⅲ I12v	26	24	8.4	31.601	
614	Ⅲ I12v	36	34	13.8	31.544	○
615	Ⅲ I12v	25	23	7.2	31.593	
616	Ⅲ I12v	58	44	27.3	31.391	○
617	Ⅲ I11・12t	33	32	45.7	31.167	
618	Ⅲ I12u	42	40	8.6	31.584	○
619	Ⅲ I14tu	35	27	25.5	31.487	
620	Ⅲ J12a	40	40	33.9	31.419	○F1磨2
(621)	Ⅲ J15fg	39	34	23.1	31.345	○
622	Ⅲ J11g (40)	(25)	21.0	31.578	P622 ↔ P685 ○ F16	
(623)	Ⅲ J11g	26	26	18.4	31.691	
(624)	Ⅲ J11g	38	28	22.5	31.657	○
625	Ⅲ J11g	29	26	38.1	31.474	○
(626)	Ⅲ J11・12g	34	34	20.3	31.634	

No.	位置	長軸	短軸	深さ	底面標高	備考
(627)	Ⅲ J12fg	38	36	47.9	31.370	○
(628)	Ⅲ J12f (34)	(32)	21.7	31.523	P628 ↔ P629	
629	Ⅲ J12f (34)	(28)	34.4	31.510	P628 ↔ P629 ○	
630	Ⅲ J12f	37	32	22.4	31.650	○
631	Ⅲ J12f	29	22	21.3	31.582	○
632	Ⅲ J12f	22	22	22.9	31.558	
(633)	Ⅲ J13e	33	31	18.6	31.609	
(634)	Ⅲ J14d	33	28	44.9	31.334	○磨3
635	Ⅲ J12e	22	21	13.9	31.708	
636	Ⅲ J12e	22	22	22.3	31.624	
640	Ⅲ J13ab・14ab	28	23	15.8	31.550	
641	Ⅲ J12i	35	28	14.5	31.666	
(642)	Ⅲ I13x (34)	(27)	5.9	31.668	○	
643	Ⅲ I13w	36	32	13.8	31.592	○
644	Ⅲ I12v	49	42	23.2	31.482	○F1
645	Ⅲ J12i	18	16	17.9	31.540	
646	Ⅲ J11・12e	22	21	13.1	31.729	○
647	Ⅲ J12i	27	22	36.5	31.258	○
649	Ⅲ I14y	60	32	16.8	31.540	
650	Ⅲ J13i	26	25	19.5	31.636	
(652)	Ⅲ J13cd (47)	(34)	35.0	31.469	P327 → P652	
653	Ⅲ J11h	20	20	18.3	31.510	
(654)	Ⅲ J11g	39	34	27.5	31.542	○
(655)	Ⅲ J14c	30	24	43.2	31.314	○F2
656	Ⅲ J13b (39)	(34)	30.6	31.474	P656 ↔ P675・681 ○	
(657)	Ⅲ J13c (32)	(32)	41.3	31.340	P657 → P351 ○	
658	Ⅲ J13a	48	40	27.2	31.503	○SCR1F1
(659)	Ⅲ J13c	36	29	33.5	31.294	○F1
(660)	Ⅲ J13c	30	26	37.9	31.315	○
661	Ⅲ J13c	52	48	39.9	31.398	○F1不1
(662)	Ⅲ J14c	31	25	40.4	31.405	
664	Ⅲ J14f	52	52	33.5	31.386	
665	Ⅲ J13j	32	25	32.5	31.573	F2
666	Ⅲ I13・14y・ Ⅲ J13a	34	28	18.9	31.535	
(667)	Ⅲ J14de	44	34	31.9	31.409	○F3
668	Ⅲ I12v	38	37	16.2	31.498	
669	Ⅲ I12u	28	27	35.3	31.303	○
(671)	Ⅲ J13h	48	30	44.0	31.350	
672	Ⅲ J13b (33)	(24)	28.9	31.505	P672 ↔ P673	
(673)	Ⅲ J13b (38)	(35)	19.6	31.323	P378・672・674 ↔ P673	
674	Ⅲ J13b (31)	(29)	39.9	31.409	P674 → P673	
675	Ⅲ J13b (44)	(42)	22.3	31.539	P656 ↔ P675	
(676)	Ⅲ J14c	35	32	24.3	31.502	
677	Ⅲ J12g	30	24	12.6	31.470	
(678)	Ⅲ I13w	26	16	12.3	31.629	
679	Ⅲ J14b	48	40	26.5	31.496	P385 → P679
680	Ⅲ J13e	64	42	14.7	31.635	
681	Ⅲ J13b (48)	(48)	36.7	31.406	P656 ↔ P681	
(682)	Ⅲ J14c	46	39	27.4	31.475	
(683)	Ⅲ J11e (38)	(32)	17.7	31.672		
(684)	Ⅲ J11ef	58	48	44.3	31.222	○RF2F1
685	Ⅲ J11・12g (66)	(52)	47.9	31.370	P622 ↔ P685	
686	Ⅲ J13gh	46	44	29.7	31.456	
687	Ⅲ J13h	54	50	30.2	31.396	
688	Ⅲ J13fg	25	22	28.5	31.302	
689	Ⅲ J11h	42	36	23.7	31.548	
690	Ⅲ J13e	44	36	17.5	31.562	
(691)	Ⅲ J13a	30	30	16.6	31.516	
(692)	Ⅲ J13a	39	36	23.1	31.424	○
693	Ⅲ J14e	45	38	47.0	31.270	
(694)	Ⅲ J13a	29	26	12.5	31.499	
698	Ⅲ J13・14i (30)	(26)	31.9	31.498	P698 ↔ P699・700 ○	
699	Ⅲ J13i (28)	(25)	34.6	31.516	P698 ↔ P699	
700	Ⅲ J13i (22)	(22)	44.5	31.375	P698 ↔ P700	
(901)	Ⅲ J13g	52	48	34.9	31.468	
1001	Ⅳ K24・25a	34	33	25.8	31.542	
1002	Ⅳ J25y	32	32	18.6	31.532	
(1003)	V J09s	51	46	21.0	31.217	○鉄1
(1004)	V J09s	46	38	16.2	31.332	F2
(1005)	V J08t	50	48	22.2	31.235	F5C1
(1006)	V J08st (34)	(33)	13.5	31.422		
1007	Ⅳ K17a (22)	(20)	16.8	31.326	P1013 → P1007	
1009	Ⅳ K16a	20	20	21.8	31.188	
1010	Ⅳ K16a	22	20	11.7	31.349	
1012	Ⅳ K16a	25	24	29.3	31.149	
1013	Ⅳ K17a (27)	(22)	18.1	31.312	P1013 → P1007	
1014	Ⅳ K15b	26	24	30.7	30.948	

2 検出遺構

第5表 柱穴一覧(5)

No.	位置	長軸	短軸	深さ	底面標高	備考
1015	IV K15a	19	18	10.3	31.287	
1017	IV K15a	22	19	12.6	31.285	
1018	IV K13a	33	32	32.5	30.798	
1019	IV K13a	31	29	30.3	30.891	
1020	IV K14a	23	23	30.8	31.929	
1021	IV K14a	20	20	29.7	31.010	
1022	IV J14y	24	21	22.0	31.094	
1023	IV J14x	36	34	18.1	31.131	
1025	IV J14w	26	24	10.9	31.196	
1027	IV J14v	32	30	18.5	31.115	
1028	IV J14v	27	24	22.9	31.080	
1030	IV J14v	20	20	11.2	31.180	
1033	IV J14uv	25	24	35.6	31.982	
1034	IV J14u	34	32	30.1	31.032	
1035	IV J14v	24	23	26.6	31.045	
1036	IV K15a	24	20	18.8	31.221	
1037	IV K15a	22	18	22.7	30.999	○
1038	IV K15a	20	18	25.8	31.065	
1062	Ⅲ J23g	74	72	23.4	31.513	○ F1
1063	Ⅲ J23g	(67)	(64)	20.8	31.564	P1063 ↔ P1243・1244 ○ F44
1064	Ⅲ J21f	78	74	22.0	31.550	○ F1
1065	Ⅲ J21g	68	64	24.9	31.508	○ 鉄 1F6
1071	IV J21・22ef	72	55	24.9	31.024	
(1101)	Ⅲ J15f	40	39	21.5	31.531	○
1102	Ⅲ J15f	(34)	(23)	11.3	31.623	○
1103	Ⅲ J15f	21	20	8.4	31.650	
1104	Ⅲ J16f	26	21	15.9	31.549	
1105	Ⅲ J15g	42	27	24.6	31.487	F1
1106	Ⅲ J16f	32	23	35.1	31.369	
1107	Ⅲ J16f	(21)	(16)	17.9	31.552	
1108	Ⅲ J16f	18	16	6.0	31.659	○
1109	Ⅲ J16f	(43)	(32)	20.0	31.528	P1109 → P1110 ○
(1110)	Ⅲ J16f	(38)	(28)	19.4	31.558	P1109 → P1110 ○ F1
(1111)	Ⅲ J16f	(33)	(21)	18.8	31.538	○
1112	Ⅲ J15fg	32	28	29.7	31.427	○
1113	Ⅲ J16f	35	22	22.9	31.496	
(1114)	Ⅲ J16f	43	33	19.5	31.516	○ F1
(1115)	Ⅲ J17f	36	36	11.1	31.616	
(1116)	Ⅲ J16・17g	52	48	36.2	31.373	○ 鉄 1 錐 1F5
(1117)	Ⅲ J17f	(40)	(26)	30.3	31.436	○ F3
1118	Ⅲ J16 g	47	43	19.2	31.585	○
(1119)	Ⅲ J16 g	18	18	5.5	31.695	○
1120	Ⅲ J16・17g	23	21	15.3	31.585	
(1121)	Ⅲ J17 g	25	25	7.7	31.664	
1122	Ⅲ J17 g	20	20	15.3	31.585	
1123	Ⅲ J16・17g	69	39	16.4	31.591	○ F1
1124	Ⅲ J17f	24	24	21.0	31.490	
1125	Ⅲ J17f	21	21	9.6	31.608	
1126	Ⅲ J17f	25	24	6.9	31.625	
(1127)	Ⅲ J17f	26	25	10.0	31.608	○
(1128)	Ⅲ J17g	40	32	29.2	31.461	○ F1
1129	Ⅲ J17g	29	28	22.6	31.519	
1130	Ⅲ J17g	22	19	11.7	31.622	○
1131	Ⅲ J17g	25	25	17.0	31.579	
1132	Ⅲ J17fg	29	24	12.8	31.595	
(1133)	Ⅲ J17f	26	24	11.2	31.615	
1134	Ⅲ J17f	24	21	4.8	31.649	○
(1135)	Ⅲ J17f	36	26	12.8	31.592	
1136	Ⅲ J17f	33	30	8.5	31.624	○
1137	Ⅲ J17f	36	34	12.7	31.610	○ F4
(1138)	Ⅲ J17f	(31)	(25)	23.4	31.484	P1138 → P1139
1139	Ⅲ J17f	(22)	(14)	9.4	31.619	P1138 → P1139 ○
1140	Ⅲ J17・18f	25	24	5.8	31.666	
1141	Ⅲ J18f	29	28	11.4	31.602	○
1142	Ⅲ J18f	25	24	5.6	31.660	
1143	Ⅲ J18f	37	35	6.8	31.674	○
(1144)	Ⅲ J18f	22	20	9.8	31.630	○
1145	Ⅲ J17f	24	24	7.4	31.659	
(1146)	Ⅲ J17・18f	28	24	24.8	31.471	○ 鉄 1
(1147)	Ⅲ J17・18g	28	26	11.1	31.627	
(1148)	Ⅲ J18g	29	24	10.4	31.637	
1149	Ⅲ J18g	30	26	17.3	31.534	
1150	Ⅲ J18g	22	21	14.6	31.572	
1151	Ⅲ J18g	25	24	12.5	31.592	楔 2F2
1152	Ⅲ J18g	22	18	12.8	31.568	
(1153)	Ⅲ J18g	22	21	4.4	31.647	○
1154	Ⅲ J18g	23	20	20.1	19.100	
1155	Ⅲ J18g	36	26	31.5	31.419	○

No.	位置	長軸	短軸	深さ	底面標高	備考
1156	Ⅲ J18g	34	26	17.8	31.531	
(1157)	Ⅲ J18g	19	18	7.3	31.660	
(1158)	Ⅲ J18g	34	25	8.4	31.607	
(1159)	Ⅲ J18g	38	24	8.5	31.606	
(1160)	Ⅲ J19f	48	32	16.0	31.613	
1161	Ⅲ J19f	23	22	12.2	31.636	
1162	Ⅲ J20f	30	24	10.2	31.645	F1
1163	Ⅲ J20f	33	22	59.8	31.550	○
1164	Ⅲ J20f	30	27	22.7	31.521	
(1165)	Ⅲ J20f	38	36	19.9	31.554	○ F1
1166	Ⅲ J20f	75	46	11.4	31.645	○
1167	Ⅲ J20fg	45	42	10.2	31.628	○ 鉄 1F2
1168	Ⅲ J20g	21	17	13.7	31.596	
1169	Ⅲ J19g	24	22	17.6	31.584	
1170	Ⅲ J19・20g	28	22	17.8	31.592	○
1171	Ⅲ J20 g	24	23	9.4	31.663	
(1172)	Ⅲ J20 g	40	38	18.3	31.575	○ RF1
1173	Ⅲ J20f	(14)	(13)	13.5	31.634	P1173 ↔ P1174
1174	Ⅲ J20f	(56)	(55)	34.1	31.421	P1174 ↔ P1173 ○ F1
1175	Ⅲ J20f	32	30	11.5	31.633	
1176	Ⅲ J20f	24	20	8.8	31.643	
1177	Ⅲ J20f	(24)	(22)	15.8	31.575	P1177 ↔ P1178
1178	Ⅲ J20f	(24)	(21)	19.2	31.545	P1178 ↔ P1177
1179	Ⅲ J20fg	39	36	23.0	31.500	○ RF1F1
1180	Ⅲ J20g	30	20	10.1	31.612	
1181	Ⅲ J20fg	30	29	10.2	31.623	○
1182	Ⅲ J20g	56	50	16.3	31.577	○ F3
1183	Ⅲ J20g	28	25	9.7	31.655	
1184	Ⅲ J20g	29	25	11.7	31.634	
1185	Ⅲ J20g	29	24	11.7	31.619	F1
1186	Ⅲ J20g	28	26	6.3	31.659	
(1187)	Ⅲ J20g	38	35	9.6	31.601	○ C1
1188	Ⅲ J20g	35	34	19.3	31.542	P1188 ↔ P1602・1603 ○ F1
1189	Ⅲ J20f	28	22	8.5	31.670	
1190	Ⅲ J20fg	37	29	21.3	31.539	○ F1
1191	Ⅲ J20 g	39	23	9.3	31.631	
(1192)	Ⅲ J20・21fg	34	24	31.3	31.446	磨 1
1193	Ⅲ J20・21g	24	24	30.1	31.435	○
1194	Ⅲ J21f	42	38	27.0	31.495	○
1195	Ⅲ J21f	34	34	17.1	31.592	○
(1196)	Ⅲ J21f	48	37	16.4	31.592	○ 皿 1
(1197)	Ⅲ J21f	56	36	29.3	31.453	磨 1
1198	Ⅲ J21g	23	21	21.4	31.518	
1199	Ⅲ J21g	38	32	26.0	31.472	○
1200	Ⅲ J21g	36	33	29.4	31.437	
1201	Ⅲ J20g	43	42	19.6	31.534	○ F1
1202	Ⅲ J20・21g	42	42	9.3	31.629	○
1203	Ⅲ J20g	28	24	16.9	31.580	
1204	Ⅲ J21g	52	52	15.5	31.607	○ F3
(1205)	Ⅲ J21g	32	30	21.0	31.527	○ 磨 1
1206	Ⅲ J21g	51	39	23.1	31.487	○ 磨 1
1207	Ⅲ J21g	41	40	31.7	31.391	○ F1
1208	Ⅲ J21g	56	47	43.1	31.274	○ F1 磨 2
1209	Ⅲ J21g	26	23	12.7	31.576	○
1210	Ⅲ J21g	38	36	20.3	31.507	○
(1211)	Ⅲ J21g	(44)	(27)	15.8	31.532	P1211 ↔ P1212 ○ F1
1212	Ⅲ J21g	(40)	(33)	41.9	31.271	P1212 ↔ P1211
1213	Ⅲ J21g	36	34	17.0	31.502	
(1214)	Ⅲ J21g	32	28	30.1	31.398	○
1215	Ⅲ J21g	44	40	12.0	31.570	○ F1
1216	Ⅲ J21g	55	48	37.2	31.336	○ 鉄 1F1
1217	Ⅲ J21g	37	32	21.3	31.527	
1218	Ⅲ J21g	51	47	22.7	31.513	
(1219)	Ⅲ J21f	29	28	15.1	31.613	○ F1
1220	Ⅲ J22f	34	30	13.2	31.619	
(1221)	Ⅲ J22g	28	28	9.1	31.620	F1
1222	Ⅲ J22g	40	38	16.2	31.552	○
1223	Ⅲ J22g	26	23	12.3	31.589	○
1224	Ⅲ J22g	(37)	(25)	23.5	31.476	
1225	Ⅲ J22・23g	24	23	23.3	31.488	○
(1226)	Ⅲ J22fg	26	24	12.0	31.623	
1227	Ⅲ J22fg	61	44	9.3	31.631	
1228	Ⅲ J22f	27	26	12.8	31.567	F1
1229	Ⅲ J22・23f	24	22	19.1	31.510	
1230	Ⅲ J22f	46	28	14.1	31.593	F1
(1231)	Ⅲ J23f	32	31	30.1	31.421	F1
1232	Ⅲ J23f	28	24	8.9	31.628	
1233	Ⅲ J23f	56	30	16.1	31.593	楔 1

第5表 柱穴一覧(6)

No.	位置	長軸	短軸	深さ	底面標高	備考
1234	Ⅲ J23f	30	28	24.9	31.491	
1235	Ⅲ J23g	20	18	9.1	31.655	
1236	Ⅲ J23g	29	26	19.3	31.546	
1237	Ⅲ J23g	22	22	22.2	31.509	
1238	Ⅲ J23g	33	29	27.3	31.461	
1239	Ⅲ J23g	22	22	23.2	31.535	
1240	Ⅲ J23g	28	25	11.2	31.637	
1241	Ⅲ J23g	18	17	8.9	31.667	
1242	Ⅲ J23g	21	18	13.4	31.615	
1243	Ⅲ J23g (28)	(24)		10.6	31.655	P1063 ↔ P1243
1244	Ⅲ J23g (24)	(20)		15.0	31.619	P1063 ↔ P1244
1245	Ⅲ J23g	39	26	7.8	31.640	
1246	Ⅲ J23g	24	22	19.1	31.521	
1247	Ⅲ J23・24g	28	24	10.2	31.609	
1248	Ⅲ J24g	24	22	67.4	31.103	F2 磨斧 1
1249	Ⅲ J24g	25	24	7.2	31.708	
1250	Ⅲ J24g	24	20	11.1	31.645	
1251	Ⅲ J24f	24	24	13.7	31.658	
1252	Ⅲ J24f	26	24	21.8	31.618	○
1253	Ⅲ J24f	41	24	9.2	31.702	
1254	Ⅲ J24f	26	26	14.3	31.638	
1255	Ⅲ J23・24g	35	24	11.1	31.659	
1256	Ⅲ J24g	60	58	37.1	31.404	○ F2C1 磨 1
1257	Ⅲ J24g	38	37	15.6	31.589	
1258	Ⅲ J24g (27)	(12)	(12)	17.7	31.624	
1259	Ⅲ J24g (55)	(48)		69.4	31.069	P1260・1611・1612 ↔ P1259 ○ F1 磨 2 皿 1 不 1
1260	Ⅲ J24g (42)	(32)		44.3	31.317	P1259・1611・1612 ↔ P1260 ○ 不 1
(1261)	Ⅲ J24g (42)	(24)		43.0	31.353	P1261 ↔ P1262 ○
1262	Ⅲ J24g (27)	(22)		35.6	31.426	P1261 ↔ P1262 ○ F2
1263	Ⅲ J24g	33	30	26.1	31.538	F7
1264	Ⅲ J25g	24	21	21.5	31.573	
1265	Ⅲ J25g	30	25	35.5	31.437	F1
(1266)	Ⅲ J25g	34	32	23.9	31.548	
1267	Ⅲ J25g	28	26	25.7	31.502	
1268	Ⅲ J25g (28)	(24)		30.5	31.493	P1268 ↔ P1269 ○ F2
1269	Ⅲ J25g (45)	(41)		34.9	31.456	P1268 ↔ P1269 ○ F1
1270	Ⅲ J25g	24	24	17.9	31.590	
1271	Ⅲ J25f	60	40	12.8	31.666	
1272	Ⅲ J25f	28	24	17.3	31.633	
1273	Ⅲ J25g	42	32	18.5	31.624	F2 砥 1
(1274)	Ⅲ J25g	33	30	28.5	31.513	○
1275	Ⅲ J25g	24	22	18.9	31.589	○ F1
1276	Ⅲ J25g	32	27	10.4	31.700	○
1277	Ⅲ J25g (34)	(29)		11.1	31.638	○
1278	Ⅲ J25g・Ⅳ J1g (47)	(45)		17.6	31.567	○ F1
1279	Ⅳ J1g	42	36	54.2	31.267	○ 磨 1
(1280)	Ⅳ J1f・1g	32	32	42.5	31.394	○ RF1F1
1281	Ⅲ J25f・Ⅳ J1fg	28	26	15.3	31.669	○
(1282)	Ⅳ J1f	26	26	11.9	31.728	
(1283)	Ⅳ J1f	22	21	16.6	31.655	
1284	Ⅳ J1f	40	27	15.3	31.679	○ F1
(1285)	Ⅳ J1g	28	28	25.2	31.535	○
(1286)	Ⅳ J2f	26	25	17.3	31.641	○
1287	Ⅳ J2f	42	36	34.3	31.458	○
(1288)	Ⅳ J2f (58)	(51)		12.6	31.639	P1289 ↔ P1288
1289	Ⅳ J2f (41)	(40)		24.4	31.528	P1289 ↔ P1288
1290	Ⅳ J2f	40	38	30.9	31.445	RF2F3 磨斧 1
1291	Ⅳ J2f	24	24	24.0	31.540	
1292	Ⅳ J2f	25	24	12.7	31.629	
1293	Ⅳ J2f	50	50	29.5	31.468	○ F1
1294	Ⅳ J2f	26	24	22.0	31.536	F1
1295	Ⅳ J2f	30	29	27.3	31.494	○
1296	Ⅳ J2f	20	20	20.0	31.542	
1297	Ⅳ J2f	25	24	30.0	31.450	
1298	Ⅳ J2f	35	25	32.7	31.426	○
1299	Ⅳ J2f	34	24	37.5	31.383	○
1300	Ⅳ J2g	54	35	34.3	31.416	○ F6 磨 1
1301	Ⅳ J2・3g	38	34	23.8	31.472	
1302	Ⅳ J3g	32	24	13.7	31.596	
1303	Ⅳ J3g (21)	(17)		38.9	31.387	窠 1
1304	Ⅳ J3g	36	32	22.4	31.523	
1305	Ⅳ J3fg	28	23	22.3	31.495	
1306	Ⅳ J3f	24	18	17.9	31.602	
1307	Ⅳ J3f	27	26	31.5	31.521	○
1308	Ⅳ J3f	25	23	18.0	31.654	皿 1
1309	Ⅳ J3f	20	18	22.3	31.582	

No.	位置	長軸	短軸	深さ	底面標高	備考
1310	Ⅳ J3f	24	18	7.7	31.747	F1
1311	Ⅳ J3f	20	18	9.5	31.682	
1312	Ⅳ J3f	32	30	20.8	31.579	○
1313	Ⅳ J3f	29	20	10.4	31.655	磨 1
1314	Ⅳ J3f	28	24	16.9	31.586	
1315	Ⅳ J3f	28	25	35.9	31.376	○
1316	Ⅳ J3f	17	16	18.6	31.638	○
1317	Ⅳ J3f	22	18	15.7	31.662	F2
1318	Ⅳ J3f	24	23	22.2	31.584	
1319	Ⅳ J3f	30	28	16.2	31.550	○
1320	Ⅳ J3f	34	27	12.5	31.567	○ F3
1321	Ⅳ J3g	30	26	21.5	31.512	○ F3
1322	Ⅳ J3g (47)	(37)		13.7	31.603	P1322 ↔ P1323 ○ F1
1323	Ⅳ J3g (31)	(25)		15.2	31.576	P1322 ↔ P1323 ○
1324	Ⅳ J3g	50	36	12.1	31.623	○
1325	Ⅳ J3g	18	18	16.3	31.581	
1326	Ⅳ J3f (17)	(17)		12.6	31.614	P1326 ↔ P1327
1327	Ⅳ J3・4f (21)	(19)		22.6	31.513	P1326 ↔ P1327
1328	Ⅳ J3f	24	18	6.9	31.640	○
1329	Ⅳ J3・4f	34	30	24.0	31.482	○ F2
1330	Ⅳ J4f	26	23	20.9	31.535	
1331	Ⅳ J4fg	21	20	10.4	31.635	
1332	Ⅳ J3fg	44	29	14.3	31.583	○
1333	Ⅳ J3f	22	19	7.7	31.746	
1334	Ⅳ J3g (42)	(36)		27.3	31.477	P1334 ↔ P1335 ○
1335	Ⅳ J3g (49)	(45)		14.6	31.597	P1334 ↔ P1335 ○ C3
1336	Ⅳ J3g	54	42	58.4	31.110	○
1337	Ⅳ J3g	48	35	17.4	31.527	○
1338	Ⅳ J4g	41	37	13.1	31.610	○ 磨 1
1339	Ⅳ J4f	25	25	17.7	31.547	
1340	Ⅳ J6g	74	39	10.2	31.534	○ F1
1341	Ⅳ J6g	26	25	32.0	31.290	○
1342	Ⅳ J6f	20	18	27.1	31.298	
1343	Ⅳ J7f	22	19	11.7	31.579	F1
1344	Ⅳ J6・7f	18	17	6.8	31.454	
1345	Ⅳ J7g	23	20	6.7	31.510	
1346	Ⅳ J7g	18	18	14.3	31.437	
1347	Ⅳ J7fg	21	21	8.1	31.492	
1348	Ⅳ J7g	20	20	11.1	31.473	
1349	Ⅳ J7f	25	21	7.4	31.548	○
1350	Ⅳ J7f	31	25	13.4	31.496	
1351	Ⅳ J7f	24	23	12.3	31.482	○
1352	Ⅳ J8f	25	22	10.6	31.449	
1353	Ⅳ J8f	22	20	4.4	31.485	
1354	Ⅳ J8f	23	23	15.4	31.396	○
1355	Ⅳ J8g	23	20	11.7	31.422	
1356	Ⅳ J9g	48	38	11.6	31.415	○
1357	Ⅳ J9g	40	36	12.4	31.417	○
1358	Ⅳ J9f	52	20	10.4	31.463	
(1359)	Ⅳ J9f	54	42	11.3	31.414	
1360	Ⅳ J9fg	32	28	6.0	31.441	
1361	Ⅳ J9g	30	23	16.6	31.360	
(1362)	Ⅳ J9g	51	43	10.6	31.421	○
1363	Ⅳ J10f	25	20	10.3	31.461	
1364	Ⅳ J10f	35	28	12.8	31.433	
(1365)	Ⅳ J10f	33	30	13.1	31.420	F1
(1366)	Ⅳ J10fg	44	31	38.3	31.142	○
1367	Ⅳ J10fg	22	22	18.3	31.329	○
1368	Ⅳ J12g (50)	(46)		14.1	31.204	
1369	Ⅳ J15f	16	14	11.0	31.285	
1370	Ⅳ J16f	28	24	19.2	31.180	
1371	Ⅳ J15g	53	35	18.4	31.131	
1372	Ⅳ J16g	34	29	10.3	31.216	
1373	Ⅳ J18g	34	30	16.0	31.132	
1374	Ⅳ J19g	30	30	21.7	31.083	
1375	Ⅳ J19f	33	30	16.2	31.122	
1376	Ⅳ J19f	23	22	13.8	31.144	
1377	Ⅳ J18f (26)	(17)		17.3	31.149	P1377 ↔ P1378
1378	Ⅳ J19f (53)	(30)		14.7	31.168	P1378 ↔ P1377・1379 ○
1379	Ⅳ J18・19f (23)	(22)		14.3	31.172	P1378 ↔ P1379 ○
1380	Ⅳ J19f	26	23	18.0	31.127	
1381	Ⅳ J19f	28	24	24.9	31.048	
1382	Ⅳ J19g (19)	(18)		3.3	31.265	P1382 ↔ P1383
1383	Ⅳ J19g (28)	(24)		8.2	31.231	P1382 ↔ P1383 磨 1
1384	Ⅳ J20ef	42	30	15.1	31.173	磨 1
1385	Ⅳ J20f	28	22	15.3	31.144	
1386	Ⅳ J20f	22	21	8.1	31.202	

2 検出遺構

第5表 柱穴一覧(7)

No.	位置	長軸	短軸	深さ	底面標高	備考	
(1387)	IV J20f	37	31	11.1	31.149		
1388	IV J20f	46	28	10.3	31.159		
1389	IV J20・21f	30	24	17.0	31.106		
(1390)	IV J21f	28	24	14.7	31.173		
(1391)	IV J21e (44)	(35)	11.0	31.173			
1392	IV J20g	54	44	10.6	31.116	鏝1	
1393	IV J24e (41)	(36)	13.4	31.013			
1394	IV J18・19g	38	33	16.1	31.125	鏝1	
(1402)	III J17v (45)	(42)	28.6	31.135	○		
(1403)	III J17w	40	40	17.9	31.181		
(1404)	III J18v	62	40	32.0	31.140	F1	
(1405)	III J18v	48	45	43.1	31.134	○	
1406	III J18v	29	25	9.9	31.443		
(1407)	III J18・19v	48	45	27.6	31.187		
1408	III J19w	28	26	10.0	31.327		
1409	III J18・19v	34	28	13.0	31.441		
(1410)	III J19v	40	31	25.6	31.319		
1411	III J19v (29)	(23)	20.3	31.382			
(1412)	III J19v (31)	(18)	22.7	31.354			
1413	III J19v	30	26	56.1	31.054	○RF1F1	
(1414)	III J19v	50	45	40.3	31.127	○	
1415	III J19v	42	30	41.7	31.121	○磨1	
1416	III J19v	36	25	24.6	31.323	○	
1417	III J19v	20	19	45.9	31.162		
1418	III J19v	38	36	46.5	31.156	○鏝1	
1420	III J19・20v	20	18	11.8	31.427		
1421	III J19v	36	32	32.5	31.283	○F1	
1422	III J19u	25	25	16.0	31.457		
1423	III J19u (20)	(19)	11.1	31.518			
1424	III J19・20u (23)	(14)	15.3	31.475			
1425	III J20u	23	20	9.6	31.535		
1426	III J20v	26	18	22.8	31.327	○	
(1427)	III J20v	46	44	44.6	31.130	○磨1	
1428	III J20v	38	31	26.4	31.252		
1429	III J20v (18)	(16)	9.8	31.515		P1430 ↔ P1429	
1430	III J20v (20)	(18)	25.6	31.314		P1430 ↔ P1429	
1431	III J20v	19	18	15.3	31.330		
(1432)	III J20v	56	53	25.2	31.272	○F1	
1433	III J20v	16	16	12.4	31.393		
1434	III J20v	19	17	19.3	31.326		
1435	III J20v	33	19	46.5	46.700	○匙1F1	
1436	III J20v	20	19	11.9	31.423	III 1	
1437	III J20v	50	48	57.8	31.949		
1438	III J20u (18)	(15)	36.4	31.246		P1438 → P1439RF1	
1439	III J20u	48	45	33.7	31.200		P1438 → P1439 ○ F2
1440	III J20u	41	35	48.6	31.369		
1441	III J20v	32	32	16.0	31.369		
(1442)	III J20v	61	38	30.2	31.230		○SCR1
1443	III J20u	22	19	14.4	31.382		
(1444)	III J20・21u	56	44	37.4	31.225		○磁1SCR1F4磨1
1445	III J21u	20	20	15.2	31.380		
1446	III J21uv	14	12	10.3	31.430		F2
1447	III J21u (26)	(23)	30.7	31.223			P1447 → P1448F1
1448	III J21u (29)	(23)	10.5	31.432			P1447 → P1448 ○ F1
1449	III J21u	30	26	7.9	31.462		
1450	III J21u	46	40	41.9	31.146		○RF1F2
1451	III J21u (41)	(33)	27.2	31.286			P1451 → P1452 ○
1452	III J21u	20	15	36.0	31.190		P1451 → P1452 ○
(1453)	III J21u	68	62	41.2	31.145		磨1 III 1
1454	III J21u	26	24	11.6	31.433		
1455	III J21v	22	21	5.4	31.448		
1456	III J21uv	32	31	7.9	31.434		
1457	III J21v (16)	(14)	13.9	31.376			
1458	III J21v	31	28	16.7	31.353		
1459	III J21uv	30	23	12.3	31.383		
1460	III J22v (18)	(12)	19.2	31.301			
1464	III J21u	22	20	13.8	31.328		
(1465)	III J21v	59	56	48.1	31.019		
1466	III J22u	48	36	40.6	31.117		
(1467)	III J22u	33	32	32.6	31.211		P1468 → P1467
1468	III J22u (25)	(26)	11.6	31.419			P1468 → P1467F1
1469	III J22u	24	22	8.7	31.450		
1470	III J22u	30	29	9.1	31.419		
1471	III J22u	29	28	6.3	31.466		
1472	III J22u	23	22	11.0	31.380		
1473	III J22u	20	17	33.2	31.220		
1474	III J22u	24	21	38.4	31.178		

No.	位置	長軸	短軸	深さ	底面標高	備考	
1475	III J22tu	23	20	10.4	31.419	F1	
1476	III J22tu	23	20	18.3	31.343	○石棒1	
1477	III J23u	90	48	13.3	31.550	○	
1478	III J23u	23	21	24.4	31.396		
1479	III J23u	22	22	13.9	31.514	○C1	
1480	III J24t	32	30	76.6	30.861	○	
1481	III J24u	20	17	7.0	31.530		
1483	III J23t (33)	(22)	25.8	31.382		P1483 ↔ P1635	
1484	III J23t	43	38	55.5	31.054		
1485	III J23t	51	38	27.4	31.337		
1486	III J23・24t	31	26	12.8	31.474		
1487	III J24t (27)	(25)	8.6	31.536		P1487 ↔ P1488 ○	
(1488)	III J24t (42)	(38)	60.7	31.034		P1487 ↔ P1488 ○鏝3RF1磨2敲1	
1489	III J24t	48	48	16.1	31.491		
1490	III J24t	35	32	11.6	31.528		
1491	III J24t	25	24	14.5	31.493		
1492	III J24t	26	26	13.9	31.516	○F1	
1493	III J24・25t	56	26	21.4	31.427	○F1	
1494	III J24・25t	20	18	13.0	31.480		
1495	III J24・25t	32	24	11.5	31.502		
1496	III J25t	28	28	12.4	31.508		
1497	III J25t	32	28	29.5	31.359	RF1	
1498	III J25t	24	23	20.1	31.444		
1499	III J25t	27	22	13.4	31.487		
1500	III J25t	22	21	19.1	31.422	F1	
1501	III J25t (30)	(20)	9.8	31.521		○	
1502	III J25st (19)	(12)	20.2	31.427			
1503	III J25st	53	42	21.4	31.412	○	
1504	III J25t	28	24	27.6	31.397	○	
1505	III J25t	38	29	12.1	31.529		
1506	III J25s	34	30	18.4	31.483	○	
1507	III J25t	44	41	14.4	31.477	○F2	
1509	IV J1t	32	30	67.6	30.963		P1641 → P1509 ○SCR1F6磨3 III 1
1510	IV J1t (27)	(20)	11.7	31.525			P1510 ↔ P1511
(1511)	IV J1t	36	34	27.8	31.354		P1510 ↔ P1511 ○
1512	IV J1t	37	36	17.0	31.461		○磨1
(1513)	IV J1t	30	30	19.3	31.442		
1514	IV J1t	28	24	9.8	31.533		
1515	IV J1t	24	24	10.5	31.501		
1516	IV J1t	35	29	24.3	31.351		○SCR1
1517	IV J1s (18)	(11)	11.6	31.484			
1518	IV J1s	22	22	16.4	31.474		F1
1519	IV J1s	49	30	27.1	31.337		○
1520	IV J1t	55	48	65.7	30.959		○鏝1F1磨1
1521	IV J1t	30	29	32.0	31.272		
(1522)	IV J1t	32	30	14.3	31.420		○
1523	IV J1t (21)	(16)	6.8	31.533			
1524	IV J1t	25	21	14.9	31.463		
1525	IV J1t	28	22	27.0	31.349		
1526	IV J1・2t	23	20	29.7	31.301		○
1527	IV J2t	33	22	43.7	31.183		○鏝1
(1528)	IV J2t	40	39	36.2	31.254		○F3磨1
1529	IV J2s	22	20	10.2	31.503		
1530	IV J2s	25	24	12.6	31.455		
1531	IV J2s	34	20	29.1	31.292		
1532	IV J2s	40	21	16.9	31.425		磨1
1533	IV J3s	23	23	49.6	31.094		
1534	IV J3s	39	23	48.9	31.088		○匙1
1535	IV J3s	35	35	13.7	31.414		
1536	IV J3t	26	21	13.2	31.454		
1537	IV J4s	29	26	9.8	31.475		
1538	IV J5s (22)	(17)	10.2	31.136			P1538 ↔ P1539
1539	IV J5s (23)	(22)	45.4	31.136			P1538 ↔ P1539 ○
1540	IV J5s (30)	(25)	18.2	31.349			
1541	IV J5・6t	38	30	22.3	31.230		○
1542	IV J6s	33	32	16.5	31.343		○
1543	IV J6s	37	32	25.2	31.257		○
1544	IV J6s	25	20	12.6	31.382		
1545	IV J6s	33	28	11.3	31.371		
1546	IV J6s	30	28	22.4	31.261		
1547	IV J6s	30	23	9.3	31.392		○
1548	IV J6s	32	28	16.0	31.331		
1549	IV J6t	27	20	11.3	31.370		
1550	IV J6t	18	17	7.8	31.378		
1551	IV J6t (29)	(20)	41.3	31.079			○F1不1
1552	IV J6t (21)	(9)	7.6	31.358			

第5表 柱穴一覧(8)

No.	位置	長軸	短軸	深さ	底面標高	備考
1553	IV J6・7s	50	48	33.7	31.119	
1554	IV J7s	42	26	38.1	31.077	○
1555	IV J7s	46	36	13.8	31.325	
1556	IV J7t	(32)	(19)	12.4	31.342	P1556 ↔ P1557 ○
1557	IV J7t	(34)	(20)	13.4	31.291	P1556・1558 ↔ P1557 ○
1558	IV J7t	(44)	(28)	24.5	31.197	P1558 ↔ P1557 ○
1559	IV J7t	30	30	15.3	31.279	
1560	IV J7t	33	30	13.5	31.283	
1561	IV J7t	41	36	48.7	30.967	○磨2凹1
1562	IV J7s	32	30	11.1	31.335	
1563	IV J7s	32	20	23.0	31.230	○
1564	IV J7st	50	24	26.7	31.177	○
1565	IV J8s	27	25	12.4	31.337	
1567	IV J8s	34	28	17.2	31.260	
1568	IV J8t	27	24	16.2	31.259	
1569	IV J8t	38	34	31.6	31.104	
1570	IV J8t	30	30	13.7	31.254	
1571	IV J8s	46	29	14.2	31.286	○F2
1572	IV J8s	37	25	9.7	31.329	○F1
1573	IV J8s	30	29	16.3	31.259	○F1
1574	IV J8s	38	31	59.8	30.771	○
1575	IV J8st	30	28	12.9	31.287	
1576	IV J8・9st	46	32	44.3	30.960	○
1577	IV J8s	28	24	18.9	31.197	
1578	IV J9s	36	25	13.6	31.233	○
1579	IV J9s	28	20	18.5	31.208	
1580	IV J9s	27	24	17.2	31.191	
1581	IV J9s	(44)	(40)	18.7	31.113	○RF1
1582	IV J10s	(32)	(24)	28.6	31.023	
1583	IV J10s	25	23	16.6	31.085	
1584	IV J10s	18	18	13.9	31.123	○
1585	IV J11s	49	29	13.9	31.170	○F1
1586	IV J11s	30	24	13.9	31.177	○
1587	IV J11t	22	19	8.3	31.209	
1588	IV J10t	28	22	48.1	30.770	
1589	IV J11t	24	21	31.5	30.990	○
1590	IV J11s	29	25	37.2	30.912	○☆
1591	IV J11t	28	26	35.4	30.933	
1592	IV J11t	25	24	42.1	30.886	○RF1
1593	IV J12t	(29)	(26)	27.9	31.043	○
1594	IV J12t	27	26	23.9	31.057	
1595	IV J13t	31	31	28.7	31.036	
1596	IV J13t	24	23	22.2	31.062	○
1597	IV J13s	32	26	14.0	31.129	○楔1
1598	IV J13s	32	30	14.0	31.104	○
1599	IV J13t	29	27	3.7	31.228	
1601	III J15f	29	23	11.2	31.594	
1602	III J20g	(24)	(21)	16.0	31.566	P1188 → P1602
1603	III J20g	(26)	(26)	21.0	31.500	P1188 → P1603
1604	III J22g	(74)	(46)	42.2	31.314	○
1605	III J22g	(40)	(31)	18.5	31.553	○
1606	III J21f	35	34	15.7	31.599	○
1607	III J22fg	50	40	30.5	31.326	○F1磨1
1608	III J22・23f	52	44	52.7	31.162	○F1磨1
1609	III J21f	50	46	19.0	31.517	○
1610	III J20・21f	32	28	15.9	31.595	○
1611	III J24g	(42)	(34)	37.7	31.388	P1259・1260・1612 ↔ P1611 ○F1不1
1612	III J24g	(33)	(21)	29.7	31.472	P1259・1260・1611 ↔ P1612
1613	III J15f	24	23	15.5	31.583	
(1614)	III J15・16f	38	30	14.3	31.574	磨3
1615	III J15f	22	18	7.9	31.618	○
1616	III J16g	27	25	13.0	31.619	○
(1617)	III J15g	38	30	20.1	31.538	○
1618	III J15g	30	26	11.0	31.600	
1619	III J15g	22	22	22.4	31.496	
1620	III J21u	40	29	16.0	31.360	
1621	III J22u	26	24	7.6	31.547	
1622	III J20u	(35)	(32)	41.9	31.202	P1623 → P1622F3
1623	III J20u	(41)	32	23.1	31.409	P1623 → P1622
1624	III J20g	92	60	20.8	31.494	○RF1
1625	III J20g	71	40	34.0	31.376	鏝1

No.	位置	長軸	短軸	深さ	底面標高	備考
1627	III J22u	22	21	10.0	31.544	
1628	III J23u	(27)	(12)	9.2	31.547	
1629	III J19・20f	48	36	17.9	31.551	P1630 → P1629 ○
1630	III J20g	(38)	(33)	21.4	31.502	P1630 → P1629 ○F1
1631	III J23t	(20)	(13)	38.5	31.153	
1632	III J23t	21	20	10.6	31.540	
(1633)	III J23t	58	35	58.8	31.066	○
1635	III J23t	(49)	(45)	39.6	31.251	P1483 ↔ P1635 ○
1636	III J24t	29	20	12.5	31.479	
1637	III J24t	24	22	6.4	31.580	○
1638	III J24t	25	21	9.0	31.580	
1639	III J25t	(32)	(26)	16.6	31.488	
1640	III J24u	(28)	(24)	37.4	31.250	P1640 ↔ P1701
1641	IV J1t	(17)	(18)	15.6	31.477	P1641 → P1509
1642	IV J4s	25	22	7.4	31.462	
1643	IV J2・3s	50	34	37.1	31.201	○
1644	IV J1t	22	15	9.9	31.288	
1645	IV J5s	36	28	20.8	31.270	○
1646	IV J6s	30	28	16.3	31.307	
1647	IV J5st	29	25	20.0	31.259	F1
1648	IV J5t	51	36	31.5	31.159	○F1
1649	IV J6s	32	28	34.2	31.123	
1650	IV J7s	(42)	(12)	12.4	31.288	
1651	IV J8s	82	51	22.7	31.232	○
1652	III J22f	28	25	17.7	31.566	
1653	III J24g	35	33	20.7	31.567	
1654	III J25g	(43)	(38)	26.9	31.522	P1654 ↔ P1655 ○F3
1655	III J25g	(57)	(55)	25.7	31.521	P1654 ↔ P1655 ○F1
1656	III J25f	36	32	10.4	31.662	
1657	III J20g	(45)	(42)	14.2	31.454	P1657 ↔ P1658
1658	III J20g	(47)	(39)	18.5	31.422	P1658 ↔ P1657 ○
1659	IV J1g	39	30	21.4	31.547	F1
1660	IV J1f	35	33	51.6	31.340	○F4
1661	IV J1fg	23	22	36.4	31.475	
1662	IV J1f	40	29	38.6	31.430	
1663	IV J3g	26	24	27.7	31.462	
1664	IV J2g	70	57	43.7	31.297	○RF1F10打斧1敲1
1665	IV J2・3g	74	64	46.2	31.290	○F1
1666	IV J3g	30	29	34.5	31.406	○F1C1
1667	IV J3g	19	18	31.1	31.413	
1668	IV J4f	26	25	12.2	31.568	
1669	IV J5g	61	57	16.8	31.523	○
1670	IV J5fg	82	54	24.3	31.419	○磨1
1671	IV J1f	40	37	64.7	31.210	○RF1F3磨2
1672	IV J2g	29	24	17.0	31.464	
1673	IV J2g	28	28	11.1	31.583	
1674	IV J9g	28	27	8.1	31.330	○
1675	III J18fg	36	26	15.1	31.598	○F1
1676	III J18f・19g	(41)	(32)	11.4	31.664	○
1677	III J19g	18	18	5.2	31.704	
1678	III J19g	28	27	20.1	31.595	○
1679	III J19g	(52)	(40)	15.5	31.661	石核1
1680	III J19g	35	34	27.9	31.450	○
1681	III J19gh	(25)	(24)	17.6	31.605	
(1682)	III J8f	(61)	(24)	17.6	31.451	
1701	III J24u	(39)	(29)	39.8	31.215	P1640 ↔ P1701 ○F1
1702	III J24u	29	28	15.5	31.454	○
1703	III J24u	42	28	31.6	31.336	
1704	III J25t	(110)	(70)	47.8	31.201	P1704 → P1705 ○F3磨7凹1 III 3
1705	III J25t	70	58	44.5	31.200	P1704 → P1705 ○RF1F1磨3
1708	IV J1t	32	28	23.2	31.298	
1709	IV J1s	44	32	23.3	31.399	○☆
1710	IV J1s	25	23	76.8	30.884	○
1713	IV J3s	(47)	(36)	36.2	31.175	○
1714	IV J3s	34	30	39.6	31.155	○
1719	IV J4s	(52)	(35)	17.7	31.369	F1
1721	IV J6t	34	34	24.6	31.180	
(1723)	III J24・25t	(45)	(39)	7.8	31.034	P1723 ↔ P1724 ○
1724	III J24・25t	(23)	(22)	20.8	31.399	P1723 ↔ P1724
1801	III J21u	72	52	9.8	31.245	
1802	III J21・22u	60	54	6.5	31.264	

[長軸・短軸・深さ] 単位 cm [底面標高] 単位 m

[備考] 新旧関係: 旧→新、↔新旧関係不明、○は縄文土器出土、☆は土師器出土

鏝: 石鏝、SCR: スクレイバー類、篋: 篋形石器、匙: 錐形石器、匙: 石匙、楔: 楔形石器、F: 剥片、C: 碎片

打斧: 打製石斧、磨斧: 磨製石斧、磨: 磨石、凹: 凹石、敲: 敲石、皿: 石皿、砥: 砥石

石棒: 石棒類、不: 不明石製品、鏝1 = 石鏝が1点出土

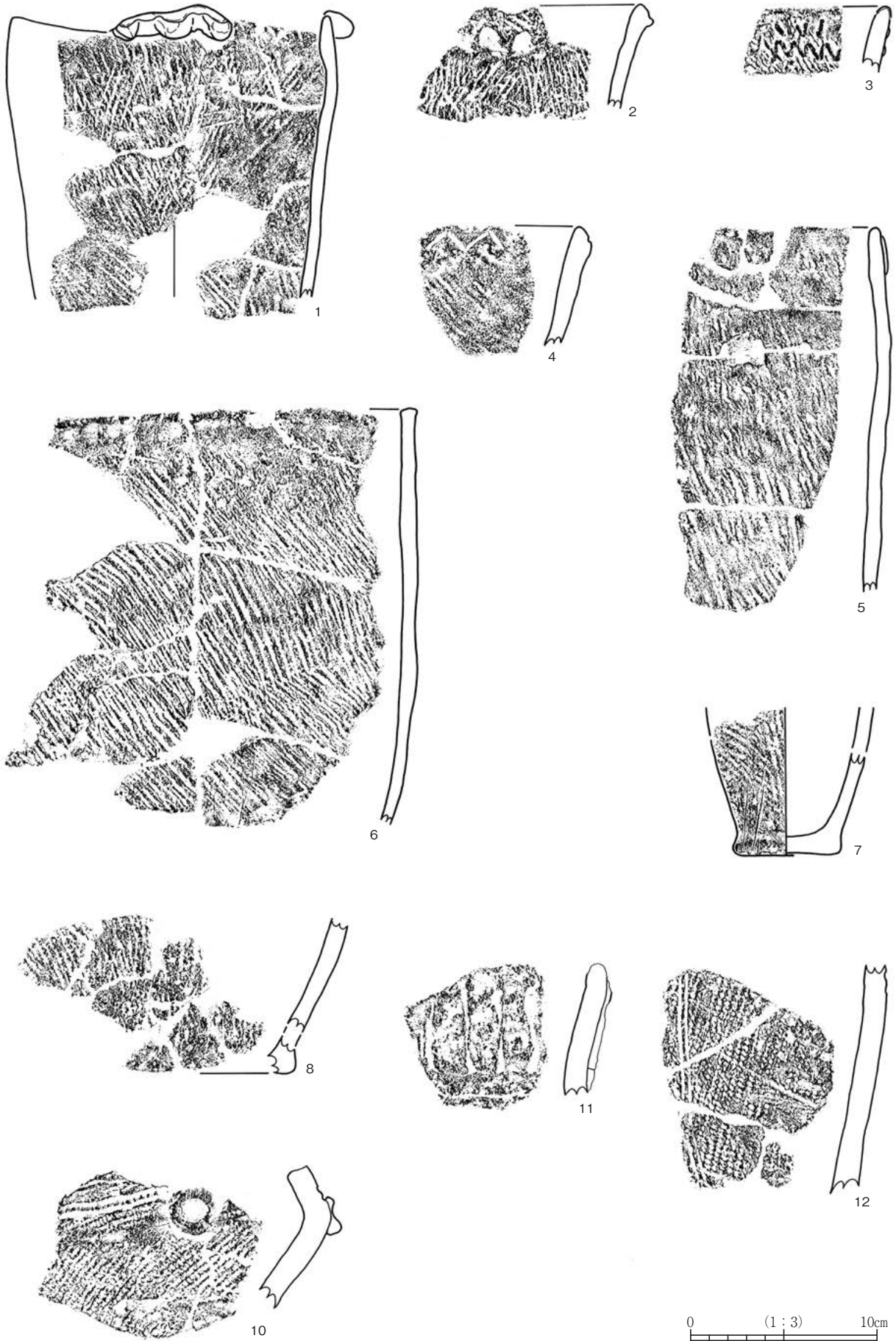
3 出土遺物

(1) 土器（縄文時代）（第85～101図、写真図版66～79）

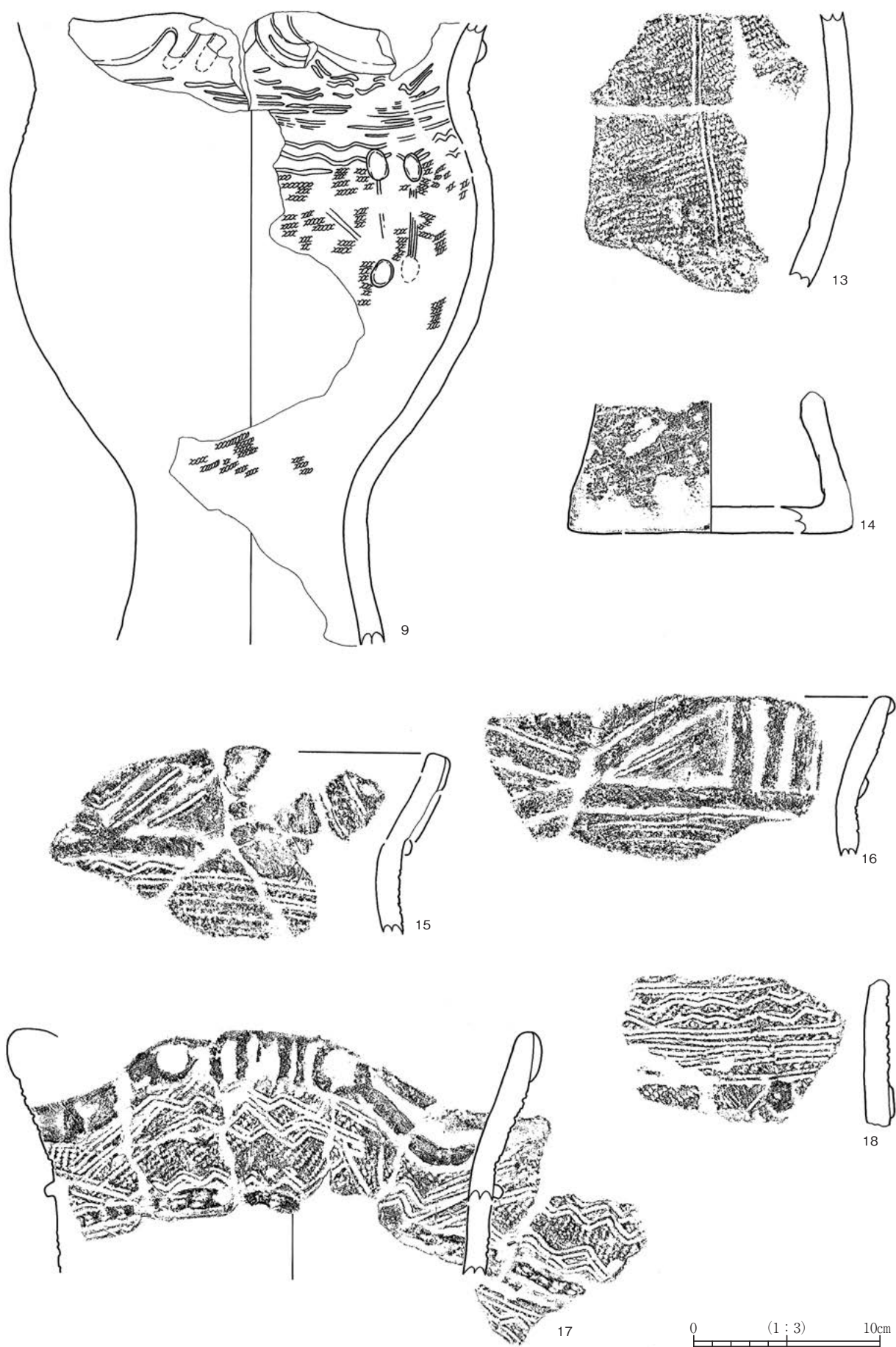
竪穴住居跡出土遺物（1～45） 1～8はSI02から出土した土器である。口唇部にはM字状の鋸歯状装飾体が観察でき（1・2・4）、地文には単軸絡条体が用いられる。大木5式に相当するものと考えられる。9～14はSI12から出土した土器である。口縁部上部に太い粘土紐が貼り付けられ（11）、半截竹管等による沈線文が施されている（9・10）。大木6式に相当するものと考えられる。15～29はSI13から出土した土器である。口唇部には縦・横・斜め等の太い粘土紐（15～17・19・20）や環状の粘土紐（17・20・21）が貼り付けられる。口縁部文様帯や区画には半截竹管等による重層沈線文を主体とし、ボタン状貼付が施されるもの（21等）、隆帯が施されるもの（17・19）がある。大木6式に相当するものと考えられる。30～37はSI14から、38・39はSI14・SI15と重複する部分から出土したものである。口唇部には各種の太い粘土紐の貼り付けが施され、口縁部文様帯には半截竹管等による各種の重層沈線文が施される。口縁部と胴部の文様帯の区画には鋸歯状の沈線文と隆帯が用いられる。胴部文様帯にも半截竹管等による沈線文が施され、沈線文の交点にはボタン状貼り付けが施される。大木6式に相当するものと考えられる。40～44はSI16から出土した土器である。40・41は、口縁部に太い粘土紐が貼り付けられ、その上に単軸絡条体が施文されている。42は鋸歯状の重層沈線文が施文されている。その他にも半截竹管等による沈線文や隆帯が施されるのが共通する特徴で、大木6式に相当するものと考えられる。45はSI21のPitから出土したものである。地文のみで詳細は不明である。

包含層出土遺物（46～96） 46～54は大木5式に相当するものと考えられる土器である。器形全体を復元できる資料は確認できなかった。46～50は鋸歯状の細い粘土紐を施すのを共通の特徴とする。50は区画に刺突文を施した隆帯を用いている。51は無文で、輪積みの痕跡を有するものである。52・53は口唇部に長い鋸歯状装飾体を有するものである。52には沈線文も施されている。54は刺突文を施した環状突起を有する個体である。55～80は大木6式に相当するものと考えられる土器である。竪穴住居跡出土資料とは異なり、器形全体を復元できる資料は確認できなかった。55～57は口唇部分を肥厚させ、太い沈線文を施している。58・59は同一個体の可能性が高い資料で、口縁部から頸部にかけて半截竹管を用いて、鋸歯状・波状・平行沈線文を施している。60～64も半截竹管を用いた沈線文を施している。鋸歯状・波状・平行・斜行沈線が見られる。65は太い鋸歯状沈線文を縦位に施文している。66・67は半截竹管を用いて、重層的な沈線文を施している。68～70はボタン状貼付が施され、沈線による文様が施されている。71～75は隆帯が巡るものである。71にはボタン状貼付も施される。81～96は地文のみのものである。本包含層の出土遺物の傾向から大木5式～大木6式に相当するものと考えられる。81・82は多軸絡条体、83は非結束羽状縄文が施されている。

時期不明遺構出土遺物（97～115・123・157・163～174） 97・98・123は時期の特定できない土坑から出土したものである。3点とも大木6式に相当するもので、97・98は沈線による文様が施されている。99～115は柱穴から出土したものである。概ね大木5式～大木6式に相当する。99は細い粘土紐が貼り付けられており、大木5式に近いものと考えられる。文様は沈線によるものが主体的である。157・163・164は時期の特定できなかった溝跡から出土したものである。157は鋸歯状の太い沈線文



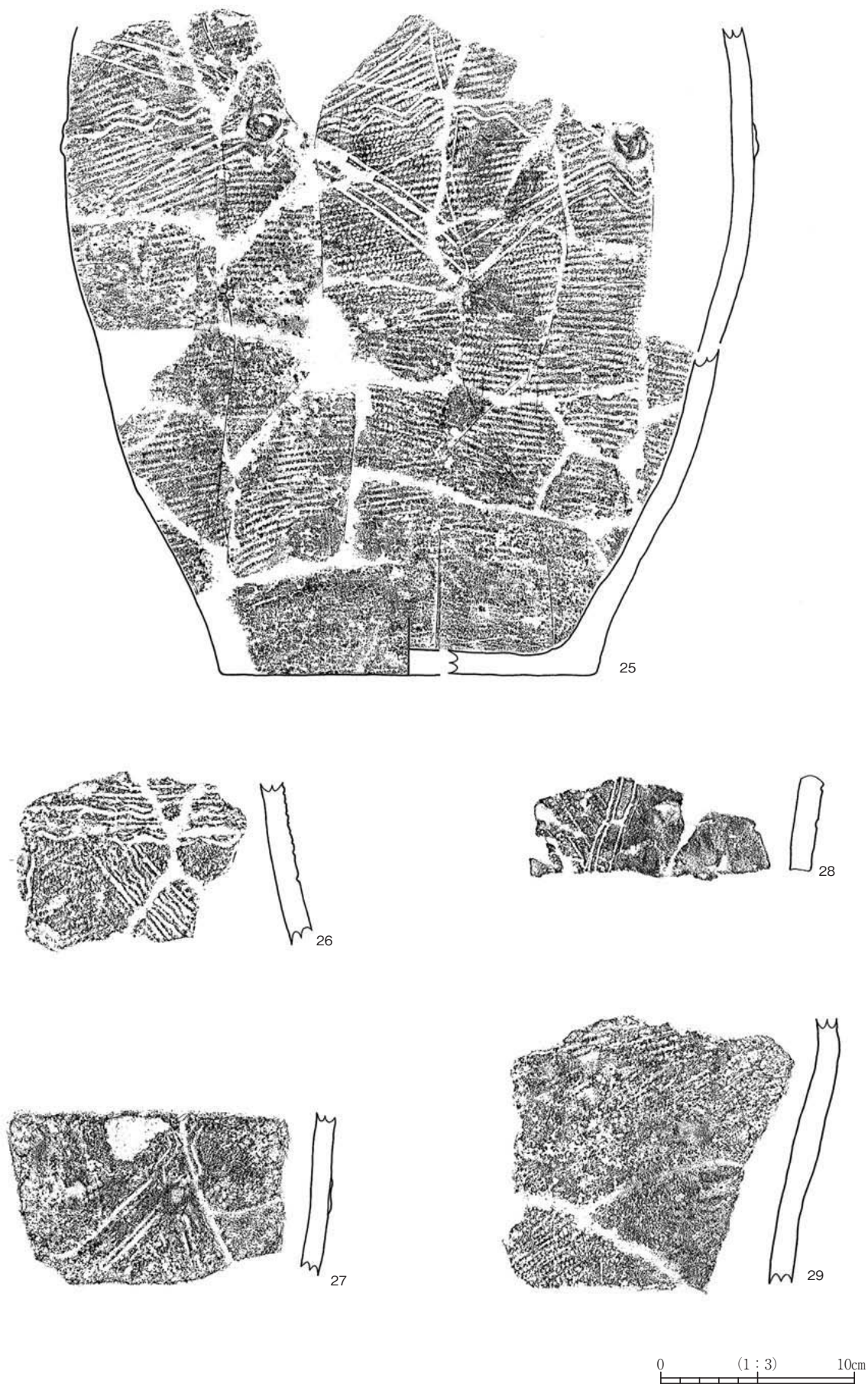
第85図 土器（縄文時代1）



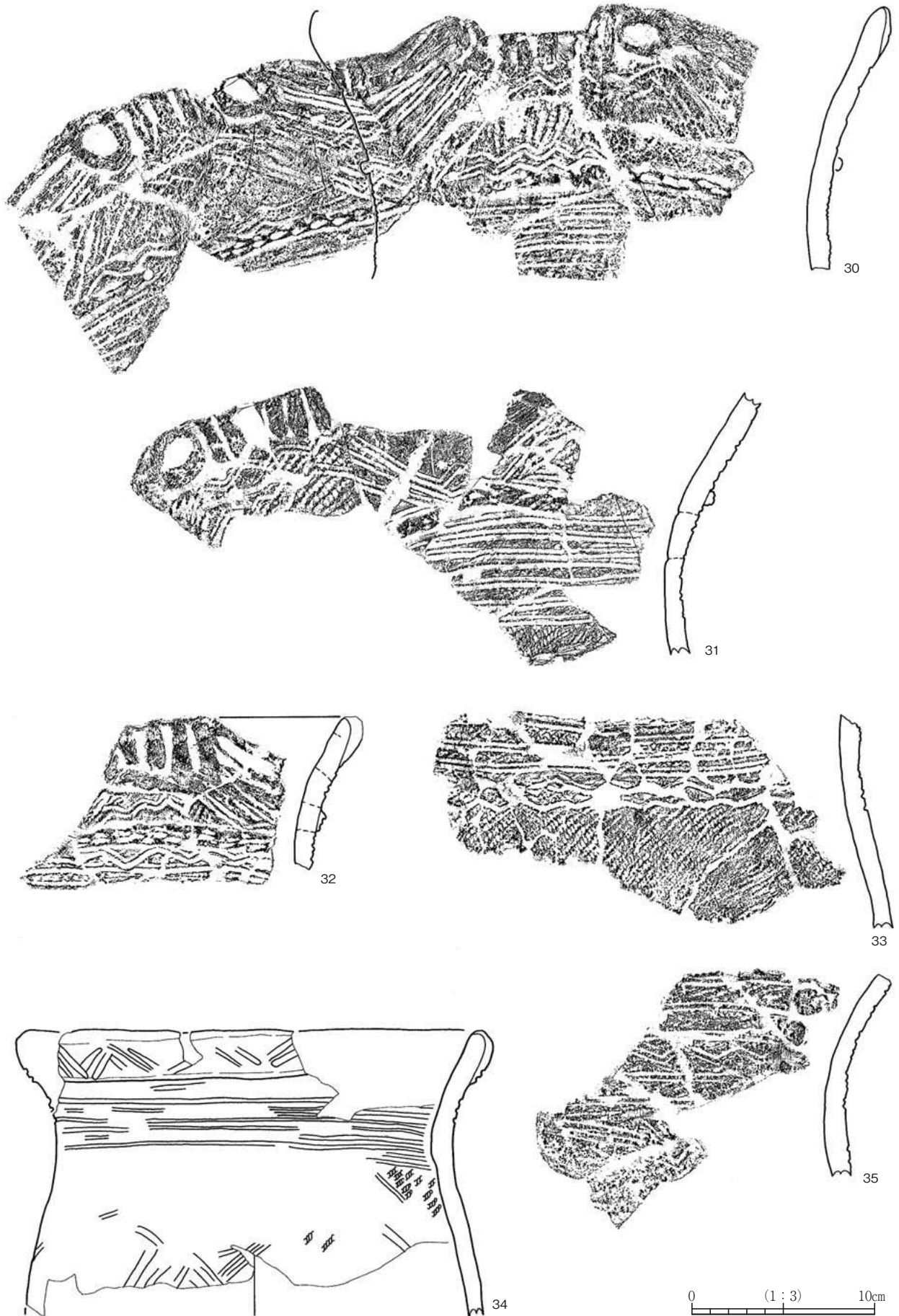
第 86 図 土器 (縄文時代 2)



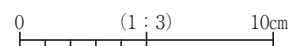
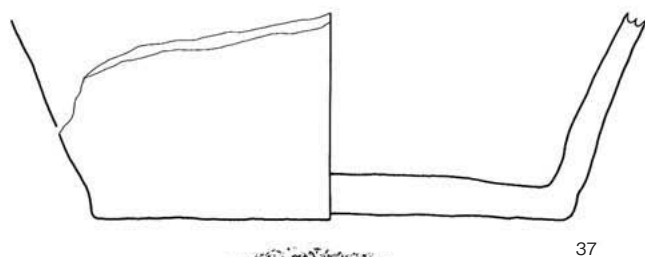
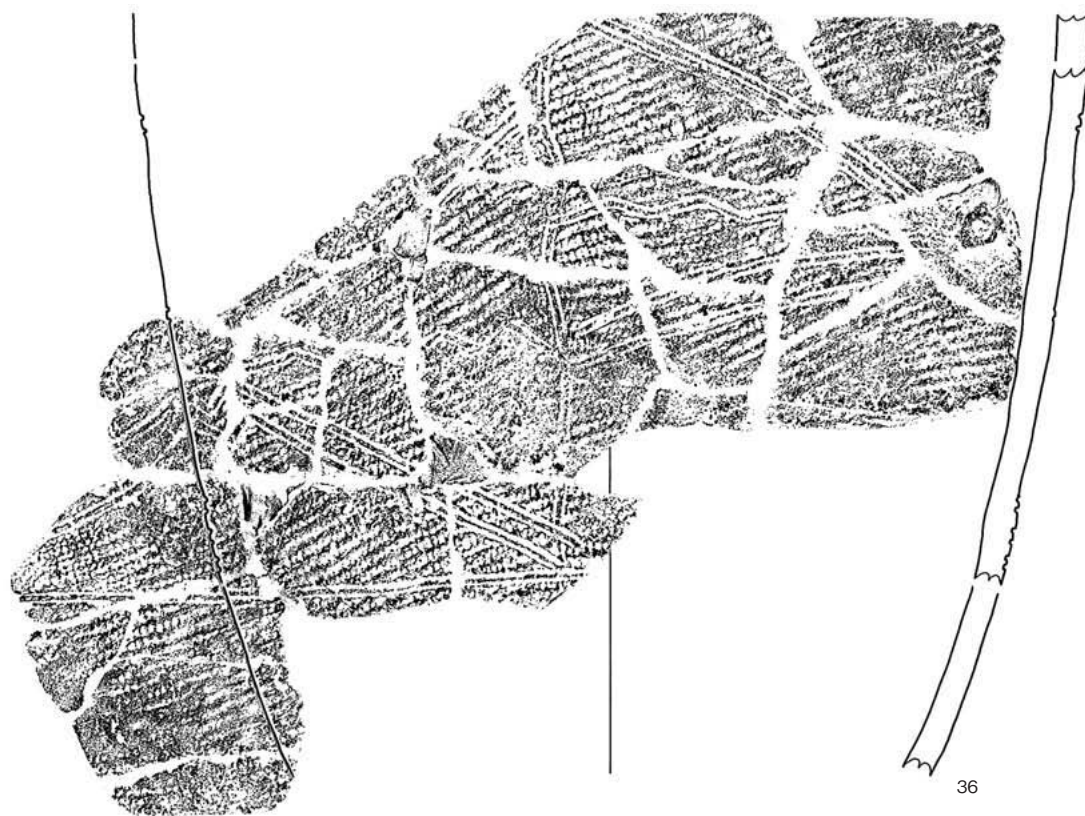
第 87 図 土器（縄文時代 3）



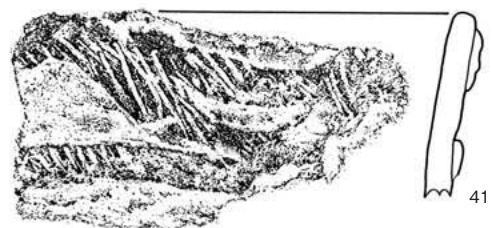
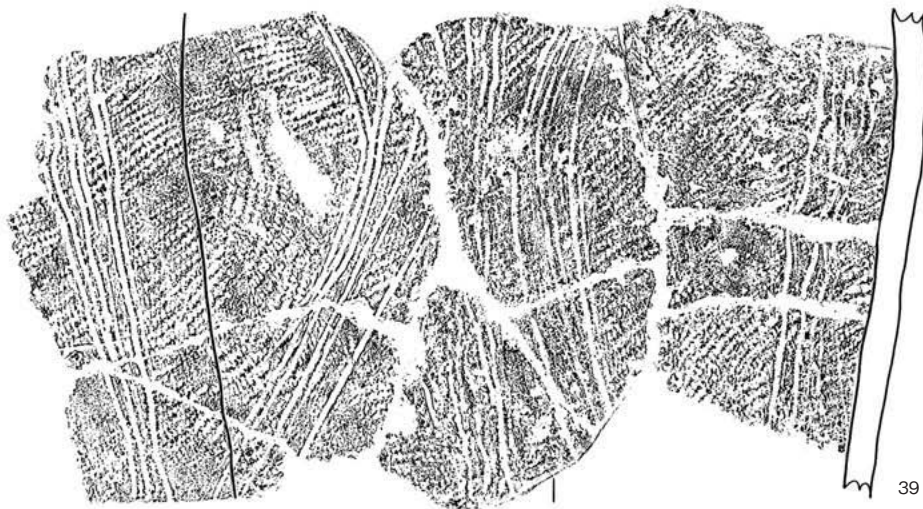
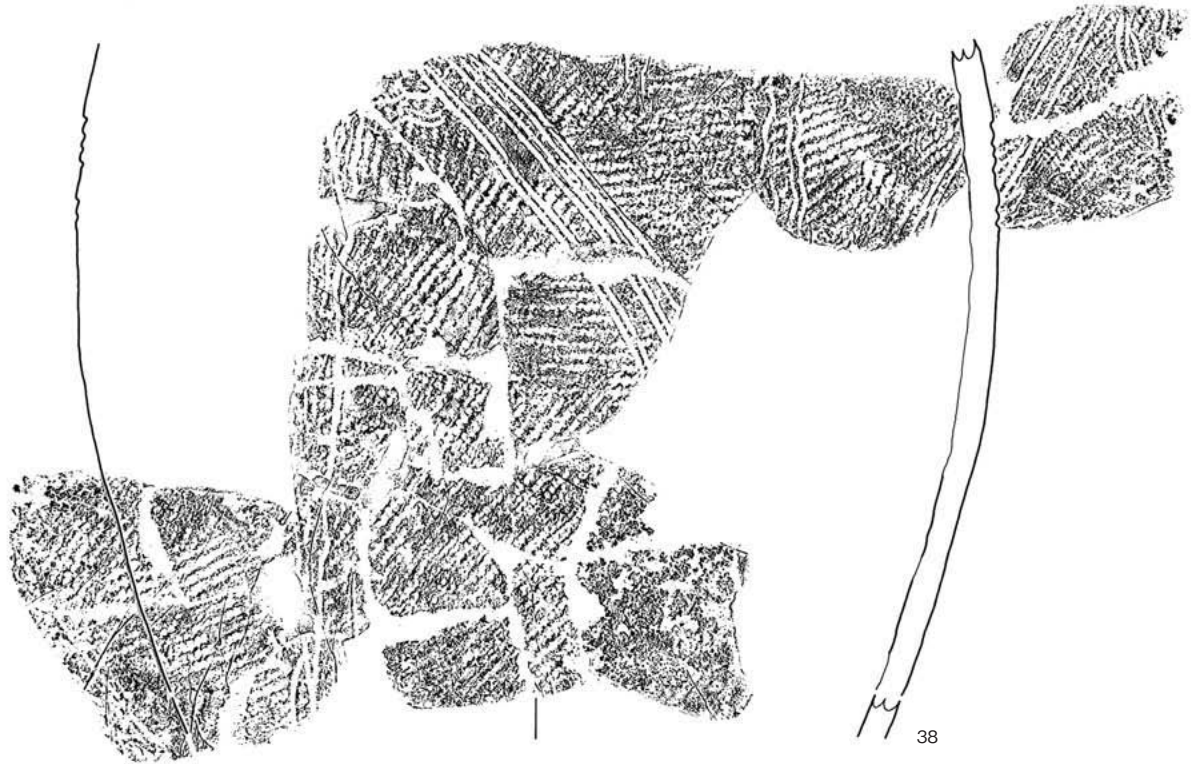
第 88 図 土器（縄文時代 4）



第 89 図 土器 (縄文時代 5)

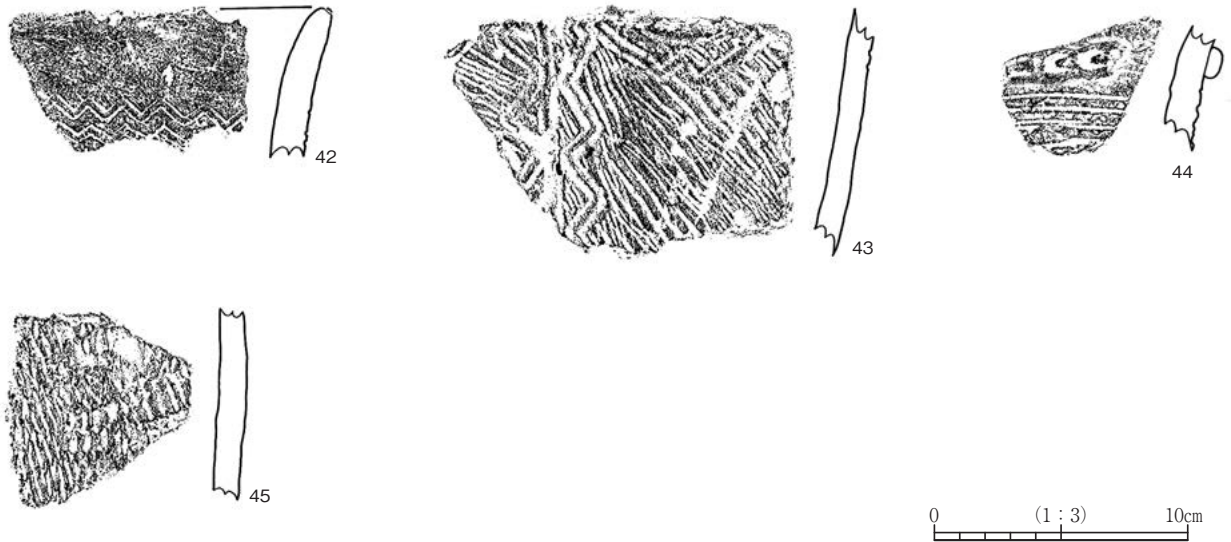


第90図 土器（縄文時代6）



0 (1:3) 10cm

第91図 土器（縄文時代7）

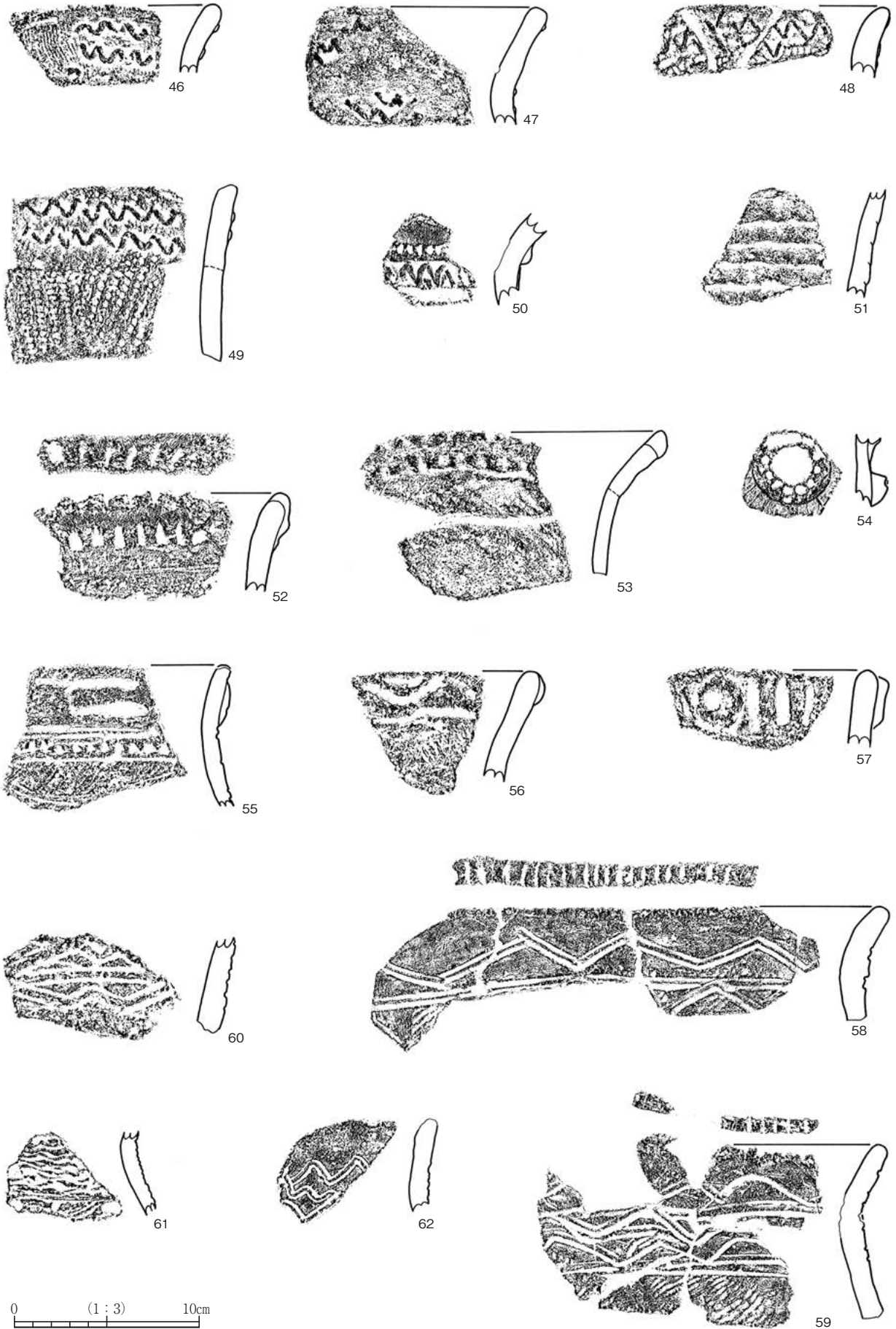


第92図 土器（縄文時代8）

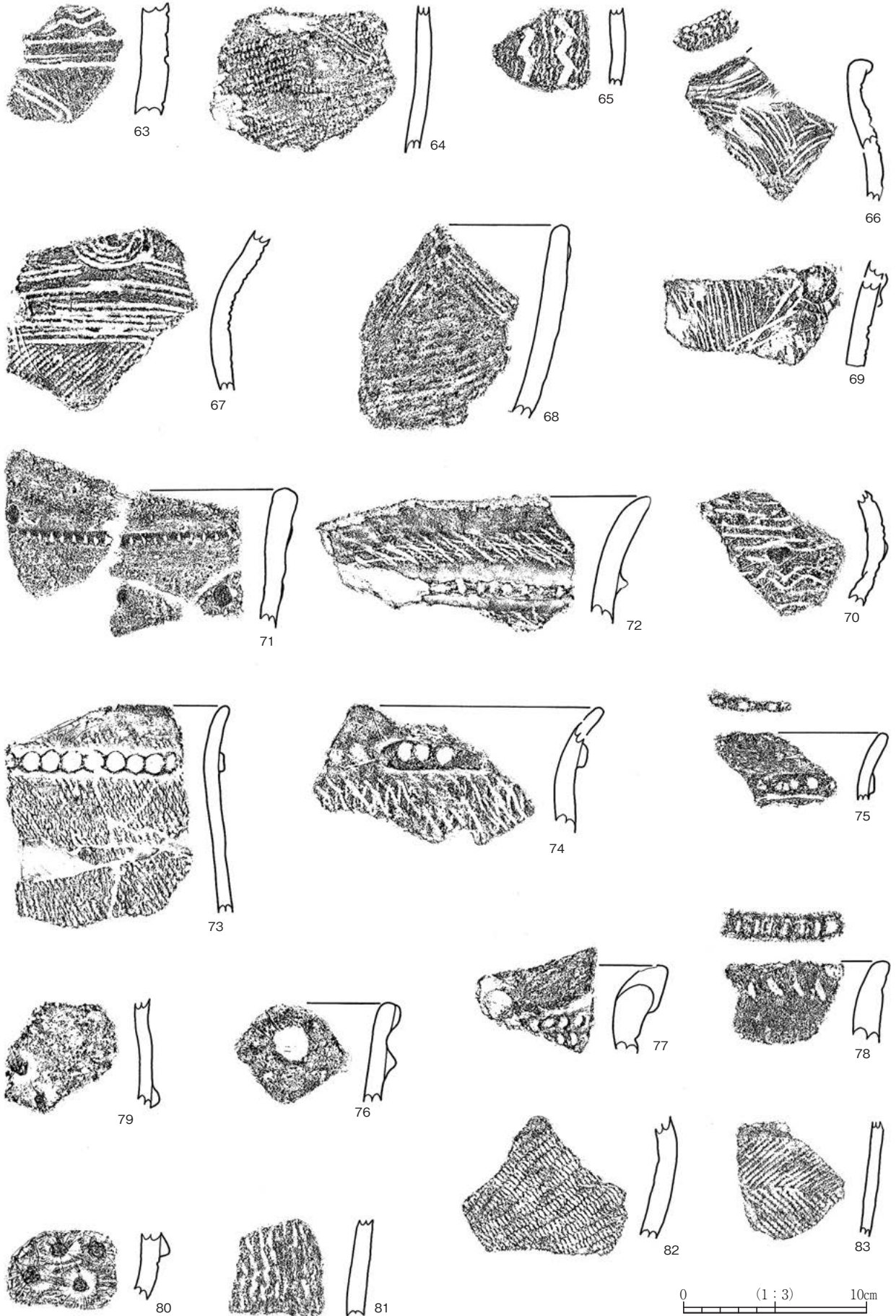
が施されている。164は口縁部の区画に鋸歯状の粘土紐が貼り付けられており、大木4式～大木5式に相当するものと考えられる。165～174は不明遺構から出土したものである。165は鋸歯状の細かい粘土紐が貼り付けられており、大木4式～大木5式に相当するものと考えられる。166～170・174は半截竹管による沈線文を主体とする。重層するもの（166・167）、波状を呈するもの（168）、渦巻き状を呈するもの（174）等多様な沈線文が施されている。大木6式に相当するものと考えられる。173は口縁部～頸部に細い粘土紐を用いて、文様を施している。大木5式に相当するものと考えられる。

古代以降の遺構出土遺物（116～122・124～156・158～162） 116～121は中世の掘立柱建物跡から出土したもので、概ね大木6式に相当する。118と119は同一個体のもので、円筒形を呈する鉢である。地文のみであるため、詳細な型式を判断できなかったが、同時期の資料と考えられる。122・124は中世の土坑から出土したものである。124は半截竹管による鋸歯状の沈線が施されている。大木5b式～大木6式に相当するものである。125～156・158～162は中世の堀跡・溝跡から出土したもので、SD28からの出土量が圧倒的に多い。126～128は鋸歯状の裝飾体が口縁部を巡っており、大木5b式に相当するものである。129～132は口唇部が肥厚するものである。沈線による文様を施すものが多い。131・132には円形の押圧がなされている。133～135は太い粘土紐貼付が施されるものである。137～148は沈線による文様が施されている。137・140・143の体部・144の体部等では鋸歯状、145・146・148等は平行もしくは波状の沈線が半截竹管によって施文されている。概ね大木6式に相当するものと考えられる。150は頸部には2条の平行する刺突列、体部には山形の刺突列を施文している。153～156は縄文のみのものである。158は157と同一個体のもので、鋸歯状の太い沈線文が施されている。

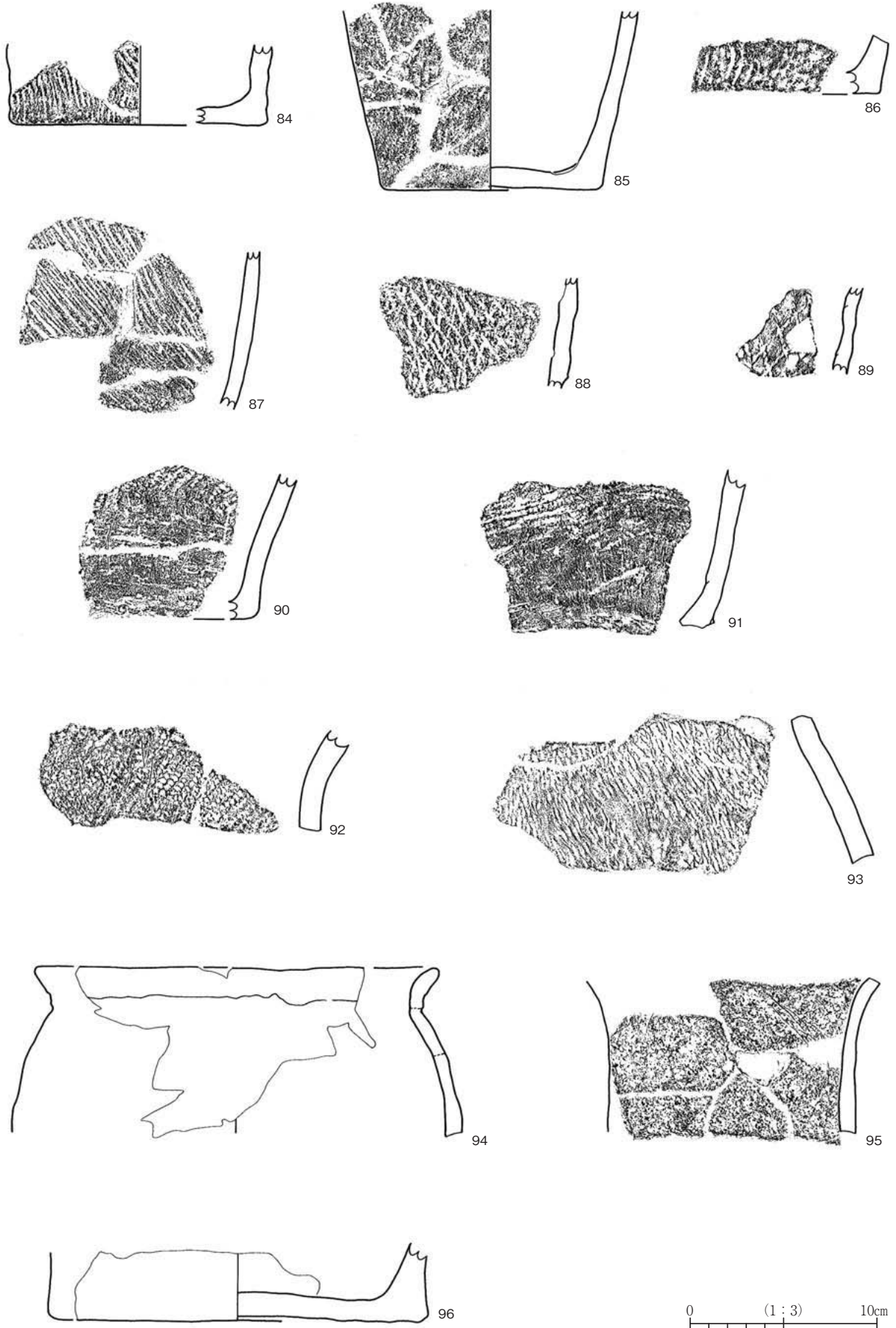
遺構外出土遺物（175～189） 上記以外から出土したものを一括した。175・176・183・185・188・189は沈線文が施されている。177は口縁部に太い短沈線、竹管による刺突、頸部に重層する波状沈線が施文されている。178は重層する刺突列が施されている。179・182・186・187は地文のみのものである。184は口唇にM字状の鋸歯状裝飾体が施されている。以上、これらの遺物は、概ね大木5式から大木6式に相当するものと考えられる。



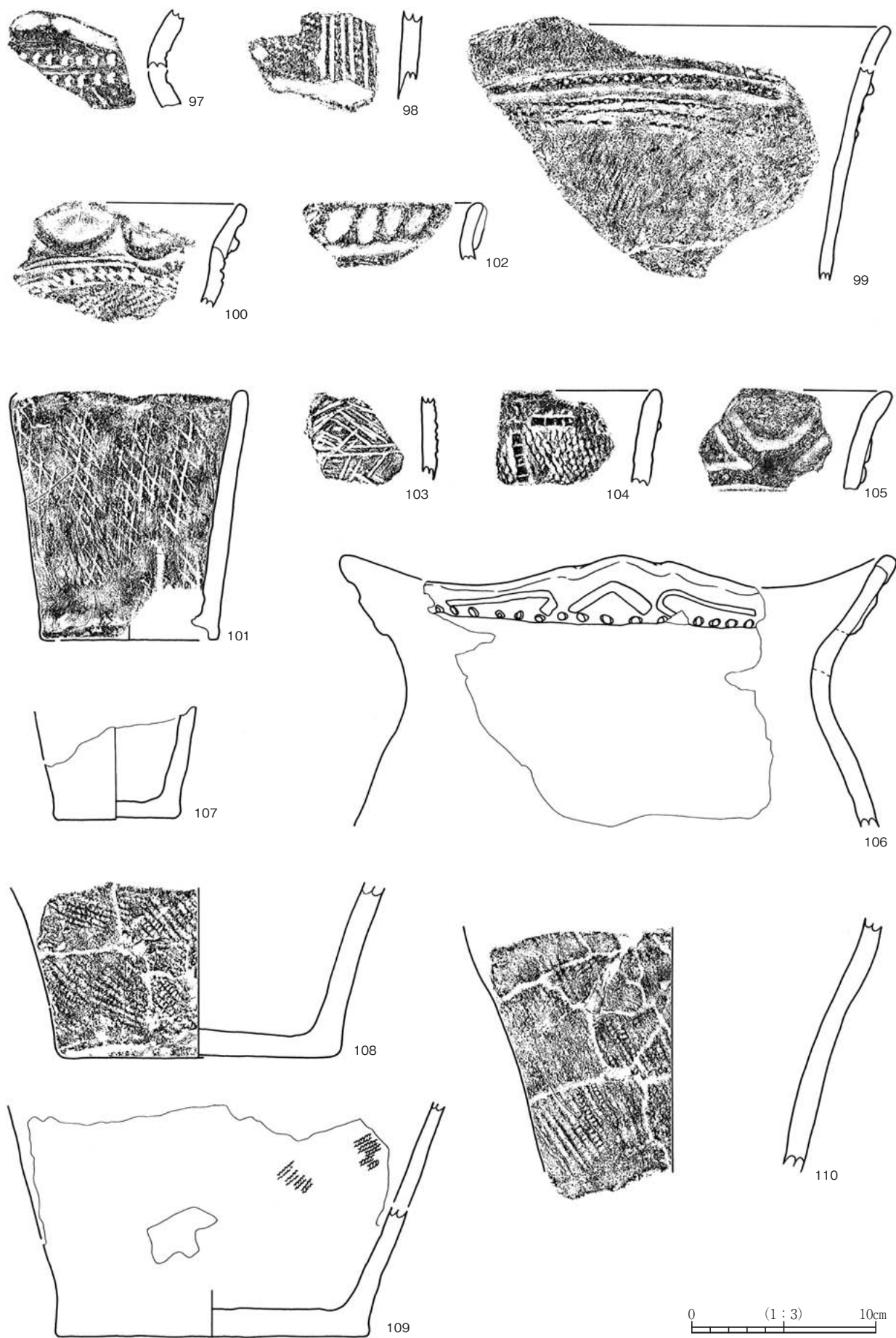
第93図 土器（縄文時代9）



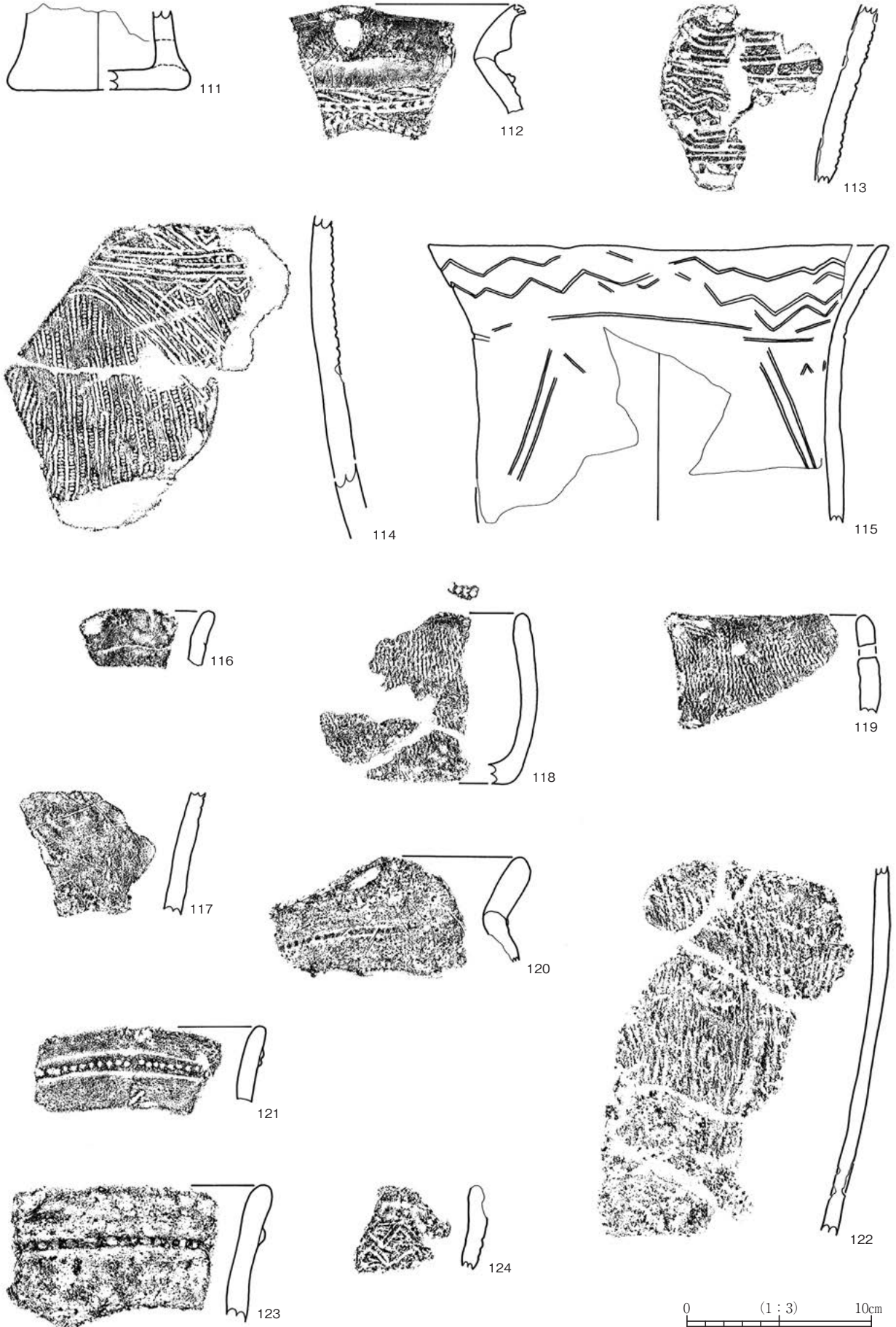
第94図 土器（縄文時代10）



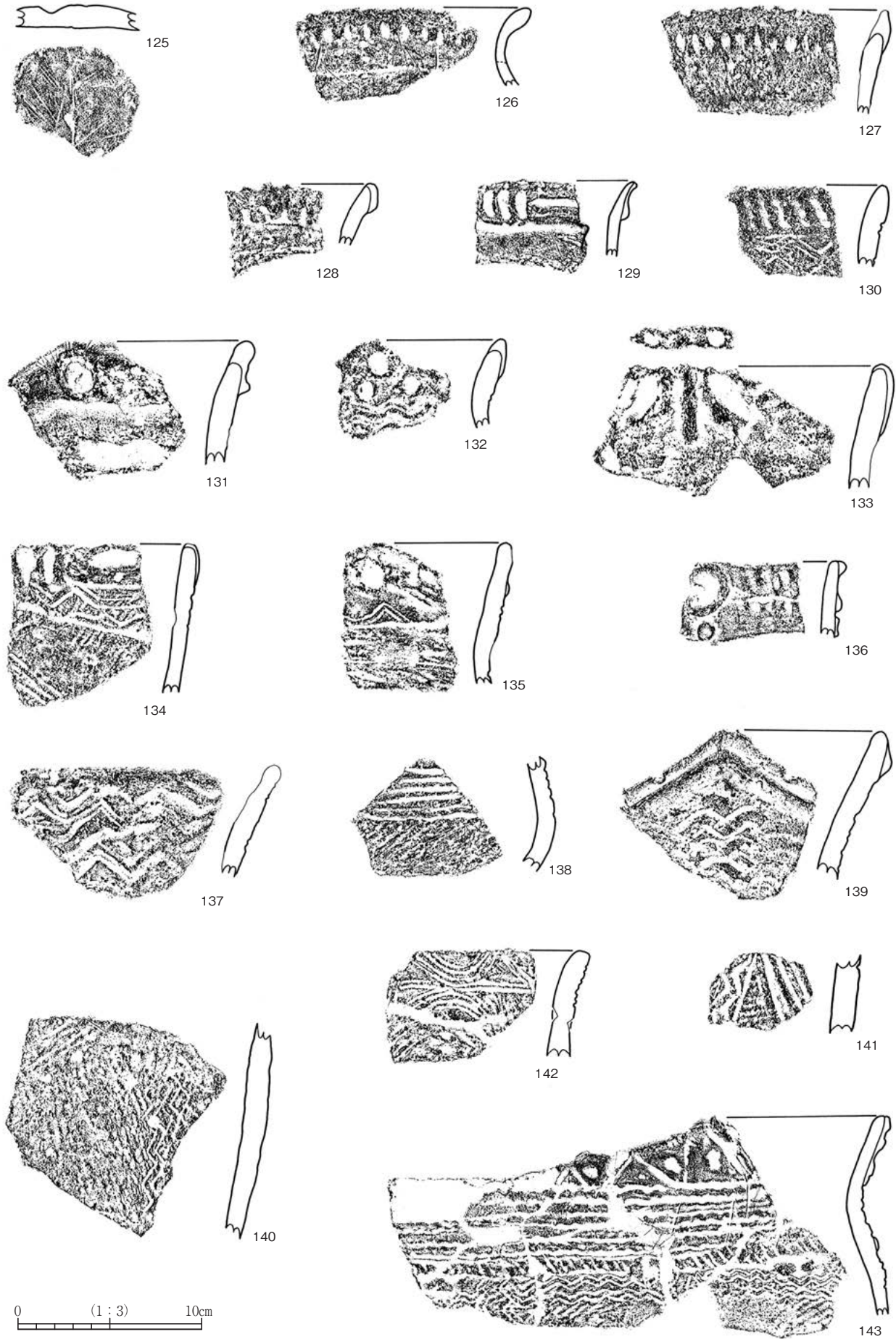
第95図 土器（縄文時代 11）



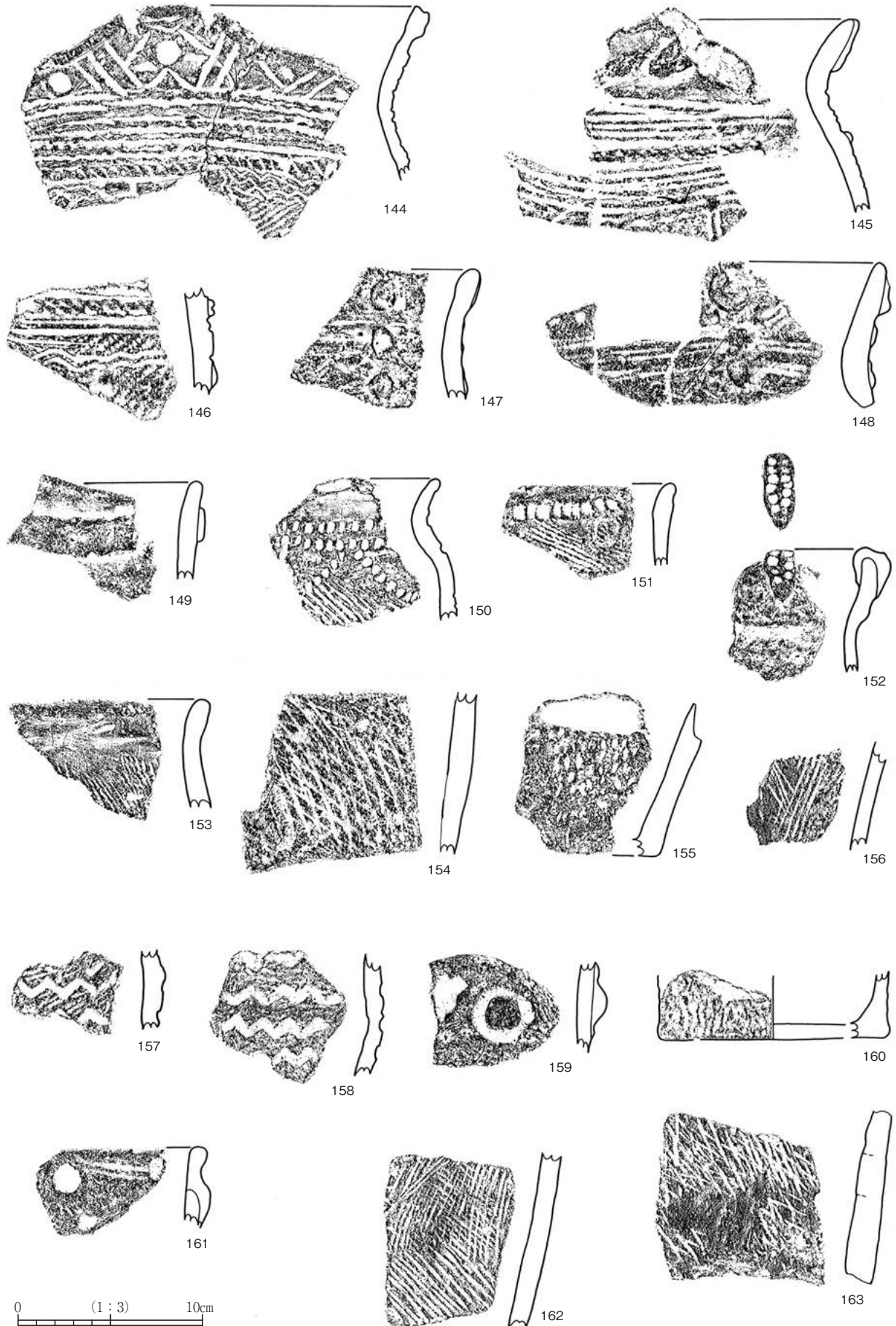
第96図 土器（縄文時代12）



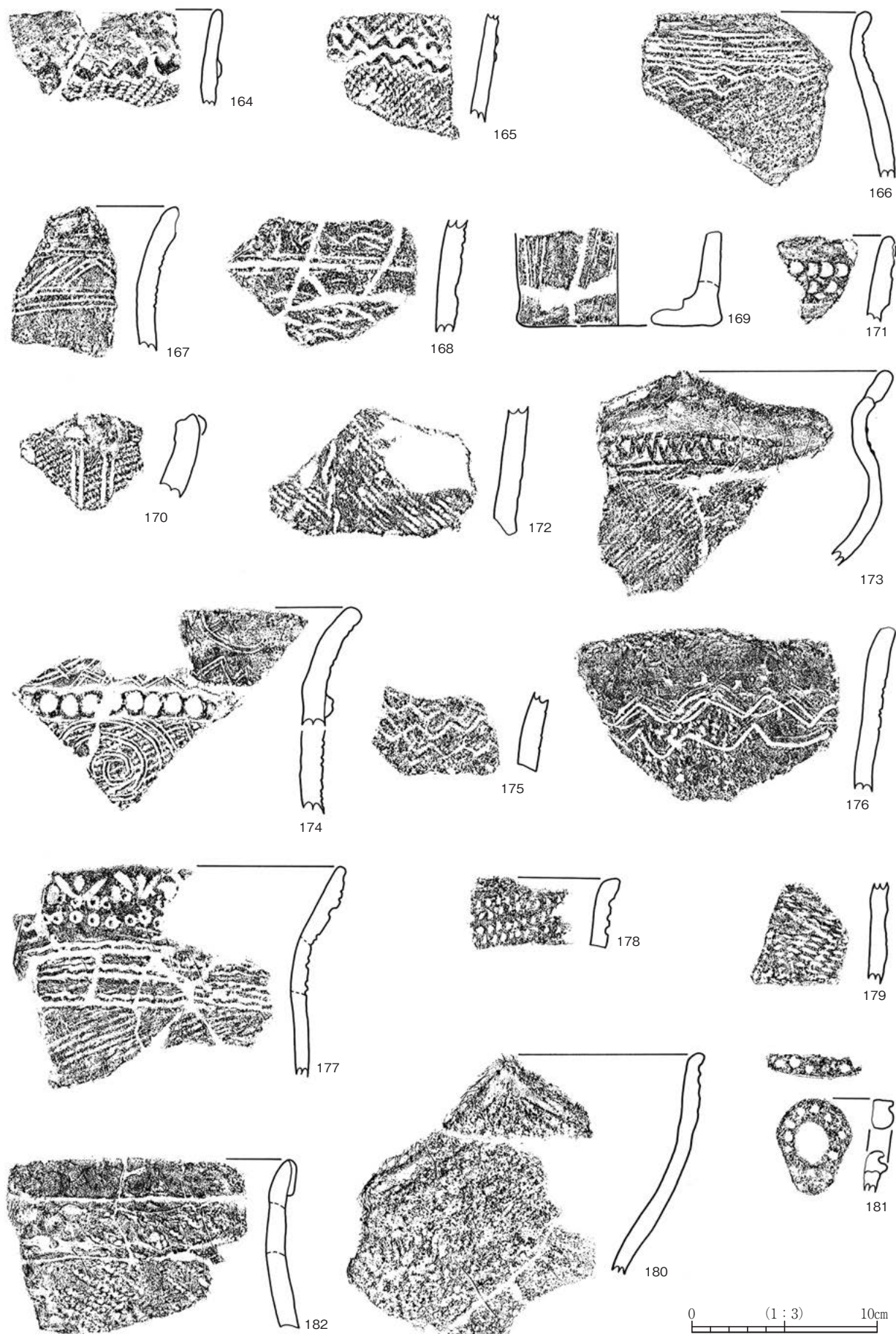
第97図 土器（縄文時代13）



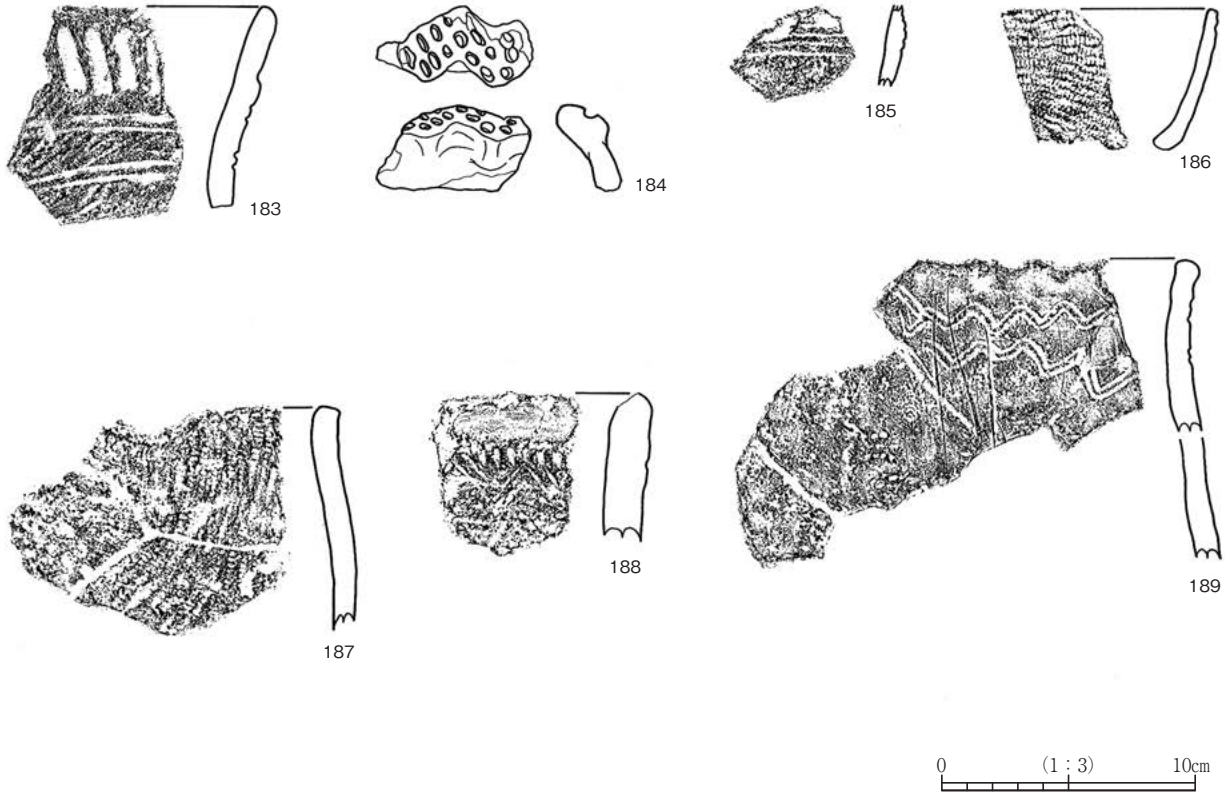
第98図 土器（縄文時代14）



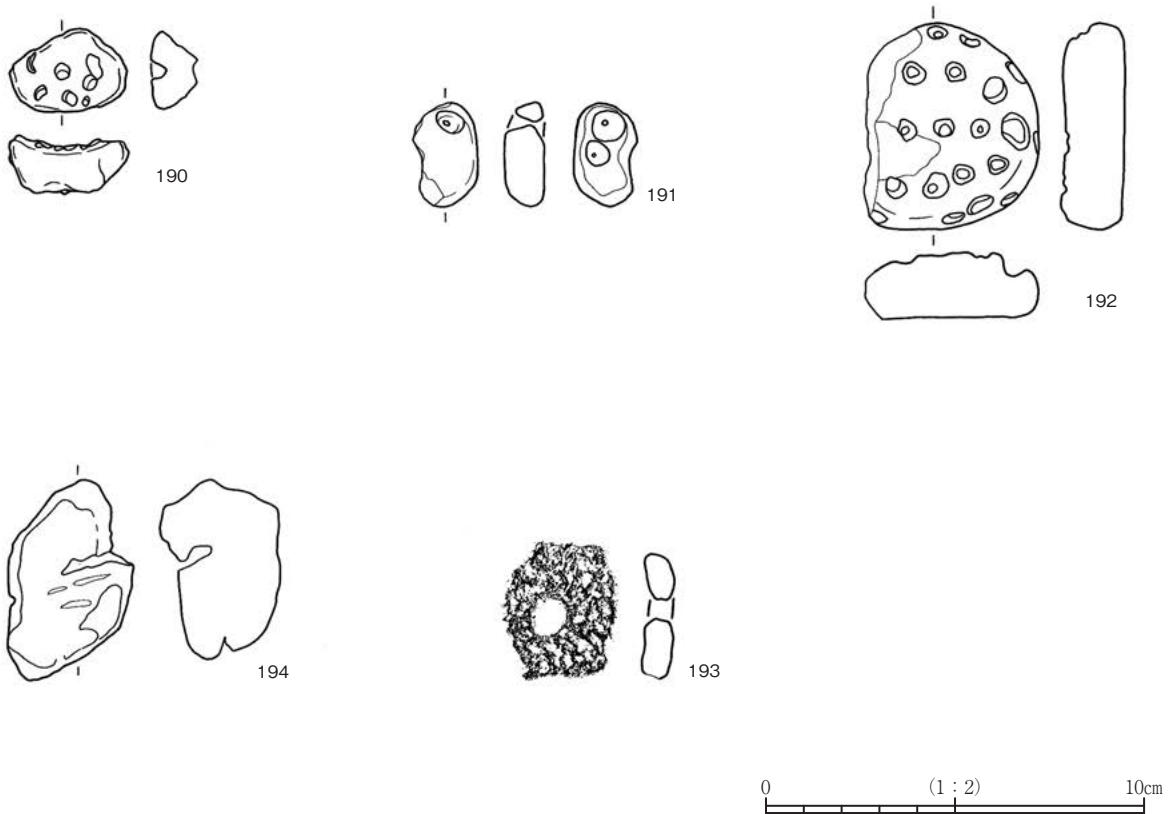
第99図 土器（縄文時代15）



第100図 土器（縄文時代16）



第101図 土器（縄文時代17）



第102図 土製品・粘土塊

(2) 土製品・粘土塊 (第102図、写真図版79)

190はSI02から出土した不明土製品である。上面に刺突が施されている。191・192はSD35から出土したものである。191の一端には両面から貫通孔が穿たれている。192は片面に竹管による刺突が施されている。193はSK53から出土した円盤状土製品である。単節縄文が施文されている。194はP182から出土した粘土塊である。190～193は縄文時代、194は時代不明のものである。

(3) 石器 (縄文時代) (第103～148図、写真図版80～97)

石鏃 (195～261・537) 195～199はI類の石鏃である。195～198は両面とも入念な二次加工が施されている。199は本類では大形のもので、両面に素材剥片の剥離面を残置している。基部の二次加工が他の部位と比較すると粗雑でやや丸みを帯びている。200・201はII類の石鏃である。2点とも二次加工は縁辺部中心に行われ、両面の中央部に素材剥片の剥離面を残置している。202～225はIII類の石鏃である。欠損しているものも多いため、詳細な分離は難しいが、明らかにIIIb類となるのは214・216・218の3点である。211・212・214・215・217・220・225は両面とも入念な二次加工が施されている。219は両面とも縁辺部のみに二次加工が施されており、広範囲に素材剥片の剥離面が残置している。その他についても範囲の広さに差があるものの、片面もしくは両面に素材剥片の剥離面が残置している。素材剥片の剥離面を観察すると、横長剥片を素材とする傾向が強い。226～251・537はV類の石鏃である。226・227がa類のもので、器幅に対して器長が長い。226は両面に素材剥片の剥離面が残置するが、細かな二次加工が施されている。一方、227の二次加工は縁辺部が中心で、両面の広範囲に素材剥片の剥離面が残置している。228～246はb類のものである。素材剥片の剥離面が残置しないものは231・233・238・241のわずか4点である。228や229などの片面には広範囲にわたって素材剥片の剥離面が残置している。本類は多様なものを含んでおり、基部の形状だけでも、228のように基部の挟りが鋭角で、縁辺が直線的であるため、基部全体としてはW字状を呈するもの、229・231のように、脚部間の幅が広く、挟りが鈍角なもの、237のように基部の挟りが非常に深いもの、等がある。また、231や237のように側縁が直線的なものや、240のように変化点を持ち、角ができるもの、241のように挟れ気味になるもの、等があり、更なる細分が可能である。239の両側縁上半に長軸方向の擦痕が観察される。247はc類のものである。両面とも入念な二次加工が施されている。248～250はd類のものである。3点と少ないが、素材剥片の剥離面を残置するものは見られない。器長が長いものが多い。537は凝灰岩製のもので、全面が風化により、剥離面の観察が困難となっている。252～254はVI類の石鏃である。252・254は両面とも入念な二次加工が施されている。253も細かな二次加工が施されているが、両面の中央部には素材剥片の剥離面が残置している。255～258はVII類の石鏃である。前述のものと比較すると小形のものが多い。256には素材剥片の剥離面が残置しているが、相対的に調整は丁寧である。259～261はVIII類の石鏃である。3点とも裏面の広範囲に素材剥片の剥離面を残置している。261は裏面の基部の一部に欠損と考えられる剥離面とその面への二次加工が観察でき、欠損後の再調整が行われたものと推察される。

尖頭器 (263～265) 263は細身の尖頭器の基部と考えられる。裏面の調整は縁辺部に細部調整を施すのみである。264は両面とも調整が粗雑である。未製品の可能性が考えられる。265は両面とも入念な二次加工が施されている。尖端部は欠損している。

スクレイパー類 (267～295) 267・269・271・272・276・277・279・282・284・288～290はI類のものである。267はやや粗い調整で素材剥片の一部を挟り、刃部を作出している。実測図右側縁下部

には使用に伴うと考えられる微細な剥離痕が観察でき、この部分も刃部として機能していた可能性が高い。269は横長剥片を素材とし、素材剥片の左側縁に刃部を作出している。刃部と接する二側縁の裏面側にも調整が施されている。全体の形状を整える調整と考えられる。271は素材剥片の右側縁上部を大きく抉るように調整を施し、刃部を作出している。272は縦長剥片を素材とする。素材剥片左側縁のほぼ全面に調整を施し、刃部を作出している。腹面側には微細な剥離痕が観察される。276・277は横長剥片を素材とする。276は素材剥片端部に細かな調整を施して刃部を作出している。277は素材剥片端部のほぼ全縁に入念な調整を施して刃部を作出している。279は折居産黒曜石製で、小形の剥片を素材とする。素材剥片左側縁下半に連続的な調整を施して刃部を作出している。282は台形状の剥片を素材としたもので、素材剥片左側縁に連続的な調整を施して刃部としている。284は素材剥片右側縁下部にやや粗雑な調整で刃部を作出している。288は縦長基調の剥片を素材とし、素材剥片右側縁に細かな調整を施して刃部を作出している。刃部と相対する縁辺にも微細な剥離痕が観察される。289は素材剥片左側縁に刃部を作出している。刃部には微細な剥離痕も観察される。290は縦長剥片を素材とする。素材剥片右側縁に連続的な調整が施されている。腹面下端には槌状の細長い剥離面が観察でき、その周辺の側縁の稜は摩滅している。268・291～295はⅡ類のもので、全点縦長剥片を素材とする。268は表裏から行うことにより、二側縁のほぼ全体に調整が施されている。292は素材剥片左側縁には粗い調整で、素材剥片右側縁下部には細かな調整で刃部を作出している。二辺とも微細な剥離痕が観察される。293の素材剥片右側縁はほぼ全縁に調整が施されるが、素材剥片左側縁は断続的な調整が施されている。また、バルブの除去も行われている。294は確認できる部分では全縁に規則的な調整を施し、刃部を作出している。295は両側縁全縁に調整を施し、刃部を作出している。270・273・274・280はⅢ類のものである。270は縦長基調の剥片を素材とする。刃部には使用に伴うと考えられる微細な剥離痕が観察される。273は縦長基調の剥片を素材とし、バルブ周辺を除去するように調整を施し、素材剥片の打面側に刃部を作出している。典型的な搔器である。274は横長剥片を素材とし、末端の縁辺のほぼ全部に細かな調整を施して、刃部を作出している。280は粗い調整で尖状の刃部を作出している。刃部には微細な剥離痕が観察できる。275・278・281・283・285～287はⅣ類のものである。275は横長剥片を素材とし、素材剥片の右側縁と端部に約2cm幅の規則的な調整で刃部を作出している。278はほぼ全周に調整が施されている。刃部には微細な剥離痕も観察できる。281は寸詰まりの剥片を素材とする。打面以外の縁辺に調整が施され、刃部が作出されている。283は縦長基調の剥片を素材とし、素材剥片端部及び右側縁の一部に刃部を作出している。刃部の腹面側には、使用に伴うと考えられる剥離痕が観察される。285は素材剥片の打面から右側縁の一部及び左側縁を大きく切り取るように調整を施し、刃部を作出している。286・287は縦長基調の剥片を素材とする。286は粗雑であるが、ほぼ全周に調整を施している。287は主に素材剥片の両側縁に調整を施して、刃部を作出している。

抉入石器 (296・297) 296は素材剥片右側縁下部に数回の調整で刃部を作出している。297は横長剥片を素材とし、素材剥片左側縁腹面側に細かな調整を施して刃部を作出している。

篋形石器 (298～307) 298～300はⅠ類のものである。298は両面とも入念な調整が施されている。299・300は小形のものである。299の調整は縁辺部に止まり、両面には広範囲に素材剥片の剥離面が残置している。300は素材剥片の剥離面は確認できないが、調整が粗く、粗雑な印象を受ける。301～305はⅡ類のものである。301は大形のもので、側縁の調整が顕著である。刃部には使用に伴うと考えられる刃こぼれ状の微細な剥離痕が観察される。302は裏面の一部に素材剥片の剥離面が残存するが、両面との入念な調整が施されている。左側縁は稜が摩滅している。303は全体的に調整が断

統的である。両面とも広範囲に素材剥片の剥離面が残置しており、未製品の可能性も考えられる。304は大形の横長剥片を素材とする。表面は入念な調整が施されるが、裏面は縁辺部の一部に調整が施されるのに止まる。305は滴状を呈する。刃部には使用に伴うと考えられる刃こぼれ状の微細な剥離痕が観察される。306・307は上記以外のものである。306は両面に素材剥片の剥離面が広く残置している。刃部の調整は部分的であるのに対して、基部の調整は入念に行われている。307は中間部に最大幅があるものである。素材剥片の剥離面が広範囲に残置しており、未製品の可能性が考えられる。

錐形石器 (308~319) 308・309はI類、310・311はII類、312~319はIII類の錐形石器である。308は裏面の一部に素材剥片の剥離面を残置しているが、全体的に入念な調整が施されている。309は不定形の剥片を素材とし、素材剥片左側縁下部に両面からの調整により錐部を作出している。310・311とも、両側面からの入念な調整が施されている。311の上部には摘まみ状のわずかな抉りが確認できる。312~317は両面とも縁辺部に調整が集中しており、広範囲に素材剥片の剥離面が残置している。錐部は両面からの調整により作出している。312の刃部の稜側縁には使用に伴うと考えられる微細な剥離痕が観察される。319は全体的に調整が粗く、未製品の可能性がある。

石匙 (320~339) 320~329はIa類の石匙である。320~324は細身のもので、摘まみ部以外の調整が表面のみのものが多い。324は小形のもので、下半部を大きく欠損している。325~327は幅広なもので、両面に素材剥片の剥離面を広く残置している。325は摘まみ部と右側縁に調整が集中し、その他の縁辺には微細な剥離痕が観察される。326は小形のもので、325と同様、摘まみ部と右側縁に調整が集中している。327は横長剥片を素材とし、摘まみ部以外は、素材剥片背面の縁辺のみに調整を施している。非常に粗雑で未製品の可能性が想定される。328は寸詰まりのもので、調整は両面とも縁辺部のみである。329は矩形基調のもので、素材剥片背面の縁辺と摘まみ部周辺の腹面に調整が施される。両面の広範囲に素材剥片の剥離面が残置している。330~332はIb類の石匙である。330は摘まみ部が右側縁側に斜めに作出されている。調整は両面の縁辺部に施される。331・332は摘まみ部が左側縁側に斜めに作出されている。表面のほぼ全周と裏面の摘まみ部周辺に調整が施される。331の左側縁下部の稜は摩耗している。333~337はIIa類の石匙である。調整は基本的に縁辺部のみである。334は両面からの調整により摘まみ部の作出は丁寧に行われているが、刃部の調整は素材剥片の極縁辺部に止まっている。礫面も広範囲に残置しており、未製品の可能性が高い。336は全体的に調整が粗く、未製品の可能性が非常に高い。338・339はIIb類の石匙である。2点とも右側面側に摘まみ部が斜めに作出されている。表面の調整は入念に行われているが、裏面の調整は摘まみ部周辺に限られている。

楔形石器 (340~347) 340~346は小形の楔形石器である。相対する縁辺に特徴的な微細な剥離痕が観察される。347は大形のものである。直交する方向にも相対する剥離面が観察され、打撃方向を転移しながら利用している。

RF (266・348~393) 266・348~358・385~387・389~392はI類、359~380・388・393はII類、381~384はIII類のRFである。266は一側縁に連続する細かな調整が施されており、スクレイパーの一部と考えられるが、両端とも欠損している断片的な資料であるため本類に含めた。348は上半を欠損している。素材剥片右側縁に両面からの調整が施されている。349は実測図右側縁に連続する調整が施されている。350は横長剥片を素材とし、素材剥片背面の打面側に連続する調整を施している。また、腹面側はバルブを除去する調整を施している。調整の施されていない相対する縁辺には刃こぼれ状の微細な剥離痕が観察される。351は剥片剥離行程初期の縦長剥片を素材とする。素材剥片左側縁腹面側に調整を施している。352は縦長剥片を素材とし、素材剥片右側縁に調整を施している。

353 は寸詰まりの横長剥片を素材とし、打面側を切断している。素材剥片端部には細かな調整が断続的に施される。354 は縦長剥片を素材とし、素材剥片左側縁に細かな調整を施している。355 は実測図表面左側縁に調整が施されている。356 は小赤沢産の黒曜石製の RF である。一側縁に連続的な調整が施されている。357 は縦長基調の剥片を素材とし、素材剥片左側縁に連続的な調整が施され、上面観が鋸歯状を呈している。右側縁には微細な剥離痕が観察される。358 は縦長剥片を素材とする。素材剥片端部に連続する細かな調整が施されている。359 は上半部を大きく欠損している。主に背面側に断続的な調整が施されている。360 は上半を欠損している。残存する二側縁には連続する調整が施されているのが確認できる。361 の尖状を呈する端部には連続する微細な剥離痕が観察され、稜は摩耗している。362 は大きく欠損しており、全容は不明である。実測図表面の側縁には急斜度な調整が施されている。363 は縦長基調の剥片を素材とする。バルブを除去する調整が施され、両側縁には微細な剥離痕が観察される。364 は矩形の剥片を素材とする。素材剥片端部の一部と相対する縁辺にノッチ状の調整を施している。365 は両面の縁辺部に調整が施されている。367 は端部を切断し、切断面から素材剥片腹面へ部分的な調整を施している。368 は両面の縁辺に調整が施され、尖頭状の端部の作出が行われている。369 は横長剥片を素材とする。素材剥片端部背面側と素材剥片左側縁腹面側に調整が施されている。370 は素材剥片のバルブを除去する調整が素材剥片腹面側に施されている。371 は素材剥片背面の広範囲に自然面を残置しており、剥片剥離工程初期段階の横長剥片を素材としていることがわかる。素材剥片上辺にはバルブ周辺の厚みを減じるやや粗い調整を施し、素材剥片背面下辺には細かな調整が施されている。細部調整が施されている部分には使用に伴うと考えられる微細な剥離痕が顕著に観察される。372 は縦長剥片を素材とし、バルブを除去する調整が施されている。素材剥片左側縁の腹面側と右側縁の背面側に連続する調整が施されている。373 は横長剥片を素材とし、両面に不規則な調整が施されている。374 は矩形基調の剥片を素材とし、素材剥片の二辺に細かな調整を施している。375 は縦長剥片を素材とし、バルブを除去する調整を両側縁から施している。376 は寸詰まりの剥片を素材とし、両側縁に連続する調整を施している。377 は横長剥片を素材とし、素材剥片背面に調整を施している。378 は黒曜石製のもので、素材剥片背面に断続的な調整が施されている。379 は縦長剥片を素材とし、両側縁に細かな調整が連続して施されている。380 は両側縁に調整が施されるが、素材剥片左側縁は深い調整、右側縁は浅い調整と異なる調整を施している。381 の右側縁の一部が微細な調整により尖状となっている。稜の一部が摩滅しており、錐として使用された可能性が考えられる。382 は両面のほぼ全周に調整が施されているが、素材剥片上部の調整は、一定の厚さになるように、素材剥片のバルブの高まりを除去する調整である。図裏面下部には使用に伴うと考えられる微細な剥離痕が顕著に観察でき、素材剥片腹面の端部に連続する調整が刃部作出の調整と考えられる。384 は縦長基調の剥片を素材とする。素材剥片左側縁に連続する調整が施されている。また、打面側も急斜度な調整が施されている。385 は矩形の剥片を素材とし、素材剥片の打面を切断するように調整を施している。実測図上辺には刃こぼれ状の微細な剥離痕が観察される。388 は横長剥片を素材とする。素材剥片端部及び左側縁に細かな調整が施されている。

異形石器 (262) 上部が摂理で欠損しているため、詳細な形状は不明であるが、平面形が二等辺三角形を呈する石鏃の尖端部が広がり、上部の一部に摘まみ部状の抉りを有する石器である。上部の抉り部は両面からの二次加工によって形成されている。両面とも入念な二次加工が施されている。

剥片 (394~436) 全て黒曜石製の剥片で、産地同定の試料としたものである。礫面が残存する確率が高く、期待を持って接合を試みたが、接合するものは皆無である。掌に収まるサイズのものが多いと考えられる。

破片 (437・438) 2点とも黒曜石製の破片で、産地同定の試料としたものである。

石核 (439・440) 439は掌に収まるサイズの河原石を、440は掌大の河原石を素材とし、作業面を頻繁に転移しながら小形の不定形剥片を剥離している。

接合資料 (441) 387と388が接合したものである。背面及び打面に礫面が残存しており、剥片剥離行程初期段階の剥片が接合したものと考えられる。打面は同一の礫面で、調整は全く行われていない。

打製石斧 (442～452) 442～444は片面に素材礫の礫面を残置している。444の基部は裏面も粗い調整を施している。445は短冊形を呈する。両面の中央部には素材礫の礫面が残置している。446は片面に素材礫の礫面をそのまま残置している。礫面側の側縁及び中央部には器長と直交する線条痕が、基部側は斜行する線条痕が観察される。447は刃部作出の調整は剥離調整が主であるため、打製石斧としたが、両側縁の広範囲に敲打による調整痕が、表裏面の中央部に研磨痕が観察できるため、磨製石斧の未製品の可能性が高い。448・449は短冊形を呈するもので、片面に素材礫の礫面を広く残置している。450は縦長剥片素材の石斧である。全体的に調整は粗い。451は撥形を呈する打製石斧である。両面とも粗い調整が施されている。452は短冊形を呈するものである。調整は縁辺部に施され、両面との広範囲に素材礫の礫面が残置している。実測図右側縁中央の稜は潰れている。

磨製石斧 (453～460) 453は頁岩製の小形の磨製石斧である。454は頁岩製の大型の磨製石斧で基部側を大きく欠損している。455は頁岩製の細身の磨製石斧である。研磨痕が顕著に観察される。刃部には剥離痕が観察される。456は頁岩製の短冊形の磨製石斧である。刃部右側縁側が欠損後のリダクションが行われているが粗い。457は頁岩製の細身で小形の磨製石斧である。非常に脆く刃部周辺しか残存していない。458は頁岩製の細身の磨製石斧である。刃部周辺には研磨痕が顕著に観察される。459は頁岩製の磨製石斧で、刃部を欠損している。剥離調整や敲打調整が残っており、未製品の可能性が考えられる。460は頁岩製の磨製石斧で、非常に厚みがないものである。刃部及び側面に研磨痕が顕著に観察される。

礫器 (461) ホルンフェルス製の礫器である。片面は礫面を除去している。刃部は両面からの調整が施されている。

磨石 (462～507) 462～485はI類の磨石である。462～471は片面のみに使用面が観察される。462・463・466～470は楕円形基調、464は円形基調である。470の裏面には黒色の付着物が周縁の約3/4に観察される。471の使用面は表面の中央部の限られた範囲に観察される。472～480は表裏の平坦な広い面に使用面が観察される。472・476～478・480は円形基調、473～475は楕円形基調、479は長楕円形基調である。474の使用面は両面とも部分的である。475の使用面は器長に対して右下がり、幅3～4cmの範囲の帯状に観察される。476の表面は使用面の範囲を覆うように黒色の付着物が観察される。また、裏面の使用面は部分的である。481は表裏面及び右側面の一部に使用面が観察される。円形基調である。482は不定形の河原石を利用したもので、表面及び平坦な2面の計3面に使用面が観察される。483は楕円形基調で、表面及び裏面の右側縁側上部の一部に使用面が観察される。484は楕円形基調で、表面、下面、側枝面から裏面の一部に使用面が観察される。485は楕円形基調で、表面及び下面に使用面が観察される。486～488はII類の磨石である。486は楕円形基調で、表面・左側面・上面に使用面、下面に敲打に伴う剥離痕が観察される。487は三角形基調のもので、上面に使用面、下面に敲打に伴う剥離痕が観察される。488はブロック状の河原石を利用したもので、表裏2面に使用面、右側面下半に敲打に伴う剥離痕が観察される。489～493はIII類の磨石である。489は円形基調で、表面の一部に使用面、表裏面の中央部に凹部が観察される。表面の凹部は回転運動によるもので、磨面より新しい。490は楕円形基調で、表面に使用面と凹部が観察される。凹部が

新しい。491・492は不定形の河原石を利用したもので、491は表裏2面に使用面と凹部が観察される。両面とも磨面が新しい。492は側面の4箇所を使用面、表面に凹部が観察される。側面の使用面は部分的である。493は卵形の河原石を利用したもので、片面に使用面、相對する面に凹部が観察される。494～507はIV類の磨石である。494は一側面に細い使用面とともに使用に伴うと考えられる剥離痕が観察される。また、裏面の一部に敲打痕も観察される。495は一側面と接する広い2面に使用面が観察される。496は一側面に本遺跡では中間的な幅(1.5～2cm)の使用面が観察される。497は一側面に使用面が観察され、それ以外の縁辺は剥離による調整が施されている。使用面に接する両面の一部にも磨面が観察できる。498は断面形が三角形を呈する河原石を利用し、3面ある細い平坦面のうち、2面を使用面にしている。それぞれの使用面で剥離痕も観察される。499は一側面と表裏2面に使用面、表面に凹部が観察される。側面の使用面は中央部のみである。500は一側面と接する2面に使用面が観察される。表面には磨面より新しい凹部が観察される。501は一側面と表面に使用面が観察される。502～504は2.5cm以上の幅広い使用面が観察されるものである。503は側面の使用面が2箇所認められる。また、接する広い2面にも使用面が観察される。505はスタンプ形を呈するもので、一側面と下面に使用面が観察される。506は大部分を欠損しているため、側面の使用面を確認できなかったが、形状や調整痕と考えられる剥離痕が観察できることから本類に含めた。507は側面への剥離調整が観察され、その細い平坦面が使用面となっている。また、相對する面にも帯状の磨面が観察できる。上端にも剥離痕が観察でき、その稜は潰れており、ハンマーとしての使用も想定される。

凹石 (508～510) 3点とも掌に収まるサイズの楕円形の河原石を利用したもので、508・510は片面の中央部に、509は両面に凹部が観察される。509の凹部は両面とも回転運動によるものである。

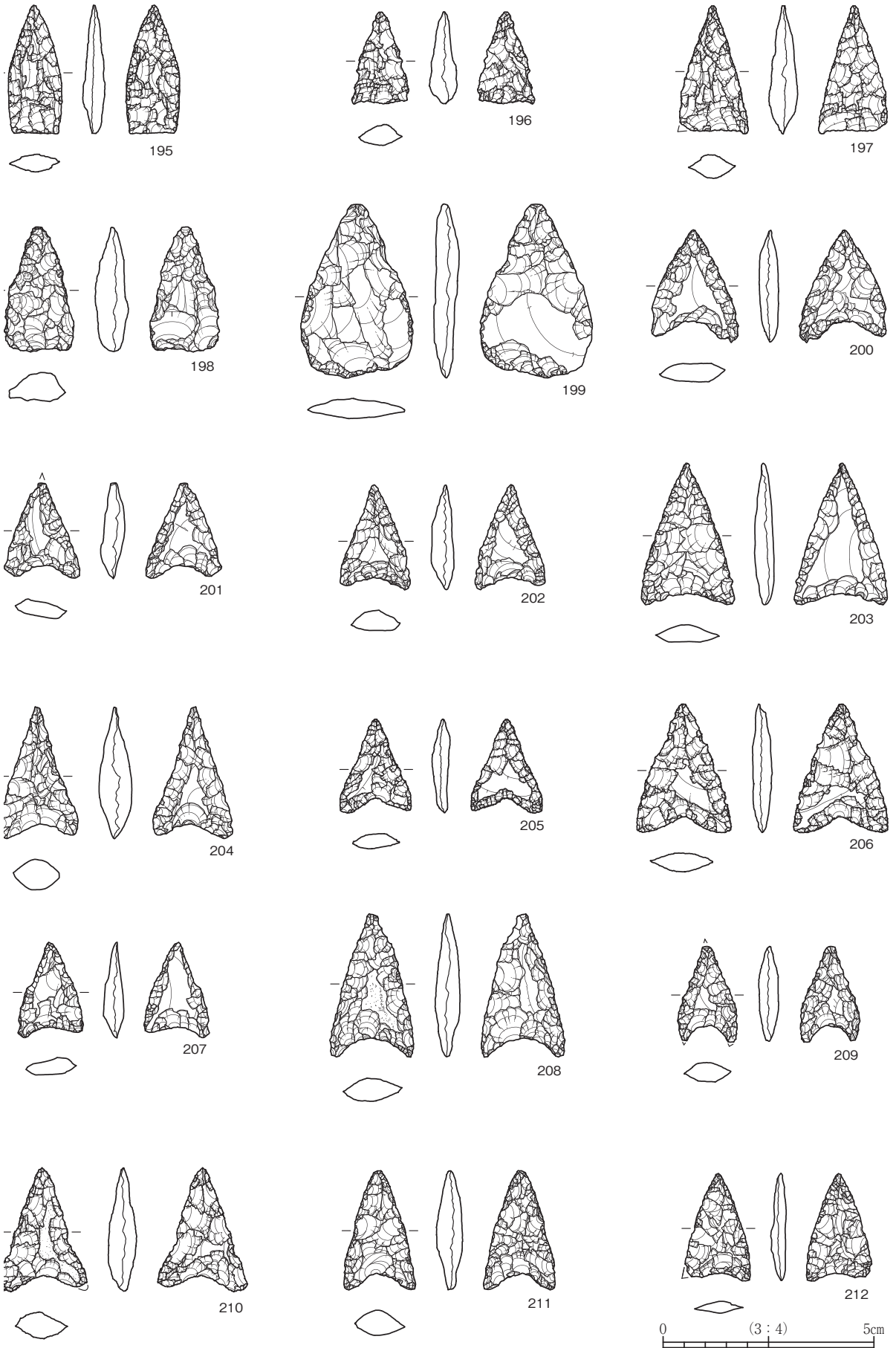
敲石 (511～516) 511は楕円形の河原石を利用したもので、一端に敲打痕と剥離痕が観察される。512～514・516は棒状の河原石を利用したもので、一端に敲打痕とともに剥離痕が観察される。517は断面形が四角形を呈する河原石を利用したもので、両端に剥離痕が観察される。

石皿 (517～529) 517は扁平な礫を利用したもので、使用面は表裏面である。緩い縁が確認できる。518は楕円形の礫を利用したもので、一面に使用面が観察される。使用面はくぼんでおり、有縁状になっている。縁部分にも使用面が観察される。裏面には凹部が認められる。519・520・526は扁平な礫を利用したもので、519・526は片面、520は両面に使用面が観察される。521は大形の楕円形の礫を利用したもので、片面に使用面が観察される。522は大形の不定形の礫を利用したもので、片面に使用面が観察される。523はブロック状の礫を利用したもので、広い片面と幅の狭い側面の一部に使用面が観察される。524はブロック状の礫を利用したもので、片面に使用面が観察される。一端には剥離痕が観察される。525は大形の扁平な礫を利用したもので、片面に使用面が観察される。527・528は厚手の礫を利用したもので、表裏2面に使用面が観察される。529は扁平な礫を利用したもので、表裏2面のほぼ全面を使用面としている。実測図右側面には切断と考えられる剥離面が認められ、その剥離面を切る器長方向の線条痕も観察される。

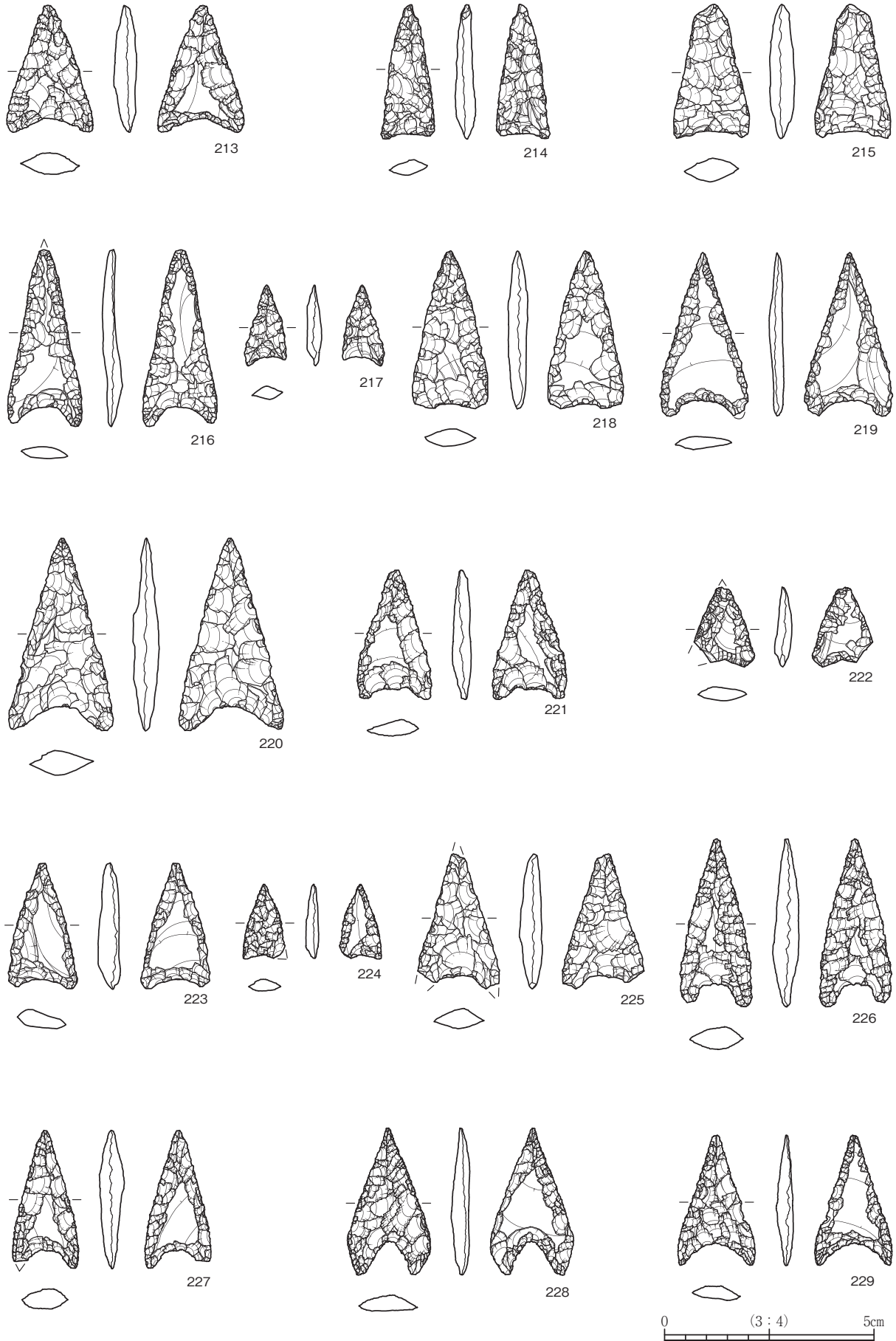
台石 (530) 扁平な礫を利用したデイスait製の台石である。使用面は2面である。

砥石 (531～534) 531は平坦な礫を利用したホルンフェルス製の砥石である。使用面は片面である。532は扁平な小形の礫を利用した砂岩製の砥石である。両面とも使用による平滑な面とともに、溝状の使用痕が観察される。533は大形の円形基調の礫を利用した安山岩製の砥石である。片面の2箇所に平滑な面が形成されている。534はブロック状の礫を利用したデイスait製の砥石である。表面と右側面に平滑な面が観察される。

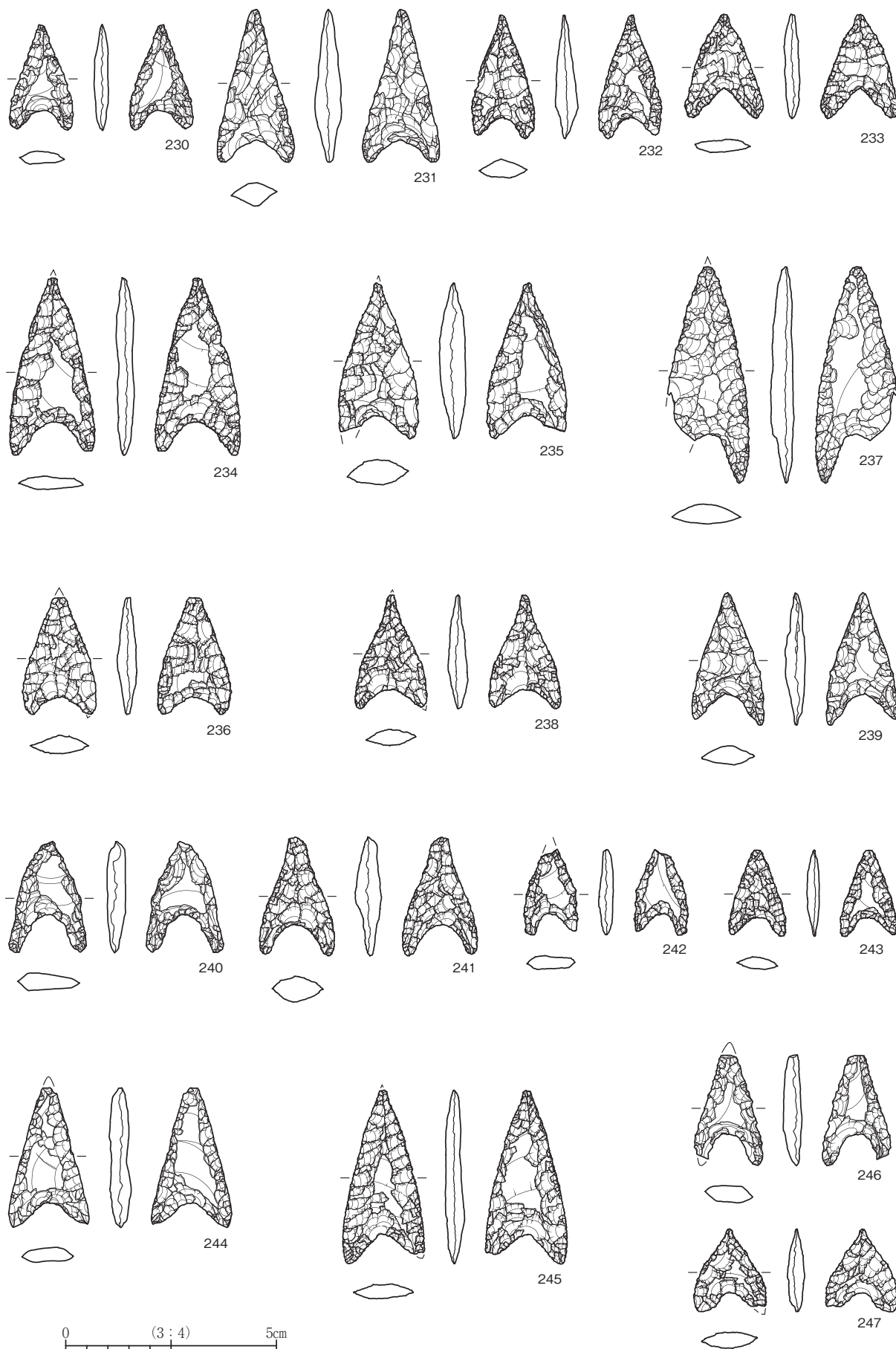
石錘 (535・536) 535・536は楕円形の礫を利用した安山岩製の石錘で、素材礫の短軸の両端を打ち



第 103 図 石器 (縄文時代 1)



第104図 石器（縄文時代2）



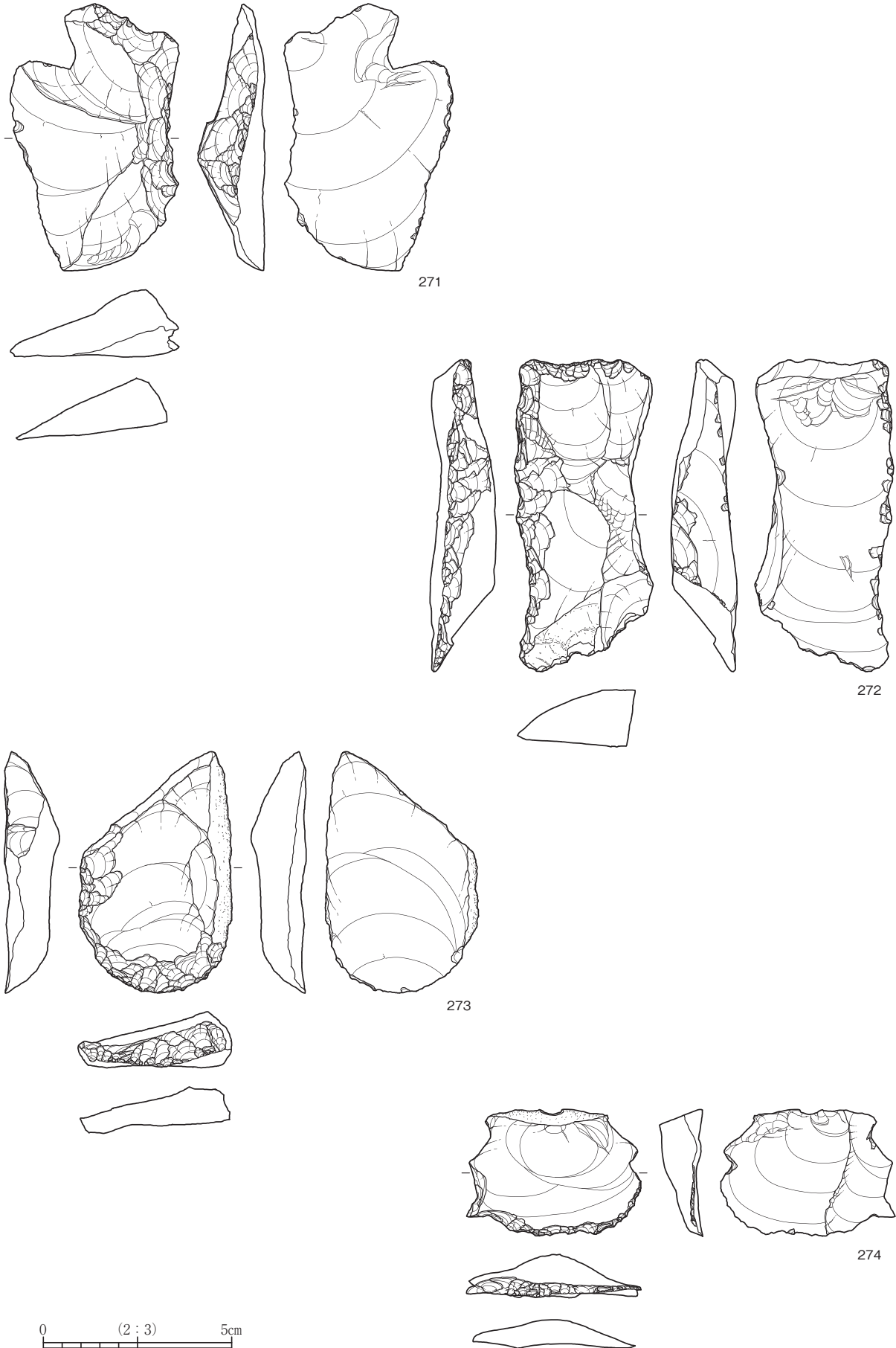
第 105 図 石器 (縄文時代 3)



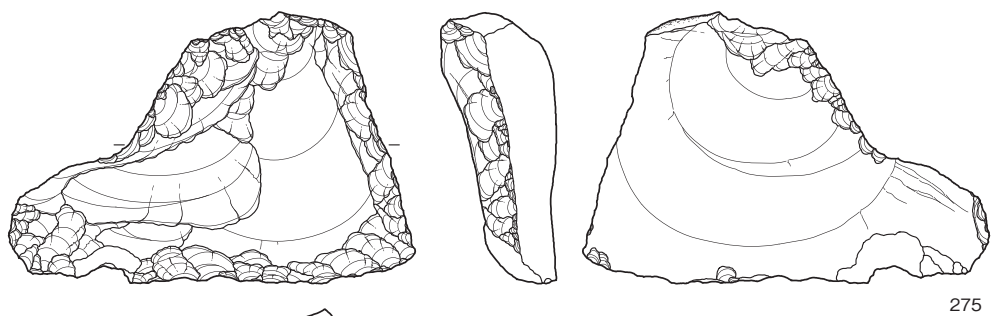
第106図 石器（縄文時代4）



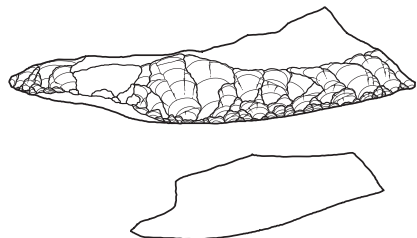
第 107 図 石器（縄文時代 5）



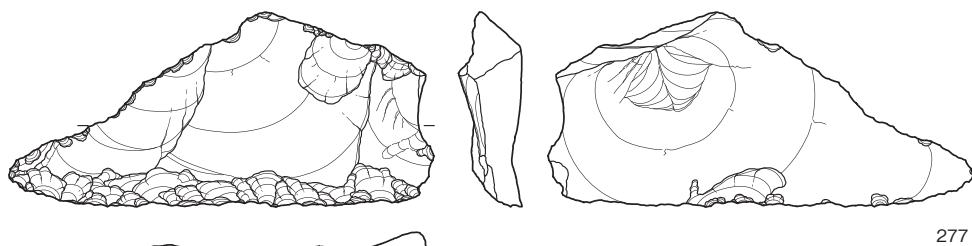
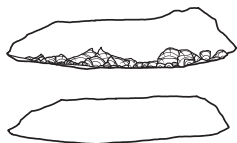
第108図 石器（縄文時代6）



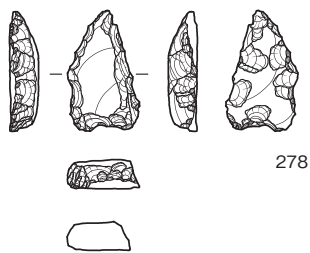
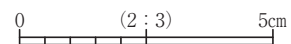
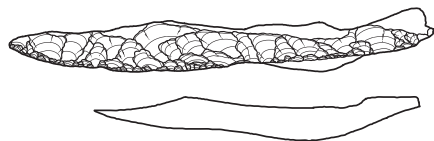
275



276



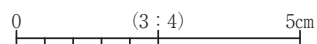
277



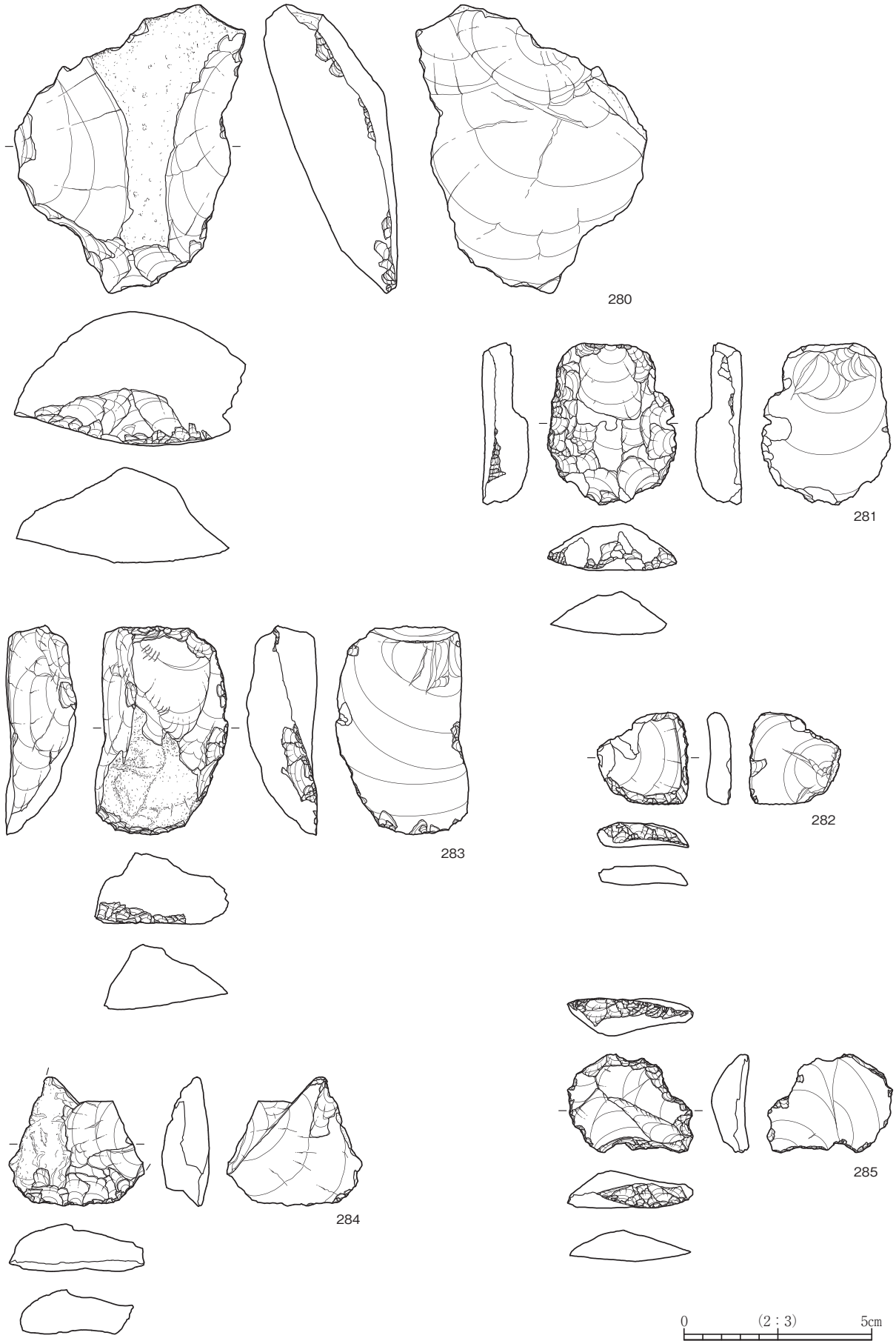
278



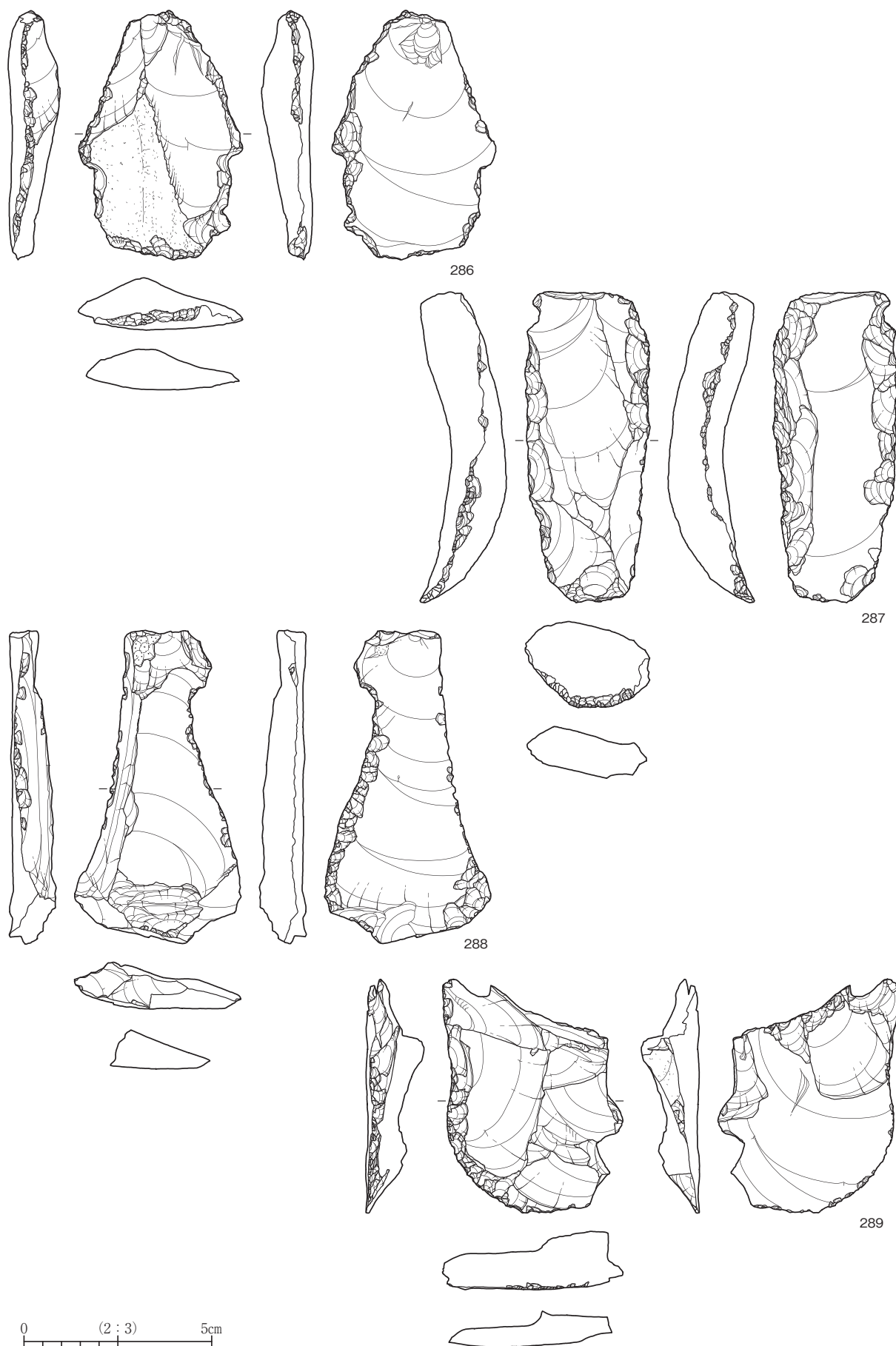
279



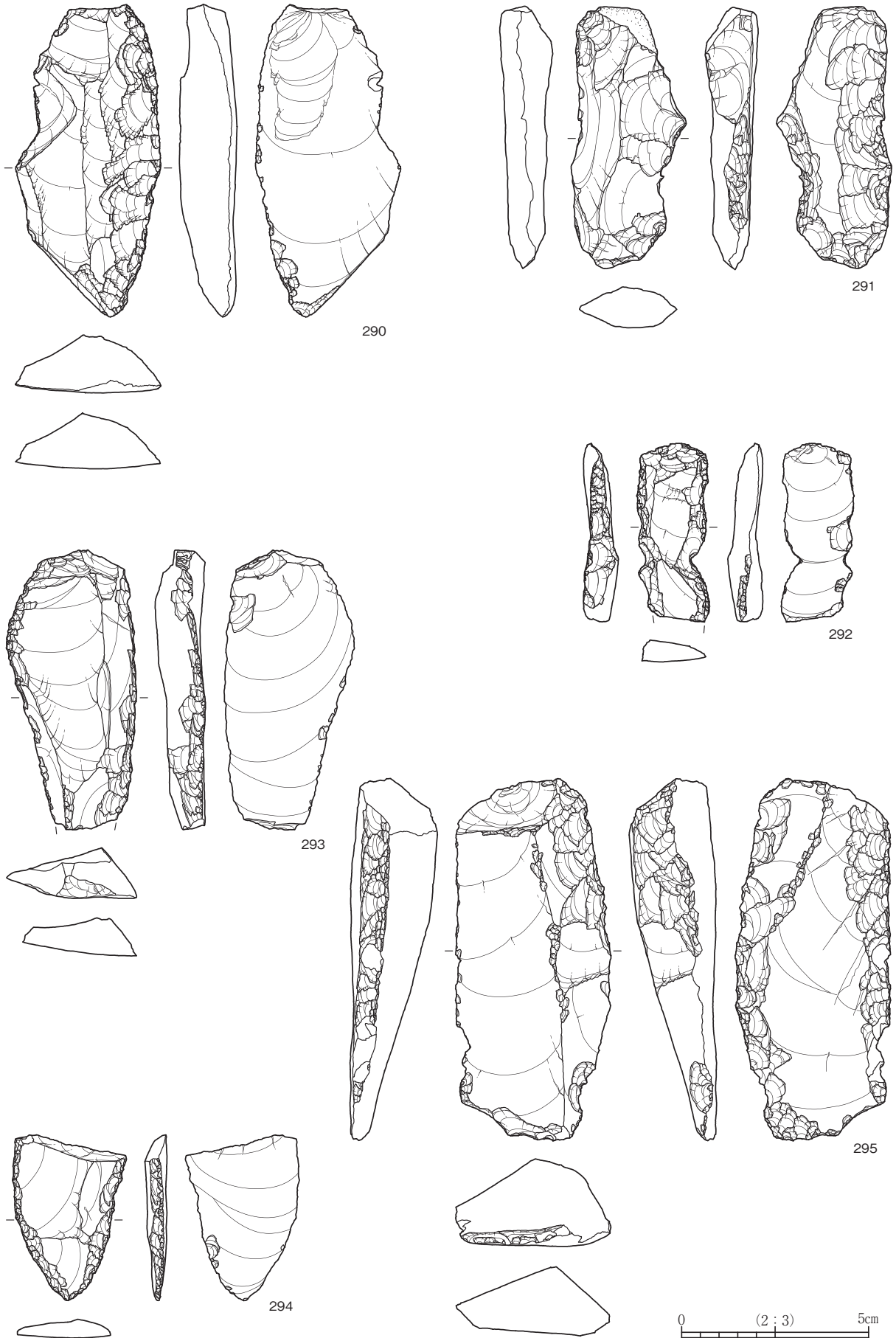
第 109 図 石器 (縄文時代 7)



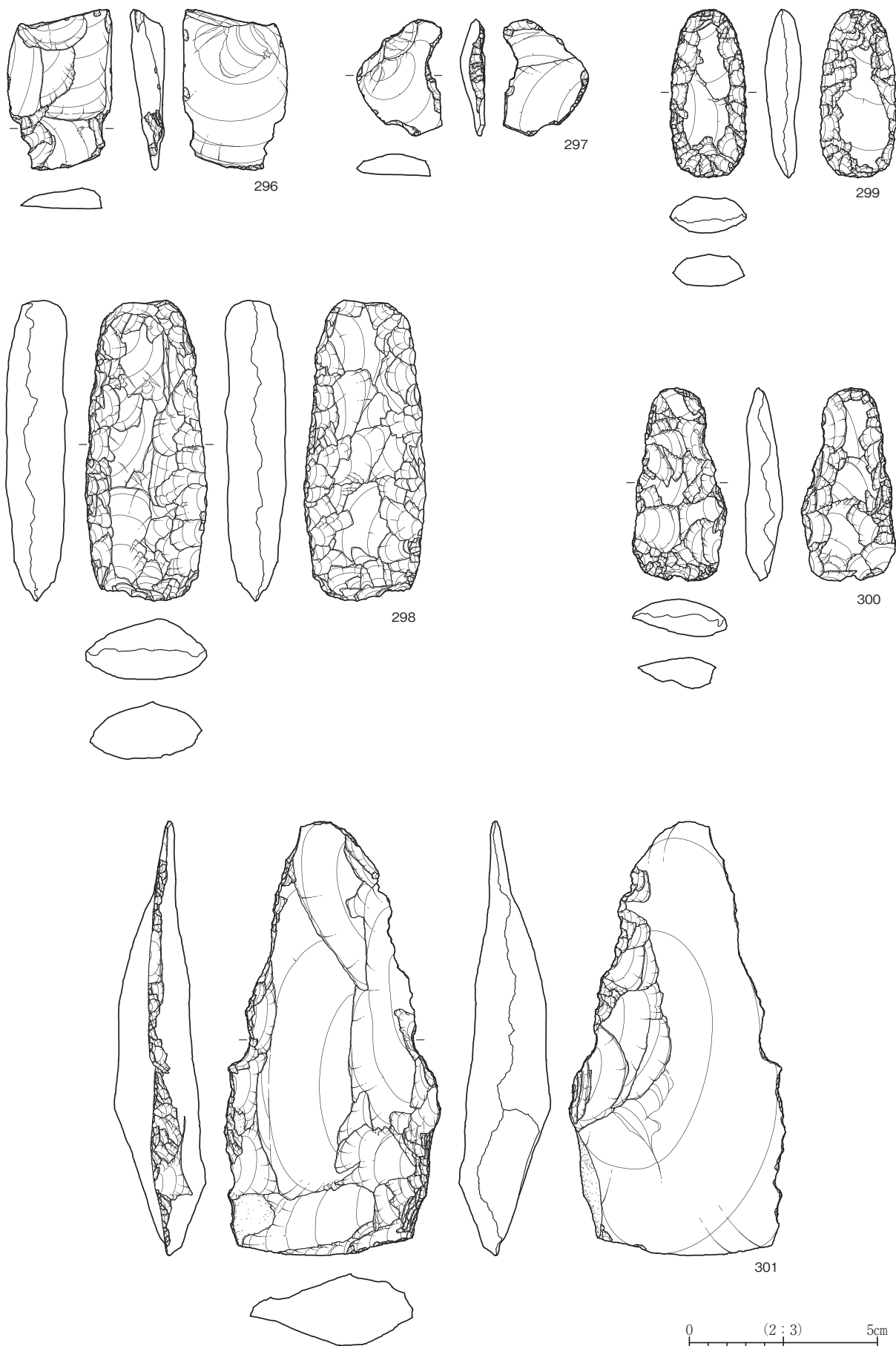
第 110 図 石器 (縄文時代 8)



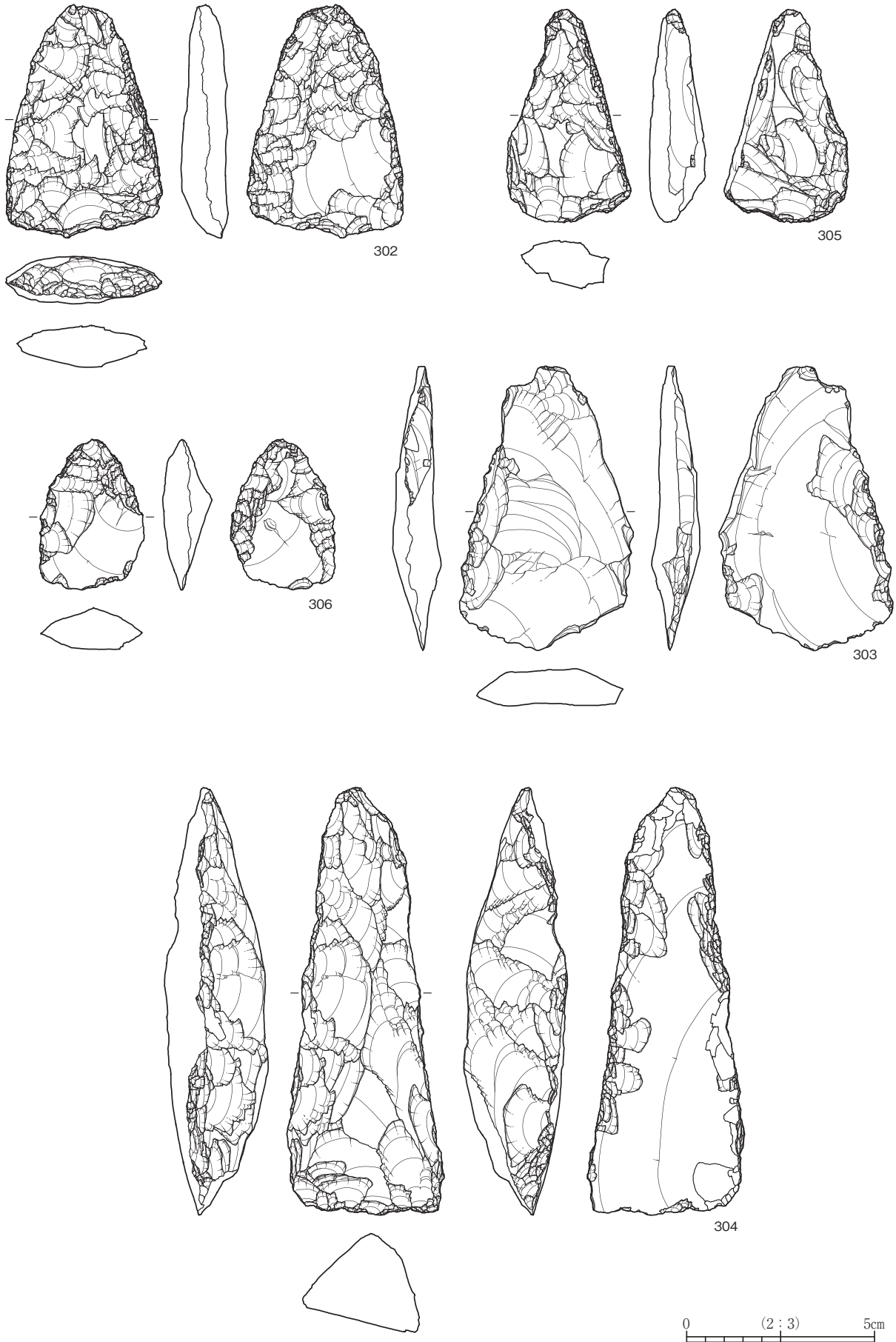
第 111 図 石器 (縄文時代 9)



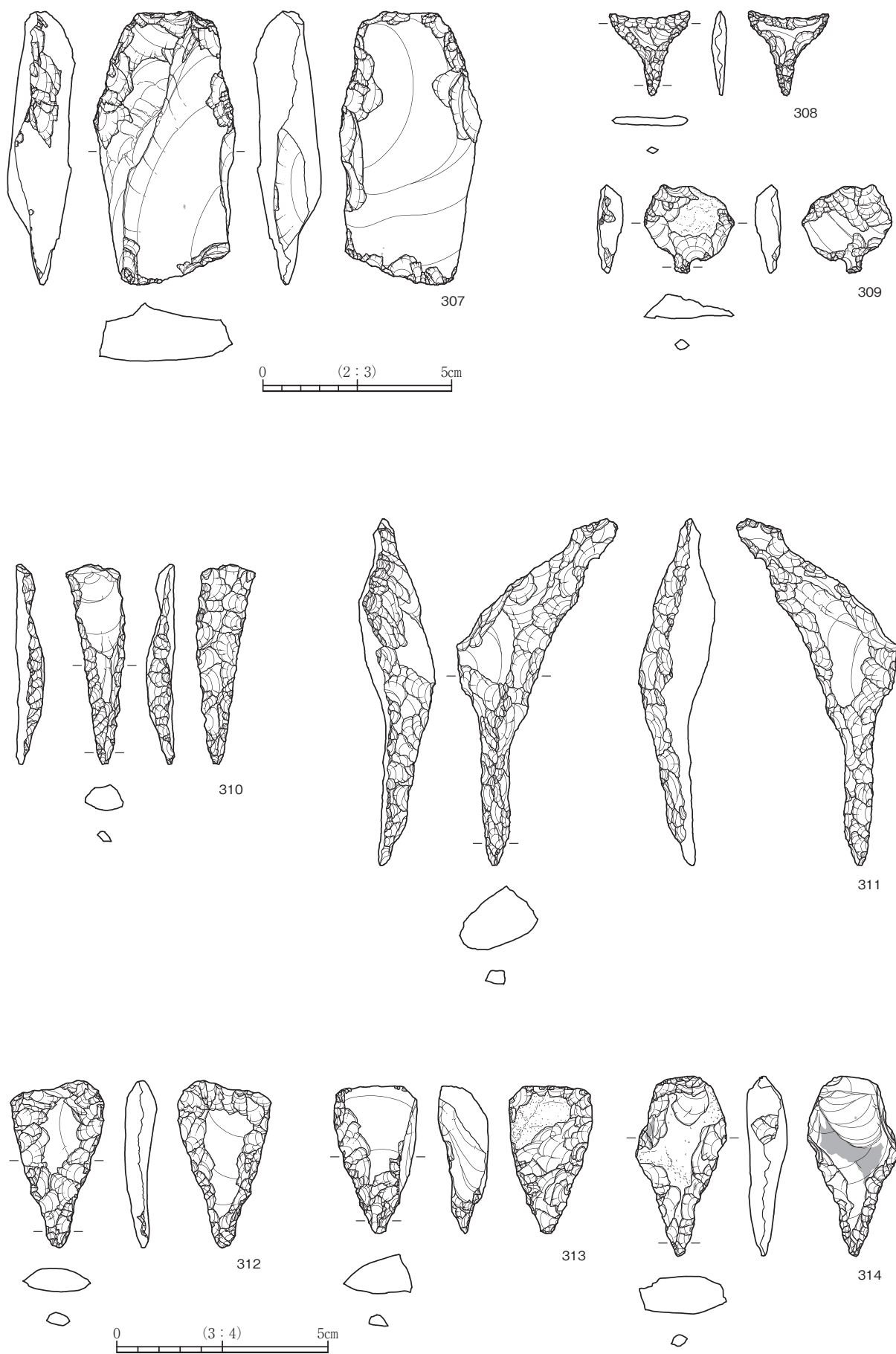
第112図 石器（縄文時代10）



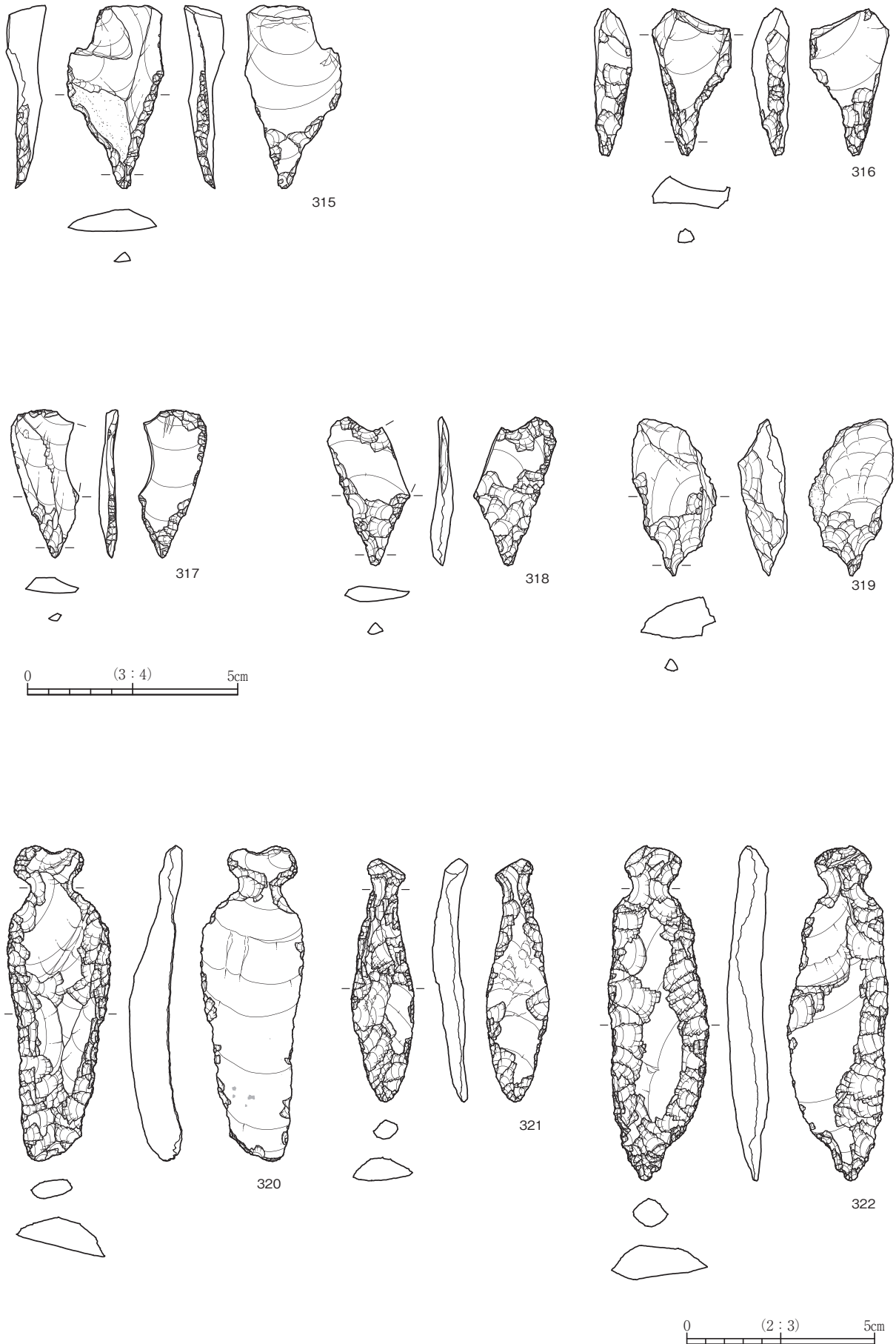
第113図 石器（縄文時代11）



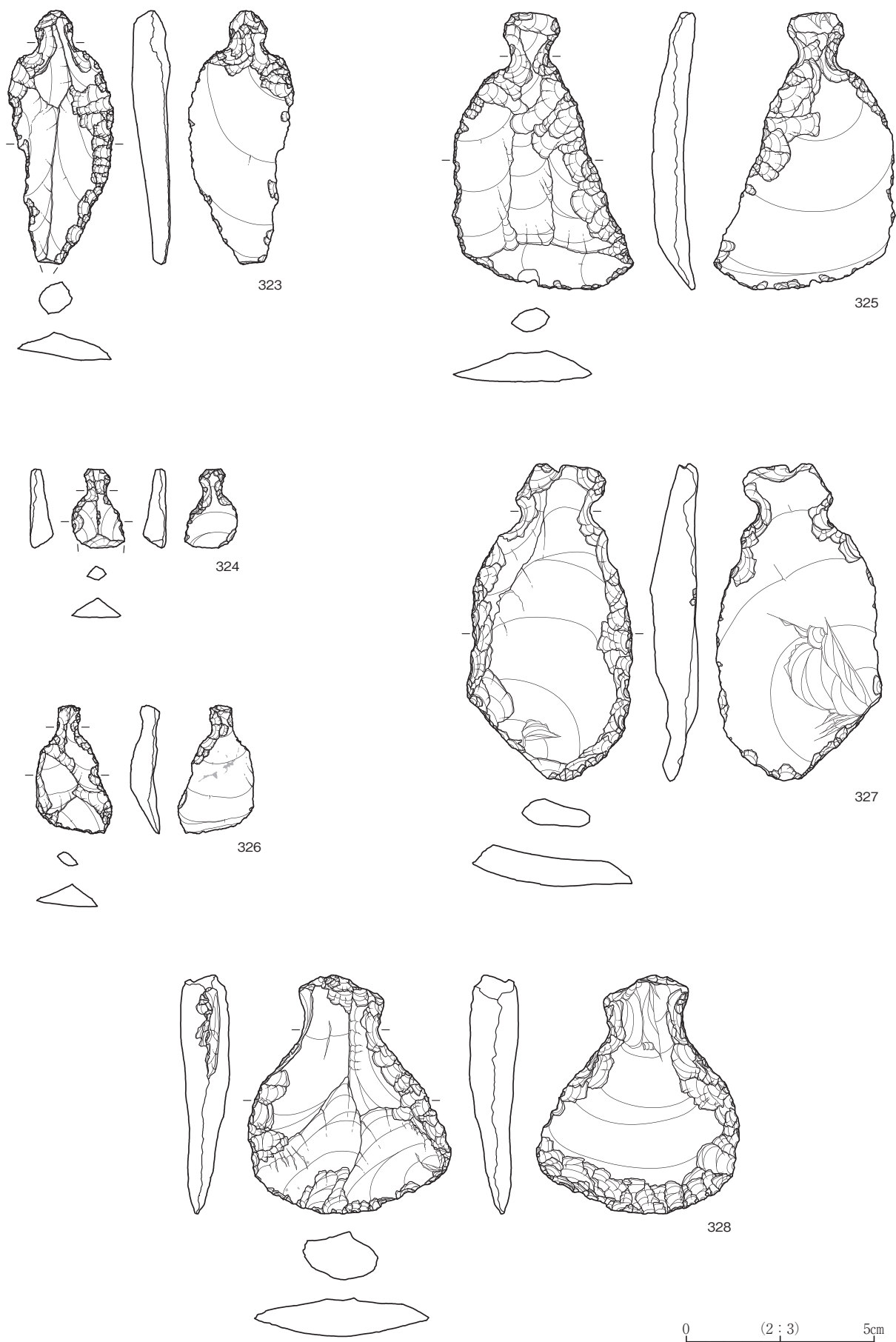
第114図 石器（縄文時代12）



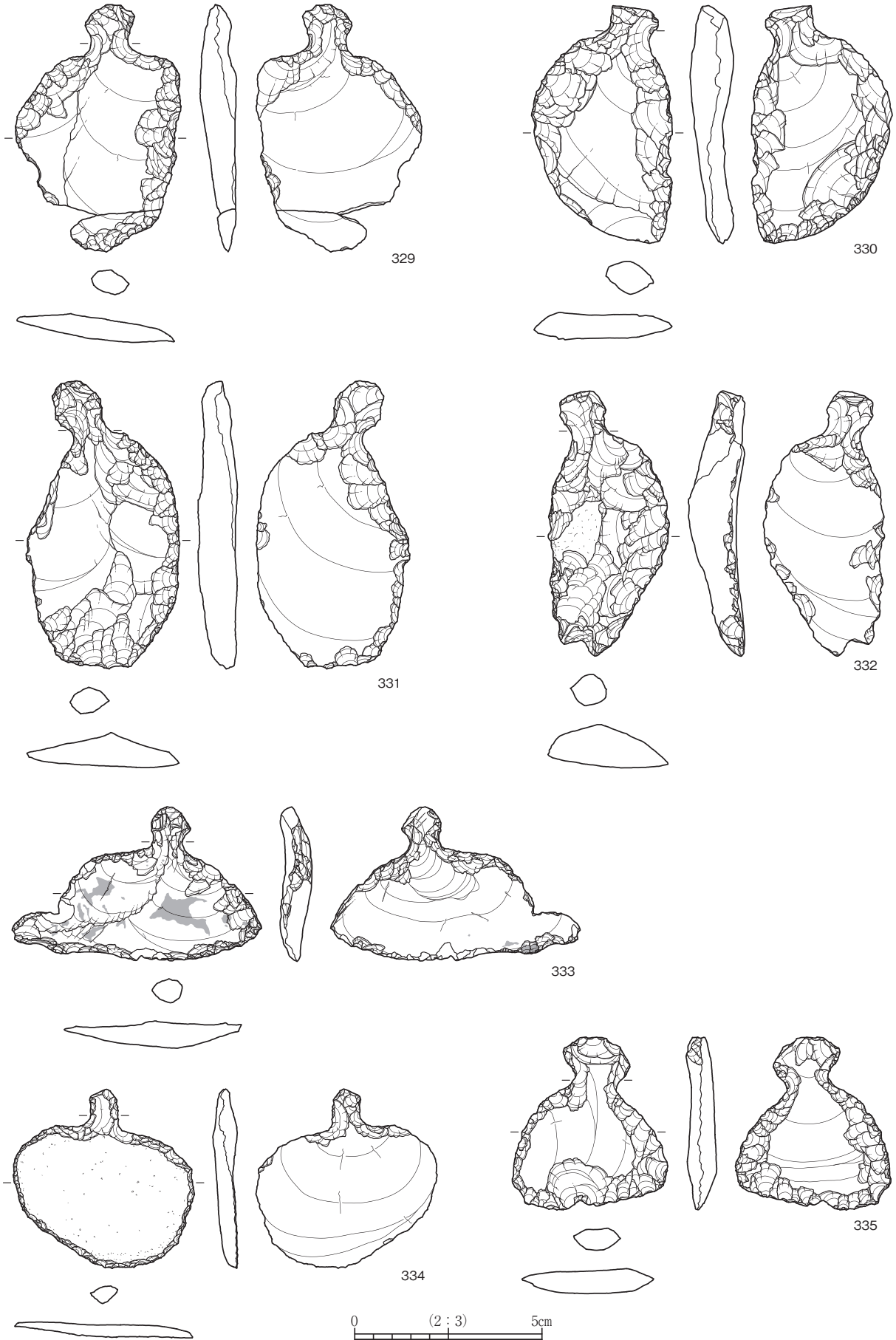
第115図 石器（縄文時代13）



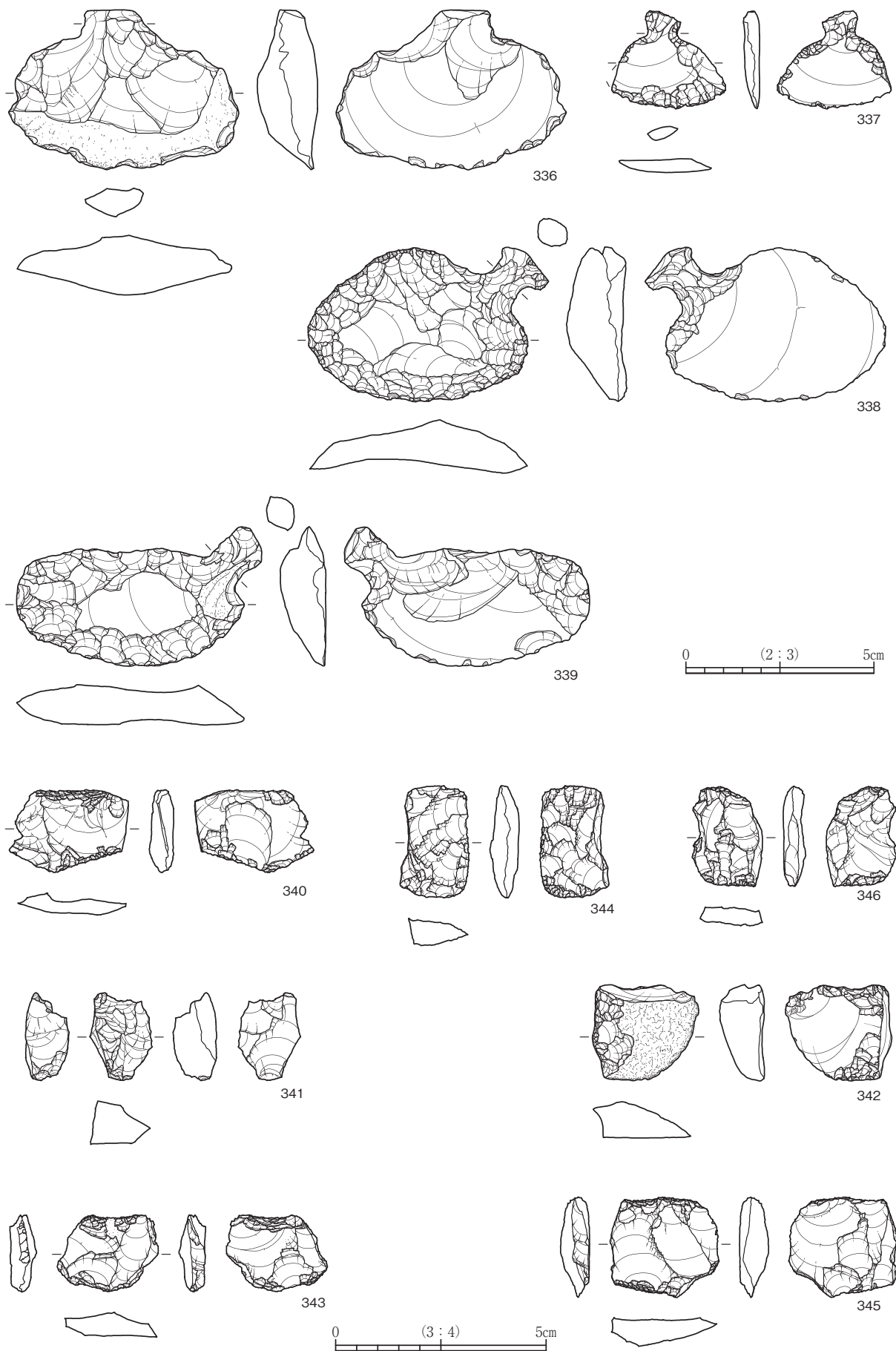
第116図 石器（縄文時代14）



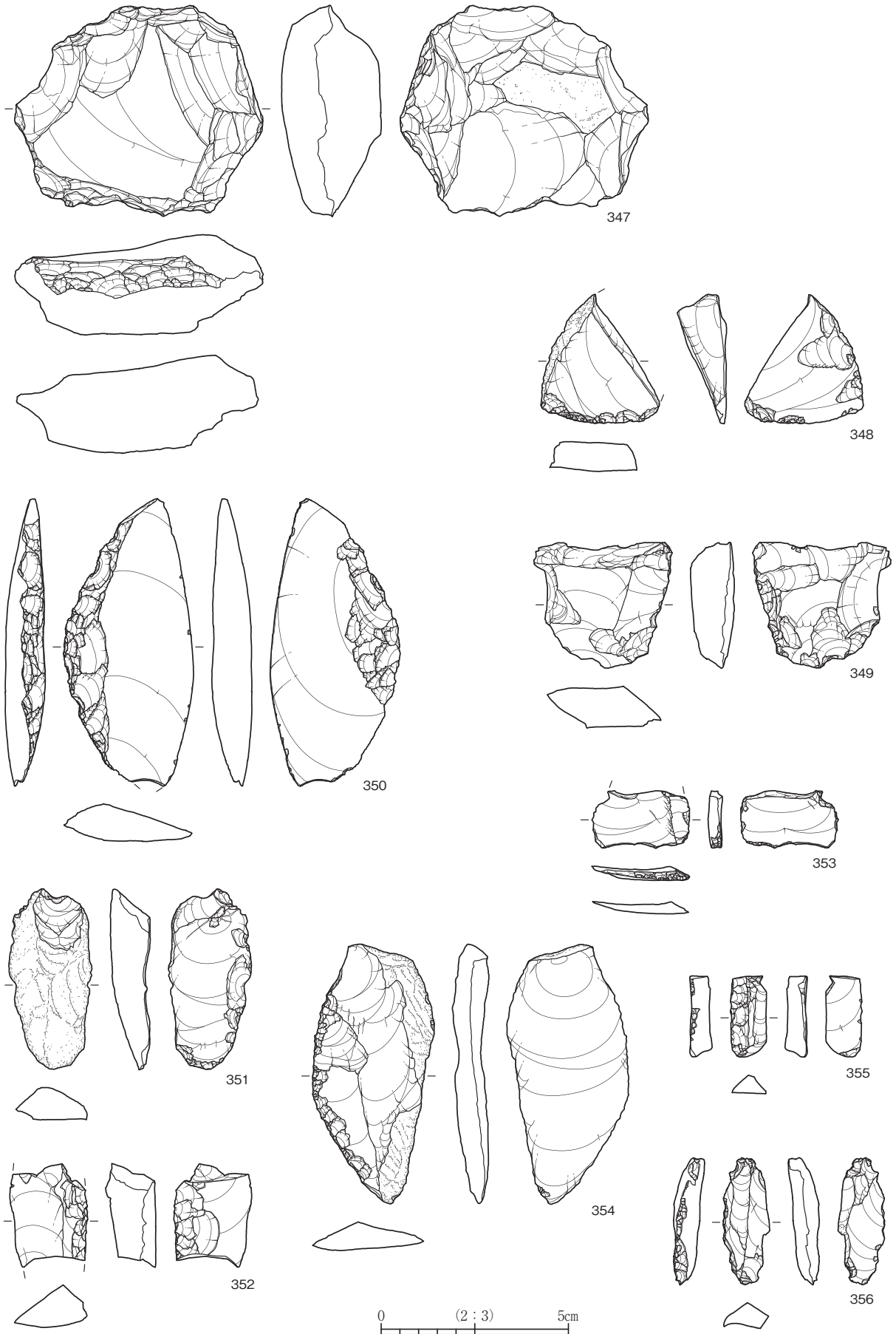
第117図 石器（縄文時代15）



第118図 石器（縄文時代16）



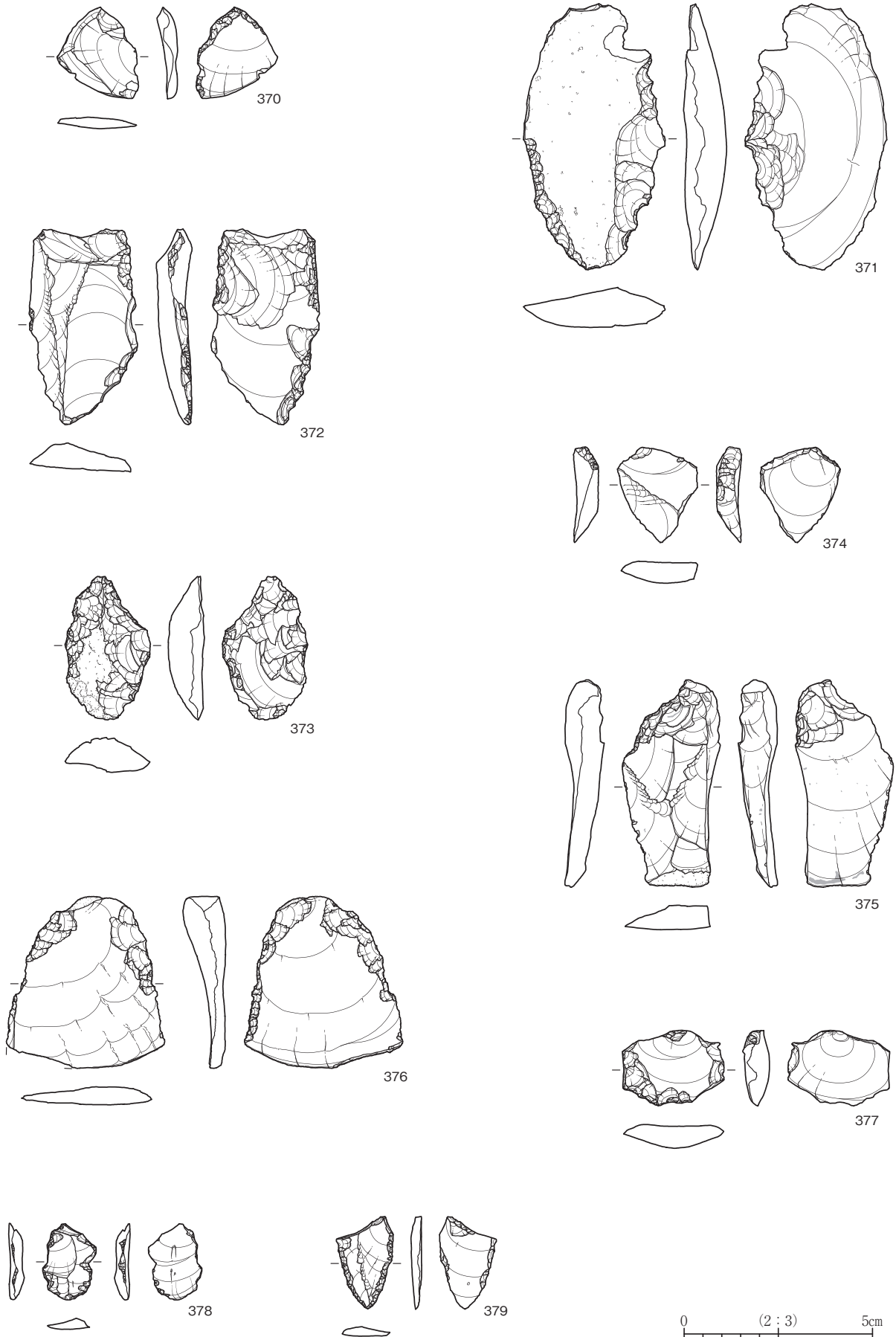
第119図 石器（縄文時代17）



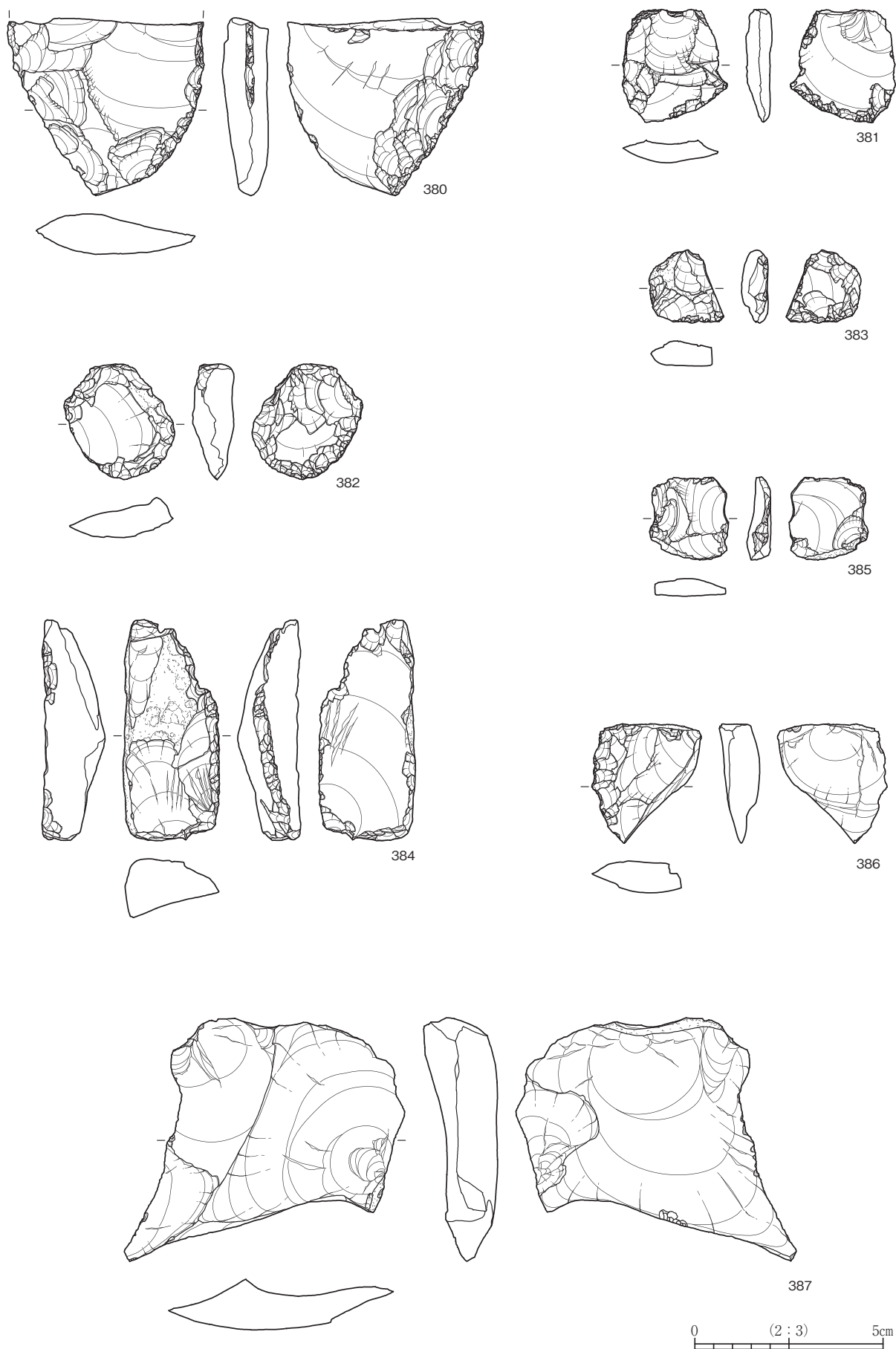
第120図 石器（縄文時代18）



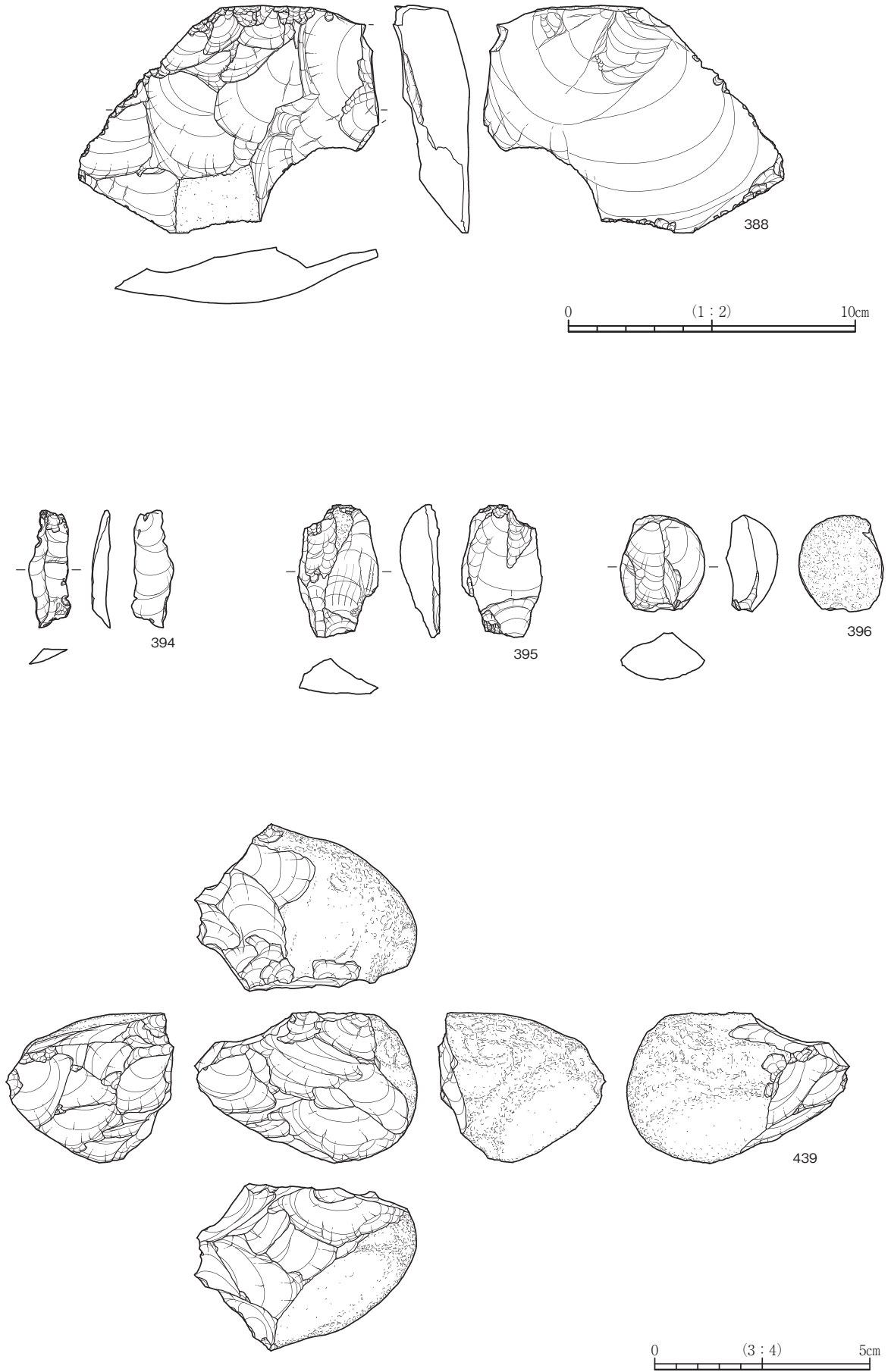
第121図 石器（縄文時代19）



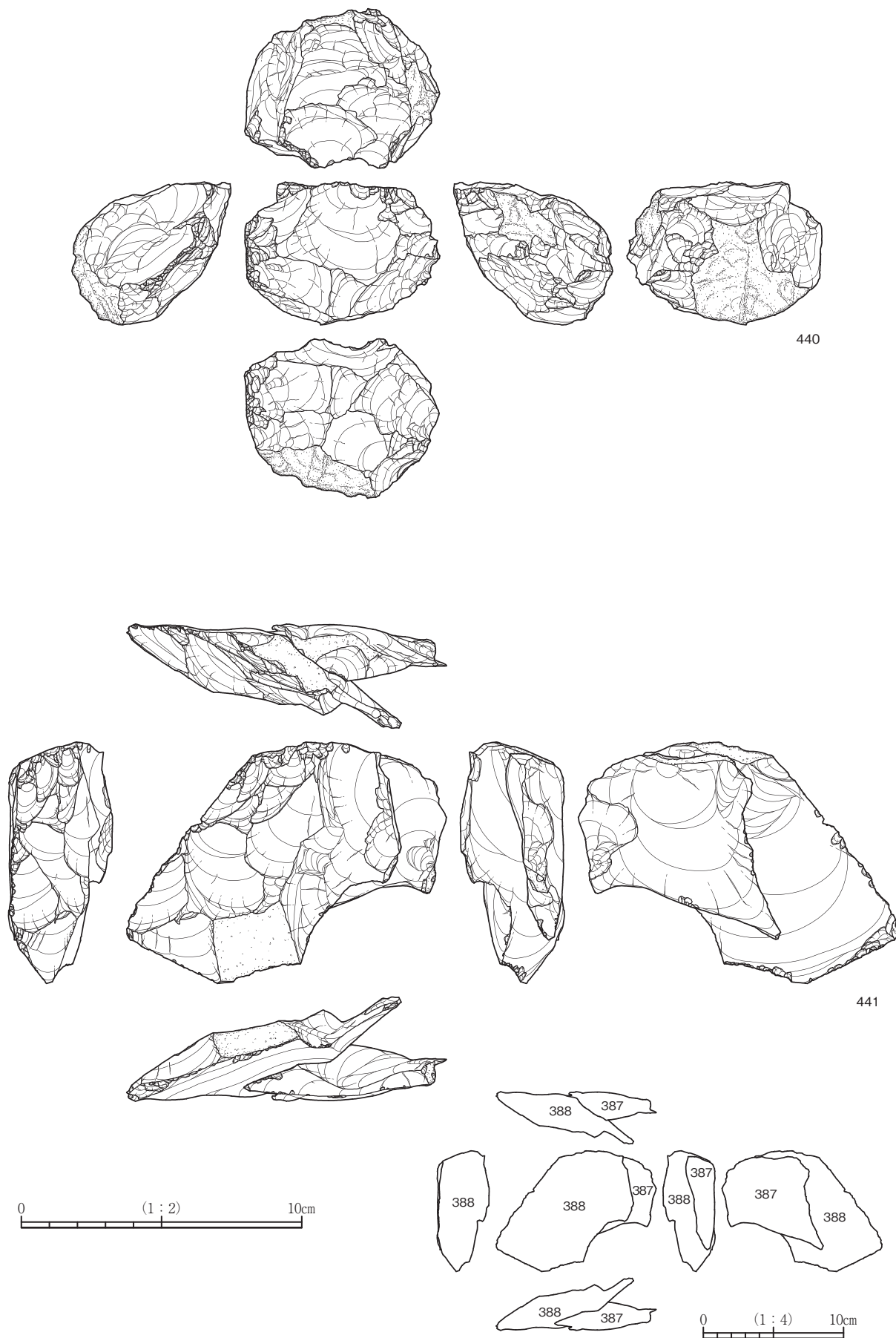
第122図 石器（縄文時代20）



第123図 石器（縄文時代21）



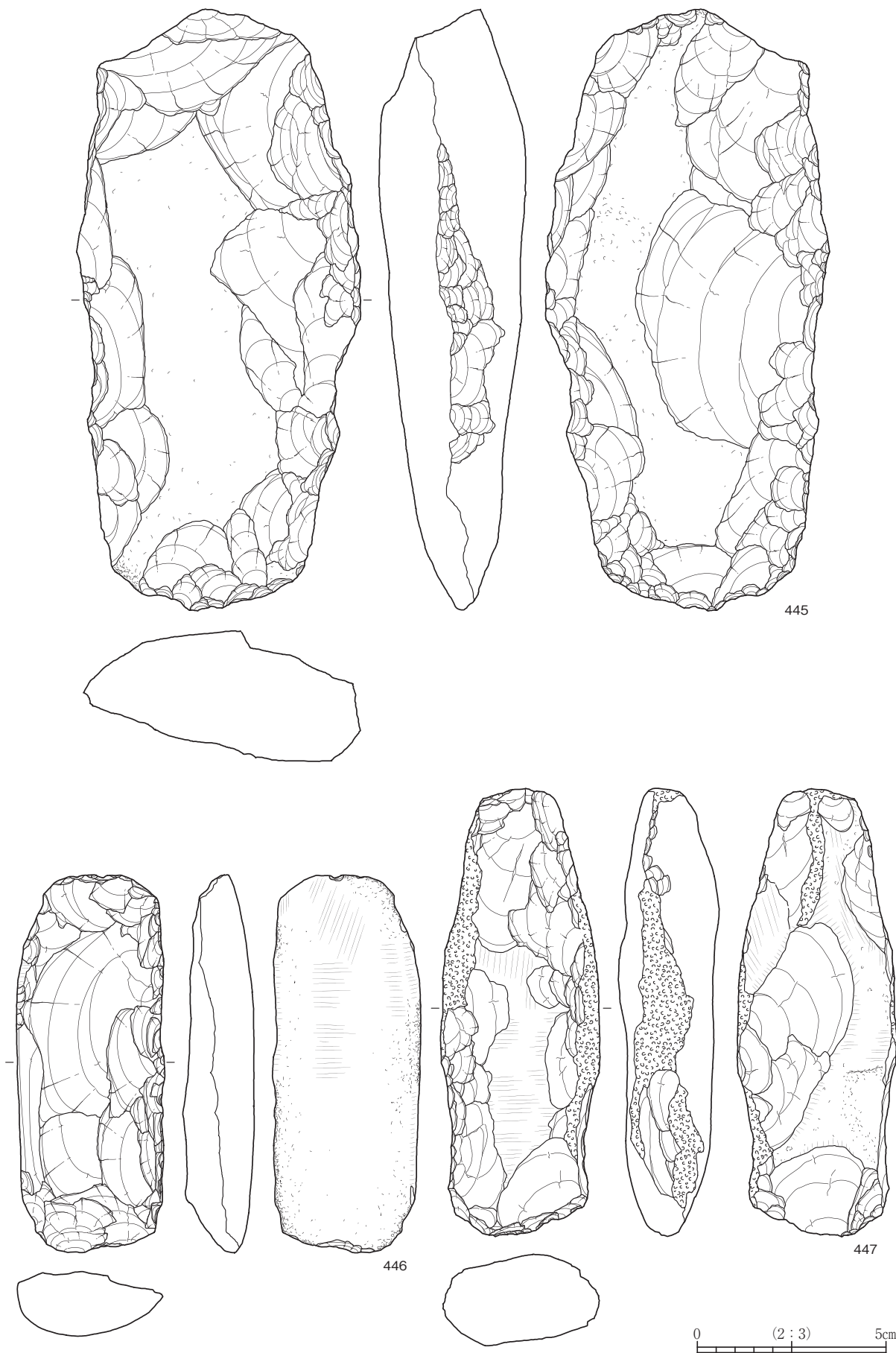
第124図 石器（縄文時代22）



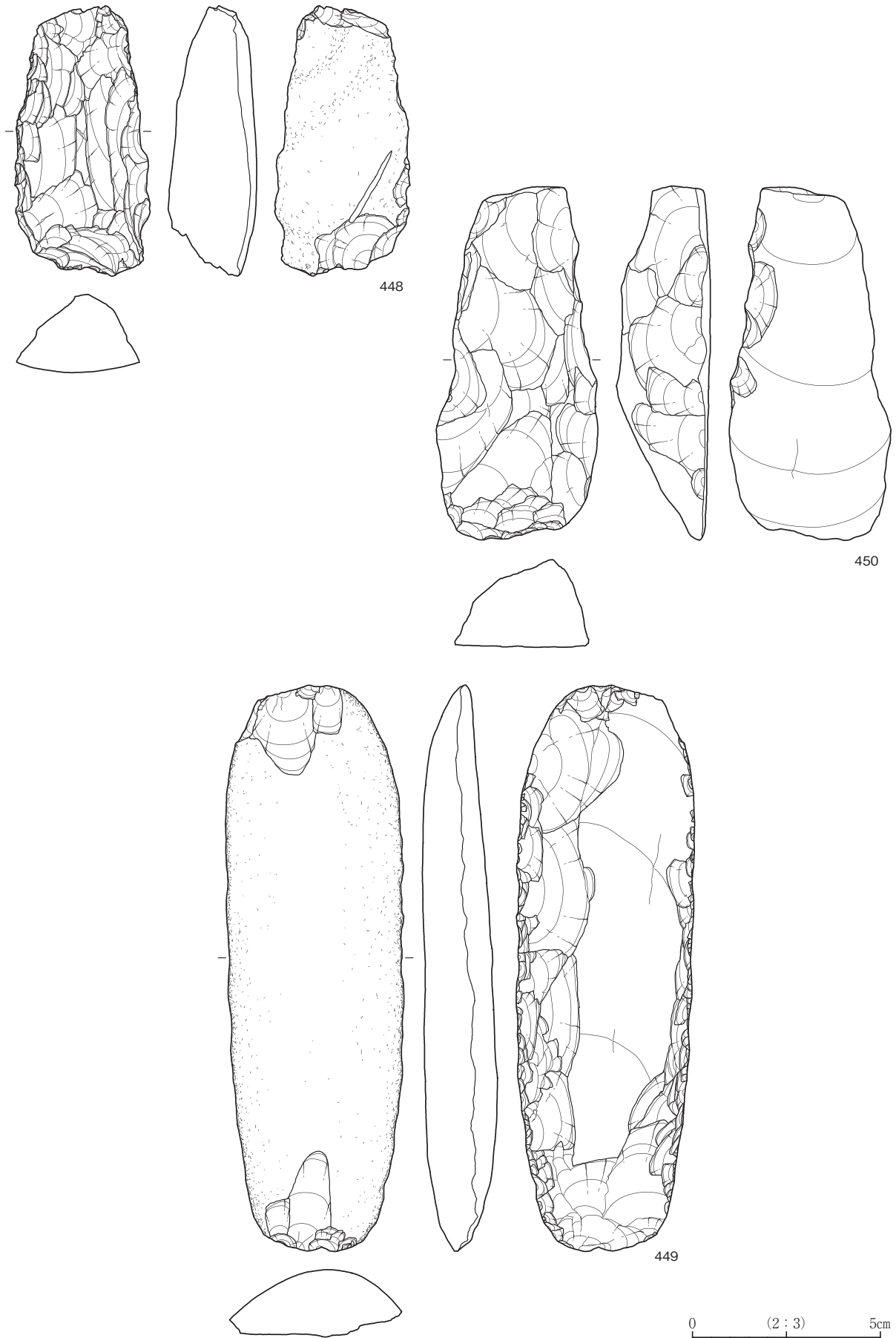
第125図 石器（縄文時代23）



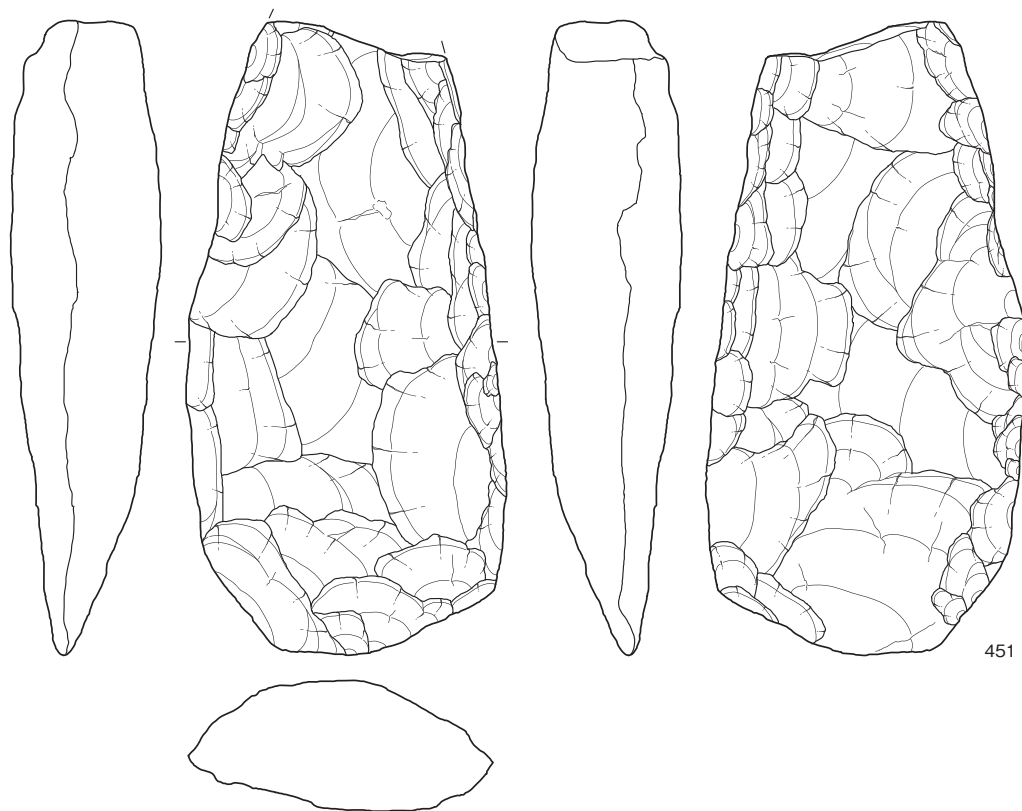
第126図 石器（縄文時代24）



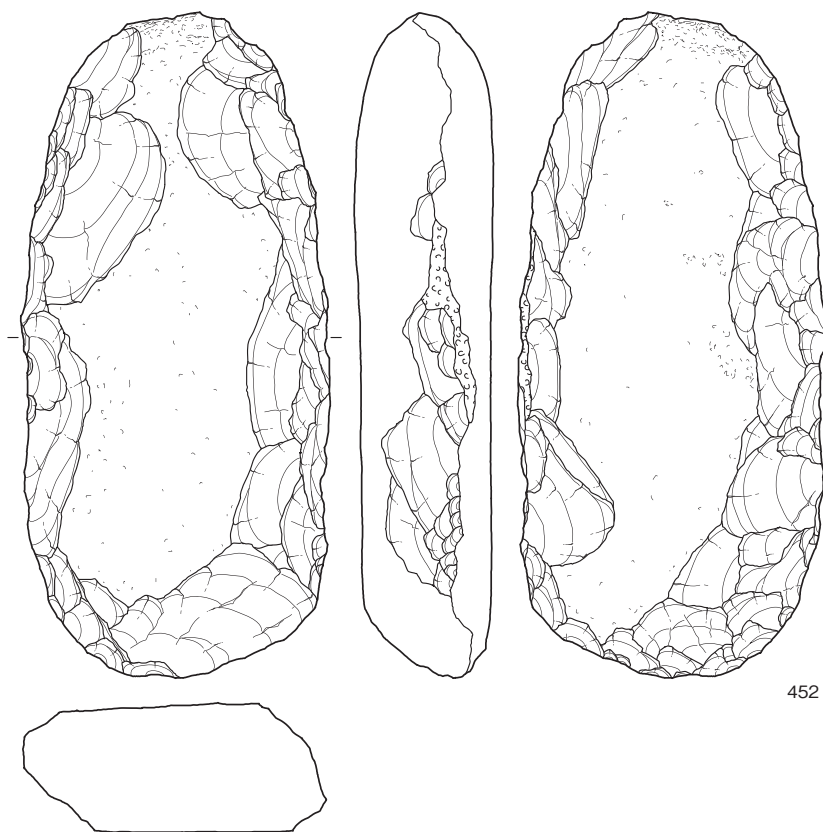
第127図 石器（縄文時代25）



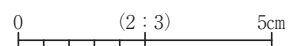
第128図 石器（縄文時代26）



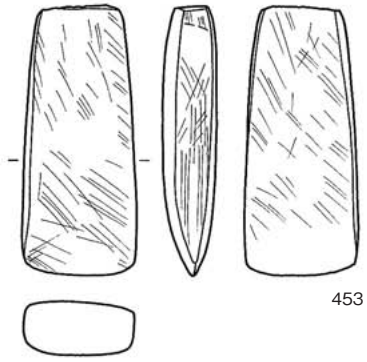
451



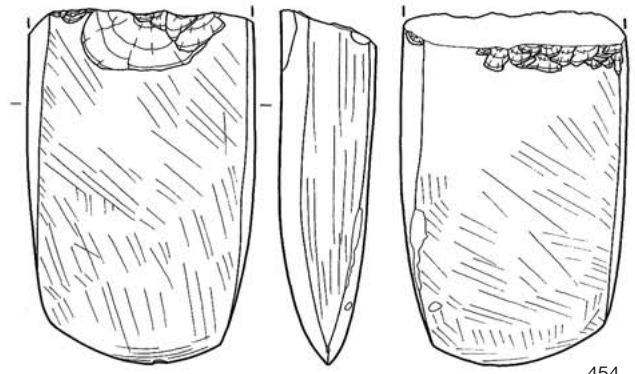
452



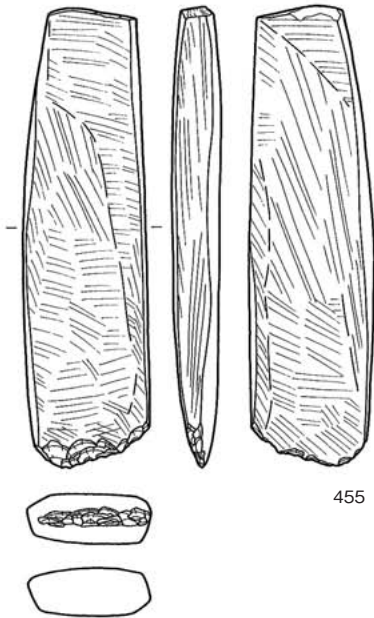
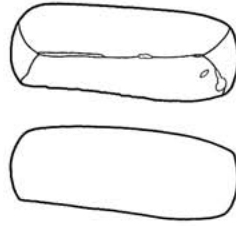
第129図 石器（縄文時代27）



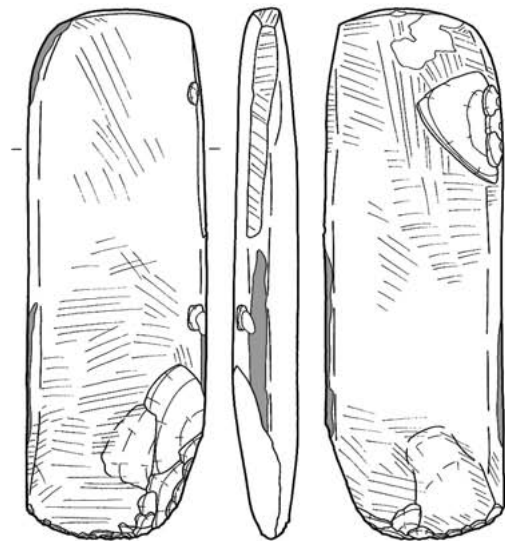
453



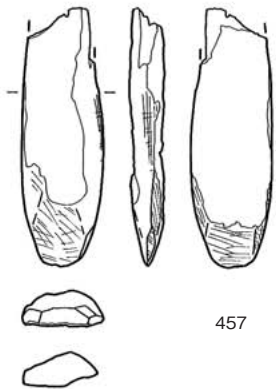
454



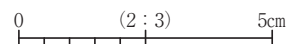
455



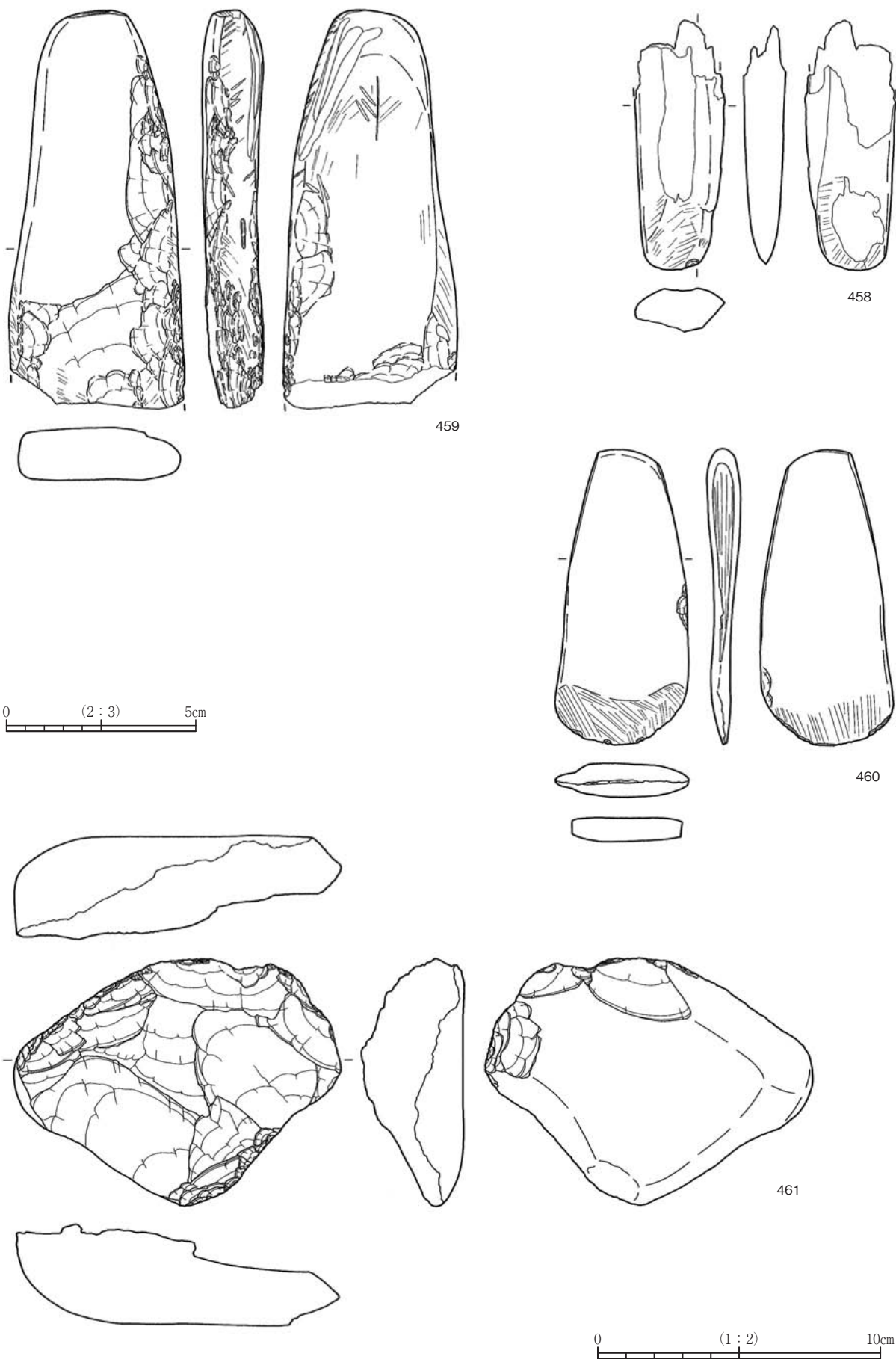
456



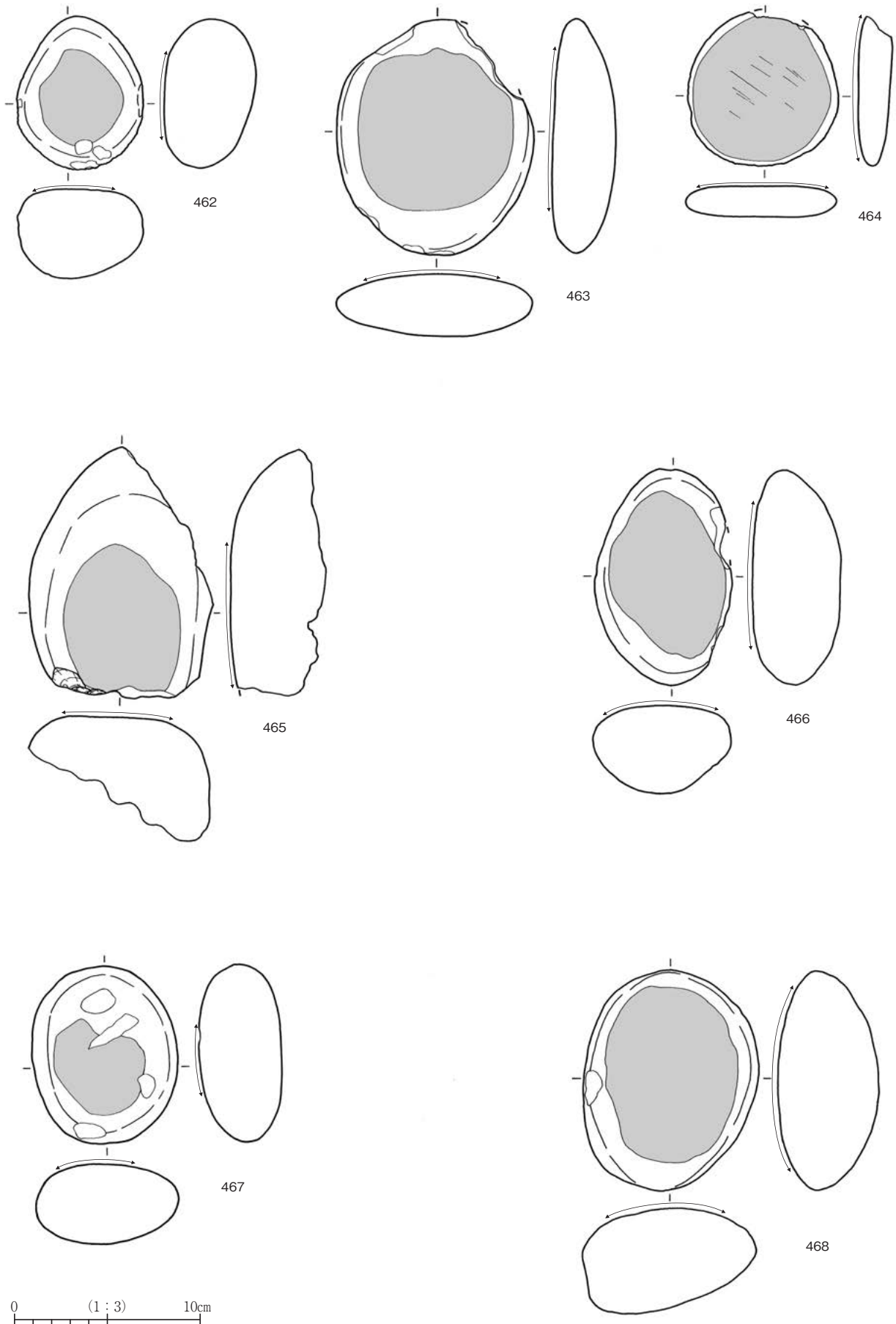
457



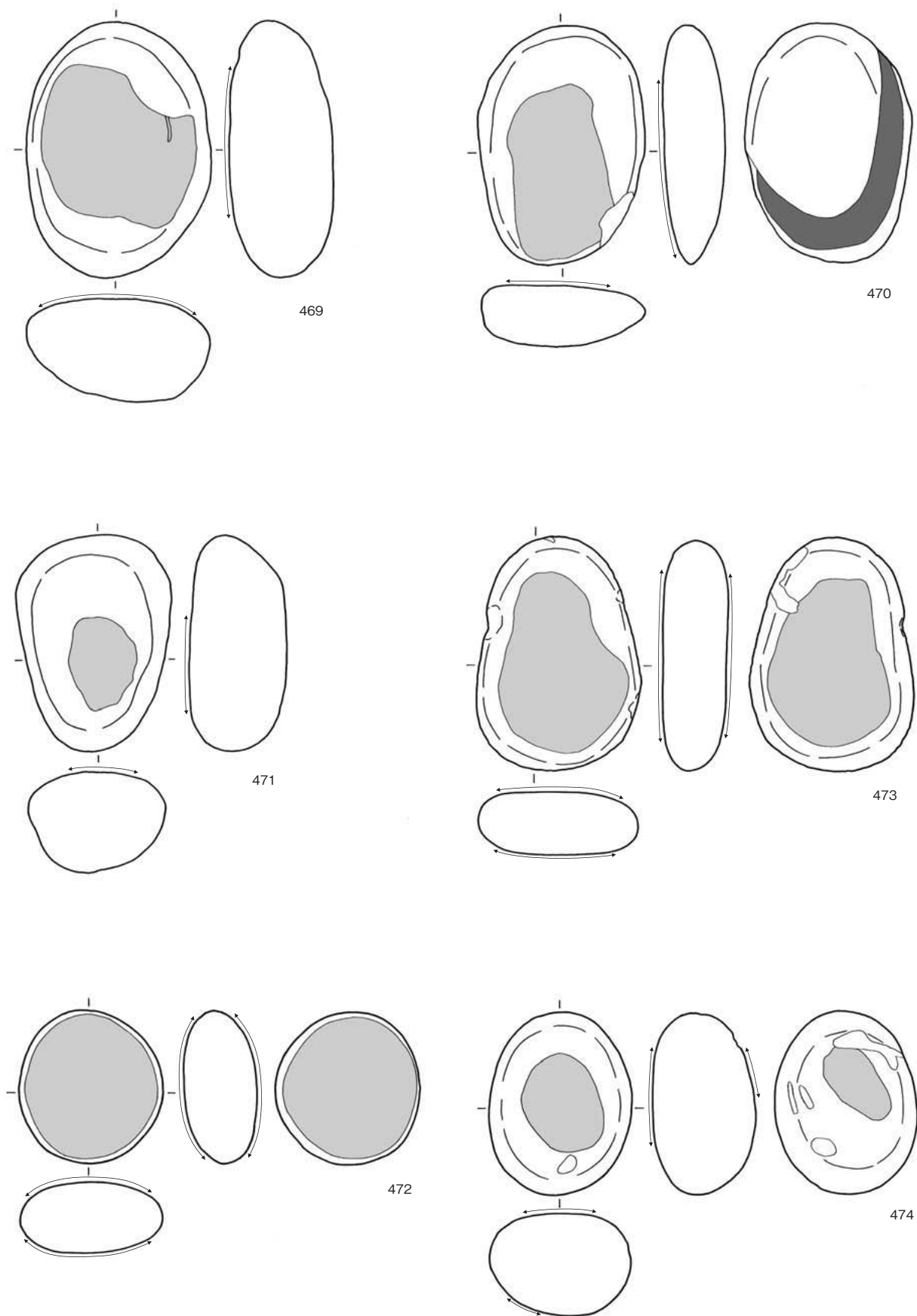
第130図 石器（縄文時代28）



第131図 石器（縄文時代29）

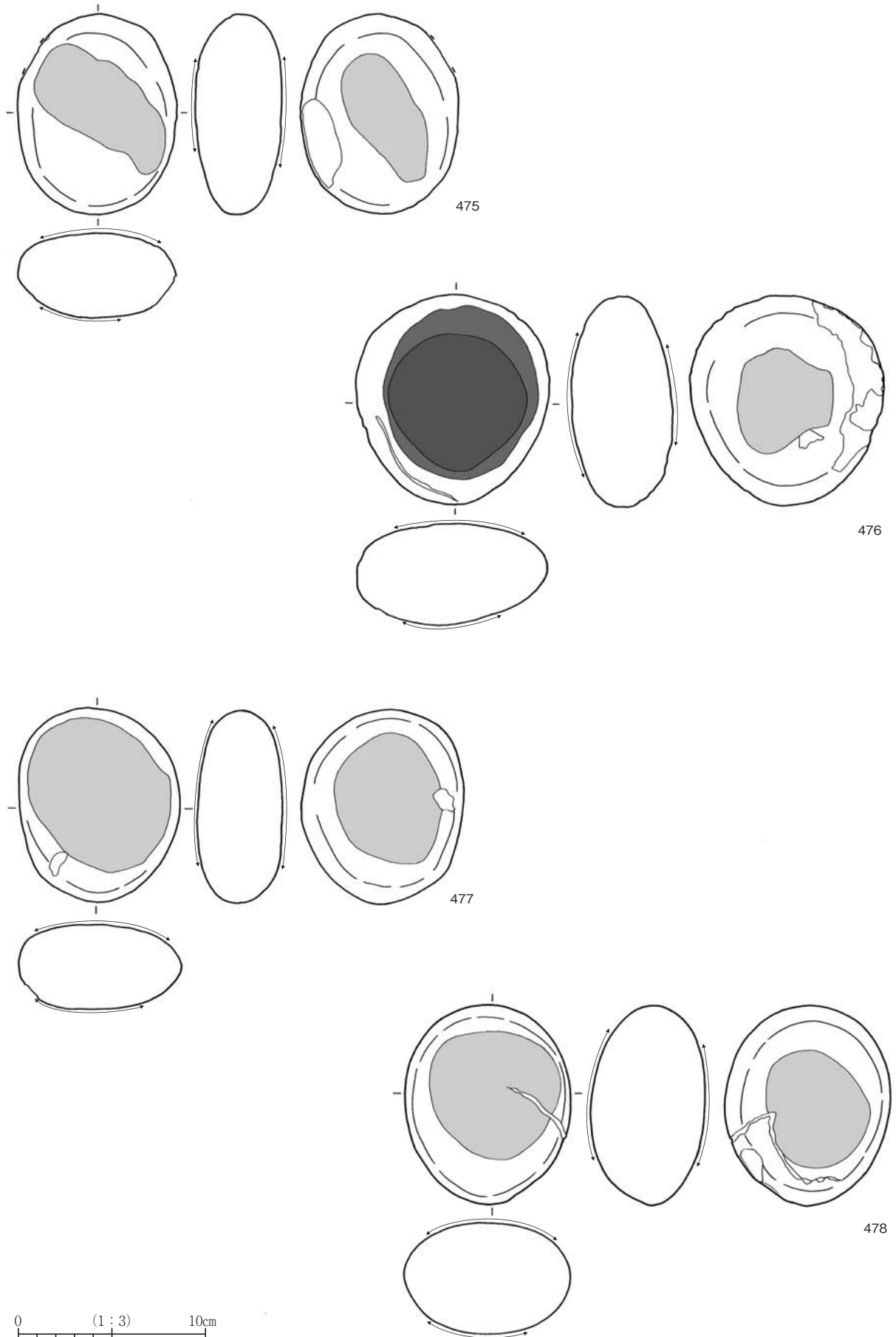


第 132 図 石器（縄文時代 30）

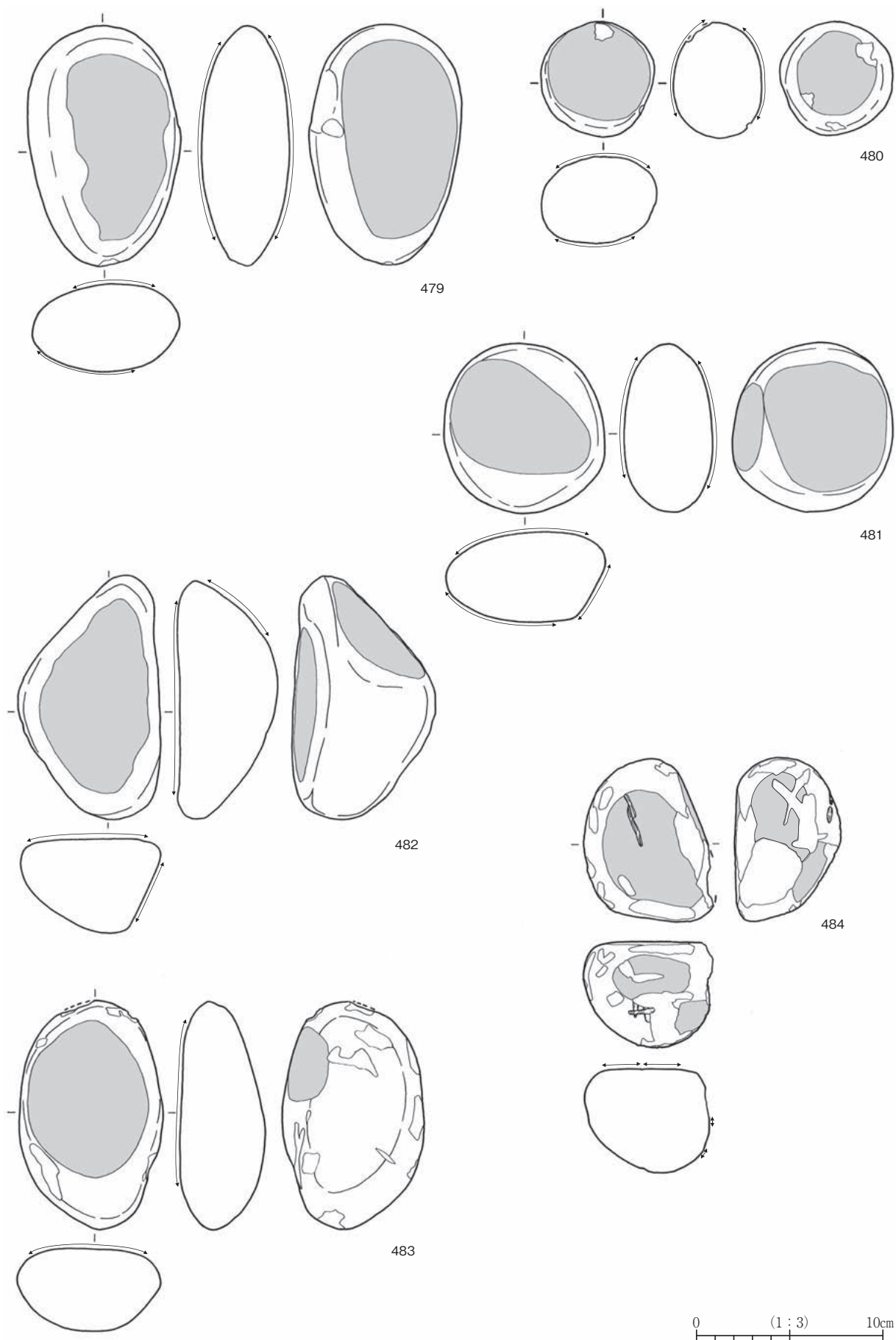


0 (1:3) 10cm

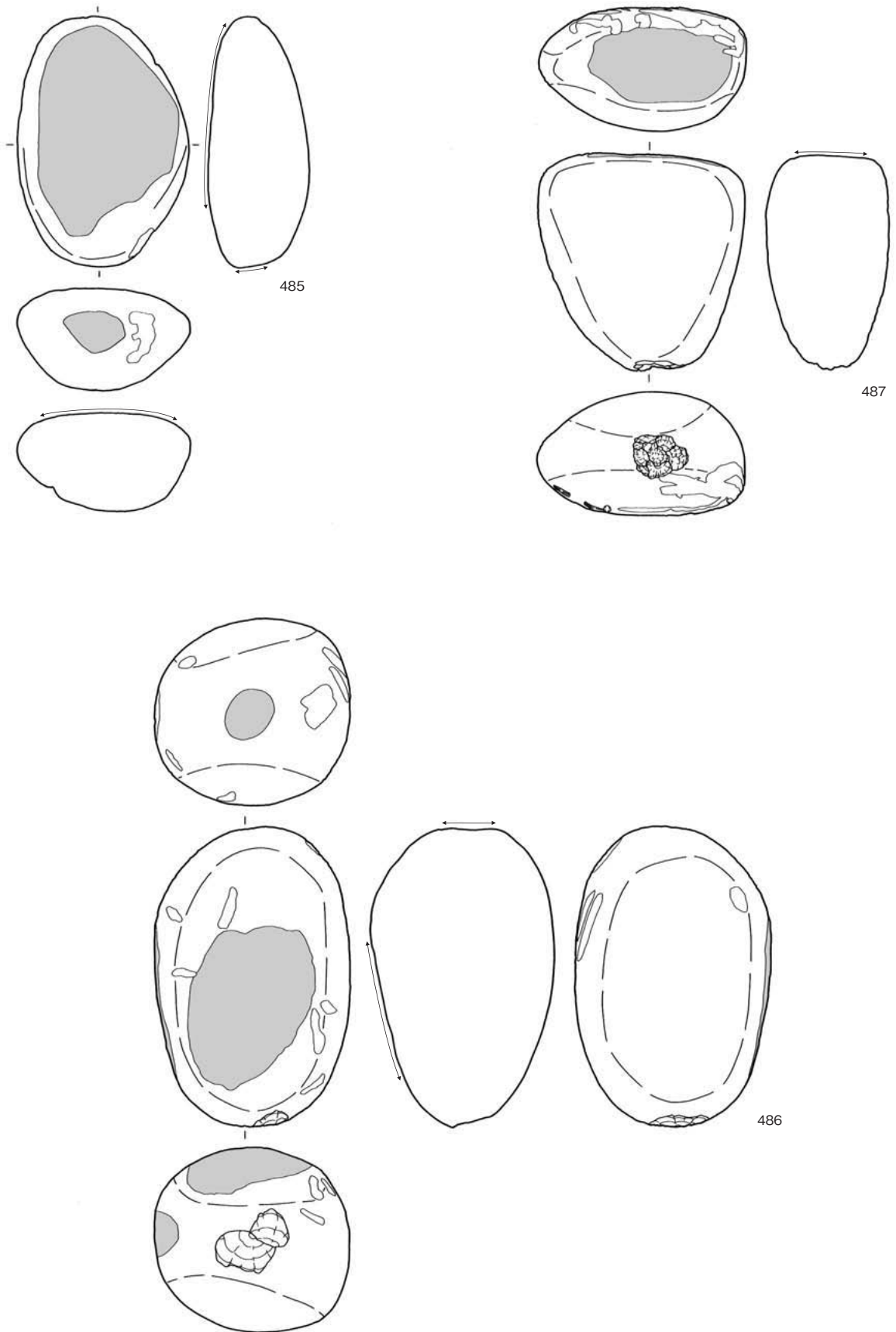
第133図 石器（縄文時代31）



第134図 石器（縄文時代32）

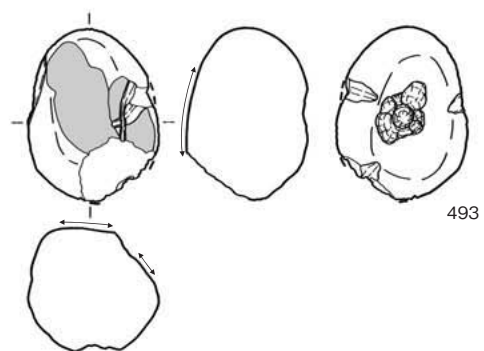
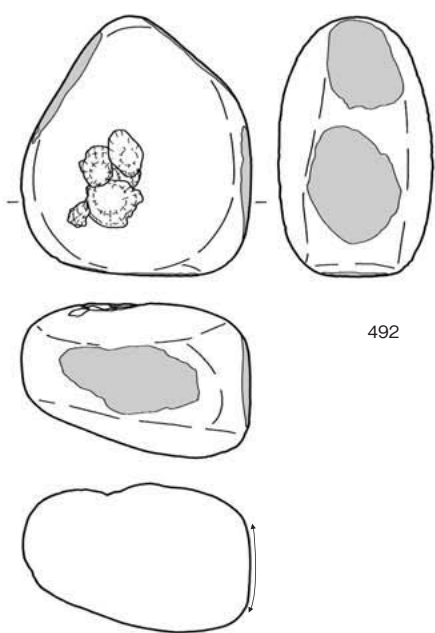
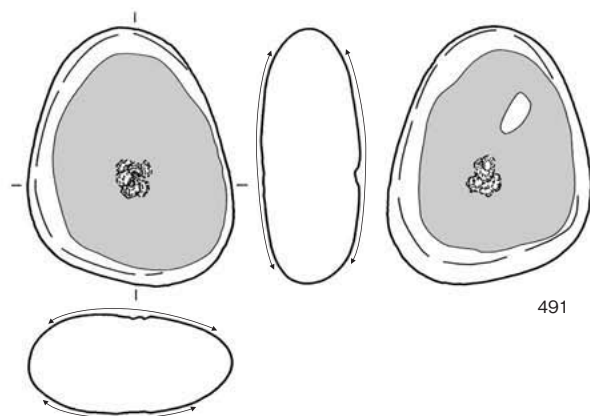
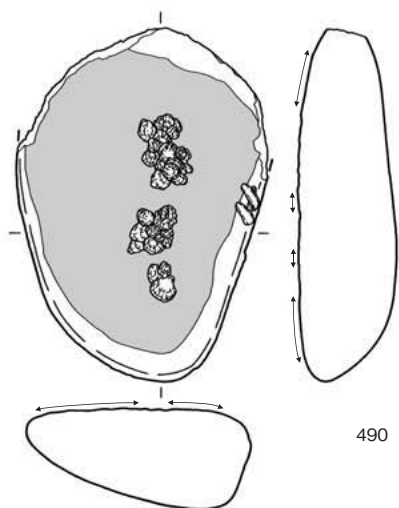
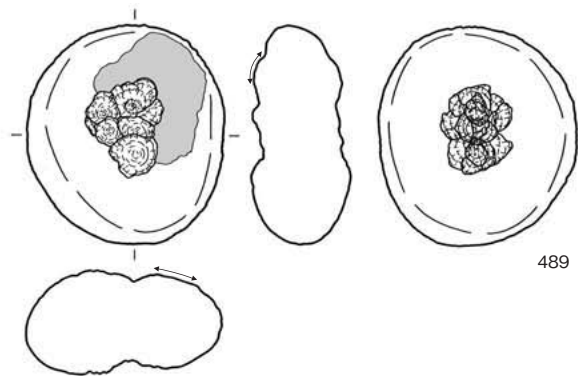
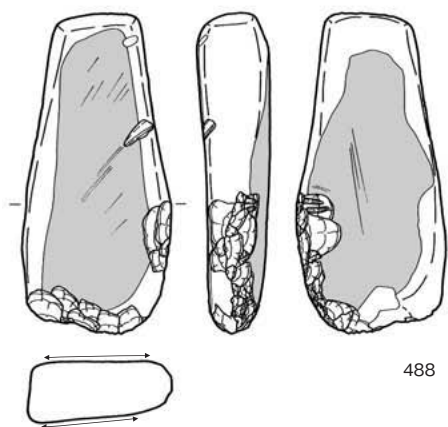


第 135 図 石器 (縄文時代 33)



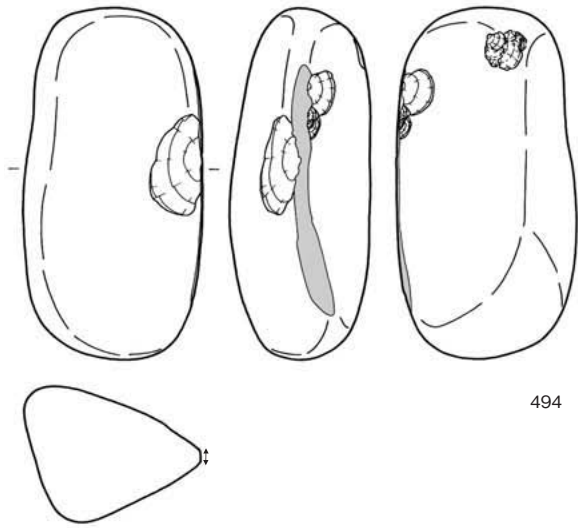
0 (1:3) 10cm

第136図 石器（縄文時代34）

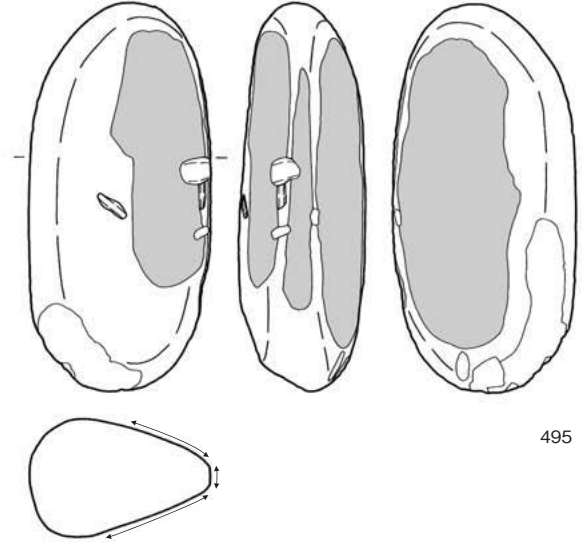


0 (1:3) 10cm

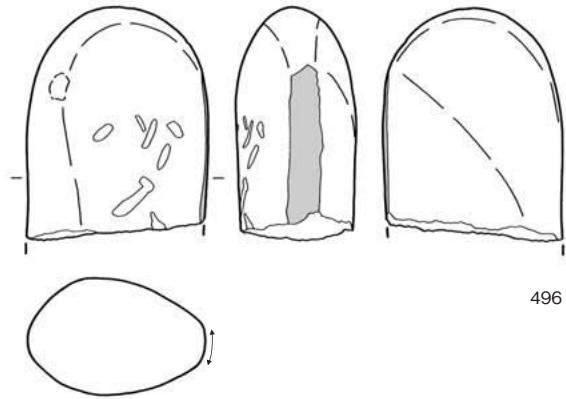
第137図 石器（縄文時代35）



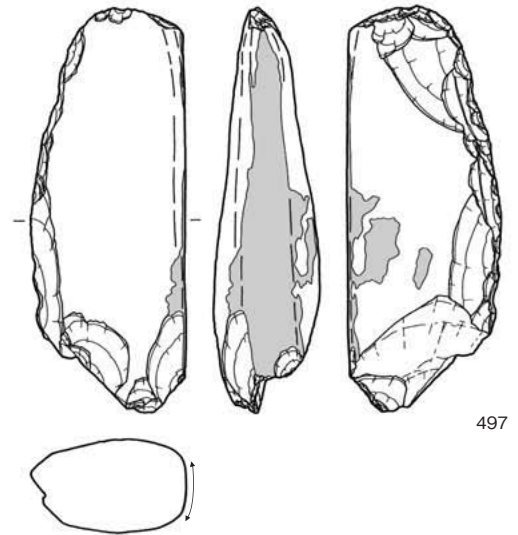
494



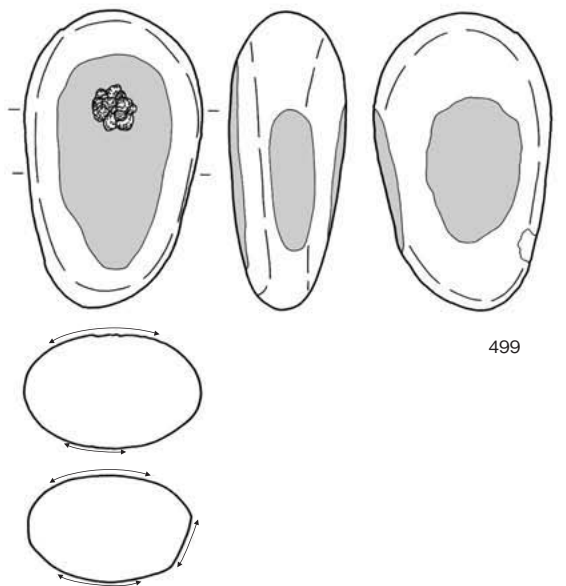
495



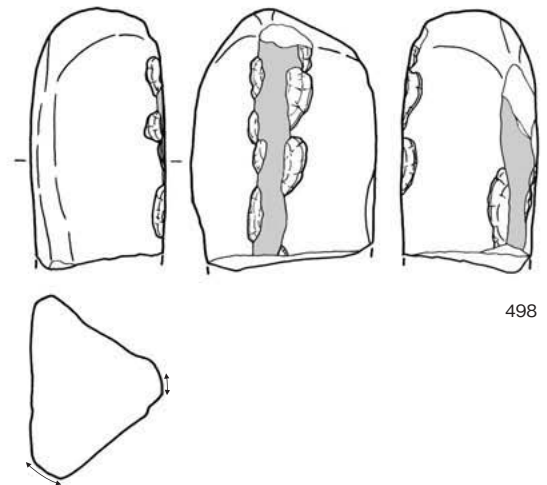
496



497



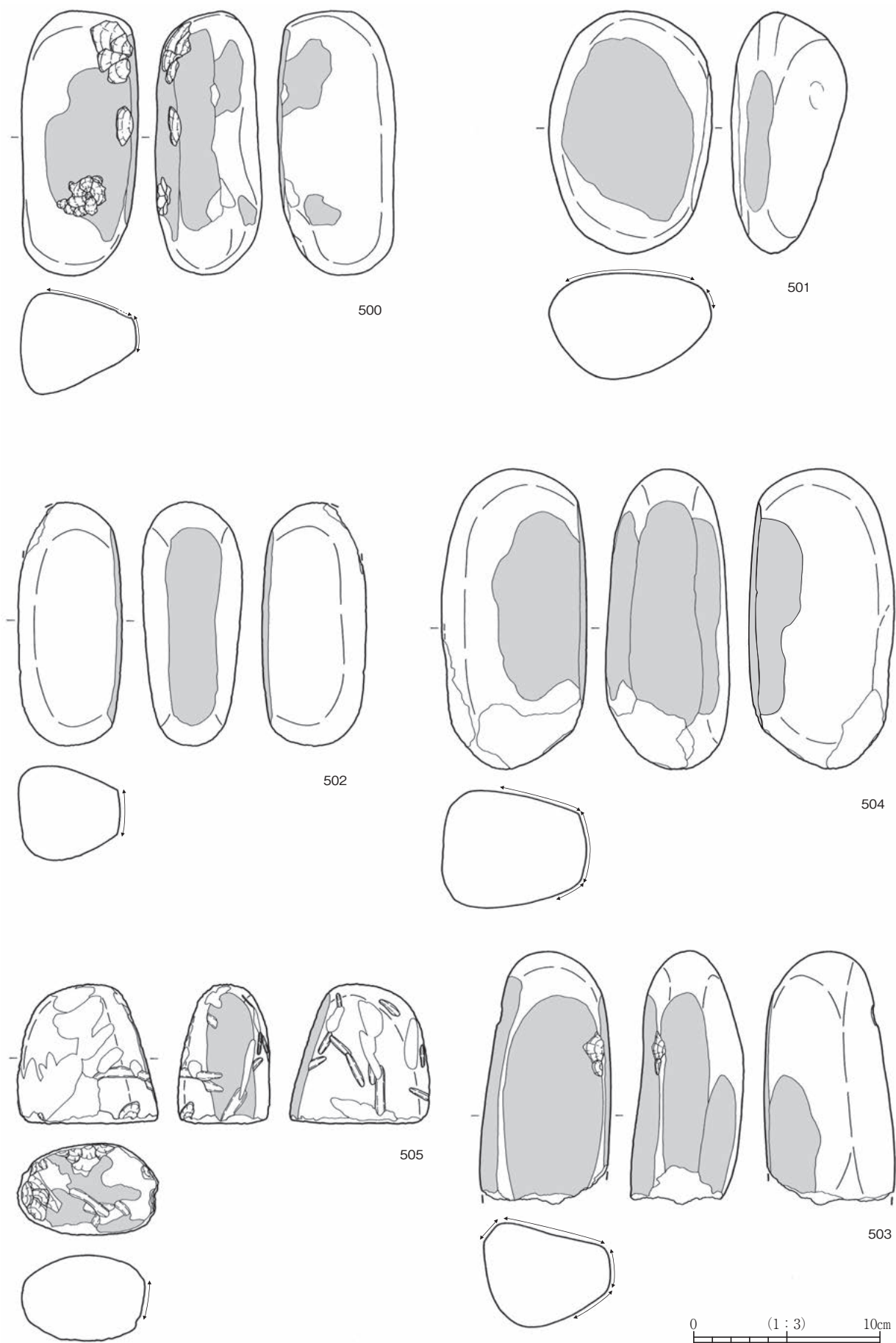
499



498

0 (1:3) 10cm

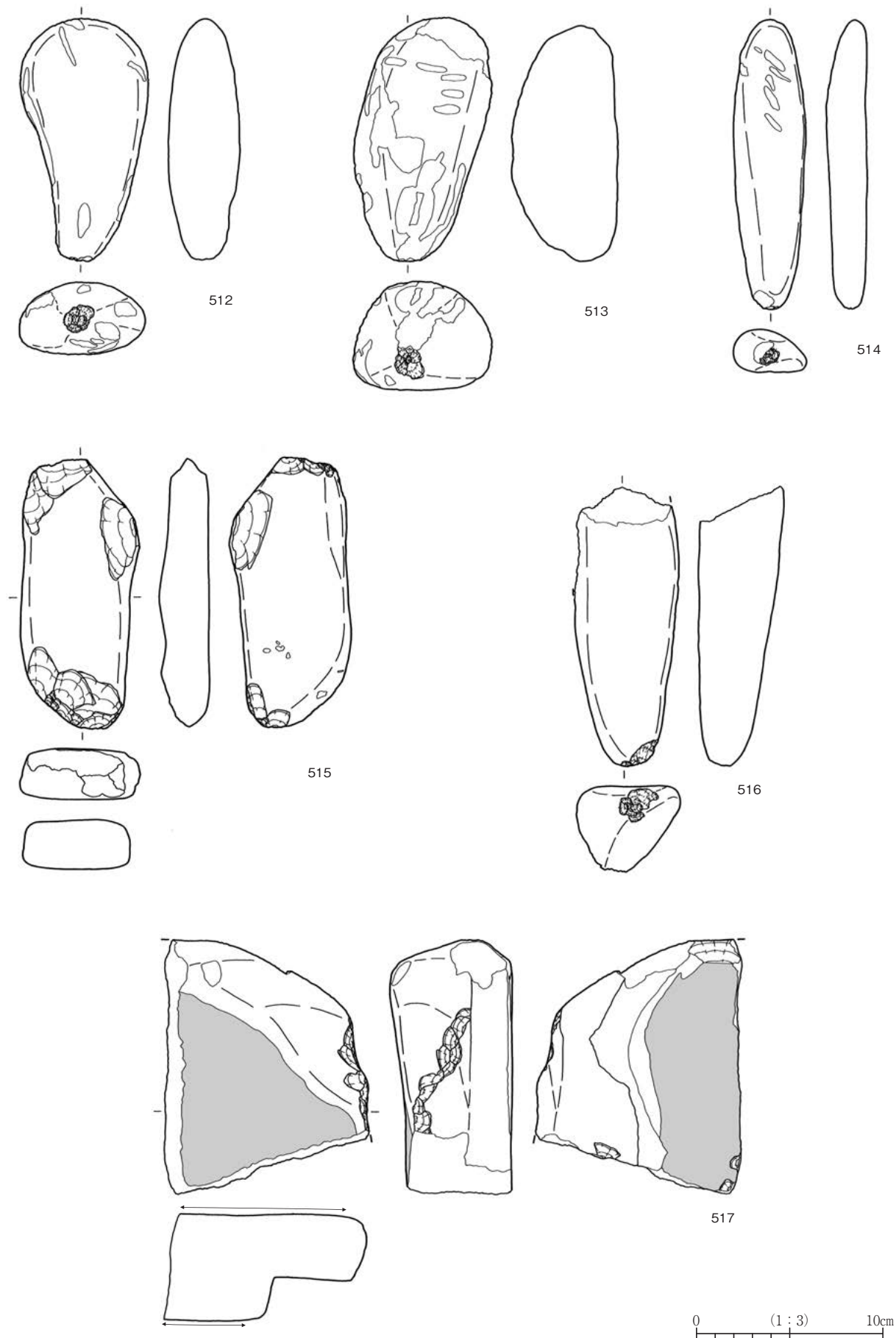
第138図 石器（縄文時代36）



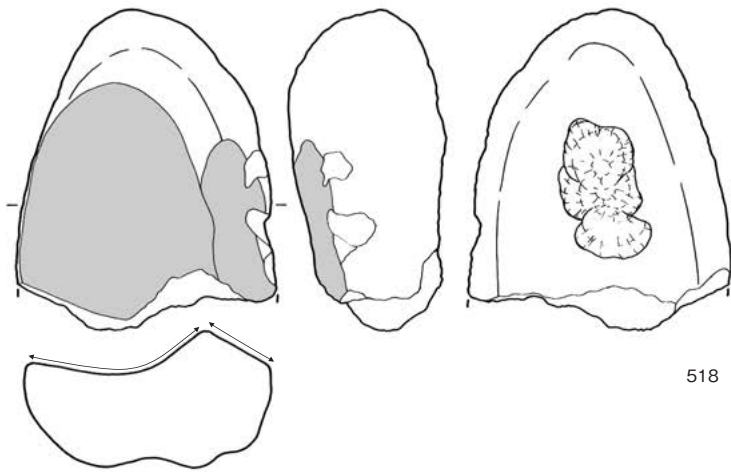
第139図 石器（縄文時代37）



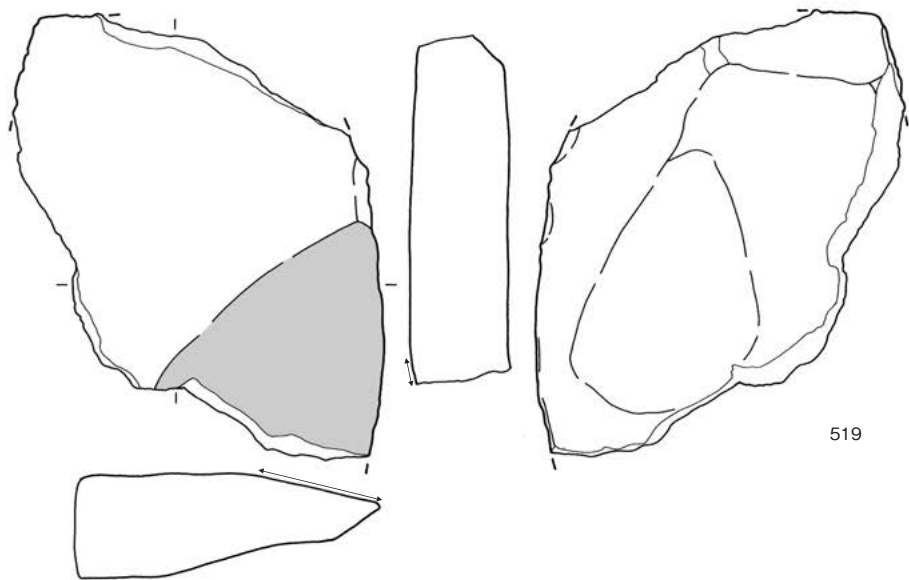
第140図 石器（縄文時代38）



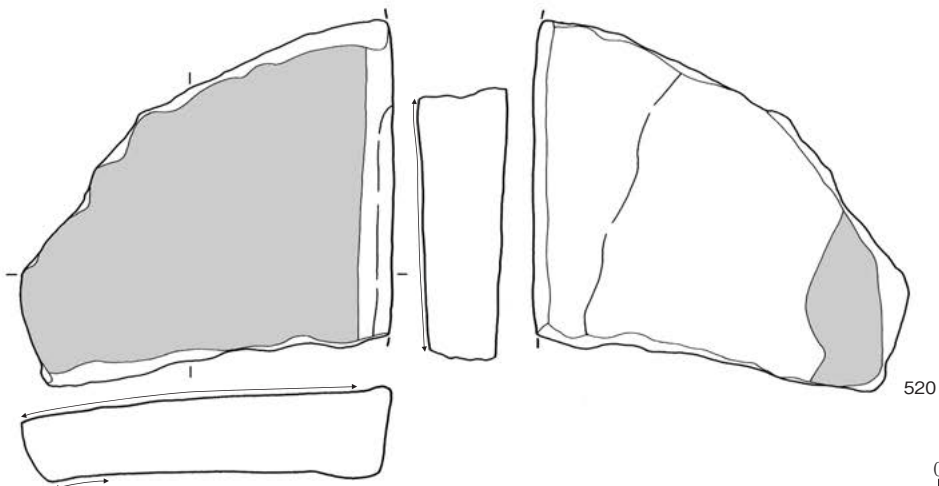
第141図 石器（縄文時代39）



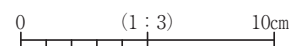
518



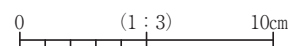
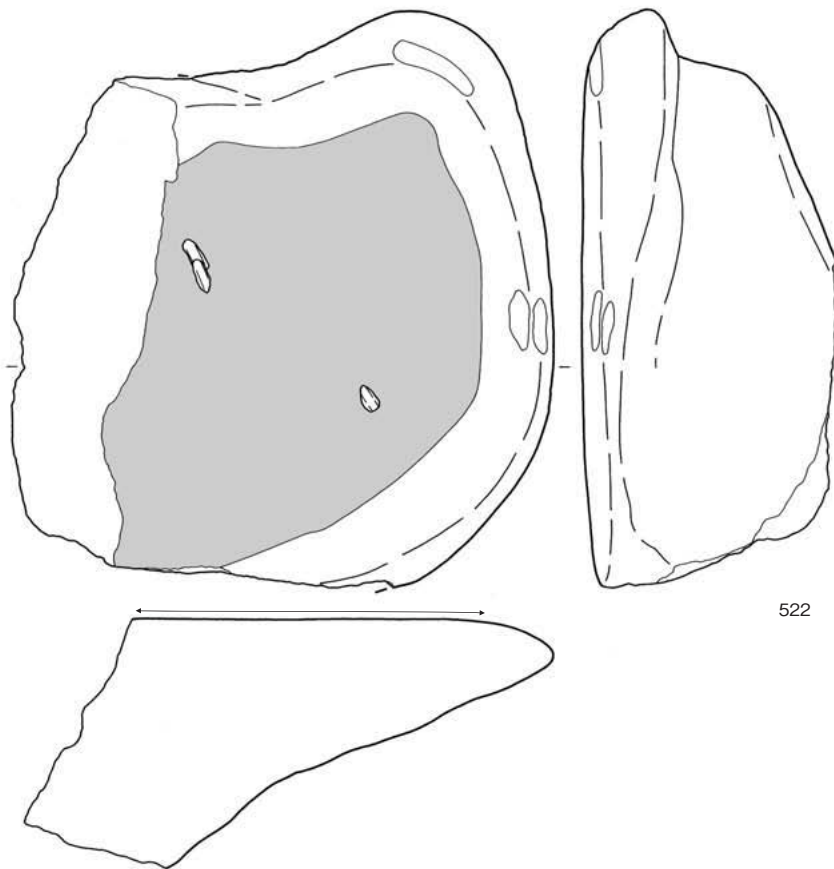
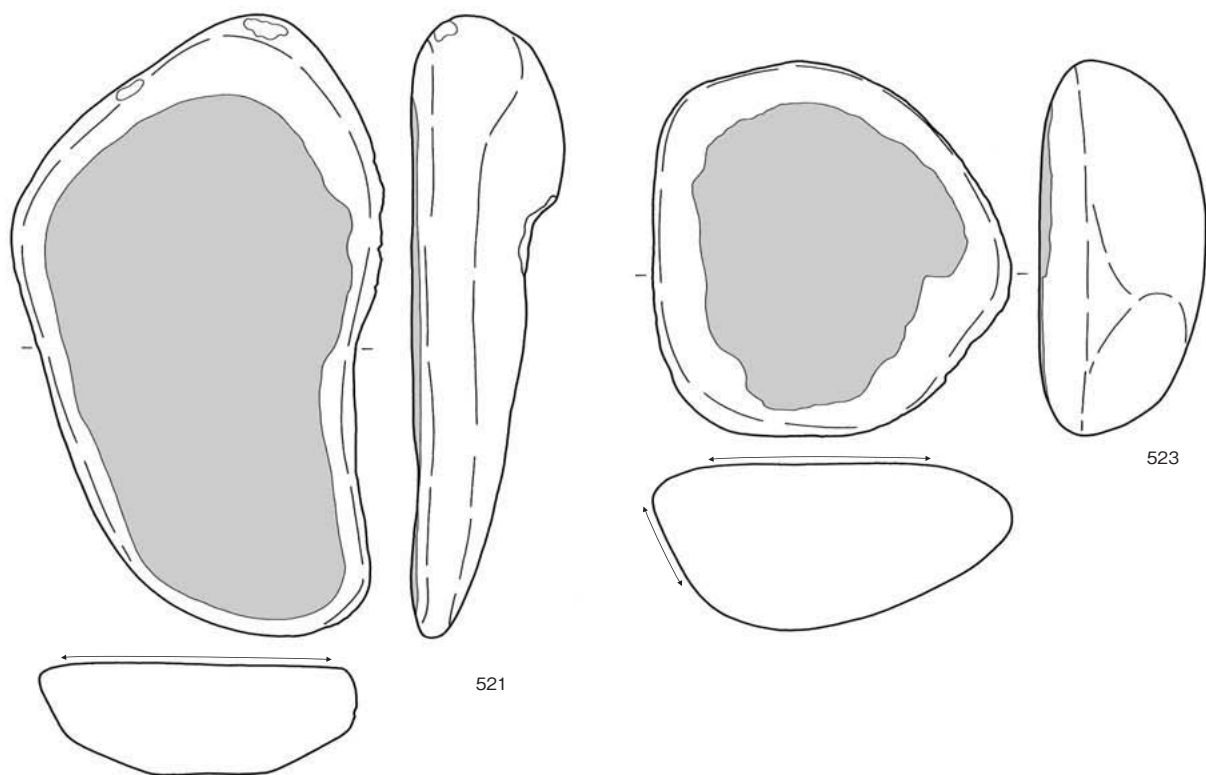
519



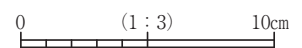
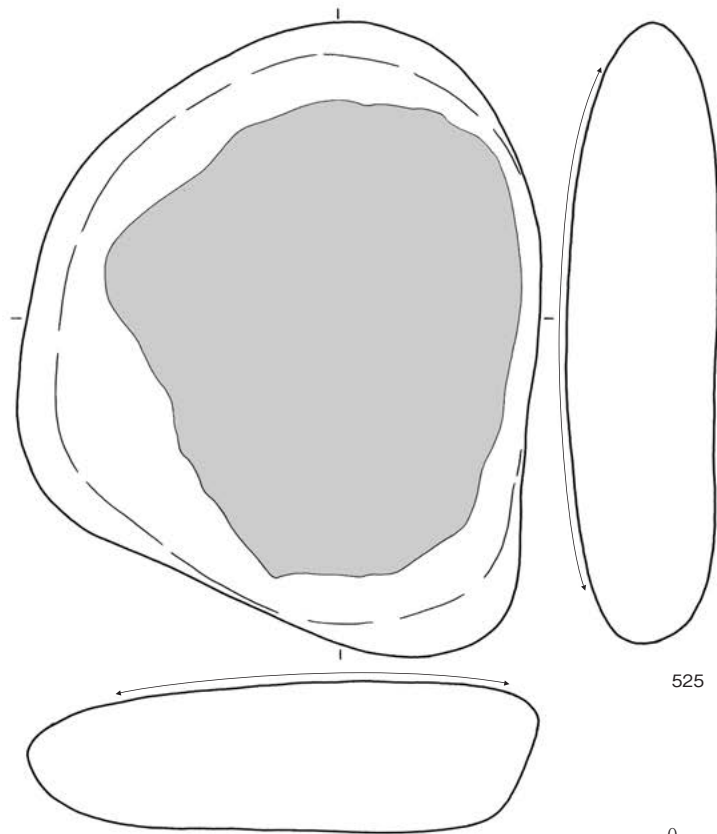
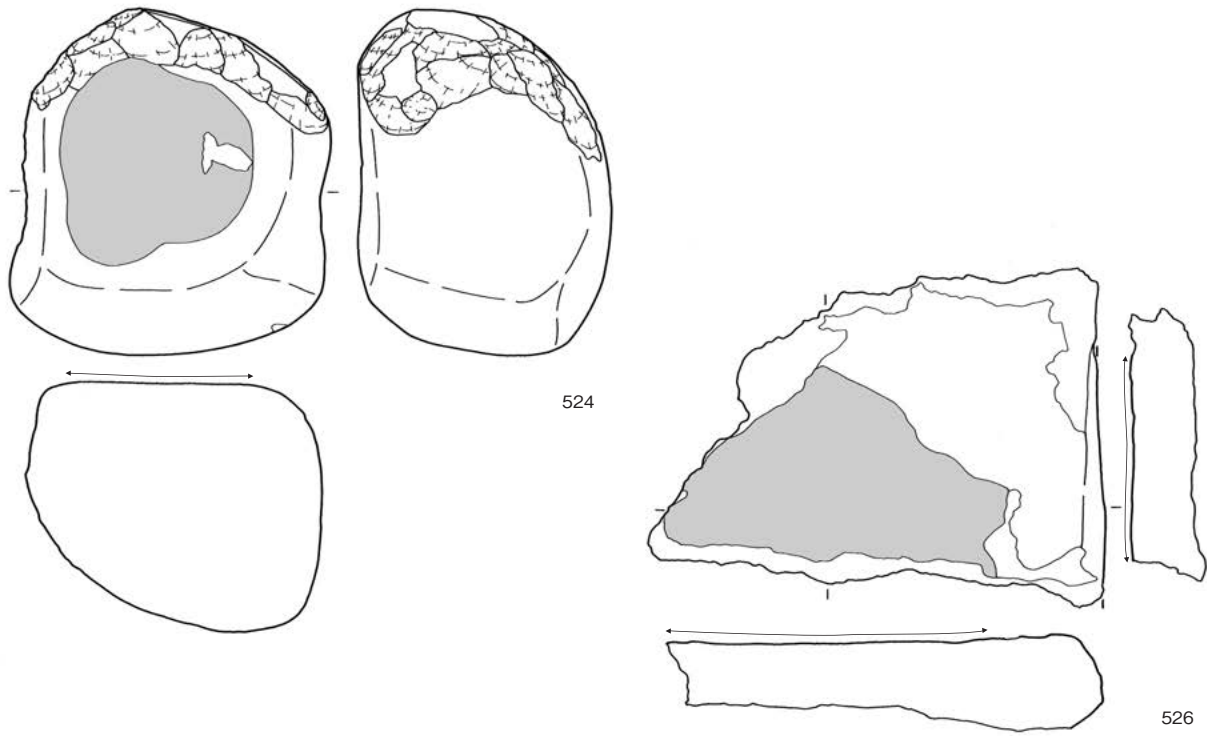
520



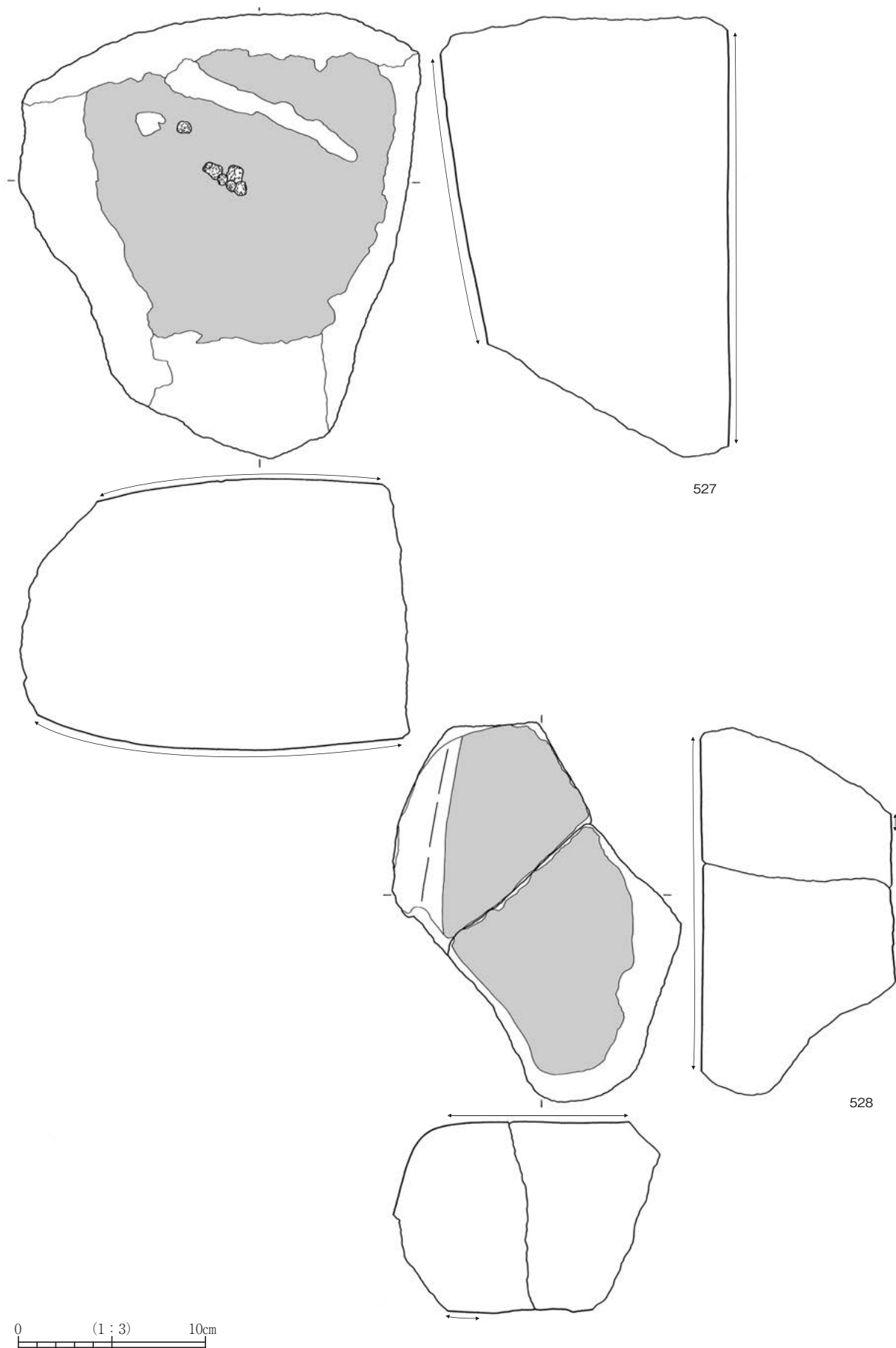
第142図 石器（縄文時代40）



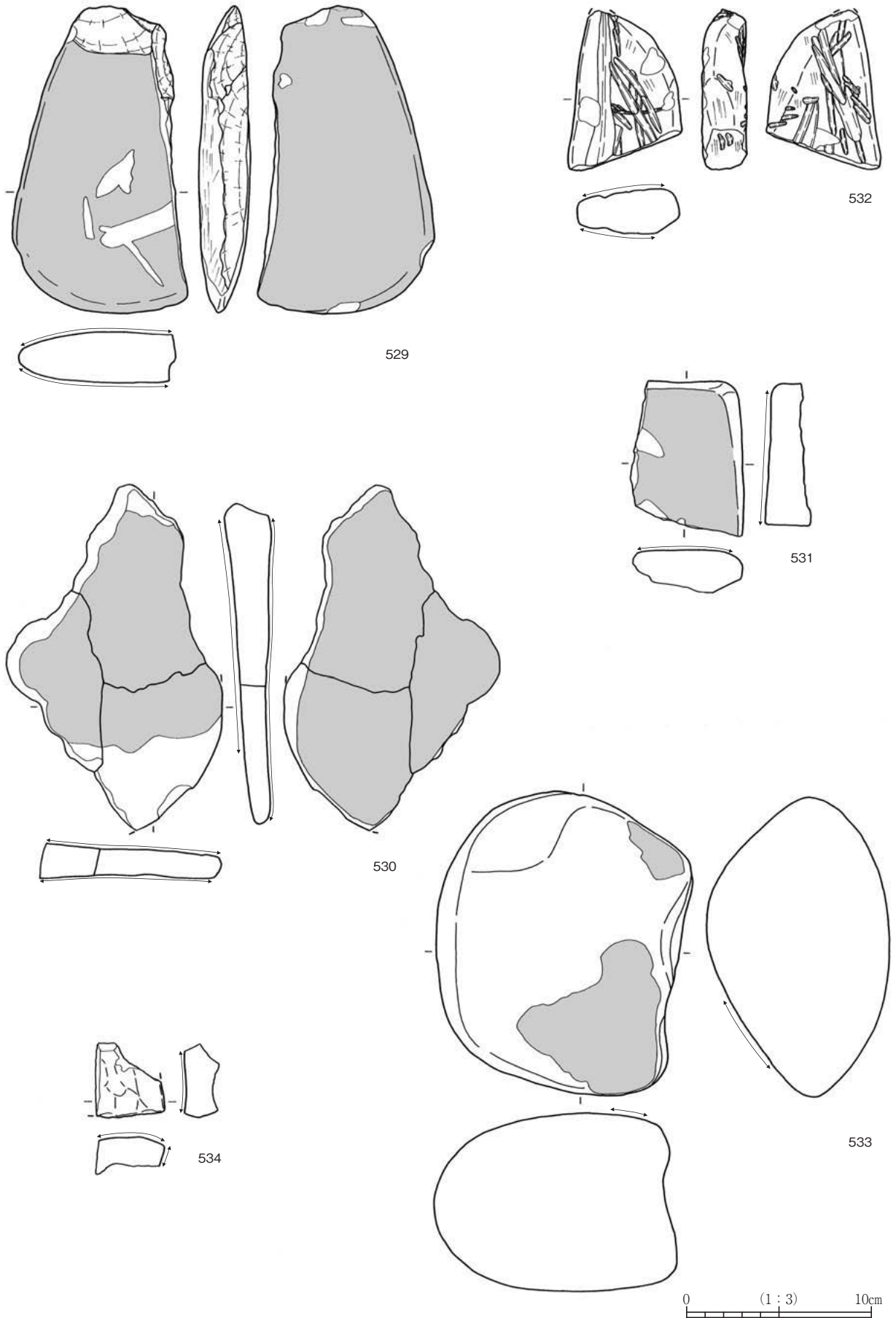
第 143 図 石器（縄文時代 41）



第144図 石器（縄文時代42）



第 145 図 石器（縄文時代 43）



第146図 石器（縄文時代44）

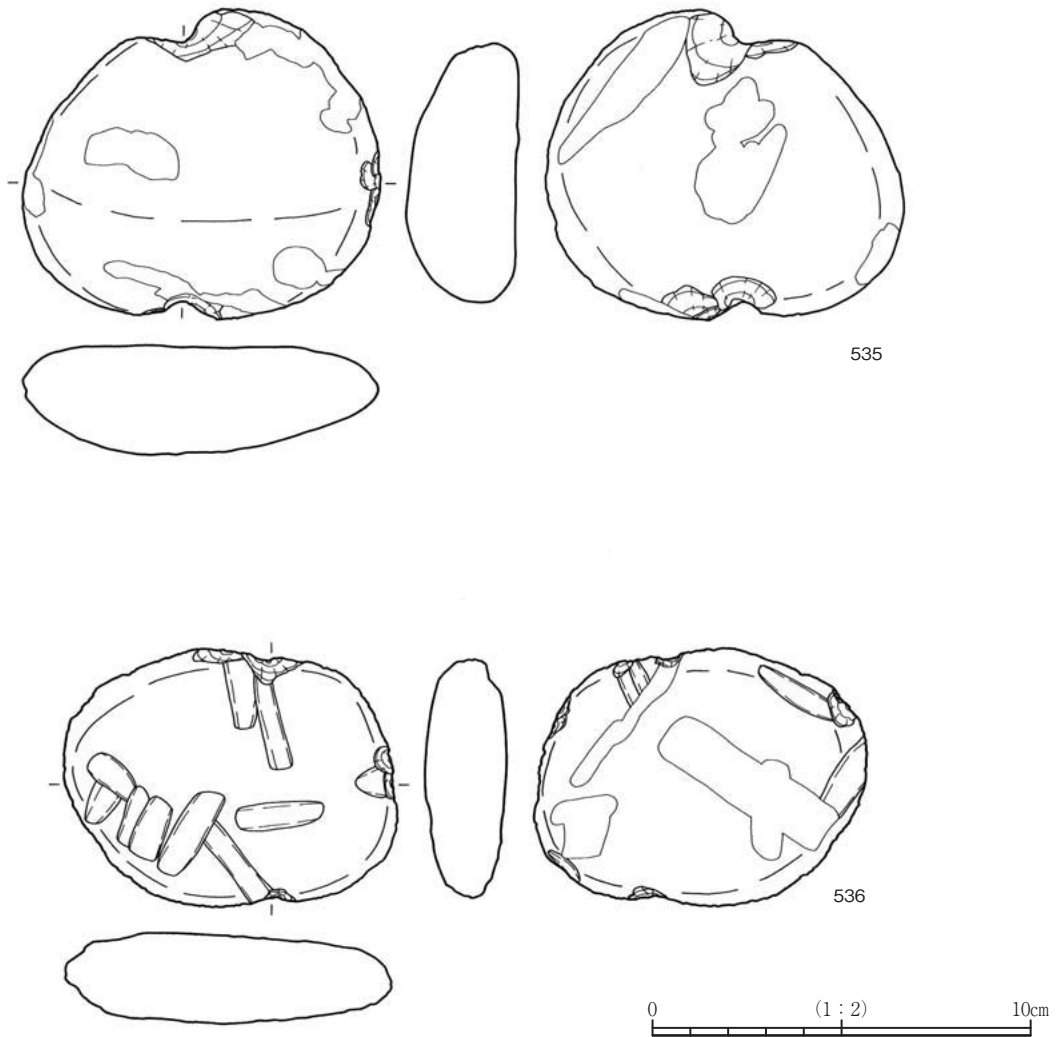
欠いて石錘としている。536の打ち欠きは535と比べると浅い。

(4) 石製品 (縄文時代) (第148~152図、写真図版98・99)

石棒類 (538~545) 欠損しているものが多く、研磨調整の観察できる棒状のものもしくは棒状を呈すると考えられるものを一括した。538は頁岩製のもので一部しか残存しない。断面形は緩やかな弧を呈しており、扁平な楕円形状を呈するものと考えられる。539は頁岩製のもので、一端を大きく欠損している。端部には剥離調痕が残存しており、未製品の可能性がある。540は安山岩製のもので、断面形が丸みを帯び、やや大形のものの可能性が高い。541・542は凝灰岩製のもので、同一個体の可能性が高い。541は端部が残存しており、研磨により平滑になっている。543~545は頁岩製のものである。断面形は、543が円形状、544・545が扁平な楕円形状を呈するものと考えられる。

玉類 (546) 滑石製の玉類である。器長方向に両端からの貫通する孔が穿たれている。管状の工具により孔が穿たれているようで中央に段が残置している。

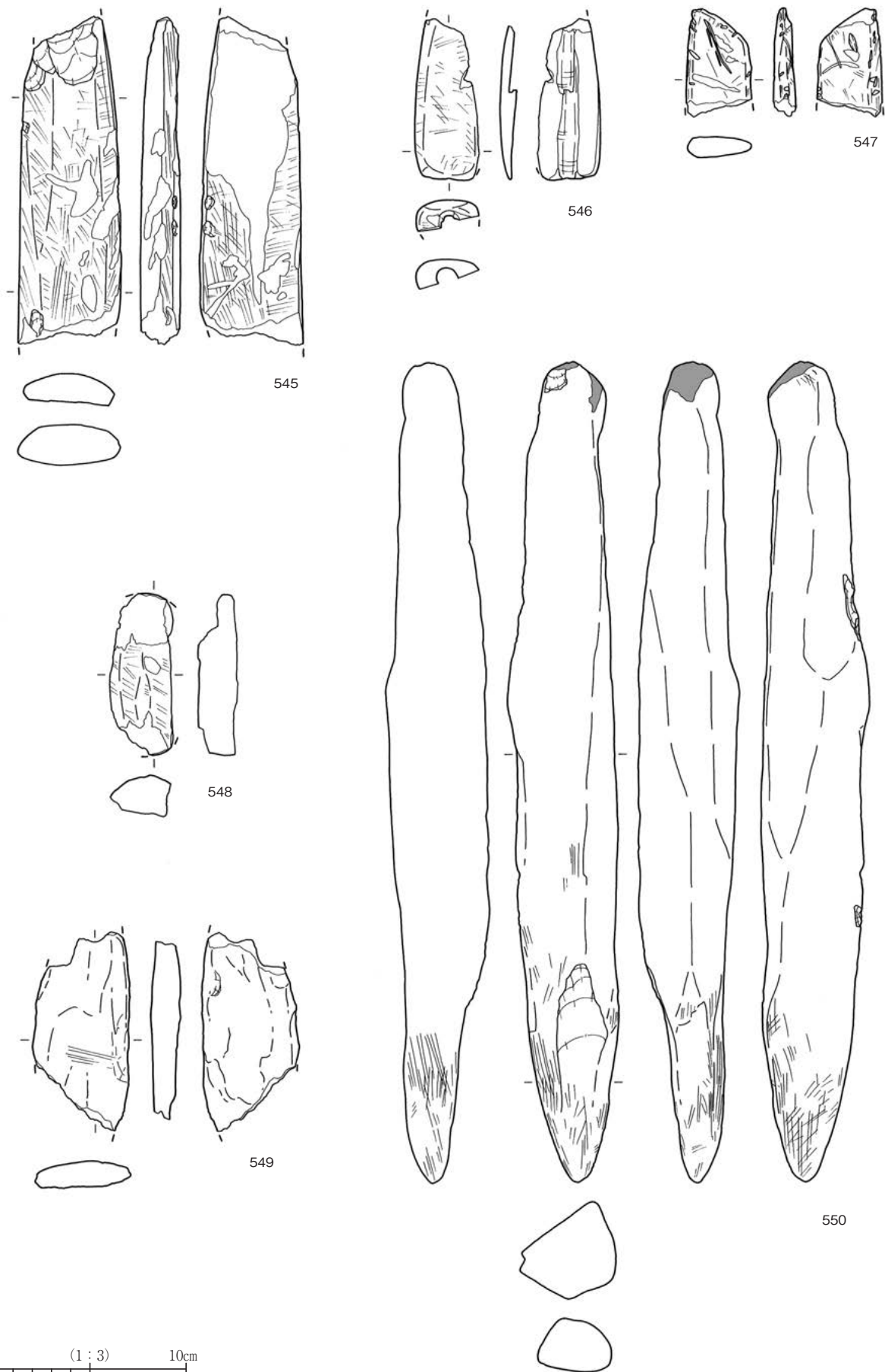
不明石製品 (547~556) 547~549は滑石製のもので、断片的にしか残存していないため、本類としたが、石器石材を考慮すると、玉類やペンダント等の装飾品が想定される。548・549は研磨調整が顕著ではなく、未製品の可能性がある。550は頁岩製のもので、一端に研磨調整を施して尖状に整形している。一部には剥離痕も観察できる。相対する端部には敲打痕が観察できる。551は滑石製のもの



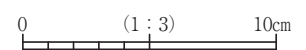
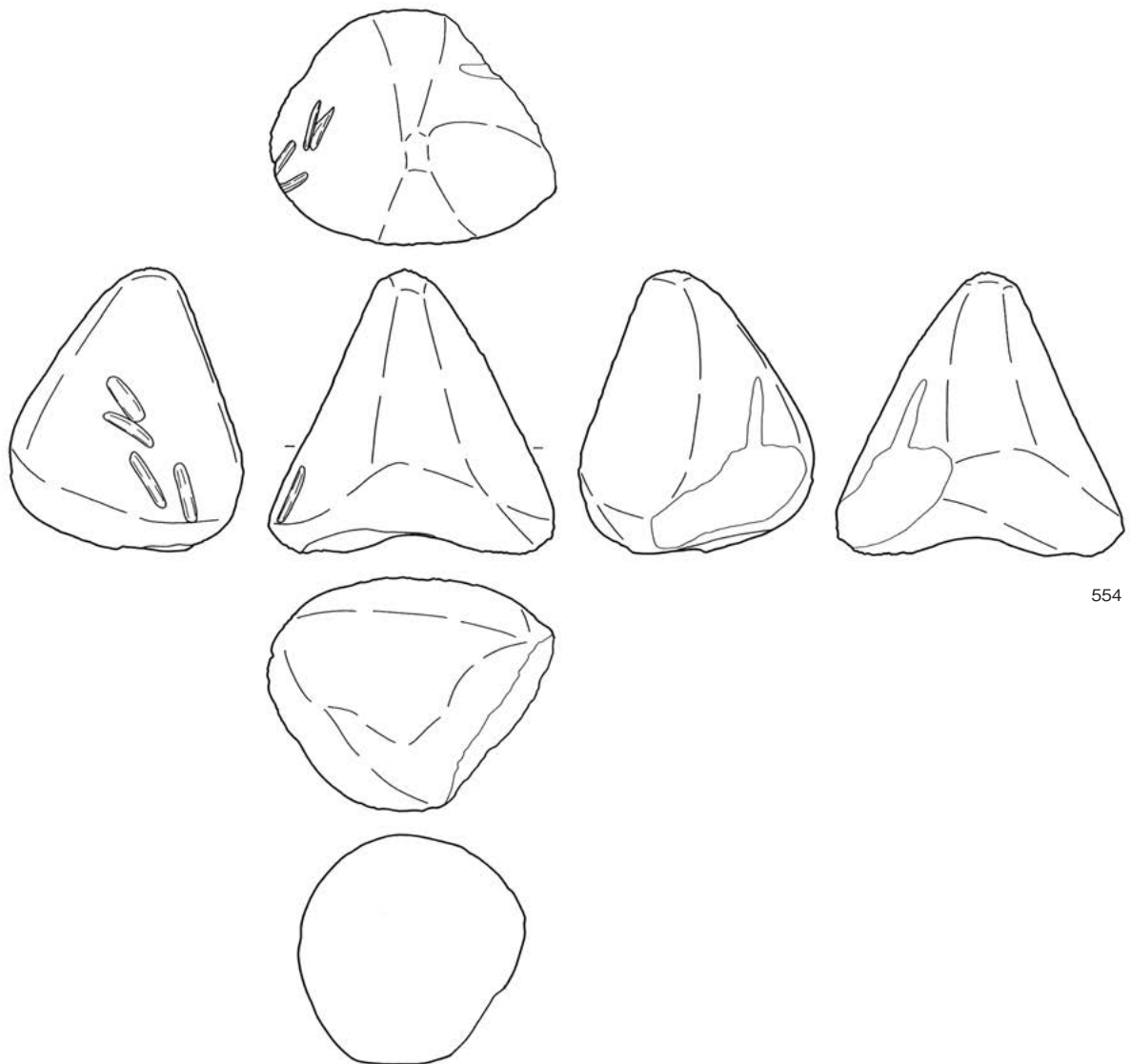
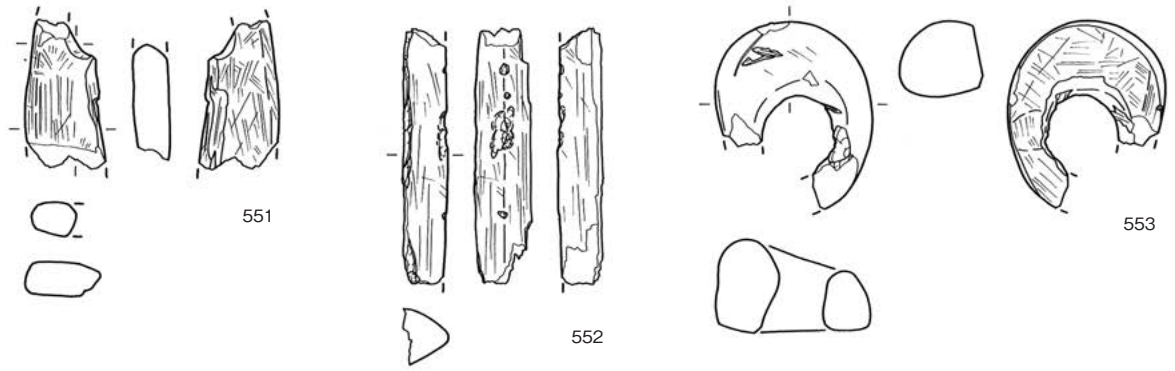
第147図 石器 (縄文時代45)



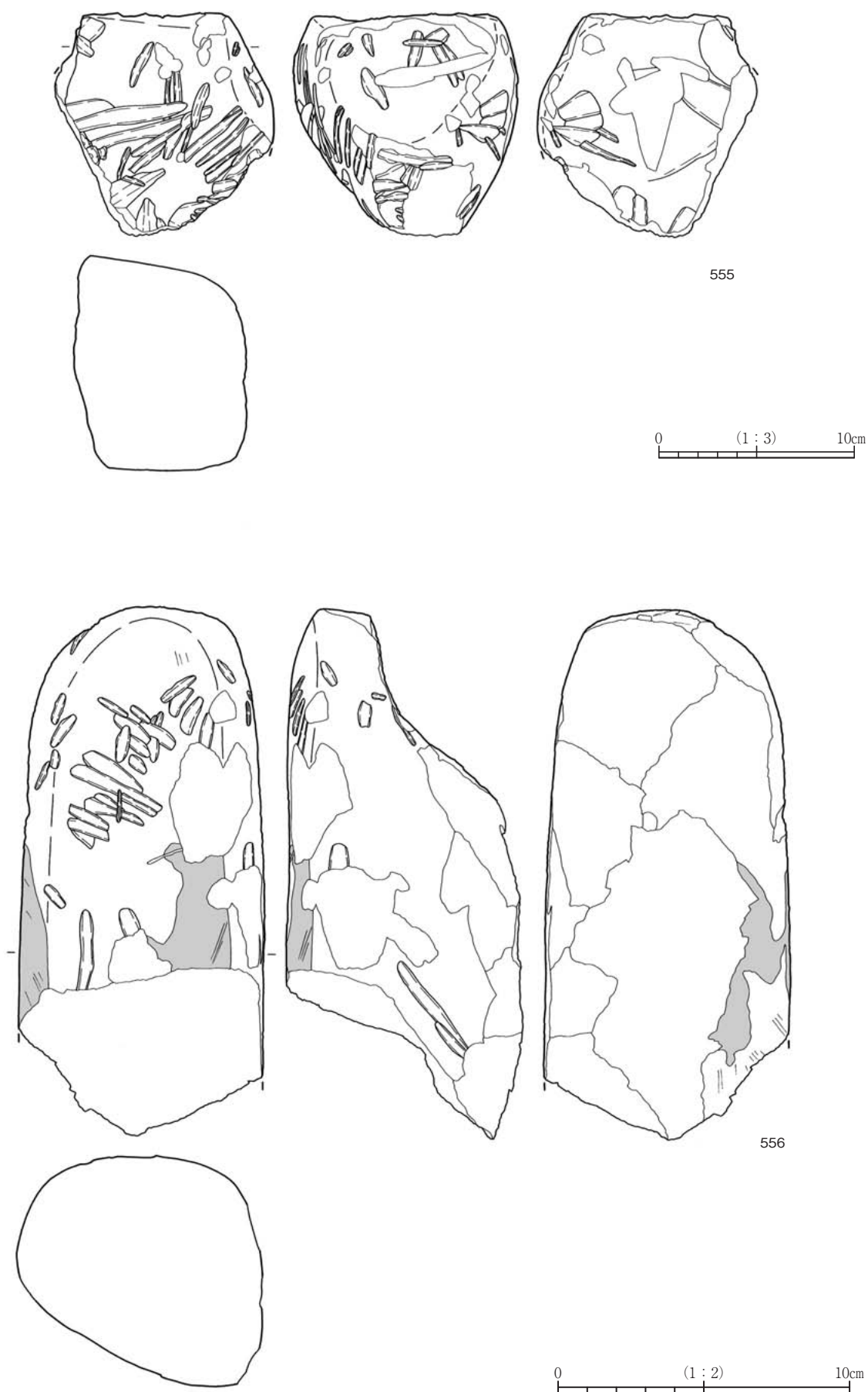
第148図 石器（縄文時代46）・石製品（縄文時代1）



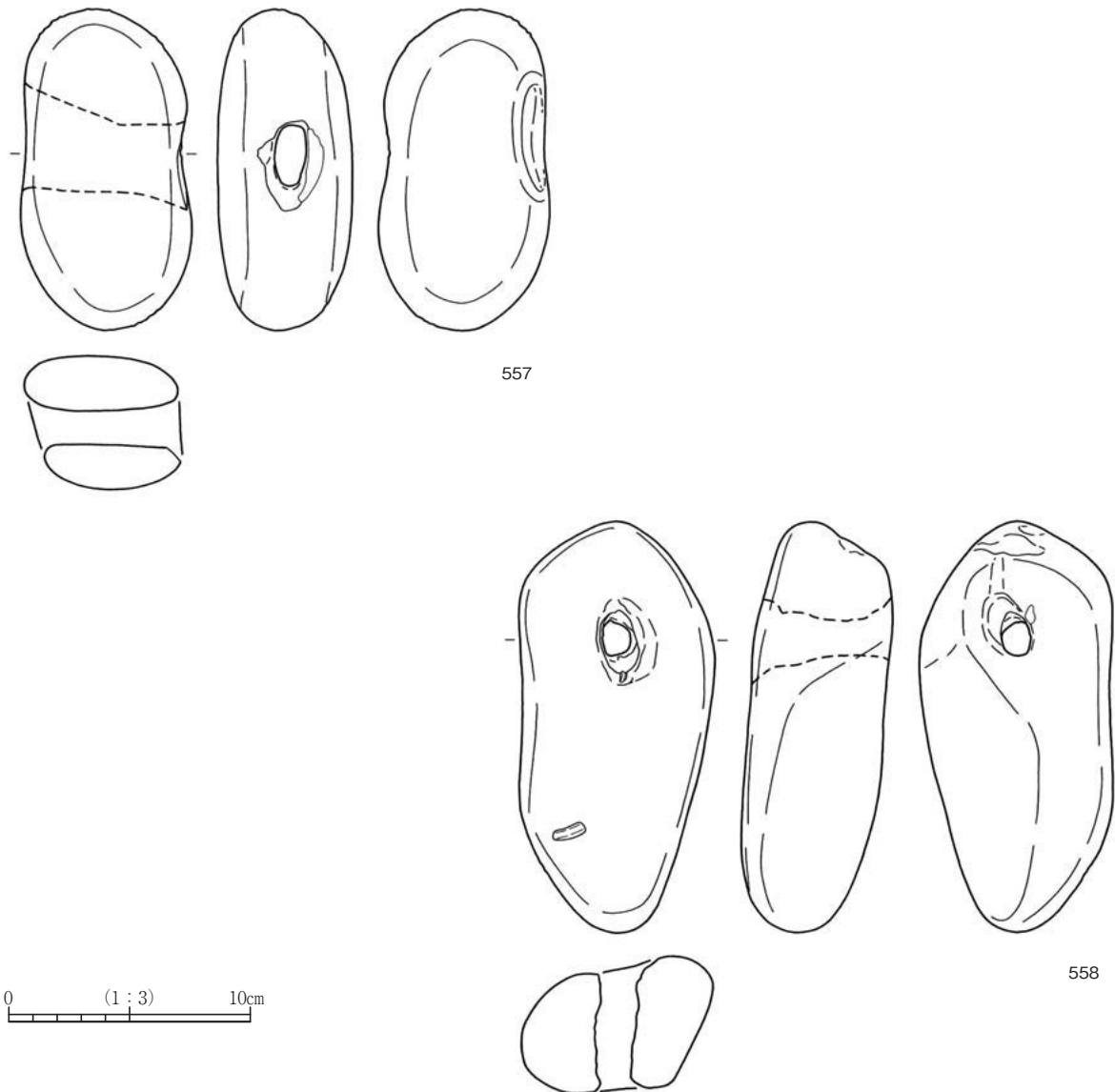
第149図 石製品（縄文時代2）



第150図 石製品（縄文時代3）



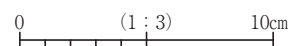
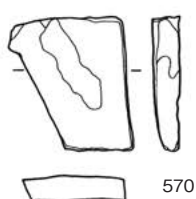
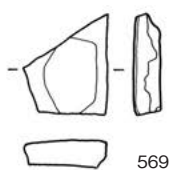
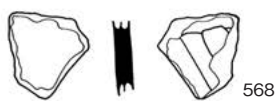
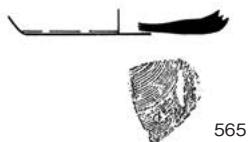
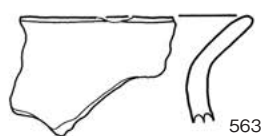
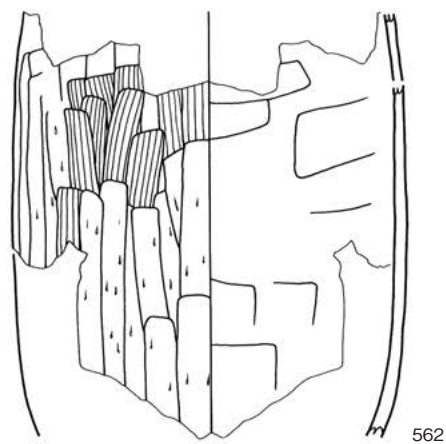
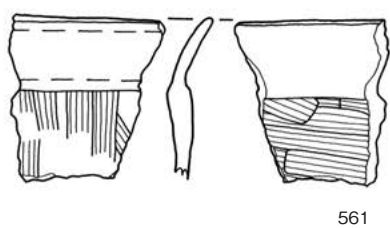
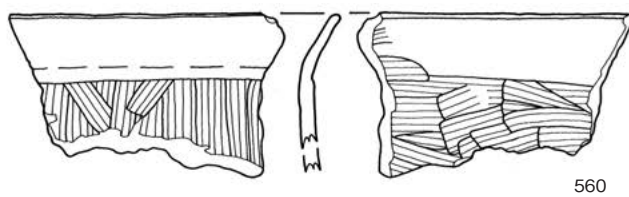
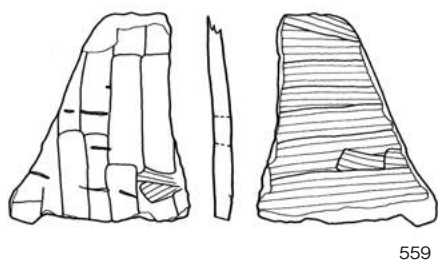
第151図 石製品（縄文時代4）



第152図 石製品（縄文時代5）

のである。一部しか残存しないため、断定はできないが、孔部と思われる弧状に研磨された面と器長方向に切り込みと考えられる面があり、玦状耳飾りの一部である可能性が高い。552は頁岩製のもので、極一部しか残存していない。研磨痕が顕著に観察される。553は凝灰岩製で、中央に大きな孔が穿たれている。片面が研磨により平滑になっている。554は砂岩製のもので、角錐状を呈する。他の石製品より研磨痕は不明瞭である。555は安山岩製で、ブロック状を呈する。広範囲に太い線条痕が観察される。556は安山岩製で、大形のブロック状のものを素材としている。部分的であるが、研磨調整により平滑になった面と太い線条痕が観察される。

有孔石器（557・558） 557・558は凝灰岩製の貫通孔を有する石製品である。557は扁平な楕円形の礫を素材とし、素材礫の短軸方向に両側面から貫通する孔を穿っている。558はやや厚みのある不定形の礫を素材とし、素材礫の端部寄った部分に貫通する孔を穿っている。



第153図 土器（平安時代）

(5) 土器 (平安時代) (第153図、写真図版100)

土師器 (559~563) 559は甕の体部片である。縦方向のヘラナデが観察される。SX01から出土した。560・561は甕の口縁部~体部の同一個体の資料である。口縁部は横ナデ、体部は縦方向のハケが施される。562は甕の体部片である。主に上部はハケ、下部はヘラケズリが施される。561~562はSX21から出土した。563は甕の口縁部片である。横ナデが施されていると考えられるが、器面が摩滅しており、はっきりとしない。SX22から出土した。

須恵器 (564~570) 564は外面にタタキ痕が観察され、甕と思われる資料の体部片である。SD36から出土した。565は数少ない坏の底部資料である。SD37から出土した。566は壺甕類の体部片である。不明瞭で調整痕が観察できない。567は甕の体部片である。外面にはタタキ痕、内面には当て具痕が観察される。566・567はSX26から出土した。568は壺甕類の体部片である。遺構外の出土である。569は甕を、570は瓶類を硯に転用したものと考えられる資料である。2点とも中央部は平滑になっている。墨などの付着物は確認できなかった。569はSD102から、570は④のⅡ層から出土した。

(6) か わ ら け (第154図、写真図版101)

571はSD21から出土した高台付皿である。高台を欠損している。572~574はSD51から出土したてづくねのかわらけである。572は約1/4、573は口縁部から底部の一部、574は口縁部から体部の一部が残存する。575は東区南の排土で確認したもので、てづくねの大皿の底部片と考えられる。

(7) 陶器 (中近世) (第155・156図、写真図版101・102)

576~582は常滑産の陶器である。576は壺の体部片で、内外面に自然釉が見られる。肩の部分はなだらかである。部分的に輪積み痕も観察できる。SK121から出土した。577・578は壺甕類の体部上半の資料である。外面に自然釉が見られる。577はSD101から、578はSX26から出土した。579は大甕の体部上半の資料である。外面には自然釉が見られる。③のⅡ層から出土した。580・581は壺甕類の体部上半の資料である。外面に自然釉が見られる。2点とも遺構外出土である。582は壺甕類の頸部片である。外面に自然釉が見られる。遺構外出土である。

583・584は渥美産の陶器である。583は甕類の体部上半の資料で、外面に押印文が見られる。SD51からてづくねかわらけとともに出土している。584は甕類の体部下半の資料である。外面に押印文が見られる。②のⅡ層から出土した。

585は珠洲系の陶器で、甕類の体部下半資料である。外面に押印文が見られる。SD27から出土した。

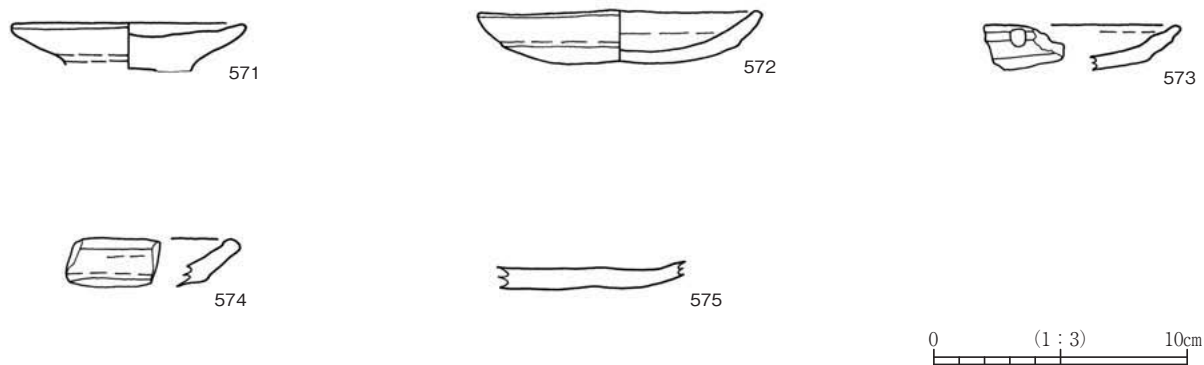
586~588は瀬戸美濃産の陶器である。586は瓶類の体部片である。GのⅠ層から出土した。587は丸皿の口縁部片である。CのⅡ層から出土した。588は志野皿と呼ばれるもので、口縁部~底部が残存している。内面には鉄絵が施されている。

589は産地不明の陶器である。甕類の体部下半の資料である。外面に鉄釉が施されている。

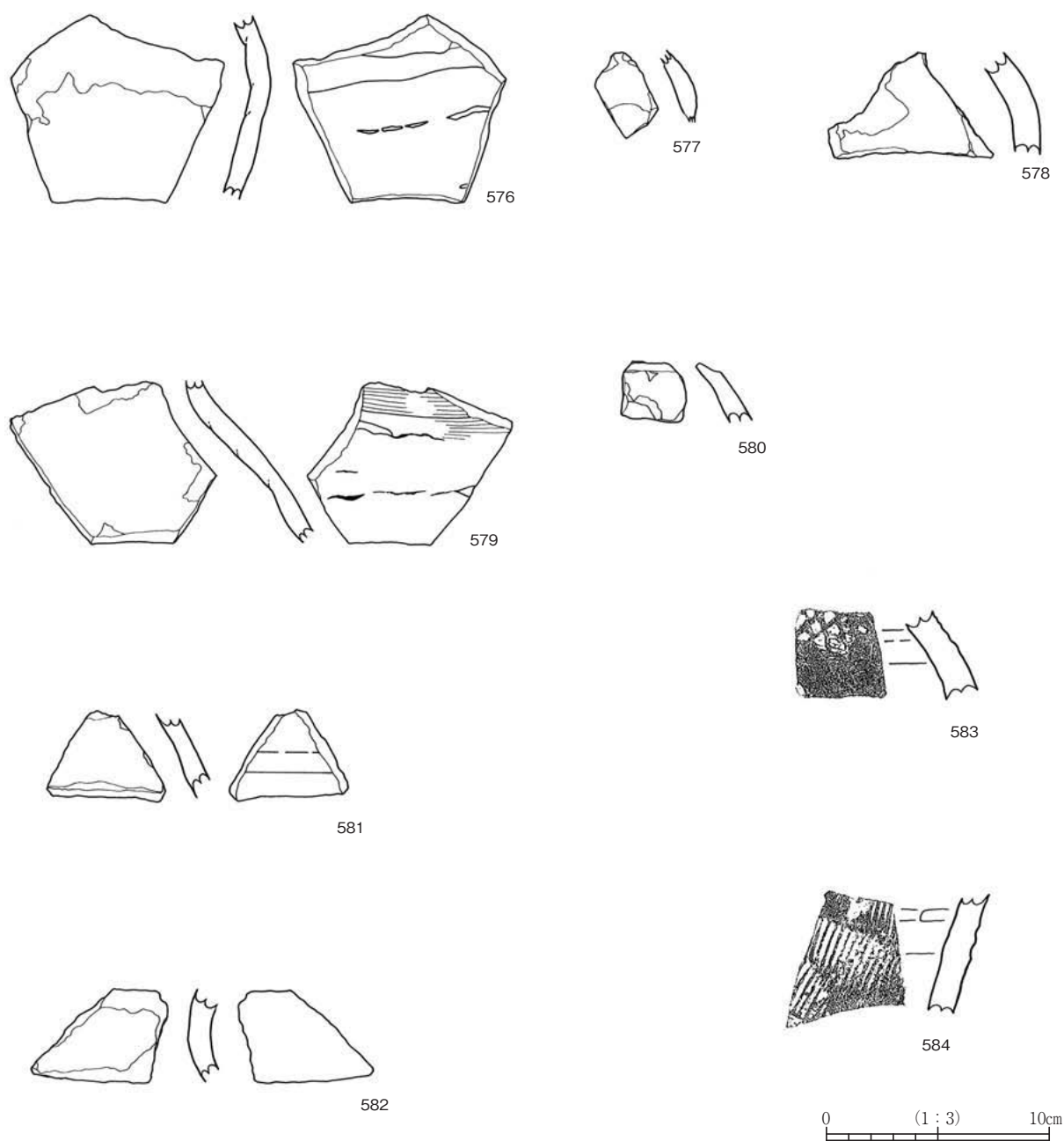
(8) 磁器 (中近世) (第157図、写真図版102)

590・591は龍泉窯系の青磁皿である。590は底部片で、内面に草花文と考えられる文様が描かれている。591は高台部のみ資料である。2点とも遺構外出土である。

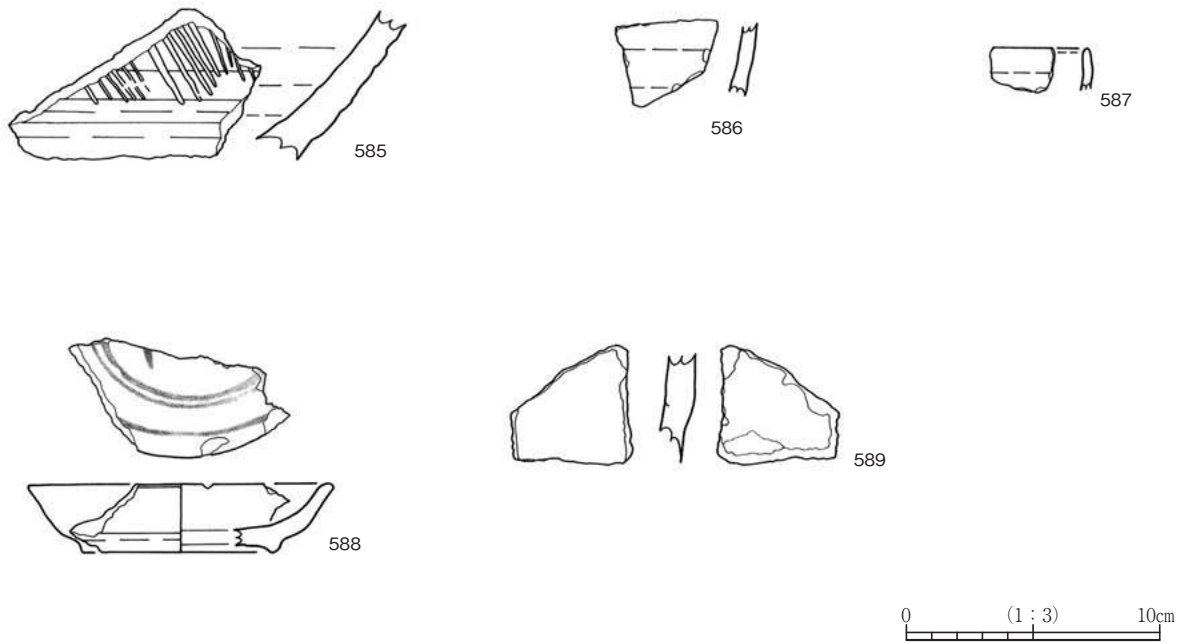
592~595は肥前産の磁器である。592は碗の口縁部片で、雪輪梅樹文と考えられる文様が描かれている。SD101から出土した。593はほぼ完形の皿である。見込みに角福が描かれている。⑩のⅡ層上



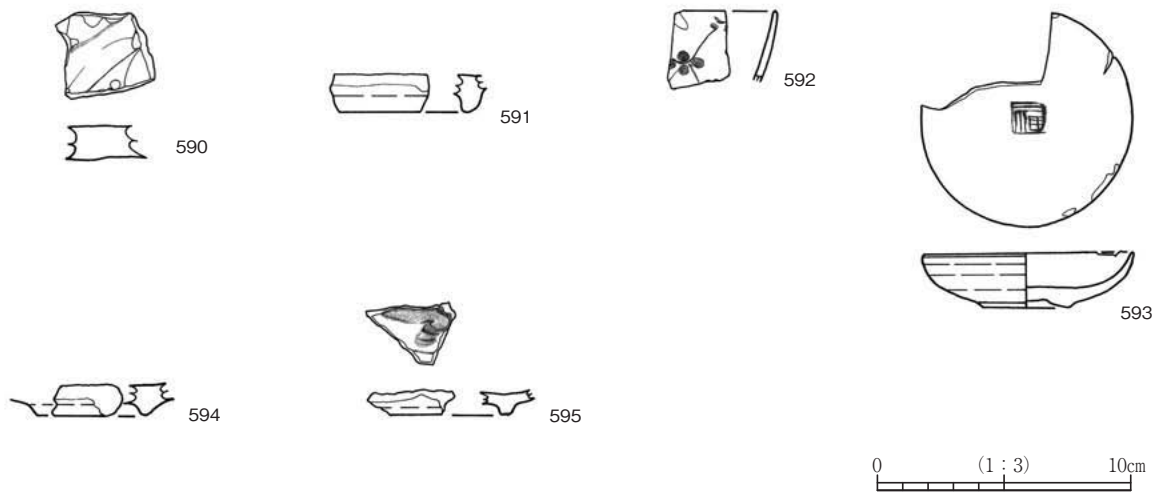
第 154 図 かわらけ



第 155 図 陶器 (中近世 1)



第 156 図 陶器（中近世 2）



第 157 図 磁器（中近世）

部から出土した。594・595 は皿の底部片である。595 の内面には文様が描かれているが、断片的であるため、詳細は不明である。2 点とも遺構外出土である。

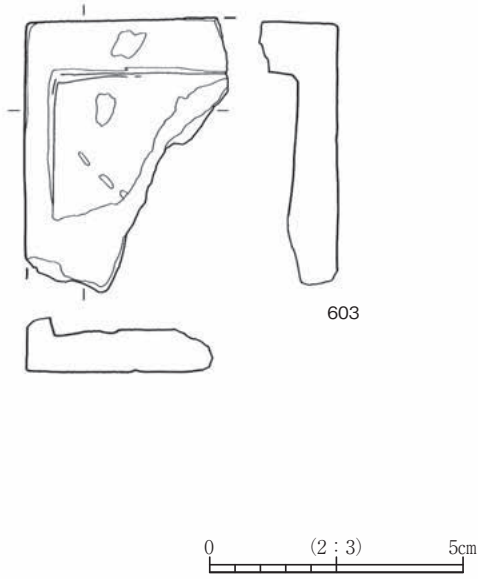
（9）石器（古代以降）（第 158 図、写真図版 103）

596 は石皿である。安山岩製で、片面に使用面が観察される。SD71 から出土した。

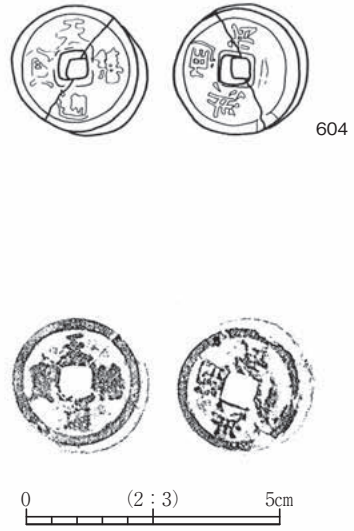
597～602 は砥石である。597 は安山岩製のもので、片面に使用面とともに、幅 1～1.5cm の溝状の使用痕が観察される。SD19 から出土した。598 はデイサイト製のもので、片面に使用面が観察される。599 は安山岩製のもので、表面及び側面に使用面が観察される。600 は安山岩製のもので、3 面に使用面が観察される。598～600 は SD28 から出土した。601 はデイサイト製のもので、長方形を呈する。



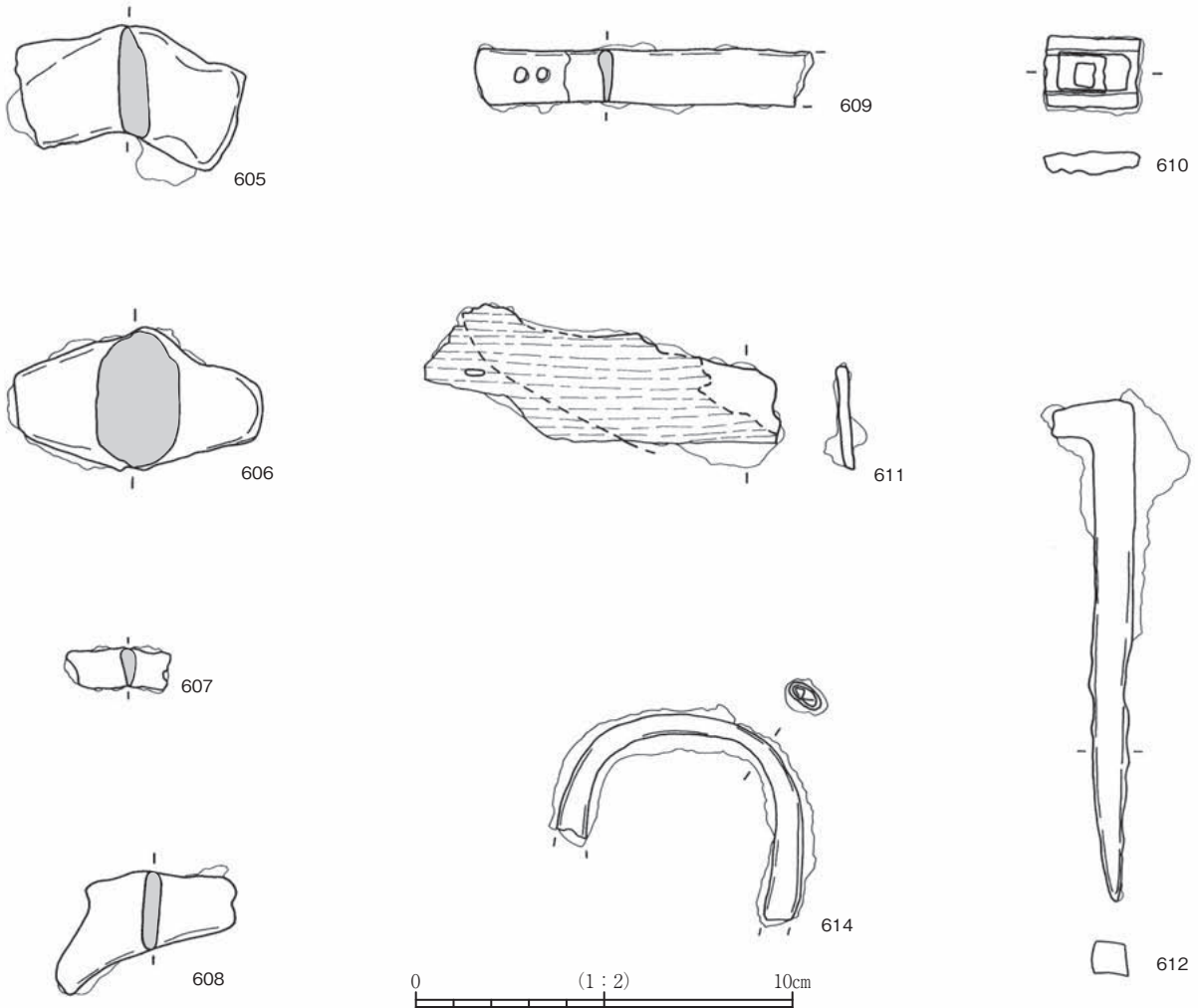
第 158 図 石器・石製品 (中近世)



第159図 硯 (古代以降)



第160図 銭貨



第161図 金属製品

3 出土遺物

表裏2面に使用面が観察される。SK38から出土した。602はデイサイト製で、棒状の礫を利用している。素材礫の長軸方向に3面の使用面が観察される。SD103から出土した。

(10) 硯（古代以降）（第159図、写真図版103）

603は頁岩製の硯である。残存する面に入念な整形が行われている。

(11) 銭 貨（第160図、写真図版103）

604はSK29から出土したもので、洪武通寶と天禧通寶の背面同士がついたものである。脆いため、分離はしなかった。

(12) 金 属 製 品（第161図、写真図版103）

605・607・608は板状の鉄製品である。断面形は扁平な楕円形状を呈し、刃部等の鋭利な縁辺は認められない。606は断面形が六角形を呈する不明鉄製品である。605～608はSD51から出土した。609は小刀の茎部である。目釘穴が2箇所確認できる。①のⅡ層から出土した。610は金具の一部と考えられる。－DのⅡ層から出土した。611は小刀の茎部と考えられる資料である。木質部も残存している。遺構外出土である。612は角釘である。遺構外出土である。613は不明鉄製品である。EのⅡ層から出土した。614は青銅製のもので、板状の銅板を何重にも巻いて筒状にしている。

第6表 土器観察表(縄文時代1)

掲載No	出土地点・層位	器種	部位	文様等	対比形式	分類	図版	写図
1	SI02 b 埋土上部	深鉢	口体	口唇鋸歯状裝飾体 (M)、地: 単絡 1R?	5	V VII	85	66
2	SI02 b 埋土上部	深鉢	口	口唇鋸歯状裝飾体 (M)、地: 単絡 1L	5		85	66
3	SI02 b 埋土上部	深鉢	口	細粘土紐貼付 (鋸)、地: 単絡 1L?	5		85	66
4	SI02 SE 埋土	深鉢	口	口唇鋸歯状裝飾体 地: LR	5		85	66
5	SI02 b 埋土上部	深鉢	口体	地: 単絡 1R	5~6		85	66
6	SI02 NE 埋土上~中部	深鉢	口体	地: 単絡 1L	5~6		85	66
7	SI02 SE 埋土上~中部⑥	深鉢	体底	地: 単絡 1R?	5~6		85	66
8	SI02 埋土	深鉢	体底	地: 単絡 1L?	5~6		85	66
9	SI12 壁 埋土	深鉢	口体	口唇肥厚 + 沈線 頸: 沈線 (鋸・平・半竹) 体: B貼、沈線 地: LR	6	III	86	67
10	SI12 b1 層	鉢?	口体	口: 沈線 (横・半竹)、B貼 地: LR	6		85	66
11	SI12 b1 層	深鉢	体	太粘土紐貼付 (全体を押圧)	6		85	66
12	SI12 南側 埋土	深鉢	体	斜行沈線 (半竹) 地: LR	6		85	66
13	SI12 北側 埋土	深鉢	体	沈線 (縦: 半竹) 地: LR	6		86	66
14	SI12 北側 埋土	深鉢	体底	無文 ※器面摩滅	(6)	III VI	86	67
15	SI13 中央 床面直上	深鉢	口体	口: 太粘土紐貼付 (縦・斜・横) + 沈線 (半竹)、斜行沈線 (半竹) 体: 鋸歯状沈線 (半竹)・重層平行沈線 (半竹) ※16 と同一個体	6		86	67
16	SI13 北側 土器集中	深鉢	口	太粘土紐貼付 (縦・斜・横)、沈線 (横・斜・波状) ※器面摩滅、15 と同一個体	6		86	67
17	SI13 b1 層	深鉢	口体	口唇: 環貼・太粘土紐貼付 (縦・弧) 口: 重層鋸歯状沈線 (半竹) 区: 隆帯 + 刺突 (半竹?) 体: 鋸歯状沈線 (半竹)・平行沈線 (半竹) 地: LR ※18・19 と同一個体	6		86	67
18	SI13 中央 床面直上	深鉢	体	B貼、重層平行沈線 (半竹)・重層鋸歯状沈線 (半竹)、斜行沈線 (半竹) 地: LR? ※17・19 と同一個体	6		86	67
19	SI13 南側 土器集中	深鉢	口	太粘土紐貼付 (弧)、沈線 (半竹) 区: 隆帯 ※17・18 と同一個体	6		87	67
20	SI13 南側 土器集中	深鉢	口	口唇: 環貼・太粘土紐貼付 口: 鋸歯状沈線 (半竹) 地: LR ※30 と同一個体か	6		87	67
21	SI13 b1 層	深鉢	口	口唇: 環貼 + 押圧・縦位沈線 (太) 口: B貼、平行沈線 (半竹)・鋸歯状沈線 (半竹) 地: LR	6		87	68
22	SI13 中央 床面直上	深鉢	体	B貼、鋸歯状沈線 (半竹)・重層平行沈線 (半竹)、沈線 (縦・斜: 半竹) 地: LR ※35 と同一個体	6		87	68
23	SI13 南側 土器集中	深鉢	口体	口: B貼、沈線 (鋸歯・横: 半竹) 体: 沈線 (縦・斜・鋸歯: 半竹) 地: LR ※24・25 と同一個体	6	V	87	68
24	SI13 南側 土器集中	深鉢	体	沈線 (鋸歯・横: 半竹) 体: 沈線 (斜・鋸歯: 半竹) 地: LR ※23・25 と同一個体	6	V	87	68
25	SI13 南側 土器集中	深鉢	体底	B貼、鋸歯状沈線 (半竹)・斜行沈線 (半竹) 地: LR ※24・25 と同一個体	6	V	88	69
26	SI13 南側 土器集中	深鉢	体	区: 鋸歯状沈線 + 平行沈線 (半截竹管) 体: B貼、沈線 (縦・斜・鋸歯: 半竹) 地: LR	6		88	68
27	SI13 中央 床面直上	深鉢	体	B貼、斜行沈線 (半竹) 地: LR	6		88	68
28	SI13 南側 土器集中	深鉢	体	斜行沈線 (半竹)、単絡 1L	6		88	68
29	SI13 中央 Pit 埋土	深鉢	体	LR	(6)		88	68
30	SI14 埋土最上層 No.1	深鉢	口体	口唇: 肥厚、環貼・太粘土紐貼付 口: 重層鋸歯状沈線 (半竹)・斜行沈線 (半竹) 区: 隆帯 + 刺突 体: 重層平行沈線 (半竹) 地: LR ※20 と同一個体か	6	II	89	69
31	SI14 埋土最上層 No.1	深鉢	口体	口唇: 環貼・太粘土紐貼付 口: 沈線 (鋸歯・斜・横: 半竹) 区: 隆帯 + 刺突、重層平行沈線 (半竹) 体: 斜行沈線 (半竹) 地: LR	6	II	89	69
32	SI14 埋土最上層 No.2	深鉢	口	口唇: 太粘土紐貼付 (縦) 口: 隆帯 + 刺突 (半竹?)、鋸歯状沈線 (半竹)、斜行沈線 (半竹)・平行沈線 (半竹) 地: LR ※33 と同一個体	6	I IV	89	69
33	SI14 NW 埋土最上層 土器集中	深鉢	体	重層平行沈線 (半竹)・鋸歯状沈線 (半竹) 地: LR ※32 と同一個体	6	I IV	89	70
34	SI14 埋土最上層 No.2	深鉢	口体	口唇肥厚 + 連続斜行沈線 区: 重層平行沈線 (半竹) 体: 斜行沈線 (半竹) 地: LR	6	I IV	89	70

第6表 土器観察表(縄文時代2)

掲載No	出土地点・層位	器種	部位	文様等	対比形式	分類	図版	写真
35	SI14 埋土最上層 No 1	深鉢	体	B貼、鋸歯状沈線(半竹)・重層平行沈線(半竹) 体： 斜行沈線(半竹) 地：LR ※22と同一個体	6		89	70
36	SI14 NW 埋土最上層 土器集中	深鉢	体	B貼、沈線(縦・斜・横・鋸歯：半竹) 地：LR	6		90	70
37	SI14 埋土最上層 No 2	深鉢	底	無文	(6)		90	70
38	SI14・15 b1層	深鉢	体	波状沈線(縦：半竹)、斜行沈線(半竹)・波状沈線(横： 半竹) 地：LR	6	IV	91	71
39	SI14・15 b1層	深鉢	体	沈線(波状・縦：半竹)、X字状沈線(半竹) 地：LR	6		91	71
40	SI16 埋土下部～床面直上	深鉢	口	太粘土紐貼付(弧・横) + 単絡1R ※41と同一個体	6		91	71
41	SI16 b埋土	深鉢	口	太粘土紐貼付(弧・横) + 単絡1R ※40と同一個体	6		91	71
42	SI16 NE 埋土	深鉢	口	重層鋸歯状沈線(半竹)	6		92	71
43	SI16 埋土下部～床面直上	深鉢	体	鋸歯状沈線(縦・横：半竹) 地：単絡1R	6		92	72
44	SI16 SW 埋土	深鉢	体	隆帯 + 刺突(半竹・斜押)、重層平行沈線(半竹) 地： 単節縄文	6		92	72
45	SI21 Pit1 埋土	深鉢	体	地：単絡4?L?	5~6		92	72
46	⑤ II層	深鉢	口	細粘土紐貼付(鋸歯) 地：単絡1R?	4~5		93	72
47	② II層	深鉢	口	細粘土紐貼付(鋸歯)	5		93	72
48	⑤ II層	深鉢	口	細粘土紐貼付(鋸歯) 地：RL	5		93	72
49	⑦ II層	深鉢	体	細粘土紐貼付(鋸歯)	5		93	72
50	⑥ II層	深鉢	体	区：隆帯 + 刺突 体：細粘土紐貼付(鋸歯)	5~5b		93	72
51	③ II層	深鉢	体	輪積み痕残す	5		93	72
52	⑥ II層	深鉢	口	口唇鋸歯状裝飾体(長)、沈線	5b		93	72
53	⑨ II層	深鉢	口	口唇鋸歯状裝飾体(長) ※器面摩滅	5b		93	72
54	① II層	深鉢	突	環状突起、刺突	5~5b		93	72
55	② II層	深鉢	口体	口唇肥厚 + 沈線(横) 区：沈線(横)、刺突 体： 沈線(弧) 地：縄文(不)	6		93	72
56	④ II層	深鉢	口	口唇肥厚 + 沈線(波・横)	6		93	72
57	⑤ II層	深鉢	口	B貼、太短沈線(縦：竹管)	6		93	72
58	⑭ II層	深鉢	口	沈線(鋸歯・平行：半竹) 口唇：刻み ※59と同一 個体か	5b~6		93	72
59	⑭ II層	深鉢	口体	沈線(鋸歯・平行：半竹) 口唇：刻み 地：LR ※58と同一個体か	5b~6		93	72
60	⑪ II層	深鉢	体	鋸歯状沈線(半竹)、平行沈線(半竹)	5b~6		93	72
61	⑬ II層	深鉢	体	区画：波状沈線・平行沈線(半竹) 地：LR?	5b~6		93	72
62	U (SI21内) II層	深鉢	口	波状沈線(半竹)	6		93	72
63	⑭ II層	深鉢	体	鋸歯状沈線(半竹) 区：平行沈線(半竹) 体：斜行 沈線(半竹) 地：単絡1R	6		94	72
64	⑩ II層	深鉢	体	斜行沈線(半竹) 地：LR	6		94	73
65	③ II層	深鉢	体	太鋸歯状沈線(縦) 地：RL	6		94	73
66	⑦ II層	深鉢	口	口唇肥厚 + 刺突、重層弧状沈線(半竹)	6		94	73
67	⑭ II層	深鉢	体	重層弧状沈線(半竹)、沈線(半竹) 区：平行沈線(半 竹) 地：LR	6		94	73
68	B II層	深鉢	口	B貼、沈線(半竹) 地：LR? ※器面摩滅	6		94	73
69	⑬ II層	深鉢	体	B貼 + 押圧、斜行沈線(半竹) 地：単絡1R	6		94	73
70	③ II層	深鉢	体	平行沈線 + B貼、鋸歯状沈線 地：LR	6		94	73
71	⑭ II層	深鉢	口	隆帯 + 刻み B貼 ※器面摩滅	6		94	73
72	⑤ II層	深鉢	口	隆帯 + 刻み 地：単絡4?R	6		94	73
73	⑤ II層	深鉢	口体	隆帯 + 指頭押圧 地：単絡1L	6		94	73
74	⑨ II層	深鉢	口	区：隆帯 + 指頭押圧 地：単絡5L	6		94	73
75	③ II層	深鉢	口	区：隆帯 + 刺突 口唇：刺突	6		94	73
76	③ II層	深鉢	突	肥厚 + 円形押圧	6		94	73
77	② II層	深鉢	口	口唇肥厚、刺突列(爪形)	(6)		94	73

第6表 土器観察表（縄文時代3）

掲載No	出土地点・層位	器種	部位	文様等	対比形式	分類	図版	写真
78	C II層	深鉢	口	口唇：刻み 口：刺突列	(6)		94	73
79	⑤ II層	深鉢	体	瘤状貼付	(6)		94	73
80	⑥ II層	深鉢?	体	瘤状貼付 地：単絡 1R	(6)		94	73
81	⑭ II層	深鉢	体	多軸絡条体 (L?)	5~6		94	73
82	D II層	深鉢	体	多軸絡条体 (R?)	5~6		94	73
83	⑥ II層	深鉢	体	非結束羽状縄文	(6)		94	73
84	② II層	深鉢	底	単絡 1L	5~6		95	73
85	③ II層	深鉢	体底	単絡 1? 器面摩滅	5~6		95	73
86	⑧ II層	深鉢	底	単絡 1L?	5~6		95	73
87	⑦ II層	深鉢	体	単絡 1R	5~6		95	74
88	② II層	深鉢	体	単絡 5L?	5~6		95	74
89	⑤ II層	深鉢	体	単絡 5R	5~6		95	74
90	⑥ II層	深鉢	体底	LR	5~6		95	74
91	U (SI21 内) II層	深鉢	体	LR	5~6		95	74
92	① II層	深鉢	体	LR	5~6		95	74
93	⑦ II層	深鉢	体	縄文(※)	5~6		95	74
94	⑪ II層	深鉢	口体	無文	5~6	I	95	74
95	⑩ II層	深鉢	体	不明 ※器面摩滅	5~6		95	74
96	⑤ II層	深鉢	底	無文	5~6		95	74
97	SK86 埋土	深鉢	口	刺突列 + 沈線	6		96	74
98	SK89 埋土	深鉢	体	沈線(縦：半竹?) 地：LR	6		96	74
99	P248 埋土	深鉢	口体	区：隆帯 + 刺突(丸棒) 体：細粘土紐貼付 + 刺突(丸棒) 地：RL?	5~6	VII	96	74
100	P308 埋土	深鉢	口体	太粘土紐貼付(弧) 区：沈線(半竹) + 刺突(半竹?) 地：LR	6		96	74
101	P327 埋土	深鉢	口底	単絡 5R?	5~6	VII	96	74
102	P375 埋土	深鉢	口	口唇肥厚 + 刻み	6		96	74
103	P592 埋土	深鉢	体	沈線(半竹)	5b~6		96	74
104	P596 埋土	深鉢	口	粘土紐貼付 + 刻み 地：単絡 1L?	6		96	74
105	P706 埋土	深鉢	口	太粘土紐貼付(弧・横) + 交点押圧	6		96	74
106	P1256 埋土	深鉢	口体	口唇肥厚 + 沈線・刺突(丸棒) 体：不明 ※器面摩滅	6	I II	96	75
107	P1256 埋土	深鉢	体底	無文	5~6		96	75
108	P1256 埋土	深鉢	底	RL 結節	6		96	75
109	P1256 埋土	深鉢	体底	LR ※器面摩滅	5~6		96	75
110	P1256 埋土	深鉢	体	LR	5~6		96	75
111	P1561 埋土	深鉢	体底	無文 ※器面摩滅	5~6		97	75
112	P1648 埋土	深鉢	口	口唇肥厚 + 押圧 頸：隆帯 + 刻み、半竹押し引き(横・斜) 地：LR?	6		79	75
113	P1651 埋土	深鉢	体	沈線(鋸歯・横：半竹)	5b~6		97	75
114	P1669 埋土	深鉢	体	斜行沈線(半竹) 区：重層平行沈線(半竹) 体：重層斜行沈線(半竹)・鋸歯状沈線(半竹)・弧状沈線(半竹) 地：RL	6		97	75
115	P1704 底面 No.1	深鉢	口体	口：鋸歯状沈線(半竹) 区：沈線(半竹) 体：斜行沈線(半竹) ※器面摩滅	6		97	75
116	SB06P317 埋土	深鉢	口	口唇肥厚 + 押圧	6		97	76
117	SB13P334 埋土上部	深鉢	体	沈線(細浅)	(6)		97	76
118	SB14P655 埋土	鉢	口底	単絡 1L 口唇：刻み ※119と同一個体	5~6		97	76
119	SB14P655 埋土	鉢	口	単絡 1L 口唇：刻み ※118と同一個体、補修孔有り	5~6		97	76
120	SB46P1488 埋土	深鉢	口	区：粘土紐貼付 + 刻み ※器面摩滅	6		97	76
121	SB55P1172 埋土	深鉢	口	隆帯 + 刺突(細丸棒状)	6		97	76
122	SK18 6層	深鉢	体	単絡 1R?	5~6		97	76
123	SK30 埋土	深鉢	口	区：隆帯 + 刻み、太短粘土紐貼付(縦)	6		97	76

第6表 土器観察表（縄文時代4）

掲載No	出土地点・層位	器種	部位	文様等	対比形式	分類	図版	写図
124	SK38 埋土下部	深鉢	体	鋸齒状沈線（半竹）	5b~6		97	76
125	SD08 埋土	深鉢	底	木葉痕	5~6		98	76
126	SD28 埋土	深鉢	口	口唇鋸齒状裝飾体（長）	5b		98	76
127	SD28 中央 埋土下部	深鉢	口	口唇鋸齒状裝飾体（長）	5b		98	76
128	SD28 中央 埋土下部	深鉢	口	口唇鋸齒状裝飾体（長）	5b		98	76
129	SD28 埋土	深鉢	口	口唇肥厚 + 沈線（縦・横）	6		98	76
130	SD28 埋土	深鉢	口	口唇肥厚、絡条体圧痕（R?）、鋸齒状沈線（半竹）	6		98	76
131	SD28 東側 埋土下部	深鉢	口	口唇肥厚 + 円形押圧	6		98	76
132	SD28 中央 埋土上部	深鉢	口	口唇肥厚 + 円形押圧、押圧 区：波状沈線（半竹）	6		98	76
133	SD28 東側 埋土下部	深鉢	口	太粘土紐貼付、沈線	6		98	76
134	SD28 中央 埋土下部	深鉢	口体	太短粘土紐貼付（縦・横） 区：鋸齒状沈線（半竹） 体：斜行沈線	6		98	76
135	SD28 埋土下部	深鉢	口体	環貼 + 円形押圧、太粘土紐貼付、波状沈線（半竹） 区： 沈線（半竹） 地：LR	6		98	76
136	SD28 中央 埋土下部	深鉢	口	環貼、B貼	6		98	76
137	SD28 西側 埋土中	深鉢	口	鋸齒状沈線（半竹）	5b~6		98	76
138	SD28 東側 埋土	深鉢	頸体	頸：平行沈線、鋸齒状沈線 体：縄文（不）	5b~6		98	76
139	SD28 西側 埋土中	深鉢	口	口唇肥厚、波状沈線	6		98	76
140	SD28 埋土	深鉢	体	鋸齒状沈線（半竹）（縦）	6		98	77
141	SD28 中央 埋土上部	深鉢	体	区：鋸齒状沈線（縦） 体：斜行沈線（半竹） 地：LR	6		98	77
142	SD28 中央 埋土下部	深鉢	口	重層弧状沈線（半竹）、平行沈線（半竹）	6		98	77
143	SD28 埋土	深鉢	口体	口：沈線（斜） + 押圧 頸：鋸齒状沈線、隆帯 + 刻み 体：鋸齒状沈線（半竹）、太短粘土紐貼付（横） 地：RL縦? ※144と同一個体	6		98	77
144	SD28 埋土	深鉢	口体	口：沈線（斜） + 円形押圧 頸：鋸齒状沈線、隆帯 + 刻み 体：鋸齒状沈線（半竹）、太短粘土紐貼付（横） 地：RL縦? ※143と同一個体	6		99	77
145	SD28 東側 埋土上部	深鉢	口体	口唇肥厚 頸：平行沈線・隆帯 + 刺突 体：B貼、 沈線（縦：半竹）	6	I II	99	77
146	SD28 東側 埋土下部	深鉢	体	区：平行沈線（半竹）、隆帯 + 角棒状刺突 体：波状 沈線（半竹）、B貼 地：LR	6		99	77
147	SD28 東側 埋土下部	深鉢	口体	B貼 区：沈線 体：斜行沈線 ※器面摩滅	6		99	77
148	SD28 東側 埋土	深鉢	口体	B貼 区：平行沈線（半竹） 体：鋸齒状沈線（半竹）	6		99	77
149	SD28 中央 埋土下部	深鉢	口	隆帯 ※器面摩滅	6		99	77
150	SD28 東側 埋土	深鉢	口体	区：平行刺突列（へら状） 体：山形刺突（へら状）、 単絡 1R	6		99	77
151	SD28 中央 埋土下部	深鉢	口	刺突列、単絡 1R	6		99	77
152	SD28 西側 埋土上部	深鉢	口	口唇粘土帯貼付 + 刺突（丸棒） ※器面摩滅	(6)		99	77
153	SD28 東側 埋土	深鉢	口	単絡 1R?	5~6		99	77
154	SD28 中央 埋土下部	深鉢	体	単絡 5R?	5~6		99	77
155	SD28 東側 埋土下部	深鉢	体底	RLR?	5~6		99	77
156	SD35 埋土	深鉢	体	単絡 1L	5~6		99	77
157	SD36 埋土	深鉢	体	鋸齒状沈線（横） 地：単絡 1L ※158と同一個体	5~6		99	77
158	SD37 北側 埋土	深鉢	体	鋸齒状沈線（横） ※157と同一個体	5~6		99	77
159	SD37 北端 B埋土	深鉢	口	円形貼付	(6)		99	77
160	SD37 埋土上部	深鉢	底	単絡 1L	5~6		99	77
161	SD43 埋土	深鉢	口	口唇肥厚 + 円形押圧 ※器面摩滅	6		99	78
162	SD65 埋土	深鉢	体	斜行沈線 地：単絡 1R?	6		99	78
163	SD68 埋土	深鉢	体	単絡 5R?	5~6		99	78
164	SD59 埋土	深鉢	口	粘土紐貼付（鋸齒） 地：RL	4~5		100	78
165	SX27 B埋土	深鉢	体	細粘土紐貼付（鋸齒）	4~5		100	78
166	SX27 埋土	深鉢	口体	口唇押圧 口：重層平行沈線（半竹）・波状沈線（半竹） 地：LR? ※器面摩滅	6		100	78
167	SX27 埋土	深鉢	口	重層平行沈線（半竹）・斜行沈線（半竹）	6		100	78

第6表 土器観察表（縄文時代5）

掲載No	出土地点・層位	器種	部位	文様等	対比形式	分類	図版	写真
168	SX27 埋土	深鉢	体	B貼、平行沈線（半竹）・波状沈線（半竹） ※器面摩滅	6		100	78
169	SX27 埋土	深鉢	体底	沈線（縦：半竹）	6		100	78
170	SX27 埋土	深鉢	体	瘤状貼付、沈線（縦：半竹） 地：RL	6		100	78
171	SX27 埋土	深鉢	口	重層刺突列（D字状）、沈線（横）	6		100	78
172	SX27 埋土	深鉢	体	LR結節	6		100	78
173	SX28 埋土	深鉢	口体	口唇肥厚 口頸：細粘土紐貼付（鋸歯・横） 地：RL? ※器面摩滅	5	II III	100	78
174	SX28 B埋土	深鉢	口体	口：沈線（弧・鋸歯：半竹） 区：隆帯 + 指頭押圧 体：渦巻き状沈線（半竹） 地：LR	6		100	78
175	III J15g III層上面	深鉢	体	鋸歯状沈線（横）	5b~6		100	78
176	- C III層上面	深鉢	口	重層波状沈線（半竹） 地：LR	6		100	78
177	東区南 II~III層上面	深鉢	口体	口：太短沈線（斜・縦）、刺突列（竹管） 頸：重層波状沈線（半竹） 地：L	6		100	78
178	東区南 II~III層上面	深鉢	口	重層刺突列（D字状）	6		100	78
179	西側 II層	深鉢	体	多軸絡条体	5~6		100	78
180	西側 II層（重機）	深鉢	口体	沈線？ ※器面摩滅	5b~6		100	79
181	西道路 I層	深鉢	突	環状突起 + 刺突（丸）	6		100	79
182	西道路 I層	深鉢	口	口唇肥厚、LR	6		100	79
183	北東区 排土一括	深鉢	口	太沈線（縦）、沈線（横：半竹） 地：LR	6		101	79
184	東側 攪乱	深鉢	口	口唇鋸歯状裝飾体（M字状）、刺突	5		101	79
185	東側 攪乱	深鉢	体	平行沈線 ※赤色顔料付着	5b~6		101	79
186	東側 攪乱	浅鉢？	体	LR	5~6		101	79
187	西側 攪乱	深鉢	口体	RL	5~6	V	101	79
188	西区 攪乱	深鉢	口	刺突列、重層鋸歯状沈線（半竹）・平行沈線（半竹）	5b~6		101	79
189	西区 攪乱	深鉢	口体	口唇押圧 口：重層波状沈線（半竹） 地：LR?	6	V	101	79

【出土地点・層位】 b：ベルト

【文様等】 B貼：ボタン状貼付 環貼：環状貼付 半竹：半截竹管 単絡1：単軸絡条体第1類
単絡4：単軸絡条体第4類 単絡5：単軸絡条体第5類

第7表 土製品・粘土塊観察表

掲載No	出土地点・層位	器種	部位	法量 (cm)	備考	図版	写真
190	SI02 NW 埋土	不明	-	2.2・3.1・(1.5)	上面に丸棒状工具による刺突	102	79
191	SD35 埋土	不明	-	(2.8)・(1.7)・(1.1)	貫通孔	102	79
192	SD35 埋土	円盤	-	5.4・(4.6)・(1.7)	上側面に竹管による刺突	102	79
193	SK53 埋土	円盤	-	(4.1)・(3.5)・(0.8)	貫通孔、単節縄文	102	79
194	P182 埋土	粘土塊	-			102	79

【法量】 器長・器幅・器厚 ()：残存値

第8表 石器観察表（縄文時代1）

掲載 No	器種	出土地点	出土層位	石材	細分	備考	図版	写図
195	SAR	- O 西	Ⅲ層上面	sh	I		103	80
196	SAR	南東区南	I層	sh	I		103	80
197	SAR	SD105	埋土最上部	sh	I		103	80
198	SAR	SD28 西側	埋土上部	ob5	I		103	80
199	SAR	P538	埋土	sh	I		103	80
200	SAR	⑤	Ⅱ層	sh	Ⅱ		103	80
201	SAR	②	Ⅱ層	sh	Ⅱ		103	80
202	SAR	P1216	埋土	sh	Ⅲa		103	80
203	SAR	P1392	埋土	sh	Ⅲa		103	80
204	SAR	J	Ⅱ層	sh	Ⅲa		103	80
205	SAR	C	Ⅱ層	sh	Ⅲa		103	80
206	SAR	R	Ⅱ層	sh	Ⅲa		103	80
207	SAR	⑤	Ⅱ層	sh	Ⅲa		103	80
208	SAR	SD28 中央	埋土下部	sh	Ⅲa		103	80
209	SAR	西側	I～Ⅱ層	sh	Ⅲa		103	80
210	SAR	U	Ⅱ層	sh	Ⅲa		103	80
211	SAR	SD114	埋土	sh	Ⅲa		103	80
212	SAR	西側	攪乱	sh	Ⅲa		103	80
213	SAR	西側	I～Ⅱ層	sh	Ⅲa		104	80
214	SAR	⑤	Ⅱ層	sh	Ⅲb		104	80
215	SAR	U	Ⅱ層	tuf1	Ⅲ		104	80
216	SAR	U	Ⅱ層	sh	Ⅲb		104	80
217	SAR	P1003	埋土	sh	Ⅲ		104	80
218	SAR	P1418	埋土	sh	Ⅲb		104	80
219	SAR	⑧	Ⅱ層	sh	Ⅲa		104	80
220	SAR	⑥	Ⅱ層	sh2	Ⅲa		104	80
221	SAR	①	Ⅱ層	sh	Ⅲa		104	80
222	SAR	③	Ⅱ層	ob4	Ⅲ	礫面有	104	80
223	SAR	T	Ⅱ層	sh	Ⅲa		104	80
224	SAR	P1394	埋土	sh	Ⅲa		104	80
225	SAR	②	Ⅱ層	wetuf1	Ⅲ		104	80
226	SAR	SI02 NE	埋土	sh	Va		104	80
227	SAR	東側	攪乱	sh1	Va		104	80
228	SAR	P1488	埋土	sh	Vb		104	80
229	SAR	②	Ⅱ層	sh1	Vb		104	80
230	SAR	V	Ⅱ層	sh	Vb		105	81
231	SAR	SD35・37	埋土上部	sh2	Vb		105	81
232	SAR	西側	I～Ⅱ層	sh	Vb		105	81
233	SAR	P1527 東小穴	埋土	sh	Vb		105	81
234	SAR	ⅢJ15g	ⅡC層	sh1	Vb		105	81
235	SAR	ⅢJ13A	攪乱	sh1	Vb		105	81
236	SAR	U	Ⅱ層	sh	Vb		105	81
237	SAR	P1167	埋土	sh	Vb		105	81
238	SAR	P1488	埋土	sh	Vb		105	81
239	SAR	M	Ⅱ層	sh	Vb	両側縁上半に長軸方向の擦痕	105	81
240	SAR	SX28	埋土	sh	Vb	錐に転用か	105	81
241	SAR	④	Ⅱ層	sh1	Vb	錐に転用か	105	81
242	SAR	⑩	Ⅱ層	sh	Vb		105	81
243	SAR	西側	Ⅱ層	sh	Vb		105	81
244	SAR	西側	攪乱	sh	Vb		105	81
245	SAR	P1488	埋土	sh	Vb		105	81
246	SAR	SD114	埋土	sh	Vb		105	81
247	SAR	V	Ⅱ層	sh	Vc		105	81
248	SAR	西側	I～Ⅱ層	ob5	Vd		106	81
249	SAR	C	Ⅱ層	sh	Vd		106	81
250	SAR	南東区	Ⅲ層	sh	Vd		106	81
251	SAR	西道路	攪乱	ob4	V		106	81
252	SAR	西区	攪乱	sh	Ⅵa		106	81
253	SAR	SB14P288	埋土上部	sh1	Ⅵb		106	81
254	SAR	SK53	埋土	sh	Ⅵ		106	81
255	SAR	SD11 中央	埋土	sh	Ⅶa		106	81
256	SAR	西道路	Ⅱ層	sh	Ⅶb		106	81

第8表 石器観察表（縄文時代2）

掲載 No	器種	出土地点	出土層位	石材	細分	備考	図版	写図
257	SAR	L	I層	sh4	VIIb		106	81
258	SAR	BM トレンチ	I～II層（再）	rsh	VIIb		106	81
259	SAR	北西区	II層	sh	VIII		106	81
260	SAR ?	SI14・15 重SW	埋土	sh	VIII偏		106	81
261	SAR	SD59	埋土	sh	VIII偏		106	81
262	異形	⑦	II層	rsh			106	82
263	PO ?	SI12	b1層	sh			106	81
264	PO	⑨	II層	sh			106	81
265	PO	SD28	埋土	sh			107	81
266	RF	SI16	埋土最上部	sh	I		107	82
267	SCR類	SK53	埋土下部	sh	I a		107	82
268	SCR類	P182	埋土	sh	II c		107	82
269	SCR類	P658	埋土	sh	I a		107	82
270	SCR類	P1442	埋土	sh	III a		107	82
271	SCR類	R	II層	sh	I a		108	82
272	SCR類	SD28 中央	埋土下部	sh	I a		108	82
273	SCR類	U	II層	sh	III a		108	82
274	SCR類	⑤	II層	sh	III b		108	82
275	SCR類	SD28	埋土	sh	IV a		109	82
276	SCR類	北東区	I～II層（再）	sh	I a		109	82
277	SCR類	SD28	埋土	sh	I a		109	82
278	SCR類	⑩	II層	ob4	IV a		109	82
279	SCR類	SX26 西側北半	埋土	ob4	I a		109	82
280	SCR類	②	II層	dac3	III a		110	82
281	SCR類	- U	II層	sh	IV a		110	82
282	SCR類	- A	I層	sh	I a		110	82
283	SCR類	東区南端	I～II層	sh2	IV a		110	82
284	SCR類	P186	埋土	sh	I a		110	82
285	SCR類	SD28 西側	埋土	sh	IV a		110	82
286	SCR類	西側	II層	sh	IV c		111	82
287	SCR類	SD28 西側	埋土	sh	IV c		111	83
288	SCR類	SK38	埋土	sh	I b		111	83
289	SCR類	P1516	埋土	sh	I a		111	83
290	SCR類	東区南	排土一括	sh	I a		112	83
291	SCR類	SI16 SE	埋土	sh	II b		112	83
292	SCR類	P1444	埋土	sh	II a		112	83
293	SCR類	⑬	II層	sh	II a		112	83
294	SCR類	SD28	埋土	sh	II a		112	83
295	SCR類	北東区	I～II層	sh	II c		112	83
296	NO	⑦	II層	sh			113	83
297	NO	I	II層	sh			113	83
298	SSP	西側	II層（重機）	sh	I		113	83
299	SSP	Q	II層	sh	I		113	83
300	SSP	SD37	埋土上部	sh1	I		113	83
301	SSP	南西区	排土一括	sh	II		113	83
302	SSP	南東区北	排土一括	sh	II		114	83
303	SSP	西側	II層	sh2	II		114	83
304	SSP	SX26 西側中央	埋土	sh	II		114	83
305	SSP	⑨	II層	sh	II（滴）		114	84
306	SSP	⑬	II層	sh	III		114	84
307	SSP	SK38	埋土	sh	III		115	84
308	SAW	SD36	北壁埋土	sh1	I		115	84
309	SAW	SD114	埋土	ob4	I		115	84
310	SAW	T	II層	sh	II		115	84
311	SAW	V	II層	sh	II		115	84
312	SAW	②	II層	sh	III		115	84
313	SAW	③	II層	sh	III		115	84
314	SAW	J	II層	sh	III		115	84
315	SAW	SD28 西側	埋土下部	sh	III		116	84
316	SAW	P1116	埋土	sh	III		116	84
317	SAW	P528	埋土上部	sh	III		116	84
318	SAW	西区	攪乱	sh	III		116	84
319	SAW	SD36	埋土	rsh	III		116	84

第8表 石器観察表(縄文時代3)

掲載 No.	器種	出土地点	出土層位	石材	細分	備考	図版	写図
320	TSS	SB15P365	埋土	sh1	I a		116	84
321	TSS	T	II層	rsh	I a		116	84
322	TSS	東区北	I~II層	sh	I a		116	84
323	TSS	P1435	埋土	sh	I a		117	84
324	TSS	SD37	埋土	sh4	I a		117	84
325	TSS	⑥	II層	sh	I a		117	84
326	TSS	西側	I~II層	rsh	I a		117	84
327	TSS	西側	I~II層	sh	I a		117	85
328	TSS	SD28 西側	埋土上部	sh	I a		117	85
329	TSS	T	II層	sh2	I a		118	85
330	TSS	SK142	埋土	sh	I b		118	85
331	TSS	西区	攪乱	sh	I b	左側縁下部稜摩耗	118	85
332	TSS	SB13P334	埋土	sh1	I b		118	85
333	TSS	T	II層	sh	II a		118	85
334	TSS	SD28 西側	埋土	sh	II a		118	85
335	TSS	SD19	埋土	sh	II a		118	85
336	TSS	⑨	II層	sh	II a		119	85
337	TSS	西側	I~II層	sh	II a		119	85
338	TSS	SK86	埋土	sh	II b		119	85
339	TSS	P372	埋土	sh	II b		119	85
340	PA	SI11 北側	埋土	sh			119	85
341	PA	P1151	埋土	sh			119	85
342	PA	北東区	III層上面	ob4			119	85
343	PA	②	II層	sh			119	85
344	PA	U	II層	sh			119	85
345	PA	P1597	埋土	sh			119	85
346	PA	SK85	埋土	sh			119	85
347	PA	D	II層	tuf2			120	85
348	RF	SK59	埋土	sh	I		120	86
349	RF	SK65	埋土	sh	(I)		120	86
350	RF	SK67	埋土	sh	I		120	86
351	RF	SK38	埋土下部	sh	I		120	86
352	RF	SK86	埋土	sh	I		120	86
353	RF	SB05P230	埋土上部	sh4	I		120	86
354	RF	P1413	埋土下部	sh	I		120	86
355	RF	⑥	II層	sh	I		120	86
356	RF	⑤	II層	ob1	I		120	86
357	RF	B	II層	sh	I		121	86
358	RF	東区南端	I層下部	sh	I		121	86
359	RF	SI02	埋土	sh	II		121	86
360	RF	SI11 南側	埋土	sh	II		121	86
361	RF	SI11 南側	埋土	sh	(II)		121	86
362	RF	SI14・15	b1層	sh	(II)		121	86
363	RF	SK53	埋土	sh	II		121	86
364	RF	SK53	埋土	sh	II		121	86
365	RF	SK38	埋土	sh	II		121	86
366	RF	SK87	埋土	sh	(II)		121	86
367	RF	SB08P221	埋土	sh	II		121	86
368	RF	P1581	埋土	sh4	II		121	86
369	RF	P1671	埋土	sh	II		121	86
370	RF	②	II層	sh	II		122	86
371	RF	②	II層	sh	II		122	86
372	RF	M	II層	sh	II		122	86
373	RF	P	II層	ob5	II		122	86
374	RF	SD36	埋土	sh	II		122	86
375	RF	SX27	埋土	sh	II		122	86
376	RF	SX28	埋土	sh	II		122	86
377	RF	東区北端	排土一括	sh	II		122	86
378	RF	SD51 東側	埋土	ob4	II		122	86
379	RF	SD28 東側	埋土下部	sh	(II)		122	87
380	RF	SD28 中央	埋土上部	sh	II		123	87
381	RF	SI16 SE	埋土	sh	III		123	87
382	RF	S	II層	sh	III		123	87

第8表 石器観察表（縄文時代4）

掲載 No.	器種	出土地点	出土層位	石材	細分	備考	図版	写図
383	RF	南東区南	Ⅲ層上面	ob4	Ⅲ		123	87
384	RF	L	I層	sh	Ⅲ		123	87
385	RF	③	Ⅱ層	ob4	I	礫面有	123	87
386	RF	SK38	埋土	sh	I		123	87
387	RF	P1290	埋土	sh	I		123	87
388	RF	P1290	埋土	sh	Ⅱ		124	87
389	RF	SX26 西側北端	b埋土	ob2	I	礫面有	-	87
390	RF	SD51	埋土下部	ob2	I	自然面有	-	87
391	RF	不明	Ⅲ層上面	ob2	I	自然面有	-	87
392	RF	北東区	排土一括	ob3	I	礫面有	-	87
393	RF	- I	Ⅱ層	ob2	Ⅱ	礫面有	-	87
394	F	SI12	b1層	ob5			124	88
395	F	SI14・15 重SW	埋土	ob4			124	88
396	F	⑥	Ⅱ層	ob4		礫面有	124	88
397	F	SI12	b1層	ob4		礫面有	-	88
398	F	SK53	1層	ob4		礫面有	-	88
399	F	SK53	1層	ob4		礫面有	-	88
400	F	SK55	埋土	ob4		礫面有	-	88
401	F	SK58	埋土	ob4			-	88
402	F	⑤	Ⅱ層	ob1		礫面有	-	88
403	F	⑩	Ⅱ層	ob2		礫面有	-	88
404	F	⑭	Ⅱ層	ob2		礫面有	-	88
405	F	⑭	Ⅱ層	ob2		礫面有	-	88
406	F	A	Ⅱ層	ob2		礫面有	-	88
407	F	A	Ⅱ層	ob2		礫面有	-	88
408	F	D	Ⅱ層	ob2			-	88
409	F	H	Ⅱ層	ob5		礫面有	-	88
410	F	N	Ⅱ層	ob4		礫面有	-	88
411	F	P	Ⅱ層	ob2		礫面有	-	88
412	F	R	Ⅱ層	ob2		礫面有	-	88
413	F	T	Ⅱ層	ob4		礫面有	-	88
414	F	T	Ⅱ層	ob2			-	88
415	F	U	Ⅱ層	ob2		礫面有	-	88
416	F	O	Ⅲ層上面	ob2		礫面有	-	88
417	F	SK18	埋土	ob1		礫面有	-	89
418	F	SK82	埋土	ob5		礫面有	-	89
419	F	SX26 西側北半	埋土	ob5			-	89
420	F	SD08	埋土	ob2		礫面有	-	89
421	F	SD28 東側	埋土下部	ob2			-	89
422	F	SD29	埋土	ob4		礫面有	-	89
423	F	SD59	埋土	ob4		礫面有	-	89
424	F	SD114	埋土	ob2			-	89
425	F	P131	埋土	ob2		礫面有	-	89
426	F	SB09P159	埋土	ob2		礫面有	-	89
427	F	P1475	埋土	ob4			-	89
428	F	P1666	埋土	ob2			-	89
429	F	西側	I～Ⅱ層	ob2		摂理面有	-	89
430	F	西側	I～Ⅱ層	ob2		礫面有	-	89
431	F	北西区	I～Ⅱ層	ob3		礫面有	-	89
432	F	T2	I層	ob2		礫面有	-	89
433	F	ⅢJ12ab	攪乱	ob2		被熱	-	89
434	F	ⅢJ13a	攪乱	ob3		礫面有	-	89
435	F	西区	攪乱	ob2		礫面有	-	89
436	F	不明	不明	ob2		礫面有	-	89
437	C	SI11 南側	埋土下部	ob4			-	89
438	C	SB41P1005	埋土	ob6			-	89
439	CO	SD28	埋土	sh			124	87
440	CO	SD08 東側	埋土	rsh1			125	87
441	RFM	P1290	埋土	sh			125	87
442	AXC	SI12 北側	埋土	hor1			126	90
443	AXC	SI14・15 重SW	埋土	hor			126	90
444	AXC	SK55	埋土	hor1			126	90
445	AXC	SB14P402	埋土	hor1			127	90

第8表 石器観察表（縄文時代5）

掲載 No.	器種	出土地点	出土層位	石材	細分	備考	図版	写図
446	AXC	P1664 西側	埋土	hor1			127	90
447	AXC	⑭	II層	dac3			127	90
448	AXC	O	II層	hor1			128	90
449	AXC	Q	II層	sh2			128	90
450	AXC	- Q	II層	hor1			128	91
451	AXC	SD71	埋土	san2			129	91
452	AXC	T18	I層	hor1			129	91
453	AXP	P121	埋土	sh1			130	91
454	AXP	P	II層	sh2			130	91
455	AXP	P1290	埋土	sh2		刃部に剥離痕	130	91
456	AXP	I	II層	sh2			130	91
457	AXP	SB15P370	埋土	sh2			130	91
458	AXP	⑥	II層	sh3			131	91
459	AXP	P1248	埋土	sh2			131	91
460	AXP	K	II層	sh2			131	91
461	PT	SK73	埋土上部	hor1			131	92
462	GS	SI14・15 重SW	埋土	an1	I		132	92
463	GS	SK64	埋土	an1	I		132	92
464	GS	SK66	底面直上 S1	an1	I		132	92
465	GS	SK69 Pit1	埋土	an1	I		132	92
466	GS	P1259	埋土	an1	I		132	92
467	GS	③	II層	an1	I		132	92
468	GS	Q	II層	an1	I		132	92
469	GS	西区	攪乱	an1	I		133	92
470	GS	SD28	埋土	an1	I		133	92
471	GS	SD37	埋土下部	an1	I	部分使用	133	92
472	GS	SI02 NE	埋土	an1	I		133	92
473	GS	SI14 SW	埋土	an1	I		133	92
474	GS	SD51 西側	埋土下部	an1	I	裏面部分使用	133	92
475	GS	P074	埋土	an1	I	部分使用	134	92
476	GS	P277	埋土	an1	I	中央部使用	134	92
477	GS	P1415	埋土下部	an1	I		134	92
478	GS	A	II層	an1	I		134	93
479	GS	SD28 東側	埋土下部	an1	I		135	93
480	GS	SD36	埋土	an1	I		135	93
481	GS	P620	埋土	an1	I	側面部分使用	135	93
482	GS	SK36	埋土	an1	I		135	93
483	GS	⑬	II層	an1	I	側面部分使用	135	93
484	GS	⑭	II層	an1	I	側面下部使用	135	93
485	GS	SD37	埋土上部	an1	I	端部部分使用	136	93
486	GS	⑬	II層	an1	II	上端部分側面使用	136	93
487	GS	A	II層	an1	II	上端磨面、下端に敲打痕	136	93
488	GS	SB15P414	埋土	an1	II		137	93
489	GS	⑬	II層	an1	III	表面回転運動の凹部（磨面より新しい）	137	93
490	GS	M	II層	an1	III	凹部が新しい	137	93
491	GS	SK87	埋土	an1	III	表裏面とも磨面が新しい	137	93
492	GS	SX27	埋土	an1	III	側縁に部分的な磨面が4箇所、磨面と凹部の新旧不明	137	93
493	GS	SX26 西側北半	埋土	an2	III	相対する面に凹部	137	93
494	GS	SK53	I層	an1	IV	裏面の一部に敲打痕	138	94
495	GS	P1509	埋土	an1	IV	表裏使用	138	94
496	GS	SK57	埋土	dac2	IV		138	94
497	GS	④	II層	hor1	IV	側面部分使用	138	94
498	GS	P276	埋土	an1	IV	2側縁使用	138	94
499	GS	P276	埋土	an1	IV	表裏使用、片面に凹部（磨面が新しい）	138	94
500	GS	②	II層	an1	IV	表裏使用、片面に凹部（磨面が古い）	139	94
501	GS	SD37 北端	埋土	an1	IV	表使用	139	94
502	GS	P1300	埋土	an1	IV		139	94
503	GS	P1561	埋土	an1	IV	表裏使用	139	94
504	GS	D	II層	an1	IV	表裏使用	139	94
505	GS	SD28 東側	埋土上部	an1	IV	スタンプ形、下面使用	139	94

第8表 石器観察表（縄文時代6）

掲載No	器種	出土地点	出土層位	石材	細分	備考	図版	写図
506	GS	SI16	b埋土	an1	IV	表使用	140	94
507	GS	SB46P1488	埋土	hor1	IV	対側面使用、上端使用（敲打）？	140	94
508	SWI	SK55	3・4層	an1			140	94
509	SWI	P1561	埋土	an2		両面とも回転運動	140	94
510	SWI	SD28 東側	埋土下部	an1			140	94
511	HS	SB13P342	埋土	figradiol	I		140	94
512	HS	④	II層	an1	I		141	95
513	HS	- S	II層	an1	I		141	95
514	HS	SD28 東側	埋土下部	an1	I	端部平坦化	141	95
515	HS	SD08	埋土	an3	II		141	95
516	HS	SB46P1488	埋土	an1	-		141	95
517	GRSL	SI11	埋土最上部	an1	II	緩い縁有り	141	95
518	GRSL	SX27	埋土	an2	I	縁に使用面	142	95
519	GRSL	SD28 東側	埋土上部	an	I		142	95
520	GRSL	⑥	II層	dac2	II	片面に細い縁有り	142	95
521	GRSL	SI12	b1層	an1	I	断面図有り	143	95
522	GRSL	SI12 南側	埋土	an1	I		143	96
523	GRSL	SI21 周溝1	埋土	an1	I	側面部分使用	143	96
524	GRSL	SK57	底面S1	an1	I		144	96
525	GRSL	SK86	埋土	an1	I		144	96
526	GRSL	SX26 東側	埋土	an1	I		144	96
527	GRSL	SI21 周溝1	埋土	figradiol	II		145	96
528	GRSL	P378	埋土	an1	II		145	97
529	GRSL	⑤	II層	an1	II		146	97
530	AS	SX26 東側中央	埋土	dac2	II		146	97
531	WS	西区	攪乱	hor1	II		146	97
532	WS	西側	I～II層	san1	IV	溝状の使用痕	146	97
533	WS ?	P1273	埋土	an1	IV	片面部分使用2箇所	146	97
534	WS	N	II層	dac1	IV	少なくとも2面使用	146	97
535	SSIN	SD37	埋土	an1			147	97
536	SSIN	SD28 中央	埋土上部	an1			147	97
537	SAR	SK142	埋土	tuf	Vd	全面風化	148	97

第9表 石製品観察表（縄文時代）

掲載No	器種	出土地点	出土層位	石材	分類	備考	図版	写図
538	石棒類	SB15P414	埋土上部	sh2			148	98
539	石棒類？	P1476	埋土	sh2		未製品？	148	98
540	石棒類	⑤	II層	an1			148	98
541	石棒類	SD08	南側埋土	tuf2		542と同一個体か	148	98
542	石棒類	SD25	埋土	tuf2		541と同一個体か	148	98
543	石棒類	東道路	I層	sh2			148	98
544	石棒類	西区	風倒木	sh2			148	98
545	石棒類	西側	I～II層	sh2			149	98
546	玉類	U	II層	tal1			149	98
547	不明石製品	SK131	埋土	tal1			149	98
548	不明石製品	P1259	埋土	tal1		未製品？	149	98
549	不明石製品	P1260	埋土	tal1		未製品？	149	98
550	不明石製品	P661	埋土	sh2		端部に敲打調整が残る	149	98
551	不明石製品	SD37	埋土下部	tal1		球状耳飾り未製品？	150	98
552	不明石製品	SX27	b埋土	sh2			150	98
553	不明石製品	東道路	I層	tuf3		片面平滑	150	98
554	不明石製品	P1551	埋土	san1			150	99
555	不明石製品	SD28 中央	埋土上部	an1		全体に太い線条痕	151	99
556	不明石製品	SD28 東側	埋土下部	an1		太い線条痕	151	99
557	有孔石器	SI02	b埋土上部	tuf3		楕円形の貫通孔	152	99
558	有孔石器	⑦	II層	tuf3		楕円形の貫通孔	152	99

3 出土遺物

第10表 石器計測表（縄文時代1）

掲載No	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	打角 (°)	刃部角 (°)	重量 (g)
195	3.03	1.27	0.51			1.57
196	2.16	1.33	0.64			1.30
197	(3.02)	(1.61)	0.67			2.18
198	2.96	1.66	0.79			2.96
199	(4.11)	2.65	0.59			5.15
200	2.66	2.04	0.45			2.08
201	(2.25)	(1.78)	(0.56)			1.40
202	2.46	1.66	0.54			1.61
203	3.32	2.18	0.44			2.46
204	3.10	1.88	0.77			2.91
205	2.21	1.67	0.41			0.96
206	3.03	2.23	0.46			2.21
207	(2.22)	(1.52)	0.46			1.18
208	(3.38)	1.98	0.59			2.75
209	(2.26)	1.42	0.48			1.16
210	(2.91)	(2.11)	0.66			2.44
211	(2.81)	(1.69)	0.61			1.86
212	(2.51)	(1.52)	0.35			0.94
213	(3.01)	(2.05)	0.54			2.39
214	3.19	1.27	0.47			1.48
215	(3.16)	1.79	0.58			2.40
216	(4.20)	1.76	0.46			2.03
217	(1.91)	(0.99)	0.34			0.44
218	(3.74)	(1.78)	(0.44)			2.52
219	(3.90)	(2.09)	0.34			2.08
220	4.56	2.46	0.59			4.01
221	(3.06)	1.77	0.44			1.85
222	(1.87)	(1.41)	(0.39)			0.75
223	(2.99)	(1.64)	(0.52)			2.12
224	(1.76)	(0.98)	(0.30)			0.46
225	(3.18)	(1.91)	(0.52)			2.12
226	3.99	1.71	0.61			3.08
227	(3.28)	(1.57)	(0.58)			1.94
228	3.48	1.98	0.43			2.14
229	3.09	1.84	0.41			1.30
230	2.49	1.50	0.33			0.93
231	3.61	1.81	0.62			2.35
232	2.92	1.48	0.53			1.55
233	(2.46)	1.86	0.36			1.14
234	(4.19)	2.01	0.42			2.76
235	(3.69)	(1.88)	(0.62)			3.51
236	(2.76)	(1.73)	(0.46)			1.58
237	(5.13)	(1.94)	(0.55)			4.36
238	2.69	1.69	0.46			1.28
239	3.12	1.71	0.47			1.66
240	2.62	1.81	0.44			1.59
241	(2.81)	1.78	0.61			1.70
242	(2.01)	1.27	0.33			0.73
243	(2.04)	1.34	0.29			1.60
244	(3.28)	1.89	0.50			2.21
245	(4.10)	(1.93)	(0.44)			2.63
246	(2.61)	(1.61)	(0.42)			1.35
247	(1.94)	(1.72)	(0.39)			0.87
248	(2.69)	(1.70)	(0.46)			1.44
249	(4.47)	(1.96)	(0.56)			3.06
250	(2.58)	(1.81)	(0.38)			1.25
251	(2.52)	1.70	(0.73)			2.00
252	2.68	1.81	0.42			1.45
253	(2.67)	(1.98)	(0.38)			1.74
254	(1.59)	(1.08)	(0.37)			0.52
255	(1.91)	(1.35)	(0.45)			0.64
256	(2.54)	1.26	0.47			0.97
257	(2.13)	0.96	0.51			0.72
258	(1.81)	(0.93)	0.46			0.56
259	3.25	2.14	0.74			4.52
260	1.90	1.42	0.58			0.99
261	3.70	2.08	0.94			5.43
262	(3.87)	(1.72)	(0.46)			2.41
263	(2.41)	(1.87)	(0.43)			2.00
264	4.36	2.91	1.08			9.90
265	(4.28)	2.68	1.44			14.81
266	(1.86)	(0.79)	(0.39)		54	0.57

掲載No	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	打角 (°)	刃部角 (°)	重量 (g)
267	(6.12)	(3.75)	(1.40)	111	66	24.02
268	3.84	2.35	0.72	106	L86R74	5.90
269	6.70	5.27	1.48		66	48.13
270	9.30	3.69	1.81		56	48.79
271	7.12	4.51	1.79		69	32.59
272	(8.30)	3.68	1.74	121	52~70	52.00
273	6.44	4.10	1.48		60	31.90
274	3.36	4.64	1.14	99	59	13.38
275	5.38	8.07	2.31		E72R63	60.48
276	2.97	4.52	1.19		64	14.63
277	3.87	(8.42)	(1.25)	106	46	22.80
278	2.11	1.26	0.52		L74R66	1.48
279	1.82	1.49	0.52		66	0.95
280	7.71	6.18	3.56		70	103.27
281	4.32	3.46	1.25	101	63	18.28
282	(2.44)	(2.41)	0.64	107	78	3.98
283	(5.59)	(3.56)	(1.89)	121	74	35.75
284	(3.42)	(3.59)	(1.24)		53	13.14
285	2.62	3.34	0.98		E71R49	7.57
286	6.65	4.38	1.39	105	E54L74R61	28.64
287	(8.33)	(3.34)	(2.29)		E71L76R72	50.79
288	8.38	4.44	1.25	111	47	31.02
289	(6.25)	(4.82)	(1.55)		30	29.23
290	8.39	3.90	1.53	92	51	47.44
291	(7.03)	(3.09)	(1.41)		L76R52	27.06
292	(4.79)	(1.94)	(0.93)	106	L74R42	8.65
293	(7.51)	3.50	(1.34)		L36R56	29.84
294	(4.45)	(3.06)	(0.58)		L50R49	7.05
295	(9.72)	(4.17)	(2.34)		L68R80	81.06
296	4.28	2.79	0.90	117	76	10.44
297	3.10	2.26	0.65	110	81	3.43
298	8.02	3.24	1.60		65	48.10
299	4.49	2.04	0.95		55	9.37
300	5.14	2.51	0.98		61	11.51
301	11.59	5.78	2.44		57	111.91
302	6.22	4.17	1.26		60	32.68
303	(7.59)	(4.65)	(1.28)		26	36.72
304	(11.42)	4.20	2.77		44	105.09
305	5.69	3.32	1.49		67	21.56
306	4.01	2.79	1.30		38	10.88
307	(7.28)	(3.77)	(1.78)		45	45.07
308	1.99	1.92	0.34			0.73
309	(2.09)	(2.13)	(0.60)			1.90
310	4.74	1.39	0.68			3.03
311	8.22	3.81	1.80			16.97
312	3.95	2.21	0.74			4.95
313	3.48	1.97	1.17			6.20
314	4.23	2.13	0.93			7.52
315	4.34	2.29	0.93	109		5.23
316	(3.49)	(1.86)	(0.88)			4.30
317	(3.49)	(1.59)	(0.43)			1.69
318	(3.52)	(1.95)	(0.52)			2.04
319	(3.73)	(2.01)	(1.18)			6.55
320	8.42	2.77	1.40	120	L47R47	15.09
321	6.49	1.67	0.92		L43R57	6.79
322	8.95	2.68	1.09		L64R53	22.08
323	(6.77)	(2.81)	(1.01)		43	13.44
324	(2.11)	(1.40)	(0.60)			1.33
325	7.42	4.85	1.15		40	28.24
326	3.42	2.02	0.76		53	2.93
327	(8.46)	4.41	1.26	102	L57R50	36.75
328	6.38	5.42	1.30		E50 L45	
R37	32.51					
329	(6.64)	(4.45)	(0.99)		46	19.31
330	6.35	3.75	1.14		L50R39	22.12
331	7.72	4.12	1.05		E45 L41	
R49	29.14					
332	(7.10)	(3.25)	(1.50)		L65R43	20.87
333	4.11	6.69	0.85		63	14.03
334	4.79	4.86	0.66		62	10.58
335	4.62	4.17	0.81		54	13.73
336	(4.26)	(6.14)	(1.60)		53	31.07

第10表 石器計測表(縄文時代2)

掲載No	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	打角 (°)	刃部角 (°)	重量 (g)
337	(2.58)	(3.01)	(4.10)		30	2.32
338	4.13	6.43	1.59		51	28.66
339	3.71	6.54	1.21		36	26.49
340	1.94	2.82	0.57			2.51
341	2.08	1.47	1.03			2.74
342	2.27	2.52	1.05			5.30
343	1.81	2.39	0.62			2.35
344	(2.64)	(1.62)	(0.68)			3.01
345	(2.36)	(2.57)	(0.67)			4.03
346	(2.36)	(1.65)	(5.10)			2.11
347	5.65	6.65	2.67			94.40
348	(3.45)	(3.18)	(1.30)		64	8.52
349	(3.36)	(3.69)	(1.17)		61	14.25
350	(7.69)	3.48	1.05		51	20.10
351	4.82	2.22	1.06	127	64	11.46
352	(2.74)	(2.07)	(1.32)			6.37
353	(1.52)	(2.61)	(0.37)		89	1.61
354	6.95	3.25	0.96	111	46	16.26
355	(2.16)	(9.60)	(5.90)			1.34
356	3.39	1.24	0.82		75	2.49
357	4.09	2.89	1.31	116	51	11.27
358	4.81	2.87	0.98	97	86	11.32
359	(1.89)	(2.33)	(0.54)			1.93
360	(3.30)	(3.47)	(0.86)		L49R50	7.86
361	(1.76)	(1.48)	(0.69)			1.36
362	(1.40)	(2.24)	(7.40)			2.15
363	4.38	2.45	1.18			12.86
364	(4.29)	(3.31)	(1.24)		L64R76	15.98
365	(2.83)	(1.74)	(0.39)			1.64
366	(3.04)	(3.27)	(1.02)			8.43
367	(2.57)	(2.74)	(0.58)		43	4.56
368	3.89	1.97	0.94			7.39
369	(5.15)	(6.72)	1.49	109	56	49.52
370	2.42	2.16	0.53			1.86
371	7.08	3.76	1.13		67	25.64
372	5.20	2.88	0.94		61	12.09
373	3.80	2.26	0.94		66	6.22
374	2.54	2.14	0.66			3.00
375	5.50	2.59	1.02			11.37
376	(4.57)	(4.21)	(1.12)	94		13.50
377	(2.00)	(2.70)	(0.70)		49	3.59
378	(2.01)	(1.41)	(0.39)		71	0.88
379	(2.43)	(1.49)	(0.26)			0.86
380	(4.73)	(5.23)	(1.23)		L61R64	29.12
381	(3.01)	(2.79)	(0.68)	105	53	5.30
382	3.06	2.93	1.08		65	7.99
383	(1.92)	(1.97)	(0.69)			2.52
384	5.87	2.56	1.66		E104R72	24.66
385	2.21	2.10	0.62		44	2.93
386	(3.16)	(2.89)	(1.05)	95	61	8.63
387	6.48	7.48	1.96	111		54.69
388	7.94	10.47	2.65	104	61	134.15
389	(2.96)	(2.11)	(1.21)		55	4.70
390	3.07	1.87	1.24	117	60	5.71
391	1.27	2.10	0.80		102	1.45
392	1.82	1.38	0.44	-	56	1.02
393	(2.22)	2.19	0.54		L60E102	2.29
394	2.71	0.96	0.42	-		0.54
395	(3.08)	(1.87)	(0.92)			3.82
396	(2.24)	1.95	1.18			4.86
397	(1.60)	(2.34)	(0.72)			1.32
398	(2.42)	(1.86)	(1.23)			2.66
399	(1.48)	(1.24)	(0.28)			0.32
400	(1.61)	(1.23)	(0.79)			1.09
401	1.20	2.30	0.52	-		0.92
402	(2.13)	(1.29)	(0.57)			1.49
403	(2.75)	0.62	(1.01)			1.10
404	(2.65)	(2.37)	(1.23)			4.41
405	(1.49)	(1.93)	(1.03)			1.69
406	3.31	1.57	0.79	-		2.55
407	(1.39)	(1.37)	(1.03)			1.62
408	(2.00)	1.27	(0.43)	-		0.66

掲載No	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	打角 (°)	刃部角 (°)	重量 (g)
409	(2.28)	(1.92)	(0.82)			2.78
410	(2.40)	(1.92)	(1.06)			4.64
411	(2.54)	(1.96)	(0.69)			2.74
412	2.02	1.18	0.80	-		1.75
413	(3.83)	(2.26)	(0.94)			4.34
414	(3.00)	2.32	1.02			4.53
415	(2.62)	(1.33)	(0.81)			2.85
416	(2.70)	(1.76)	(0.92)			2.64
417	(2.25)	1.92	0.75			1.76
418	1.83	2.14	0.70	83		2.36
419	(1.14)	(0.86)	(0.26)	86		0.18
420	2.08	0.97	0.33	-		0.39
421	(2.44)	1.58	(0.38)			1.18
422	(2.14)	(0.80)	(1.09)			1.40
423	(2.11)	(1.55)	(1.11)			3.65
424	0.93	1.23	0.29	-		0.18
425	(1.73)	(3.25)	(1.09)			4.47
426	(2.78)	(1.64)	(0.93)			4.35
427	(1.64)	(2.46)	(0.65)	85		1.87
428	(1.07)	(1.97)	(0.30)	-		0.53
429	(1.74)	(2.84)	(1.07)			4.97
430	(2.25)	(1.58)	(0.89)			1.68
431	(1.91)	(1.92)	(0.64)			1.81
432	(1.99)	(1.62)	(0.75)			1.44
433	2.84	(3.92)	1.21	-		9.12
434	1.20	(2.42)	0.62	87		0.68
435	(2.59)	(1.73)	(0.68)			0.93
436	(2.55)	(1.37)	(0.66)			1.69
437	(0.48)	(0.59)	(0.37)			0.08
438	(0.78)	(0.90)	(0.16)	98		0.08
439	3.50	5.16	3.88			67.74
440	5.08	6.95	5.68			196.69
441	8.59	11.39	3.71			
442	(10.10)	(5.97)	(3.74)			232.57
443	6.96	3.69	1.16			36.34
444	12.88	5.29	3.15			216.48
445	(16.01)	(7.56)	(3.91)			533.60
446	10.04	3.94	1.86			106.44
447	11.90	4.22	2.66			172.83
448	7.20	3.58	2.34			69.33
449	15.10	4.76	1.97			172.55
450	9.46	4.30	2.49			106.57
451	(12.56)	(6.34)	(2.97)			275.12
452	13.18	6.12	2.72			341.27
453	5.35	2.25	1.10		57	23.94
454	(7.00)	(4.50)	(1.90)		78	98.99
455	9.10	2.45	1.00		37	37.31
456	10.50	3.55	1.30		30	81.94
457	(5.10)	(1.60)	(0.70)		36	5.64
458	(6.60)	(2.40)	(1.10)		57	21.26
459	(10.45)	(4.60)	(1.60)			119.28
460	7.75	3.50	0.90		23	24.02
461	8.65	11.45	3.60		69	318.49
462	8.20	6.85	4.95			386.72
463	(12.60)	10.50	3.50			593.86
464	(8.30)	8.10	1.85			165.16
465	(13.40)	(9.90)	(6.80)			717.30
466	11.50	7.40	4.70			550.90
467	9.50	7.80	4.40			473.53
468	11.90	9.40	5.70			844.53
469	13.30	9.70	5.40			970.18
470	12.60	8.70	3.35			517.92
471	11.20	8.20	5.30			700.50
472	8.00	7.50	3.80			299.44
473	12.20	8.55	3.50			542.63
474	9.55	7.40	5.45			551.47
475	10.80	8.40	4.50			583.51
476	11.20	10.30	5.40			737.53
477	10.30	8.60	4.50			596.71
478	10.70	8.80	6.15			788.98
479	(12.90)	8.20	4.75			679.59
480	6.20	6.00	4.60			229.51

3 出土遺物

第 10 表 石器計測表（縄文時代 3）

掲載No	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	打角 (°)	刃部角 (°)	重量 (g)
481	9.10	8.50	4.80			539.00
482	13.00	7.65	5.30			640.01
483	12.20	7.70	4.55			580.71
484	8.85	(6.90)	5.65			459.01
485	12.70	8.70	5.20			719.19
486	15.35	9.90	9.45			2065.77
487	11.00	10.55	6.30			1039.58
488	12.60	5.85	2.85			319.37
489	8.65	7.80	4.10			318.49
490	(13.90)	(9.85)	4.00			738.03
491	10.15	8.05	3.90			446.27
492	10.20	9.05	6.10			829.73
493	(6.80)	(5.20)	4.90			81.14
494	13.85	7.05	5.55			727.88
495	15.30	7.15	4.95			737.90
496	(9.10)	(7.15)	(4.75)			377.65
497	(15.95)	6.00	4.15			503.57
498	(10.30)	(5.25)	(7.30)			541.76
499	11.70	7.00	4.55			505.92
500	14.15	6.20	5.60			783.87
501	13.00	8.70	6.20			902.90
502	13.00	5.55	5.35			526.55
503	(13.50)	(7.00)	(6.00)			752.49
504	16.00	7.75	6.60			1298.93
505	7.50	7.50	4.90			335.06
506	(9.50)	(8.50)	(4.05)			417.33
507	17.85	8.20	4.65			907.06
508	(9.70)	(6.15)	(3.85)			237.51
509	12.60	8.10	4.75			261.13

掲載No	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	打角 (°)	刃部角 (°)	重量 (g)
510	10.85	6.40	4.50			335.58
511	8.90	8.75	4.90			527.43
512	13.00	6.90	3.85			412.95
513	13.00	7.40	5.80			690.33
514	15.50	3.90	2.30			179.37
515	14.40	6.55	2.70			447.08
516	(14.90)	(5.55)	(4.60)			411.72
517	(13.60)	(11.00)	(6.55)			1309.14
518	(12.60)	(10.40)	(6.30)			410.98
519	(17.60)	(14.50)	(4.30)			1335.45
520	(14.45)	(14.65)	(3.85)			1137.27
521	24.60	14.60	6.00			2292.11
522	(22.70)	(21.35)	(10.00)			6000.00
523	14.70	14.20	6.60			1903.23
524	13.70	12.65	9.95			2589.91
525	25.20	20.50	6.00			4500.00
526	(13.40)	(17.90)	(3.80)			1099.82
527	(23.80)	(21.40)	(15.30)			11200.00
528	(20.30)	(15.30)	(10.50)			1840.30
529	(16.70)	9.50	2.80			595.74
530	(18.60)	(11.60)	(2.60)			255.78
531	(8.45)	(6.15)	(2.50)			181.93
532	(8.60)	6.20	2.40			143.42
533	16.50	13.80	9.80			3000.00
534	(4.05)	(3.75)	(2.00)			32.01
535	8.20	9.35	2.90			288.59
536	6.80	8.75	2.40			184.84
537	3.35	1.85	0.55			2.04

() : 残存値、[] : 推定値、- : 計測不可 L : 左側縁 R : 右側縁 E : 端部

第 11 表 石製品計測表（縄文時代）

掲載No	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	重量 (g)
538	(5.95)	(2.40)	(0.45)	7.48
539	(7.15)	(3.25)	(2.00)	60.60
540	(5.60)	(4.85)	(4.10)	111.10
541	(8.75)	(3.15)	(3.30)	111.38
542	(5.80)	(2.70)	(2.55)	64.57
543	(5.35)	(2.30)	(1.20)	18.61
544	(4.90)	(1.85)	(0.70)	4.46
545	(8.50)	(2.65)	(1.05)	32.54
546	(4.20)	(1.65)	(0.80)	5.19
547	(2.80)	(1.70)	(0.60)	3.70
548	(4.20)	(1.65)	(1.10)	10.14

掲載No	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	重量 (g)
549	(5.15)	(2.50)	(0.80)	12.04
550	21.25	2.85	2.70	158.97
551	(2.95)	(1.60)	(0.75)	4.87
552	(5.05)	(0.90)	(1.15)	5.47
553	(3.70)	3.10	1.85	13.75
554	5.85	(5.90)	4.85	129.04
555	(5.70)	(5.60)	(5.75)	241.78
556	(18.00)	(8.35)	(8.15)	1431.56
557	6.70	3.55	2.80	73.35
558	8.50	4.05	3.10	90.91

【法量】() : 残存値

第 12 表 石器・石製品計測表（古代以降）

掲載No	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	重量 (g)
596	(12.80)	(9.80)	(8.00)	1381.70
597	(9.40)	(7.40)	(3.20)	114.79
598	(11.80)	(7.80)	(2.25)	14.48
599	(16.80)	8.60	(4.60)	494.69

掲載No	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	重量 (g)
600	(5.80)	(4.45)	(5.60)	182.64
601	10.70	6.80	4.05	504.75
602	(8.80)	(5.30)	(5.00)	391.23
603	(5.40)	(4.00)	(1.65)	35.90

【法量】() : 残存値

第13表 土器観察表（平安時代）

掲載No	出土地点・層位	種別	器種	部位	調整	備考	図版	写図
559	SX01 埋土	土師	甕	体	ハケ→ヘラナデ 内：ハケ		153	100
560	SX21 埋土	土師	甕	口体	口：横ナデ 体：ハケ 内：ハケ	561 と同一個体	153	100
561	SX21 東側 埋土	土師	甕	口	口：横ナデ 体：ハケ 内：ハケ	560 と同一個体	153	100
562	SX21 東側 埋土	土師	甕	体	ヘラケズリ・ハケ 内：ヘラナデ	内面摩滅	153	100
563	SX22 埋土	土師	甕	口	横ナデ？	器面摩滅	153	100
564	SD36 埋土中	須恵	甕？	体	タタキ 内：ナデ		153	100
565	SD37 北側 埋土上部	須恵	坏	底	回転糸切り		153	100
566	SX26 東側中央 埋土	須恵	壺甕	体	内：横ナデ？		153	100
567	SX26 東側中央 埋土	須恵	甕	体	タタキ 内：当て具痕		153	100
568	Ⅲ J13ab 攪乱	須恵	壺甕	体	内：横ナデ、ナデ	自然釉	153	100
569	SD102 b埋土	須恵	転用硯？	-		甕の転用	153	100
570	④ II層	須恵	転用硯？	-		瓶類の転用	153	100

第14表 かわらけ観察表

掲載No	出土地点・層位	種別	器種	部位	法量 (cm)	備考	図版	写図
571	SD21 埋土	かわらけ	高台付皿	口底	9.4・・・・(1.9)	柱状高台欠、11C代	154	101
572	SD51 b2層	かわらけ	皿	口底	[11.2]・・・・2.1	てづくね、12C後	154	101
573	SD51 埋土	かわらけ	皿	口底	・・・(1.8)	てづくね、12C後	154	101
574	SD51 b1層	かわらけ	皿	口胴	・・・(1.9)	てづくね、12C後	154	101
575	東区南 排土一括	かわらけ	大皿	底	・・・	てづくね、12C代	154	101

【法量】 口径・底径・器高、()：残存値、[]：推定値

第15表 石器・硯観察表（古代以降）

掲載No	器種	出土地点	出土層位	石材	分類	備考	図版	写図
596	GRSL	SD71	埋土	an1	I	被熱	158	103
597	WS	SD19	埋土	an2	I	荒砥、溝状の使用痕	158	103
598	WS	SD28	埋土	dac1	II	荒砥	158	103
599	WS	SD28	埋土	an3	IV	中砥？	158	103
600	WS	SD28	埋土	an1	IV	中砥？	158	103
601	WS？	SK38	埋土下部	dac1	II	中砥？	158	103
602	WS	SD103	b埋土	dac1	IV	中砥？	158	103
603	IS	IV J11~14st	I層	sh2			159	103

第16表 陶磁器観察表(中近世)

掲載No.	出土地点・層位	種別	器種	部位	法量 (cm)	備考	図版	写図
576	SK121 1~2層	陶器	壺	体	- - - - -	常滑産、内外面自然釉、外面釉流れ、12C後	155	101
577	SD101 埋土最上部	陶器	壺甕	体上	- - - - -	常滑産、外面自然釉、12C後	155	101
578	SX26 西側北半 埋土	陶器	壺甕	体上	- - - - -	常滑産、外面自然釉、12~15C	155	101
579	③ II層	陶器	大甕	体上	- - - - -	常滑産、外面自然釉、内面ヨコナデ、12C後	155	101
580	地点不明 III層上面	陶器	壺甕	体上	- - - - -	常滑産、外面自然釉、12C後	155	101
581	- R I層下部	陶器	壺甕	体上	- - - - -	常滑産、外面自然釉、12C後	155	101
582	東道路 I層	陶器	壺甕	頸	- - - - -	常滑産、外面自然釉、12C後	155	101
583	SD51 東側 埋土	陶器	甕類	体上	- - - - -	渥美産、外面押印文・自然釉、12C前	155	101
584	② II層	陶器	甕類	体下	- - - - -	渥美産、外面押印文、12C前	155	101
585	SD27 埋土最上部	陶器	甕類	体下	- - - - (6.0)	珠洲系、外面押印文、14~15C	156	102
586	G I層	陶器	瓶類	体	- - - - -	瀬戸美濃産、灰釉13C代?	156	102
587	C II層	陶器	丸皿	口	- - - - (1.8)	瀬戸美濃産、灰釉、16C代	156	102
588	西側西 I~II層	陶器	皿	口底	[12.0]・[7.6]・2.7	瀬戸美濃産、志野釉、内面鉄絵、大窯4期	156	102
589	西側 I~II層	陶器	甕類	体下	- - - - -	不明、外面鉄釉、不明	156	102
590	V J9・10Rs I~II層	青磁	皿	底	- - - - (1.4)	龍泉窯系、草花文?、14~15C	157	102
591	④ I~II層	青磁	皿	高台	- - - - (1.4)	龍泉窯系、14~15C	157	102
592	SD101 埋土	磁器	碗	口	- - - - (3.0)	肥前産、雪輪梅樹文?、18C後	157	102
593	⑫ II層上部	磁器	皿	略完	8.4・3.4・2.2	肥前産、見込み角福、17C代	157	102
594	- V I層下部	磁器	皿	底	- - [4.4]・(1.3)	肥前産、17C後	157	102
595	北東区 I~II層	磁器	皿	底	- - - - (0.9)	肥前産、染付、17C後	157	102

【法量】口径・底径・器高、(): 残存値、[]: 推定値

第17表 銭貨・金属製品観察表

掲載No.	出土地点・層位	種別	器種	部位	法量 (cm)	備考	図版	写図
604	SK29 埋土一括	銭貨			天・洪: 径2.5・厚0.1	天禧通寶(1017)と洪武通寶(1368)	160	103
605	SD51 埋土下部	鉄	板状	不明	(6.1)・(3.8)・(0.8)		161	103
606	SD51 西側 埋土下部	鉄	不明	不明	(6.6)・(3.8)・(2.2)		161	103
607	SD51 b3~5層	鉄	板状	不明	(2.8)・(1.1)・(0.4)		161	103
608	SD51 b2層	鉄	板状	不明	(4.7)・(3.3)・(0.45)		161	103
609	① II層	鉄	小刀	茎	(8.9)・(1.6)・(0.35)		161	103
610	- D II層	鉄	金具?		(1.9)・(2.5)・(0.6)		161	103
611	不明 I~II層	鉄	小刀?	茎?	(8.5)・(4.3)・(0.35)	木質部残	161	103
612	東道路 I層	鉄	角釘		13.2・-・1.1		161	103
613	E II層	鉄	不明		(6.6)・(4.3)・(3.2)		-	103
614	SD73 埋土	青銅	不明		- - - - (0.9)		161	103
615	SD51 埋土下部	鉄滓			- - - -		-	104
616	SD51 西側 底直	鉄滓			- - - -		-	104

【法量】器長・器高・器厚/径、(): 残存値、[]: 推定値

【出土地点・層位】b: ベルト 底直: 底面直上

VI ま と め

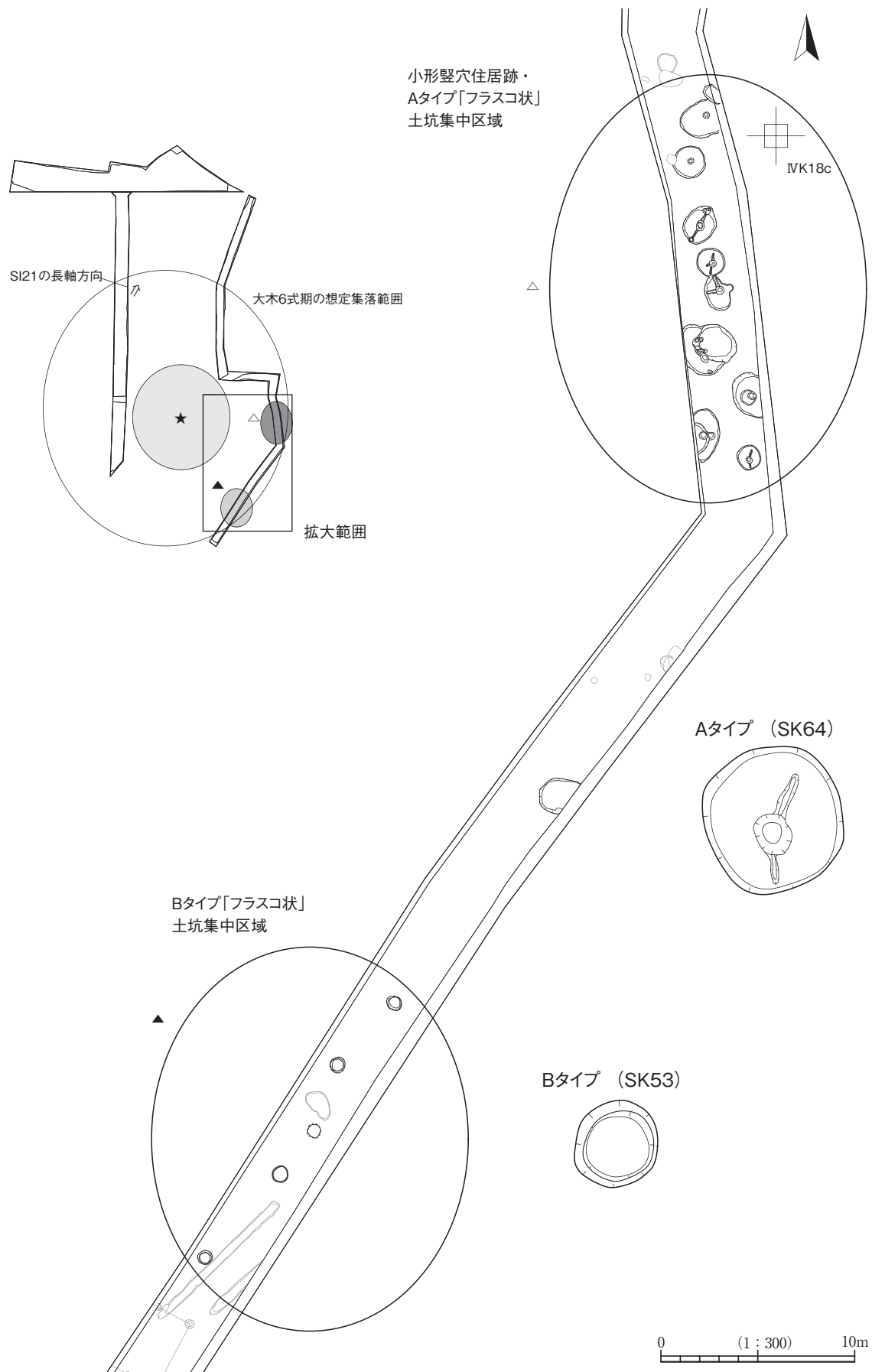
縄 文 時 代

今回の調査で確認された遺構・遺物のなかで、主となる時代の一つである。縄文時代前期の大木4式～6式の遺物が出土したが、その大半は大木6式である。今回確認された遺構の大半も同時期のものと捉えている。確認された遺構は竪穴住居跡、貯蔵穴、陥し穴等である。

竪穴住居跡は8棟検出された。SI02はH22年度調査区中央と北西区の境で検出された。平面形は歪な楕円形で、柱穴が2個確認できたが、炉は検出されなかった。出土した遺物から大木5式期に存在していた可能性が高い。SI11は南東区南で検出された。炉・柱穴とも持たないが、床面の硬化が確認された。時期の特定できる遺物が伴わないため、詳細な検討は困難であるが、本遺跡から出土する遺物を勘案すると、縄文時代前期後葉に帰属するものと考えられる。その他の6棟は出土遺物から、大木6式期に存在していた可能性が高い。SI21は周溝と柱穴が確認されたにすぎないが、その形状から、大形住居の可能性が想定される。その他の5棟は、南東区北でまとまって検出された。長軸は約2～3m、短軸は約2mの楕円形で、中央付近に1個の柱穴が伴うのが基本の小形竪穴住居跡である。残存する深さは20～30cmとあまり深くなく、決して残存状態が良好という状態ではないが、多くの土器が出土する傾向が見られる。この類似する小形竪穴住居跡は県内では奥州市胆沢区の大清水上遺跡、県外では山形県寒河江市の高瀬山遺跡で確認されている。

貯蔵穴と考えられるいわゆるフラスコ状土坑は2種類確認された。ひとつは前述の小形竪穴住居跡と同じ区域で確認されたものである。SK64～67・69の5基が該当する。規模は開口部で、長軸約1～2m、短軸約1～1.5mの円形もしくは楕円形で、中央に1個のPitが伴うのを基本とし、そのPitから溝が延びるものも大半で確認される。残存する深さは10～20cmと浅い。前述の小形住居跡と共通する部分も多いが、小形竪穴住居跡よりは小形であること、溝が構築されていること、土器が伴わないこと、等の相違点が見られる。壁のオーバーハングは確認できないが、底面付近のみが残存したものと考えているため、「フラスコ状」土坑と捉えた。こちらをAタイプとする。もう一方は、南東区南、Aタイプが密集する部分より40m程南で確認されたものである。SK53・55・56・58・59の5基が該当する。直径約0.6～0.8mの円形で、壁の全体もしくは一部がオーバーハングしている。残存する深さは40～80cmと深い。こちらをBタイプとする。本タイプはAタイプより、小形で、円形基調を呈する、底面にPitが伴わない等の違いが確認できる。相違点の由来を現段階では指摘できないが、集落内における占地の違いがはっきりしており、用途の違いがあることは想像に難くない。

これら個別の遺構を総合すると、第162図の★の範囲が集落の中心部で、SI21はその一部を構成するものと考えられる。長軸方向を第162図に示したが、中心部へとは向いていない。集落の縁辺部である△に小形竪穴住居、Aタイプのフラスコ状土坑、▲にBタイプのフラスコ状土坑が配置される集落の構造が想定される。県内南部において、当該期の遺構・遺物が確認された調査遺跡は、大館町遺跡（盛岡市）、上八木田I遺跡（盛岡市）、塩ヶ森I遺跡（雫石町）、小日谷地IB遺跡（雫石町）、久田野II遺跡（花巻市）、山の神遺跡（花巻市）、高畑遺跡（花巻市）、峠山牧場I遺跡B地区（西和賀町）、白木野I遺跡（西和賀町）、清水ヶ野遺跡（西和賀町）、蟹沢館遺跡（北上市）、新平遺跡（北上市）、鳩岡崎上の台遺跡（北上市）、煤孫遺跡（北上市）、滝ノ沢遺跡（北上市）、鹿島館遺跡（北上市）、横町遺跡（北上市）、樺山遺跡（北上市）、和光6区遺跡（金ヶ崎町）、中島遺跡（奥州市水沢区）、



第 162 図 縄文時代の遺構配置

新田遺跡（奥州市江刺区）、宝生寺跡（奥州市江刺区）、大中田遺跡（奥州市江刺区）、浅野遺跡（奥州市胆沢区）、大清水上遺跡（奥州市胆沢区）、庄司合遺跡（一関市）、清田台遺跡（一関市）がある。これらの遺跡との比較も必要となろう。今後、集落の中心部及び縁辺部の範囲の調査が行われる機会を待って、詳細な検討を行いたいと考えている。

平 安 時 代

焼土遺構 1 基と不明遺構としたカマド状遺構が当該期の遺構である。遺構数・遺物量とも少なく、詳細な内容は不明である。

12 世 紀

てづくねかわらけが出土した溝跡 1 条が該当する遺構である。一部しか確認できないため、詳細な内容は不明である。しかし、本遺跡の周辺でも当該期の遺構・遺物が散見され、当地域に奥州藤原氏の影響が及んでいることを裏付ける貴重な資料と言えよう。

中 世

当該期に帰属する遺構は掘立柱建物跡 36 棟、堀跡 3 条、溝跡 24 条、土坑 9 基、道路状遺構 1 条、柱穴 1002 個である。これらの遺構の中心は環濠屋敷が構築された 14～15 世紀と考えられる。

確認された掘立柱建物跡 36 棟を平面形態と桁行きの柱間寸法から 3 類 11 種に分類した。

掘立柱建物 I a 類 身舎の梁間が 2 間以上で間仕切柱を持たない建物。主に使用される桁行きの柱間寸法が 200cm (6.6 尺) 以下のもの。SB45・52 の 2 棟である。梁間はいずれも 2 間で、柱間寸法は 230cm (7.6 尺) である。

掘立柱建物 I b 類 身舎の梁間が 2 間以上で間仕切柱を持たない建物。主に使用される桁行きの柱間寸法が 220cm (7.3 尺) 以上 270cm (8.9 尺) 以下のもの。SB06・07・10・53・54・58 の 6 棟である。桁行きは、基本的に 4 間である。梁間はいずれも 2 間で、柱間寸法は SB06・54・58 が 220cm (7.3 尺)、SB07 が 230cm (7.6 尺)、SB53 が 240cm (7.9 尺)、SB10 が 350cm (11.5 尺) である。確認できる遺構の面積は SB10 の 22.5 坪が最大で、SB06 の 13.2 坪が最小である。

掘立柱建物 I c 類 身舎の梁間が 2 間以上で間仕切柱を持たない建物。主に使用される桁行きの柱間寸法が 300cm (9.9 尺) 以上のもの。SB15・43・44 の 3 棟である。桁行きは 4 間である。梁間はいずれも 2 間で、柱間寸法は SB15 が 200cm (6.6 尺)、SB44 が 220cm (7.3 尺)、SB43 が 250cm (8.3 尺) である。確認できる遺構の面積は 15～20 坪である。

掘立柱建物 I d 類 身舎の梁間が 2 間以上で間仕切柱を持たない建物。使用される桁行きの柱間寸法に規則性が見いだせないもの。SB13・20・46 の 3 棟である。桁行きは、基本的に 4 間である。梁間はいずれも 2 間で、柱間寸法は SB13 が 220cm (7.3 尺)、SB20 が 230cm (7.6 尺)、SB46 が 320cm (10.6 尺) である。確認できる遺構の面積は 13～18 坪である。

掘立柱建物 II a 類 身舎の梁間が 1 間の建物。主に使用される桁行きの柱間寸法が 200cm (6.6 尺) 以下のもの。SB19・41・42・55 の 4 棟である。桁行きは、基本的に 4 間である。梁間の柱間寸法は SB19・41 が 380cm (12.5 尺)、SB55 が 420cm (13.9 尺)、SB42 が 470cm (15.5 尺) である。確認で

きる遺構の面積は9～10坪である。

掘立柱建物Ⅱb類 身舎の梁間が1間の建物。主に使用される桁行きの柱間寸法が220cm(7.3尺)以上270cm(8.9尺)以下のもの。SB02～04・08・11・16・56・60・61の9棟である。桁行きはSB04が3間、SB02・16が4間、SB08・11が5間と様々である。梁間の柱間寸法はSB60が340cm(11.2尺)、SB02・56が420cm(13.9尺)、SB16が470cm(15.5尺)、SB03が530cm(17.5尺)、SB08が540cm(17.8尺)、SB11が700cm(23.1尺)である。確認できる遺構の面積はSB11の28.6坪が最大で、SB02の11.7坪が最小である。

掘立柱建物Ⅱc類 身舎の梁間が1間の建物。主に使用される桁行きの柱間寸法が300cm(9.9尺)以上のもの。SB14の1棟である。桁行きは4間である。梁間の柱間寸法は360cm(11.9尺)である。面積は13.5坪である。

掘立柱建物Ⅱd類 身舎の梁間が1間の建物。使用される桁行きの柱間寸法に規則性が見いだせないもの。SB05・09の2棟である。桁行きはSB09が5間である。梁間の柱間寸法はSB05が350cm(11.5尺)、SB09が580cm(19.1尺)である。確認できる遺構の面積はSB09が25.5坪と規模の大きな部類に含まれる。

掘立柱建物Ⅲa類 身舎の梁間が不明の建物。主に使用される桁行きの柱間寸法が200cm(6.6尺)以下のもの。SB17の1棟である。桁行きは4間である。

掘立柱建物Ⅲb類 身舎の梁間が不明の建物。主に使用される桁行きの柱間寸法が220cm(7.3尺)以上270cm(8.9尺)以下のもの。SB01・12・18の3棟である。桁行きはSB01・12が4間、SB18が6間である。

掘立柱建物Ⅲc類 身舎の梁間が不明の建物。使用される桁行きの柱間寸法に規則性が見いだせないもの。SB51・59の2棟である。

桁行き方向を建物の主軸線と捉え、その傾きについてみると、座標北から東に振れるものは14棟、西に振れるものは20棟、判断できないものが2棟である。前述の分類をもとに、主軸線の分布を示したのが第164図である。全体を概観すると、N60～89°W、N20～30°E、N55～89°Eの3箇所に集約される。環濠屋敷を構成する堀(大溝)は北辺がN65°W前後(直交するとN25°E前後)、東辺がN25°E前後(直交するとN65°W前後)である。N60～89°Wの一部とN20～30°Eの2箇所に集中する掘立柱建物は、この堀による占地の制約があるものと考えられる。分類別では、Ⅰa類は堀の制約をほとんど受けていない。Ⅰb類・Ⅰd類は、一部が制約を受けているが、大半は受けていない。Ⅰc類・Ⅱd類は堀の影響を大きく受けており、堀と同時に存在していたか、堀の存在が意識下にある時期の遺構の可能性が高い。Ⅱa類は、影響下にあるもと、ないものが半々である。Ⅱb類の多くは、影響を受けているが、影響下にないものも存在する。

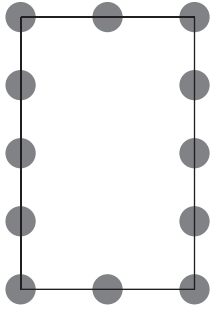
これらの掘立柱建物跡の多くは、道路状遺構であるSX26とも重複している。大半はプラン上での重複であるが、SB06とSB09を構成する柱穴がSX26と切り合っており、その新旧関係はSB09掘立柱建物跡(旧)→SX26道路状遺構→SB06掘立柱建物跡(新)である。また、掘立柱建物跡間でも重複している。こちらも、SX26道路状遺構との関係と同じであるが、SB13掘立柱建物跡とSB14掘立柱建物跡を構成する柱穴が切り合っており、SB14掘立柱建物跡が新しい。これらのことから、今回の調査で確認された掘立柱建物の大きな傾向としては、環濠屋敷を構成する堀(環濠)の影響を大きく受けた一群(掘立柱建物Ⅰc類・掘立柱建物Ⅱd類)→(掘立柱建物Ⅱa類・掘立柱建物Ⅱb類)→(掘立柱建物Ⅰb類・掘立柱建物Ⅰd類)→堀(環濠)の制約をほとんど受けない一群(掘立柱建物Ⅰa類・掘立柱建物Ⅱc類)へと移り変わっていくと考えられる。しかし、環濠屋敷が構築される

以前については、不明であるため、これらの掘立柱建物に、最古段階とも言うべきものが存在している可能性は否定できない。

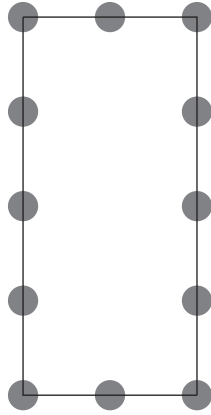
総 括

平成 8 年度及び平成 14 年度の調査結果から、縄文時代前期、平安時代、12 世紀、中世と断続的に利用されてきた場所であることが想定されていたが、今回の調査で、そのことをさらに裏付けるものとなった。平成 23 年度の調査区は幅数メートルの細長い調査区であり、各時期の様相を解明するためには、今後の調査を待たねばならないが、当地域に貴重な資料を提供できたものと考えられる。判明したことを列挙すると次のようになる。①縄文時代前期には集落として利用された時期と狩猟の場として利用された時期がある。集落の縁辺部に 2 種類の貯蔵穴と小形の竪穴住居跡が見られる。②平安時代の居住域は確認できなかったが、焼土遺構や土師器が確認でき、調査区以外の場所もしくは隣接地に集落が存在する可能性が高い。③ 12 世紀に帰属する遺構・遺物が少量であるが、確認された。④ 14~15 世紀を中心とする環濠屋敷が存在し、その環濠(堀)の外側にも多数の建物跡が確認された。詳細な変遷を追うことはできなかったが、堀(環濠)や SX26 道路状遺構を中心に考えると、少なくとも 3 時期の変遷があるものと考えられる。

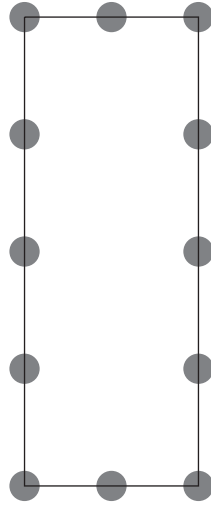
掘立柱建物Ia類



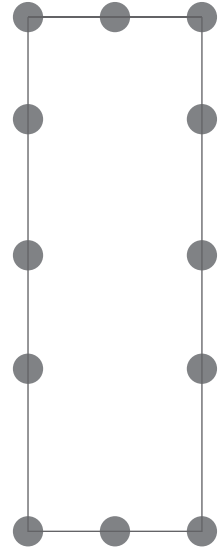
掘立柱建物Ib類



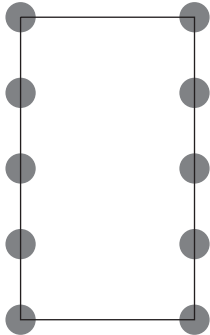
掘立柱建物Ic類



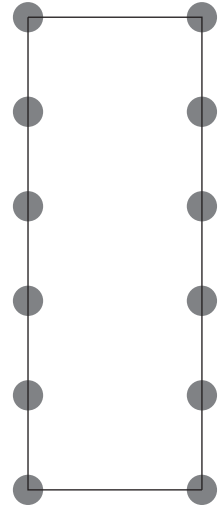
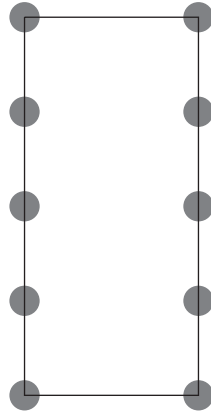
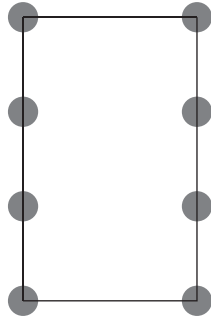
掘立柱建物Id類



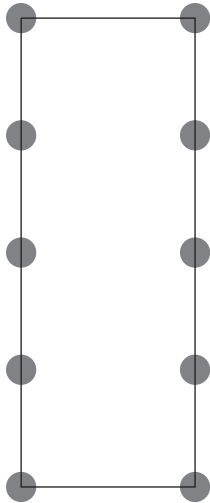
掘立柱建物IIa類



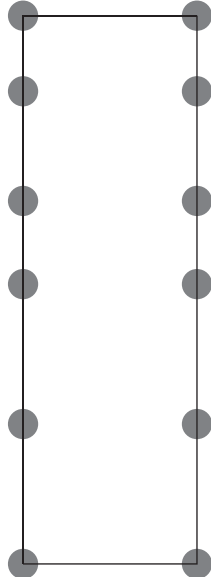
掘立柱建物IIb類



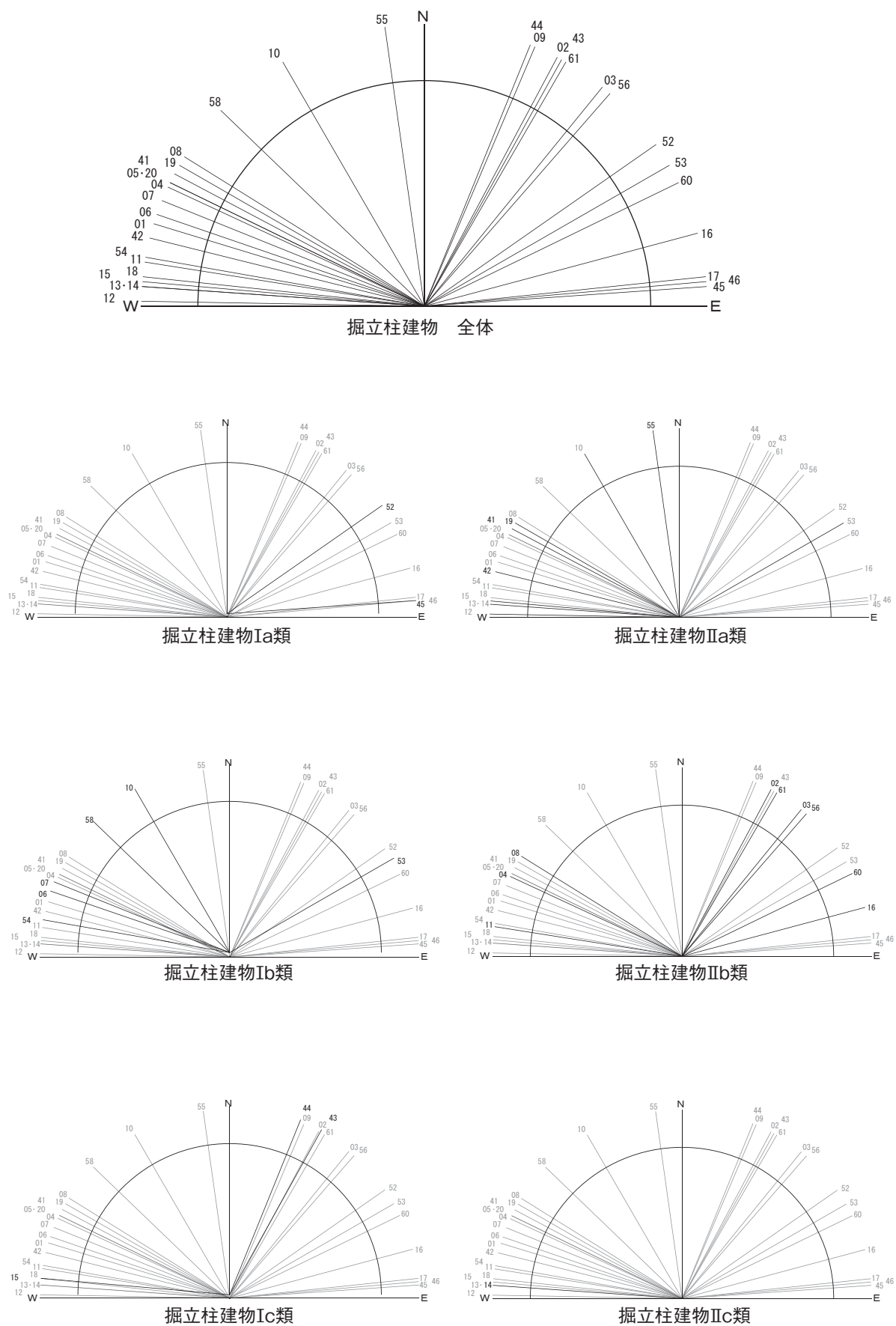
掘立柱建物IIc類



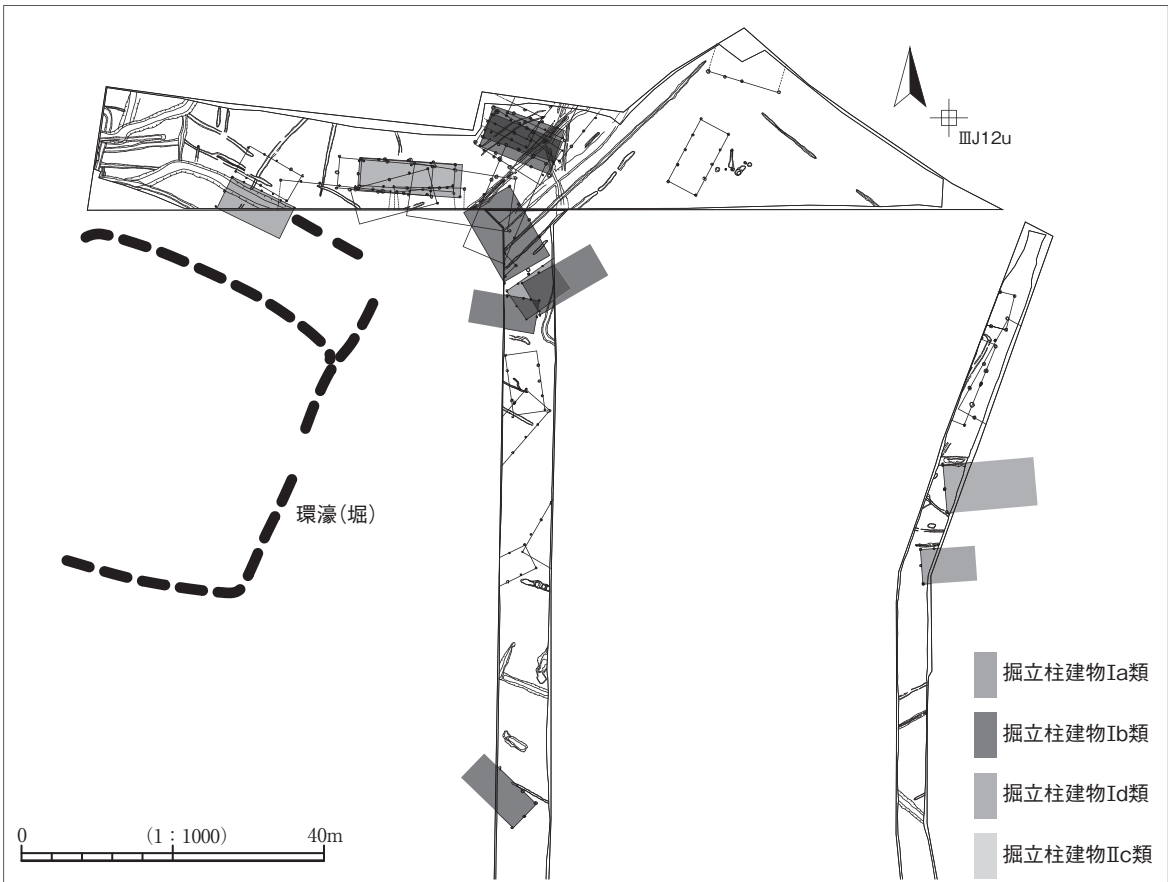
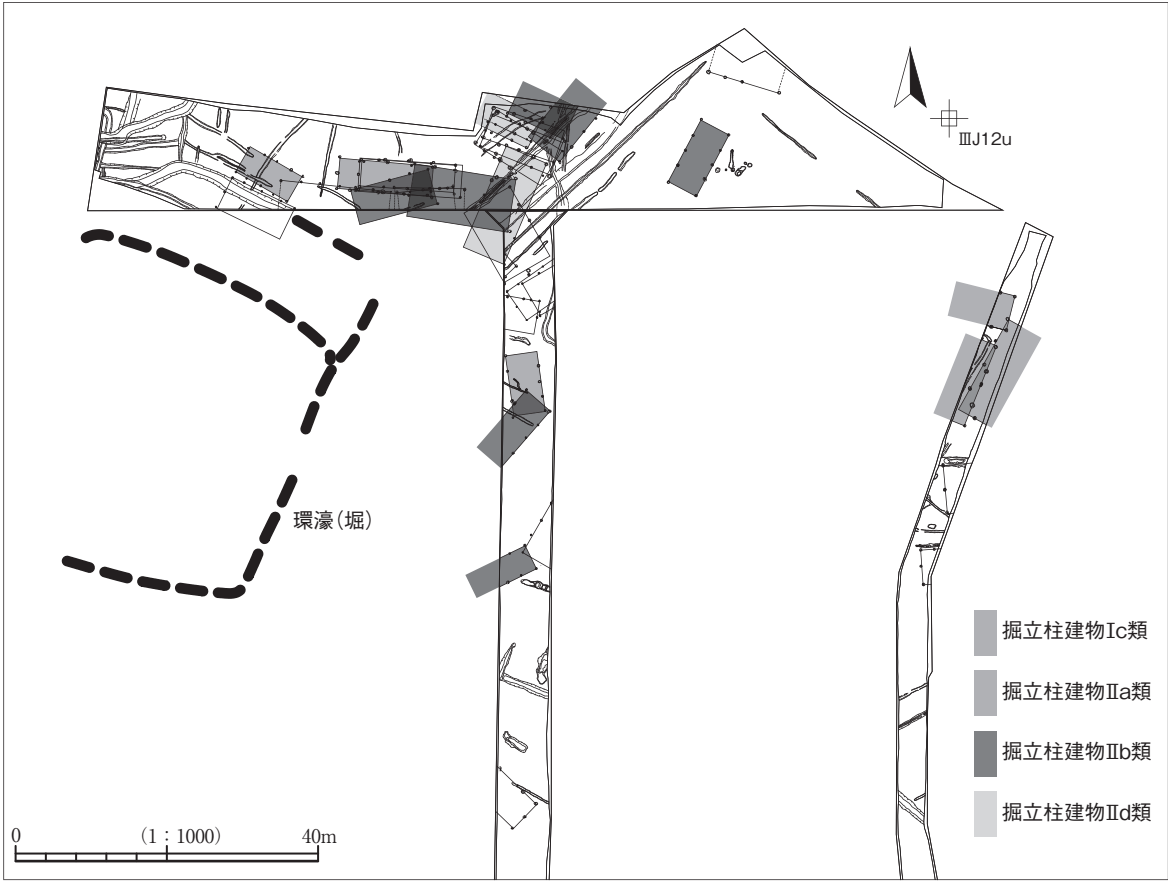
掘立柱建物IId類



第 163 図 掘立柱建物分類図



第 164 図 掘立柱建物主軸方向分布



第 165 図 掘立柱建物分布図

引用・参考文献（編著者姓の五十音順）

（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書は岩文埋報第○集と表記している）

- 赤羽一郎 1987 「常滑」『日本やきもの集成 2 東海甲信越』新装版第一刷 平凡社
- 胆沢町教育委員会 1985 『大清水上遺跡発掘調査報告書』胆沢町埋蔵文化財報告書第 15 集
- 伊藤博幸 1998 「北上盆地南部」『東北地方の古代集落』第 3 分冊
第 24 回古代城柵官衙遺跡検討会シンポジウム資料集
- 稲野彰子 1991 「大木式土器にみられる球胴形深鉢について」『北上市立博物館研究報告』第 8 号 北上市立博物館
- 井上喜久男 1987 「瀬戸の中世窯」『日本やきもの集成 3 瀬戸美濃飛騨』新装版第一刷 平凡社
- 井上雅孝 1997 「陸奥における 10・11 世紀の土器様相」『北陸古代土器研究』第 7 号
- 岩手県教育委員会 1986 『岩手県中世城館跡分布調査報告書』岩手県文化財調査報告書第 82 集
- 岩手県立博物館 1982 『岩手の土器』
- 及川真紀 2000 「岩手県前沢町田高Ⅱ遺跡の再検討」『館研究』第 2 号 岩手の館研究会
- 大川 清・鈴木公雄・工楽善道編 1996 『日本土器事典』雄山閣出版
- 小笠原好彦 1968 「東北地方南部における前期末から中期初頭の縄文式土器」
『仙台湾周辺の考古学的研究 宮城県の地理と歴史』第 3 集 宮城県教育大学歴史研究会編
- 小野田勝一 1987 「渥美」『日本やきもの集成 2 東海甲信越』新装版第一刷 平凡社
- 北上市教育委員会 1983 『滝ノ沢遺跡（1977～1982 年度調査）』北上市文化財調査報告第 33 集
1990 『滝ノ沢遺跡Ⅱ（1989 年度）』北上市文化財調査報告第 60 集
1991 『滝ノ沢遺跡Ⅲ（1984・86・87・88・90 年度調査）』北上市文化財調査報告第 63 集
- 興野義一 1968 「大木式土器理解のために（Ⅳ）」『考古学ジャーナル』No.24 ニューサイエンス社
1969 「大木式土器理解のために（Ⅴ）」『考古学ジャーナル』No.32 ニューサイエンス社
1970 「大木式土器理解のために（Ⅵ）」『考古学ジャーナル』No.48 ニューサイエンス社
1970 「大木 5 b 式土器の提唱」『古代文化』第 141 号（財）古代学協会
1984 「大木式土器について」『宮城の研究 第 1 巻 考古学篇』清文堂
1996 「山内清男先生供与の大木式土器写真セットについて」『画龍点睛』山内先生没後 25 年記念論集刊行会
- （公財）岩手県文化振興事業団
2012 『滝ノ沢遺跡発掘調査報告書』岩文埋報第 590 集
- 小林達雄 1994 『縄文土器の研究』小学館
1996 『縄文人の世界』朝日選書
2008 『総覧縄文土器』アム・プロモーション
- （財）岩手県文化振興事業団
1983 『上里遺跡発掘調査報告書』岩文埋報第 55 集
1987 『和光 6 区遺跡発掘調査報告書』岩文埋報第 114 集
1994 『煤孫遺跡発掘調査報告書』岩文埋報第 196 集
1996 『鳩岡崎上の台遺跡発掘調査報告書』岩文埋報第 240 集
1996 『牧田貝塚発掘調査報告書』岩文埋報第 241 集
2000 『川岸場Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩文埋報第 317 集
2000 『峠山牧場Ⅰ遺跡 B 地区発掘調査報告書』岩文埋報第 320 集
2001 『清水ヶ野遺跡発掘調査報告書』岩文埋報第 351 集
2003 『新田遺跡発掘調査報告書』岩文埋報第 405 集
2004 『大中田遺跡発掘調査報告書』岩文埋報第 429 集
2004 『宝性寺跡発掘調査報告書』岩文埋報第 441 集
2005 『滝ノ沢地区遺跡発掘調査報告書』岩文埋報第 456 集
2006 『大清水上遺跡発掘調査報告書』岩文埋報第 475 集
2008 『道上遺跡第 2 次発掘調査報告書』岩文埋報第 518 集
2008 『六日市場・細田・接待館遺跡発掘調査報告書』岩文埋報第 523 集
2009 『鶉ノ木遺跡発掘調査報告書』岩文埋報第 527 集

- 2009 『道上遺跡第3次・合野遺跡・小林繁長遺跡発掘調査報告書』岩文埋報第544集
- 2011 『下川原Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩文埋報第564集
- 2011 『台太郎遺跡第66次発掘調査報告書』岩文埋報第579集
- 2011 『水尻遺跡・四反田Ⅰ遺跡・四反田Ⅱ遺跡・古城方八丁遺跡発掘調査報告書』岩文埋報第587集
- (財)山形県埋蔵文化財センター 2004 『高瀬山遺跡(1期)第1~4次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第121集
- 白鳥良一 1989 「前期大木式土器様式」『縄文土器大観』小学館
- 杉沢昭太郎 2003 「(3)陸奥北部1-岩手県- 2)13世紀~16世紀のかわらけ」『中世奥羽の土器・陶磁器』東北中世考古学会編
- 鈴木道之助 1990 『石器入門事典 縄文』柏書房
- 田口昭二 1987 「美濃の中世窯」『日本やきもの集成3 瀬戸美濃飛騨』新装版第一刷 平凡社
- 永井久美男 1996 『日本出土銭総覧』1996年版 兵庫埋蔵銭調査会
- 中川久夫ほか 1963 「北上川上流沿岸の第四系および地形」『地質学雑誌』69
- 橋崎彰一 1990 『日本の陶磁古代中世篇5 越前珠洲』中央公論社
- 丹羽 茂 1981 「大木式土器」『縄文文化の研究』2 雄山閣出版
- 野上建紀 2000 「磁器の編年」『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会
- 林 謙作 1965 「東北地方」『日本の考古学Ⅱ』河出書房新社
- 前沢町 1974 『前沢町史 上巻』
- 前沢町教育委員会 1977 『明後沢遺跡第3次発掘調査概報』
- 1978 『明後沢遺跡第4次発掘調査概報』
- 1998 『町内遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ 古城・白山地区』岩手県前沢町文化財調査報告書第6集
- 1999 『町内遺跡発掘調査報告書』岩手県前沢町文化財調査報告書第7集
- 2000 『前沢町遺跡地図』岩手県前沢町文化財調査報告書第11集
- 2004 『田高Ⅱ遺跡第2次発掘調査報告書』岩手県前沢町文化財調査報告書第15集
- 2004 『川岸場Ⅰ遺跡第2次発掘調査報告書』岩手県前沢町文化財調査報告書第16集
- 前沢町農業協同組合・前沢町教育委員会
- 1997 『田高Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県前沢町文化財調査報告書第4集
- 松田光太郎 2003 「大木6式土器の変遷とその地域性-縄文時代前期末葉の東北地方中・南部の土器編年-」『神奈川考古』第39号
- 宮石宗弘 1987 「瀬戸の近世窯」『日本やきもの集成3 瀬戸美濃飛騨』新装版第一刷 平凡社
- 盛岡市教育委員会 1978 『岩手県盛岡市大館町遺跡-昭和51年度発掘調査概報-』盛岡市文化財調査報告第20集
- 八木光則ほか 1998 「馬淵川流域」『東北地方の古代集落』第1分冊 第24回古代城柵官衙遺跡検討会シンポジウム資料集
- 山本忠尚・松井 章 1988 『Japanese-English Dictionary of Japanese Archaeology (日本考古学用語英訳辞典《稿本》)』奈良国立文化財研究所